

京都府遺跡調査報告集

第182冊

平安京跡(左京一条三坊三町)発掘調査報告

2021

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

京都府遺跡調査報告集

第182冊（二〇二一）

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

卷頭図版 1 平安京跡（左京一条三坊三町）



平安京跡左京一条三坊三町調査地(第2区)全景(南西から)



調査地第3面全景(合成写真、上が北)



(1) S D 2037漆喰遺構全景(北西から)



(2) S K 2258礎石検出状況(北西から)



(1) 光格菊御紋付染付椀



(2) 卷紋唐津向付

序

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センターは、昭和 56 年に設立されて以来、京都府内の公共事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を行うとともに、その成果を広く公開し、考古学研究や地域の歴史研究に活用していただけるように努めてまいりました。また、これまで発掘調査を実施したすべての遺跡の調査は、『京都府遺跡調査報告書』『京都府遺跡調査概報』『京都府遺跡調査報告集』などを刊行し、各々の遺跡が有する歴史的な重要性について報告を行ってきたところです。

この度、京都府庁新行政棟・文化庁移転施設整備事業に係り、京都府の依頼を受けて実施しました、平安京跡左京一条三坊三町の発掘調査につきまして、整理作業を終え、その成果をまとめることができましたので、『京都府遺跡調査報告集第 182 冊』として刊行する次第です。

本調査では、平安時代の近衛大路の路面や戦国時代の構の一部である堀と建物の布掘り基礎をはじめ、江戸時代後期の町屋の地下構造や同末期の京都守護職上屋敷関連の遺構を検出するなど、重要な成果を得ることができました。本書が、学術研究の資料として、また、地域の埋蔵文化財への関心と理解を深めるうえで、ご活用いただければ幸いです。

後になりましたが、発掘調査を依頼いただきました京都府をはじめ、ご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

令和 3 年 8 月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
理 事 長 井 上 満 郎

例 言

1. 本書に収めた報告は下記のとおりである。

平安京跡(左京一条三坊三町)

2. 遺跡の所在地、調査期間、経費負担者および報告の執筆者は下表のとおりである。

遺 跡 名	所 在 地	調 査 期 間	経 費 負 担 者	執 筆 者
平安京跡	京都市上京区下立売通 新町西入藪ノ内町	平成 30 年 11 月 7 日～ 平成 31 年 2 月 27 日 平成 31 年 4 月 16 日～ 令和 2 年 3 月 9 日	京都府総務部	岡崎研一 加藤雄太

3. 本書で使用している座標は、原則として世界測地系国土座標第Ⅵ座標系によっており、方位は座標の北をさす。なお、現地調査及び過去の調査との整合性のため日本測地系を使用している場合もある。また、国土地理院発行地形図の方位は経度の北をさす。

4. 本書の編集は、調査課調査担当者の編集原案をもとに、調査課企画調整係が行った。

5. 現場写真は主として調査担当者が撮影し、遺物撮影は、調査課企画調整係調査員武本典子が行った。

本文目次

平安京跡(左京一条三坊三町)発掘調査報告

1. はじめに	1
2. 遺跡の位置と環境	2
3. 調査の方法	7
4. 調査の経過	9
5. 基本層序	9
6. 調査概要	20
1) 検出遺構	20
2) 出土遺物	87
7. まとめ	188
付編 1. 放射性炭素年代測定	197
付編 2. 花粉分析、プラント・オパール分析	199
付編 3. 珪藻化石分析	206
付編 4. 出土甕付着物の成分分析	211

挿図目次

第1図 調査地及び周辺調査位置図	3
第2図 守護職上屋敷図	6
第3図 調査地地区割り図	7
第4図 2・3区東壁断面図	10
第5図 1・3区西壁断面図	13
第6図 1区12～15-p(近衛大路)断面図	17
第7図 第3面遺構配置図	19
第8図 第3面1区北半平面図	20
第9図 S D3881実測図	21
第10図 S D77・78実測図	22
第11図 S K2258実測図	23
第12図 S S3827実測図	24
第13図 S X3840実測図	25
第14図 S A96・182、S B117実測図	27

第15図	S A 3485・3401実測図	-----	28
第16図	S A 3425・3823実測図	-----	29
第17図	S A 3823断面図	-----	30
第18図	堀断面位置図	-----	31
第19図	S D 81実測図	-----	32
第20図	S D 3370東側アゼ実測図	-----	33
第21図	S D 3370西側アゼ実測図	-----	34
第22図	S D 3550実測図	-----	35
第23図	S E 3822実測図	-----	36
第24図	S S 3305・S S 3306・S S 3288・S S 3491実測図	-----	37
第25図	S S 3753実測図	-----	39
第26図	S K 90実測図	-----	40
第27図	S K 2171・3593実測図	-----	40
第28図	S K 3743実測図	-----	41
第29図	第2面平面図	-----	43
第30図	S B 01実測図(1)	-----	44
第31図	S B 01実測図(2)	-----	45
第32図	S X 2058実測図	-----	46
第33図	S X 2064実測図	-----	47
第34図	S F 240・S D 32・S K 26・75実測図	-----	47
第35図	S E 136実測図	-----	48
第36図	S S 37実測図	-----	48
第37図	S X 2095・S S 2111実測図	-----	49
第38図	S S 3190実測図	-----	49
第39図	S S 3234実測図	-----	50
第40図	S S 3257実測図	-----	50
第41図	S S 3229・S K 3230実測図	-----	50
第42図	S S 3239実測図	-----	51
第43図	S S 3274・3276実測図	-----	51
第44図	S S 3331実測図	-----	52
第45図	S K 3167実測図	-----	55
第46図	S K 3249実測図	-----	56
第47図	S K 3472実測図	-----	57
第48図	S K 3571・3656実測図	-----	58
第49図	第1面平面図	-----	60

第50図	S B 3975(上屋敷)実測図	61
第51図	S D 12・S K 05・10実測図	62
第52図	S D 2013・2037・3042実測図	63
第53図	S D 2020実測図	64
第54図	S X 2023実測図	64
第55図	S K 3035・S D 3037・3038・SS3973実測図	65
第56図	S D 3039実測図	66
第57図	S D 3097・3099実測図	67
第58図	S E 135・3034・3072実測図	68
第59図	S E 3132・3138・3154実測図	69
第60図	S E 3171・3198・3247・3312実測図	70
第61図	S L 3016実測図	71
第62図	S L 3045・3050実測図	72
第63図	S L 3086・3087実測図	73
第64図	S S 07・S K 14・27実測図	75
第65図	S S 3056実測図	77
第66図	S S 3118実測図	77
第67図	S S 3322実測図	77
第68図	S K 3052実測図	77
第69図	S K 3278・3385実測図	81
第70図	S X 3127・S X 3128実測図	82
第71図	S S 2004実測図	83
第72図	S D 2014実測図	83
第73図	S S 3021実測図	84
第74図	S J 3028実測図	84
第75図	S S 3043・3076・3077~3080実測図	85
第76図	平安時代・鎌倉時代の出土遺物 1	88
第77図	平安時代・鎌倉時代の出土遺物 2	89
第78図	平安時代・鎌倉時代の出土遺物 3	90
第79図	室町時代・戦国時代の出土遺物 1	91
第80図	室町時代・戦国時代の出土遺物 2	92
第81図	室町時代・戦国時代の出土遺物 3	93
第82図	室町時代・戦国時代の出土遺物 4	94
第83図	室町時代・戦国時代の出土遺物 5	95
第84図	室町時代・戦国時代の出土遺物 6	96

第85図	室町時代・戦国時代の出土遺物 7	97
第86図	室町時代・戦国時代の出土遺物 8	98
第87図	室町時代・戦国時代の出土遺物 9	99
第88図	室町時代・戦国時代の出土遺物10	100
第89図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 1	101
第90図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 2	102
第91図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 3	103
第92図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 4	104
第93図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 5	105
第94図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 6	106
第95図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 7	107
第96図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 8	108
第97図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 9	109
第98図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物10	110
第99図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物11	111
第100図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物12	112
第101図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物13	113
第102図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物14	114
第103図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物15	115
第104図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物16	116
第105図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物17	117
第106図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物18	119
第107図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物19	120
第108図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物20	121
第109図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物21	122
第110図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物22	123
第111図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物23	124
第112図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物24	125
第113図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物25	126
第114図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物26	127
第115図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物27	128
第116図	安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物28	130
第117図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 1	131
第118図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 2	132
第119図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 3	133

第120図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 4	134
第121図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 5	135
第122図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 6	136
第123図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 7	137
第124図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 8	138
第125図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 9	139
第126図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物10	140
第127図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物11	141
第128図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物12	142
第129図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物13	143
第130図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物14	144
第131図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物15	145
第132図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物16	146
第133図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物17	147
第134図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物18	148
第135図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物19	149
第136図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物20	150
第137図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物21	151
第138図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物22	152
第139図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物23	153
第140図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物24	154
第141図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物25	155
第142図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物26	156
第143図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物27	157
第144図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物28	158
第145図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物29	159
第146図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物30	160
第147図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物31	161
第148図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物32	162
第149図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物33	163
第150図	江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物34	164
第151図	近代(中学校)の出土遺物 1	165
第152図	近代(中学校)の出土遺物 2	166
第153図	近代(京都府庁)の出土遺物 1	167
第154図	近代(京都府庁)の出土遺物 2	168

第155図	瓦実測図 1	170
第156図	瓦実測図 2	171
第157図	瓦実測図 3	172
第158図	瓦実測図 4	173
第159図	瓦実測図 5	174
第160図	瓦実測図 6	175
第161図	鉄製品実測図	176
第162図	銅製品実測図 1	177
第163図	銅製品実測図 2	178
第164図	石製品実測図 1	179
第165図	石製品実測図 2	180
第166図	石製品実測図 3	181
第167図	石製品実測図 4	182
第168図	石製品実測図 5	183
第169図	銭貨実測図	184
第170図	骨・貝加工品・ガラス製品実測図	185
第171図	ガラス製品実測図	186
第172図	木製品実測図	187
第173図	平安～鎌倉時代の遺構	188
第174図	室町～戦国時代の遺構	189
第175図	安土桃山時代・江戸時代前期の遺構	190
第176図	江戸時代後期の遺構	191
第177図	幕末の遺構	192
第178図	中学校の遺構	193
第179図	近衛大路の変遷について	194

付 表 目 次

付表 1	周辺の調査事例一覧	4
付表 2	出土土器・陶磁器観察表	215
付表 3	出土瓦観察表	257
付表 4	出土金属製品観察表	259
付表 5	出土石製品観察表	260
付表 6	出土銭貨観察表	261

付表7	出土骨・貝・ガラス製品観察表	263
付表8	出土木製品観察表	263

図版目次

巻頭図版1	平安京跡左京一条三坊三町調査地全景(南西から)
巻頭図版2	第3面全景(合成写真、上が北)
巻頭図版3	(1) S D 2037漆喰遺構 全景(北西から) (2) S K 2258礎石検出状況(北西から)
巻頭図版4	(1) 光格菊御紋付染付椀 (2) 壺紋唐津向付
図版第1	(1) 第1面1区全景(南東から) (2) 第1面1区全景(東から)
図版第2	(1) 第2面1区全景(西から) (2) 第2面1区俯瞰(南から)
図版第3	(1) 第2面2区全景(西から) (2) 第2面3区全景(西から)
図版第4	(1) 第3面1区全景(南東から) (2) 第3面1区全景(東から)
図版第5	(1) 第3面2区全景(西から) (2) 第3面2区全景(西から)
図版第6	(1) 第3面3区全景(西から) (2) 第3面3区全景(北西から)
図版第7	(1) 第1面1区近衛大路断面(南西から) (2) 第1面1区 S S 07(北西から)
図版第8	(1) 第1面1区 S D 12断面(西から) (2) 第1面1区北側全景(北東から)
図版第9	(1) 第1面2区 S S 2003(北から) (2) 第1面2区 S S 2003(東から)
図版第10	(1) 第1面2区 S S 2004(東から) (2) 第1面2区 S M 3968断面(西から)
図版第11	(1) 第1面2区 S D 2014(北東から) (2) 第1面2区 S S 2003・S S 2005(北から)

- 図版第12 (1)第1面2区S D2009(南西から)
(2)第1面2区S X2023(北東から)
- 図版第13 (1)第1面2区S S2031(西から)
(2)第1面2区全景(南西から)
- 図版第14 (1)第1面2区全景(南から)
(2)第1面2区全景(南東から)
- 図版第15 (1)第1面2区S D2020(東から)
(2)第1面2区S D2020(北東から)
- 図版第16 (1)第1面2区S D2020(北から)
(2)第1面2区S D2037(南から)
- 図版第17 (1)第1面2区S D2037(北西から)
(2)第1面2区S D2037(北東から)
- 図版第18 (1)第1面2区S D2037(東から)
(2)第1面2区S D2037(東から)
- 図版第19 (1)第1面2区S D2037柵(北から)
(2)第1面2区S D2037柵(南から)
- 図版第20 (1)第1面2区S J2040(南から)
(2)第1面2区S K2019(南から)
- 図版第21 (1)第1面3区S S3021(東から)
(2)第1面3区S S3021(北東から)
- 図版第22 (1)第1面3区S S3043(西から)
(2)第1面3区S D3039(東から)
- 図版第23 (1)第1面3区S D3037・SD3038(西から)
(2)第1面3区S L3045・S E3034(西から)
- 図版第24 (1)第1面3区S L3045(北から)
(2)第1面3区S L3045(北から)
- 図版第25 (1)第1面3区S J3028(東から)
(2)第1面3区S J3052(東から)
- 図版第26 (1)第1面3区S S3076(東から)
(2)第1面3区S S3077～S S3080(東から)
- 図版第27 (1)第1面3区S S3056(北から)
(2)第1面3区S S3056断面(東から)
- 図版第28 (1)第1面3区S E3072(東から)
(2)第1面3区S L3050(北から)
- 図版第29 (1)第1面3区S L3050(南西から)

- (2)第1面3区S L 3050(南から)
- 図版第30 (1)第1面3区S L 3086・S L 3087(南から)
(2)第1面3区S D 3097(北から)
- 図版第31 (1)第1面3区S S 3115(南から)
(2)第1面3区S L 3016(西から)
- 図版第32 (1)第1面3区S L 3016(南から)
(2)第1面3区S S 3118(南から)
- 図版第33 (1)第1面3区S X 3128(東から)
(2)第1面3区S X 3127・S X 3128(東から)
- 図版第34 (1)第1面3区南東隅漆喰溝(北西から)
(2)第1面3区S J 3972(北から)
- 図版第35 (1)第1面3区全景(南から)
(2)第2面1区S K 66断面(西から)
- 図版第36 (1)第2面1区S K 28遺物出土状況(南から)
(2)第2面1区S S 37(西から)
- 図版第37 (1)第2面S F 240(西から)
(2)第2面1区全景(北東から)
- 図版第38 (1)第2面2区S X 2058(南西から)
(2)第2面2区S X 2058アゼ断面(南東から)
- 図版第39 (1)第2面2区S X 2058東側南北アゼ断面(西から)
(2)第2面2区S S 2097(西から)
- 図版第40 (1)第2面2区S D 2075(東から)
(2)第2面2区S K 2105(北から)
- 図版第41 (1)第2面2区S K 2105(北から)
(2)第2面2区S E 2227断面(西から)
- 図版第42 (1)第2面2区全景(北東から)
(2)第2面2区全景(南から)
- 図版第43 (1)第2面3区S E 3138(北から)
(2)第2面3区S E 3154(南から)
- 図版第44 (1)第2面3区S E 3198(東から)
(2)第2面3区S K 3167(北から)
- 図版第45 (1)第2面3区S E 3132(北東から)
(2)第2面3区S S 3147(西から)
- 図版第46 (1)第2面3区S S 3190(北から)
(2)第2面3区S B 01(東から)

- 図版第47 (1)第2面3区S B01(北から)
(2)第2面3区S E3171(東から)
- 図版第48 (1)第2面3区S S3239断面(北から)
(2)第2面3区S S3239(北から)
- 図版第49 (1)第2面3区S K3278(北から)
(2)第2面3区S S3284(南西から)
- 図版第50 (1)第2面3区S S3229・S K3230(東から)
(2)第2面3区S S3229(北から)
- 図版第51 (1)第2面3区S S3276(西から)
(2)第2面3区S S3274(南から)
- 図版第52 (1)第2面3区S S3322断面(南から)
(2)第2面3区S S3322(南から)
- 図版第53 (1)第2面3区S S3331上層(西から)
(2)第2面3区S S3331下層(北から)
- 図版第54 (1)第2面3区S S3257(西から)
(2)第2面3区S E3247(東から)
- 図版第55 (1)第2面3区S E3312(東から)
(2)第2面3区S E3132(北から)
- 図版第56 (1)第2面3区S K3385断面(東から)
(2)第2面3区S K3472断面(北から)
- 図版第57 (1)第2面3区S S3491(東から)
(2)第2面3区全景(北西から)
- 図版第58 (1)第2面3区全景(南西から)
(2)第3面1区S E135(北東から)
- 図版第59 (1)第3面1区S P96(S A96)断面(西から)
(2)第3面1区S P100(S A96)断面(東から)
- 図版第60 (1)第3面1区S P117(S B117)断面(西から)
(2)第3面1区S P117(S B117) (北から)
- 図版第61 (1)第3面1区S P207(S B117)断面(南から)
(2)第3面1区S P207(S B117) (南から)
- 図版第62 (1)第3面1区S D77断面(東から)
(2)第3面1区西壁 (北東から)
- 図版第63 (1)第3面1区S D81断面 (北東から)
(2)第3面1区S D81断面(北東から)
- 図版第64 (1)第3面1区S D81(北東から)

- (2) 第3面1区S D81(北東から)
- 図版第65 (1) 第3面1区北壁断面(南東から)
(2) 第3面1区S D78断面(東から)
- 図版第66 (1) 第3面1区北半全景(西から)
(2) 第3面1区全景(北東から)
- 図版第67 (1) 第3面2区S S2111(東から)
(2) 第3面2区S S2111(南西から)
- 図版第68 (1) 第3面2区焼土S X2165(東から)
(2) 第3面2区S X2137(西から)
- 図版第69 (1) 第3面2区S K2157 土器検出状況(北から)
(2) 第3面2区S S2199(北東から)
- 図版第70 (1) 第3面2区S D81断面(北から)
(2) 第3面2区S D81断面(北西から)
- 図版第71 (1) 第3面2区S K2258 礎石出土状況(北西から)
(2) 第3面3区S S3507(北から)
- 図版第72 (1) 第3面3区S K3571 遺物出土状況(西から)
(2) 第3面3区S S3288断面(東から)
- 図版第73 (1) 第3面3区S S3305・S S3306(北から)
(2) 第3面3区S K3593 遺物出土状況(北から)
- 図版第74 (1) 第3面3区S K3743断面 遺物出土状況(東から)
(2) 第3面3区S K3831(西から)
- 図版第75 (1) 第3面3区S S3306断面(北から)
(2) 第3面3区S S3305断面(北から)
- 図版第76 (1) 第3面3区S S3827(北から)
(2) 第3面3区S S3827断面(東から)
- 図版第77 (1) 第3面3区S D3550断面(南西から)
(2) 第3面3区S D3550(南西から)
- 図版第78 (1) 第3面3区S A3425(東から)
(2) 第3面3区S A3425(西から)
- 図版第79 (1) 第3面3区S A3823断面(北から)
(2) 第3面3区S A3823断面(北から)
- 図版第80 (1) 第3面3区S D3370 集石出土状況(西から)
(2) 第3面3区S A3425・S D3370(南東から)
- 図版第81 (1) 第3面3区S D3370東側断面(西から)
(2) 第3面3区S D3370(東から)

- 図版第82 (1)第3面3区S D 3370 西側断面(北東から)
(2)第3面3区S D 3370・S A 3425(西から)
- 図版第83 (1)第3面3区S D 3370・S D 3550(西から)
(2)第3面3区S D 3370・S A 3425(東から)
- 図版第84 (1)第3面3区S D 3370・S A 3425(東から)
(2)第3面3区S X 3840(西から)
- 図版第85 (1)第3面3区S X 3840断割断面(南西から)
(2)第3面3区S D 3881断面(南西から)
- 図版第86 (1)第3面3区S D 3881(南西から)
(2)第3面3区S E 3822(南東から)
- 図版第87 (1)第3面3区S P 3921瓦出土状況(北西から)
(2)第3面3区全景(南から)
- 図版第88 (1)第3面3区全景(南東から)
(2)第3面3区全景(北から)
- 図版第89 出土遺物 1
- 図版第90 出土遺物 2
- 図版第91 出土遺物 3
- 図版第92 出土遺物 4
- 図版第93 出土遺物 5
- 図版第94 出土遺物 6
出土遺物 7
- 図版第95 出土遺物 8
出土遺物 9
- 図版第96 出土遺物10
出土遺物11
- 図版第97 出土遺物12
- 図版第98 出土遺物13
出土遺物14
- 図版第99 出土遺物15
出土遺物16
- 図版第100 出土遺物17
- 図版第101 出土遺物18
出土遺物19
- 図版第102 出土遺物20
出土遺物21

图版第103 出土遺物22
图版第104 出土遺物23
图版第105 出土遺物24
图版第106 出土遺物25
图版第107 出土遺物26
出土遺物27
图版第108 出土遺物28
图版第109 出土遺物29
图版第110 出土遺物30
图版第111 出土遺物31
图版第112 出土遺物32
图版第113 出土遺物33
图版第114 出土遺物34
图版第115 出土遺物35
图版第116 出土遺物36
图版第117 出土遺物37
图版第118 出土遺物38
图版第119 出土遺物39
图版第120 出土遺物40
出土遺物41
图版第121 出土遺物42
出土遺物43
图版第122 出土遺物44
图版第123 出土遺物45
图版第124 出土遺物46
图版第125 出土遺物47
图版第126 出土遺物48
出土遺物49
图版第127 出土遺物50
图版第128 出土遺物51
图版第129 出土遺物52
出土遺物53
图版第130 出土遺物54
图版第131 出土遺物55
图版第132 出土遺物56

図版第133 出土遺物57

図版第134 出土遺物58

平安京跡(左京一条三坊三町)発掘調査報告

1. はじめに

本発掘調査は京都府庁新行政棟・文化庁移転施設整備事業に係る工事に伴って、京都府の依頼を受けて実施した。京都府庁舎3号館が老朽化したことと、文化庁移転に伴い、増床する必要が生じたため、3号館に代わる新行政棟の建設が計画された。

調査地点は新町通に面した旧京都府警察本部の北側にあたり、平安京では左京一条三坊三町と近衛大路にあたる。平安時代には修理職の厨町である修理職町であった。室町時代には下御霊神社の御旅所、桃山時代には大名屋敷地として利用される。江戸時代には町屋となり、江戸時代末には京都守護職上屋敷が平安京の一条三坊二・三町の2町分に築かれ、調査地は上屋敷の東通用門付近にあたる。上屋敷敷地は、現在の京都府庁や府警本部の敷地へと踏襲されている。

調査開始前は来庁者の駐車場であり、地下には府庁に関連する様々な配管が通っていた。発掘調査に際しては、廃土等の搬出ができなかったため、場内に廃土等の仮置場を確保する必要があり、3地区に分けて随時調査を実施した。現地調査は、平成30年度から平成31年度の2か年にわたり実施し、その際複数の遺構検出面を認識し、平安時代から近世までの多くの遺構を検出した。出土した土器類、金属製品、石製品などは整理箱566箱を数える。

現地発掘調査終了後、令和2年度に出土遺物の理化学処理と科学分析を行い、整理報告作業を実施した。

なお、調査に係る経費は京都府が全額負担した。

現地発掘調査及び整理事業時には、京都市文化財保護課、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、京都府上京警察署、國下多美樹、高橋康夫、日向進、中井均、松尾信裕、佐藤亜聖、伊野近富(順不同・敬称略)のご協力とご指導を得た。記してお礼申し上げたい。

(岡崎研一)

【調査体制等】

平成30年度調査

現地調査責任者 調査課長 小池 寛

調査担当者 調査課課長補佐兼調査第2係長 中川和哉

同 主任 綾部侑真

同 調査員 加藤雄太

調査場所 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

調査期間 平成30年11月7日～平成31年2月27日

調査面積 270m²

平成31年度調査

現地調査責任者 調査課長 小池 寛

調査担当者 調査課調査第2係長 高野陽子

同 副主査 引原茂治・岡崎研一

同 主任 綾部侑真

同 調査員 加藤雄太・山本 梓・上井佐紀・川上晃生・浅田洋輔

調査場所 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

調査期間 平成31年4月16日～令和2年3月9日

調査面積 1,280㎡

令和2年度(整理等)

整理等責任者 調査課長 小池 寛

整理担当者 調査課参事第3係長事務取扱 中川和哉

同 副主査 岡崎研一

同 調査員 加藤雄太

2. 遺跡の位置と環境

1) 地理的環境

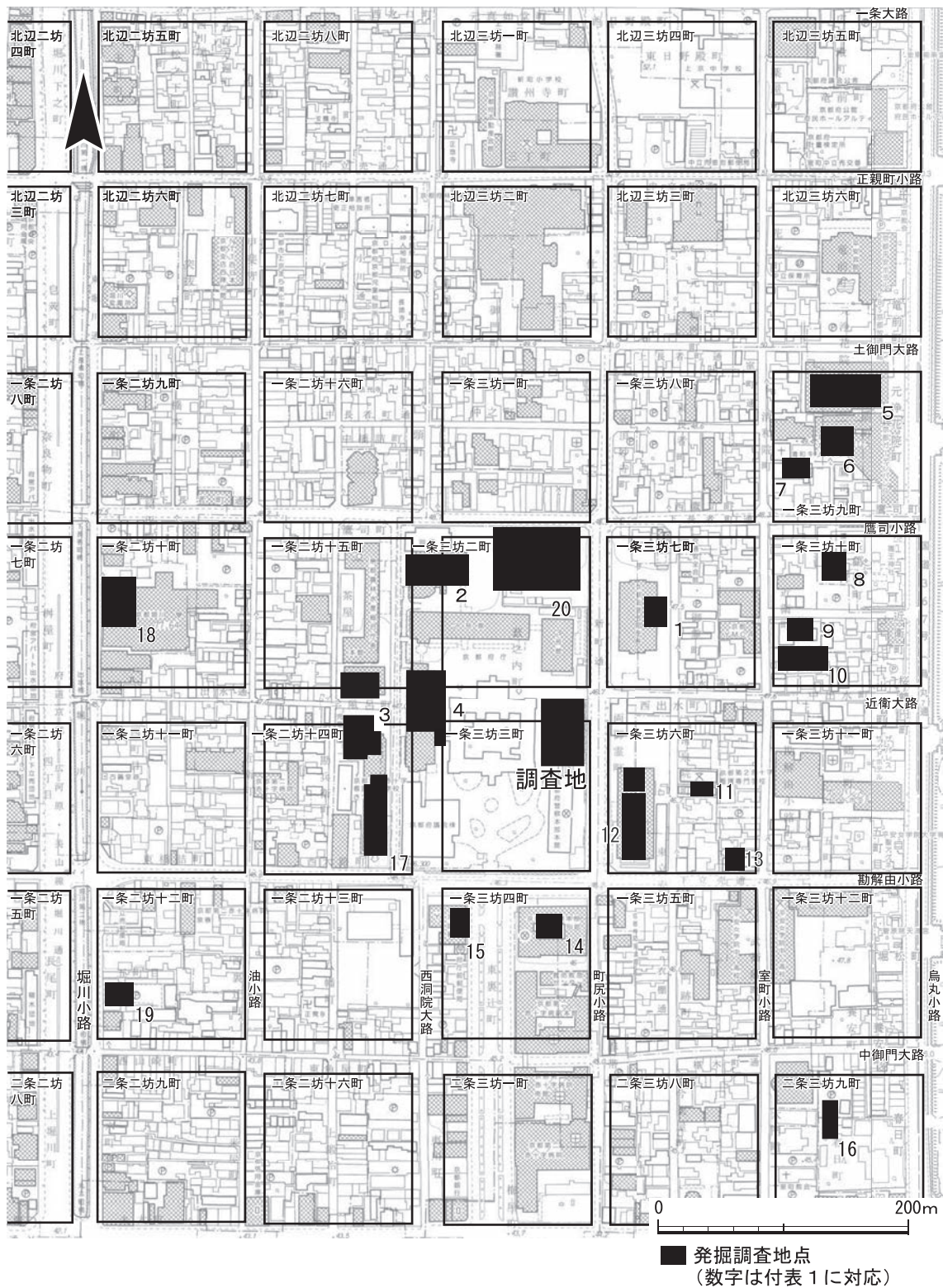
調査地は、北は下長者通、東は新町通、西は西洞院通、南は下立売通に囲まれる藪之内町内にある。京都府庁旧本館(重要文化財)の東側に位置し、来庁者用駐車場であった。

調査地点は断層によって形成された京都盆地に位置し、東・西・北を山に囲まれ、南に平坦部が広がる。盆地内は北高南低の地形であり、南には現存しないが淡水湖である巨椋池があった。『日本後紀』には、桓武天皇が平安京遷都時に三方を山に囲まれた地形が城のようであることから、山背国から山城国に名前を変えるよう命じた記録がある。盆地内には西から桂川・御室川・紙屋川・鴨川と4つの河川が流れ、それぞれが扇状地を形成している。鴨川は洪水を引き起こす河川で、平安京の左京域は鴨川によって形成された扇状地上に展開する。調査地もこの鴨川の扇状地上にあたり、鴨川の扇状地由来の硬い礫層を地盤とし、黄褐色の粘土層が部分的に堆積している。

2) 歴史的環境

調査地は平安京の条坊では北側を近衛大路、西側を西洞院大路、南側を勘解由小路、東側を町尻小路に四方を区画された左京一条三坊三町の北東部にあたり、一部近衛大路にかかる。左京一条三坊二・三町、左京一条二坊十四町・十五町(付表1-4)では平安時代から江戸時代に至るまでの近衛大路と西洞院大路の路面と道路側溝、交差点を検出している。この場所は左京一条三坊三町から六町にかけて平安京の諸施設の修理を担当する修理職の厨町である修理職町があった。

中世には付近に下御霊神社が位置し、近世の町割りの地名に下御霊町、下御霊横町、御霊町な



第 1 図 調査地及び周辺調査位置図

付表1 周辺の調査事例一覧

No	調査地	調査概要	文献
1	左京一条三坊七町	平安時代末～鎌倉時代の礎石建物・柵列 室町・江戸時代の井戸・土坑など	鳥羽離宮跡調査研究所 『埋蔵文化財概報集』(1976)
2	左京一条三坊二町	平安時代～江戸時代の各時代の西洞院大路西側溝 金箔瓦・近世初頭の国産・輸入陶磁器出土	(財)京都市埋蔵文化財調査研究センター 『京都府遺跡調査概報』第45冊(1991)
3	左京一条二坊 (茶屋四郎次郎邸跡)	平安～室町時代のビット群 中世の青磁・白磁・近世初頭の国産・輸入陶磁器出土 近世の井戸・石列・石垣・土坑など	(財)京都市埋蔵文化財研究所 『昭和59年度京都市埋蔵文化財調査概要』 (1987)
4	左京一条三坊二・三町 左京一条二坊十四・十五町	平安～江戸時代各時代の近衛大路路面・北側溝・南側溝 室町～江戸時代各時代の西洞院大路路面・東側溝・西側溝 重圍文軒丸瓦・桐紋金箔方形瓦・華南三彩盤出土	(財)京都市埋蔵文化財調査研究センター 『京都府遺跡調査概報』第33冊(1989)
5	左京一条三坊九町	平安後期～末の土御門大路の路面・南側溝、宅地内の区割り溝 越州窯製青磁椀(毛彫文様)出土	(財)古代学協会 『平安京跡研究調査報告』第10輯(1983)
6	左京一条三坊九町	平安時代の宅地割りの溝、中期～後期の溝・土坑・柱穴・東西溝 戦国時代の堀、室町後半～安土桃山時代の土坑・井戸・石室	(財)京都市埋蔵文化財研究所 『昭和61年度京都市埋蔵文化財調査概要』 (1989)
7	左京一条三坊九町	戦国～桃山時代の土坑・井戸・石室・石組遺構・溝 平安時代の溝2条・柵列、鉄や鉄滓、埴塙が石組遺構・石室より出土	(財)京都市埋蔵文化財研究所 『昭和61年度京都市埋蔵文化財調査概要』 (1989)
8	左京一条三坊十町	江戸時代前期以前の遺構はなし	花園大学考古学研究室 『京都市護国神社境内の発掘調査概報 ～江戸時代遺跡の考古学的調査～』(1976)
9	左京一条三坊十町	平安時代中期の溝、室町～江戸時代の遺構群 10世紀の溝から土師器・須恵器・灰釉・緑釉陶器・白磁・青磁出土	京都市編 『史料京都の歴史』第二巻 考古(1983)
10	左京一条三坊十町 (旧二条城跡)	平安時代の溝・土坑・建物跡、室町～江戸時代の石室・土坑・井戸 土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・輸入陶磁器・瓦類	(財)京都市埋蔵文化財研究所 『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2012-13
11	左京一条三坊六町	江戸時代の土坑・井戸 室町時代の土坑・溝・柱穴群、桃山時代の金箔文軒丸瓦出土	(財)京都市埋蔵文化財研究所(1981) 『昭和56年度京都市埋蔵文化財調査概要』発 掘調査編
12	左京一条三坊六町	安土桃山時代の斜め方向の堀・南北方向の堀	(財)京都市埋蔵文化財調査研究センター 『京都府遺跡調査概報』第59冊(1994)
13	左京一条三坊六町	安土桃山時代の旧二条城跡の濠跡 平安～近世の井戸・柱穴群	古代文化調査会 現地説明会資料(2012)
14	左京一条三坊四町 (修理職)	平安時代の南北方向の柵列	京都市教育委員会 『埋蔵文化財発掘調査概報』(1974)
15	左京一条二坊十三町	平安前期の土坑・中期の井戸、室町時代の井戸・柱穴・土坑 安土桃山時代の庭園施設とみられる池、それにとりつく流路2条。 窯焼1点出土 江戸時代の東西・南北の敷地境を示す柱列	(財)京都市埋蔵文化財研究所 『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』 (1998)
16	左京一条三坊九町	旧二条城の濠跡、東西方向の柱列	古代文化調査会 現地説明会資料(2016)
17	左京一条二坊十四町 (左獄・囚獄司)	平安時代の掘立柱建物・井戸・土坑。富寿神宝出土 安土桃山時代の中国製男子象。江戸時代の町境の区割り	(財)京都市埋蔵文化財調査研究センター 『京都府遺跡調査概報』第63冊(1995)
18	左京一条二坊十町	近世の掘立柱建物・井戸・土坑・漆喰溝 中世の土坑	(財)京都市埋蔵文化財調査研究センター 『京都府遺跡調査概報』第52冊(1993)
19	左京一条二坊十二町	平安中期～後期の土坑、大型の方形縦板横棧組井戸 室町時代の井戸・礎石建物・宅地割りの東西柵 平安時代の井戸から白磁が目立って出土	(財)京都市埋蔵文化財研究所 『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』 (2004)
20	左京一条三坊二町	平安時代の鷹司小路南側溝・井戸 戦国時代の東西方向の堀(構)・北側に土塁 近世初頭の金箔瓦出土・上級町衆の宅地・土坑群から瀬戸美濃系陶器や肥前 系陶器などの茶道具・輸入陶磁器・朝鮮やヴェトナムなどが出土 江戸時代末の京都守護職上屋敷の礎石建物	(公財)京都市埋蔵文化財調査研究センター 『京都府遺跡調査報告集』第176冊(2018)

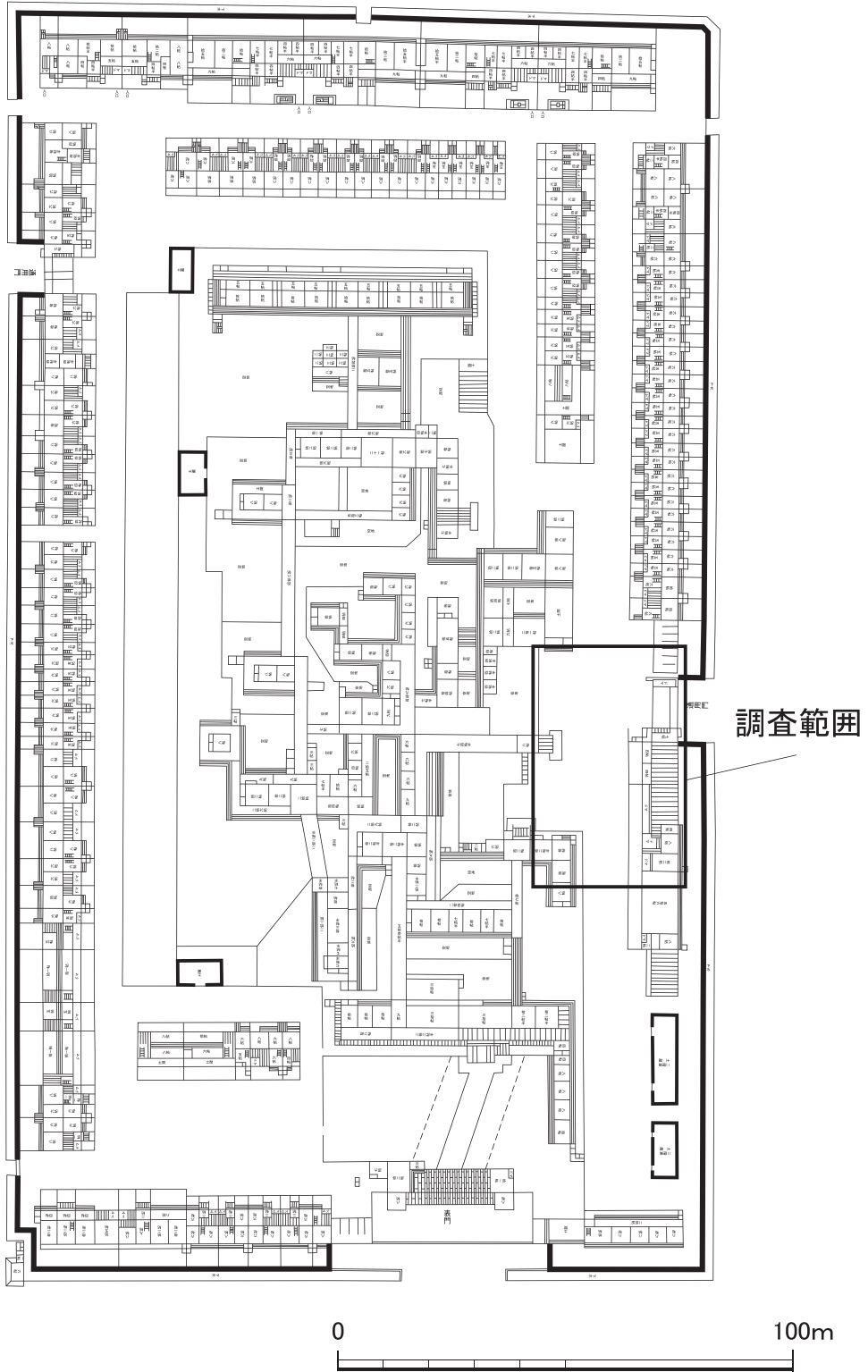
ど名残が散見される。付近の勘解由小路室町には室町時代に管領斯波氏の邸宅である武衛邸（勘解由小路邸）が構えられていた。左京一条二坊十二町の調査（付表1-19）では、『後法興院記』明応8（1499）年10月10日条の「爲要害京中堀事從京兆加下知云々、家門舊跡邊鷹司ヲ東西へ至堀河ニ可掘也云々、」の記述と合致する大規模な堀を検出している。応仁・文明の乱頃には要塞化され、12代斯波義寛まで本宅として使用したが放棄される。その後、足利義輝が將軍御所の武衛陣として使用するが、永禄8（1565）年に永禄の変で義輝が殺害され焼失する。永禄12（1569）年には織田信長によって武衛陣跡には足利義昭の將軍御所として旧二条城が規模を拡大して造営されるが後に信長によって解体される。今回の調査地の南西側に位置する左京一条三坊六町の調査（付表1-12）では、旧二条城の堀の可能性のある遺構を検出している。

天正14（1586）年には豊臣秀吉によって西洞院通の西側に聚楽第の造営が始まる。聚楽第の周りには大名屋敷が配されていたことから調査地周辺にも大名屋敷が立ち並んでいたと考えられ、左京一条三坊二町（付表1-2）、左京一条二坊十四町・十五町（付表1-4）、左京一条三坊六町（付表1-11）などのように付近の発掘調査では屋敷の屋根を飾った金箔瓦が出土している。

秀吉による大規模な造営事業とともに、市中の地割の改編も実施され、寺町から高倉、堀川以西、押小路以南の地域に半町ごとに南北の小路を通した。平安京以来の「碁盤の目」の正方形の町割りの中心に小路が通され、短冊形の町割りが形成され現代に受け継がれていくことになる。文禄4（1595）年には聚楽第が破却され、大名屋敷も伏見へ移転し、町人が暮らす居住空間になったと考えられる。

江戸時代には、北は出水通（旧近衛大路）に面する下御霊横町、東は新町通（旧町尻小路）に面するのりものや町（下御霊町）、西には町境を超えてならや町が調査地にあたる。また、調査地北西側に位置する左京一条二坊十五町には茶屋四郎次郎の邸宅が移るなど富裕な商人層による土地利用も行われていた。左京一条二坊（茶屋四郎次郎邸跡）の調査（付表1-3）では、富裕な商人層が所有したと思われる桃山茶陶が出土している。また、左京一条二坊十四町（付表1-17）では、江戸時代の町境の区割りが検出されている。

元和大火（1620年）、寛文大火（1673年）、宝永大火（1708年）、天明大火（1788年）、嘉永大火（1854年）と当地はたびたび火災に見舞われ焼亡している。文久2（1862）年に会津藩主松平容保が京都守護職に任じられる。これに伴って当地を幕府が買い上げ現在の藪之内町とし、京都守護職上屋敷とした。左京一条二坊十二町（付表1-19）では、京都守護職上屋敷の礎石建物などの関連施設が検出されている。慶応3（1867）年に守護職は廃止され、跡地は京都裁判所に引き継がれたが、軍務官、京都府庁の用地を経て、明治6年に京都中学校、同18年に再び京都府庁の敷地となり現在に至っている。

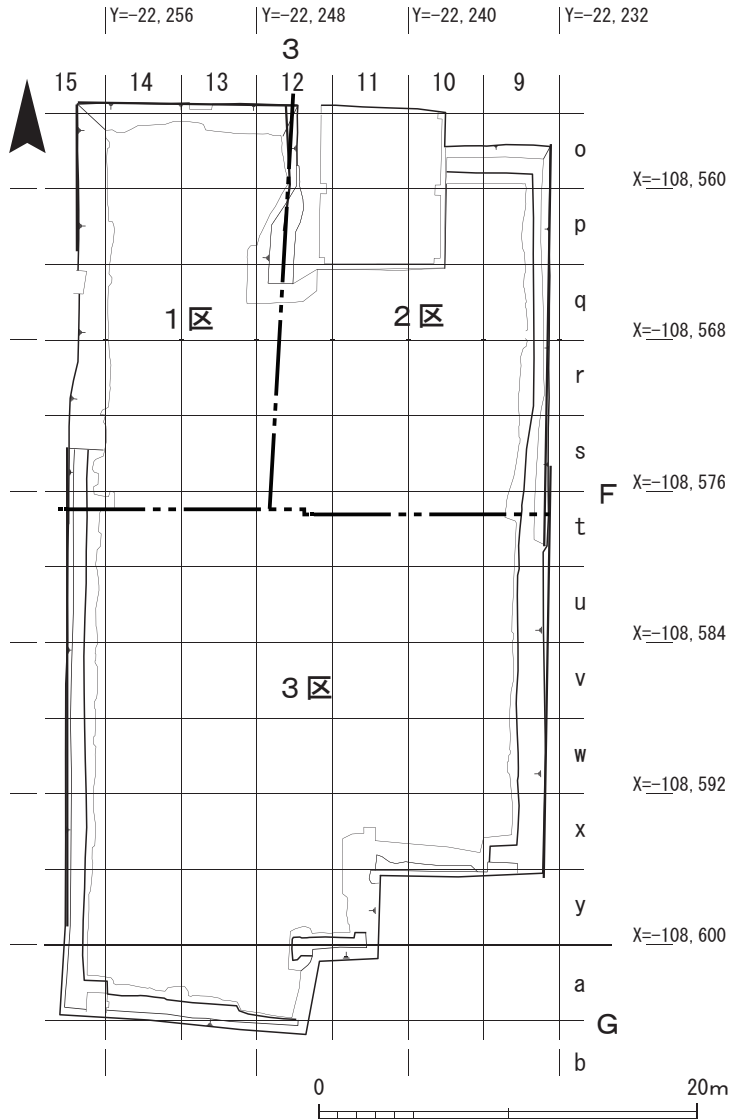


第2図 守護職上屋敷図

3. 調査の方法

1) 地区割りの設定について

発掘調査は、工事の工程や土置き場の関係から調査地を三分割して実施した(第3図)。南北に二分割し、そのうち北側を東西に分割する。調査区の北西側を1区、北東側を2区、南側を3区とした。また、調査対象範囲を国土座標(世界測地系)の座標値を基準に、大グリッドと小グリッドを設定した。大グリッドはX=-108,000m、Y=-22,000mを基準とし、一辺100mの正方形区割りである。調査地は3Fと3Gにあたり、FとGの境は、X=-108,600mとなる。さらに大グリッドは、東西・南北列を1辺4mの方形区割りの小グリッドに分割し、北東隅を基準として東西方向を1～25、南北方向をa～yに区分した。



第3図 調査地地区割り図

2) 調査の方法について

調査地内にGPSを用いて基準点を設置し、調査区を設定した。

調査にあたっては遺構検出面直上までを重機で掘削し、その後人力により包含層の掘削、精査作業を実施し、遺構を検出した。第3面及び下層の遺構については、遺構が密集し、明瞭な層理が検出できないため、人力にて遺構面の掘り下げを行い、順次遺構の検出と掘削作業を行った。また、調査の進行に伴い、必要に応じて記録図面の作成と、記録写真の撮影を実施した。遺構の図化作業にあたっては、調査地全体の平面図については、縮尺1/20・1/50で作成を行った。個別の遺構図面は基本的に縮尺1/20で作成し、遺物出土状況などは必要に応じて縮尺1/10で作成した。

3) 遺構番号について

遺構番号は調査の進捗に応じて地区ごとに番号を付した。遺構掘削の過程で種類を特定できたものからSKなどの名称を付与した。使用した略称は、建物：SB、柱穴列・礎石据付穴列：SA、柱穴・礎石据付穴：SP、礫敷・路面：SF、土坑：SK、井戸：SE、溝：SD、石組：SS、土器埋納遺構：SJ、かまど：SL、整地土：SM、不明遺構・その他：SXである。

当調査では検出される遺構数が多くなることが想定されたため、整理段階での作業簡易化のために2・3区では遺構番号の四桁目に各地区の番号を表記した(1地区SK02→SK02、2地区SX64→SX2064、3地区SD370→SD3370)。また、建物跡や柱穴列には構成する礎石のうち、最も小さい遺構番号を建物、柱列番号とした。

4) 報告書作成について

令和2年度は、平成30年度及び平成31年度の調査で出土した遺物の整理作業ならびに、報告書の作成作業を実施した。

出土遺物の整理作業は、平成30年度から調査と並行して台帳登録及び洗浄作業などの基礎作業については実施しており、令和2年度は台帳登録及び洗浄作業を継続するとともに、注記、接合作業を実施した。注記の完了した遺物から報告に必要な遺物を抽出して実測し、必要に応じて拓本を実施した。実測資料は完形復元が可能であれば石膏を用いた復元作業を実施した。また、必要資料に限り写真撮影を行い、遺物写真図版として掲載した。

遺構図は版下作成とトレース作業を実施した。遺構図は、調査地全体図を縮尺1/250で作成した。個別の遺構平面図については、礎石列、柱穴列・溝などは縮尺1/50・1/80・1/100で、土坑・井戸・かまどなどは1/40・1/50で、遺物出土状況については、縮尺1/20で作成することを基本とした。

また、各遺構の年代は、主に平尾政幸の土師器皿編年(平尾2019)を基準に決定している。

4. 調査の経過

1) 平成30年度の調査

平成30年11月7日から現地調査に着手した。調査対象地の北西に位置する1区から調査を開始した。調査区全域に貼られたアスファルトの1区範囲分を除去し、さらにその下層に貼られたコンクリート基礎を除去し地表面を確認した。地表下から0.4m掘削し露出した安定面で嘉永7(1854)年の大火に伴う火災層を確認し、この面を第1面として調査を実施した。その後調査を進めていく中で第3面にて堀を検出、近代建物の下に堀が及ぶことが判明したため建物基礎を除去する方針となった。

2) 平成31年度の調査

平成31年4月16日から調査を開始した。前年度から継続して1区の調査を実施した。近代建物を除去し、下層に残存した遺構を調査し、5月29日に全景撮影を実施し、6月から埋め戻し作業を開始した。合わせて6月10日から2区の調査に着手した。地表下0.4mで整地土を確認、整地土の下層に焼土が確認できることから守護職上屋敷に伴う整地土である可能性を考慮し、この面を第1面として調査した。2区でも1区で確認された堀が検出され、1区と2区にまたがる近代建物基礎を除去する作業を行った。2区は10月15日に全景撮影を実施し、埋め戻し作業を含めて10月23日まで作業を行ったが、調査ヤードの拡張に伴って10月1日より3区の調査を並行して実施した。2区も地表を覆うアスファルト等の除去と搬出、建物基礎除去とその搬出を実施している。3区でも近代建物の別棟が確認され、その下層に遺構が残存していることが判明したため、これを除去し、調査を行った。建物基礎の産業廃棄物や調査区掘削で生じた廃土の一部は、調査対象地の空間確保のために場外搬出を行った。第3面では、堀を2条検出し、人力で掘削した。3区は令和2年2月18日に全景撮影を実施し、同28日に埋め戻し作業を終え、3月9日に現地作業を終了した。

調査期間中、令和2年2月15日に現地説明会を開催した。前日には府庁と府警本部職員対象とした現地公開を実施した。現地説明会では290名の参加を得た。同年2月21日には平安女学院中学校の生徒が授業の一環として現地を見学した。

5. 基本層序

調査地全域を被覆する0.15mほどのアスファルトの下には同厚程のコンクリート、さらに0.2mの礫を敷き詰めた層が確認され、これを除去した地表面からさらに0.3mから0.5mほど掘削した安定面を第1面とした。

近代の造成土の下層には白色細粒砂の整地土が確認され、白色細粒砂整地に伴う造成土の下層に嘉永の大火に伴う焼土面、天明の大火以降の堆積土、天明の大火に伴う焼土面、以下幾層もの整地面が黄褐色のシルト・礫層に至るまで堆積する。調査区は多くが近代以降の工事・造成により攪乱を受けており、また、調査区東部と西部の各時代における土地利用の差異から基本層序の確認には慎重な判断が求められた。



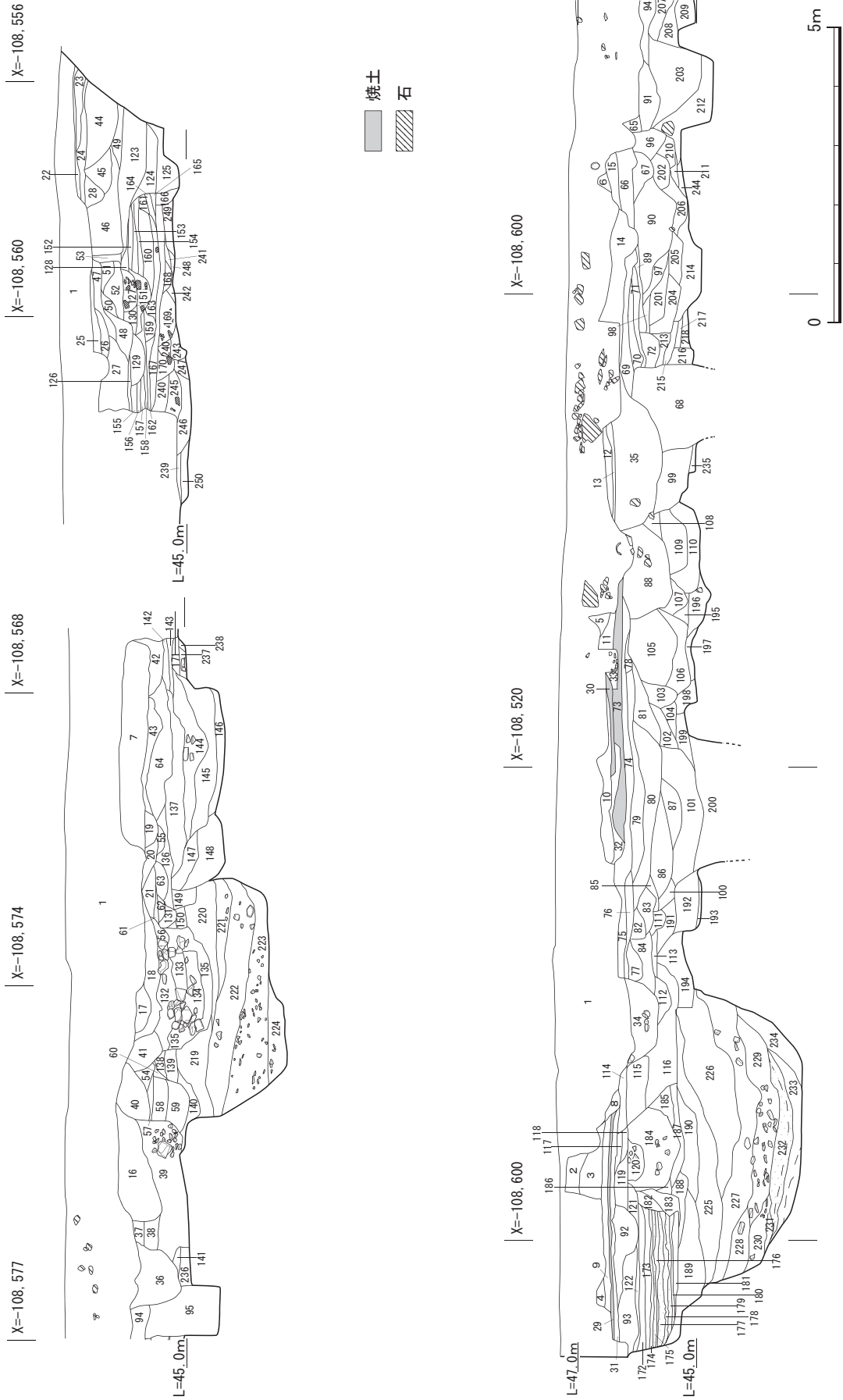
第4図 2・3区東壁断面図

2・3区東壁断面図土色

1. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 礫混じり細粒砂
2. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 礫混じり中粒砂質細粒砂
3. 暗褐色 (10YR 3/3) 礫混じり細粒砂質極細粒砂
4. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 礫混じり細粒砂
5. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 細粒砂質シルト
6. 黒褐色 (10YR 2/2) 礫混じり中粒砂
7. 暗褐色 (10YR 3/3) 中粒砂質細粒砂〈炭化物・焼土含む〉
8. 黒色 (5Y 2/1) 細粒砂質極細粒砂〈レンガ・漆喰片少量含む〉
9. 灰黄褐色 (10YR 6/2) 細粒砂
〈径8～20cmの礫含む、漆喰片少量含む〉
10. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 礫混じり細粒砂質極細粒砂
11. オリーブ黒色 (5Y 2/2) 細礫混じり細粒砂
〈径2～4cm礫・漆喰・焼土少量含む〉
12. 下層：黒褐色 (2.5Y 2/2) 極細粒砂〈礫かなり含む〉
上層：オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 細粒砂～中粒砂
13. 黒褐色 (10YR 2/2) 礫混じり中粒砂質細粒砂
14. 黒褐色 (10YR 3/2) 細粒砂
〈径2～4cm礫少量含む。整地土、焼土含む〉
15. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混細粒砂〈焼土・炭化物少量含む〉
16. 黒褐色 (7.5YR 3/1) 細礫混細粒砂
〈焼土・炭少量含む。径4～8cmの礫少量含む〉
17. 暗赤褐色 (5YR 3/3) 極細粒砂～細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
18. にぶい黄褐色 (10YR 5/3) 粗シルト～極細粒砂【竈】
19. 褐灰色 (10YR 4/1) 細礫混細粒砂〈炭化物少量含む〉
20. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混細粒砂【町屋面】
21. 赤褐色 (5YR 4/5) 細粒砂〈焼土、瓦片多量含む〉
22. 赤褐色 (5YR 4/5) 中粒砂混じり細粒砂〈焼土・瓦片多量含む〉
23. 暗褐色 (10YR 3/3) 中粒砂混じり極細粒砂
〈径2～5cmの礫少量含む〉
24. 暗褐色 (10YR 3/3) 礫混じり砂質シルト
25. 黒褐色 (10YR 3/2) 礫混じり細粒砂
26. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 細粒砂質極細粒砂
27. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 極細粒砂質シルト〈礫・土器混じる〉
28. 暗褐色 (10YR 3/3) 礫混じり砂質シルト〈炭化物少量含む〉
29. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 礫混じり極細粒砂質シルト
〈焼土・炭化物含む〉
30. 暗褐色 (10YR 3/4) 礫混じり極細粒砂質シルト
〈焼土・炭化物含む〉
31. 褐灰色 (10YR 4/1) 細礫混細粒砂
〈焼土・炭少量含む。径2～6cmの礫少量含む〉
32. 暗褐色 (10YR 3/3) 礫混じり極細粒砂質シルト
〈焼土・炭化物含む〉
33. 黒褐色 (10YR 2/3) 礫混じり極細粒砂質シルト
34. 褐色 (7.5YR 4/6) 礫混じる中粒砂【焼土層】
35. 褐色 (7.5YR 4/3) 礫混じり極細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
36. 暗褐色 (10YR 3/3) 砂質シルト〈炭化物含む〉
37. 暗赤褐色 (5YR 3/3) 中～細粒砂〈焼土・径2～4cm礫少量含む〉
38. 暗赤褐色 (5YR 3/3) 中～細粒砂〈焼土・径2～4cm礫少量含む〉
39. 赤褐色 (5YR 4/6) 中粒砂質細粒砂〈焼土多量含む〉
40. オリーブ黒色 (5Y 2/2) 極細粒砂質細粒砂【整地層】
41. オリーブ黒色 (5Y 3/2) 細礫混じり細粒砂
42. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂〈炭化物少量含む〉
43. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 細粒砂質質極細粒砂
44. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 粗砂質極細粒砂〈瓦片含む〉
45. 暗褐色 (7.5Y 3/3) 礫混じり極細粒砂質シルト
〈焼土・炭化物・瓦片含む〉
46. 赤褐色 (5YR 4/6) 砂質シルト〈焼土・炭化物少量含む〉
47. 暗褐色 (7.5YR 3/3) 細粒砂質極細粒砂〈2～3cmの礫含む〉
48. 褐色 (10YR 4/6) 細礫【整地層】
49. 暗褐色 (10YR 3/3) 中粒砂質細粒砂〈炭化物含む〉
50. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 中粒砂質細粒砂
51. 黒褐色 (10YR 3/2) 礫混じり中粒砂極細粒砂
52. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 極細粒砂質シルト〈焼土・礫含む〉
53. 暗褐色 (10YR 3/4) 中粒砂質極細粒砂〈礫含む〉
54. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト質極細粒砂〈黄褐の礫含む〉
55. 黒色 (2.5YR 2/2) 細粒砂質極細粒砂〈焼土含む〉
56. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 礫混じり細粒砂質シルト
57. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) シルト質極細粒砂〈礫・瓦含む〉
58. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 礫混じり細粒砂質シルト
59. 暗褐色 (10YR 4/4) 細粒砂
60. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂質細粒砂
61. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂〈焼土多量含む〉
62. 暗褐色 (10YR 3/3) 礫混じり極細粒砂質シルト
〈炭化物・土器片含む〉
63. にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質極細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
64. オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 粗砂質極細粒砂
〈瓦片多量含む、炭化物含む〉
65. 暗褐色 (10YR 3/3) 中粒砂質細粒砂〈径2～4cmの礫少量含む〉
66. 黒褐色 (7.5YR 3/3) 細粒砂〈径2～4cmの礫・炭化物少量含む〉
67. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 細粒砂質中粒砂
〈径2～8cmの礫含む、炭化物含む〉
68. オリーブ黒色 (5Y 3/1) 細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
69. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫細粒砂
〈径2～4cm礫含む。径6～12cm礫多量含む。瓦片少量含む〉
70. 赤褐色 (2.5YR 4/6) 細礫混じり粗砂～中粒砂〈焼土・炭化物含む〉
71. 赤褐色 (5YR 4/6) 中粒砂質細粒砂
〈焼土多量含む、径2～4cm礫・炭少量含む〉
72. 暗褐色 (10YR 3/4) 極細粒砂質細粒砂
〈径2～4cmの礫少量含む、焼土・炭化物含む〉
73. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 礫混じり極細粒砂
〈焼土層、下層に炭化物堆積〉
74. 暗褐色 (7.5YR 3/3) 中粒砂〈焼土多量含む〉
75. 暗褐色 (10YR 3/2) 細粒砂〈炭化物多量含む〉
76. 褐色 (7.5YR 4/4) 細礫混じり細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
77. にぶい褐色 (7.5YR 5/3) 中粒砂〈炭化物含む〉
78. 灰褐色 (7.5YR 4/2) シルト質極細粒砂〈灰層とシルト層の互層〉
79. 黒褐色 (10YR 3/2) 細粒砂〈細礫多量含む〉
80. 黒褐色 (10YR 3/2) 粗砂質細粒砂〈中礫含む〉
81. 褐色 (10YR 4/6) 細粒砂〈細礫多量含む〉
82. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/5) 細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
83. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 中粒砂質極細粒砂〈径2～8cmの礫含む〉
84. 暗褐色 (10YR 3/2) シルト
〈径6～15cmの礫少量含む、瓦多量含む〉
85. 褐色 (10YR 4/4) 礫混じり細粒砂
〈上層に焼土多量含む、下層に細礫少量含む〉
86. 暗褐色 (7.5YR 3/3) 中粒砂〈炭化物少量含む〉
87. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細粒砂質礫層〈細粒砂主体〉【整地層】
88. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 礫質細粒砂
89. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細粒砂〈細礫多量含む〉【整地層】
90. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂質極細粒砂〈細礫、炭化物少量含む〉
91. 黄褐色 (10YR 5/6) 細礫混じりシルト〈焼土少量含む〉
92. にぶい黄褐色 (10YR 5/4) シルト質極細粒砂
93. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粗砂
94. 褐色 (10YR 4/4) 極粗砂
95. にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 細粒砂〈礫多量含む〉
96. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂【整地層】
97. 暗褐色 (10YR 3/4) 細粒砂〈炭化物多量含む〉
98. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト質極細粒砂
99. にぶい黄褐色 (10YR4/5) 中粒砂〈径2～4cmの礫少量含む〉
100. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂〈径1～2cmの礫・炭化物少量含む〉
101. 黒褐色 (2.5Y3/1) 中粒砂質細粒砂
〈径2～6cmの礫少量含む、炭化物・焼土少量含む〉
102. 黄灰色 (2.5Y 4/3) 細粒砂〈径1～2cmの礫・炭・土器少量含む〉
103. 黒褐色 (10YR 3/2) 中粒砂～細粒砂
〈径2～6cmの礫・炭化物少量含む〉
104. 褐灰色 (10YR 4/1) 細礫混細粒砂〈径2～8cmの礫・炭含む〉
105. 暗灰黄色 (2.5Y 4/1) 細礫混細粒砂〈径2～3cm礫少量含む〉
106. 褐色 (7.5YR 4/3) 細粒砂質中粒砂〈径2～4cmの礫少量含む〉
107. 暗褐色 (10YR 3/4) 細粒砂
108. 暗褐色 (7.5YR 3/4) シルト質細粒砂〈細礫含む〉
109. 暗褐色 (10YR 3/4) 細粒砂〈径2～6cmの礫少量含む〉
110. 暗褐色 (10YR 3/2) 極細粒砂〈細礫含む〉
111. 暗褐色 (10YR 3/3) 礫混じりシルト質細粒砂
〈炭化物、大礫多量含む〉
112. 褐色 (10YR 4/4) 細礫混じり細粒砂〈細礫から中礫含む〉

2・3区東壁断面図土色

113. にぶい黄褐色 (10YR 4/2) 礫混じり細粒砂
 〈下層に大礫多量含む〉
114. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 極細粒砂
115. 褐色 (7.5YR 4/4) シルト質極細粒砂
116. 褐色 (7.5YR 4/3) 細礫混じりシルト質極細粒砂
117. 黒褐色 (10YR 3/2) 細粒砂
118. 褐色 (7.5YR 4/3) 細粒砂 〈炭化物多量含む〉
119. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じり細粒砂
120. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり細粒砂 〈炭化物多量含む〉
121. 黒褐色 (10YR 3/2) 細粒砂 〈細礫含む〉
122. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂
123. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト質礫層 〈10～15cmの礫層〉
124. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) シルト質細粒砂 〈細礫含む〉
125. 黒褐色 (10YR 3/2) 細粒砂
126. 黒褐色 (10YR 3/2) 極細粒砂
127. 黒褐色 (10YR 3/2) 極細粒砂
128. 暗褐色 (10YR 3/4) シルト混じる細粒砂 〈炭化物含む〉
129. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細粒砂
130. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂 〈炭化物・焼土含む〉
131. 褐色 (10YR 4/4) 細粒砂
132. にぶい黄褐色 (10YR 5/3) 粗砂
133. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混じり細粒砂 〈炭化物含む〉
134. 暗褐色 (10YR 3/4) シルト質細粒砂 〈細礫含む〉
135. 褐色 (10YR 4/6) シルト質細粒砂 【**整地層**】
136. 暗褐色 (10YR 3/4) 細礫混じり極細粒砂 〈炭化物多量含む〉
137. にぶい黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり細粒砂 〈細礫含む〉
138. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 極細粒砂 〈炭化物少量含む〉
139. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂
140. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混じり細粒砂
141. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 粗砂質中粒砂 〈径1～2cmの礫含む〉
142. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 中粒砂 〈径1～2cmの礫少量含む〉
143. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細～中粒砂 〈径2～4cm礫・炭含む〉
144. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混細粒砂 〈焼土炭少量含む〉
145. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 粗砂質中粒砂 〈径2～8cmの礫含む〉
146. 黒褐色 (2.5Y 3/1) 細礫混細粒砂
 〈径2～4cmの礫・炭・土器少量含む〉
147. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 中～細粒砂 〈径4～8cm礫・炭含む〉
148. 褐灰色 (10YR 4/1) 中～細粒砂
 〈径1～2cmの礫・炭・土器少量含む〉
149. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混細粒砂
 〈径2～8cmの礫・炭化物含む〉
150. 黒褐色 (10YR 2/2) 細粒砂
 〈径1～3cmの礫、径6～12cmの礫含む〉
151. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 細礫混細粒砂 〈径2～6cm礫含む〉
152. 黄灰色 (2.5Y 4/1) 細粒砂 〈径8～12cmの礫含む〉
153. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 中粒砂質細粒砂
 〈径1～2cmの礫少量含む〉
154. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 細礫混細粒砂
 〈径6～8cm礫含む。焼土少量含む〉
155. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 細粒砂
 〈径4～6cm礫・土器片・炭化物少量含む〉
156. 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) 細礫混細粒砂
 〈径8～20cmの礫含む。炭少量含む〉
157. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混細～中粒砂 〈炭少量含む〉
158. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細粒砂
 〈径3～4cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
159. 褐灰色 (10YR 4/1) 細粒砂 〈径1～2cm礫・炭化物含む〉
160. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混細粒砂 〈炭化物・土器片含む〉
161. 暗褐色 (2.5Y 3/1) 細礫混細粒砂 〈径2～4cm礫含む〉
162. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂
 〈径2～4cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
163. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂
 〈径2～4cmの礫少量含む、土器片・炭化物少量含む〉
164. 暗褐色 (10YR 3/4) 細粒砂 〈炭化物含む〉
165. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混じり細粒砂
166. 黒褐色 (10YR 3/2) シルト質極細粒砂 〈炭化物多量含む〉
167. 褐色 (10YR 4/4) 細粒砂質中粒砂
168. 暗褐色 (10YR 3/4) シルト混じる細粒砂
169. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂 〈細礫多量含む〉
170. 黒褐色 (10YR 3/2) 中礫混じり細粒砂
171. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト質細粒砂 〈細礫含む〉
172. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 極細粒砂
173. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 極細粒砂質細粒砂
 〈細礫～大礫多量含む、土器片少量含む〉
174. 黒褐色 (10YR 3/2) 極細粒砂質細粒砂 〈細礫含む〉
175. 暗褐色 (10YR 3/3) 中礫混じり極細粒砂質シルト
 〈細礫多量含む、土器片少量含む〉
176. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト質細粒砂 〈黄褐色 (10YR 7/2) のシルト塊を少量含む、細礫～中礫含む〉
177. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 礫混じり中粒砂質細粒砂
178. 黒色 (5Y 2/1) 中粒砂質極細粒砂 〈炭化物少量含む〉
179. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 粗砂質極細粒砂
 〈径3～15cmの礫含む〉
180. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細粒砂
 〈径2～4cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
181. 暗オリーブ (2.5Y 3/3) 細粒砂
 〈径2～4cmの礫少量含む、径8～12cmの礫多量含む〉
182. 暗褐色 (10YR 3/4) 細礫混じりシルト質極細粒砂
 〈細礫含む〉
183. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト質細粒砂 〈炭化物少量含む〉
184. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 細粒砂
 〈径2～4cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
185. オリーブ黒色 (5Y 2/2) 中～細粒砂
 〈径2～4cm礫・径6～12cm礫含む〉
186. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混細粒砂
 〈径2～6cm礫多量に含む〉
187. オリーブ黒色 (5Y 3/2) 中粒砂～粗砂
 〈径2～8cm礫多量に含む〉
188. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 中粒砂 〈径4～8cm礫含む〉
189. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 中～細粒砂
 〈径2～4cm礫・炭化物・土器片少量含む〉
190. オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 細～極細粒砂
 〈径1～2cm礫少量含む〉
191. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細礫混細粒砂
 〈炭化物・土器片少量含む〉
192. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 細礫混細粒砂 〈土器少量含む〉
193. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混細粒砂
 〈径1～4cm礫・土器・炭少量含む〉
194. 灰色 (5Y 4/1) シルト～極細粒砂 〈炭・土器少量含む〉
195. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂
 〈径1～2cmの礫・炭・土器少量含む。〉
196. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細粒砂 〈径1～5cmの礫少量含む〉
197. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じりシルト質細粒砂
198. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) シルト質細粒砂
199. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂 〈細礫含む〉
200. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂 〈細礫含む〉
201. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト質細粒砂 〈中礫含む〉
202. 暗褐色 (10YR 3/3) 粗粒砂 〈炭化物多量含む〉
203. 黒褐色 (10YR 2/2) 細粒砂 〈細礫、炭化物含む〉
204. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂 〈炭化物少量含む〉
205. 暗褐色 (10YR 3/4) 細粒砂
206. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト質細粒砂
207. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混じり極細粒砂 〈炭化物含む〉
208. 褐色 (10YR 4/6) シルト質中粒砂
209. 黒褐色 (10YR 3/4) シルト質極細粒砂 〈瓦多量含む〉
210. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂 〈細礫多量含む〉
211. 黒褐色 (10YR 3/2) シルト質細粒砂 〈細～中礫含む〉
212. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂 〈細礫含む〉
213. にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 中粒砂 【**整地層**】
214. 褐色 (10YR 4/4) 細粒砂
215. 淡黄色 (2.5Y 8/4) 礫混じり中粒砂質シルト 【**整地層**】
216. 黄色 (2.5Y 8/6) シルト質粗砂
 〈細礫～中礫多量含む〉 【**整地層**】
217. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂 〈細礫含む〉 【**整地層**】
218. 暗褐色 (7.5YR 2/3) 細礫混じり細粒砂



第5図 1・3区西壁断面図

1・3区西壁断面図土色

1. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 粗砂混じり中粒砂 (レンガ、径10cm程度の礫、土器片含む)
2. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂 (細礫、焼土、炭化物少量含む)
3. 褐灰色 (7.5YR4/1) 細粒砂質極細粒砂
4. 褐灰色 (10YR4/1) 細礫混じり細粒砂 (中粒砂、焼土、炭化物少量含む)
5. オリーブ黒色 (5Y3/1) 粗砂
6. 黒色 (2.5Y2/1) 細粒砂 (径1~2cmの礫少量含む)
7. 灰褐色 (5YR4/2) 細粒砂質中粒砂 (細礫~大礫多量含む)
8. 黒褐色 (10YR3/2) 細礫混じり細粒砂質極細粒砂 (焼土、炭化物含む)
9. 黒褐色 (10YR3/1) 細礫混じり細粒砂 (焼土、炭化物少量含む)
10. にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂
11. 黒褐色 (7.5YR3/1) 細粒砂 (炭化物少量含む)
12. 赤灰色 (2.5Y4/1) 粗砂 (焼土・炭化物多量含む)
13. 黒褐色 (7.5YR3/1) 細粒砂 (炭化物少量含む)
14. 赤灰色 (2.5Y4/1) 粗砂 (焼土・炭化物多量含む)
15. 灰褐色 (7.5YR4/2) 細粒砂 (径2~4cmの礫少量含む、焼土・炭化物少量含む)
16. 黒褐色 (7.5YR3/2) 礫混じり中粒砂質細粒砂 (炭化物少量含む)
17. 褐灰色 (10YR4/1) 砂質極細粒砂 (甕埋設)
18. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト質細粒砂 (細礫~大礫含む)
19. にぶい褐色 (7.5YR5/3) 礫混じり細粒砂
20. 灰褐色 (7.5YR4/2) 細礫混じり細粒砂 (炭化物少量含む)
21. 暗褐色 (10YR3/3) 細礫混じり細粒砂
22. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 粗砂混じり中粒砂 (焼土少量含む)
23. 暗褐色 (10YR 3/3) 粗砂混じり中粒砂 (焼土大量に含む径2~3cmの礫・炭化物含む)
24. 黒褐色 (10YR 3/2) 中粒砂混じり粗砂 (焼土・径1cm前後の礫・炭化物含む、浅黄色 (5Y 7/4) ブロック状に混じる)
25. 黒褐色 (10YR 3/2) 粗砂混じり中粒砂 (径5~10cmの礫少量含む、焼土・炭化物・浅黄色 (5Y 7/4) ブロック状に混じる)
26. 黒褐色 (10YR 3/2) 中粒砂混じり粗砂 (径3~5cmの礫・焼土・炭化物含む)
27. 黒褐色 (10YR 3/2) 粗砂混じり中粒砂 (径5~10cmの礫含む、炭化物・焼土・褐色 (10YR 4/6) ブロック状に混じる)
28. 暗褐色 (10YR 3/3) 粗砂混じり細粒砂 (径5cm前後の礫含む、焼土・炭化物含む)
29. にぶい赤褐色 (5YR4/4) 細礫混じり細粒砂質中粒砂 (焼土多量含む、炭化物少量含む)
30. 赤灰色 (2.5YR 4/1) 粗砂 (焼土、炭多く含む)
31. 黒色 (10YR2/1) 極細粒砂質細粒砂【炭化物層】
32. 褐灰色 (5YR 4/1) 粗砂
33. 黒褐色 (7.5YR3/1) 細粒砂 (炭化物少量含む)
34. 黒褐色 (10YR3/1) 細礫混じり細粒砂 (中礫含む、焼土、炭化物少量含む)
35. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 粗砂 (3~18cm大の石・瓦多量に含む)
36. 灰黄褐色 (10YR5/2) 細粒砂 (焼土少量含む)
37. 灰色 (5Y5/1) 細粒砂
38. 浅黄色 (2.5Y7/4) 中粒砂質細粒砂 (径1~2cmの礫少量含む)
39. 灰黄褐色 (10YR4/2) 礫層 (細礫~大礫多量含む)
40. 黒褐色 (7.5YR3/1) 礫混じり中粒砂質細粒砂 (炭化物少量含む)
41. 灰褐色 (7.5YR4/2) 細礫混じり細粒砂 (大礫少量含む)
42. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗砂 (細礫~大礫多量含む)
43. 黒褐色 (2.5Y3/2) 粗砂質中粒砂 (細礫~中礫含む、炭化物少量含む)
44. 暗褐色 (10YR 3/3) 粗砂混じり中粒砂 (焼土大量に含む、漆喰・径3~5cmの礫・炭化物含む)
45. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 粗砂混じり中粒砂 (瓦片多量に含む、径5cm前後の礫含む、焼土・炭化物混じる)
46. 黒褐色 (2.5Y 3/1) 中粒砂混じり細粒砂 (径10~15cm 礫含む、焼土・炭化物・漆喰含む)
47. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 粗砂混じり中粒砂 (径5cm前後の礫・炭化物・焼土・土器片含む)
48. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 粗砂混じり中粒砂 (径5~10cmの礫・焼土・炭化物・暗褐色 (10YR 3/4) ブロック状に含む)
49. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 粗砂混じり中粒砂 (炭化物・漆喰・多量に含む、径1~3cmの礫少量含む)
50. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 中粒砂混じり細粒砂 (炭化物・土器片・焼土・径2cm前後の礫含む)
51. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 粗砂混じり中粒砂 (径1~3cmの礫・土器片・漆喰・炭化物・木片含む)
52. 黄褐色 (2.5Y 5/3) 中粒砂混じり粗砂 (径5~10cmの礫・漆喰・炭化物・焼土含む)
53. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 粗砂混じり細粒砂 (漆喰・土器片含む)
54. 暗褐色 (10YR3/3) 礫混じり中粒砂質細粒砂 (炭化物少量含む)
55. 灰黄褐色 (10YR4/2) 細礫混じり細粒砂 (大礫少量含む)
56. 褐灰色 (7.5YR) 極細粒砂質細粒砂 (細礫~中礫含む、炭化物含む)
57. 黒褐色 (10YR3/1) 細礫混じり細粒砂
58. 黒褐色 (10YR3/2) 礫混じり粗砂質細粒砂
59. 黒色 (10YR1.7/1) 炭化物堆積層
60. 褐灰色 (7.5YR4/1) 細礫混じり細粒砂
61. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細礫混じり極細粒砂質細粒砂
62. 黒褐色 (10YR3/2) 細礫混じり細粒砂
63. 褐灰色 (10YR4/1) 細礫混じり細粒砂 (焼土、炭化物少量含む)
64. 橙色 (7.5YR6/6) 極粗砂質粗砂 (細礫~中礫多量含む)
65. 黒褐色 (10YR4/1) 粗砂質細粒砂 (炭化物少量含む)
66. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂 (径2~4cmの礫少量含む、炭化物少量含む)
67. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細粒砂 (径2~4cmの礫少量含む)
68. 黒色 (10YR2/1) 極細粒砂質細粒砂 (径2~6cmの礫少量含む、瓦含む)【SE3198】
69. 黒褐色 (7.5YR3/1) 極細粒砂
70. にぶい赤褐色 (5YR4/4) 粗砂 (径3~7cmの礫含む)
71. 暗灰褐色 (5YR3/3) 極粗砂質粗砂
72. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 極粗砂混じり粗砂 (径~2cmの礫含む)
73. 灰赤色 (2.5YR 4/2) 極細砂 (焼土、炭多く含む)
74. 灰褐色 (5YR4/2) 粗砂 (焼土・炭化物少量含む)
75. 褐灰色 (10YR4/1) 細礫混じり中粒砂質細粒砂 (焼土少量含む)
76. 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質細粒砂 (焼土、炭化物少量含む)
77. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂 (瓦多量含む、細礫少量含む)
78. 黒褐色 (10YR3/2) 粗砂 (炭化物少量含む)
79. 黒褐色 (5YR 3/1) 粗砂 (焼土片・炭片含む)
80. 灰褐色 (7.5YR 4/2) 粗砂 (炭片・焼土片少量含む)
81. 褐灰色 (7.5YR 4/3) 粗砂 (焼土片・瓦片含む)
82. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粗砂 (焼土片・炭片少量含む)
83. 褐灰色 (7.5YR 4/1) 粗砂 (2~5cm大の石含む、漆喰片含む)
84. 黒褐色 (2.5Y3/2) 細礫混じり細粒砂 (焼土、炭化物少量含む)
85. 灰褐色 (5YR 4/2) 粗砂
86. 褐灰色 (10YR 4/1) 粗砂 (炭含む)
87. 褐色 (7.5YR 4/3) 粗砂 (層の上位にすくい片堆積・炭片含む)
88. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 粗砂 (3~20cm大の石・瓦片・陶器片含む)
89. 褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂質中粒砂 (径~2cmの礫少量含む、炭化物少量含む)
90. 黒褐色 (10YR3/1) 極細粒砂質細粒砂 (径2~6cmの礫少量含む、焼土・炭化物少量含む)
91. 明黄褐色 (2.5Y7/4) シルト質極細粒砂
92. 黄灰色 (2.5Y4/1) 中粒砂質細粒砂 (中礫含む、焼土、炭化物少量含む)
93. 明灰黄色 (2.5Y4/2) 極細粒砂質細粒砂 (細礫、焼土、炭化物少量含む)
94. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂 (径2~4cmの礫含む)
95. 黒褐色 (2.5Y3/1) 極細粒砂質細粒砂 (径2~6cmの礫少量含む)
96. 褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂質中粒砂 (径2~4cmの礫少量含む、焼土少量含む)
97. 黒色 (7.5YR2/1) 細粒砂質中粒砂 (炭化物含む)
98. 黒褐色 (10YR3/1) 中粒砂質細粒砂
99. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 粗砂 (炭少量含む)
100. 褐灰色 (10YR 4/1) 粗砂 (土器片・炭片含む)
101. にぶい褐色 (7.5YR 5/4) 粗砂 (3~10cm大の石・瓦片多量・陶器片少量含む)
102. 明赤褐色 (2.5YR 5/6) 粗砂【焼土層】

1・3区西壁断面図土色

103. 褐灰色 (7.5YR 5/1) 粗砂 (3～6cm 大の石含む)
 104. 黒褐色 (5YR 3/1) 粗砂 (瓦片含む)
 105. 褐色 (7.5YR 4/3) 粗砂
 106. 灰白色 (5Y 8/1) 粗砂と褐灰色 (7.5YR 5/1) の瓦層
 107. 灰褐色 (7.5YR 5/2) 粗砂 (小石混じる)
 108. にぶい赤褐色 (5YR 4/3) 粗砂
 109. 褐灰色 (5YR4/1) 極粗砂混じり粗砂
 110. 灰褐色 (5YR 4/2) 粗砂 (土器片含)
 111. 黒褐色 (7.5YR 3/2) 粗砂
 112. 黒褐色 (7.5YR3/2) 細礫混じり中粒砂質細粒砂 (炭化物少量含む)
 113. 黒褐色 (7.5YR3/2) 細礫混じり細粒砂 (炭化物、焼土少量含む)
 114. 黒褐色 (10YR3/2) 細礫混じり細粒砂 (炭化物少量含む)
 115. 暗褐色 (10YR3/3) 細礫混じり細粒砂質中粒砂 (中礫、焼土、炭化物少量含む)
 116. 褐灰色 (10YR3/1) 極細粒砂質細粒砂 (径～6cm の礫少量含む、炭化物含む)
 117. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細礫混じり中粒砂質細粒砂 (中礫、炭化物少量含む)
 118. 黒褐色 (7.5Y3/1) 細礫混じり細粒砂 (炭化物少量含む)
 119. 黒褐色 (2.5Y3/1) 中粒砂質細粒砂 (中礫、焼土、炭化物少量含む)
 120. 黒色 (10YR2/1) 細礫混じり細粒砂 (中礫含む、炭化物少量含む)
 121. 黒色 (7.5YR2/1) 細礫混じり細粒砂質中粒砂 (焼土、炭化物少量含む)
 122. 黒色 (7.5YR2/1) 細礫混じり細粒砂質中粒砂 (焼土、炭化物少量含む)
 123. 黒褐色 (2.5Y 3/1) 極粗砂 (炭化物・土器片含む、径2～10cm の礫多量に含む)
 124. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 細粒砂 (径1～3cm の石含む)
 125. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細粒 (炭化物・径1～5cm の石含む)
 126. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 粗砂混じり中粒砂 (径2～3cm の礫多量に含む、炭化物・酸化鉄少量混じる)
 127. 柱痕：黄褐色 (2.5Y 5/3) 粗砂混じり中粒砂 (径2～10cm 礫多量に含む、酸化鉄・炭化物・漆喰・焼土含む) 掘形埋土：オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 細粒砂混じり粗砂 (径1～5cm の礫含む、酸化鉄・炭化物少量含む)
 128. 黄灰色 (2.5Y 4/1) 粗砂混じり中粒砂 (径1～5cm の礫・炭化物・土器片含む)
 129. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 粗砂混じり中粒砂 (炭化物多量に含む、径2～4cm の礫・焼土・土器片少量含む)
 130. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 粗砂混じり中粒砂 (2～15cm の礫・炭化物・黄褐色 (2.5Y 5/4) ブロック状に含む)
 131. 褐灰色 (10YR4/1) 細礫混じり細粒砂
 132. 黄灰色 (2.5Y4/1) 極細粒砂質細粒砂 (細礫～中礫含む、炭化物少量含む)
 133. 灰褐色 (7.5YR5/2) シルト質細粒砂 (炭化物少量含む)
 134. にぶい褐色 (7.5YR5/3) 粗砂 (細礫～大礫多量含む)
 135. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細粒砂質中粒砂 (細礫少量含む)
 136. 暗褐色 (10YR3/3) 礫混じり細粒砂 (炭化物少量含む)
 137. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂 (細礫～中礫含む)
 138. 灰黄褐色 (10YR4/2) 礫混じり極細粒砂質細粒砂 (炭化物少量含む)
 139. 黒褐色 (10YR3/2) 礫混じり粗砂質細粒砂
 140. 褐灰触 (10YR4/1) 細礫混じり細粒砂
 141. 褐灰色 (10YR4/1) 中粒砂質細粒砂
 142. 黒褐色 (10YR3/1) 細礫混じり細粒砂 (細礫少量含む)
 143. 灰褐色 (7.5YR4/2) 極細粒砂質細粒砂
 144. 褐灰色 (10YR4/1) 細礫混じり細粒砂 (炭化物少量含む)
 145. 灰色 (5Y4/1) 粗砂質細粒砂 (細礫～大礫含む)
 146. 灰色 (N5/) 礫混じりシルト
 147. 黒褐色 (7.5YR3/2) 細礫混じり細粒砂
 148. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂 ((細礫～中礫多量含む)
 149. 灰褐色 (7.5YR4/2) 細粒砂 (炭化物少量含む)
 150. 灰褐色 (7.5YR4/2) 礫混じり細粒砂
 151. 柱痕：暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 粗砂混じり中粒砂 (径2～20cm の礫含む、炭化物・土器片含む) 掘形埋土：暗灰黄色 (5Y 4/2) 中粒砂混じり細粒砂 (酸化鉄・炭化物・径1～3cm の礫少量混じる)
 152. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 粗砂混じり細粒砂 (土器片・炭化物・酸化鉄少量含む、黄褐色 (2.5Y 5/4)・オリーブ色 (5Y 5/4) ブロック状に混じる)
 153. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粗砂混じり中粒砂 (炭化物・土器片・酸化鉄・径1～3cm の礫含む)
 154. 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) 細粒砂混じり中粒砂 (炭化物・酸化鉄・土器片少量含む、褐色 (10YR 4/4)・オリーブ色 (5Y 5/4) ブロック状に混じる)
 155. 黄灰色 (2.5Y 4/1) 粗砂混じり中粒砂 (炭化物・土器片少量混じる、径1～10cm の礫含む)
 156. 黄灰色 (2.5Y 6/1) 極細粒砂
 157. 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) 細粒砂
 158. 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) 径0.5～3.0cm の礫層 (0.5～3cm の礫層)
 159. 灰黄褐色 (10YR 5/2) 径0.5～5.0cm の礫層 (0.5～5cm の礫層、炭化物含む) 51. 黒褐色 (2.5Y 3/1) 細粒砂混じり中粒砂 (径1～5cm の礫・酸化鉄含む、黄褐色 (2.5Y 5/4) ブロック状に混じる)
 160. 黒褐色 (2.5Y3/1) 細粒砂質中粒砂 (径1～5cm の礫少量含む)
 161. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 粗砂混じり中粒砂 (径3～5cm の礫含む)
 162. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 細粒砂 (径0.5～1cm の石多く含む・整地層)
 163. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 径1～10cm の礫層 (1～10cm の礫層)
 164. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 極粗粒砂 (径1～3cm の礫含む)
 165. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 極細粒砂
 166. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 極細粒砂
 167. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 極細粒砂
 168. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂 (炭化物含む)
 169. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂 (径2～10cm の礫含む、径1～5cm の粘土含む)
 170. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 粗砂混じり細粒砂 (径2～10cm の石含む、明黄褐色 (10YR 6/6) 土混じる)
 171. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 極粗砂 (細礫多量含む)
 172. オリーブ黒色 (5Y3/1) 細礫混じり中粒砂質細粒砂 (明黄褐色 (10YR7/6) シルト塊含む)
 173. 灰黄褐色 (10YR4/2) 細粒砂 (細礫少量含む)
 174. オリーブ黒 (5Y3/1) 細粒砂質極細粒砂 (炭化物少量含む)
 175. 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粗砂質極粗砂
 176. オリーブ黒 (5Y3/1) 細礫混じり細粒砂質極細粒砂 (炭化物少量含む)
 177. 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粗砂質極粗砂 (中礫少量含む)
 178. オリーブ黒色 (5Y3/1) 細礫混じり細粒砂質極細粒砂 (炭化物少量含む)
 179. 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粗砂質極粗砂 (中礫～大礫少量含む)
 180. オリーブ黒色 (5Y3/1) 細礫混じり細粒砂質極細粒砂 (炭化物少量含む)
 181. 褐灰色 (10YR5/1) 粗砂質細粒砂 (細礫少量含む)
 182. 褐灰色 (10YR4/1) 細礫混じり中粒砂質細粒砂
 183. 褐灰色 (7.5YR4/1) 細粒砂質中粒砂 (細礫、焼土、炭化物少量含む)
 184. 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質細粒砂 (中礫含む、炭化物、焼土少量含む)
 185. 灰黄褐色 (10YR4/2) 細礫混じり細粒砂 (焼土、炭化物少量含む)
 186. 褐灰色 (10YR4/1) 細礫混じり中粒砂質細粒砂
 187. 黒褐色 (7.5YR3/2) 細礫混じり細粒砂
 188. 灰黄褐色 (10YR4/2) 中粒砂質細粒砂 (中礫少量含む)
 189. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細礫混じり細粒砂 (炭化物少量含む)
 190. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 細礫混じり細粒砂 (中礫、炭化物、土器片少量含む)
 191. 黒褐色 (7.5YR 3/1) 粗砂 (3～5cm 大の石含む・炭片少量含む)
 192. にぶい黄褐色 (10YR 7/4) 粗砂 (炭片・土器片含、5～10cm 大の石含む)
 193. 褐灰色 (7.5YR 4/1) 粗砂 (炭多量に含む)
 194. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質極細粒砂 (細礫、炭化物少量含む)
 195. 灰褐色 (7.5YR 4/2) 粗砂 (炭多く含む)

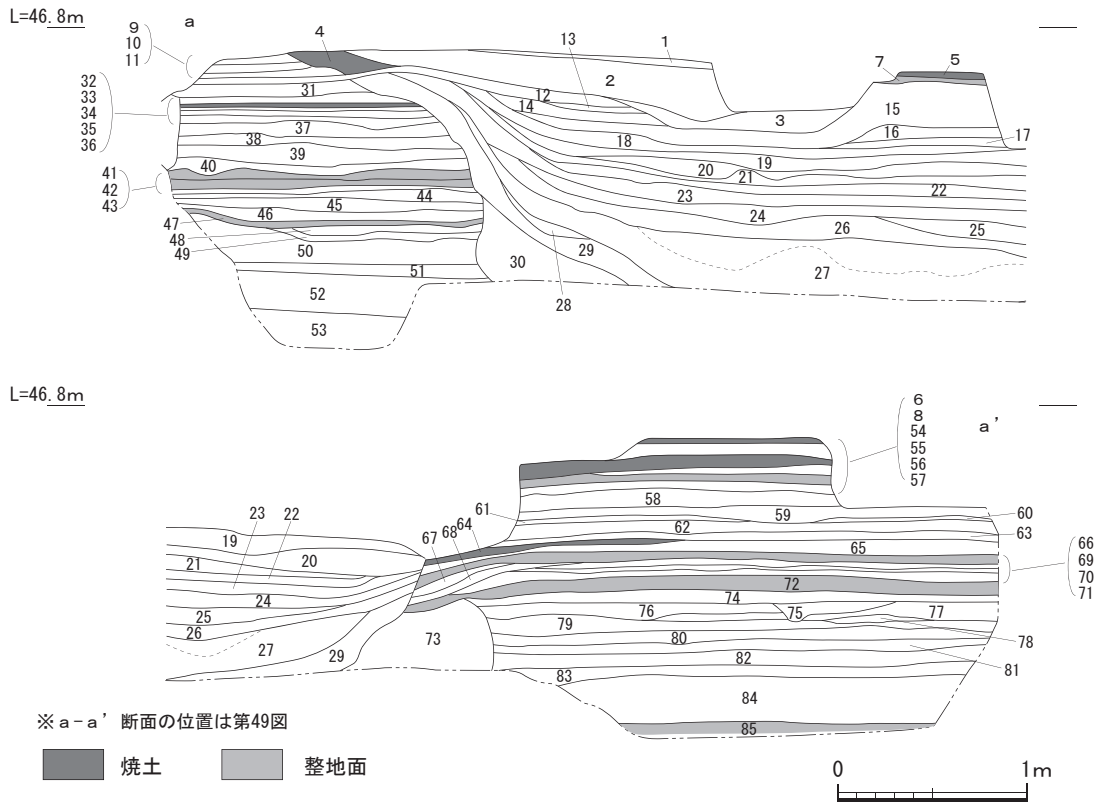
1・3区西壁断面図土色

- | | |
|---|--|
| 196. 褐灰色 (7.5YR 5/1) 粗砂 (炭含む・2～5 cm 大の石含む) | 227. 灰黄褐色 (10YR4/2) 細粒砂質極細粒砂 (細礫、炭化物少量含む) |
| 197. 黒色 (7.5YR 2/1) 細砂とにぶい橙色 (7.5YR 7/1) 粗砂の瓦層 | 228. 褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂質極細粒砂 (細礫、大礫、土器片、炭化物少量含む) |
| 198. 暗灰色 (N 3/0) 細砂 (炭層) | 229. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗砂質中粒砂 (細礫～中礫多量含む) |
| 199. にぶい赤褐色 (5YR 5/4) 粗砂 (焼土若干含) | 230. 褐灰色 (7.5YR4/1) 細礫混じり極細粒砂質細粒砂 (土器片、炭化物少量含む) |
| 200. 灰褐色 (7.5YR 5/2) 粗砂 (3～5 cm 大の石含む) | 231. 褐灰色 (10YR4/1) 極粗砂質粗砂 (細礫少量含む) |
| 201. 灰黄褐色 (10YR3/2) 中粒砂質細粒砂 (径1～6 cm の礫少量含む) | 232-1. 褐灰色 (10YR4/1) 細礫混じりシルト質中粒砂 (土器片、炭化物少量含む) |
| 202. 黄灰色 (2.5Y4/1) 細粒砂質中粒砂 (径6～8 cm の礫少量含む、炭化物少量含む) | 232-2. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 中粒砂 (下層に褐灰色 (10YR5/1) シルト堆積) |
| 203. 黄灰色 (2.5Y4/1) 中粒砂質細粒砂 (径2～6 cm の礫少量含む、炭化物含む) | 233-1. 褐灰色 (7.5YR4/1) 粗砂質シルト (土器片、炭化物少量含む) |
| 204. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂 (径2～4 cm の礫少量含む) | 233-2. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト質中粒砂 (中礫、炭化物少量含む) |
| 205. 灰黄褐色 (10YR4/2) 中粒砂質細粒砂 (径6～12 cm の礫含む) | 234. 褐灰色 (7.5Y4/2) 極細粒砂混じりシルト質中粒砂 (中礫少量含む、鉄分沈着) |
| 206. 黒褐色 (2.5Y3/1) 細粒砂 (径6～8 cm の礫多量含む) | 235. 黒褐色 (10YR 3/1) 粗砂 (炭少量含) |
| 207. 褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂 (径2～4 cm の礫少量含む) | 236. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細粒砂 (径2～6 cm の礫少量含む、炭化物含む) |
| 208. 黄灰色 (2.5Y4/1) 細粒砂 (径1～2 cm の礫少量含む、炭化物少量含む) | 237. 褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂 (細礫～中礫含む) |
| 209. 黒褐色 (2.5Y3/1) 極細粒砂質細粒砂 (径1～3 cm の礫少量含む) | 238. 灰黄褐色 (10YR5/2) 中粒砂 |
| 210. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細粒砂 (径3～6 cm の礫少量含む) | 239. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細粒砂 (径1～2 cm の石・土器片含む) |
| 211. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細粒砂 (径2～3 cm の礫少量含む) | 240. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 極細粒砂 (明黄褐色 (10Y 6/6) 土混じる、土器片含む) |
| 212. 褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂 (径2～6 cm の礫少量含む) | 241. 黒褐色 (10YR 3/2) 細粒砂 |
| 213. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂 (炭化物少量含む) | 242. 暗褐色 (10YR 3/3) 中粒砂混じり細粒砂 (径1～5 cm の石含む、炭化物・土器片含む) |
| 214. 褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂 (径2～4 cm の礫少量含む、炭化物少量含む) | 243. 灰黄褐色 (10YR 4/2) シルト混じる極細粒砂 (炭化物多く含む) |
| 215. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質中粒砂 (径2～4 cm の礫少量含む、炭化物少量含む) | 244. 暗褐色 (10YR 3/3) 粗砂混じり極細粒砂 (径0.5～4 cm の石・土器片含む、明黄褐色 (10YR 6/6) 土混じる) |
| 216. 黒褐色 (2.5Y3/1) 細粒砂 (径2～4 cm の礫少量含む) | 245. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 粗砂混じり極細粒砂 (径3～15 cm の石・炭化物含む、明黄褐色 (10YR 7/6) 土混じる) |
| 217. 黒褐色 (2.5Y3/1) 中粒砂質細粒砂 | 246. 黒褐色 (2.5Y 3/2) シルト混じり極細粒砂 (径1～5 cm の石・炭化物含む、明黄褐色 (10YR 6/6) 土混じる) |
| 218. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細粒砂 (径2～4 cm の礫少量含む、炭化物含む) | 247. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 粗砂混じり極細粒砂 (径1～2 cm の石・炭化物含む、明黄褐色 (10YR 7/6) ブロック状に含む) |
| 219. 黒褐色 (10YR3/2) 細礫混じり細粒砂 (中礫少量含む) | 248. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細粒砂 (径0.5～3 cm の石含む) |
| 220. 灰黄褐色 (10YR4/2) 細粒砂 (中礫～大礫多量含む) | 249. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 中粒砂 |
| 221. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂 (細礫～中礫含む) | 250. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 粗砂混じり細粒砂 (径1～3 cm の石・炭化物含む) |
| 222. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 中粒砂質細粒砂 (中礫～大礫少量含む) | |
| 223. 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂 (中礫～大礫多量含む) | |
| 224. 黒褐色 (10YR2/3) 粗砂 (細礫～中礫多量含む) | |
| 225. 灰黄褐色 (7.5YR4/2) 中粒砂質細粒砂 (中礫、炭化物、土器片少量含む、鉄分沈着) | |
| 226. 灰黄褐色 (10YR5/2) 細礫混じり細粒砂 (中礫含む、炭化物、土器片少量含む) | |

第1面は、近代から幕末を中心とした江戸時代後期の遺構検出面である。近現代の建物などの構築物による攪乱が広範に確認され、平面的な検出は部分的であった。1区では攪乱を除去した標高約46.6mの焼土で覆われた出水通検出面を第1面とし、2区は近代以降の造成土を除去した安定面である白色細粒砂整地土を検出した標高46.8mを第1面とし、3区では近代以降の工事攪拌土を除去した安定面の標高約46.2mあたりを第1面とした。

第2面は、江戸時代中期から安土・桃山時代の遺構検出面である。天明の大火に伴う焼土層を含む堆積土を一部を除き、桃山茶陶が確認できる安定面まで重機によって除去した。1区では、標高約45.6mを測り、2区では45.5～45.7m、3区では45.5mである。

第3面は、室町時代から平安時代の遺構検出面である。河川堆積由来の黄褐色シルトないし硬質の礫層であるが、部分的に遺構の良好な残存状況が確認された2区北側や3区北西部などの地点では、第2面以下漸次記録を残し第3面まで掘削した。

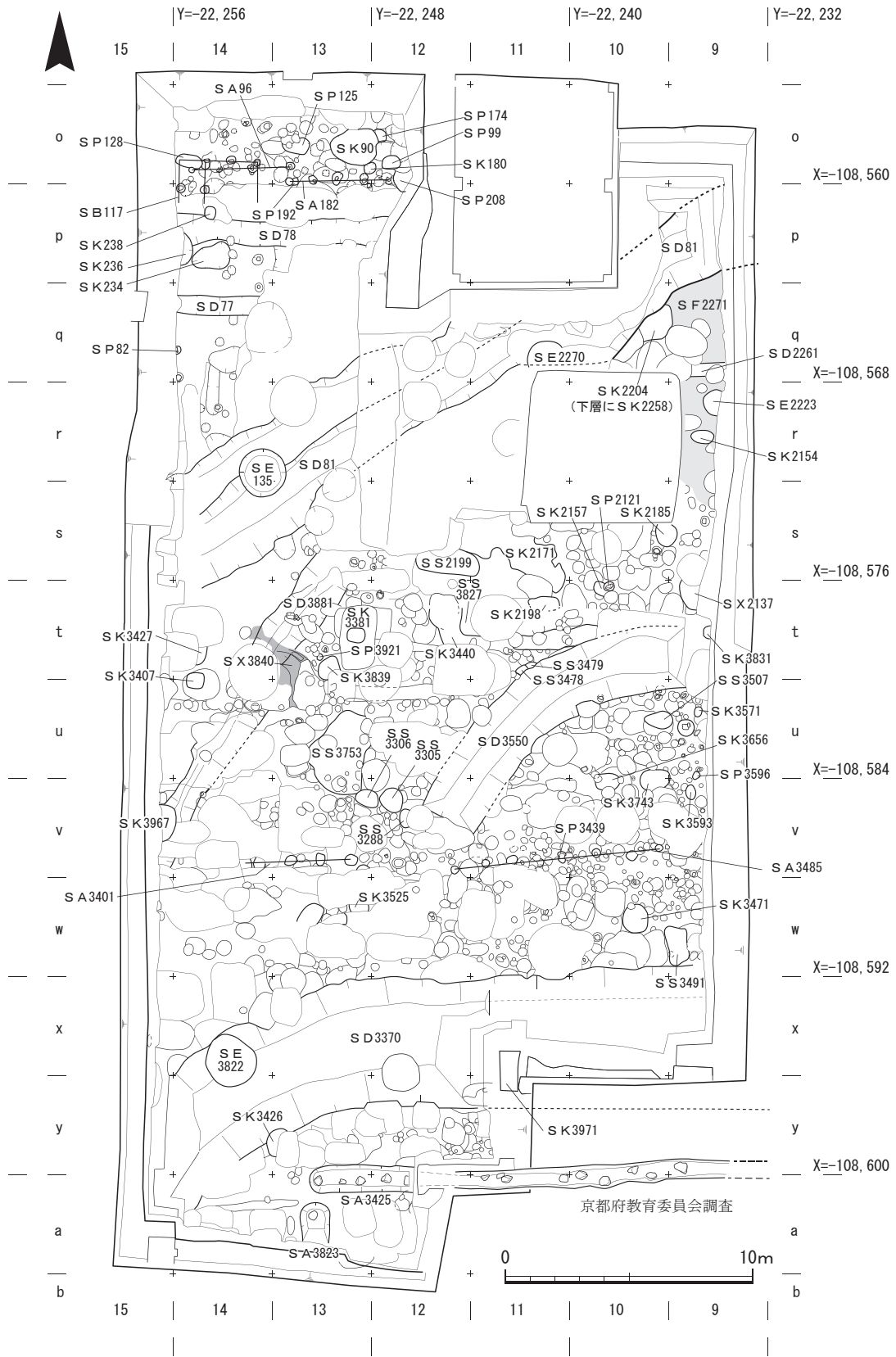


- ※ a-a' 断面の位置は第49図
- 焼土 ■ 整地面
- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色（10YR 2/2）中～細礫混じり細粒砂
（炭化物少量含む） 2. 暗褐色（7.5YR 3/3）中～細礫混じり細粒砂
（ブロック状の焼土、炭化物、貝、花崗岩片、漆喰少量含む） 3. 暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり細粒砂
（焼土、炭化物少量含む） 4. 赤褐色（5YR 4/6）中～細礫混じり細粒砂
（焼土多量含む・焼け瓦少量含む） 5. 褐色（7.5YR 4/3）大～中礫混じり粗粒砂【焼土層】 6. 黒褐色（10YR 2/2）中～細礫混じり粗～細粒砂【焼土層】 7. にぶい黄褐色（10YR 5/4）細礫混じり細粒砂
（炭化物少量含む・強固であることから整地面か） 8. 黒褐色（10YR 3/3）中～細礫混じり粗粒砂
（炭化物、磁器片少量含む） 9. 褐色（7.5YR 4/3）粗～細礫混じり粗粒砂
（炭化物、0.2～1cm大の角礫少量含む） 10. 黒褐色（7.5YR 3/2）細礫混じり中～粗粒砂
（炭化物、貝片、瓦片少量含む） 11. 暗褐色（10YR 3/2）中～細礫混じり中～粗粒砂 12. 黒褐色（7.5YR 3/2）細粒砂混じり粗～細粒砂
（炭化物、貝片、漆喰少量含む） 13. にぶい黄褐色（10YR 4/3）中礫混じり細粒砂
（貝片少量含む） 14. 暗褐色（10YR 3/2）大～中礫混じり細粒砂
（炭化物、貝片、瓦片少量含む） 15. にぶい黄褐色（10YR 4/3）細砂～中礫混じり粗粒砂
（貝片、炭化物、瓦片、漆喰少量含む） 16. 暗褐色（10YR 3/4）中～細礫混じり粗粒砂
（炭化物含む） 17. 暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり粗～細粒砂
（炭化物、漆喰少量含む） | <ol style="list-style-type: none"> 18. 暗褐色（10YR 3/3）粗～細礫混じり粗～細粒砂
（炭化物少量含む） 19. 暗褐色（10YR 3/3）粗～細礫わずかに混じる細粒砂
（焼土、炭化物、漆喰少量含む） 20. 黒褐色（7.5YR 3/2）粗～細礫混じり細粒砂
（炭化物少量含む） 21. 赤褐色（5YR 4/8）細礫混じり細粒砂
（焼土多量に含む） 22. にぶい黄褐色（10YR 5/4）中～細礫混じり粗粒砂
（炭化物少量含む） 23. 黒褐色（10YR 3/2）中～細礫混じり細粒砂
（炭化物、焼土少量含む） 24. 暗褐色（10YR 3/3）径1～8cm大の礫混じり細粒砂
（炭化物少量含む、焼土多量に含む） 25. 褐色（7.5YR 4/3）細礫混じり細粒砂
（焼土、漆喰少量含む） 26. 暗褐色（10YR 3/3）中～粗礫混じり細粒砂
（焼土、焼け瓦片、炭化物少量含む） 27. にぶい褐色（7.5YR 5/4）細礫混じり極細粒砂
（炭化物少量含む・上位は細礫混じり細粒砂
漆喰、焼土、土器片を含む） 28. 暗褐色（10YR 3/3）中礫混じり細粒砂
（炭化物少量含む） 29. 黒褐色（10YR 3/2）中～細礫混じり細粒砂
（漆喰、瓦片含む） 30. 黒褐色（7.5YR 3/2）粗～細礫混じり細粒砂（漆喰含む） 31. 黒褐色（7.5YR 2/2）粗～細礫混じり粗粒砂 32. 黒褐色（10YR 3/2）中～細礫混じり粗～細粒砂
（炭化物少量含む） 33. 黒色（10YR 1.7/1）粗～細礫混じり粗～細粒砂
【焼土層・天明の大火か】 |
|---|--|

第6図 1区12～15-p(近衛大路)断面図

1区12～15-p断面図土色

34. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粗～細礫混じり細粒砂
35. 褐色 (10YR 4/4) 細礫混じり粗～細粒砂
36. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じり粗～細粒砂
37. 褐色 (10YR 4/4) 粗～細礫混じり細粒砂
(土器片少量含む)
38. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粗～細礫混じり細粒砂
(土器片少量含む・やや強固)
39. 黒褐色 (10YR 3/2) 粗～細礫混じり細粒砂 (炭化物含む)
40. 明褐色 (7.5YR 5/6) 粗～細礫混じり細粒砂
(やや強固)
41. 暗褐色 (10YR 3/3) 粗粒砂混じり細粒砂
(強固) 【整地面か】
42. にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 中礫混じり粗～細粒砂
(強固) 【整地面か】
43. にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 粗粒砂混じり細粒砂
44. 暗褐色 (10YR 3/3) 粗～細礫混じり細粒砂
(やや強固)
45. にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 中～細礫混じり細粒砂
46. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じり細粒砂
(炭化物少量含む)
47. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粗～細礫混じり粗～細粒砂 (やや強固)
48. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり細粒砂 (炭化物、土器片少量含む)
49. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粗～細礫混じり粗粒砂 (土器片少量含む・やや強固)
50. 暗褐色 (10YR 3/3) 中～細礫混じり細粒砂 (炭化物、土器片少量含む)
51. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粗～細礫混じり粗～細粒砂 (炭化物、土器片少量含む)
52. 暗褐色 (10YR 3/2) 粗～細礫混じり細粒砂
53. 黒褐色 (10YR 3/2) シルト質極細粒砂 (炭化物少量含む)
54. 明赤褐色 (2.5YR 5/8) 中～粗礫混じる粗～細粒砂 (炭化物、漆喰少量含む) 【焼土層、天明の大火か】
55. 褐色 (7.5YR 4/3) 粗～細礫混じり中～粗粒砂 (洪水に伴うものか)
56. 暗褐色 (10YR 3/3) 中～細礫混じり細粒砂 (焼土少量含む・強固であることから整地面か)
57. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 中～細礫混じり粗～細粒砂 (炭化物、土器片少量含む)
58. 黒褐色 (10YR 3/1) 中～細礫混じり粗～細粒砂 (焼土、炭化物少量含む)
59. 黒褐色 (10YR 3/2) 径1～8cm大の礫多量に混じる粗～細粒砂 (炭化物、焼土含む)
60. 褐色 (10YR 4/4) 中～細礫混じり細粒砂 (やや強固)
61. 褐色 (10YR 4/4) 中～細礫混じり細粒砂
62. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 中～細礫混じり粗～細粒砂
63. にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 中～細礫混じり細粒砂 (炭化物含む・やや強固)
64. 赤褐色 (5YR 4/8) 中礫混じり細粒砂 (炭化物、焼土少量含む)
65. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 中～粗礫混じり粗～細粒砂 (炭化物少量含む)
66. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 中礫混じり粗～細粒砂 【整地土】
67. にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 中礫混じり粗～細粒砂
68. にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 中礫混じり細粒砂 (炭化物多量含む)
69. 黒褐色 (10YR 3/2) 中～粗礫混じり粗～細粒砂
70. にぶい黄褐色 (10YR 6/4) 細礫混じり粗粒砂
71. 黒褐色 (10YR 3/2) 中～粗礫混じり細粒砂 (強固)
72. 黒褐色 (10YR 3/2) 中～粗礫混じり細粒砂 (上層に礫敷) 【整地土】
73. 攪乱
74. にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 中～粗礫混じり細粒砂 (上層に礫多く含む)
75. にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 中～粗礫混じり粗粒砂 (炭化物少量含む)
76. 暗褐色 (10YR 3/3) 中～細礫少量混じる粗粒砂
77. 黒褐色 (10YR 3/2) 中～粗礫混じり細粒砂 (炭化物少量含む)
78. 黒褐色 (10YR 3/2) 粗礫混じり粗粒砂
79. 黒褐色 (10YR 3/2) 中～細礫混じり粗粒砂 (炭化物少量含む)
80. 褐色 (7.5YR 4/3) 粗～細礫混じりシルト質細粒砂 (炭化物、土器片少量含む)
81. 黒褐色 (7.5YR 3/2) 粗～細礫混じりシルト質極細粒砂 (炭化物、土器片少量含む)
82. 褐色 (7.5YR 4/4) 中～細礫混じり細粒砂 (土器片、炭化物少量含む・上層は粗粒砂)
83. 黒褐色 (10YR 3/1) 中～細礫混じりシルト質極細粒砂 (炭化物、土器片少量含む)
84. 黒褐色 (10YR 3/2) 中～粗礫混じりシルト質極細粒砂 (炭化物、土器片少量含む)
85. 黒褐色 (10YR 3/1) 中礫混じりシルト質極細粒砂 (炭化物少量含む) 【整地土】



第7図 第3面遺構配置図

6. 調査概要

1) 検出遺構

(1) 平安時代・鎌倉時代の遺構

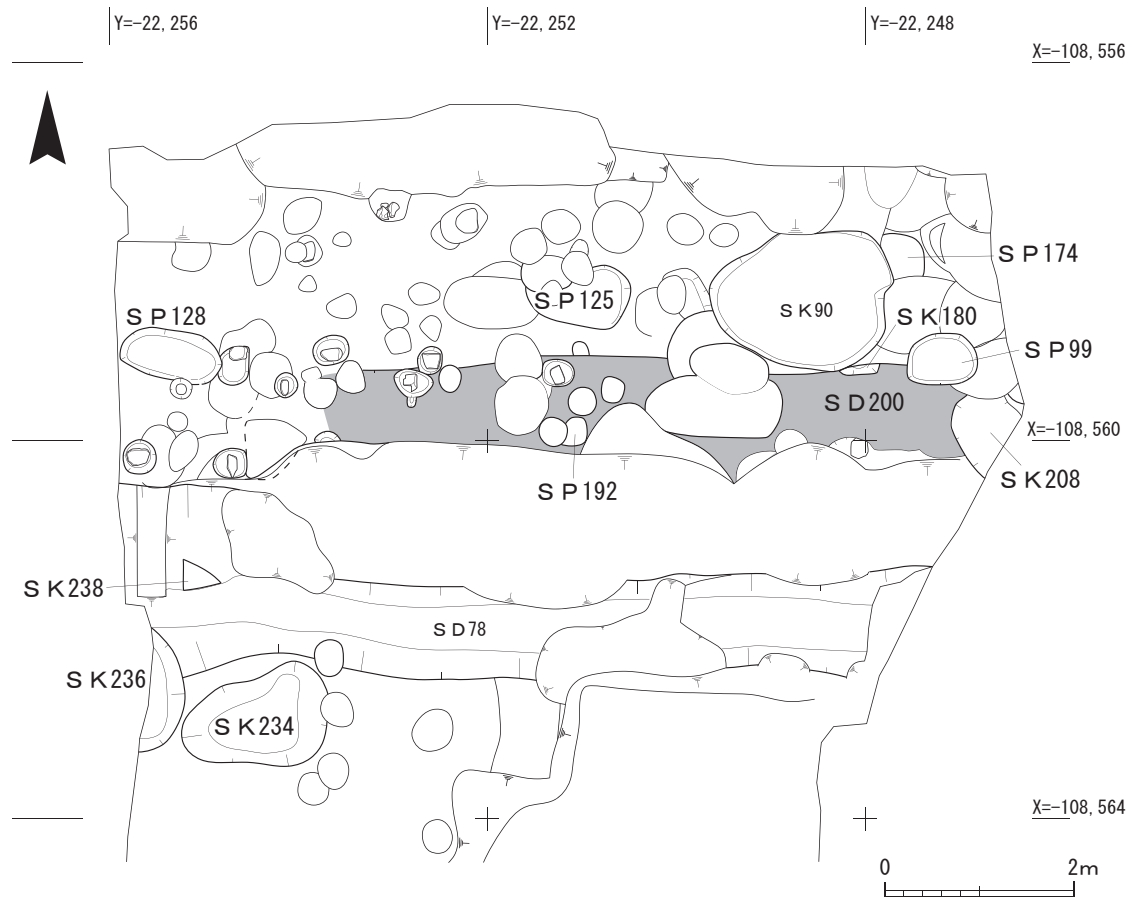
平安時代から鎌倉時代(8世紀～14世紀)の遺構は、第3面で検出した。柱穴、流路、溝、土坑などを検出した。調査地の北側では、近衛大路に付随する道路側溝や巨大な軸摺り石が出土した土坑を検出した。遺物は、土師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器・瓦などが出土した。

① 柱穴

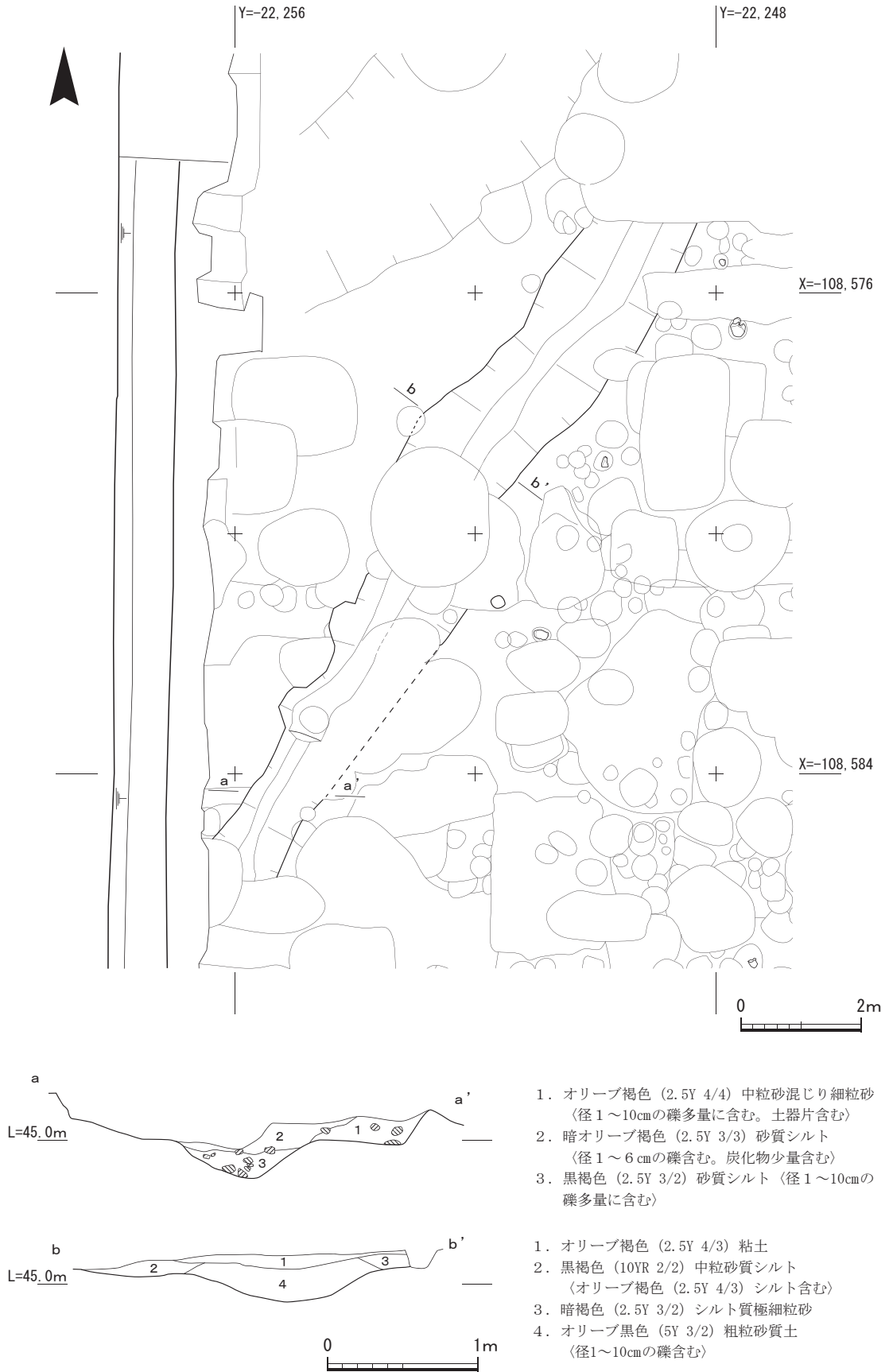
S P 128(第8図) 1区北東(14・15-o)で検出した柱穴である。南北0.59m、東西1.11m、深さ0.17mを測る。埋土は黒褐色中粒砂混じり極細粒砂で、粒径2～3cmの礫を含む。土師器の細片が出土している。11世紀第2四半期(第76図3～11)。

S P 174(第8図) 1区北部(12-o)で検出した柱穴である。南北0.48m、東西0.43m、深さ0.17mを測る。埋土は黒褐色シルト質細粒砂である。柱痕は確認できなかった。土師器皿のほか中国産の白磁、褐釉壺が出土した。10世紀第2四半期(第76図1・2)。

S P 3921(第13図) 3区(13-t)で検出した柱穴である。直径0.2m、深さ0.1mを測る。軒平瓦の瓦当片が出土した(第156図4)。



第8図 第3面1区北半平面図



第9図 S D3881実測図

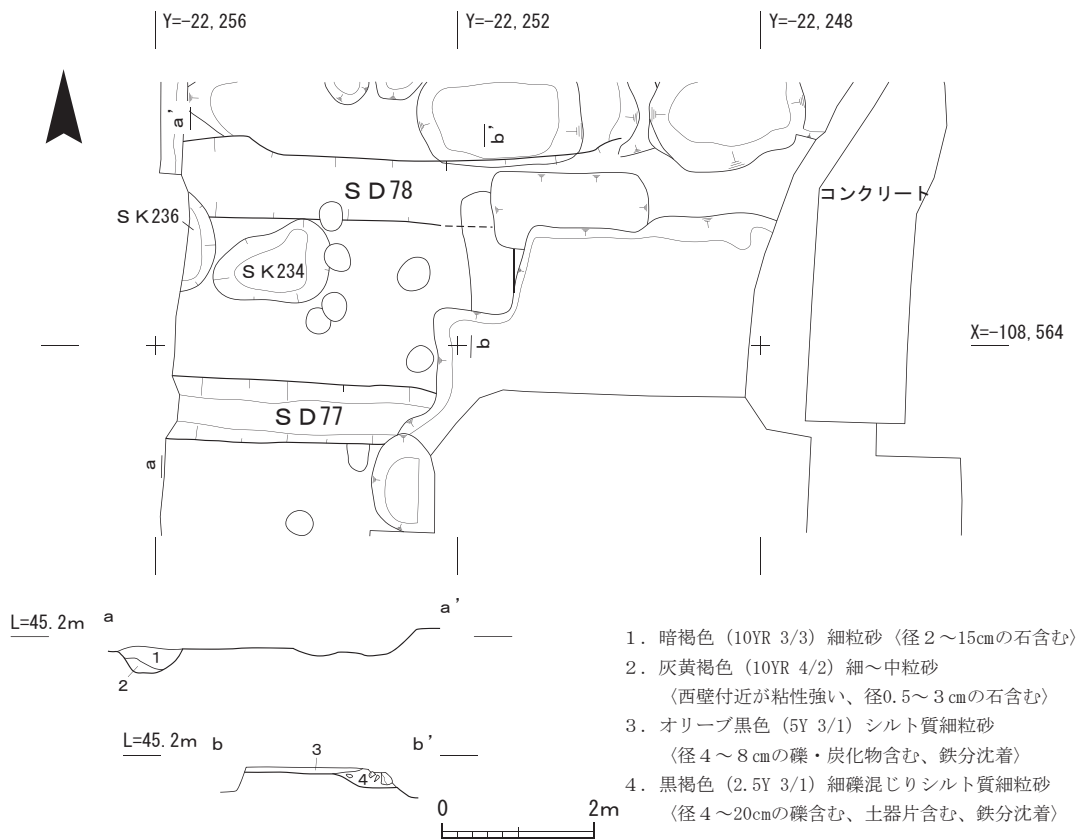
② 礫敷

S F 2271 (第7図) 2区北東部(9-p~r)で検出した礫敷の道路である。南北6.2m、東西2mを測るが、攪乱による削平を受け北端、西端を確認できない。また、東部は調査区外に続く。遺物の出土はなく明確な時期を特定できないが、地山直上であること、後述するS K 2258により削平されていることから同遺構よりも古段階に造成されたと考えられる。黄色の粘土と粒径5cmほどの礫からなり、礫の堆積した地山に張り付くように敷かれている。出土位置から近衛大路と想定される。

③ 溝・流路

S D 78 (第8・10図) 1区北部(13・14-p)で検出した近衛大路の北側道路側溝である。幅は0.91mを測るが、南側は攪乱による削平を受け、北側は後世の遺構により削平されているため、全幅は不明である。検出長は8.74mで、東西いずれも調査地外に延びる。深さは0.31mを測る。土師器を主体として白磁、瓦器、須恵器、羽釜、緑釉陶器、土師質甕などが出土した。12世紀後半(第76図22~56・第155図1~4)。

S D 2261 (第7図) 2区中央東(9-q・r)で検出した近衛大路の南側道路側溝である。幅0.77mで2.2mほど検出した。東は調査区外へ続き、西は攪乱により削平を受けているため、確認できない。深さは0.09mを測る。埋土は褐色細礫混じり粗粒砂である。土師器皿や瓦器が出土した。



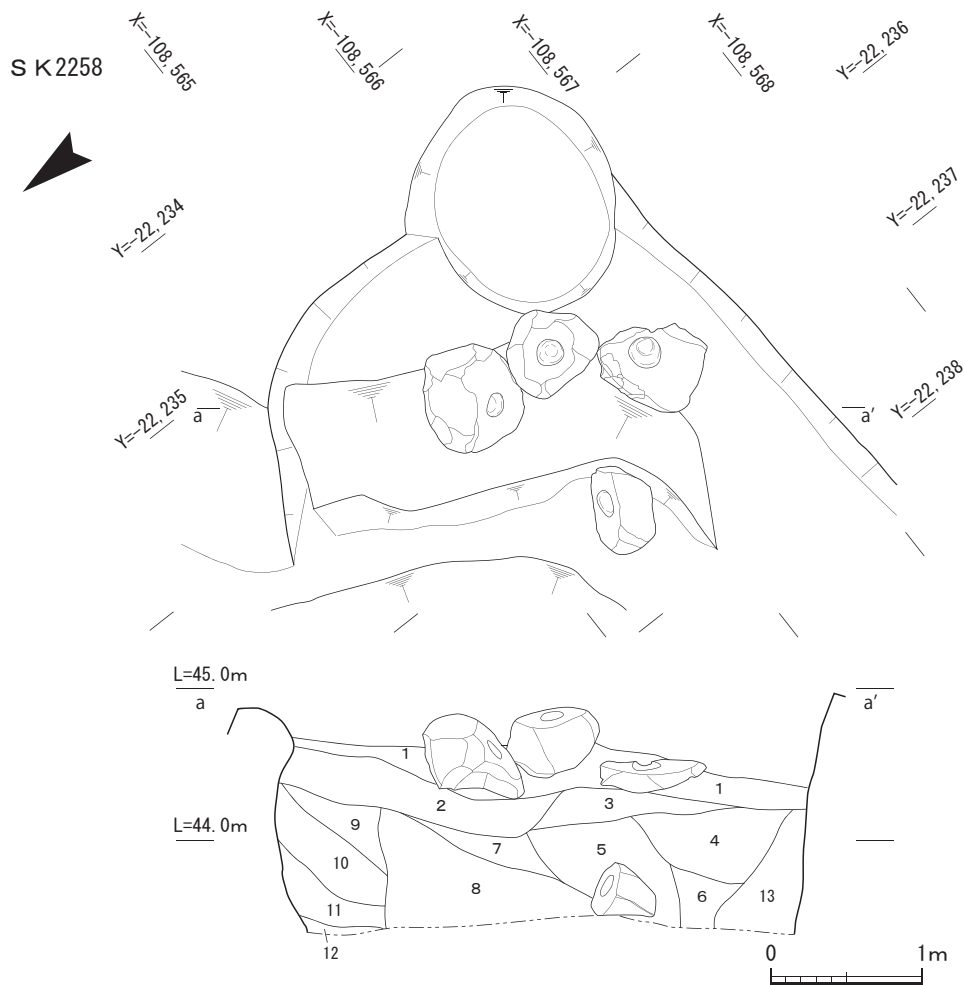
第10図 S D 77・78実測図

12世紀第3四半期(第76図16～21)。

S D3881(第9図) 3区北西部(13・14-t・u)で検出した流路である。北東から南東にかけてのび、15.98mを検出した。幅は1.55m、深さ0.2mを測る。土師器皿が出土した。11世紀第3四半期(第76図12～15)。

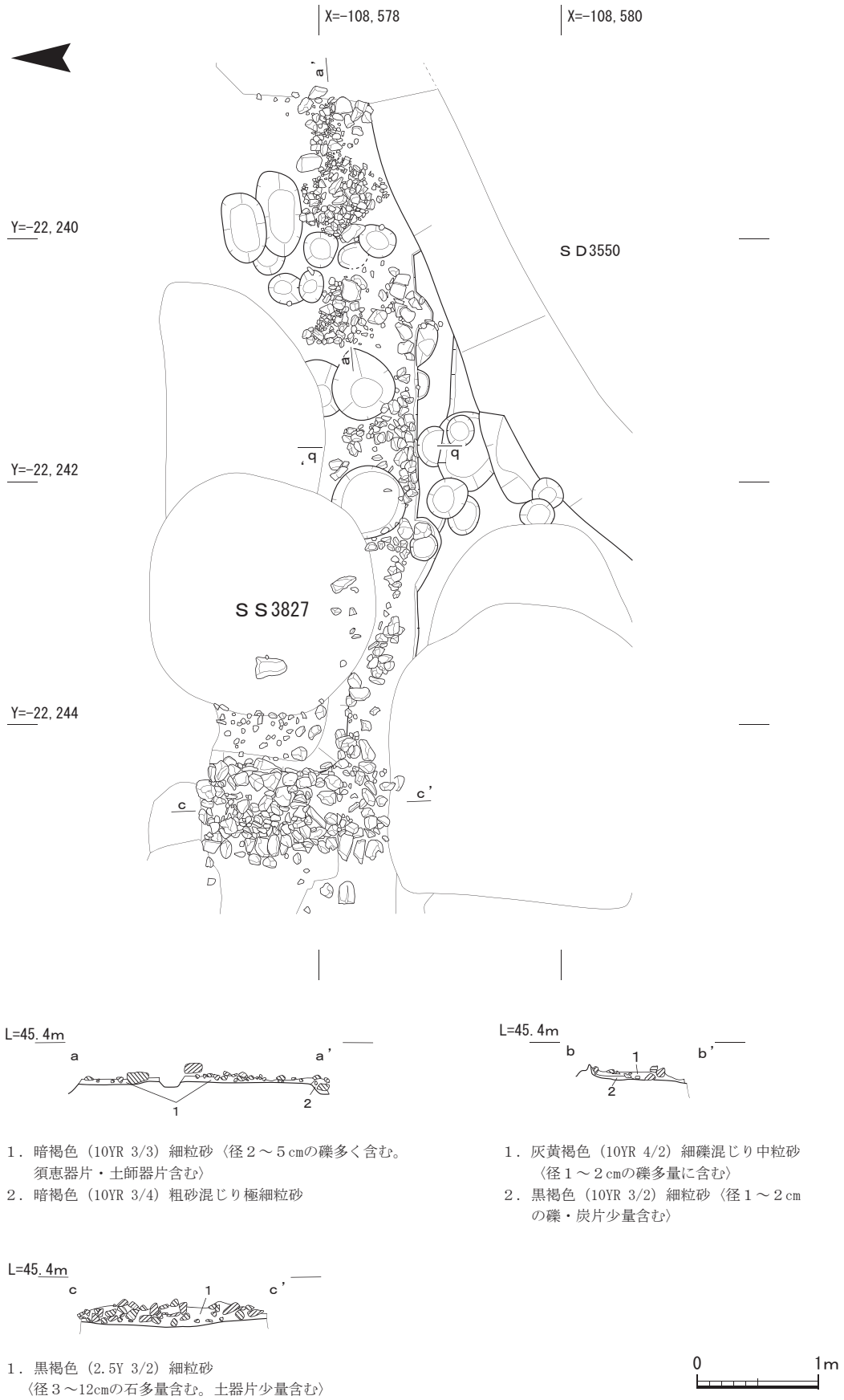
④土坑

S K234(第8図) 1区北西部(14-p)で検出した廃棄土坑である。南北1.12m、東西1.49m、深さ0.14mを測る。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂で、粒径2～4cmの礫と炭化物を含む。土師



1. 黒褐色 (10YR 2/3) シルト混じり粗粒砂
2. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混じり粗粒砂<径5～10cmの礫多量含む。粘性の強い土層含む>
3. 暗褐色 (10YR 3/3) 粗粒砂<径5～10cmの礫含む>
4. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混じり粗粒砂<径3～5cmの礫含む。やや粘質>
5. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混じり中粒砂<径10～20cmの礫含む。粘性強い>
6. 黒褐色 (10YR 2/1) 中粒砂～粗粒砂<粘性の弱い砂層>
7. 暗褐色 (10YR 3/3) 中粒砂～粗粒砂
8. 黒褐色 (10YR 2/3) シルト含む中粒砂<径10～20cmの礫多量含む>
9. 暗褐色 (10YR 3/4) 中粒砂～粗粒砂<粘性弱い砂層>
10. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混じり中粒砂<径10～20cmの礫多量含む>
11. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混じり中粒砂～粗粒砂<径3cmの礫含む。粘性強い>
12. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混じり粗粒砂<径3cmの礫少量含む。粘性強い>
13. 暗褐色 (10YR 3/4) シルト混じり粗粒砂<径10～20cmの礫含む。やや粘質>

第11図 S K2258実測図



1. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂 (径2~5cmの礫多く含む。須恵器片・土師器片含む)
2. 暗褐色 (10YR 3/4) 粗砂混じり極細粒砂

1. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり中粒砂 (径1~2cmの礫多量に含む)
2. 黒褐色 (10YR 3/2) 細粒砂 (径1~2cmの礫・炭片少量含む)

1. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細粒砂 (径3~12cmの石多量含む。土器片少量含む)

第12図 S S 3827実測図

器、黒色土器が出土した。11世紀第2四半期(第78図1～10)。

S K 238 (第8図) 1区北西部(14-p)で検出した廃棄土坑である。南北1.33m、東西0.4m、深さ0.18mを測るが、他の遺構に削平されている。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂である。出土遺物は土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦器である。11世紀第2四半期(第78図15～21)。

S K 2258 (第11図) 2区北部(9・10-q)で検出した大型土坑である。S K 2204を除去した段階で検出した。南北3m、東西2.5m、を測る。深さは1.5mまでを掘削したが、掘削深度がG Lより4.5mを超えるため安全を考慮し掘削を断念した。埋土は黒褐色細礫混じり極細粒砂で、粒径2～5cmの礫を含む。土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、須恵器、白磁、宋銭などが出土したほか、100kgを超えるものを含む軸摺り石と想定される巨石が4点出土している。10世紀末～11世紀半



- | | |
|--|--|
| <p>1. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 中粒砂質細粒砂
〈径3～12cm大の石を多量に含む〉</p> <p>2. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂質細粒砂
〈径2～5cm大の石を含む〉</p> <p>3. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 極細粒砂質シルト
〈径1～2cm大の石を少量含む〉</p> <p>4. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混細粒砂
〈炭片少量含む〉</p> | <p>5. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細礫混極細粒砂質細粒砂
〈径4～7cm大の石含む〉</p> <p>6. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細粒砂混じり極細粒砂</p> <p>7. 暗褐色 (10YR 3/4) 細粒砂 〈土器片・炭片少量含む〉</p> <p>8. にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 極細粒砂含むシルト
〈径2～4cm大の石含む〉</p> <p>9. 褐色 (10YR 4/4) 極細粒砂</p> |
|--|--|

第13図 S X 3840実測図

ば(第77図・第155図5・6・第168図、第169図50)。

S K 3188(第29図) 3区(12-v)第2面で検出した円形の土坑である。南北0.7m、東西0.8mを測る。瓦当が出土した(第155図7)。

S K 3204(第29図) 3区(11-v)第2面で検出した円形の土坑である。南北0.65m、東西0.75mを測る。瓦当が出土した(第155図8)。

S K 3525(第7図) 3区中央部(13-w)で検出した土坑である。南北0.3m、東西0.75m、深さ0.1mを測る。土師器皿が出土した。13世紀第1四半期(第78図11・12)。

S K 3839(第7図) 3区中央北部(13-t)で検出した土坑である。南北0.9m、東西0.95mを測る。埋土は暗褐色細粒砂で炭化物を含む。土師器皿が出土した。12世紀前半(第78図13・14)。

⑤集石遺構

S S 3827(第12図) 3区北部(10~12-t)で検出した集石遺構である。南北1.7m、東西6.3mを測る。「凹」形に残存しているが、北東側は削平を受けている。本来は北に延びており、「コ」形をしていたと考えられる。形状から蔵などの建物基礎と想定される。土師器皿、同安窯系の青磁碗などが出土したがいずれも細片である。13世紀第1四半期(第78図22~25)。

⑥その他

S X 3840(第13図) 3区北西部(13・14-t・u)で検出した粘土貼り付け遺構である。南北3.4m、東西2.4mを測る。四方が後年の遺構により削平されていて全容は判然としないが、残存部の中央に長方形のへこみが作出されている。水を制御する目的で造成された遺構と想定される。

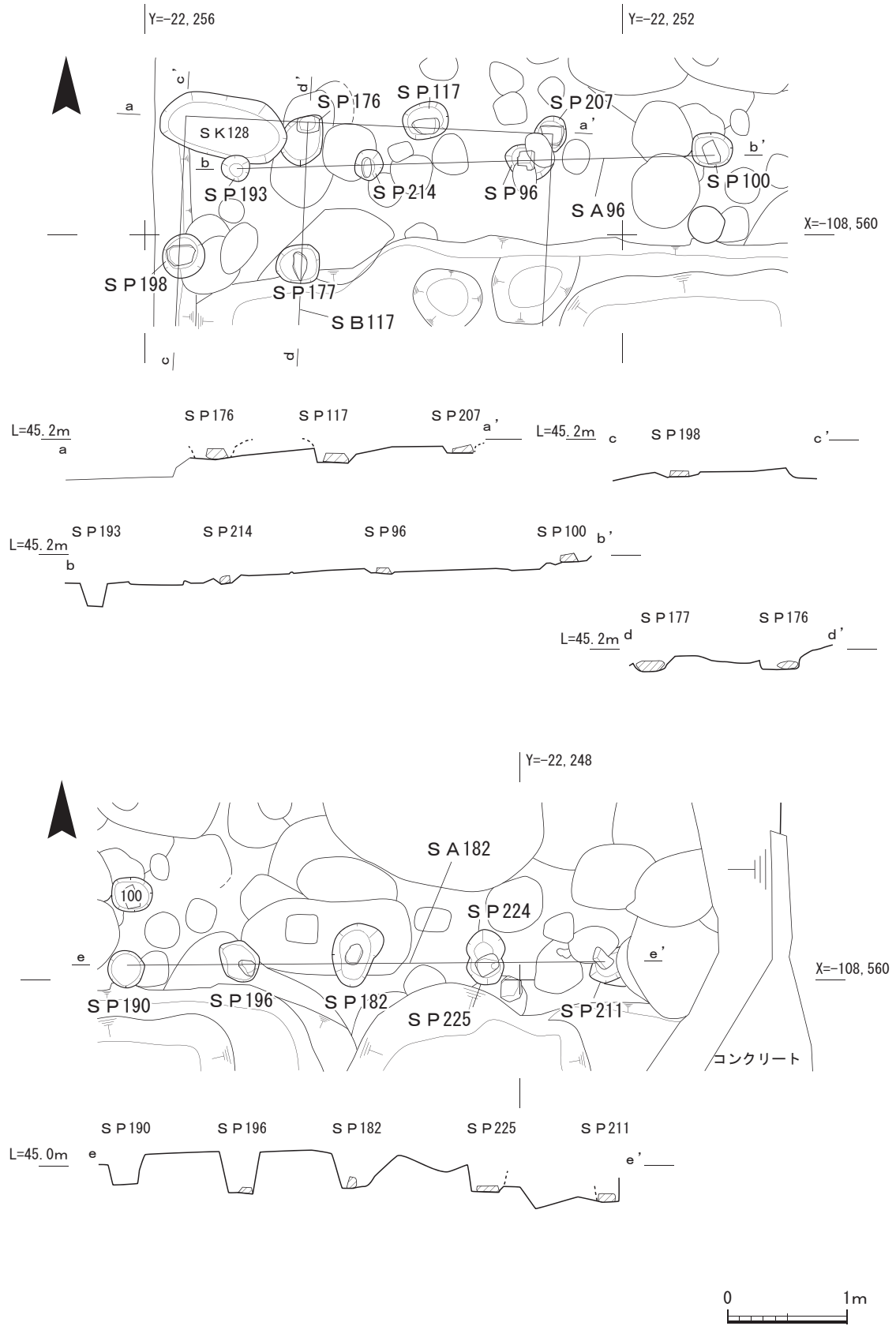
(2)室町時代・戦国時代の遺構

室町時代から戦国時代(14世紀~16世紀)の遺構は第3面で検出した。柱穴列、堀、溝、土坑などを検出した。1区・2区を横断する堀など、合計3条の戦国時代の堀とそれに付随する布堀り柱列、及び1区北部と3区中央で柱列を検出した。土師器・瓦質土器・陶磁器などが出土した。

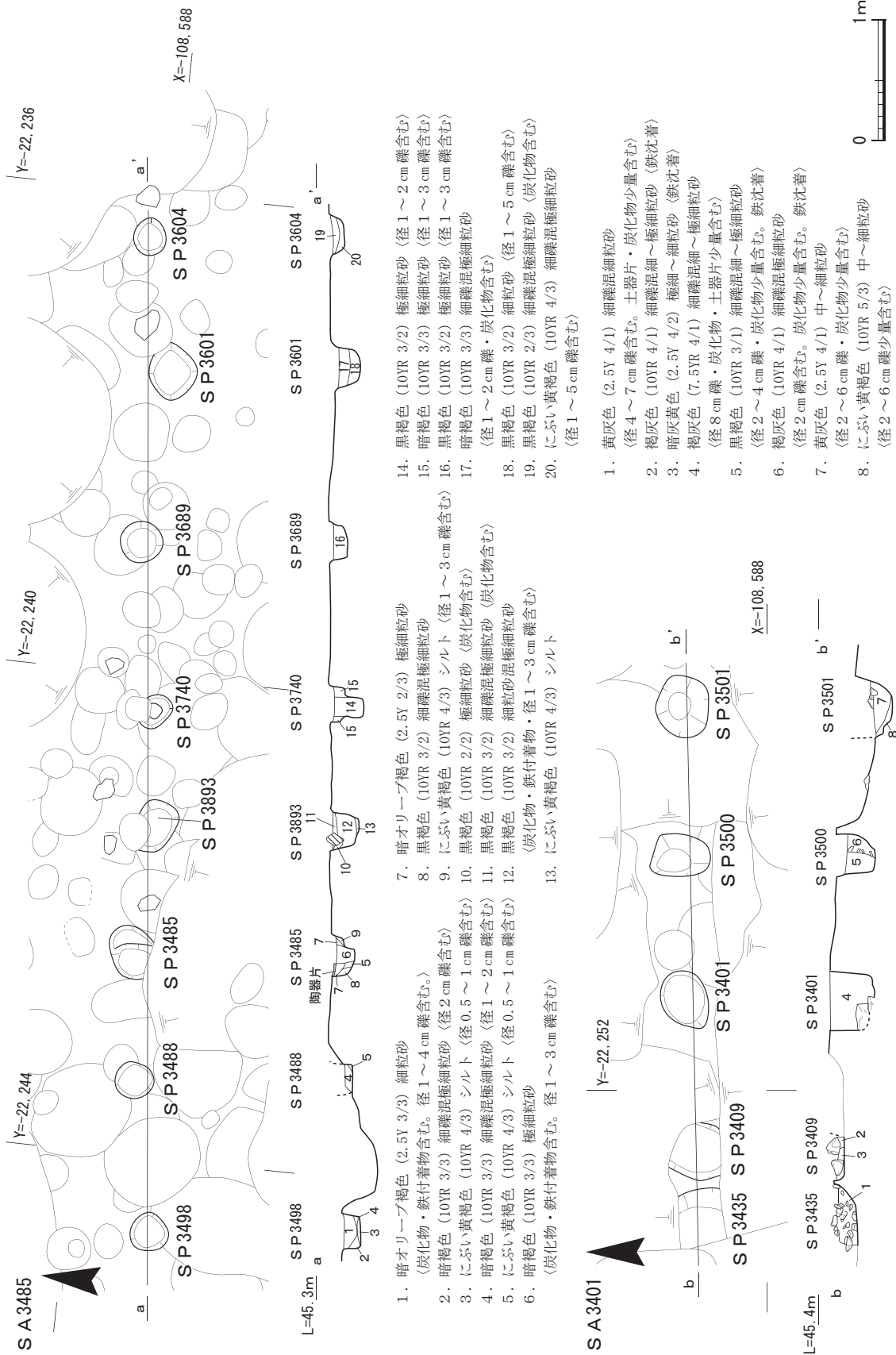
①布堀り柱列・柱列・建物

S A 96(第14図上) 1区北部(13~15-o)で検出した柱列である。長軸である東西方向は4.3mを測る。S A 96は以下の遺構などから構成される。S P 96は1区北部(14-o)で検出した柱穴である。南北0.4m、東西0.25m、深さ0.1mを測る。底部に礎板石と思われる石を据えている。S P 100は1区北部(13-o)で検出した柱穴である。南北0.27m、東西0.35m、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色の細粒砂質シルトで、粒径2~4cmの礫を少量含む。底部に礎板石と思われる石を据えている。土師器が出土した。16世紀第1四半期(第79図34~36)。S P 193は1区北部(14-o)で検出した柱穴である。南北0.22m、東西0.24m、深さ0.12mを測る。S P 214は1区北部(14-o)で検出した柱穴である。南北0.24m、東西0.26m、深さ0.06mを測る。

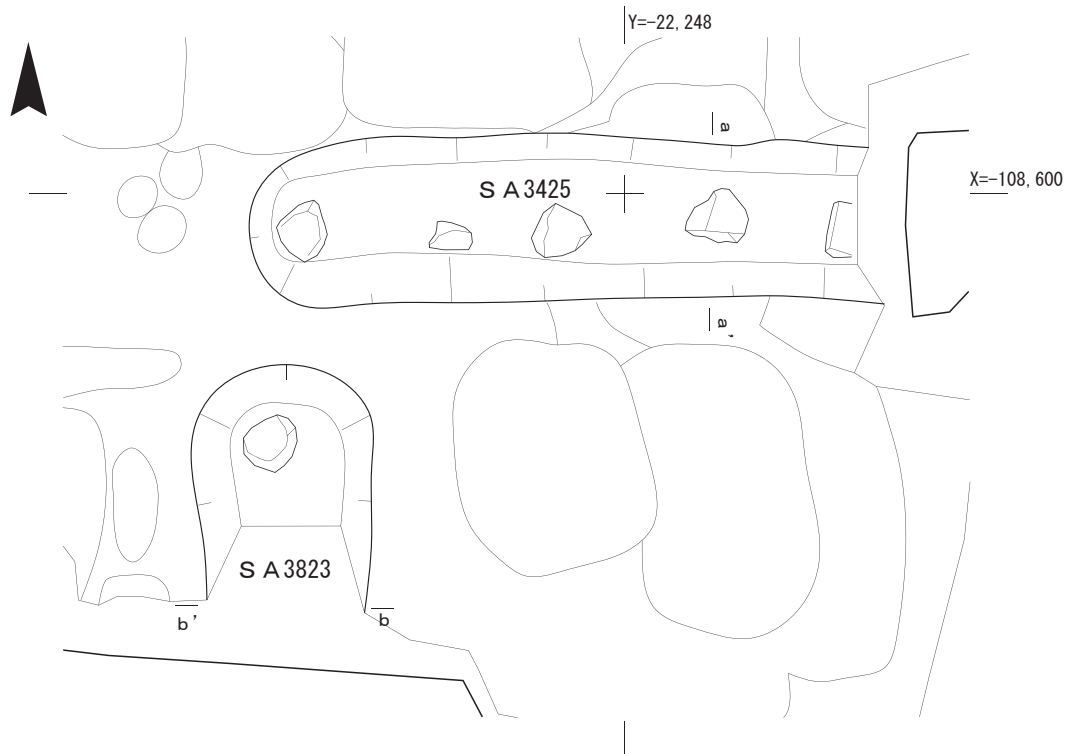
S B 117(第14図上) 1区北部(14・15-o・p)で検出した建物跡である。東西方向は3.1m、南北方向は1.4mを測る。S B 117は以下の遺構から構成される。S P 117は1区北部(14-o)で検出した柱穴である。南北0.3m、東西0.4m、深さ0.05mを測る。底部に礎板石と思われる石を据えている。S P 176は1区北部(14-o)で検出した柱穴である。南北0.42m、東西0.3m、深さ0.08mを測るが、



第14図 SA96・182、SB117実測図



第15図 S A 3485・3401実測図

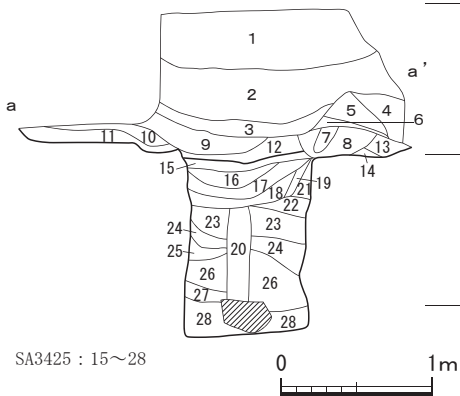


1. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂
〈径3～10 cmの礫多く含む。漆喰・炭化物含む〉
2. 黒褐色 (10YR 2/2) シルト質極細粒砂 〈炭化物多く含む。陶磁器・土器片少量含む。文明の大火後の廃棄土坑か〉
3. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂
〈径2～4 cmの礫・炭化物少量含む〉
4. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細粒砂
〈径3～7 cmの礫・土器片少量含む〉
5. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 粗粒砂混じり細粒砂
〈径3～5 cmの礫・炭化物少量含む〉
6. 黒褐色 (10YR 2/2) 粗粒砂混じり細粒砂
〈径2～4 cmの礫・土器片少量含む〉
7. 灰オリーブ色 (5Y 4/2) 細粒砂
〈径5 cm大の礫・炭化物少量含む〉
8. オリーブ黒色 (5Y 3/2) 細粒砂
〈径3 cm大の礫・土器片・炭化物少量含む〉
9. 黒褐色 (10YR 3/1) 細粒砂混じり粗粒砂
〈径3～5 cm礫含む〉
10. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 粗粒砂混じり中粒砂
〈径1～3 cmの礫・炭化物・酸化鉄少量含む〉
11. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細粒砂混じり中粒砂 〈径2 cmの礫含む〉
12. オリーブ黒色 (5Y 3/1) 中粒砂混じり細粒砂
〈径1～3 cmの礫・炭化物少量含む〉
13. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 中粒砂混じり細粒砂
〈径2 cmの礫・酸化鉄少量含む〉
14. 灰オリーブ褐色 (2.5Y 5/3) 細粒砂混じり中粒砂
〈炭化物少量含む〉
15. 灰色 (7.5Y 4/1) 粗粒砂混じり細粒砂
〈径0.5 cm大の礫多量含む。径3 cm大の礫少量含む〉
16. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 粗粒砂混じり中粒砂
〈径3～10 cmの礫多量含む。土器片・炭化物少量含む〉
17. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 粗粒砂混じり細粒砂
〈径0.5～3 cmの礫含む〉
18. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 粗粒砂混じり細粒砂
〈径1～3 cmの礫多く含む。土器片・炭化物少量含む〉

L=46.0m

L=45.0m

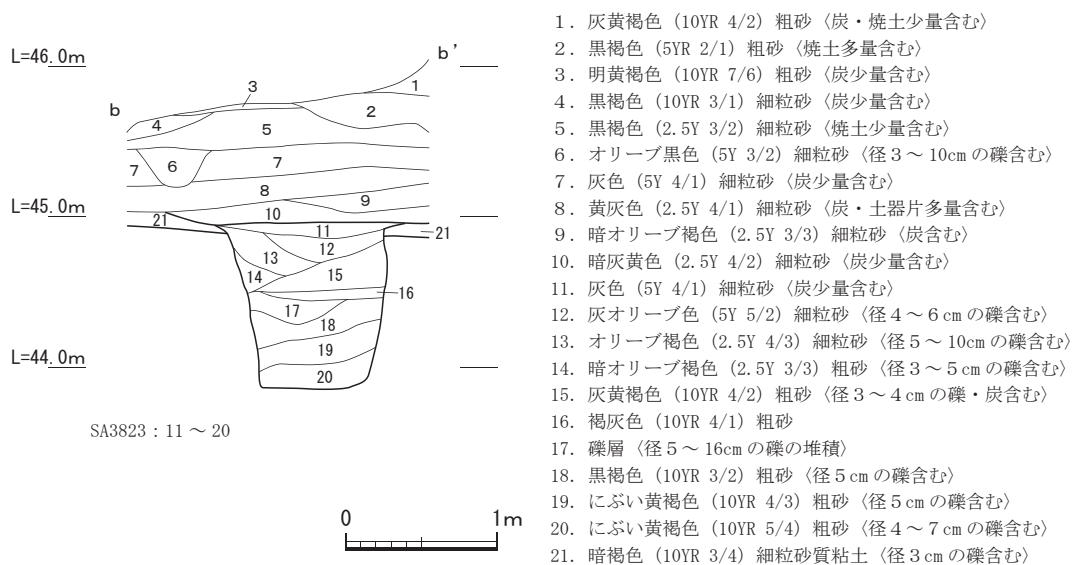
L=44.0m



SA3425 : 15～28

19. オリーブ黒色 (5Y 3/1) 粗粒砂混じり細粒砂
〈径2 cm大の礫・土器片・炭化物少量含む〉
20. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 粗粒砂混じり中粒砂
〈径1 cm大の礫・酸化鉄・炭化物少量含む〉
21. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 粗粒砂混じり中粒砂
〈土器片・炭化物少量含む〉
22. オリーブ黒色 (7.5Y 3/1) 粗粒砂混じり中粒砂 〈径1～4 cmの礫含む。にぶい黄色 (2.5Y 6/4) ブロック状に少量含む〉
23. 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) 中粒砂混じり細粒砂
〈径3 cm大の礫含む。酸化鉄・土器片・炭化物含む〉
24. 灰オリーブ色 (5Y 4/2) 細粒砂混じり中粒砂 〈径1～5 cmの礫・土器片・炭化物・酸化鉄少量含む〉
25. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 中粒砂混じり粗砂 〈径1 cm大の礫多量含む。径4 cm大の礫少量含む。酸化鉄含む〉
26. 灰色 (5Y 4/1) 中粒砂混じり細砂 〈径0.5～1 cmの礫多量含む。径3～5 cmの礫含む。土器片・酸化鉄含む〉
27. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 粗粒砂 〈径1 cm大の礫含む〉
28. 灰オリーブ色 (5Y 4/2) 細粒砂混じり粗粒砂
〈径2～6 cmの礫多量に含む〉

第16図 S A.3425・3823実測図



第17図 SA3823断面図

西部が削平されている。埋土は暗褐色の細礫混じりシルト質細粒砂で粒径2~3cmの礫を含む。底部に礎板石と思われる石を据えている。土師器が出土した。14世紀前半(第79図46)。S P 177は1区北部(14-p)で検出した柱穴である。南北0.37m、東西0.32m、深さ0.09mを測る。埋土は黒褐色の細礫混じり細粒砂で粒径4~8cmの礫を含む。底部に礎板石と思われる石を据えている。S P 198は1区北部(15-p)で検出した柱穴である。南北0.37m、東西0.35m、深さ0.4mを測る。灰黄褐色の細礫混じり細粒砂で粒径2~3cmの礫を含む。土師器皿(第79図45)が出土した。S P 207は1区北部(13-p)で検出した柱穴である。南北0.3m、東西0.28m、深さ0.13mを測る。

SA182(第14図下) 1区北部(12・13-o)で検出した東西方向の柱列である。検出長は8.6mを測る。SA182は以下の遺構などから構成される。S P 182は1区北部(12-o)で検出した柱穴である。南北0.52m、東西0.42m、深さ0.28mを測る。須恵器片や褐釉陶器の細片が出土した(第79図38~40)。S P 196は1区北部(13-o)で検出した柱穴である。南北0.34m、東西0.32m、深さ0.31mを測る。土師器皿片が出土した。15世紀前半(第79図37)。S P 211は1区北部(12-o,p)で検出した柱穴である。南北0.3m、東西0.25m、深さ0.36mを測る。S P 225は1区北部(13-o)で検出した柱穴である。南北0.25m、東西0.32m、深さ0.3mを測る。底部に礎板石と思われる石を据えている。埋土は黒褐色のシルト質細粒砂である。

SA3401(第15図) 3区西部(13・14-v)で検出した柱列である。東西方向は4.25mを測る。柱列を構成するS P 3401は3区中央部(13-v)で検出した柱穴で、南北0.38m、東西0.47m、深さ0.7mを測る。埋土は暗褐色の細礫混じり細粒砂で粒径6cm程の礫と炭化物を少量含む。土師器皿が出土した。また、S P 3409は南北0.5m、東西0.45m、深さ0.1mを測る柱穴であるが、他の遺構に削平され全体の規模は確認できない。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂で、粒径2~6cmの礫と炭化物を少量含む。土師器皿、白磁が出土した。15世紀前半(第79図41~44)。

SA3425(第16図) 3区(12・13-y)で検出した布掘り柱列である。短軸の南北幅は1.13mを

測り、長軸の東西幅は4.3mを測るが、調査区外東側に続くため全容は判然としない。深さは1.2mを測る。S A3823の北東に位置し、一連の遺構であったと想定できる。遺構の深さから頑強な塀などの基礎であった可能性がある。当調査地東側で行われた京都府教育委員会の立ち合い調査で、S D3425が東に続くことが確認されている(第7図)。この部分の詳細については、同教育委員会の報告を参考にされたい。土師器皿や瀬戸産や常滑産の陶器が出土した。15世紀末～16世紀初頭(第79図1～18)。

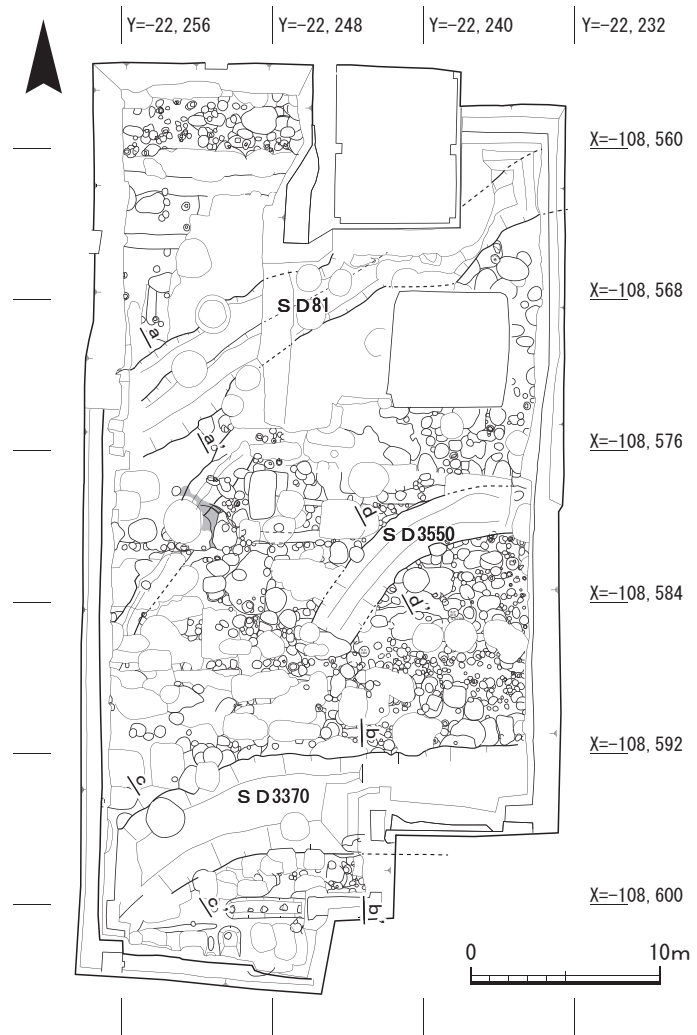
S A3485(第15図) 3区東部(9～12-v)で検出した柱列である。長軸である東西方向は8.75mを測る。S A3485は以下の遺構などから構成される。S P3485は3区中央付近(11-v)で検出した柱穴である。南北0.3m、東西0.45mを測るが後年の遺構により削平されている。深さ0.2mを測る。土師器皿が出土した。14世紀末～15世紀前半(第79図31～33)。S P3689は3区中央東(10-v)で検出した柱穴である。南北0.35m、東西0.32m、深さ0.16mを測るが後年の遺構により削平されている。土師器皿が出土した。15世紀前半(第79図29・30)。S P3740は3区中央付近(11-v)で検出した柱穴である。南北0.3m、東西0.3m、深さ0.3mを測るが後年の遺構により削平されている。土師器皿が出土した。15世紀前半(第79図28)。

S A3823(第16・17図) 3区南部(13-a)で検出した布堀り柱列である。長軸である南北方向は1.8mを測るが調査区外に続く。短軸の東西幅は1mを測る。深さは1.1mを測る。S A3425の南西に位置し、一連の遺構であったと想定できる。遺構の深さから頑強な塀などの基礎であった可能性がある。土師器皿の細片が出土した。15世紀末～16世紀初頭(第79図19～27)。

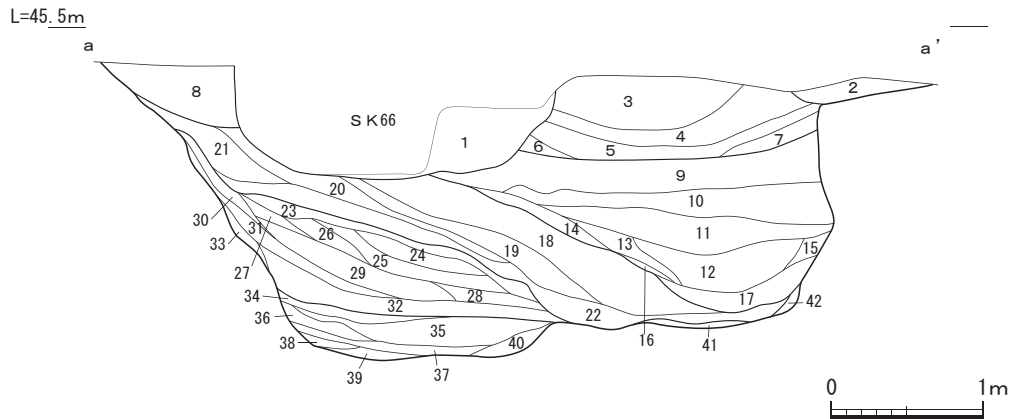
②柱穴

S P82(第7図) 1区(14-q)で検出した柱穴である。直径0.3m、深さ0.1mを測る。底部に底板石を据える。朝鮮通寶が出土した(第169図25)。

S P99(第8図) 1区北部(12-o)で検出した柱穴である。南北0.55m、東西0.7m、深さ0.2mを



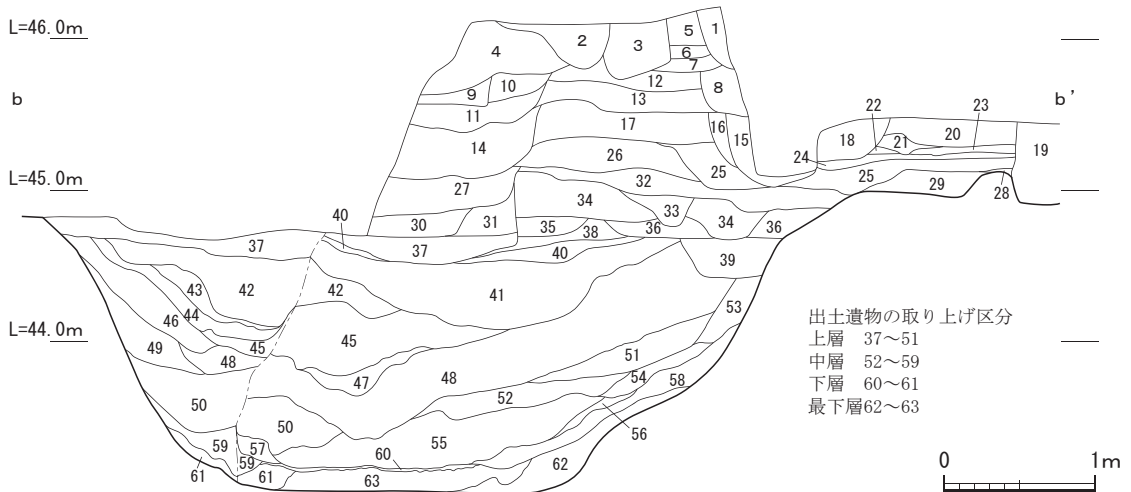
第18図 堀断面位置図



出土遺物の取り上げ区分
 第1層3～8 第2層9～17 第3層18～22、41、42
 第4層23～33 第5層34～36 第6層37～40

- | | |
|---|---|
| <p>1. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じりシルト質中粒砂
 (径2～4cm大の礫含む・SK66の埋土)</p> <p>2. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じり中粒砂質細粒砂
 (径2～4cm大の礫、土器片含む)</p> <p>3. 暗褐色 (10YR 3/4) 細礫混じり中粒砂
 (径2～6cm大の礫、土器片少量含む)</p> <p>4. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じり中粒砂質細粒砂
 (径6～10cm大の礫含む)</p> <p>5. 暗褐色 (10YR 3/4) 細礫混じり中粒砂質細粒砂
 (径4～6cm大の礫含む)</p> <p>6. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 中粒砂質細粒砂
 (径1～2cm大の礫含む)</p> <p>7. 黒褐色 (10YR 3/2) 中粒砂質細粒砂
 (径1～2cm大の礫含む)</p> <p>8. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混じり粗砂質中粒砂
 (6～12cm大の礫含む)</p> <p>9. 暗褐色 (10YR 3/4) 中粒砂質細粒砂
 (径0.5～3cm大の礫少量含む。土器片含む)</p> <p>10. 暗褐色 (10YR 3/3) 中粒砂質細粒砂
 (径0.5～3cm大の礫少量含む)</p> <p>11. 黒褐色 (10YR 2/3) 中粒砂混じりシルト質細粒砂
 (径1～2cm大の礫少量含む・炭化物含む・鉄分沈着)</p> <p>12. 黒褐色 (10YR 2/3) 細礫混じりシルト質細粒砂
 (径8～12cm大の礫、炭化物含む)</p> <p>13. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト質極細粒砂
 (径2～4cm大の礫少量含む、炭化物・土器片含む)</p> <p>14. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細礫混じり中粒砂質細粒砂
 (径1～2cm大の礫・炭化物・土器片含む)</p> <p>15. 黒褐色 (10YR 3/2) 中粒砂質細粒砂
 (径2～3cm大の礫少量含む)</p> <p>16. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) シルト質細粒砂</p> <p>17. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 中礫混じりシルト質極細粒砂
 (径8cm大の礫少量含む・炭化物含む・マンガン沈着)</p> <p>18. 黒褐色 (2.5Y 3/2) シルト質細粒砂
 (径4～12cm大の礫多量に含む)</p> <p>19. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じりシルト質細粒砂
 (径4～7cm大の礫、炭化物、土器片含む)</p> <p>20. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり極細粒砂質中粒砂
 (径1～3cm大の礫少量含む・土器片含む)</p> | <p>21. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じり極細粒砂質細粒砂
 (径1～3cm大の礫少量含む)</p> <p>22. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり極細粒砂質細粒砂
 (径1～3cm大の礫少量含む。土器片含む)</p> <p>23. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混じり細粒砂質中粒砂
 (径1～3cm大の礫少量含む。土器片含む)</p> <p>24. 褐色 (10YR 4/4) 中粒砂質礫
 (径1～2cm大の礫多量に含む。鉄分沈着)</p> <p>25. 黒褐色 (10YR 3/2) 中粒砂質礫
 (径1.5～4cm大の礫多量に含む)</p> <p>26. 暗褐色 (10YR 3/3) 粗砂質礫
 (径2～4cm大の礫多量に含む)</p> <p>27. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粗砂質中粒砂
 (径1～2cm大の礫少量含む)</p> <p>28. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト質中粒砂
 (径8～12cm大の礫含む)</p> <p>29. 褐色 (10YR 4/4) シルト質細粒砂
 (径2～6cm大の礫多量に含む)</p> <p>30. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粗砂質中粒砂
 (径1cm大の礫少量含む)</p> <p>31. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じりシルト質細粒砂
 (径2～4cm大の礫少量含む)</p> <p>32. 黒褐色 (10YR 2/3) 極細粒砂質シルト
 (径4～20cm大の礫少量含む。炭化物含む)</p> <p>33. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じりシルト質細粒砂
 (径2～4cm大の礫少量含む)</p> <p>34. 暗褐色 (10YR 3/4) 細礫混じり粗砂
 (径4～6cm大の礫少量含む)</p> <p>35. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じりシルト質細粒砂
 (径2～4cm大の礫少量含む。炭化物・土器片含む)</p> <p>36. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混じりシルト質細粒砂
 (径1～4cm大の礫少量含む)</p> <p>37. 褐色 (7.5YR 4/4) 粗砂
 (径1～2cm大の礫少量含む。鉄分沈着)</p> <p>38. 暗褐色 (7.5YR 3/3) 細礫混じりシルト質細粒砂
 (径2～3cm大の礫少量含む)</p> <p>39. 灰黄褐色～にぶい黄褐色 (10YR 4/2) 泥質シルト
 (径1～2cm大の礫少量含む)</p> <p>40. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト質中粒砂
 (径2～4cm大の礫少量含む。炭化物含む)</p> <p>41. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂質粗砂
 (径4～6cm大の礫含む)</p> <p>42. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂質粗砂
 (径4～6cm大の礫含む)</p> |
|---|---|

第19図 S D81実測図

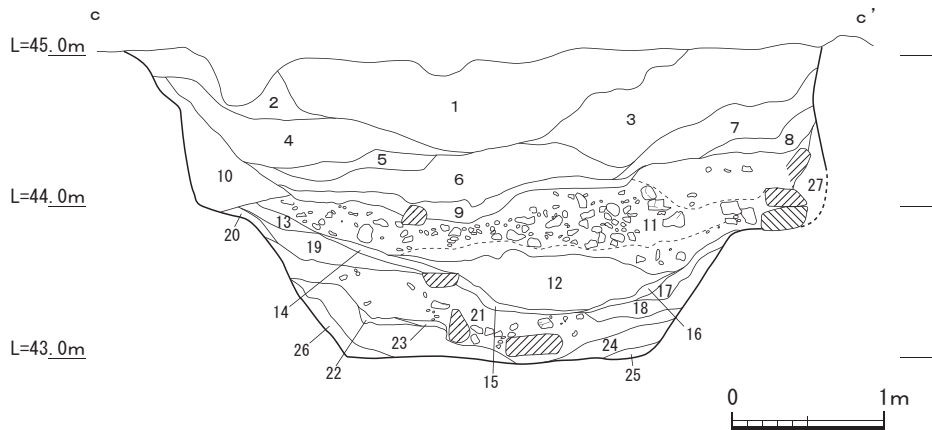


- | | |
|--|---|
| <p>1. 黒褐色 (10YR 3/1) 細礫混じり細粒砂 (径2~4cm大の礫・焼土・炭化物少量含む)</p> <p>2. 黄褐色 (2.5Y 5/3) 細礫混じり細砂 (径2cm大の礫・にぶい黄色 (2.5Y 6/4) のシルト塊・焼土・炭化物・漆喰片含む)</p> <p>3. 黄灰色 (2.5Y 4/1) 細礫混じり細粒砂 (1cm大の礫多量に含む。径4~12cm大の礫・焼土・炭化物少量含む)</p> <p>4. 黒褐色 (10YR 2/2) 細砂 (径1~20cm大の礫・炭化物・焼土含む)</p> <p>5. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり細砂 (炭化物・焼土含む)</p> <p>6. 褐灰色 (7.5YR 4/1) 細砂~極細粒砂 (径1~3cm大の礫・炭化物・土器片少量含む)</p> <p>7. 褐灰色 (7.5YR 5/1) 細礫混じり極細粒砂~細砂 (土器片・炭化物少量含む)</p> <p>8. 灰褐色 (7.5YR 4/2) 細礫混じり細砂 (径4~6cm大の礫・焼土・炭化物少量含む)</p> <p>9. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細礫混じり細砂 (炭化物・焼土含む)</p> <p>10. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 細礫混じり細砂 (径2cm大の礫・炭化物含む)</p> <p>11. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 細礫混じり細砂 (径7cm大の礫・炭化物含む)</p> <p>12. 褐灰色 (7.5YR 4/1) 細礫混じり細砂 (径4cm大の礫・炭化物含む)</p> <p>13. 褐灰色 (10YR 4/1) 細礫混じり細砂 (径2cm以下の礫含む径3~6cm大の礫少量含む)</p> <p>14. 黒褐色 (10YR 3/1) 細礫混じり細砂 (径8~12cm大の礫・炭化物含む)</p> <p>15. 褐灰色 (10YR 4/1) 細砂 (径3cm大の礫・炭化物・焼土含む)</p> <p>16. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細砂~極細粒砂 (径3~6cm大の礫・炭化物少量含む)</p> <p>17. 黄灰色 (2.5Y 4/1) 細礫混じり細砂 (径2cm以下の礫・径6~20cm大の礫少量含む)</p> <p>18. 褐灰色 (10YR 4/1) 細礫混じり細粒砂 (径2~4cm大の礫・炭化物・土器片少量含む)</p> <p>19. 褐灰色 (10YR 4/1) 細礫混じり細粒砂 (径3cm大の礫・土器片含む)</p> <p>20. 黒褐色 (10YR 3/2) 極細~細粒砂 (径4~8cm大の礫・炭化物・土器片少量含む)</p> <p>21. 褐灰色 (7.5YR 4/1) 極細~細粒砂 (炭化物含む)</p> <p>22. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 砂質シルト (極細粒砂~細砂) 下層に細砂堆積</p> <p>23. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり細粒砂 (径12~20cm大の礫・炭化物少量含む)</p> <p>24. 褐灰色 (10YR 5/1) 砂質シルト (中粒砂混じり粗シルト) (径2~4cm大の礫少量含む)</p> | <p>25. 黄灰色 (2.5Y 5/1) 砂質シルト (中粒砂混じり極細粒砂) (径4~8cm大の礫少量含む)</p> <p>26. 褐灰色 (7.5YR 4/2) 細砂 (径1~2cm大の礫・炭化物・土器片少量含む)</p> <p>27. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり細粒砂 (径8~20cm大の礫含む)</p> <p>28. 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) 砂質シルト (極細粒砂~中粒砂)</p> <p>29. 黄褐色 (2.5Y 5/4) 砂質シルト (中粒砂~粗シルト) (径2~4cm大の礫少量含む)</p> <p>30. 黒褐色 (2.5Y 3/1) 細砂~中粒砂 (径2~20cm大の礫少量含む)</p> <p>31. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり細砂 (径3cm大の礫・炭化物含む)</p> <p>32. 褐灰色 (7.5YR 5/1) 還元土と褐色 (7.5YR 4/3) 酸化土の細礫混じり細粒砂 (径2~4cm大の礫・土器片少量含む)</p> <p>33. 褐灰色 (10YR 4/1) 還元土とにぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混じり細砂 (土器片少量含む)</p> <p>34. 黄灰色 (2.5Y 4/1) 還元土と灰褐色 (7.5YR 4/2) 酸化土の極細粒砂~細砂 (径2~6cm大の礫少量含む)</p> <p>35. 黄灰色 (2.5Y 4/1) 還元土と灰褐色 (7.5YR 4/2) 酸化土の極細粒砂~細砂</p> <p>36. 褐灰色 (10YR 5/1) 細礫混じり細砂 (径3~6cm大の礫・土器片・炭化物少量含む)</p> <p>37. 暗灰黄色 (7.5Y 4/2) 細礫混じり極細粒砂~細砂 (径2~6cm大の礫含む)</p> <p>38. 黄灰色 (2.5Y 4/1) 細礫混じり細砂~極細粒砂 (明黄褐色 (2.5Y 6/6) シルト塊含む)</p> <p>39. 黄灰色 (2.5Y 4/1) 細礫混じり細砂~極細粒砂 (径2cm以下の礫含む。土器片少量含む)</p> <p>40. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり極細粒砂~細砂 (径3cm大の礫含む)</p> <p>41. 褐灰色 (10YR 4/1) シルト質砂 (極細粒砂~中粒砂) (径1~8cm大の礫含む。炭化物少量含む)</p> <p>42. 黒褐色 (10YR 3/1) 細礫混じり極細粒砂~細砂 (径4~8cm大の礫含む。炭化物少量含む)</p> <p>43. 黄灰色 (2.5Y 4/1) シルト質砂 (極細粒砂~中粒砂) (径1~6cm大の礫少量含む)</p> <p>44. 褐灰色 (10YR 4/1) 極細粒砂~細砂 (径2~6cm大の礫・炭化物・土器片少量含む)</p> <p>45. 黄灰色 (2.5Y 5/1) 細礫混じり極細粒砂~細砂 (径4~24cm大の礫・炭化物・土器・シルト塊少量含む)</p> <p>46. 黄灰色 (2.5Y 4/1) シルト質砂 (極細粒砂~中粒砂) (径2cm以下の礫含む。炭化物少量含む)</p> <p>47. 褐灰色 (10YR 4/1) 細礫混じり極細粒砂~細砂 (径2~6cm大の礫含む。明黄褐色 (10YR 6/6) シルト塊少量含む)</p> |
|--|---|

第20図 S D3370東側アゼ実測図

S D3370東側アゼ土色

- 48. 褐灰色 (7.5YR 4/1) わずかに砂質シルト (極細粒砂～中粒砂・粗シルト) (径4～8cm大の礫・炭化物・土器少量含む)
- 49. 褐灰色 (10YR 4/1) シルト質砂 (極細粒砂～粗砂) (径2～6cm大の礫多量に含む)
- 50. 明黄褐色 (10YR 6/6) シルト・褐灰色 (7.5YR 5/1) 極細粒砂 (径2～15cm大の礫含む)
- 51. 灰色 (N 5/) 酸化砂質シルト (極細粒砂～中粒砂) (径1～4cm大の礫含む。明黄褐色 (7.5Y 7/6) 酸化シルト塊含む)
- 52. 灰色 (N 4/) 酸化砂質シルト (極細粒砂～中粒砂～粗シルト) (径1～4cm大の礫少量含む。明黄褐色 (7.5Y 7/6) 酸化シルト塊含む)
- 53. 褐灰色 (10YR 5/1) 砂質シルト (粗砂～中粒砂、極細粒砂～粗シルト) (径2～4cm大の礫少量含む。明黄褐色 (10YR 7/6) シルト塊含む)
- 54. 褐灰色 (7.5YR 5/1) 砂質シルト (極細粒砂～中粒砂～粗シルト) (径2～4cm大の礫少量含む。明黄褐色 (10YR 7/6) シルト塊、土器片少量含む)
- 55. 灰色 (N 5/) シルトブロック状に混じる、明オリーブ灰色 (2.5GY 7/1) シルト
- 56. 明褐灰色 (7.5YR 7/1) シルト
- 57. 褐灰色 (7.5YR 5/1) 砂質シルト (極細粒砂～中粒砂) (炭化物・土器片少量含む)
- 58. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 砂礫 (中粒砂混じり粗砂) (径2～6cm大の礫少量含む)
- 59. 黒褐色 (10YR 3/1) 細礫混じり極細粒砂 (径4～8cm大の礫含む。明黄褐色 (10YR 6/6) シルト塊含む)
- 60. 黒色 (2.5Y 2/1) 泥
- 61. 灰黄褐色 (10YR 5/2) 細砂～中粒 (径4～12cm大の礫含む)
- 62. 黄灰色 (2.5Y 4/1) シルト質砂 (中粒砂～粗砂、粗シルト) (径2～4cm大の礫少量含む)
- 63. 灰色 (N 6/) 還元土混じり褐灰色 (7.5YR 4/1) 酸化シルト (部分的に中粒砂混じる)



- 1. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり細粒砂 (径2cm大の礫・径6～17cm大の礫少量含む。炭化物・土器片少量含む)
- 2. 黒褐色 (10YR 3/1) 細礫混じり細粒砂 (径4～8cm大の礫少量含む。鉄分沈着)
- 3. 褐灰色 (7.5YR 4/1) 細礫混じり細粒砂 (径2～6cm大の礫・炭化物少量含む)
- 4. 黒褐色 (10YR 3/1) 細礫混じり極細粒砂～細粒砂 (径3～6cm大の礫・炭化物・土器片少量含む)
- 5. 黄灰色 (2.5Y 4/1) 細礫混じり細粒砂 (径2～4cm大の礫・炭化物・土器片少量含む)
- 6. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 細礫混じり細粒砂 (径2～6cm大の礫少量含む)
- 7. 黒褐色 (2.5Y 3/1) 細粒砂 (径4～12cm大の礫多量含む)
- 8. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり細粒砂 (径2cm以下の礫・土器片少量含む)
- 9. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり極細粒砂 (径3cm以下の礫・土器片少量含む)
- 10. 褐灰色 (10YR 4/1) 細礫混じり極細粒砂～細粒砂 (径2～4cm大の礫・炭化物・土器片少量含む)
- 11. 黄灰色 (2.5Y 4/1) 極細粒砂～細粒砂 (径6～20cm大の礫多量含む)
- 12. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混じり細粒砂 (径1cm以下の礫含む。径4～8cm大の礫少量含む。明黄褐色 (10YR 6/6) のシルト塊含む)
- 13. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり細粒砂 (径6～8cm大の礫含む。土器片少量含む)
- 14. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 極細粒砂～中粒砂 (炭化物少量含む)
- 15. 灰黄色 (2.5Y 6/2) 極細粒砂～中粒砂
- 16. 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) 細礫混じり極細粒砂～中粒砂 (土器片少量含む)
- 17. 褐灰色 (7.5YR 4/1) 細礫混じり極細粒砂～細粒砂 (径2～6cm大の礫・炭化物・土器片少量含む)
- 18. 黒褐色 (10YR 3/1) 細礫混じり細粒砂～中粒砂 (土器片少量含む)
- 19. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 極細粒砂～中粒砂 (径2～4cm大の礫・炭化物・土器片少量含む)
- 20. 灰褐色 (7.5YR 4/2) 粗砂～中粒砂 (シルト質砂) (径1cm以下の礫含む。径2～4cm大の礫少量含む)
- 21. 褐灰色 (10YR 4/1) 細礫混じり細粒砂 (径2～6cm大の礫・径10～30cm大の石・炭化物・土器片少量含む)
- 22. 灰黄褐色 (10YR 5/2) 極細粒砂
- 23. 褐灰色 (10YR 4/1) 極細粒砂～細粒砂 (径2cm以下の礫含む。炭化物・土器片少量含む)
- 24. 褐色 (7.5YR 4/3) 粗砂～中粒砂 (径1cm以下の礫含む)
- 25. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粗砂 (径2cm以下の礫含む)
- 26. 黒褐色 (10YR 3/1) シルト質砂 (粗砂～中粒砂・極細粒砂～粗シルト) (炭化物少量含む)
- 27. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり細粒砂 (径4cm以下の礫少量含む。炭化物少量含む。井戸の掘形埋土)

第21図 S D3370西側アゼ実測図

測る。土師器が出土した。16世紀後半(第79図61)。

S P 125 (第8図) 1区北部(13-o)で検出した柱穴である。南北0.67m、東西1m、深さ0.1mを測る。土師器、白磁が出土した。15世紀後半(第79図55～57)。

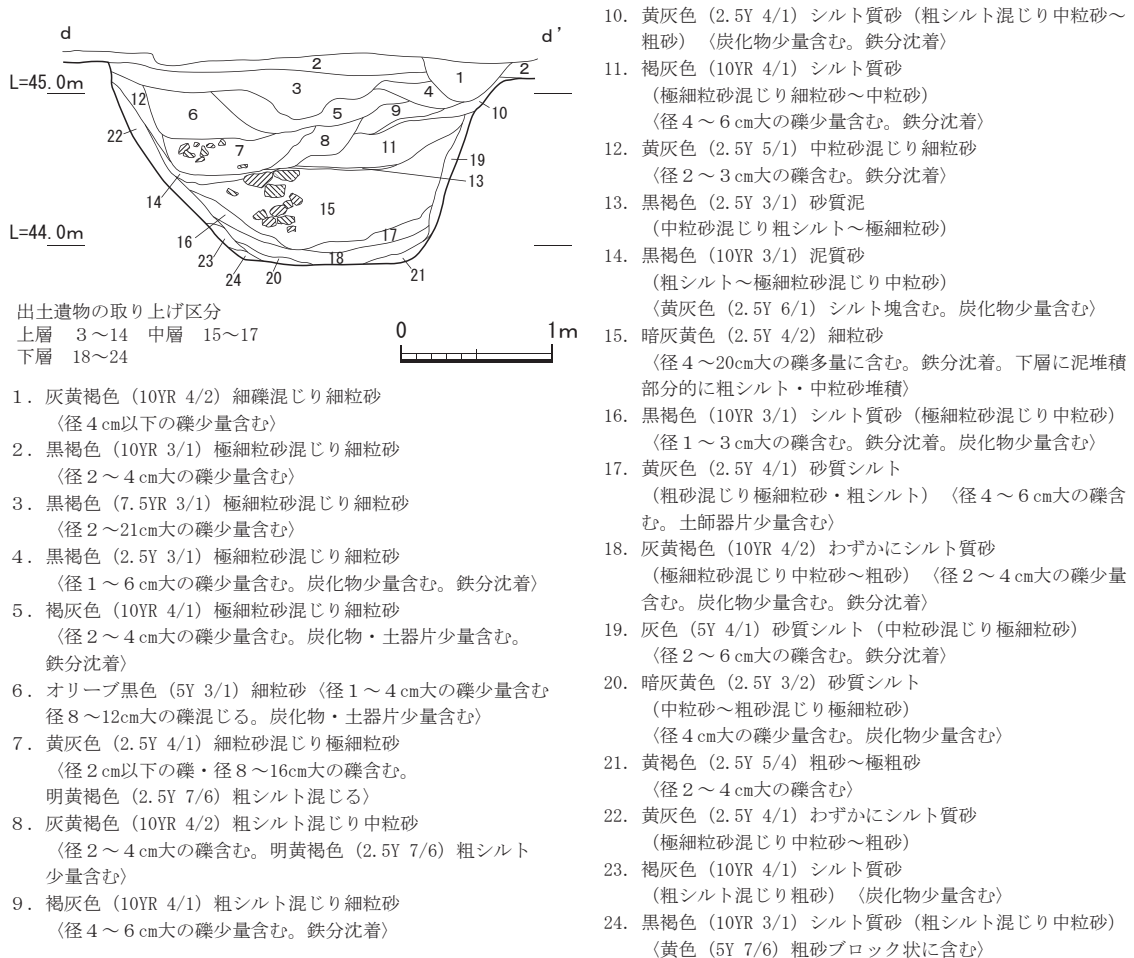
S P 192 (第8図) 1区北部(13-o)で検出した柱穴である。南北0.28m、東西0.19m、深さ0.28mを測るが、西部が削平されている。埋土は黒褐色細礫混じりシルト質細粒砂で、粒径4～6cmの礫を含む。土師器皿片が出土した。15世紀第4四半期(第79図62)。

S P 2107 (第29図) 2区南東部(10-s)第2面で検出した柱穴である。南北0.45m、東西0.45m、深さ0.2mを測る。土師器皿が出土した。14世紀後半～15世紀初頭(第79図48～52)。

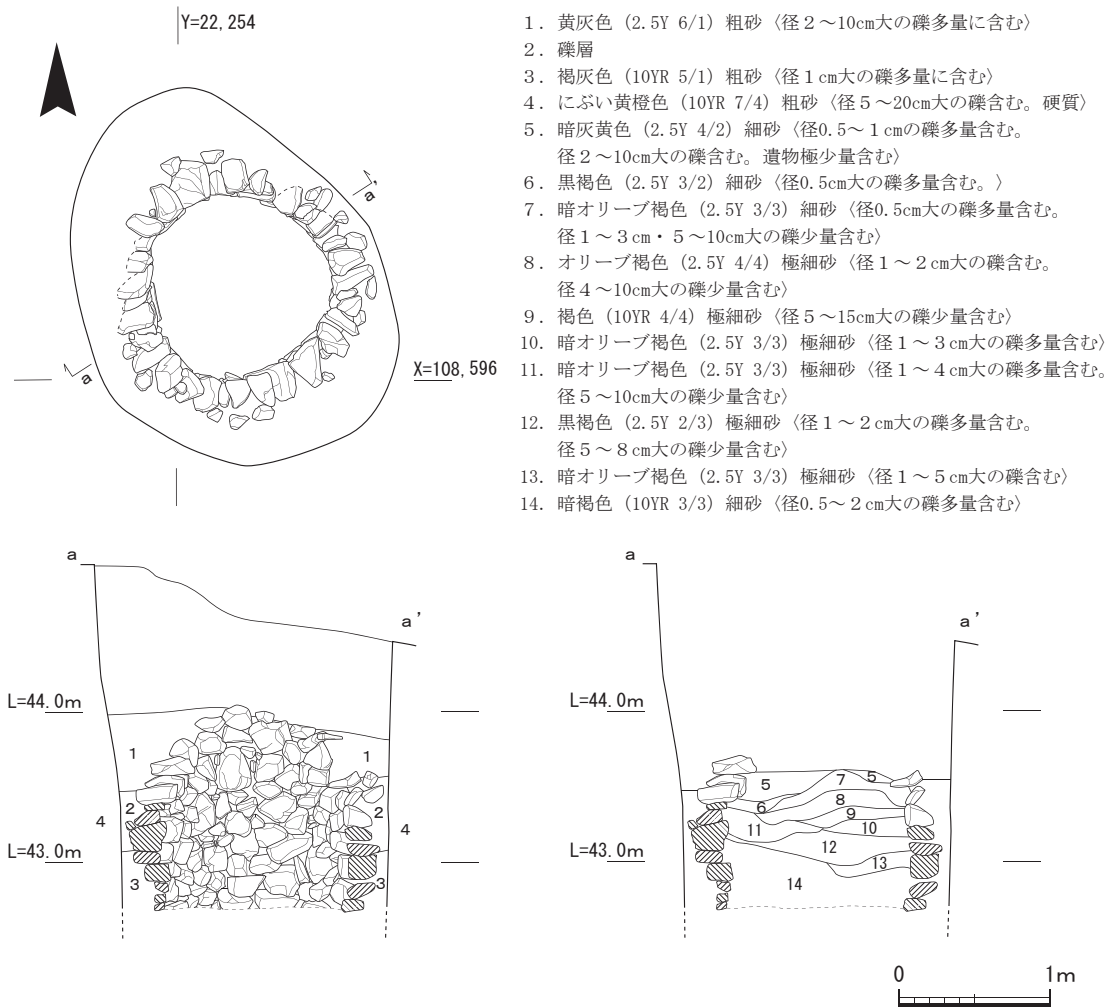
S P 2121 (第7図) 2区南東部(10-t)で検出した柱穴である。南北0.42m、東西0.41m、深さ0.08mを測る。埋土は黒褐色細粒砂で、粒径4～6cmの礫を少量含む。土師器皿、青磁が出土した。16世紀第2四半期(第79図58～60)。

S P 3439 (第7図) 3区中央付近(11-v)で検出した柱穴である。南北0.3m、東西0.3m、深さ0.2mを測る。埋土は灰黄褐色の粗砂混じり中粒砂で炭化物やにぶい黄褐色のシルトブロックを少量含む。柱穴痕が残存する。土師器皿や羽釜が出土した。15世紀前半(第79図53・54)。

S P 3596 (第7図) 3区北東部(9-u)で検出した柱穴である。南北0.15m、東西0.17m、深さ



第22図 S D 3550実測図



1. 黄灰色 (2.5Y 6/1) 粗砂 (径2~10cm大の礫多量に含む)
2. 礫層
3. 褐灰色 (10YR 5/1) 粗砂 (径1cm大の礫多量に含む)
4. にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 粗砂 (径5~20cm大の礫含む。硬質)
5. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 細砂 (径0.5~1cmの礫多量含む。径2~10cm大の礫含む。遺物極少量含む)
6. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細砂 (径0.5cm大の礫多量含む。)
7. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 細砂 (径0.5cm大の礫多量含む。径1~3cm・5~10cm大の礫少量含む)
8. オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 極細砂 (径1~2cm大の礫含む。径4~10cm大の礫少量含む)
9. 褐色 (10YR 4/4) 極細砂 (径5~15cm大の礫少量含む)
10. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 極細砂 (径1~3cm大の礫多量含む)
11. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 極細砂 (径1~4cm大の礫多量含む。径5~10cm大の礫少量含む)
12. 黒褐色 (2.5Y 2/3) 極細砂 (径1~2cm大の礫多量含む。径5~8cm大の礫少量含む)
13. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 極細砂 (径1~5cm大の礫含む)
14. 暗褐色 (10YR 3/3) 細砂 (径0.5~2cm大の礫多量含む)

第23図 S E 3822実測図

0.15mを測る。土師器皿が出土した(第79図47)。

③溝・堀

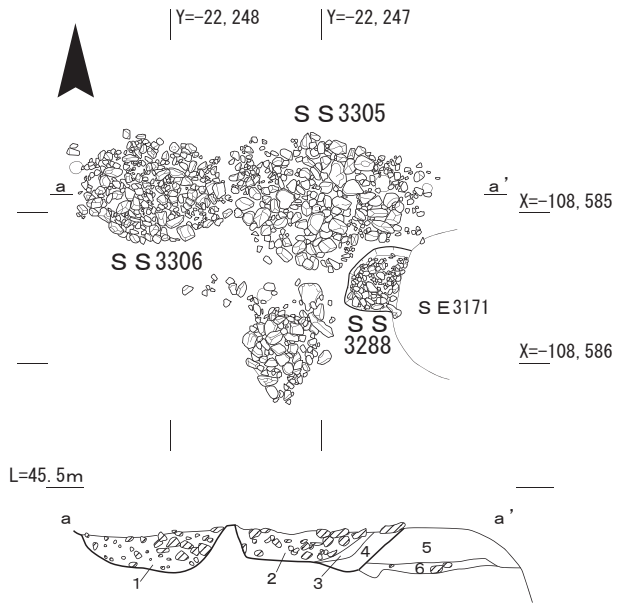
S D77(第10図) 1区中央(14-q)で検出した道路側溝である。出土遺物から室町時代の道路側溝と考えられる。南北0.89m、東西3.59m、深さ0.18mを測るが、西側は調査区外に延び、東側は攪乱により削平されている。土師器皿が出土した。15世紀後半から16世紀初頭(第84図8・9)。

S D81(第18・19図) 1区南西から2区北東部(9~15-o~t)にかけて検出した、南西から北東に縦断する堀である。検出長22.46m、幅3.6m、深さ1.5mを測る。構に伴う堀と考えられ、南側から土砂で埋められていることから、南側に掘削時の土砂を盛土していたと想定される。底の南半分は北半分と比べて0.1m程低く、堀の法面も南側の勾配が強いことから、一度造成した後に南側か北側のいずれかを拡張したと考えられる。こうした状況から、S D81は南側を守る北側に備える堀であったようである。出土遺物は上層から下層にかけて出土するが、堀の造成以前に堆積していた遺物の混入が大半である。土師器皿、瀬戸陶器、須恵器、鍋釜類、瓦質火鉢、中国製染付、中国製青磁、中国製白磁、灰釉陶器などが出土した。15世紀末(第80・81図)。

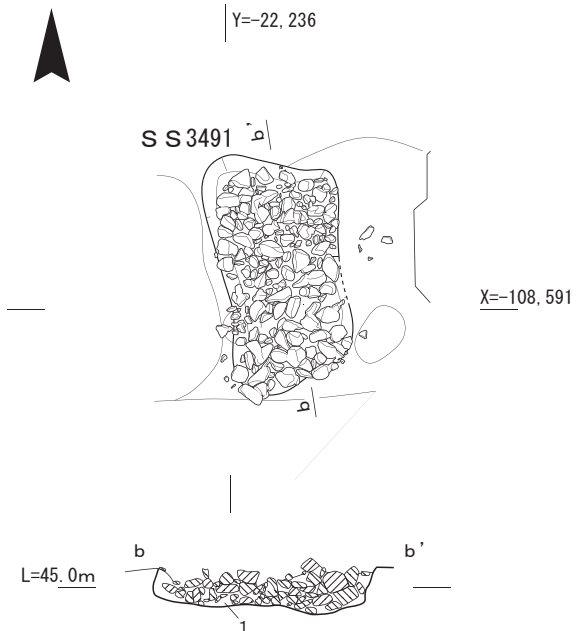
S D200（第8図） 1区北部（12～15-o）で検出した溝である。南北幅1.1mを測るが、削平により本来の規模は判然としない。東西9.57m、深さ0.2mを測る。西側は調査区外に続き、東側は攪乱に削平されている。土師器、土師質羽釜、中国製白磁などが出土した。16世紀初頭（第84図10～16）。

S D3370（第18・20・21図） 3区南西部から東部（9～15-x～a）で検出した堀である。検出長は25mを測るが、東部、西部ともに調査区外に続く。幅約5m、深さ約1.8mを測る。構に伴う堀と考えられる。南側から地山由来の黄色シルトのブロックを包含する土砂で埋められている。中層にかけて人頭大の石がまとまって投棄されており、石は構を構築する構造物の一部であったと想定される。下層にかけて砂層とシルト層が堆積し、一程度の水の流れる環境であったと想定されるが、滞水はしていない。北側の堀S D3550と南側の布掘り柱列S A3425とS A3823は、同時期に造成された構の一部であると考えられる。出土遺物は上層から下層にかけてあるが、堀造成以前にあった遺構由来の遺物が大半を占める。土師器皿、瀬戸陶器、中国製白磁、中国製青磁、中国製染付、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦、石製品が出土した。15世紀末から16世紀初頭（第83図、第84図1～7、第156図6・7、第164図2・5、第169図69）。

S D3550（第18・22図） 3区中央から東部（9～12-t～v）で検出した堀である。検出長12mを測るが、東側は調査区外に続く。幅2.8m、深さ約1.3mを測る。構に伴う堀と考えられる。堀は東から西南に振り、調査区中央で止まる。堆積状況から一度に埋め



1. 黒褐色（10YR 2/2）シルト（径2～10cm礫多く含む）
2. 黒褐色（10YR 3/2）極細粒砂質シルト（径2～15cm礫多く含む）
3. 暗褐色（10YR 3/3）シルト含む極細粒砂
4. 黒褐色（10YR 3/2）細礫含むシルト質細粒砂（径1～3cm礫含む）
5. 暗褐色（10YR 3/4）細礫含むシルト質極細粒砂（径1～2cm礫含む。遺物多く含む）
6. 暗褐色（10YR 3/3）細礫含むシルト質極細粒砂（径3～5cm礫含む）



1. 暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂質シルト（炭化物少量含む）



第24図 S S 3305・S S 3306・S S 3288
・S S 3491実測図

られたことと、滞水していない状況が看取される。南側に堀 S D3370 と布掘り柱列 S A3425 と S A3823 があり、同時期に造成された構の一部であると考えられる。出土遺物は上層から下層にかけて出土するが、掘造成以前にあった遺構由来の遺物が大半を占める。土師器皿、中国製白磁、中国製青磁、中国製天目などが出土した。15世紀末から16世紀初頭(第82図、第164図3・4)。

④井戸

S E3822(第23図) 3区南西部(14-x・y)で検出した石組井戸である。南北2.07m、東西2.05m、深さ2.3mを測るが、安全対策上これ以上の掘削をしていない。堀 S D3370により削平されている。土師器皿、白磁皿の細片が出土した。15世紀(第85図1～4)。

⑤集石遺構

S S2199(第7図) 2区南部(11・12-s)で検出した集石土坑である。南北1.2m、東西2.5m、深さ0.17mを測るが、一部削平を受けている。埋土は黒褐色細粒砂で、粒径6～20cmの礫を多量に含む。土師器皿、緑釉陶器、瀬戸陶器が出土した。14世紀後半～15世紀初頭(第86図5～8)。

S S3147(第29図) 3区東部(9-w)第2面で検出した集石土坑である。南北0.9m、東西0.8m、深さ0.12mを測るが、一部削平を受けている。

S S3288(第24図上) 3区北部(12-v)で検出した集石土坑である。南北0.45m、0.35mを測るが東側は S E3171により削平されている。埋土は黒褐色の細粒砂である。粒形5～10cmの礫が充填されていた。

S S3305(第24図上) 3区北部(12-v)で検出した集石土坑である。南北0.75m、東西0.95m、深さ0.25mを測る。埋土は黒褐色の極細粒砂で炭化物を含む。

S S3306(第24図上) 3区北部(12・13-v)で検出した集石土坑である。南北0.74m、東西0.93m、深さ0.3mを測る。埋土は黒褐色極細粒砂で炭化物を含む。土師器皿が出土した。16世紀初頭か(第85図25・26)。

S S3390(第29図) 3区中央部(12-v)第2面で検出した集石土坑である。南北0.8m、東西0.85m、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色細粒砂で、粒径10～25cmの礫を多量に含む。土師器皿が出土した。16世紀第2四半期(第85図27・28)。

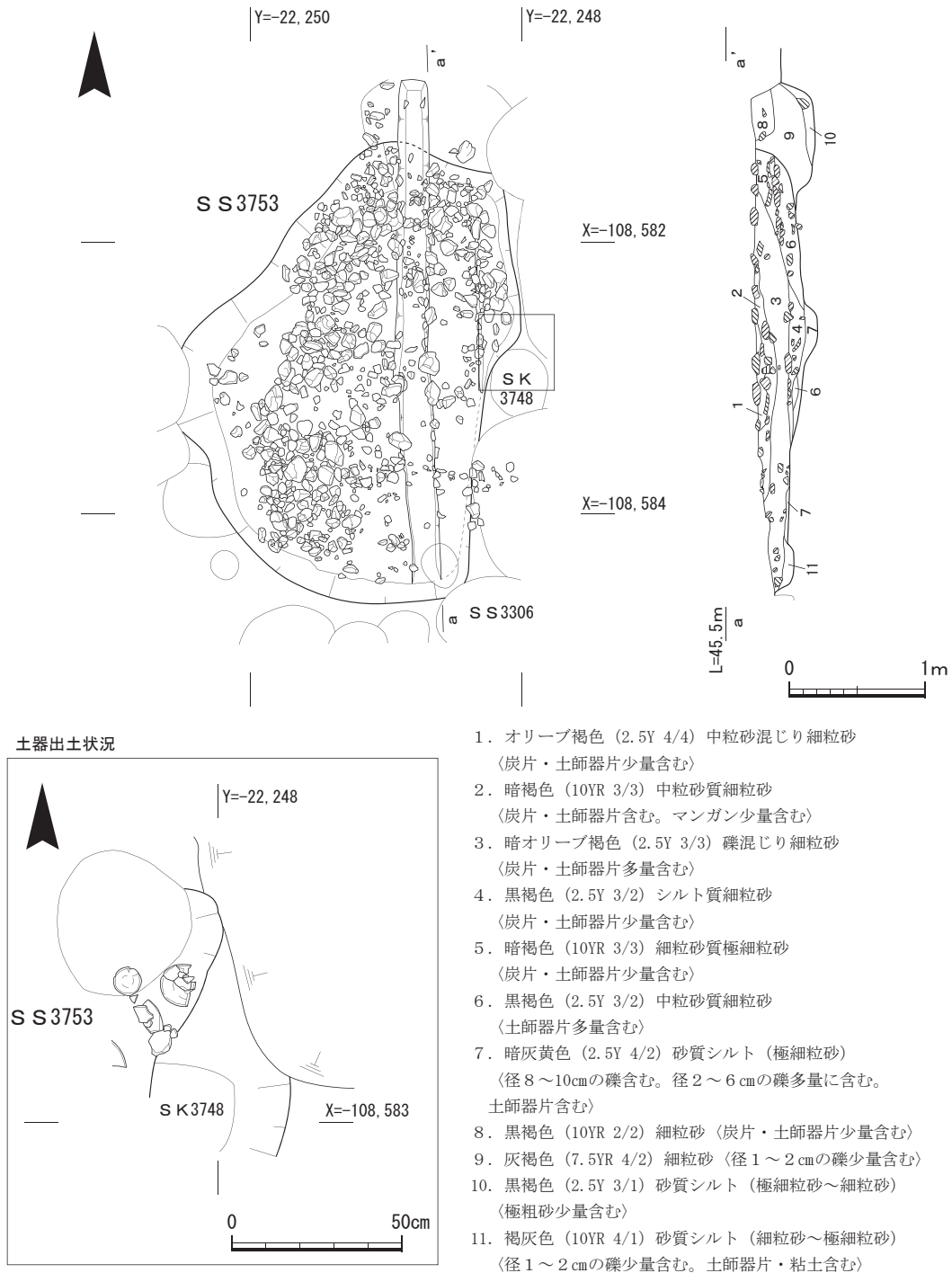
S S3478(第7図) 3区北部(11-t)で検出した集石土坑である。南北0.4m、東西0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は黄灰色細礫混じり細粒砂で、粒径8～16cmの礫を多量に含む。土師器皿が出土した。16世紀前半(第85図20～22)。

S S3479(第7図) 3区北部(11-t)で検出した集石土坑である。南北0.3m、東西0.35m、深さ0.15mを測る。埋土はオリーブ褐色中粒砂～細粒砂で細礫を含み、8～16cmの礫を多量に含む。土師器皿が出土している。15世紀初頭～半ば(第85図5～7)。

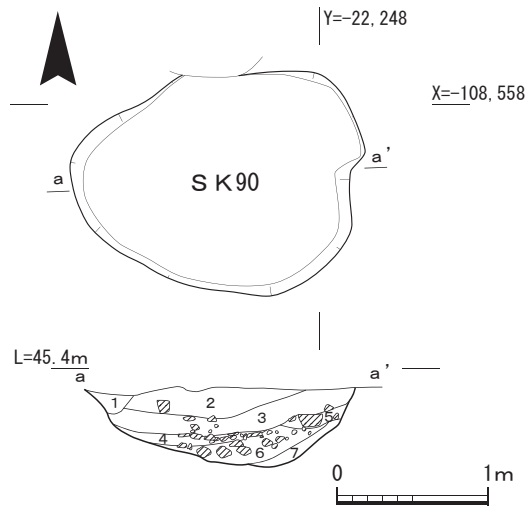
S S3491(第24図下) 3区東部(9-w)で検出した集石土坑である。南北0.59m、東西0.41m、深さ0.35mを測る。土師器皿、大和の火鉢が出土している。16世紀(第85図23・24)。

S S3507(第7図) 3区北東部(9・10-u)で検出した集石土坑である。南北0.74m、東西1.15m、深さ0.1mを測る。土師器皿が出土した。15世紀後半～16世紀初頭(第85図14～19)。

S S 3753 (第25図) 3区北部(13-u・v)で検出した集石土坑である。南北3.3m、東西2.3m、深さ0.4mを測る。下層に粒径5~10cmの礫が多量に混入する。土師器皿や瓦質羽釜、瀬戸陶器などが出土した。16世紀半ば(第85図8~13)。

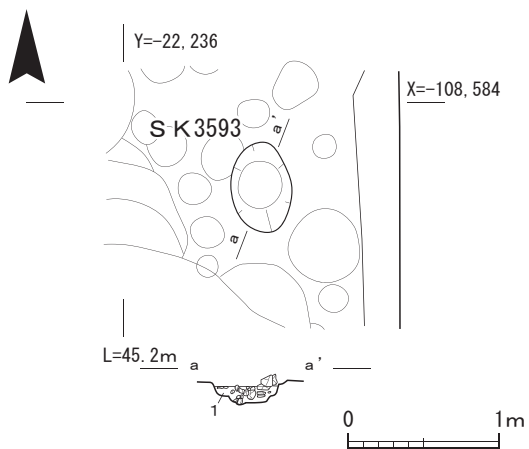
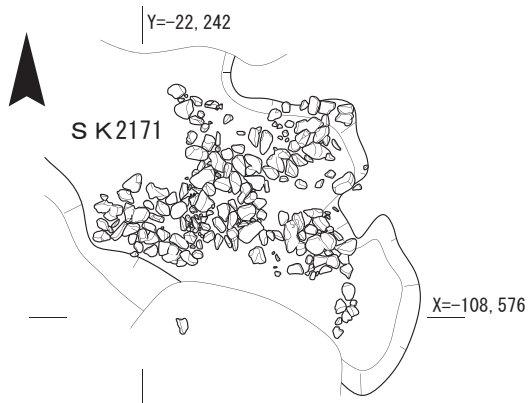


第25図 S S 3753実測図



1. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 極細粒砂
2. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 細礫混じる細粒砂
3. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) シルト混じる細粒砂
4. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 極細粒砂
〈明黄褐色のシルトブロック (地山由来) 含む〉
5. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 極細粒砂
6. 黒褐色 (2.5Y 3/2) シルト混じる細粒砂
7. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 細礫含む極細粒砂

第26図 SK90実測図



1. 黄褐色 (10YR 3/2) 細礫混極細粒砂
〈炭化物多量に含む〉

第27図 SK2171・3593実測図

⑥土坑

SK90(第26図) 1区北部(13-o)で検出した廃棄土坑である。南北1.47m、東西2m、深さ0.6mを測る。土師器、中国製青磁、中国製白磁、瀬戸陶器などが出土した。15世紀末～16世紀初頭(第87図1～13)。

SK180(第8図) 1区北部(12-o)で検出した柱穴である。南北0.14m、東西0.24m、深さ0.15mを測るが、ほか遺構により削平されている。埋土は暗灰黄色細礫混じりシルト質細粒砂で、粒径3～6cmの礫を少量含む。土師器、瓦質風炉、中国製陶磁器が出土した。16世紀初頭(第87図14～20)。

SK208(第8図) 1区北部(12-o)で検出した柱穴である。南北0.88m、東西0.81m、深さ0.23mを測る。土師器、備前、白磁、青磁、瓦が出土した(第88図1～6・第156図5)。

SK2104(第29図) 2区南東部(9・10-s)第2面で検出した土坑である。南北0.85m、東西0.65m、深さ0.2mを測る。土師器皿が出土した。16世紀初頭(第86図48)。

SK2105(第29図) 2区南東部(9-s)第2面で検出した土坑である。南北0.45m、東西0.45m、深さ0.18mを測る。底部が被熱して赤色に変色し炭化物が堆積する特徴から、かまどの可能性も考えられる。土師器皿片が出土した。16世紀初頭(第86図49)。

SK2154(第7図) 2区東部(9-r)で検出した廃棄土坑である。南北0.66m、東西0.34m、深さ0.2mを測る。埋土は黒褐色細粒砂で粒径2～3cmの礫を少量含む。土師器皿とガラス製品が出土した。16世紀初頭(第87図28～30・第170図9)。

SK2157(第7図) 2区南部(10-t)で検出した廃棄土坑である。南北0.65m、東西0.95m、

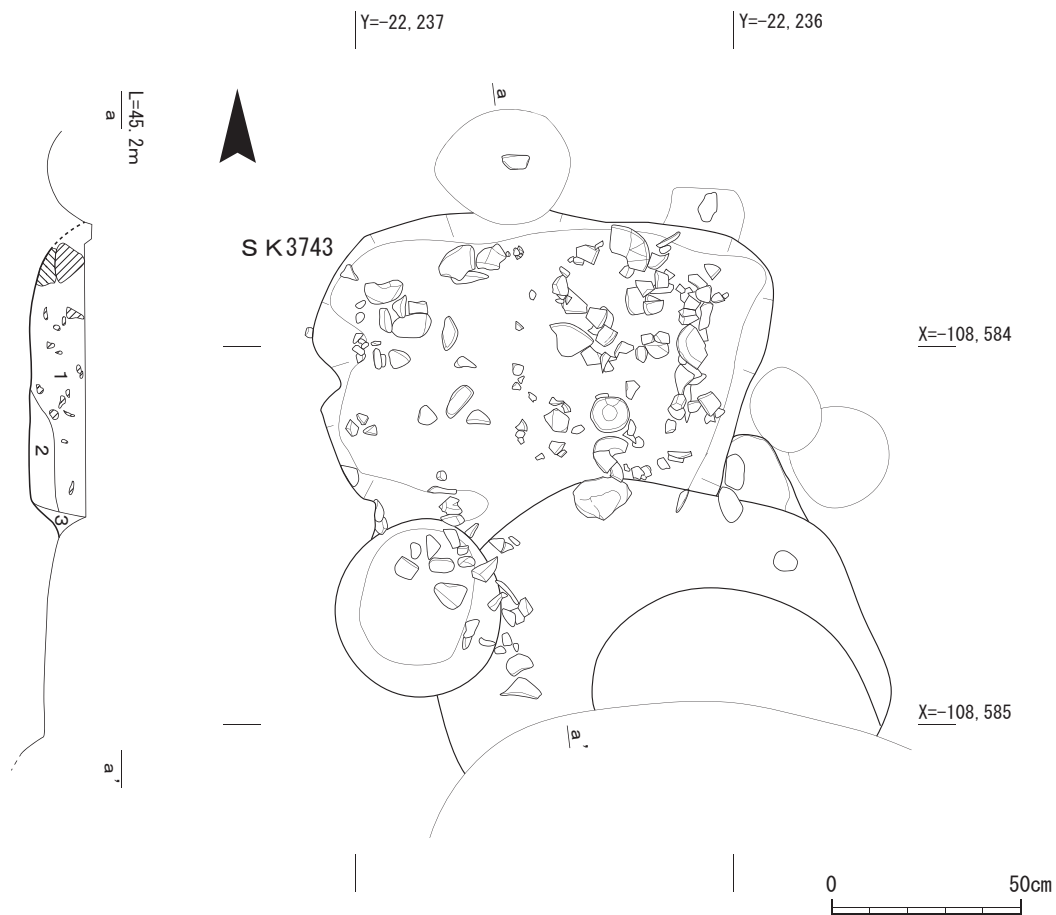
深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂で、粒径8～20cmの礫を含む。土師器がまともに出土した。15世紀後半(第86図23～47)。

S K 2171 (第27図上) 2区南部(11-s)で検出した落ち込み状土坑である。南北1.28m、東西1m、深さ0.1mを測る。埋土はオリーブ黒色中粒砂～細粒砂で、粒径8～16cmの礫を多量に含む。羽釜が出土した(第88図7)。

S K 2185 (第7図) 2区南部(9・10-s)で検出した廃棄土坑である。南北0.9m、東西0.4m、深さ0.18mを測る。埋土は暗褐色細礫混じり中粒砂である。土師器皿が出土した。14世紀末～15世紀初頭(第86図9～14)。

S K 2204 (第7図) 2区東部(9・10-q)で検出した廃棄土坑である。埋土は黒褐色細礫混じり極細粒砂で、粒径2～4cmの礫と炭化物を少量含む。土師器皿、瓦器などが出土した。15世紀半ば(第86図15～22)。

S K 3381 (第7図) 3区北部(13-t)で検出した土坑である。南北0.6m、東西0.7m、深さ0.1mを測る。土師器皿、瓦質火鉢、中国製青磁が出土した。16世紀第1四半期(第87図21～27)。



1. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり細粒砂 (土器片含む。径1～4cmの石含む。炭化物混じる)
2. 暗褐色 (10YR 3/3) 細中粒砂 (褐色 (10YR 4/6) の粘質土ブロックで多く含む)
3. 黄褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり細粒砂 (径3cmの石含む)

第28図 S K 3743実測図

S K 3593 (第27図下) 3区東部(9-v)で検出した土坑である。深さ0.15mを測る。土師器が出土した。16世紀半ば(第87図32・33)。

S K 3743 (第28図) 3区北東部(9・10-u・v)で検出した土坑である。南北0.8m、東西1.2m、深さ0.2mを測る。土師器皿が出土した。16世紀初頭(第87図31)。

S K 3831 (第7図) 3区北東部(9-t)で検出した土坑である。南北0.3m、東西0.2m、深さ0.15mを測るが削平を受けている。土師器皿が出土した。14世紀半ば(第86図1～4)。

⑦その他

S X 2165 (第29図) 3区北部(9-q)第2面で検出した焼土である。南北2m、東西3.5mを測る。東側は調査区外に広がり、南・北・西側は遺構や攪乱により削平されている。炭化物が残存しており、理化学分析を行った。分析の成果から、戦国期の焼土であると判明した。下層にS D 81があり、同遺構の年代を検討する上で重要な焼土である。土師器皿片が出土している。16世紀(第88図8)。

(3)安土桃山時代・江戸時代前期の遺構

安土桃山時代から江戸時代前期(16世紀半ば～17世紀後半)の遺構は主に第2面で検出した。礎石建物跡、道路側溝、井戸、石組遺構、土坑などを検出した。調査地の3区北東部に位置する礎石建物や2区北側の路面に付随する道路側溝などを検出した。遺物は、土師器・中国製陶磁器・国産陶磁器などが出土した。

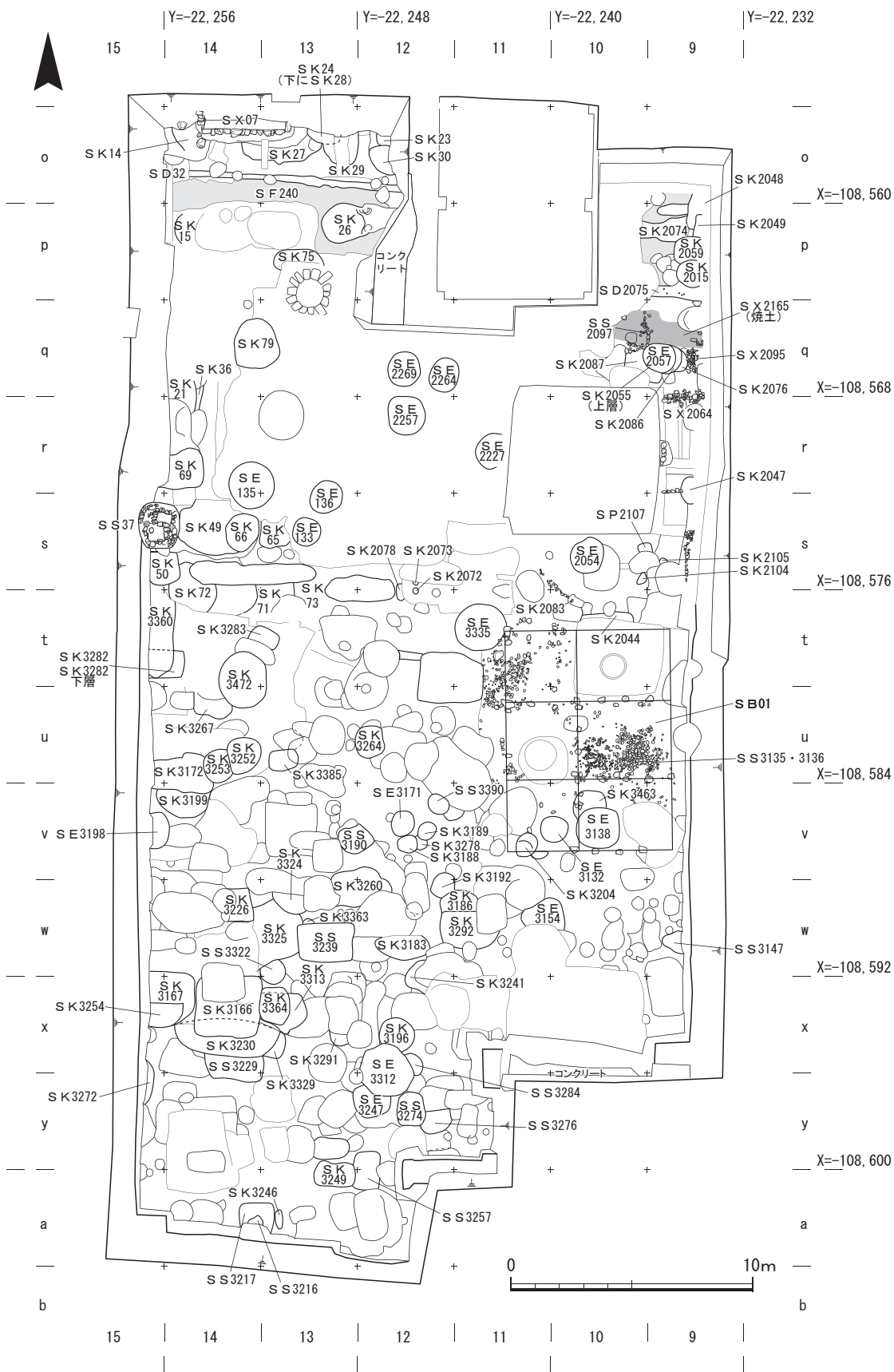
①礎石建物

S B 01 (第30・31図) 3区北東部(10・11-t・u)で検出した礎石建物である。礎石の配置された最大範囲は南北9.1m、東西6.8mであるが、東側は調査区外に続き、西側や北側は削平を受けているため全体の規模は判然としない。また、すべての礎石が現位置を留めているわけではなく、様相を把握することは困難である。東西方向の礎石列は一部に2列の配石が確認でき、若干の高低差があることから、建物が同じ位置に2度にわたり建てられたことが想定される。また、S B 01の下層には集石遺構S S 3135・3136が位置する。これらはいずれも建物の沈み込みを防ぐ目的で敷設されたと考えられる。土師器皿や中国製陶磁器、朝鮮、瀬戸、肥前陶器、銭などが出土した。16世紀末～17世紀初頭(第89図1～18、第169図62)。

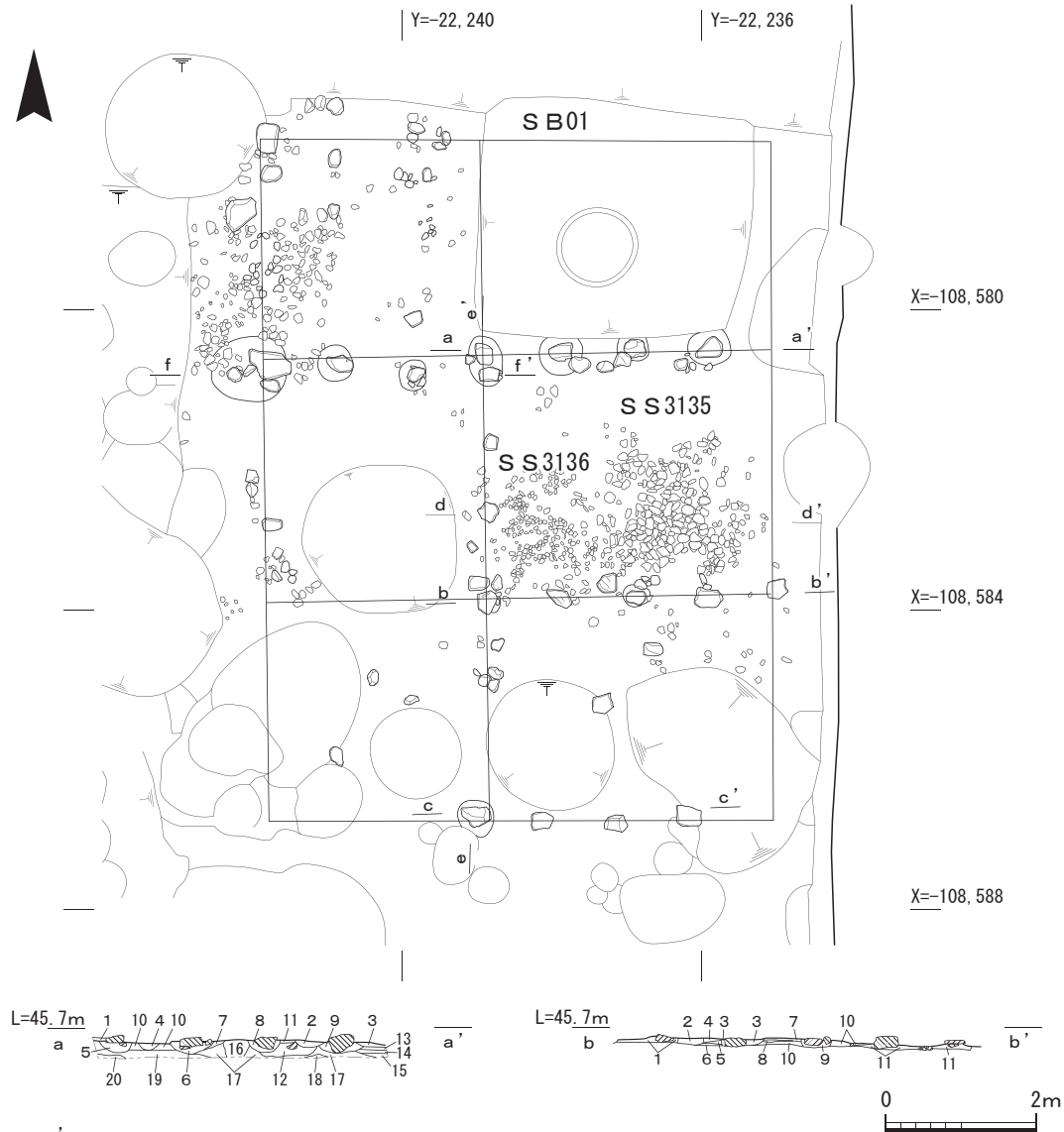
②堀、建物基礎

S X 2058 (第32図) 2区北東部(10-q)で検出した築地跡である。南北幅1.3m、検出長3.7mを測るが、西側が攪乱により削平を受け、東側は調査区外に続く。0.2m程度が残存していた。黄色粘土層と黒色土層が互層状に堆積している。黄色粘土にはスサが混ぜ込まれている。残存する遺構の北端と南端の東西軸には、部分的であるが石が埋め込まれるように配置されている。土師器、肥前陶器、瀬戸美濃陶器、銭などの細片が出土しているが、いずれも黄色粘土に挟まれた黒色土出土である。16世紀末～17世紀初頭(第89図19～40、第165図5・6、第169図40・41・43)。

S X 2064 (第33図) 2区東部(9-q・r)で検出した集石遺構である。南北0.85m、東西1.8mを測るが、東は調査区外に続き、西は攪乱により削平を受けている。ぐり石のまとまった上に60～



第29図 第2面平面図



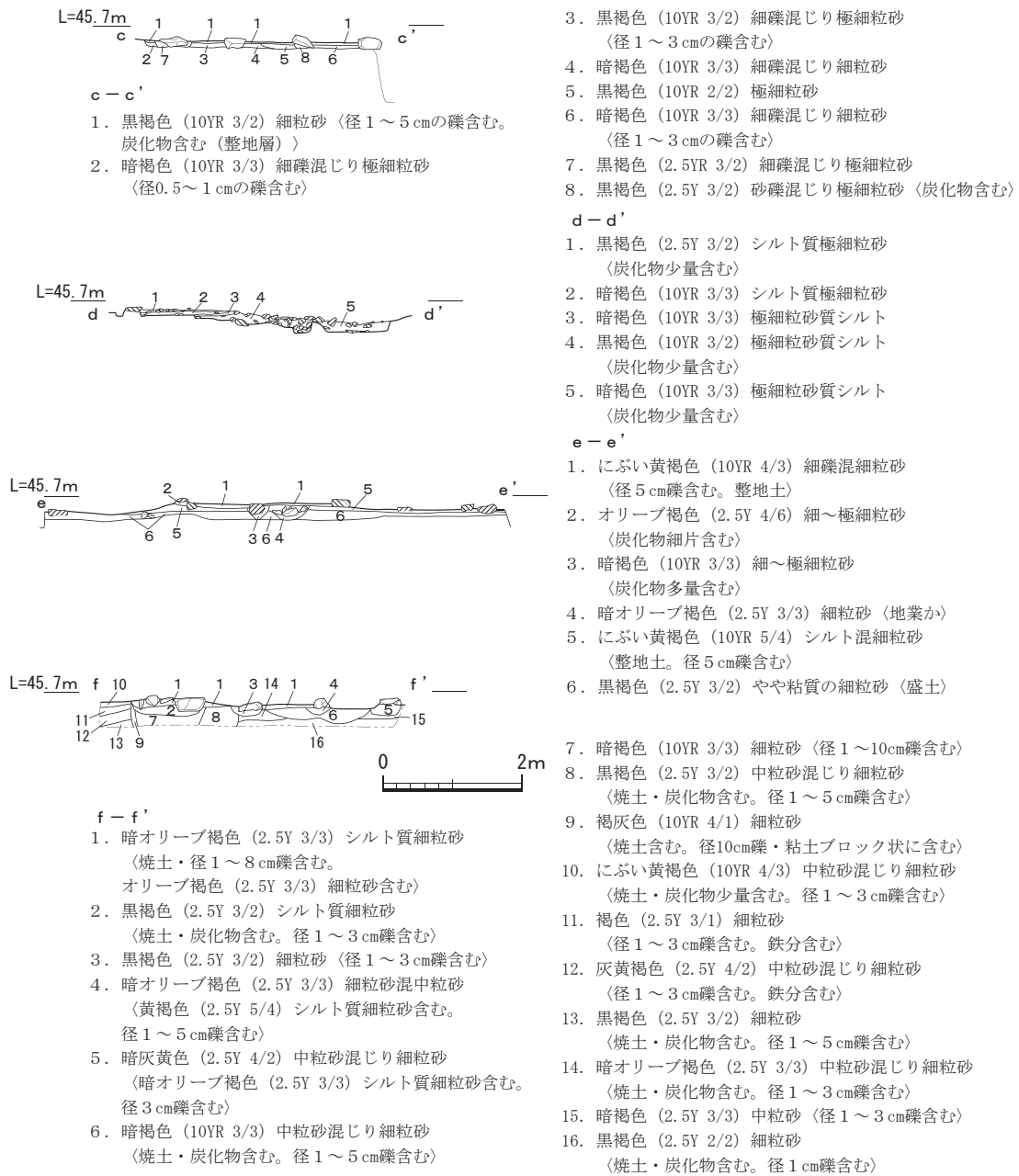
a - a'

1. 褐色 (7.5YR 4/4) シルト質極細粒砂
2. 暗褐色 (10YR 3/4) 細～極細粒砂 (径5cmの礫含む)
3. 暗褐色 (10YR 3/2) シルト混細粒砂 (炭化物多量含む)
4. 暗褐色 (7.5YR 3/4) シルト混細粒砂 (焼土少量含む)
5. 褐色 (7.5YR 4/6) シルト混極細粒砂 (径3cmの礫含む。地業か)
6. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト・細礫混極細粒砂 (地業か)
7. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混細粒砂 (地業か)
8. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂 (地業か)
9. 黒褐色 (10YR 3/2) 細粒砂 (地業か)
10. 黒褐色 (10YR 2/3) 細礫混じり細粒砂 (やや粘質。土器細片含む)
11. 黒褐色 (10YR 2/3) 細礫混細粒砂 (整地土か)
12. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂 (径3～5cmの礫含む)
13. 暗褐色 (10YR 3/4) 細粒砂
14. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂 (炭含む)
15. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混中粒砂
16. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混細粒砂～極細粒砂 (径3～5cmの礫含む)
17. 暗褐色 (10YR 3/4) シルト・細礫混細粒砂 (径3cmの礫含む)
18. 黒褐色 (10YR 2/2) 細粒砂～極細粒砂
19. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混細粒砂 (径0.5cmの礫含む)
20. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂

b - b'

1. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 極細粒砂質シルト
2. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂
3. 黒褐色 (10YR 3/2) 細粒砂質極細粒砂
4. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) シルト質極細粒砂
5. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 極細粒砂
6. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂 (炭化物少量含む)
7. 黒褐色 (10YR 3/2) 細粒砂質極細粒砂 (炭化物少量含む)
8. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) シルト質極細粒砂
9. 暗褐色 (10YR 3/4) シルト質極細粒砂
10. 暗褐色 (10YR 3/4) 細粒砂混じり砂質シルト (炭化物少量含む)
11. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂質極細粒砂

第30図 SB01実測図(1)



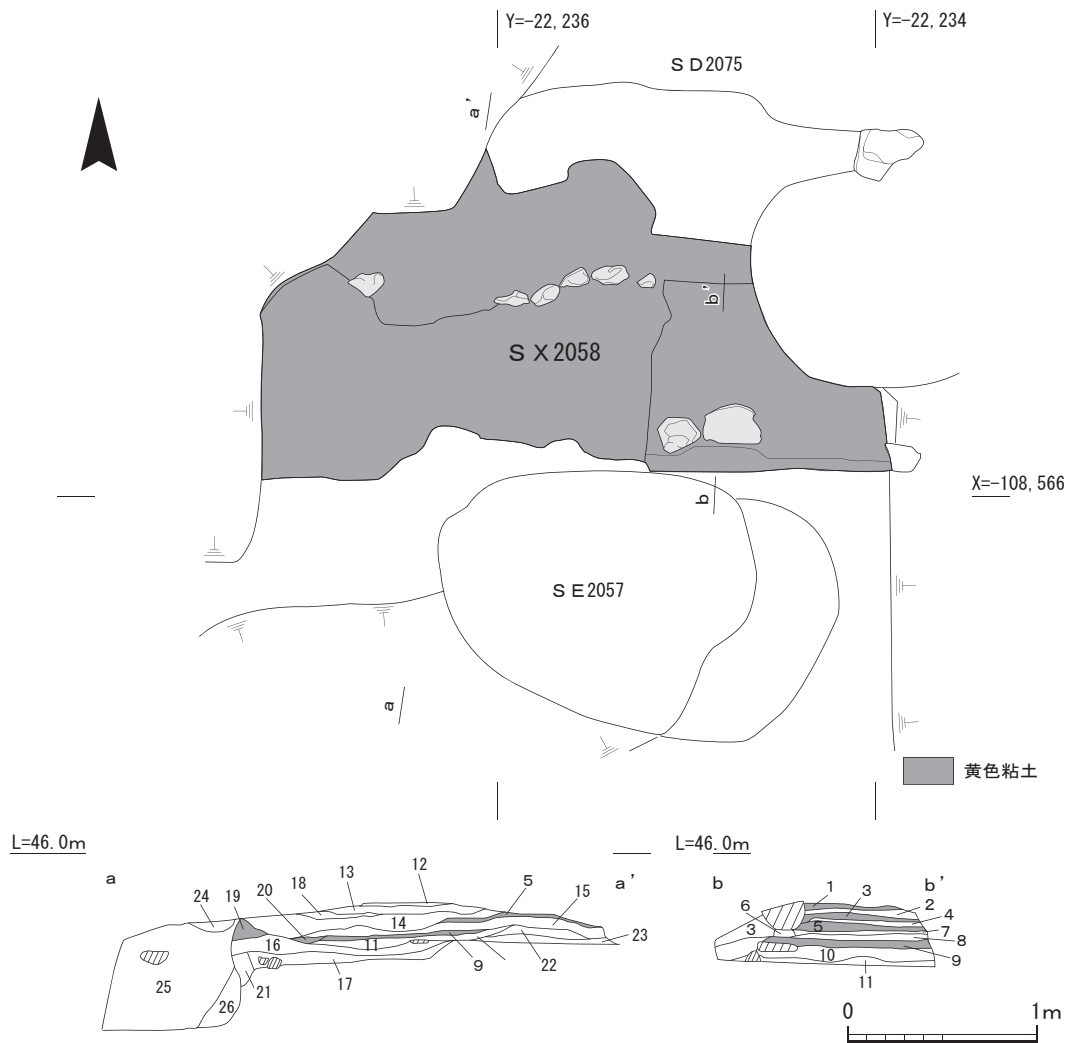
第31図 SB01実測図(2)

80cmの石を据えており、蔵などの建物の基礎部分ではないかと考えられる。土師器、瀬戸美濃陶器、石製品などが出土した。16世紀後半~17世紀初頭(第89図41~48、第165図7)。

S X 2095(第37図) 2区東部(9-q)で検出した集石遺構である。南北2.1m、東西1.8mを測るが、S X 2065と同じく攪乱による削平と調査区外へ広がる状況から全容は判然としない。蔵などの建物の基礎ではないかと考えられる。土師器皿や中国製の白磁、銭が出土した。16世紀末から17世紀前半(第89図49・50、第169図44)。

③礫敷路面

S F 240(第34図) 1区北部(12~14-o・p)で検出した礫敷の路面である。南北幅3mを測るが、



- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 明黄褐色 (10YR 7/6) 粘土 (すざ類含む) 2. 褐色 (10YR 4/4) 粘土 (0.5 ~ 1 cm 大の礫少量含む) 3. にぶい黄褐色 (10YR 5/3) 粘土 (明黄褐色 (10YR 7/6) 土ブロック状に含む、土器片炭化物少量含む) 4. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂混じり粘土 (炭化物含む) 5. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粘土 (0.5 ~ 3 cm 大の礫少量含む) 6. 黄褐色 (10YR 5/6) 粘土 (土器片少量含む) 7. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂混じり粘土 (0.5 ~ 1 cm の礫、炭化物少量含む) 8. 褐色 (10YR 4/4) 中粒砂混じり粘土 (0.5 ~ 1 cm 大の礫含む、明黄褐色 (7.5YR 5/8) 土ブロック状に含む) 9. にぶい黄褐色 (10YR 8/3) 粗砂混じり極細粒砂 (0.5 ~ 1 cm の礫少量含む、明黄褐色 (7.5YR 5/8) 土ブロック状に含む) 10. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 粗砂混じり粘土 (1 ~ 5 cm の礫、炭化物少量含む、明黄褐色 (7.5YR 5/8) 土ブロック状に含む) 11. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混じり細粒砂 (1 ~ 5 cm 大の礫含む、明黄褐色 (7.5YR 5/8) 土ブロック状に含む) 12. 褐色 (7.5YR 4/4) 粘土 (上面に被熱痕) 13. 褐色 (10YR 4/6) 粘土混じりシルト (0.5 ~ 1 cm の礫含む) | <ol style="list-style-type: none"> 14. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混じり細粒砂 15. 褐色 (10YR 4/4) 粘土混じり極細粒砂 (シルトブロック状に含む) 16. 黒褐色 (10YR 3/2) 極細粒砂質シルト (炭化物多量含む) 17. 暗褐色 (10YR 2/2) シルト質極細粒砂 (炭化物含む、粘土ブロック状に少量含む) 18. 褐色 (10YR 4/4) 極細粒砂 19. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粘土 (1 ~ 5 cm 大の礫含む) 20. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) シルト質極細粒砂 (炭化物少量含む) 21. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト質極細粒砂 (1 cm 大の礫少量含む) 22. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂混じり極細粒砂 (1 ~ 5 cm 大の礫含む) 23. 黒褐色 (10YR 3/2) シルト質極細粒砂 (2 ~ 3 cm 大の礫含む、焼土少量含む) 24. 暗褐色 (10YR 3/4) 粗砂混じり極細粒砂 (土器片含む) 25. 暗褐色 (10YR 3/3) 細粒砂混じり極細粒砂 (1 ~ 5 cm 大の礫・焼土含む、褐色 (10YR 4/6) 粘土ブロック・炭化物・土器片含む) 26. 暗褐色 (10YR 3/30) 粗砂混じりシルト質極細粒砂 (1 ~ 3 cm 大の礫、焼土含む) |
|---|---|

第32図 S X 2058実測図

南側は攪乱により削平されている。東西の検出長は9mを測るが、東西いずれも調査区外に広がっている。

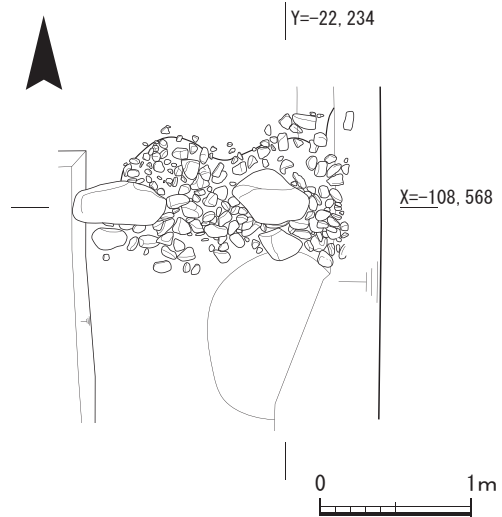
④溝

S D 32（第34図） 1区北部（12～15-o）で検出した道路側溝である。幅0.4m、検出長8.8m、深さ0.06mを測る。埋土は暗褐色の細粒砂である。土師器皿などが出土した。16世紀末から17世紀初頭（第90図9～12）。

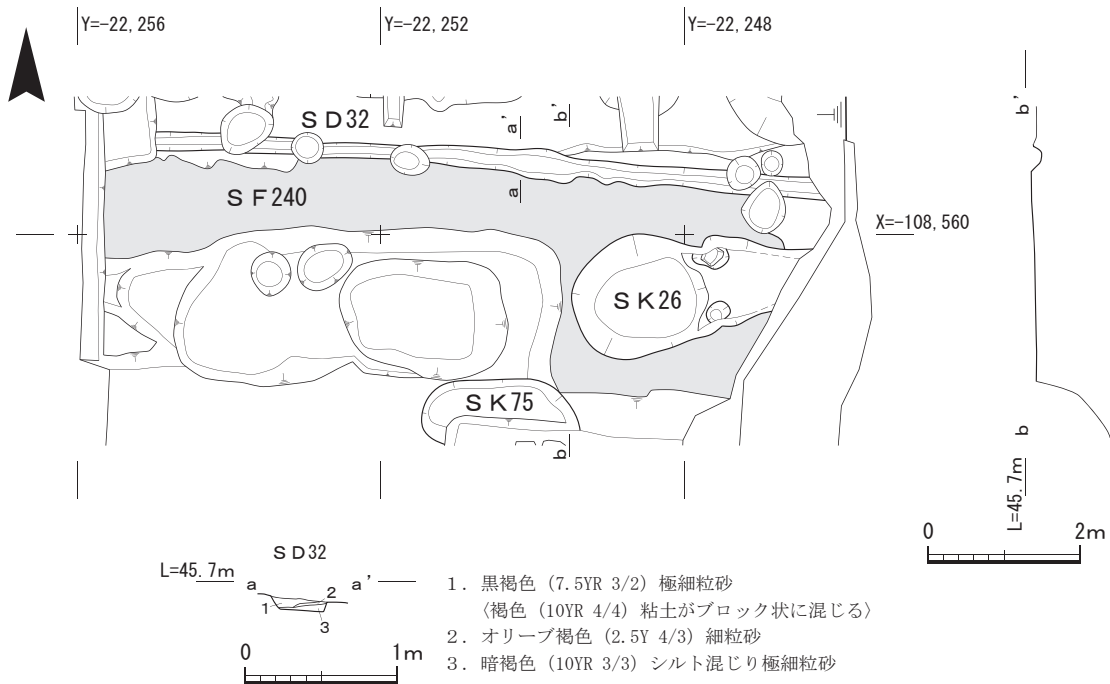
S D 2075（第37図） 2区北東部（9-p）で検出した道路側溝である。幅0.68m、検出長1.9m、深さ0.1mを測る。調査区外に延び、西側は遺構により削平を受けている。S D 2075は底部に杭の跡が7本分見つかっている。この杭は道路側溝の側壁を保護するために施された施工痕跡で、側壁に沿うように板などの用材を当て、杭で板を固定した痕跡であると考えられる。埋土は暗褐色シルト混じり細粒砂である。土師器皿、瀬戸美濃陶器が出土した。16世紀後半（第90図1～8）。

⑤井戸

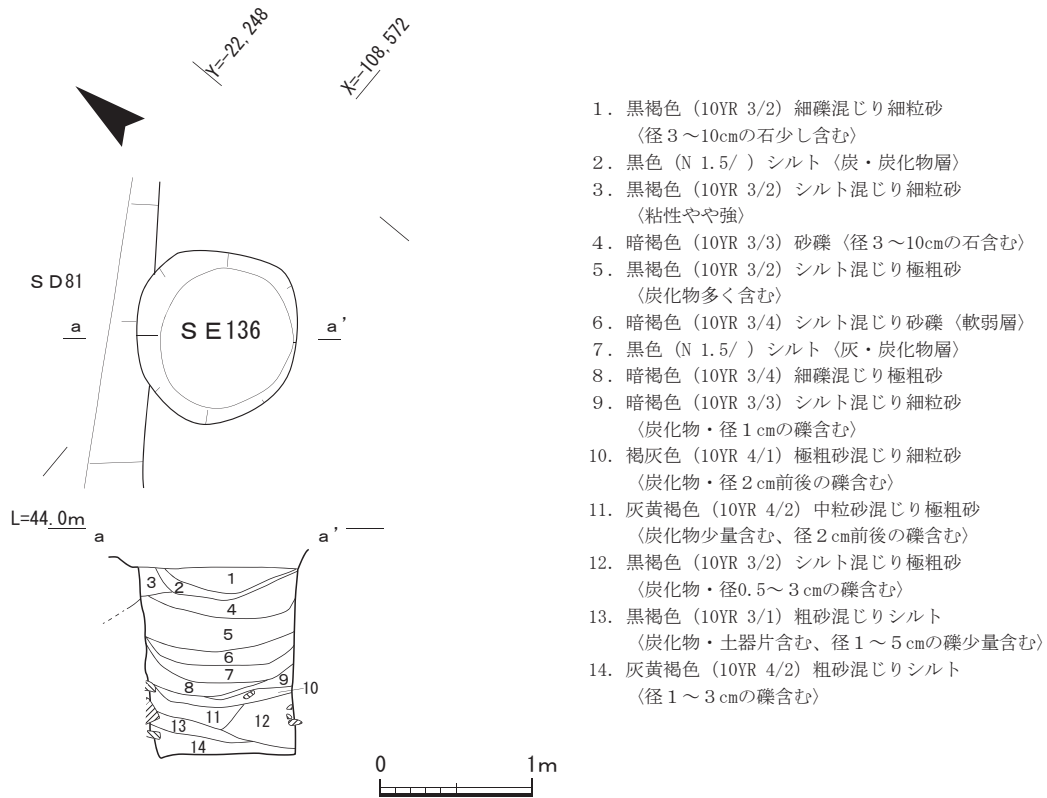
S E 133（第29図） 1区南部（13-s）で検出された素掘り井戸である。直径1.2mを測り、検出面から深さ1.8mまで掘削した。埋土は黒褐色極細粒砂～細粒砂で炭化物を含む。土師器皿、瀬戸美濃陶器などが出土した。16世紀末から17世紀前半（第90図13～23）。



第33図 S X 2064実測図



第34図 S F 240・S D 32・S K 26・75実測図

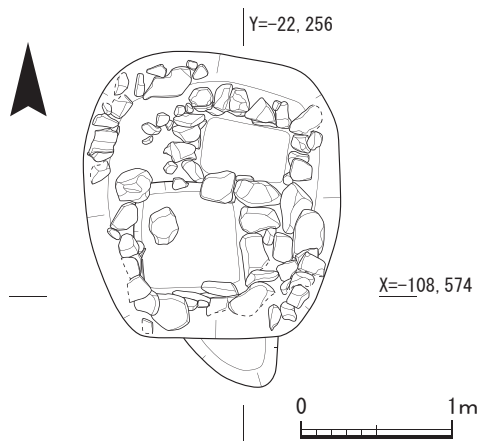


1. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり細粒砂
(径3~10cmの石少し含む)
2. 黒色 (N 1.5/) シルト (炭・炭化物層)
3. 黒褐色 (10YR 3/2) シルト混じり細粒砂
(粘性やや強)
4. 暗褐色 (10YR 3/3) 砂礫 (径3~10cmの石含む)
5. 黒褐色 (10YR 3/2) シルト混じり極粗砂
(炭化物多く含む)
6. 暗褐色 (10YR 3/4) シルト混じり砂礫 (軟弱層)
7. 黒色 (N 1.5/) シルト (灰・炭化物層)
8. 暗褐色 (10YR 3/4) 細礫混じり極粗砂
9. 暗褐色 (10YR 3/3) シルト混じり細粒砂
(炭化物・径1cmの礫含む)
10. 褐色 (10YR 4/1) 極粗砂混じり細粒砂
(炭化物・径2cm前後の礫含む)
11. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 中粒砂混じり極粗砂
(炭化物少量含む、径2cm前後の礫含む)
12. 黒褐色 (10YR 3/2) シルト混じり極粗砂
(炭化物・径0.5~3cmの礫含む)
13. 黒褐色 (10YR 3/1) 粗砂混じりシルト
(炭化物・土器片含む、径1~5cmの礫少量含む)
14. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 粗砂混じりシルト
(径1~3cmの礫含む)

第35図 S E 136実測図

S E 136 (第35図) 1区南部(13-r・s)で検出した素掘り井戸である。直径1.3mを測り、検出面から1.3mほど掘削した。近代の建物基礎除去後に検出した遺構で地山からおよそ1.5m下で検出した。埋土は黒褐色シルト混じりの細粒砂で炭化物を多量に含む。土師器をはじめ肥前陶器、瀬戸美濃陶器など多様な遺物が出土した。16世紀末~17世紀前半(第93・94図、第162図14、第163図8など)。

S E 2057 (第32・37図) 2区北東部(9・10-q)で検出した円形の井戸である。南北1.26m、東西1.7m、深さ2mを測る。上層にS K 2055がある。肥前陶器、瀬戸美濃陶器、土師器皿、軟質施釉陶器、鉄製品など多量の遺物が出土した。16世紀末から17世紀初頭(第91・92図、第161図5・6・9・12、第162図6・7、第163図7・13、第165図2など)。



第36図 S S 37実測図

S E 2227 (第29図) 2区南部(11-r)で検出した素掘り井戸である。直径1.5mを測るが、遺構の東半分は近代建物の基礎が入るため掘削できていない。検出面から深さ0.8mまで掘削した。埋土は暗褐色細礫混じり粗砂質粗シルトで炭化物を含む。土師器皿、瀬戸美濃陶器、肥前陶器などの陶磁器のほか、鉄製品、木製の箸などが出土している。17世紀前半(第90図24~35、第161図11、第172図など)。

S E 2257 (第29図) 2区西部(12-r)で検出した素掘り井戸である。直径1.6mを測り、検出面から0.6m掘削した。埋土は暗褐色細礫混じり細粒砂で、粒径6～8cmの礫を少量含む。土師器皿、肥前陶器などが出土した。17世紀半ば～18世紀初頭(第95図1～9)。

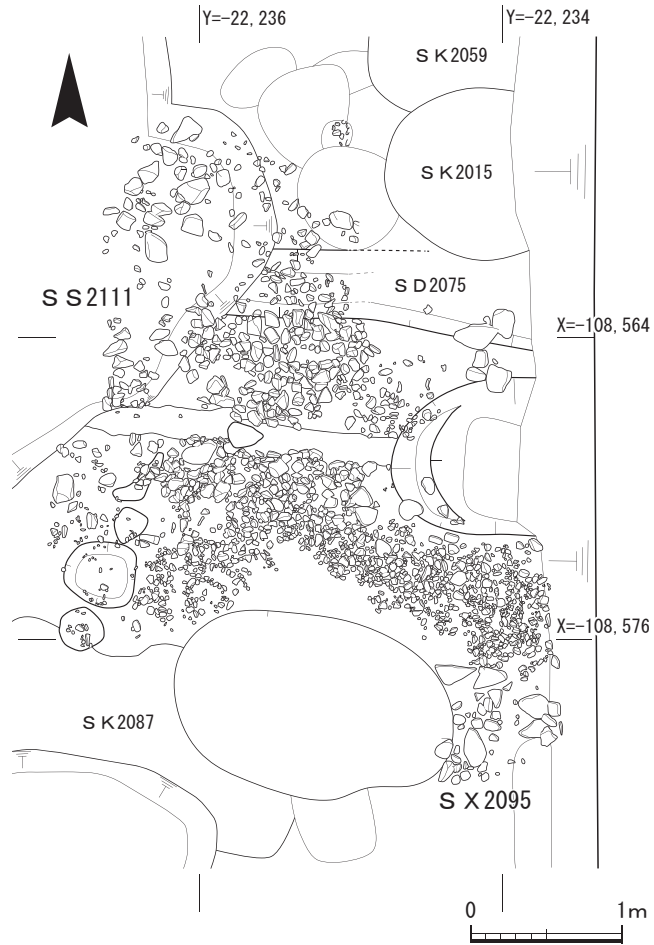
⑥集石遺構、石組遺構

S S 37 (第36図) 1区南西部(14・15-s)で検出した石組遺構である。南北1.89m、東西1.75m、深さ0.75mを測る。遺構内に重複する方形の石組を検出した。内径は約0.7mである。土師器や瀬戸美濃陶器、肥前陶磁器が出土した。17世紀前半(第95図19～29)。

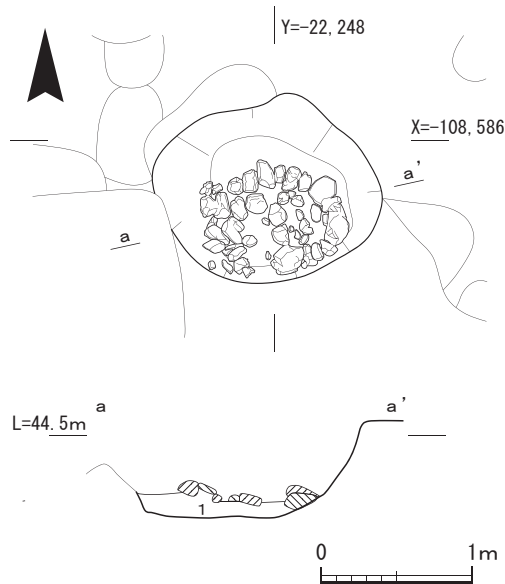
S S 2097 (第29図) 2区北東部(9・10-q)で検出した配石遺構である。南北1.5m、東西1mを測る。「L」字状に配石されており、構築物の一部であると推測される。土師器皿が出土した。16世紀末～17世紀初頭(第95図10)。

S S 2111 (第37図) 2区(9・10-q)で検出した集石遺構である。検出規模は南北4.5m、東西6.5mを測る。S D 2075からS X 2095の間でまとまって10cm程度の礫が出土している。S X 2058の下層にあたり、築地や建物などの構築物を建てる際の沈み込み防止を目的として敷設された遺構であると考えられる。土師器皿の細片などが出土した。

S S 3135・S S 3136 (第30図) 3区中央部(9・10-u)で検出した集石遺構である。南北2.8m、東西3.35mの範囲に5～10cm前後の礫が敷設されている。下層にS D 3550が埋没していることから、

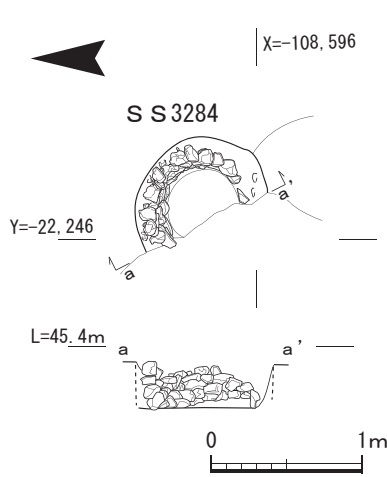


第37図 S X 2095・S S 2111実測図

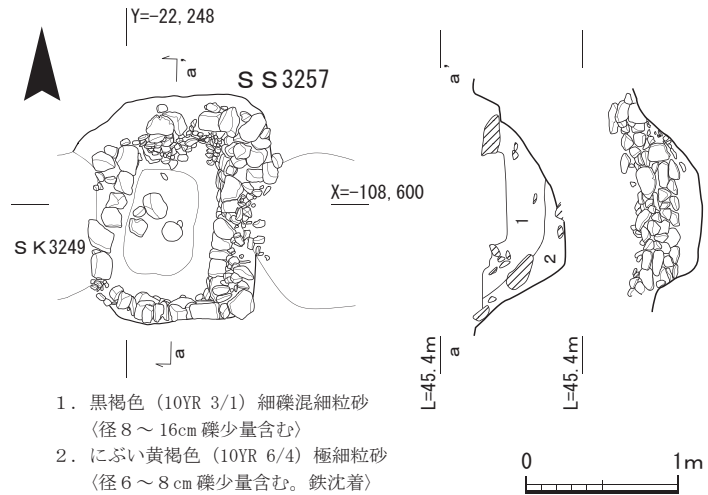


- 1. 黒褐色(10YR 3/1)中粒砂混じり細粒砂
〈焼土・炭化物少量含む。径5～15cm礫含む〉

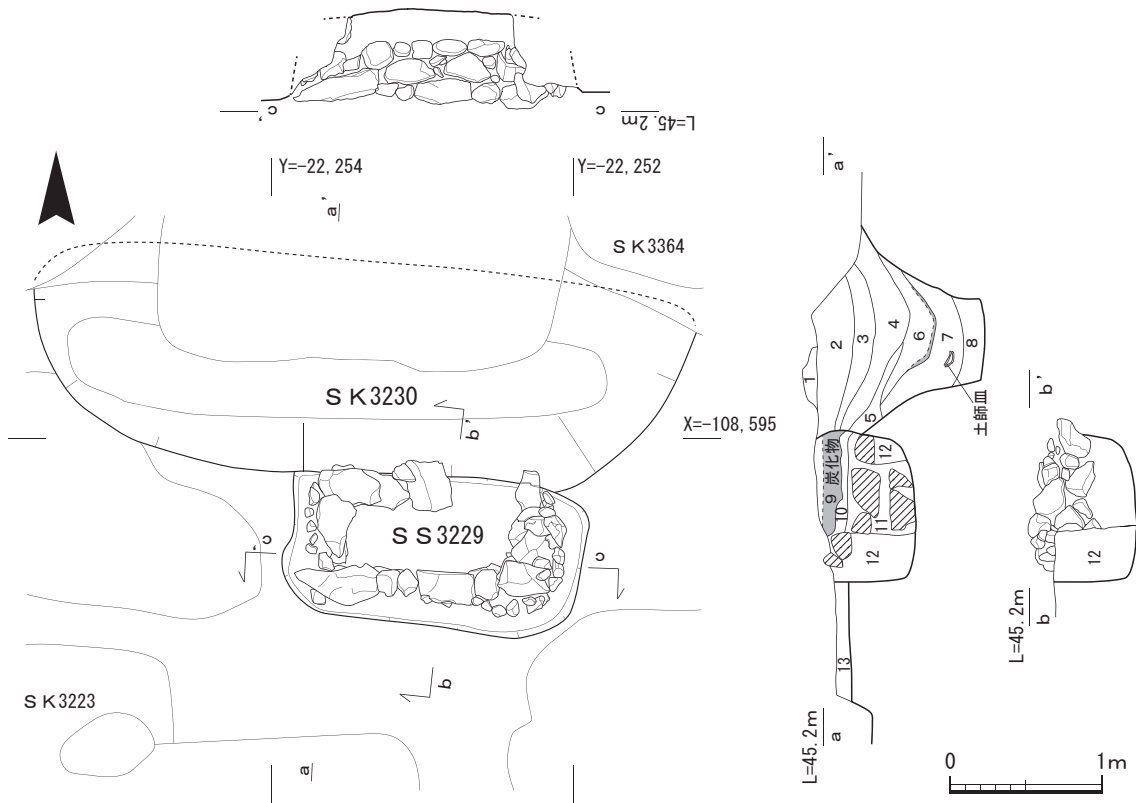
第38図 S S 3190実測図



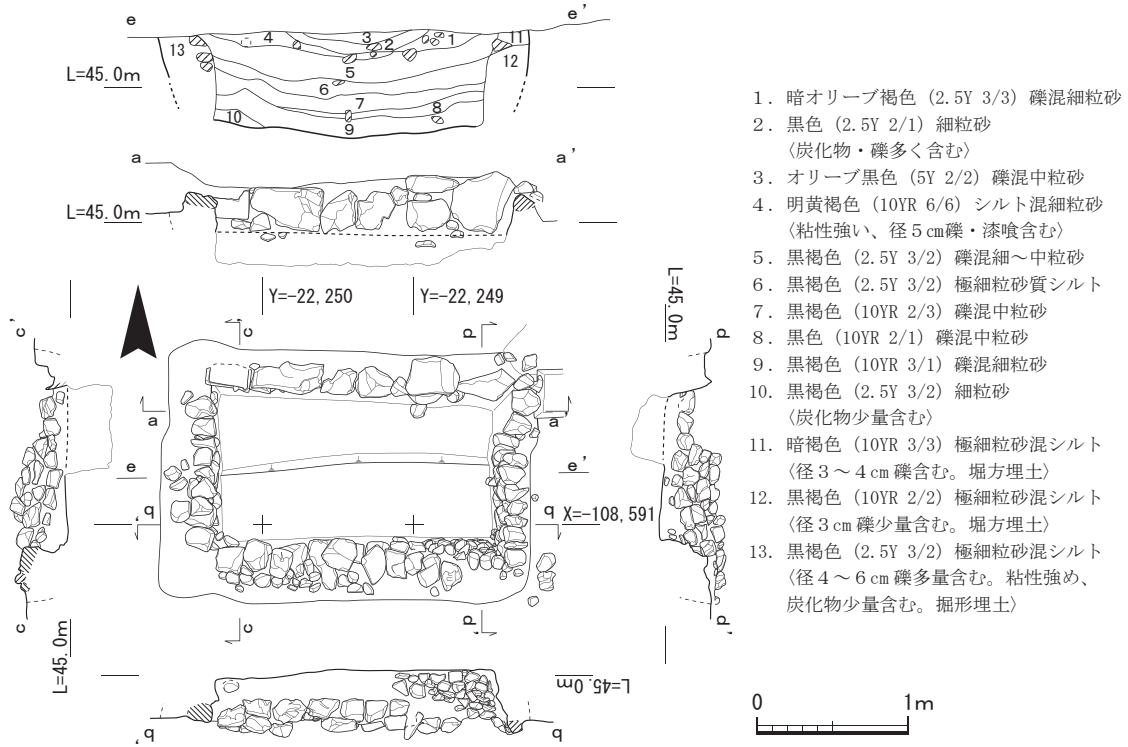
第39図 S S 3284実測図



第40図 S S 3257実測図



第41図 S S 3229・S K 3230実測図



1. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 礫混細粒砂
2. 黒色 (2.5Y 2/1) 細粒砂
〈炭化物・礫多く含む〉
3. オリーブ黒色 (5Y 2/2) 礫混中粒砂
4. 明黄褐色 (10YR 6/6) シルト混細粒砂
〈粘性強い、径5cm礫・漆喰含む〉
5. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 礫混細～中粒砂
6. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 極細粒砂質シルト
7. 黒褐色 (10YR 2/3) 礫混中粒砂
8. 黒色 (10YR 2/1) 礫混中粒砂
9. 黒褐色 (10YR 3/1) 礫混細粒砂
10. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細粒砂
〈炭化物少量含む〉
11. 暗褐色 (10YR 3/3) 極細粒砂混シルト
〈径3～4cm礫含む。堀方埋土〉
12. 黒褐色 (10YR 2/2) 極細粒砂混シルト
〈径3cm礫少量含む。堀方埋土〉
13. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 極細粒砂混シルト
〈径4～6cm礫多量含む。粘性強め、炭化物少量含む。掘形埋土〉

第42図 S S 3239実測図

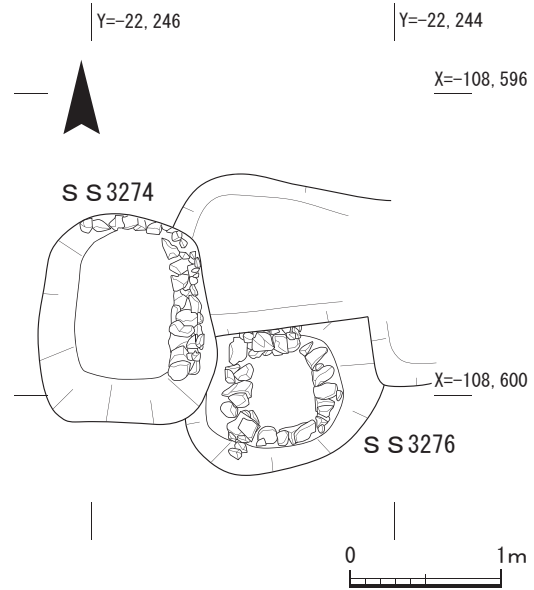
S B01建設時の沈み込み防止として敷設されたと考えられる。埋土は礫間に堆積しており黒褐色泥質極細粒砂である。土師器皿が出土した(第95図12～18)。16世紀末～17世紀初頭。

S S 3190 (第38図) 3区中央部(12・13-v)で検出した配石遺構である。南北1.2m、東西1.5m、深さ0.65mを測る。埋土は褐灰色中粒砂混じり細粒砂で、粒径5～15cmの礫を多量に含む。土師器皿が出土した。17世紀第2四半期(第96図12)。

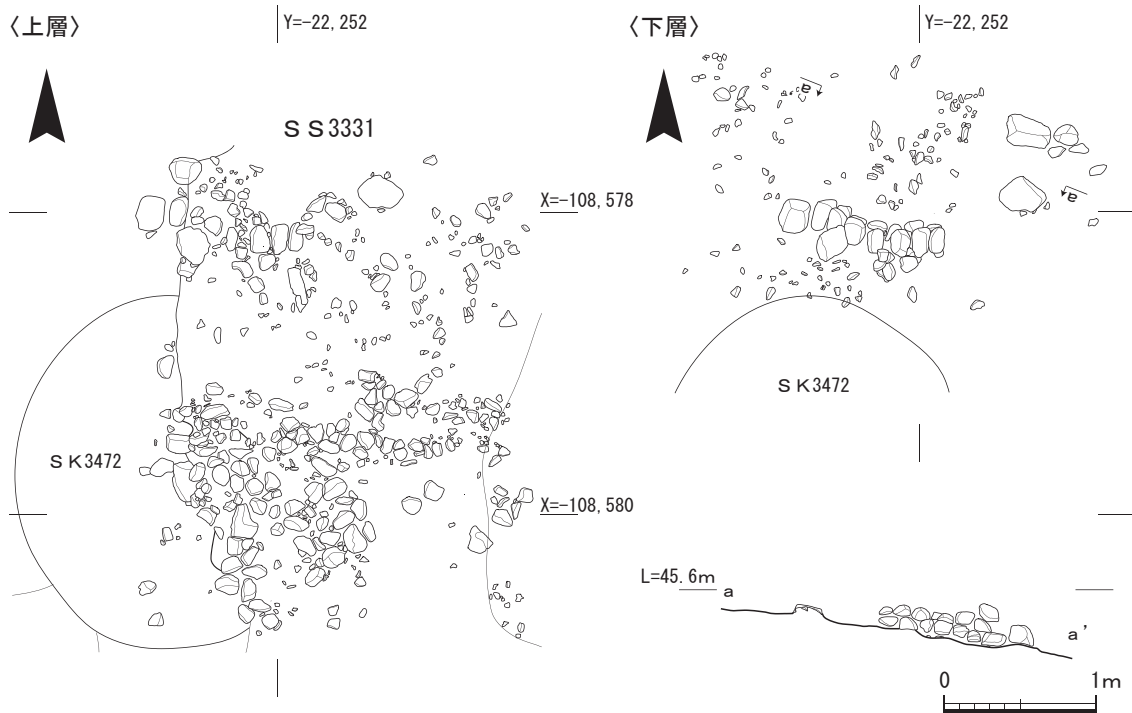
S S 3216・3217 (第29図) 3区南部(13・14-a)で検出した集石遺構である。掘形の直径1.5m、南北内径0.3m、東西内径0.2m、深さ0.3mを測る。掘形をS S 3217、集積部をS S 3216として掘削した。

埋土は暗灰黄色中粒砂～細粒砂で、粒径10～20cmの礫を含む。土師器皿や褐釉の壺が出土した。16世紀後半から17世紀前半(第96図13～16)。

S S 3229 (第41図) 3区南西部(14-x)で検出した石組遺構である。南北1m、東西2.5m、深さ0.65mを測る。北側はS K 3230に削平されている。埋土は黄灰色細礫混じり極細粒砂～細粒砂である。土師器皿、肥前陶磁器、瀬戸美濃陶器、鎌、煙管などが出土した。17世紀前半(第96図17～25、第161図7、第162図5など)。



第43図 S S 3274・3276実測図



第44図 S S 3331実測図

S S 3239(第42図) 3区中央部(13-w)で検出した石組遺構である。南北1.6m、東西2.3m、深さ0.45mを測る。内側は南北1m、東西2mである。埋土は黒褐色細粒砂である。石組の北西角に瓦を転用している。また南東隅及び東面と南北西面の配石の規格が異なり、前者の配石の上に増築したように後者が配されていることから、当初南東隅及び東面の石を用いて施工したが、後年に検出段階の状況に作り替えた遺構と考えられる。砂目の肥前陶器などが出土した(第97図)。

S S 3257(第40図) 3区南部(12・13-y・a)で検出した石組遺構である。南北1.62m、東西1m、深さ0.62mを測る。埋土は暗オリーブ褐色中粒砂～細粒砂である。土師器や肥前陶器が出土した。16世紀末～17世紀前半(第96図1～11)。

S S 3276(第43図) 3区南部(12-y)で検出した方形の石組遺構である。掘形は南北0.95m、東西1.35mを測るが、北側と西側が他の遺構により削平される。埋土は暗灰黄色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、瀬戸美濃陶器、中国製染付などが出土した。17世紀前半(第96図26～29)。

S S 3284(第40図) 3区(12-x・y)で検出した石組遺構である。南北0.85m、東西0.6m、深さ0.3mを測る。埋土は黒褐色極細粒砂～細粒砂で、粒径4～8cmの礫を少量含む。出土遺物はなく、遺構の切り合いから江戸時代前期頃の遺構と判断した。

S S 3331(第44図) 3区北西部(13・14-t)で検出した配石遺構である。S K 3472の上層に構築され、北側の石組は北側に面を持つ。配石の広がりには南北1.15m、東西0.6mを測る。埋土は暗灰黄色細粒砂である。土師器皿が出土した。16世紀後半(第95図11)。

⑦土坑

S K 14(第64図) 1区北西部(14-o)で検出した廃棄土坑である。南北1.6m、東西1.5m、深さ0.6mを測る。掘形は北と西が調査区外まで広がり、東はS S 07に削平されている。埋土は黒褐色細

粒砂である。炭化物を多く含む。土師器皿、肥前陶器、瀬戸美濃陶器、中国製染付などが出土した。16世紀末から17世紀前半（第101～102図1、第162図1・2、第165図4、第169図6・8・10・24）。

S K 15（第29図） 1区北西部（14-p）で検出した廃棄土坑である。遺構の大部分が攪乱により削平を受けている。南北0.2m、東西0.6m、深さ0.6mを測る。瀬戸美濃が出土した（第116図1）。

S K 21（第29図） 1区西部（14-q・r）で検出した廃棄土坑である。南北0.52m、東西0.4m、深さ0.17mを測る。北側と西側が攪乱により削平されている。肥前陶磁器や土師器皿、褐釉陶器などが出土した。16世紀末～17世紀前半（第102図2～24、第169図1～5）。

S K 24（第29図） 1区北部（13-o）で検出した廃棄土坑である。南北0.64m、東西1.1m、深さ0.25mを測る。北側は調査区外に広がる。土師器皿、瀬戸美濃陶器、肥前陶器などが出土した。17世紀後半（第114図1～6、第164図1）。

S K 26（第34図） 1区北東部（12・13-p）で検出した円形廃棄土坑である。南北1.7m、東西1.8m、深さ0.8mを測る。埋土は黒褐色細粒砂で、炭化物が多量に堆積していた。土師器皿、瀬戸陶器、肥前陶器、肥前磁器、中国製染付などが多量に出土した。17世紀後半～18世紀初頭（第115図19～46、第163図6）。

S K 28（第29図） 1区北部（13-o）で検出した廃棄土坑である。南北0.6m、東西1m、深さ0.07mを測る。S K 24の下層で検出した土坑で、S K 29により削平されている。土師器皿、瀬戸美濃陶器などが出土した。16世紀末～17世紀初頭（第99図35～38）。

S K 29（第29図） 1区北部（13-o）で検出した円形の廃棄土坑である。南北1.42m、東西1.46m、深さ0.31mを測る。北側は調査区外に広がる。土師器皿、瀬戸美濃陶器、中国製陶磁器、鉄製品、銭などが出土した。16世紀末から17世紀初頭（第100図1～22、第161図1、第169図9）。

S K 30（第29図） 1区北東部（12-o）で検出した円形廃棄土坑である。南北1.2m、東西1m、深さ0.5mを測るが、北部東部ともに調査区外に広がっている。土師器皿、瀬戸美濃陶器などが出土した。16世紀後半～17世紀初頭（第98図7～28）。

S K 36（第29図） 1区西部（14-q・r）で検出した土坑である。南北1.2m、東西0.5m、深さ0.3mを測る。北はS K 21により削平され、西側は攪乱に削平される。元和の火災による廃棄土坑と考えられる。土師器皿、瀬戸美濃陶器、肥前陶器、中国製染付、瓦質の鉢、鉄製品、銅製品、石製品、銭などが出土した。16世紀末～17世紀前半（第103・104図、第161図2、第163図1・5、第165図3、第169図11～21）。

S K 49（第29図） 1区南西部（14-s）で検出した不定形の廃棄土坑である。南北2m、東西3.3m、深さ0.58mを測る。北側は攪乱に削平され、東側はS K 66に削平されている。上層遺構から混入した土人形が出土したほか、土師器皿が出土している。16世紀末～17世紀前半（第105図1～14）。

S K 65（第29図） 1区南部（13-s）で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.3m、東西1.2m、深さ0.27mを測る。東側と北側は攪乱により削平されている。土師器皿、肥前陶器、瓦質の鉢などが出土した。17世紀前半（第107図21～27）。

S K 66 (第29図) 1区南部(14-s)で検出した円形の廃棄土坑である。南北1.58m、東西1.4m、深さ0.43mを測る。土師器、信楽、丹波が出土した。16世紀末～17世紀前半(第105図15～28)。

S K 69 (第29図) 1区西部(14-r)で検出した方形の廃棄土坑である。南北1.6m、東西1.4m、深さ0.65mを測る。西端は調査区外に続く。埋土は黒褐色細粒砂で炭化物を多く含む。土師器、瀬戸美濃陶器、肥前陶器、中国製陶磁器、取鍋、信楽、備前、犬形土製品、鉄製品など多様な遺物が出土した。16世紀後半～17世紀初頭(第99図1～34、第161図3・4)。

S K 71 (第29図) 1区南部(13-s・t)で検出した廃棄土坑である。東西及び南を別遺構に削平されているが、南北1.5m、東西2.6m、深さ0.22mを測る。埋土は暗褐色シルト質細粒砂である。土師器、瀬戸美濃陶器、銭が出土した。16世紀後半～17世紀初頭(第98図29～36、第169図22)。

S K 72 (第29図) 1区南西部(14-s・t)で検出した円形の廃棄土坑である。北側をS K 50により削平されており部分的な検出にとどまった。南北1.6m、東西1.6m、深さ0.27mを測る。埋土は黒褐色シルト質極細粒砂である。土師器皿、焼塩壺、軟質施釉陶器、銅製品などが出土した。16世紀末～17世紀前半(第105図29～41、第163図9)。

S K 75 (第34図) 1区北部(13-p)で検出した楕円形の廃棄土坑である。南北0.9m、東西2m、深さ0.75mを測る。南側を攪乱により削平されている。埋土は黒褐色中粒砂で底部付近に炭化物が堆積する。土師器、吹子の羽口が出土した。16世紀末～17世紀初頭(第99図39～42)。

S K 79 (第29図) 1区中央部(13・14-q)で検出した円形の廃棄土坑である。南北1.8m、東西0.65m、深さ0.5mを測る。東側が攪乱により削平されている。土師器皿、中国製陶磁器、石製品などが出土した。16世紀末～17世紀前半(第106図1～17)。

S K 236 (第7図) 1区西部(14-p)第3面で検出した廃棄土坑である。南北1.3m、東西0.41m、深さ0.2mを測る。埋土は黒褐色シルト混じり極細粒砂である。土師器、瀬戸美濃陶器、中国製陶磁器、肥前陶器などが出土した。17世紀前半(第108～109図1・2、第164図6)。

S K 2044 (第29図) 2区南部(10-t)で検出した楕円形の土坑である。土師器皿、青磁、銅製品、石製品などが出土した。16世紀後半か(第98図1～6、第163図4、第164図9、第169図28～33・35・36、第170図5)。

S K 2047 (第29図) 2区東部(9-r・s)で検出した円形の廃棄土坑である。南北1.1m、東西0.6m、深さ0.23mを測る。調査地外東側に続く。土師器皿、瀬戸美濃陶器、中国製陶磁器、銭などが出土した。16世紀末～17世紀前半(第107図1～17、第162図12、第169図46・52・53)。

S K 2049 (第29図) 2区北東部(9-p)で検出した方形の廃棄土坑である。南北0.94m、東西0.37m、深さ0.2mを測る。調査地外に広がっていく。土師器皿、肥前陶磁器、石製品などが出土した。17世紀後半(第114図7～12、第164図8、第170図4)。

S K 2072 (第29図) 2区西部(12-s・t)で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.2m、東西2.6m、深さ0.3mを測る。土師器皿、瀬戸美濃陶器、肥前陶磁器、軟質施釉陶器などが出土した。17世紀前半(第114図13～25)。

S K 2073 (第29図) 2区南部(12-s)で検出した土坑である。南北0.15m、東西0.2m、深さ0.1

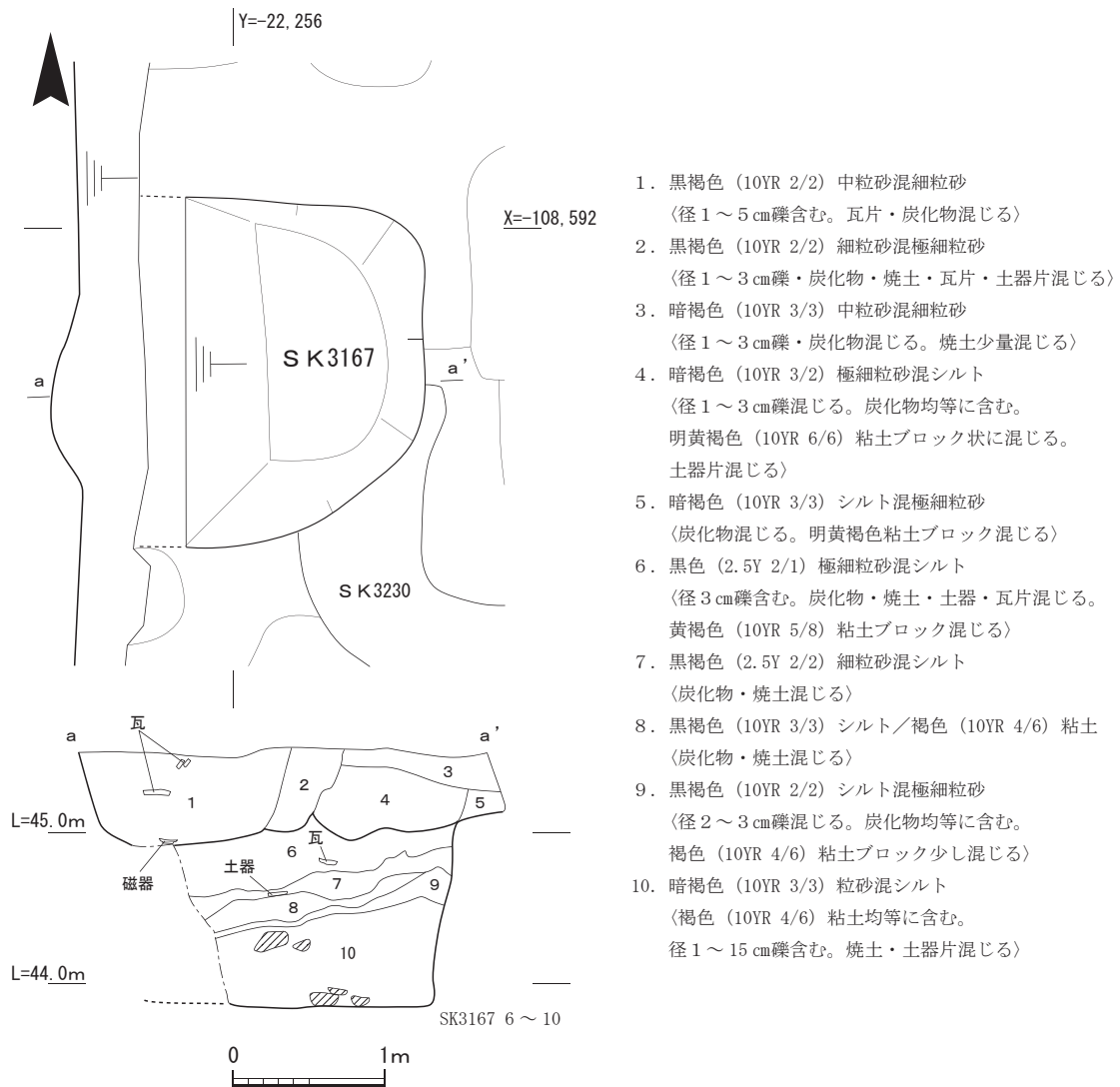
mを測る。華南三彩が出土した(第116図2)。

S K 2074 (第29図) 2区北東部(9・10-p)で検出した不定形の土坑である。南北0.9m、東西2m、深さ0.1mを測る。西側を攪乱により削平され、東側を上層の遺構により削平されている。吹子の羽口などが出土した。17世紀後半(第114図26~28)。

S K 2078 (第29図) 2区南西部(12-t)で検出した楕円形の土坑である。南北0.7m、東西0.27m、深さ0.2mを測るが、東側は攪乱により削平されている。中国製陶磁器などが出土した。17世紀前半(第106図22・23)。

S K 2086 (第29図) 2区東部(9-q)で検出した円形土坑である。南北1.1m、東西0.35m、深さ0.2mを測る。遺構の北西部はS K 2057により削平されている。瀬戸美濃陶器、土師器皿、肥前磁器などが出土した。16世紀末~17世紀初頭(第100図23~34)。

S K 2087 (第29図) 2区中央部(9・10-q)で検出した不定形の土坑である。南北1.5m、東西2.85m、深さ0.3mを測る。中国製の白磁が出土した(第116図3)。



第45図 S K 3167実測図

S K 2198 (第7図) 2区南西部(11-t)第3面で検出した土坑である。南北0.5m、東西1.5m、深さ0.2m測る。遺構の南西部は攪乱により削平されている。埋土は暗オリーブ灰色中礫混じり細粒砂である。土師器皿、中国製の白磁が出土した。16世紀末～17世紀初頭(第100図35～38)。

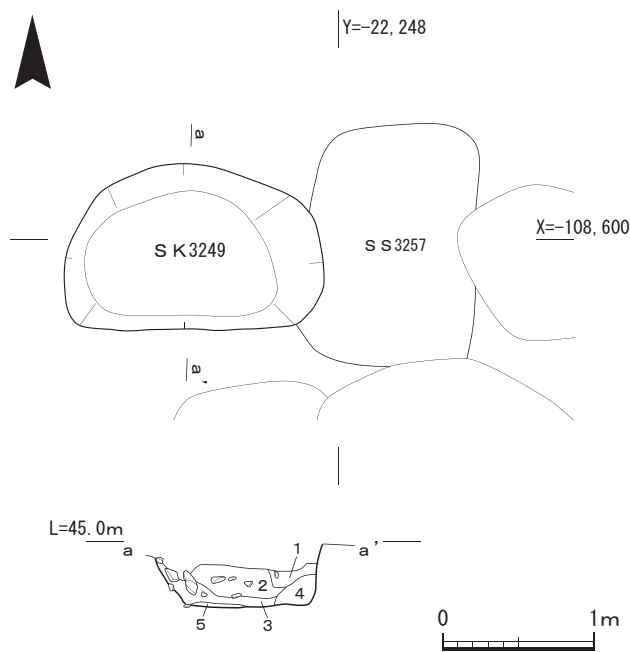
S K 3167 (第45図) 3区南西部(14・15-w・x)で検出した方形の廃棄土坑である。南北1.5m、東西1.5m、深さ1.2mを測る。南側を上層の遺構に削平され、西側は調査区外に広がる。埋土は褐灰色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、肥前陶磁器、中国製の白磁、銭などが出土した。17世紀半ば(第109図3～15、第165図10、第169図68)。

S K 3183 (第29図) 3区中央部(12-w)で検出した東西に長い楕円形の廃棄土坑である。南北1m、東西2.2mを測る。埋土は黒色中粒砂混じり細粒砂である。肥前磁器が出土した。17世紀半ば(第113図3～5)。

S K 3186 (第29図) 3区中央部(11・12-w)で検出した円形の廃棄土坑である。南北0.6m、東西1.5m、深さ0.4mを測るが、南側を上層の遺構により削平されている。埋土は黄灰色中粒砂混じり細粒砂である。肥前陶器、金箔瓦が出土した。17世紀前半(第106図18・19、第157図3)。

S K 3192 (第29図) 3区(12-v・w)で検出した不定形土坑である。南北1.1m、東西1m、深さ0.15mを測る。S K 3186により削平される。銭が出土した(第169図71)。

S K 3199 (第29図) 3区北西部(14・15-v)で検出した円形の廃棄土坑である。南北1m、東西2.2m、深さ0.25mを測る。北側をS K 3172により削平されている。埋土は黒褐色極細粒砂である。土師器皿、肥前磁、中国製陶磁器などが出土した。17世紀半ば(第113図6～26)。



1. 黒色 (2.5Y 2/1) 細粒砂混シルト
〈炭化物多量含む〉
2. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細粒砂 〈径3～10cm 礫含む〉
3. オリーブ黒色 (5Y 2/2) 細中粒砂
4. 黒褐色 (2.5Y 3/1) 細粒砂混シルト
〈径2～4cm 礫多量含む〉
5. 黒褐色 (2.5Y 3/1) 礫混極細粒砂質シルト
〈径1～2cm 礫少量含む〉

第46図 S K 3249実測図

S K 3226 (第29図) 3区北東部(14-w)で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.4m、東西0.65m、深さ0.7mを測る。南側と東側が上層の遺構により削平されている。S K 3325を切る土坑である。17世紀半ばの肥前磁器が出土している(第113図2、第165図8)。

S K 3230 (第41図) 3区南西部(13・14-x)で検出した楕円形の廃棄土坑である。南北1.4m、東西2.7m、深さ1.2mを測る。埋土は暗オリーブ褐色細粒砂で、粒径4～12cmの礫と炭化物を含む。土師器皿をはじめとして、中国製陶磁器、肥前陶器、瀬戸美濃の陶器などの遺物が

多量に出土した。17世紀半ば(第110・111図、第165図9、第169図64～67・70)。

S K 3241(第29図) 3区中央部(12-w・x)で検出した楕円形の土坑である。南北1.3m、東西0.9m、深さ0.12mを測る。遺構の大部分を東側の遺構により削平されている。埋土は黄灰色極細粒砂～細粒砂である。肥前陶器が出土した。17世紀前半(第106図20・21)。

S K 3246(第29図) 3区北東部(13-a)で検出した楕円形の土坑である。南北0.8m、東西0.2m、深さ0.1mを測る。ベトナム陶器が出土した(第116図6)。

S K 3249(第46図) 3区南部(13-y・a)で検出した長方形の廃棄土坑である。南北1.2m、東西1.7m、深さ0.4mを測る。埋土は暗灰黄色細粒砂である。土師器皿、瀬戸美濃陶器、肥前陶器、中国磁器などが出土した。17世紀半ば(第112図1～5)。

S K 3252(第29図) 3区北西部(14-u)で検出した円形の土坑である。南北1.5m、東西1.4m、深さ0.25mを測る。西側のS K 3253に削平されている。埋土は褐灰色極細粒砂～細粒砂である。土師器皿、中国製の青磁、石製品が出土した。16世紀末～17世紀初頭(第100図39・40、第165図1)。

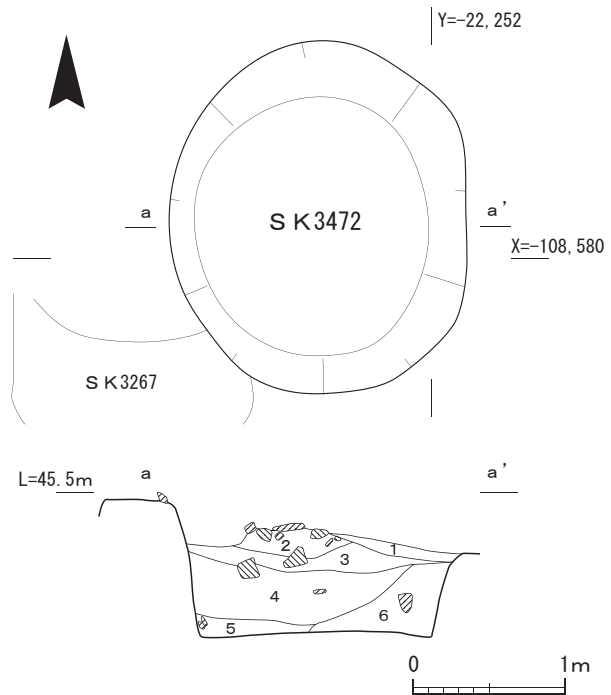
S K 3260(第29図) 3区中央部(12・13-v・w)で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.7m、東西1.9m、深さ0.6mを測る。埋土は褐灰色極細粒砂である。土師器皿、肥前陶器などが出土した。17世紀後半(第115図1～18)。

S K 3282下層(第29図) 3区北西部(14・15-t)で検出した方形の廃棄土坑である。南北1.57m、東西1.67m、深さ0.5mを測る。上層で検出したS K 3282と同じ位置で掘削された別遺構である。埋土は灰黄褐色中粒砂質細粒砂である。土師器皿、肥前陶器、瀬戸美濃陶器などが出土した。17世紀半ば(第112図6～10)。

S K 3283(第29図) 3区(13・14-t)で検出した土坑である。直径0.8m、深さ0.1mを測る。金箔の残存する丸瓦の瓦当が出土した(第157図2)。

S K 3292(第29図) 3区(11・12-w)で検出した土坑である。直径2.5mを測る。軟質施釉陶器と金箔の残存する軒丸瓦・軒平瓦、石製品などが出土した(第116図7、第157図4・7、第164図11)。

S K 3313(第29図) 3区南西部(13-x)で検出した廃棄土坑である。南北1.5m、東西



1. 黒褐色(10YR 3/1)シルト(炭化物・焼土混じる)
2. 黒褐色(10YR 3/2)シルト混細粒砂
(炭化物含、明黄褐色(2.5YR 5/8)ブロック少し混じる)
3. 暗褐色(10YR 3/3)中粒砂(土師器片、炭化物混じる、
径3～5cmの礫混じる、黄褐色(10YR 7/8)均等に含む)
4. 灰黄褐色(10YR 4/2)シルト混中粒砂
(炭化物・径1～5cmの礫混じる)
5. 黒褐色(2.5Y 3/2)シルト混細粒砂(炭化物混じる)
6. 黄灰色(2.5Y 4/1)シルト混細粒砂(径1～5cmの礫含む、
炭化物混じる、明黄褐色(2.5YR 6/8)土含む)

第47図 S K 3472実測図

1.8m、深さ0.15mを測る。上層の遺構に激しく削平を受けている。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、肥前陶器、中国製陶磁器、鉄製品などが出土した。17世紀後半(第114図29～36、第161図10)。

S K 3324(第29図) 3区西部(13-w)で検出した円形の廃棄土坑である。南北1m、東西1.35m、深さ0.15mを測る。埋土は褐灰色細粒砂である。北側と東側を他の遺構により削平されている。中国製陶磁器が出土した。17世紀前半(第107図18)。

S K 3329(第29図) 3区西部(13-x)で検出した廃棄土坑である。南北0.5m、東西0.35m、深さ0.15mを測る。埋土は黒色細粒砂である。西側をS K 3230に削平されている。土師器皿、肥前陶器のほか華南三彩、瓦などが出土した。17世紀半ば(第112図12～17、第157図8)。

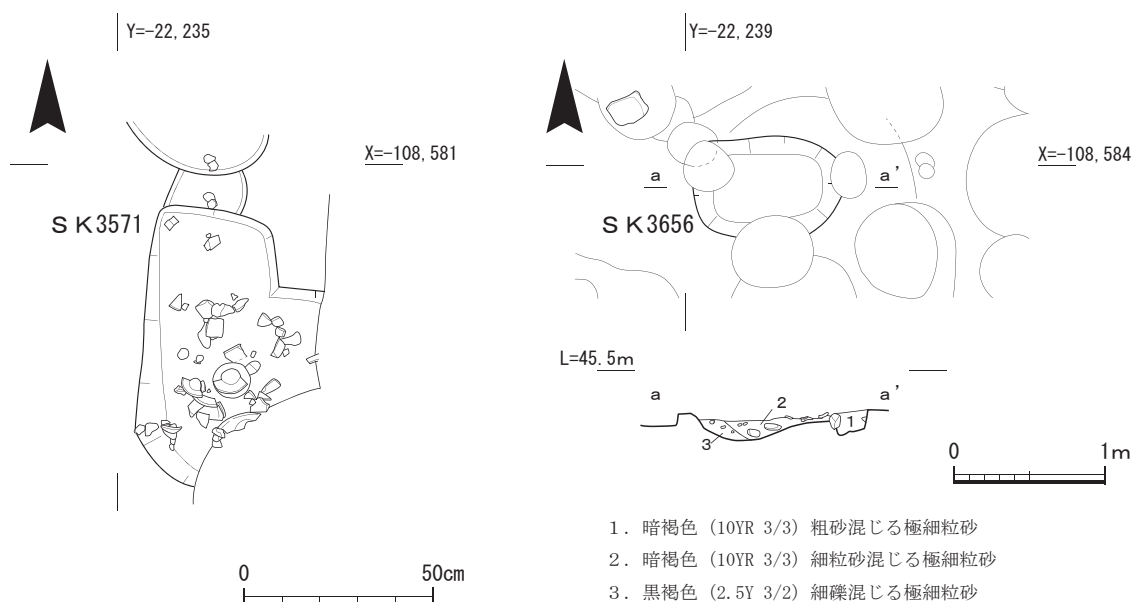
S K 3363(第29図) 3区中央部(13-w)で検出した土坑である。埋土は黒褐色細粒砂である。金箔の残る土師器皿が出土した。17世紀半ば(第112図11)。

S K 3364(第29図) 3区南西部(13-x)で検出した廃棄土坑である。南北1.5m、東西1.25m、深さ0.28mを測る。埋土は黄灰色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、肥前陶器などが出土した。17世紀半ば(第112図18～22、第169図72)。

S K 3407(第7図) 3区北西部(14t・u)第3面で検出した廃棄土坑である。南北0.65m、東西1.15m、深さ0.2mを測る。埋土は黄灰色極細粒砂～細粒砂である。土師器皿、中国製陶磁器、瀬戸美濃陶器、石製品などが出土した。17世紀半ば(第112図23～29、第164図10・12)。

S K 3427(第7図) 3区北西部(14t)第3面で検出した廃棄土坑である。南北1m、東西0.25m、深さ0.12mを測る。大部分をS K 3282に削平される。埋土は黒褐色細粒砂である。肥前陶器、瀬戸美濃陶器や瓦が出土した。17世紀前半(第107図19・20・第156図1～3)。

S K 3440(第7図) 3区北部(12-t)第3面で検出した不定形の土坑である。南北1.3m、東西1.3m、深さ0.2mを測る。遺構の南側と東側は上層の遺構により削平を受けている。軟質施釉陶



第48図 S K 3571・3656実測図

器が出土した。17世紀前半(第106図24)。

S K 3471 (第7図) 3区南東部(10-w)第3面で検出した円形の土坑である。南北1.1m、東西1m、深さ0.2mを測る。埋土は暗褐色シルト質細粒砂である。朝鮮産と思われる焼き物が出土した(第116図4・5)。

S K 3472 (第47図) 3区北西部(13・14-t・u)で検出した円形の廃棄土坑である。南北2.35m、東西2m、深さ0.5mを測る。土師器皿、肥前陶器などが出土した。16世紀末～17世紀初頭か(第100図41～44)。

S K 3571 (第48図左) 3区北東部(9-u)第3面で検出した円形の土坑である。南北0.8m、東西0.6m、深さ0.08mを測る。土師器皿が出土した。16世紀末～17世紀初頭(第100図45～47)。

S K 3656 (第48図右) 3区北東部(10-u・v)第3面で検出した土坑である。南北0.5m、東西0.68m、深さ0.15mを測る。埋土は黄褐色混じり黒褐色細粒砂である。土師器皿が出土した。17世紀半ば(第113図1)。

⑧その他

S X 2137 (第7図) 2区南東部(9-s・t)第3面で検出した土器埋め込み遺構である。南北1.22m、東西0.88m、深さ0.85mを測る。埋土は黒褐色極細粒砂～細粒砂である。備前の甕を埋め込んだ土坑である。甕は水溜として用いられたと考えられる(第116図8)。

(4)江戸時代後期・幕末の遺構

江戸時代後期から幕末(18世紀前半～19世紀後半)の遺構は主に第1面で検出した。幕末の会津藩上屋敷に伴うかまどや井戸を検出したほか、近世後期の町家に関係するかまどや井戸、漆喰の暗渠、土坑、出水通り(近衛大路)の道路側溝などを検出した。土師器・国産陶磁器・骨加工品・ガラス製品など多様な遺物が出土した。

①建物・礎石

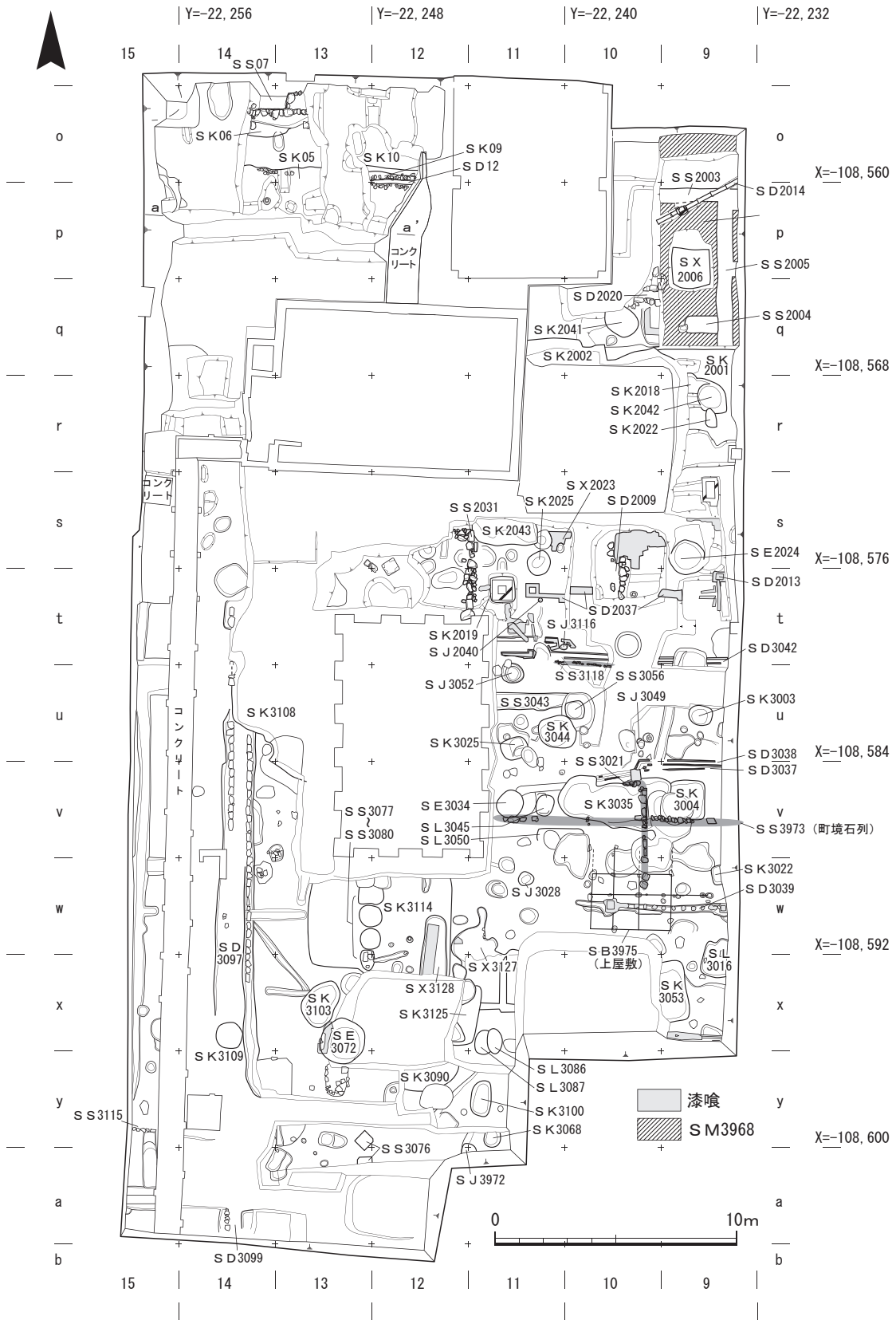
S B 3975 (上屋敷) (第50図) 3区東部(9・10-v・w)で検出した礎石建物である。南北3間、東西4間、検出規模は南北3.3m、東西5mを測る。出土遺物はないが、嘉永の大火の焼土層の上に据えていることから、京都守護職上屋敷の建物と考えられる。柱間の距離は西側2間が1.2m、東側2間が1.45mである。現存する京都守護職上屋敷絵図で確認できる限りにおいて西側が縁側で東側が床にあたりと考えられる。南北はともに攪乱により削平されており全容は不明である。

②溝・暗渠・池

S D 12 (第51図) 1区東部(12・13-o)で検出した石組の道路側溝である。幅0.36m、検出長1.86m、深さ0.2mを測る。出水通りの北側道路側溝で、S K 05により削平されている。土師器皿の細片が出土した。17世紀末～18世紀半ば(第117図1～7)。

S D 2013 (第52図) 2区南東部(9-t)で検出した漆喰暗渠の枿部分である。枿の底に泥が堆積しており、中から京・信楽系陶器や、泥面子などが出土した。18世紀後半(第117図8～10)。

S D 2020 (第53図) 2区北部(9・10-q)で検出した石組の道路側溝である。東西検出長4.65m、南北幅1m、石組内の幅は0.3m、深さ0.62mを測る。漆喰留の石組溝で出水通りの南側道路側溝

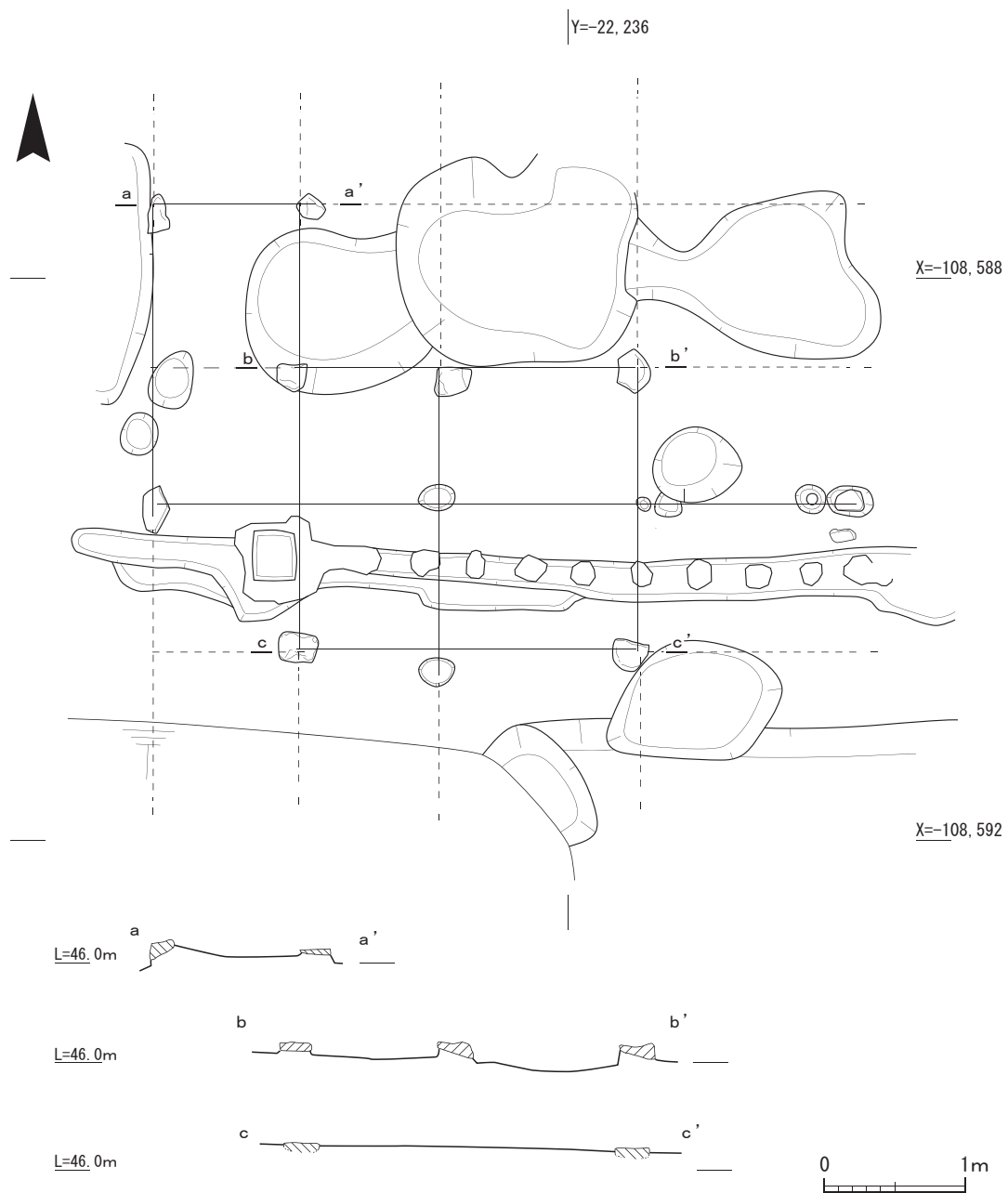


第49図 第1面平面図

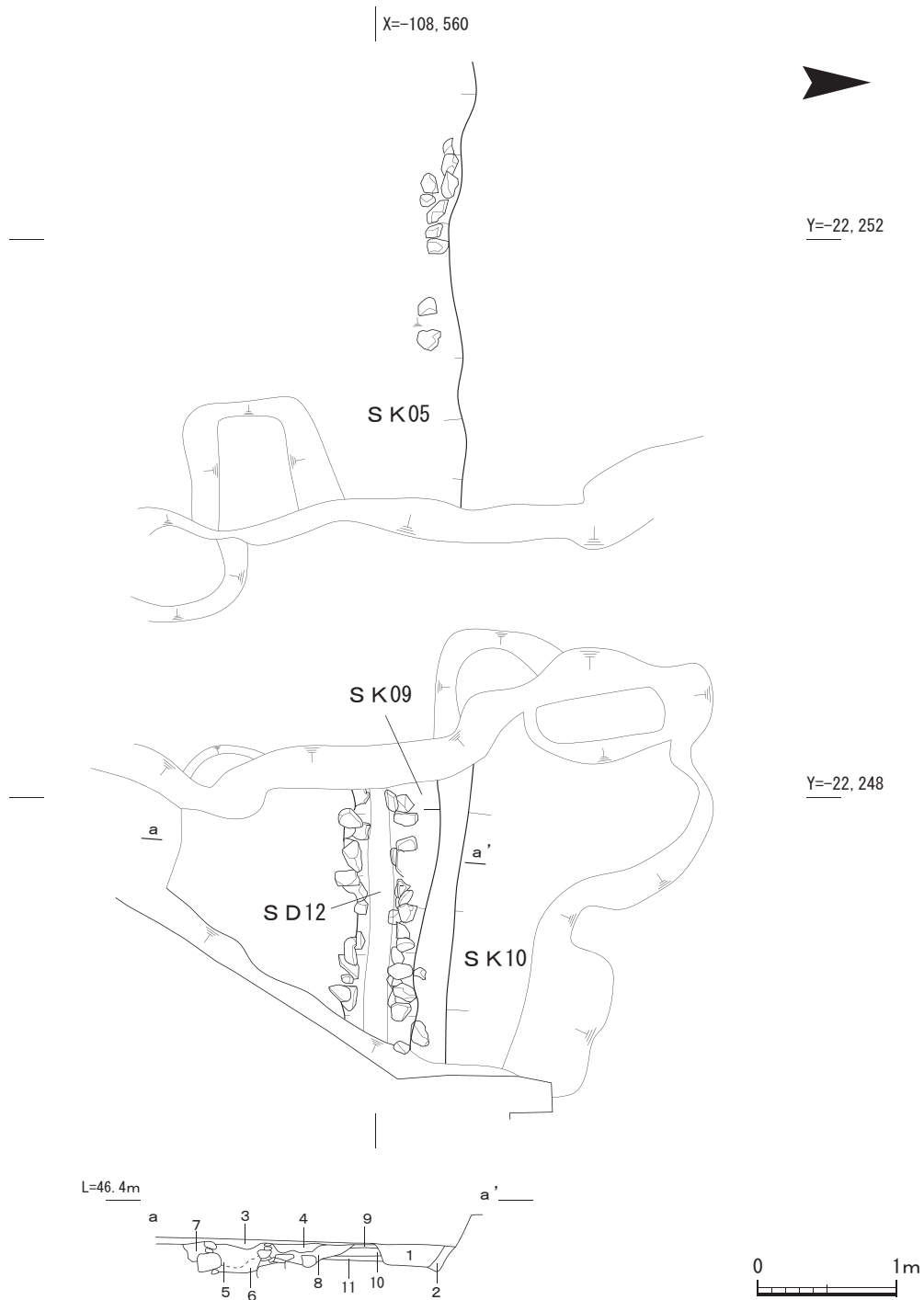
である。東側は調査区外に続き、西側は攪乱で削平されている。溝の下から天明の大火に伴う焼土が確認されたことから築造は大火以降と考えられる。側溝の南側には漆喰の溝がS D2020に水を流すために接続している。肥前磁器・銅製品などの遺物が出土した。19世紀半ば（第118図、第162図10）。

S X2023（第54図） 2区南部（10-s）で検出した漆喰遺構である。検出規模は南北0.7m、東西1.8mを測る。S D2037の上層遺構で嘉永の大火の焼土層の上に施工されていることから、幕末の上屋敷に伴う遺構である可能性があるが判然としない。東方向と北側を攪乱により削平されている。北側に排水枳と考えられる孔が作り出されている。

S D2037（第52図） 2区南部（9～11-s・t）で検出した漆喰暗渠である。S D2013はS D2037

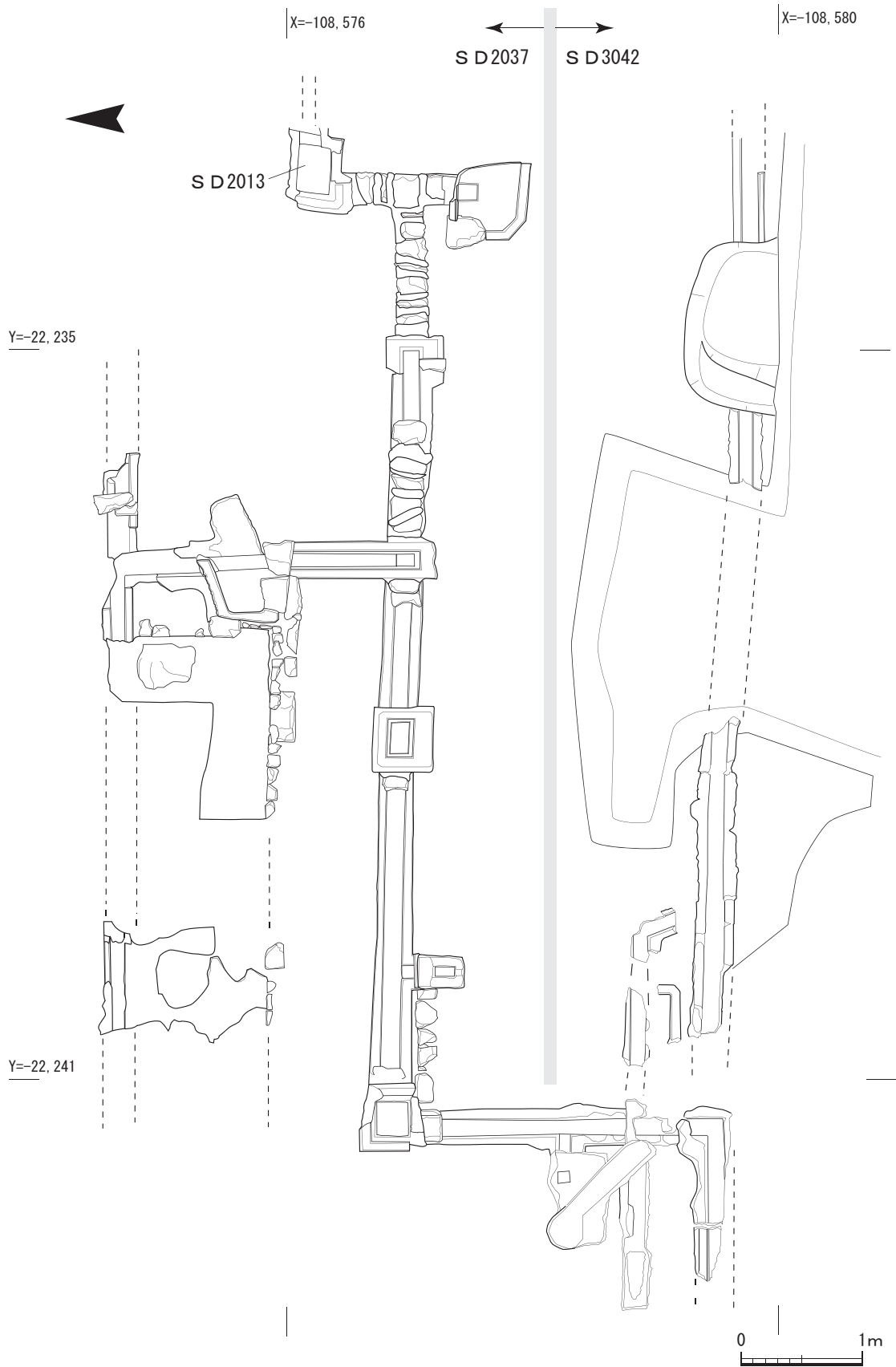


第50図 S B 3975(上屋敷)実測図

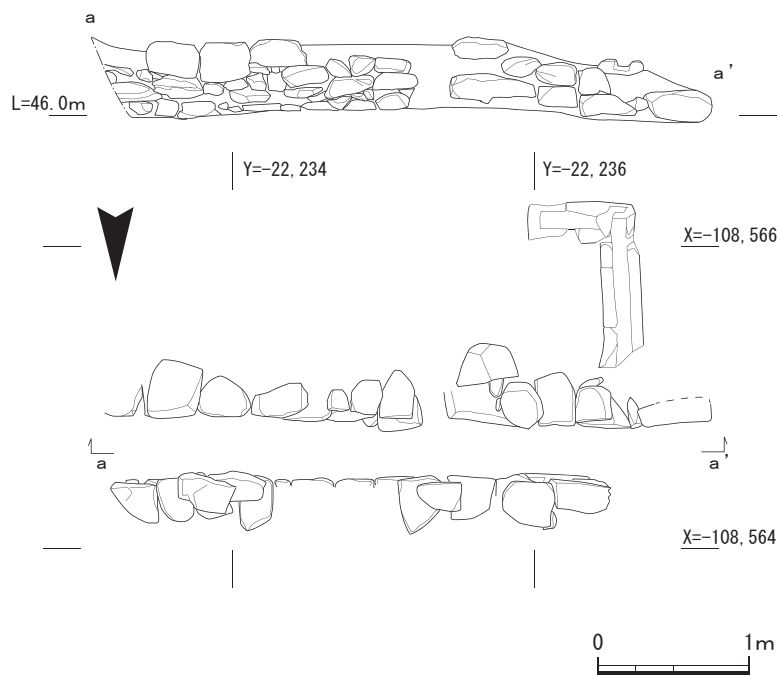


- | | |
|--|------------------------------------|
| 1. にぶい褐色 (7.5YR5/4) 礫混じり細粒砂 (焼土・炭化物含む) | 7. 灰黄褐色 (10YR4/2) 細礫含む細～中粒砂【S K09】 |
| 2. 黒褐色 (10Y3/2) 細粒砂 (土器片含む) | 8. 灰黄褐色 (10YR4/2) 細礫含む細～中粒砂 |
| 3. にぶい赤褐色 (5YR4/4) 細礫混じり細粒砂 (炭化物・焼土含む) | 9. 浅黄色 (2.5YR7/4) 細礫含む中粒砂【路面】 |
| 4. 灰黄褐色 (10YR4/2) 細礫含む細～中粒砂 | 10. にぶい黄色 (2.5YR6/4) 礫混じり中粒砂【路面】 |
| 5. 明黄褐色 (2.5Y4/6) 中礫含む中～粗粒砂 | 11. 黄褐色 (2.5YR5/3) 礫混じり中粒砂【路面】 |
| 6. にぶい黄色 (2.5YR6/4) 中礫含む中～粗粒砂 (鉄分沈着) | |

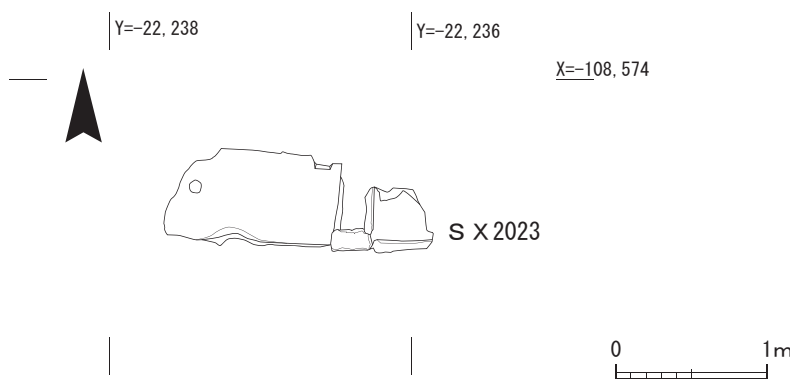
第51図 S D12・S K05・10実測図



第52図 S D 2013・2037・3042実測図



第53図 SD2020実測図



第54図 SX2023実測図

の一部である。南北4.65m、東西9m規模の地下施設で、暗渠と枳、水の流し場からなる。SD2037は調査地外の東側に広がる。枳は内側四方に段が付き、枳の内側と段に炭化した木材が落ち込み残存していたことから、嘉永の大火で焼亡した設備であり、枳の上には蓋として木製の板などが用いられていたことがわかる。水の流し場と想定される部位の漆喰は赤く被熱した痕跡を看取できる。町家の排水を担った遺構であると考えられる。暗渠内には黒褐色の泥が堆積し、京・信楽系陶器の蓋などが出土した(第117図11・12)。

SD3037(第55図) 3区北東部(9~11-u・v)で検出した漆喰暗渠である。南北0.2m(内側)、東西2.2m規模の暗渠である。SD3037は

調査区外の東に続く。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂で炭化物を含む。

SD3038(第55図) 3区北東部(9~11-u・v)で検出した漆喰暗渠である。南北0.2m(内側)、東西8.5m規模の地下施設で、暗渠と枳からなる。SD3038は調査区外の東に続く。漆喰の暗渠であるSD2037、SD3037、SD3038はいずれも排水溝という性格から東に位置する新町通りに接続すると思われる。なお、中央の枳から西側の暗渠は西に位置するSE3034へ傾斜する傾向を示し、同井戸に接続する。埋土は暗褐色細礫混じり細粒砂で炭化物を含む。土師器皿、泥面子、京・信楽系陶器などの細片が出土した。19世紀半ば(第117図17~21、第167図4)。

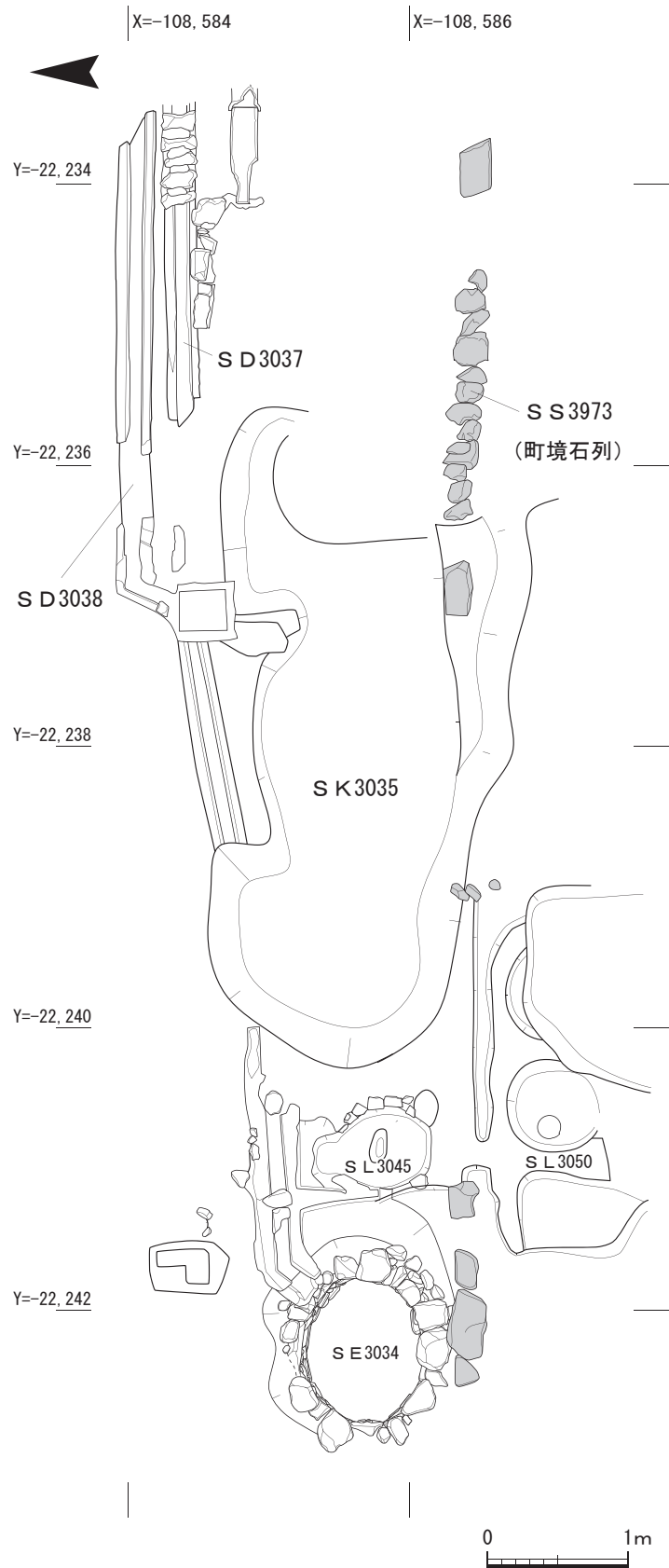
SD3039(第56図) 3区南東部(9~10-w)で検出した漆喰留の暗渠である。丸瓦を転用して土管代わりに使用し、瓦の接続部に漆喰を塗り込めていたと考えられるが、東端の枳付近以外の瓦は残存せず、接着剤として利用された漆喰のみが残存する。南北幅0.6m、東西検出長は5.14m

を測るが、東側調査区外に続く。深さ0.24mを測る。埋土は黒褐色中粒砂～細粒砂で炭化物を含む。出土遺物は瀬戸磁器、京・信楽系陶器などである。19世紀半ば（第117図13～16）。

S D 3042（第52図） 3区北東部（9・10-t）で検出した漆喰暗渠である。検出規模は南北1.7m、東西9.63mを測る。S D 2037と接続する暗渠であるが、漆喰の重なり合いから三度の修築が行われたことがわかる。一度目がS D 2037と接続する暗渠であり、二度目は東端から東西方向にのびる暗渠、三度目は二度目の暗渠に横付けした暗渠である。いずれも現地で塗り込んだ「現場打ち」で施工されている。

S D 3097（第57図） 3区西部（14-t～x）で検出した石組溝である。南北10.9m、掘形は東西幅1.2m、石組内側の幅は0.6m、深さ0.2mを測る。町境の背割り溝で嘉永の大火ののち上屋敷造成に伴って役割を終えたと考えられる。滞水していた痕跡は確認できない。S D 3099はS D 3097と同じ背割り溝である。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、銭などが出土した。18世紀末～19世紀半ば（第117図22～26、第169図59）。

S D 3099（第57図） 3区西南部（14-a）で検出した石組溝である。南北1.02m、掘形幅1.5m、深



第55図 S K 3035・S D 3037・3038・SS3973実測図

さ0.3mを測る。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、京・信楽系陶器などが出土した。掘形の年代は18世紀末か(第117図27～29)。

③井戸

S E 135 (第58図左上) 1区中央南側(13・14-r)第3面で検出した石組の井戸である。直径1.9m、石組内の直径は0.9m、近代の建物跡を除去した後にS D81の底部を検出面として、そこから0.5mほど掘削した。埋土は焼土で満たされており、土師器皿や土人形、肥前磁器、瓦、銅製品等が出土したが、いずれも被熱痕が観察できる。肥前磁器の生産年代から嘉永の大火に伴う廃棄と考えられる。19世紀半ば(第123図1～17、第158図、第163図10、第170図1・2)。

S E 2024 (第49図) 2区南部(9-s・t)で検出した井戸である。直径1.45mである。深さ2mまで掘削した。石組は確認できない。埋土は灰褐色細礫混じり細粒砂である。天明の大火の焼土層を削平していることから大火後に掘削された遺構であると考えられる。

S E 2054 (第29図) 2区南部(10-s)第2面で検出した井戸である。直径1.45mで、深さ1.2mまで掘削した。石組は確認できない。埋土は灰黄褐色中粒砂～細粒砂である。京・信楽系陶器、

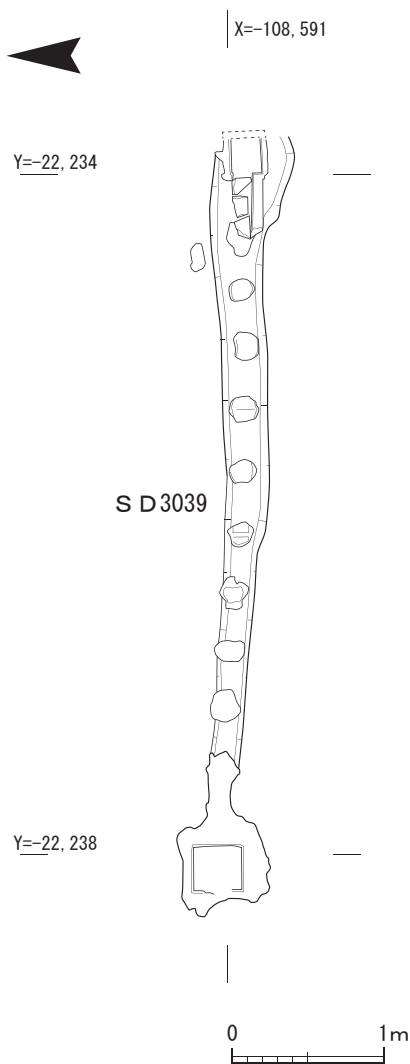
中国製白磁などが出土した。19世紀(第121図5～8)。

S E 2223 (第7図) 2区東部(9-r)第3面で検出した井戸である。南北の直径1.04mで、深さ1mほど掘削した。埋土は黒褐色細礫混じり極細粒砂～細粒砂である。土師器皿、肥前磁器、軟質施釉陶器などが出土した。17世紀末～18世紀初頭(第119図1～4)。

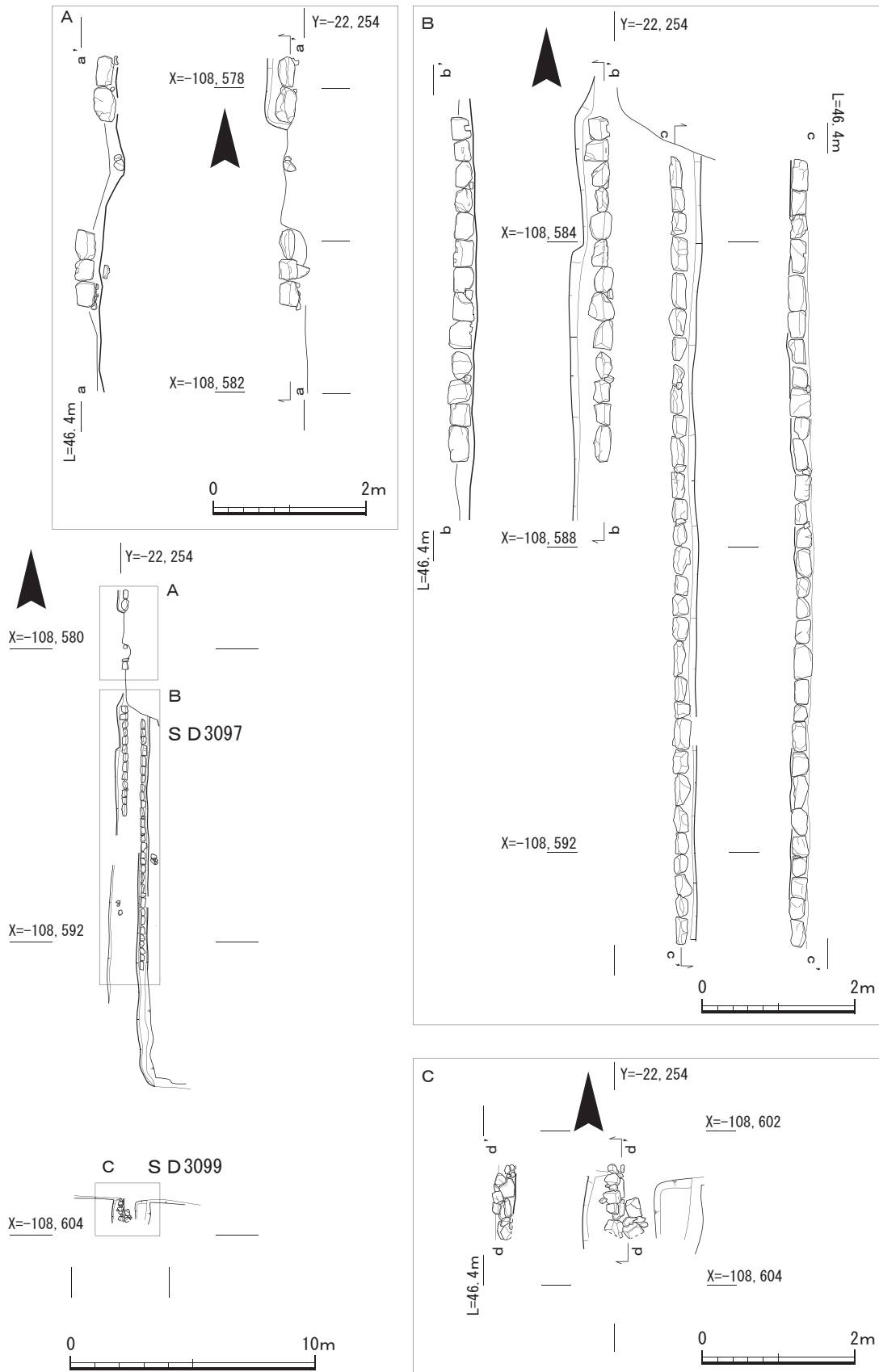
S E 2264 (第29図) 2区西部(11・12-q)第2面で検出した井戸である。直径1.4mで、深さ0.75mほど掘削した。土師器皿、肥前陶器などが出土した。18世紀前半(第119図14～21)。

S E 2269 (第29図) 2区西部(12-q)第2面で検出した井戸である。直径1.4mを測る。検出面から0.86m掘削した。土師器皿、肥前磁器などが出土した。17世紀末～18世紀初頭(第119図5～13)。

S E 3034 (第58図左下) 3区北部(11-v)で検出した石組井戸である。直径1.5m、石組内直径0.75m、深さ1.02mを測る。井戸枠内の堆積の上半は便槽として利用された信楽焼の甕が投棄されており、井戸の底部には泥が沈殿していた。S E 3034にはS D3038が接続し、S D3038に流した水



第56図 S D3039実測図



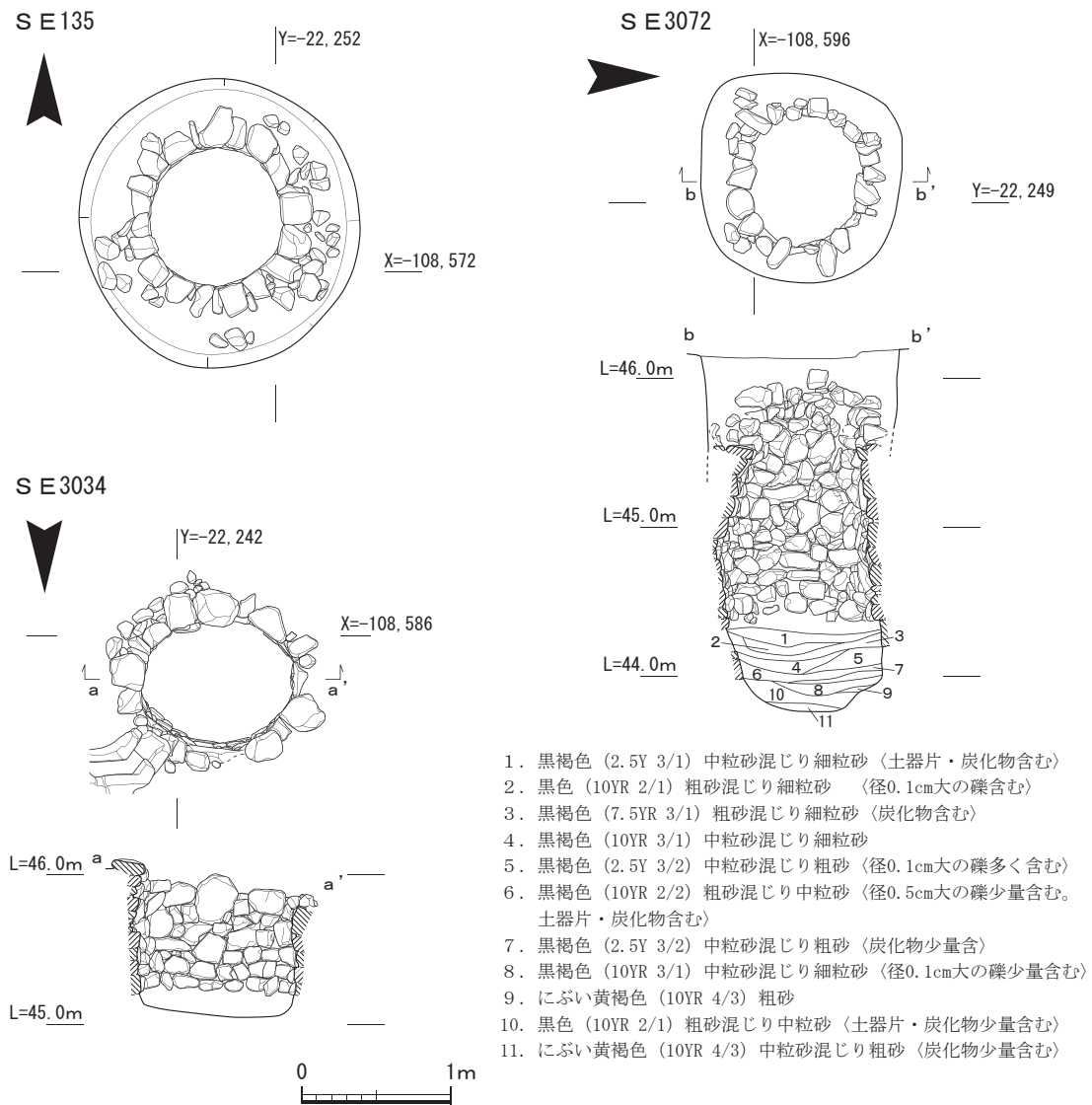
第57図 S D 3097・3099実測図

がS E 3034に流れ込む構造を有している。S E 3034が同時代の井戸としては浅いことと合わせてS E 3034が貯水目的で造成された可能性がある。枠内から土師器皿、信楽の甕など、掘形から信楽の播鉢が出土した。19世紀半ば。(第121図16～23、第166図5)。

S E 3072 (第58図右) 3区南西部(13-x・y)で検出した石組井戸である。直径1.9mで、石組内直径0.8m、深さ2.45mを測る。埋土は上層は黒褐色細粒砂であるが、下層はにぶい黄褐色中粒砂～粗砂になる。上層から京・信楽系陶器、肥前磁器、瀬戸磁器、埴塙などが出土した。19世紀半ば(第121図9～15)。

S E 3132 (第59図上) 3区東部(10・11-v)第2面で検出した石組井戸である。直径1.22m、石組内直径0.8m、深さ0.8mを測る。埋土は褐灰色細粒砂である。土師器皿や京・信楽系、肥前陶器などが出土した。18世紀前半(第120図)。

S E 3138 (第59図上) 3区東部(10-v)第2面で検出した石組井戸である。直径1.8m、石組内径0.85mを測る。深さ2.25mまで掘削した。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、肥前磁器、京・



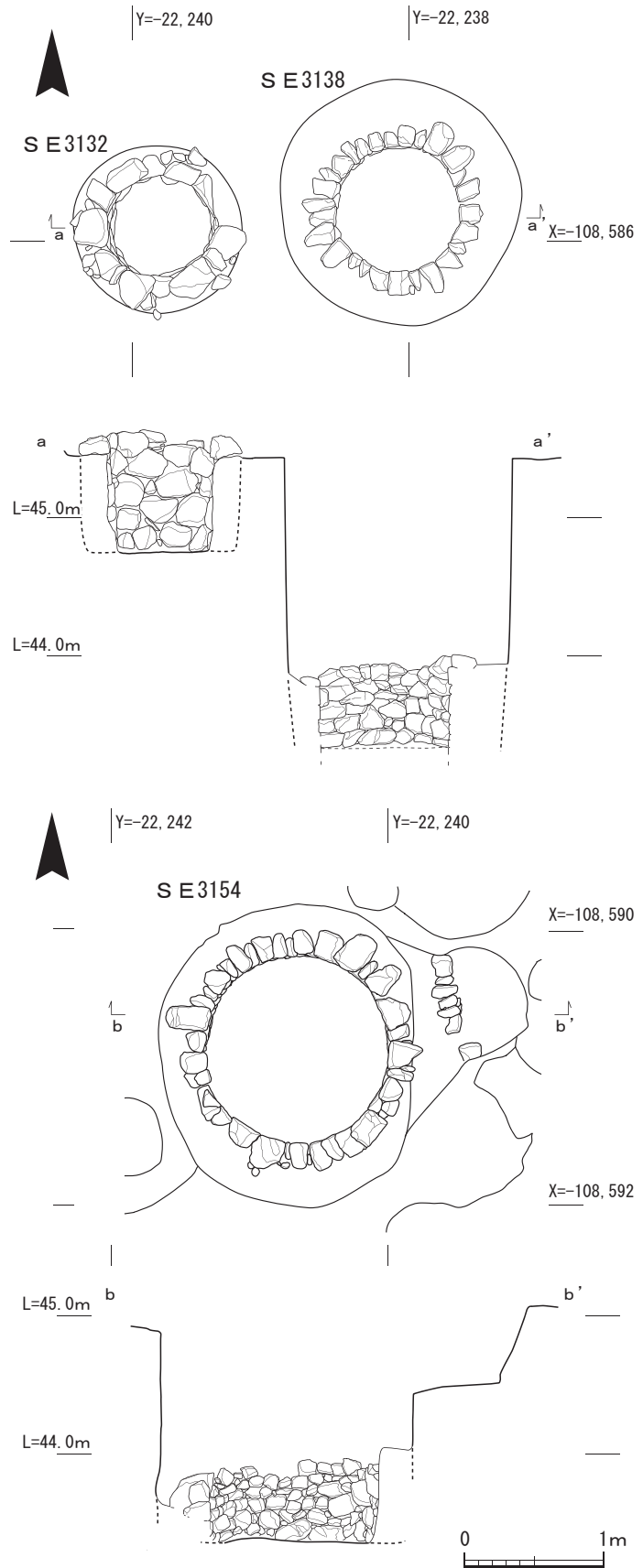
第58図 S E 135・3034・3072実測図

信楽系陶器などが出土した。19世紀前半(第122図1～5)。

S E 3154 (第59図下) 3区南東部(10・11-w)第2面で検出した石組井戸である。直径1.85m、石組内直径1.30mを測る。深さ1.8mまで掘削した。南側の一部が攪乱により削平されている。土師器皿、肥前磁器、石製品などが出土した。18世紀末～19世紀前半(第122図6～21、第166図1～3・6・7)。

S E 3171 (第60図右上) 3区中央部(12-v)第2面で検出した瓦組井戸である。直径1.1m、瓦組内直径0.45m、深さ0.5mを測る。上部が近代建物基礎に削平されている。平瓦を短軸0.1m、長軸0.2m程度に破碎加工して組み上げている。京・信楽系陶器、肥前磁器、瓦などが出土した。19世紀前半(第121図1～4、第157図9・10)。

S E 3198 (第60図左上) 3区西部(15-v)第2面で検出した瓦・石組井戸である。南北1.5m、石組内直径は0.8m、東西0.87m、深さ1.4mを測る。西側は調査区外に広がる。石と瓦を交互に組み上げて造成している。瓦は一部破碎加工を施している。軒瓦を組み込み、瓦当面が枠内に向くようにしている。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂である。埋土に石、瓦を多く含むが井戸の壁から崩れた一部と思われる。肥前磁器、信楽、瓦などが出土した。17世紀後半(第119図28・29、第159図9～12)。

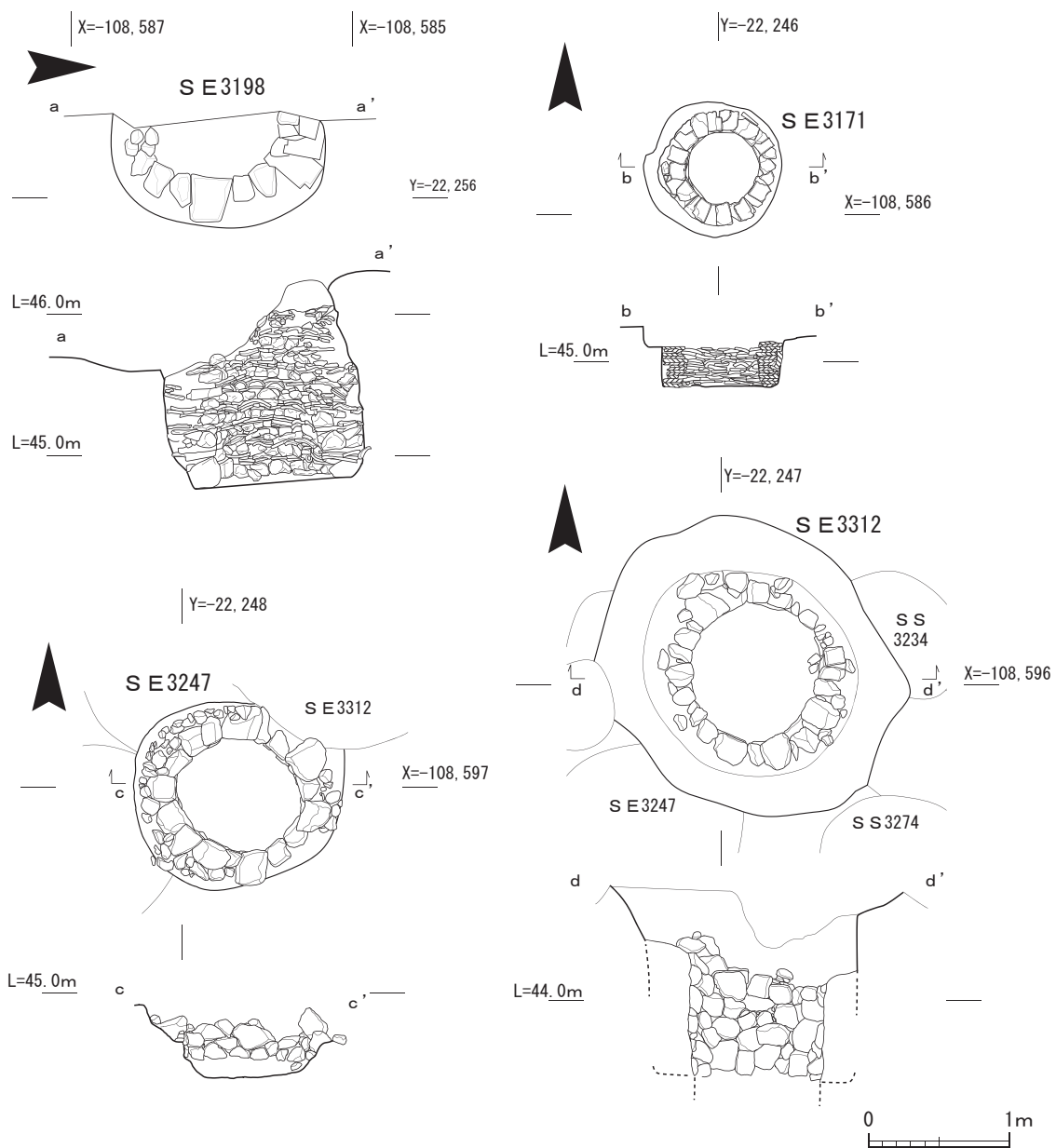


第59図 S E 3132・3138・3154実測図

S E 3247 (第60図左下) 3区南部(12-y)第2面で検出した石組井戸である。直径1.3m、石組内直径0.85mを測る。検出面からの深さは0.5mである。埋土は褐灰色細粒砂である。土師器皿、肥前磁器などが出土した。18世紀前半(第119図22~27)。

S E 3312 (第60図右下) 3区西部(12-x・y)第2面で検出した石組井戸である。直径2m、石組内直径0.95mで、深さ2.6mまで掘削した。埋土は暗灰黄色細粒砂で漆喰片、瓦片を含む。「府」と描かれた京・信楽系の椀などが出土した。中井主水の上屋敷図面上で示された井戸の位置と検出位置が合致する井戸である。投棄された遺物が近代の遺物であることから井戸の廃絶は近代と考えられるが、井戸の掘削時期は幕末の上屋敷造成時と考えられる。19世紀後半(第123図18~21・第160図8~13、169図75)。

S E 3335 (第29図) 3区北部(11-t)第2面で検出した井戸である。南北1.9m、東西2.1mを測



第60図 S E 3171・3198・3247・3312実測図

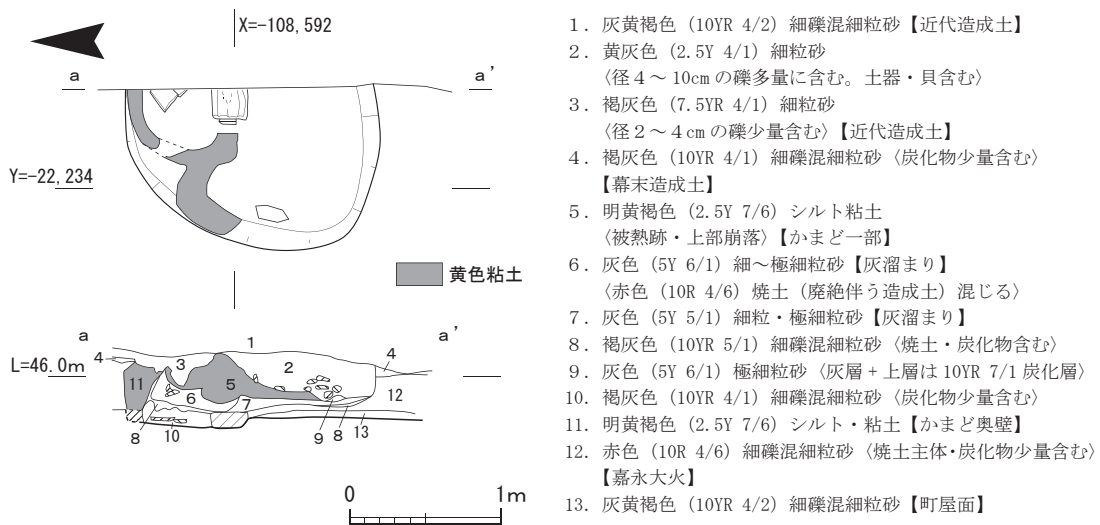
る。深さ0.5mまで掘削した。石組等は確認できなかった。埋土は黒褐色細粒砂で、漆喰や瓦片、粒径10～20cmの石を含む。井戸内の石は井戸壁の崩れた残骸かと思われる。S E 3312と同じく上屋敷の図面から幕末に掘削された井戸であると考えられる。京・信楽系陶器、硯などが出土した。19世紀後半(第123図22、第160図6、第167図5・6)。

④かまど

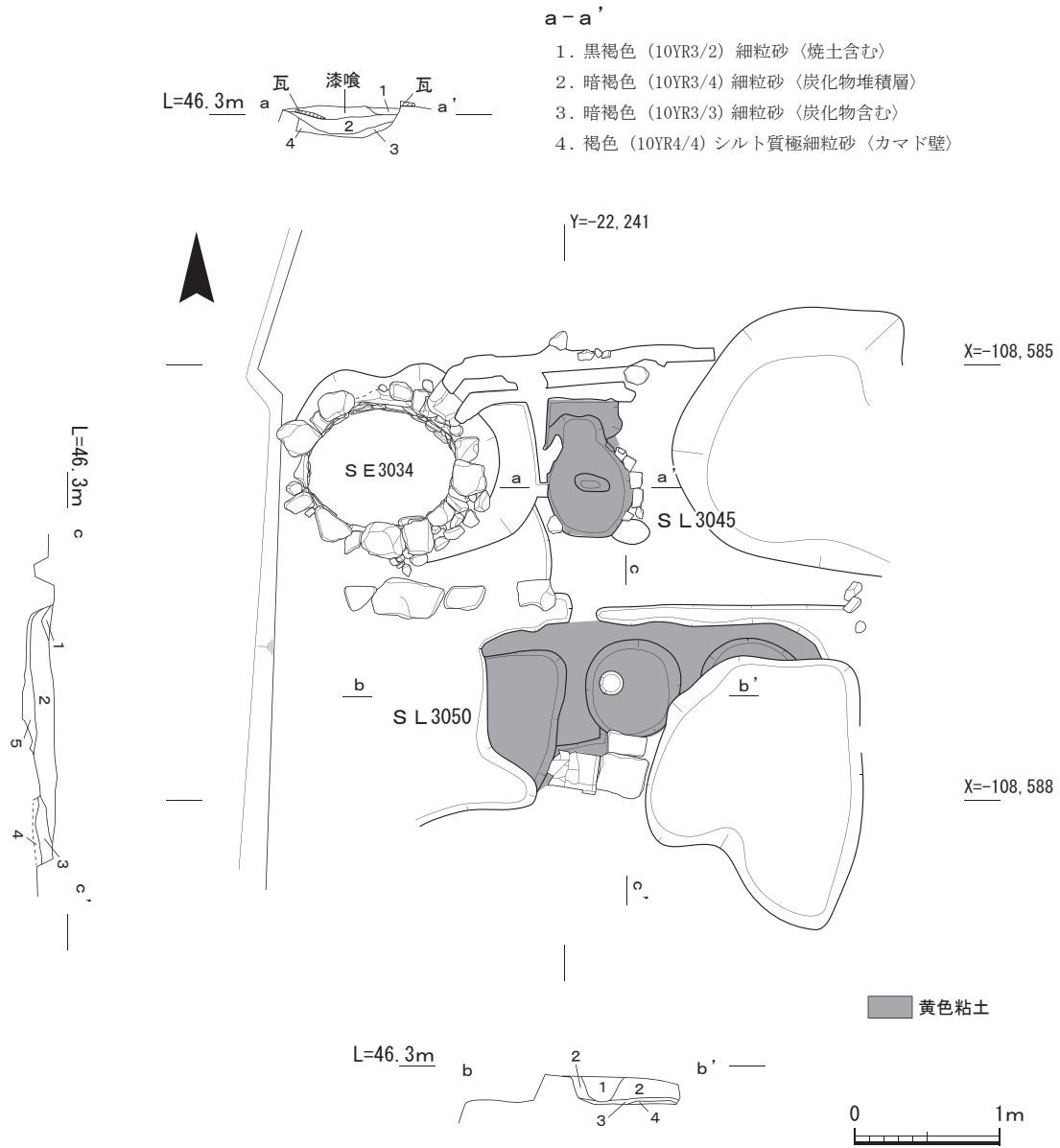
S L 3016(第61図) 3区東部(9-w・x)で検出した2連のかまどである。南北0.6m、東西0.4m、調査区東壁に残存するS L 3016の残存高は0.5mを測り、調査区東側に広がる。黄色粘土を円弧状に貼り付けて造成しており、かまどの内面は被熱して赤く変色している。南向きの焚口には石を据えている。石の上面も被熱している。円弧が2つ確認できるため少なくとも2基のかまどがあったと考えられる。S L 3016の下層の焼土は遺物の年代より嘉永の大火であると考えられることから、この遺構の造成時期を上屋敷建設時としたい。

S L 3045(第62図) 3区中央部(11-v)で検出した1連のかまどである。南北0.95m、東西0.7m、残存高は0.15mを測る。検出面では破碎加工した瓦片を並べ、その下に黄色粘土を貼り付けている状況が確認できた。粘土は平面では円弧上に貼り付けており、底部まで粘土が貼り付けられている。北向きのかまど焚口には石が据えられていた。かまどの底に被熱痕が観察できる。京・信楽系陶器の細片などが出土した。19世紀前半(第124図1・2)。

S L 3050(第62図) 3区中央部(10・11-v)で検出した3連のかまどである。南北1.1m、東西1.16mを測る。かまどの東西は攪乱に削平されている。残存高は0.2mを測る。3つ並びで円弧上に黄色粘土を貼り付けて成形している。内面には被熱痕が確認できる。真ん中のかまどの中から胞衣壺として用いられる素焼き壺が出土しており、火消し壺として用いていたと考えられる。南向きのかまどの焚口には扁平に加工した花崗岩や瓦、加工岩石が据えられていた。加工岩石は被熱している。土師器の細片などが出土した。19世紀半ば(第124図3～5、図版第133-3・4)。



第61図 S L 3016実測図



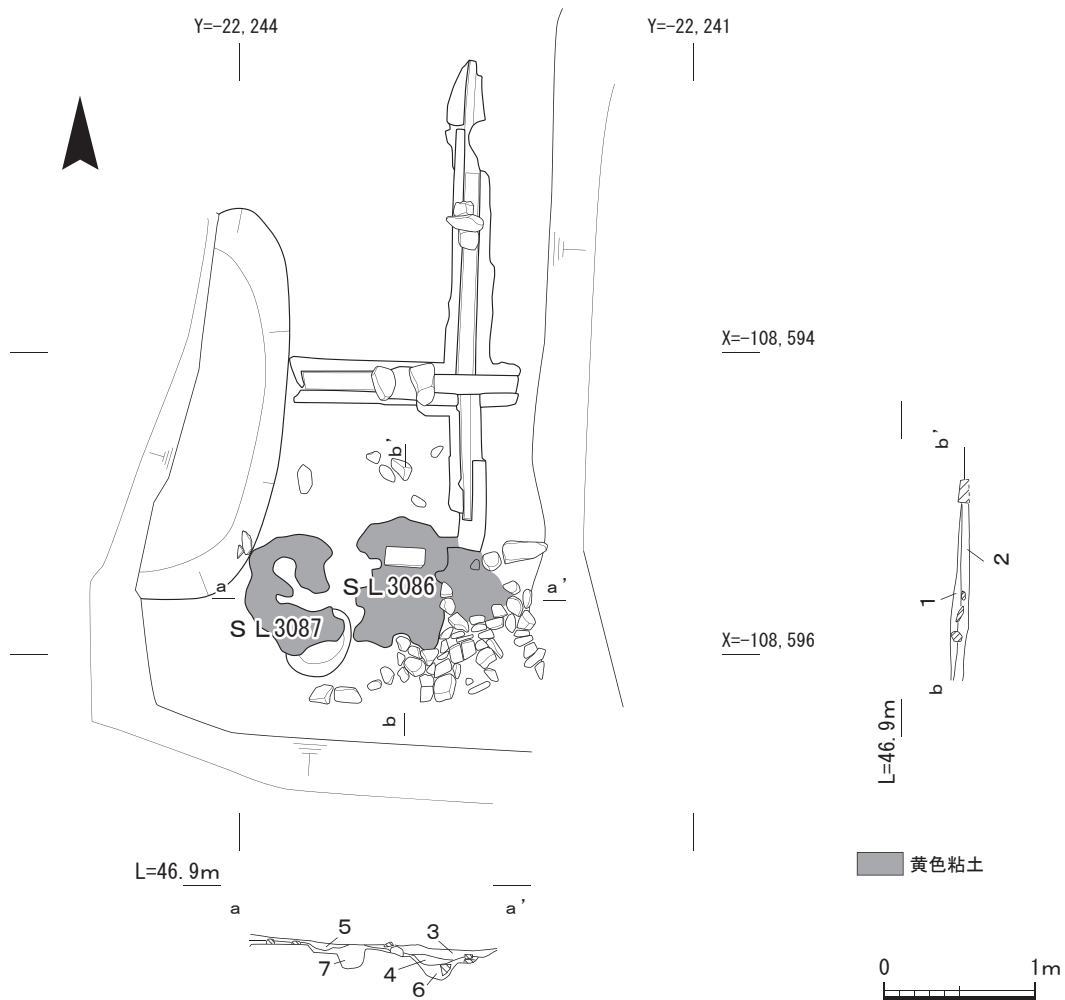
第62図 S L 3045・3050実測図

S L 3086(第63図) 3区南部(11-x)で検出した2連かまどの東側である。南北0.9m、東西0.6mを測るが上端が削平されている。底部の張り付いた黄色粘土が一部と、北向きの焚口に据えられた加工岩石を確認している。周囲に石が敷設されている。底部が被熱して赤く変色している。土師器皿、肥前磁器が出土した。19世紀半ば(第124図6・7、図版第133-1・2)。

S L 3087(第63図) 3区南部(11-x)で検出した2連のかまどの西側である。南北0.85m、東西0.65mを測る。上部が激しく削平されている。底部の黄色粘土と被熱痕を確認した。土師器皿、肥前磁器が出土している。19世紀半ば(第124図6・7、図版第133-1・2)。

⑤集石遺構・石組遺構

S S07(第64図) 1区北部(13・14-o)で検出した石組遺構である。南北1.2m、東西4.1m、石組



1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質極細粒砂 (炭化物焼土含む)
2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 極細粒砂 (焼土含む)
3. 暗褐色 (10YR3/3) 粗砂混 中粒砂 (焼土含む)
4. 黒色 (N1.5/) 中粒砂 (炭化物層)
5. 暗褐色 (10YR3/3) 極細粒砂
6. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 中粒砂混細粒砂 (焼土炭化物含む)
7. 暗褐色 (10YR3/2) 極細粒砂質細粒砂

第63図 S L 3086・3087実測図

内東西幅は3.2mで、深さ0.8mまで掘削して確認した。遺構の大部分は北側調査区外に広がる。埋土は黒褐色中粒砂～細粒砂である。上層に焼土と炭化物を含む堆積状況が観察できたため、遺物の年代から天明の大火での廃絶と考えられる。廃絶段階では東西幅のおよそ2/3程度しか使用していなかったようで、南北方向に石組を新設している。中層では黄褐色中礫～細礫混じり粗砂～極粗砂が堆積する。築造後に洪水などの影響で一度埋没したと考えられる。土師器皿、肥前陶磁器などが出土した。上層18世紀末、中層18世紀半ば、掘形17世紀(第125図1～38)。

S S 3056(第65図) 3区北側(10-u)で検出した漆喰遺構である。検出規模は南北1.9m、東西1.65m、深さ0.65mを測る。排水用の漆喰構造物である。下部は円筒状の穴を掘削して土坑の内部に瓦片、漆喰片の混じる粒径5～15cmの角礫を充填し、水を浸透させる構造を有する。上部は播鉢状に漆喰を塗り付け、端に石を据え付けている。水が流れるように底に穴を空けている。中学校時代の遺構であるS S 3043に削平され、天明の大火の焼土層を掘削して造成されている。

S S 3115(第49図) 3区南西部(15-y)で検出した漆喰留の石組遺構である。南北0.3m、東西検出幅1.05m、残存高0.15mを測る。東側は攪乱に削平され、西側は調査区外に広がる。町家の裏手にあたり建物の基礎などの可能性がある。

S S 3118(第66図) 3区北東部(10・11-u)で検出した石列である。南北0.2m、東西検出幅2.7mを測る。町家と町家の境を示す石列と考えられる。土師器皿の細片が出土した。18世紀後半か(第125図40)。

S S 3274(第43図) 3区南部(12-y)第2面で検出した方形の石組遺構である。掘形は南北1.3m、東西1.1mを測る。西側と南側の石組は残存していない。埋土は黄灰色極細粒砂～細粒砂である。遺構の切り合いからS S 3276よりも新相であるが年代は不明である(第125図39)。

S S 3322(第67図) 3区西部(13-w)第2面で検出した石組遺構である。直径1m、石組内直径0.5m、深さ0.2mを測る。埋土はにぶい黄褐色細粒砂である。肥前陶磁器が出土した。18世紀後半(第125図41・42)。

S S 3973(町境石列)(第55図) 3区東部(9～11-v)で検出した石列である。検出規模は南北0.3m、東西8.8mを測る。この石列と並行にのびるS L 3050の北側で確認された小溝と合わせて、町家と町家の境を示す境目と考えられる。出土遺物はないが、近代整地土、焼土に覆われており、これらよりも古段階の遺構として考えられ、町家段階の構築物と判断した。

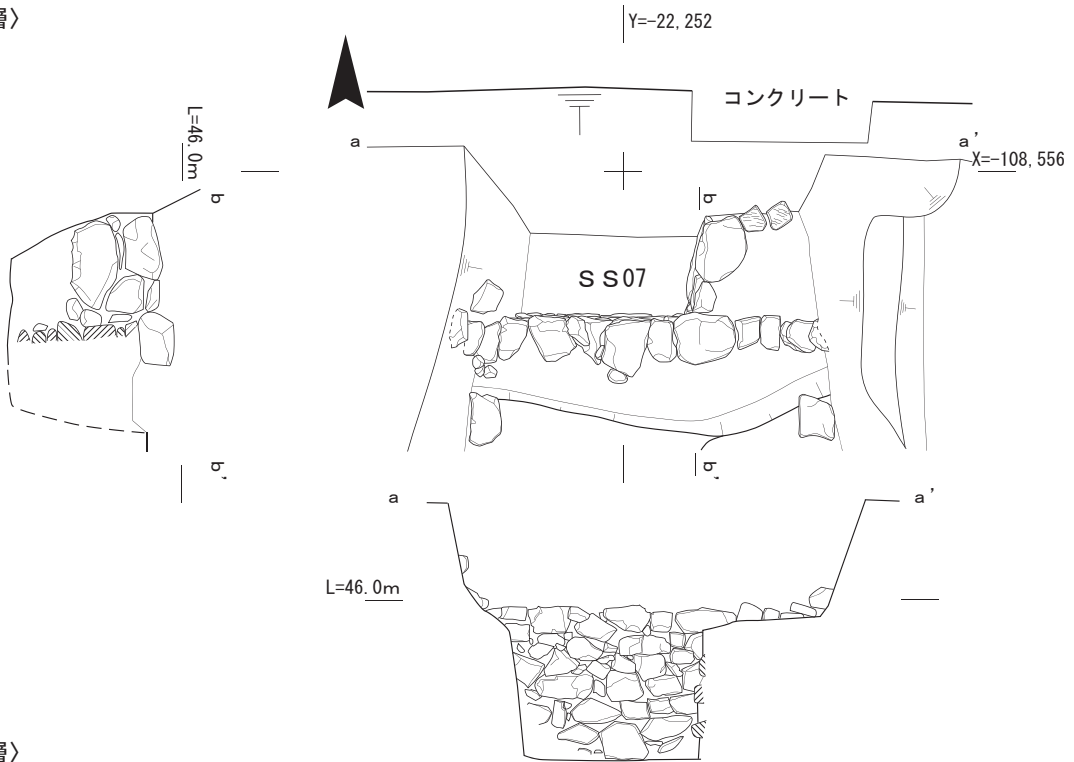
⑥土器埋納遺構

S J 2040(第49図) 2区南部(11-t)で検出した胞衣壺である。直径0.3mを測る。壺に内容物は確認できない。19世紀(第126図1・2)。

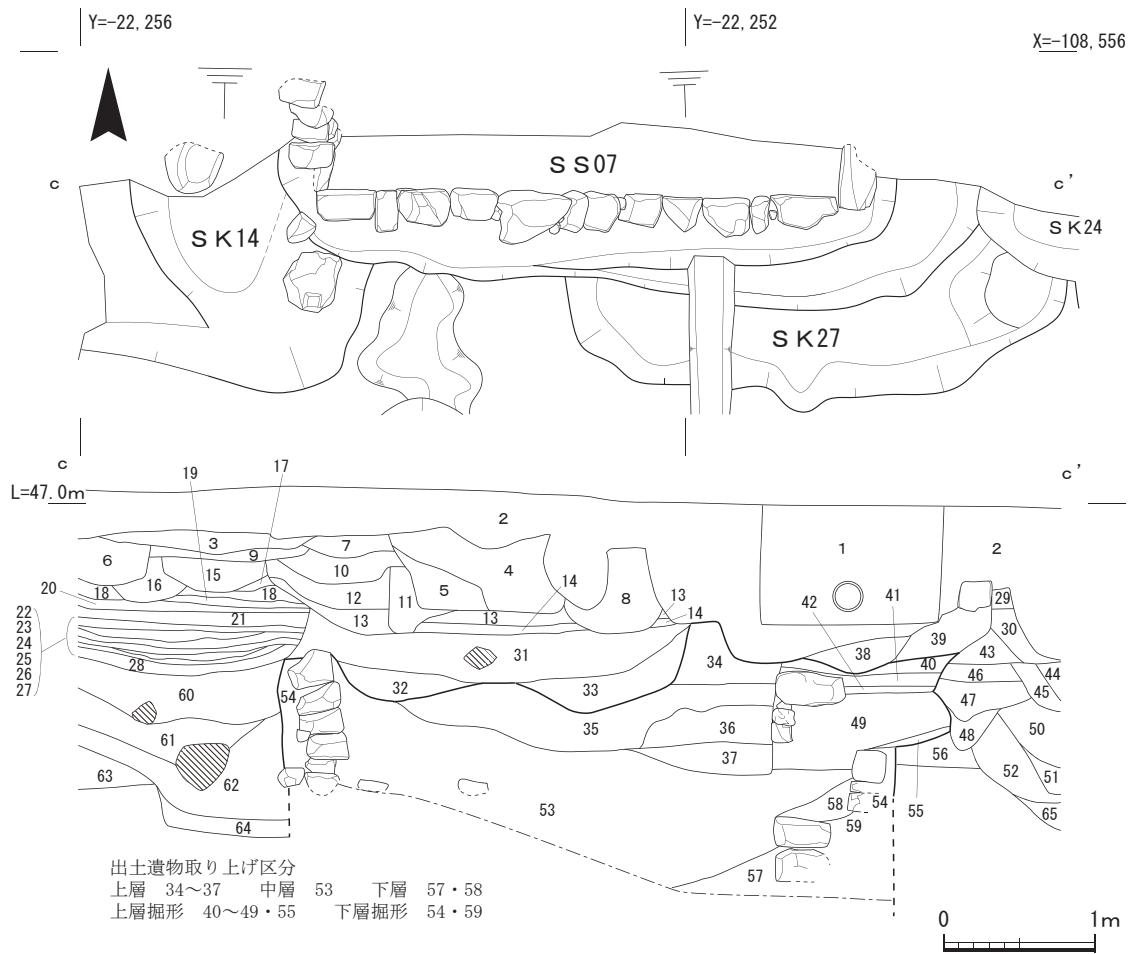
S J 3049(第49図) 3区西部(10-u)で検出した胞衣壺である。直径0.3m、深さ0.2mを測る。壺に内容物は確認できない。19世紀(第126図3・4)。

S J 3052(第68図) 3区北部(11-u)で検出した甕埋設遺構である。南北0.9m、東西0.9m、深さ0.35mを測る。上部は削平されており残存しない。甕の底部には黄色の物質が付着しており、理化学分析の結果、尿石であることが判明した。便槽として埋設された遺構であると考えられる。

〈上層〉



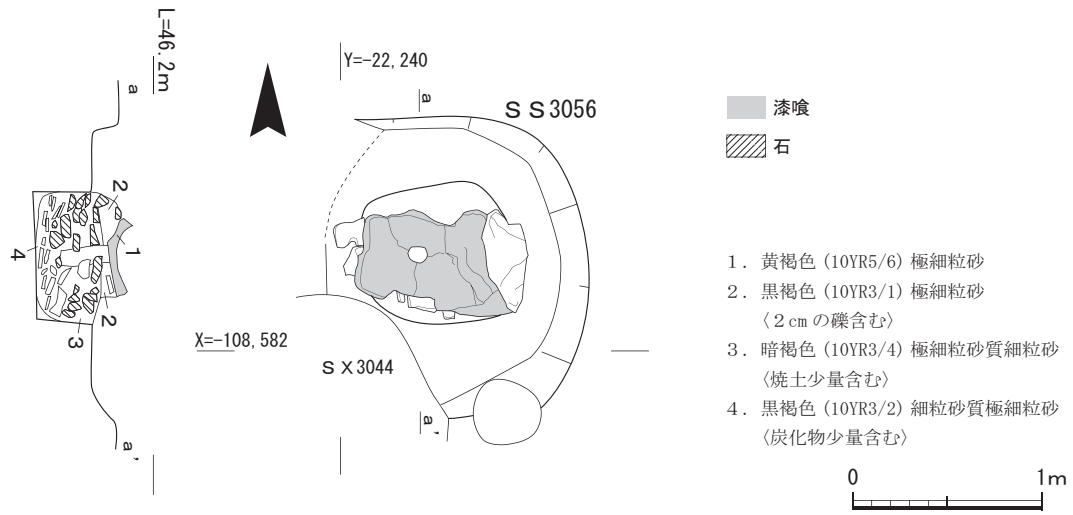
〈下層〉



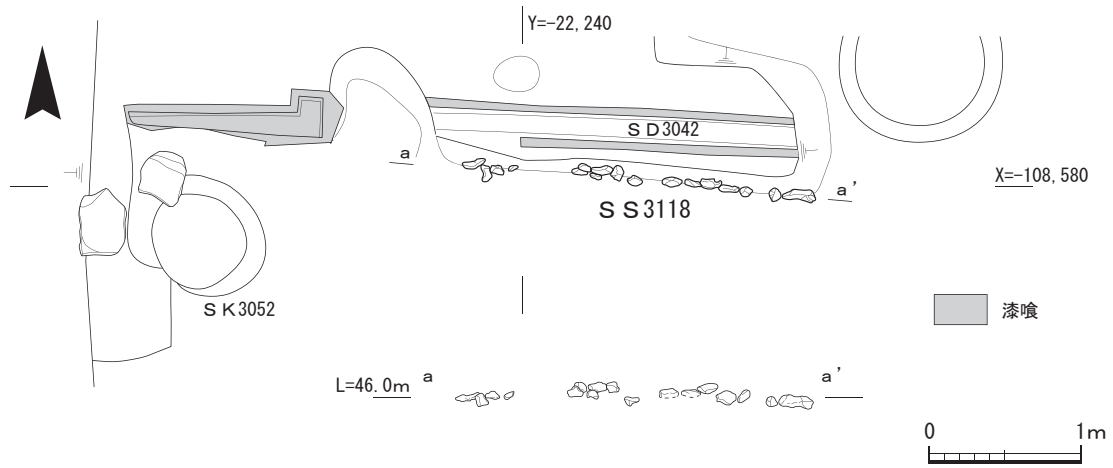
第64図 S S07・S K14・27実測図

S S07土色

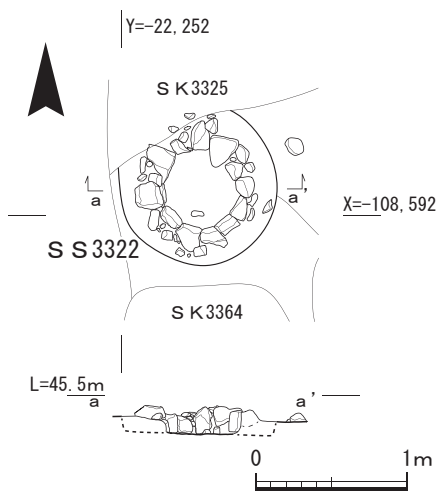
1. コンクリート基礎
2. 攪乱
3. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり細粒砂
〈径2～4cmの礫・炭化物少量含む〉
4. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混じり細粒砂
〈径4～6cmの礫含む、下層に多量の焼土・少量の炭化物含む〉
5. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 中～細粒砂
6. 褐色 (7.5YR 4/3) 細礫混じり細粒砂
〈径10～20cmの礫・焼土・炭化物少量含む〉
7. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じり細粒砂
〈径1～3cmの礫・炭化物含む〉
8. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり細粒砂
〈径2～4cmの礫含む、焼土・炭化物少量含む〉
9. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂 〈径1～2cmの礫・焼土含む〉
10. 褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり細粒砂
〈径2～4cmの礫・炭化物・焼土少量含む〉
11. 黒褐色 (7.5YR 3/2) 細礫混じり細粒砂 〈焼土少量含む〉
12. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混じり中～細粒砂
〈径6～20cmの礫・焼土・土器片含む〉
13. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じり細粒砂
〈炭化物・焼土多量に含む〉
14. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり細粒砂
〈シルトブロック状に含む、炭化物少量含む〉
15. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混じり中～細粒砂
〈径2～4cmの礫含む、焼土少量含む、漆喰溝〉
16. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 細粒砂
〈径4～8cmの礫含む、漆喰含む〉
17. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細礫混じり細粒砂
〈径2～4cmの礫少量含む〉
18. 灰褐色 (5YR 4/2) 細礫混じり細粒砂
〈径2～4cmの礫・炭化物少量含む、焼土多量に含む〉
19. 黒褐色 (7.5Y 3/2) 細礫混じり細粒砂
〈径2～4cmの礫・炭化物・焼土少量含む〉
20. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) シルト質細粒砂【**整地土**】
21. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂 〈焼土層・炭化物含む〉
22. 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 中粒砂混じり細粒砂
23. 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) 細粒砂混じり中粒砂
〈径1～2cmの礫・炭化物少量含む〉
24. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 中粒砂混じり細粒砂
〈径2～4cmの礫含む、上面が焼土層〉
25. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 極細粒砂～細粒砂
〈径6～8cmの礫少量含む〉
26. 灰黄色 (2.5Y 6/2) 極細粒砂～細粒砂 〈中粒砂混じる〉
27. 浅黄色 (2.5Y 7/4) 細粒砂～中粒砂
〈径1～2cmの礫・炭化物含む〉
28. にぶい黄色 (2.5Y 6/4) 中粒砂
〈径2～6cmの礫・炭化物含む〉
29. 黒褐色 (7.5Y 3/1) 細礫混じり細粒砂
〈径1～2cmの礫・焼土・炭化物少量含む〉
30. にぶい黄褐色 (10YR 5/3) 細粒砂
〈径1～2cmの礫・焼土・炭化物少量含む〉
31. 黒色 (10YR 1.7/1) 炭の単一層
32. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じり細粒砂
〈炭化物・焼土多量に含む〉
33. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 中粒砂～細粒砂
〈径2～3cmの礫多量に含む、径4～8cmの礫少量含む、洪水堆積か〉
34. 暗褐色 (10YR 3/4) 細礫混じり細粒砂
〈径2～4cmの礫・焼土・炭化物少量含む〉
35. 黄褐色 (2.5Y 5/3) シルト混じり中粒砂～粗砂
〈径1～2cmの礫多量に含む、径4～8cmの礫少量含む〉
36. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 細礫混じり細粒砂
〈径2～4cmの礫少量含む、炭化物含む〉
37. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 中礫～細礫混じり細粒砂
〈上層に径2～4cmの礫堆積 下層に焼土・炭化物堆積〉
38. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂
〈径2～4cmの礫・焼土少量含む〉
39. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり細粒砂
〈径4～8cmの礫・焼土含む〉
40. 黒褐色 (10YR 3/2) 細粒砂～中粒砂 〈径2～4cmの礫含む〉
41. 黒褐色 (7.5YR 4/3) 細礫混じり細粒砂
〈径2～4cmの礫少量含む〉
42. 淡黄色 (5Y 8/4) 粗砂 〈径2～4cmの礫少量含む〉
43. 灰褐色 (7.5YR 4/2) 細礫混じり細粒砂
〈焼土・炭化物少量含む〉
44. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり細粒砂
〈径2～6cmの礫・焼土少量含む、炭化物含む〉
45. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 中粒砂～細粒砂
〈径2～4cmの礫含む、炭化物・焼土少量含む〉
46. 褐色 (7.5YR 4/3) 細粒砂
〈径3～4cmの礫・炭化物少量含む、焼土含む〉
47. 灰褐色 (7.5YR 4/2) 砂礫層 〈径2～4cmの礫多量に含む〉
48. 黒褐色 (7.5YR 3/2) 細礫混じり細粒砂
〈焼土少量含む〉
49. 黄褐色 (2.5Y 5/3) 極粗砂混じり中粒砂～粗砂
〈径2～3cmの礫多量に含む、径4～8cmの礫少量含む〉
50. 黒褐色 (2.5Y 3/2) 細礫混じり細粒砂～中粒砂
〈径2～10cmの礫・土器片含む、炭化物含む〉
51. にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 細礫混じり細粒砂～中粒砂 〈径4～8cmの礫少量含む〉
52. 黒褐色 (10YR 2/2) 細粒砂 〈径1～6cmの礫少量含む〉
53. 黄褐色 (2.5Y 5/3) 中礫～細礫混じり粗～極粗砂【**洪水堆積**】
54. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 細礫混じり細粒砂
〈径2～4cmの礫・炭化物・焼土少量含む〉
55. 黒褐色 (7.5YR 3/2) 細礫混じり細粒砂
〈径3～6cmの礫少量含む、焼土含む〉
56. 黒褐色 (7.5YR 2/2) 細礫混じり中粒砂～細粒砂
〈径2～4cmの礫少量含む、炭化物含む〉
57. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 細礫混じり中粒砂～細粒砂
58. 黒褐色 (7.5YR 3/2) 細礫混じり細粒砂 〈焼土含〉
59. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じり細粒砂 〈焼土含〉
60. 暗褐色 (10YR 3/3) 細礫混じり細粒砂
〈径2～4cmの礫少量含む、焼土・炭化物含む、元和期の火災か〉
61. 灰黄色 (2.5Y 6/2) 中粒砂～粗砂
〈径1～6cmの礫多量に含む〉
62. 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 細礫混じり中粒砂
〈径4～6cmの礫少量含む、土器片含む〉
63. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 細粒砂
〈径2～6cmの礫・炭化物少量含む〉
64. オリーブ黒色 (5Y 3/1) わずかにシルト質細粒砂
〈径6～8cmの礫少量含む、炭化物含む〉
65. 黒褐色 (10YR 3/2) 細礫混じり細粒砂
〈径4～6cmの礫・炭化物少量含む〉



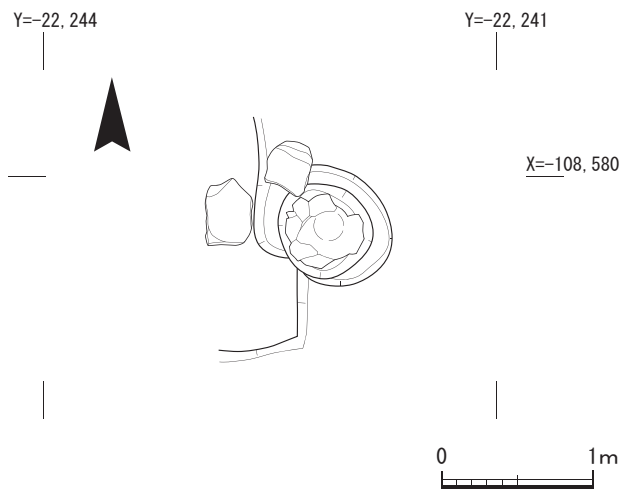
第65図 S S 3056実測図



第66図 S S 3118実測図



第67図 S S 3322実測図



第68図 S K 3052実測図

埋土は褐灰色粗シルト～極細粒砂である。信楽甕が埋設されていた。19世紀(第127図1)。

S J 3116(第49図) 3区西部(11-t)で検出した朧衣壺である。直径0.25m、深さ0.15mである。壺に内容物は確認できない。19世紀(第126図5)。

S J 3972(第49図) 3区南部(11・12-a)で検出した甕埋設遺構である。検出幅は南北1.4m、東西2.4m、深さ0.3mを測る。南側は調査区外に広がる。S J 3052と共通する状況から便槽であると考えられる。埋土は黒褐色細粒砂で焼土を含む。信楽甕が埋設されていた。19世紀(第127図2・3)。

⑥土坑

S K 05(第49図) 1区中央部(13・14-o・p)で検出した廃棄土坑である。検出規模は南北1.9m、東西5.06m、深さ1.2mを測る。南側を攪乱により削平される。S D12を削平する大型土坑で、下層は白色土と黒色土の互層を呈することから長期間開口していた土坑であると考えられる。上層は暗褐色の細粒砂を主体とする埋土が堆積する。土師器皿、肥前磁器、京・信楽系陶器、瓦、石製品などの遺物が多量に出土した。19世紀半ば(第140～143図、第159図1・2、第167図1)。

S K 06(第49図) 1区北部(13・14-o)で検出した土坑である。検出規模は南北0.58m、東西1.82m、深さ0.2mを測る。北側をS S07により削平されている。土師器皿、土人形、肥前磁器が出土した。17世紀末～18世紀初頭(第128図1～5)。

S K 09(第49図) 1区東部(12-o)で検出した廃棄土坑である。南北0.27m、東西2m、深さ0.09mを測る。S D12に削平されている。土人形が出土した。18世紀初頭(第131図4)。

S K 10(第49図) 1区北東部(12・13-o)で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.76m、東西2.6m、深さ0.43mを測る。上層と南側は攪乱により削平されている。土製品が出土した。19世紀(第138図20・21)。

S K 23(第29図) 1区北東部(12-o)第2面で検出した円形の廃棄土坑である。検出規模は南北0.56m、東西0.60m、深さ0.12mを測る。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、肥前陶器、瀬戸美濃陶器などが出土した。17世紀末～18世紀初頭(第128図6～10)。

S K 27(第64図) 1区北部(13・14-o)第2面で検出した楕円形の廃棄土坑である。検出規模は南北1.1m、東西3.3m、深さ0.13mを測る。北側をS S07により削平されている。土師器皿、銭などが出土した。17世紀末から18世紀初頭か(第128図11～17、第169図7)。

S K 50(第29図) 1区南西部(14・15-s)第2面で検出した廃棄土坑である。検出規模は南北1.6m、東西1.9m、深さ0.5mを測る。S K72の上層遺構である。土師器皿、瀬戸美濃陶器、肥前陶磁器、銅製品などが出土した。17世紀末～18世紀初頭(第128図18～33、第162図8)。

S K 2015(第29図) 2区東北部(9-p)第2面で検出した廃棄土坑である。南北0.92m、東西1m、深さ1.36mを測る。遺構の東側は調査区外に広がる。埋土は灰黄褐色細礫混じり細粒砂である。骨貝類の食物残渣が残存していた。肥前磁器、京・信楽系陶器、土師器皿、銅製品などの多様な遺物が出土した。18世紀末～19世紀初頭(第136・137図、第162図3・9、第163図11など)。

S K 2022(第49図) 2区東部(9-r)で検出した不定形の土坑である。南北0.95m、東西1.2m、深さ0.2mを測る。肥前磁器、瀬戸磁器などが出土した。19世紀前半(第139図10～13)。

S K 2025 (第49図) 2区(11-s・t)で検出した円形の土坑である。南北1m、東西0.95m、深さ0.15mを測る。軟質施釉陶器の椀が出土した(第144図10)。

S K 2041 (第49図) 2区中央部(10-q)で検出した円形の廃棄土坑である。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂で焼土を含む。天明の大火に伴う廃棄土坑であると考えられる。肥前磁器、京・信楽系、土師器皿などが出土した。18世紀後半(第134図)。

S K 2042 (第49図) 2区東部(9-r)で検出した不定形の廃棄土坑である。検出規模は南北1.25m、東西1.07m、深さ0.5mを測る。肥前磁器、風炉、瓦などが出土した。19世紀(第135図・159図3～8、図版第120-1～3)。

S K 2043 (第49図) 2区南部(11-s)で検出した不定形の土坑である。南北1.1m、東西2.7m、深さ0.5mを測る。北側を攪乱に削平されている。便槽として使用された信楽甕が出土した(第139図16)。

S K 2048 (第29図) 2区北東部(9-o・p)第2面で検出した廃棄土坑である。南北1.45m、東西0.6m、深さ0.3mを測る。遺構北側と東側が調査区外へ広がる。肥前磁器、京・信楽系陶器、土師器皿などが出土した。19世紀前半(第138図1～19)。

S K 2055 (第29図) 2区北東部(9-q)第2面で検出した廃棄土坑である。南北1.2m、東西1.2m、深さ0.8mを測る。下層にS E 2057が位置する。埋土は黒褐色細粒砂である。肥前磁器、土師器皿、銭などが出土した。17世紀末～18世紀初頭(第129図1～9、第169図34)。

S K 2059 (第29図) 2区北東部(9-p)第2面で検出した廃棄土坑である。検出規模は南北1.17m、東西1.1m、深さ0.6mを測る。埋土は黒褐色極細粒砂～細粒砂である。土師器皿、肥前陶磁器、瀬戸美濃陶器、鉄製品、銭が出土した。17世紀末～18世紀初頭(第129図10～16、第161図8、第169図37)。

S K 2076 (第29図) 2区東部(9-q)第2面で検出した円形の土坑である。S K 2055により削平されている。検出規模は南北0.25m、東西0.27m、深さ0.15mを測る。中国製陶磁器、土師器皿、肥前陶器などが出土した。17世紀末～18世紀初頭(第129図17～21)。

S K 3003 (第49図) 3区東部(9-u)で検出した土坑である。南北0.86m、東西0.98m、深さ0.92mを測る。埋土は暗褐色細礫混じり極細粒砂で焼土、炭化物を含む。肥前磁器、銭が出土した(第138図29、第169図54～57)。

S K 3004 (第49図) 3区東部(9-v)で検出した方形の廃棄土坑である。検出規模は南北1.5m、東西2m、深さ0.5mを測る。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂である。時期幅のある遺物が多量に出土している。S K 3004は上部にS S 3021が構築されていることから近世段階で埋没した遺構であると考えられる。19世紀ごろ(第144図1・2)。

S K 3022 (第49図) 3区東部(9-w)で検出した焼土坑である。検出長は南北0.8m、東西0.35mを測る。炭化物を多量に含む。肥前陶磁器が出土した。19世紀半ば(第144図3・4)。

S K 3025 (第49図) 3区中央部(11-u)で検出した円形の土坑である。南北0.97m、東西1.14m、深さ0.15mを測る。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、京・信楽系陶器、銅製品などが出土

した。18世紀後半(第133図1～6、第162図15)。

S K 3035(第55図) 3区東部(9～11-v)で検出した不定形の廃棄土坑である。南北2.1m、東西4.7m、深さ0.6mを測る。埋土は黒褐色中粒砂～細粒砂である。遺物の時期にはばらつきがある。土師器皿、肥前磁器、瀬戸磁器、銭などが出土した。19世紀前半(第139図1～9、第169図61)。

S K 3053(第49図) 3区東部(9-x)で検出した方形の廃棄土坑である。南北2.5m、東西1.18m、深さ0.6mを測る。遺構の西側は削平を受けている。嘉永の大火に伴う焼土層を掘削した土坑である。埋土は黒色細粒砂である。土師器皿、京・信楽系、肥前磁器などが出土した。19世紀半ば(第149図)。

S K 3068(第49図) 3区(11-y)で検出した円形の土坑である。南北0.6m、東西0.7m、深さ0.2mを測る。文久永寶が出土した(第169図58)。

S K 3090(第49図) 3区(12-y)で検出した不定形の土坑である。検出規模は南北0.8m、東西2.1m、深さ0.3mを測る。埋土は黒褐色細粒砂である。骨製の櫛払と金属製の匙が出土した(第162図13・第170図6)。

S K 3100(第49図) 3区南部(11-y)で検出した楕円形の土坑である。南北1.5m、東西0.86m、深さ0.2mを測る。埋土は黒褐色極細粒砂～細粒砂である。19世紀前半(第138図22)。

S K 3103(第49図) 3区中央部(13-x)で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.95m、東西1.56m、深さ0.35mを測る。埋土は黒色細粒砂である。S K 3053と似た系統の肥前磁器などが出土した。19世紀半ば(第144図5～9、第169図60)。

S K 3108(第49図) 3区西部(13・14-u・v)で検出した不定形の土坑である。東側を大きく削平されており、南北3.8m、東西2.8m、深さ0.75mを測る。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、肥前磁器、瀬戸陶器などが出土した。19世紀前半～半ば(第144図12～16、第160図1～5)。

S K 3109(第49図) 3区南西部(14-x)で検出した円形の廃棄土坑である。南北0.85m、東西0.84m、深さ0.3mを測る。埋土は暗褐色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、京都の磁器、ガラス製品などが出土した。19世紀前半(第138図23～28・第170図11)。

S K 3114(第49図) 3区中央部(12・13-w・x)で検出した方形の大型廃棄土坑である。南北4.45m、東西6m、深さ0.6mを測る。遺構の南北は攪乱により削平されている。町家廃絶に伴い掘削された土坑で、上層から下層まで単一の土質である。埋土は黒褐色細粒砂である。京・信楽系陶器、瀬戸磁器などの遺物が多量に出土した。19世紀前半～半ば(第144図17～28)。

S K 3125(第49図) 3区(11・12-x)で検出した土坑である。直径0.2m、深さ0.1mを測る。チャート製の火打石が出土した(第166図4)。

S K 3166(第29図) 3区西部(14-x)第2面で検出した廃棄土坑である。南北2.55m、東西2.5m、深さ0.8mを測る。埋土は黒褐色中粒砂～細粒砂である。肥前磁器、京・信楽系陶器などが出土した。19世紀半ば(第145・146図)。

S K 3172(第29図) 3区西部(14・15-u・v)第2面で検出した不定形の廃棄土坑である。検出規模は南北1.76m、東西2.55m、深さ0.12mを測る。遺構の西側は調査区外に広がる。埋土は黒色

極細粒砂で、炭化物の堆積層が確認できた。土師器皿、肥前磁器、肥前陶器などが出土した。17世紀末～18世紀初頭(第130図)。

S K 3196(第29図) 3区南部(12-x)第2面で検出した円形の廃棄土坑である。直径1.5m、深さ0.4mを測る。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、京都陶磁器、肥前磁器、瀬戸磁器、京・信楽系陶器、中国製陶磁器、銅製品、独楽などの遺物が出土した。19世紀半ば(第147・148図、第162図11、第170図8)。

S K 3253(第29図) 3区北西部(14-u・v)第2面で検出した円形の土坑である。南北1.4m、東西1.2m、深さ0.23mを測る。埋土は灰黄褐色細礫混じり細粒砂である。肥前磁器、銭が出土した。18世紀(第132図11、第163図12)。

S K 3254(第29図) 3区(14・15-x)第2面で検出した楕円形の土坑である。検出規模は南北1m、東西1.6mを測る。瓦当が出土した(第160図7)。

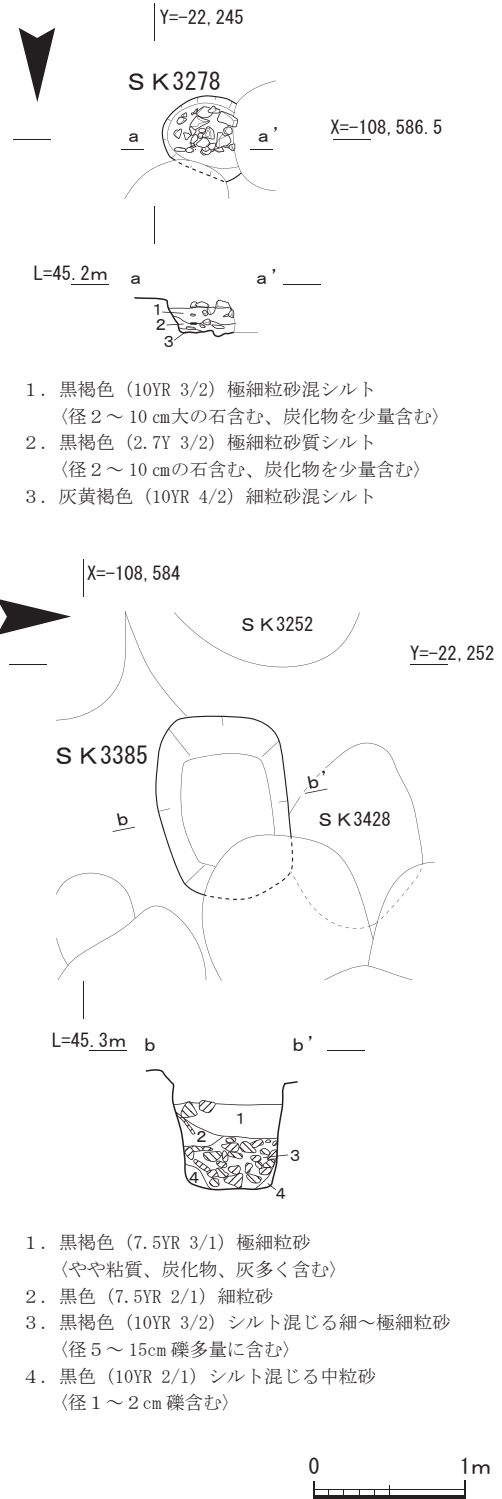
S K 3264(第29図) 3区北部(12-u)第2面で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.3m、東西1.2m、深さ0.12mを測る。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、肥前陶器などが出土した。18世紀前半(第131図16～23)。

S K 3267(第29図) 3区(14-u)第2面で検出した不定形土坑である。検出規模は南北1.1m、東西1.6mを測る。未成品の硯が出土している(第166図10)。

S K 3272(第29図) 3区南西部(15-x・y)第2面で検出した廃棄土坑である。検出規模は南北1.86m、東西0.4m、深さ0.27mを測る。埋土は鈍い黄褐色細粒砂である。土師器皿や京・信楽系陶器、肥前磁器などが出土した。18世紀前半(第132図1～10)。

S K 3278(第69図上) 3区中央部(12-v)第2面で検出した円形の土坑である。直径0.55m、深さ0.25mを測る。土師器皿、金箔瓦が出土した。17世紀末～18世紀初頭(第131図1・第157図6)。

S K 3282(第29図) 3区北西部(15-t)第2面で出土した方形の廃棄土坑である。南北1.57m、東



1. 黒褐色 (10YR 3/2) 極細粒砂混シルト
〈径2～10 cm大の石含む、炭化物を少量含む〉
2. 黒褐色 (2.7Y 3/2) 極細粒砂質シルト
〈径2～10 cmの石含む、炭化物を少量含む〉
3. 灰黄褐色 (10YR 4/2) 細粒砂混シルト

1. 黒褐色 (7.5YR 3/1) 極細粒砂
〈やや粘質、炭化物、灰多く含む〉
2. 黒色 (7.5YR 2/1) 細粒砂
3. 黒褐色 (10YR 3/2) シルト混じる細～極細粒砂
〈径5～15cm 礫多量に含む〉
4. 黒色 (10YR 2/1) シルト混じる中粒砂
〈径1～2 cm 礫含む〉

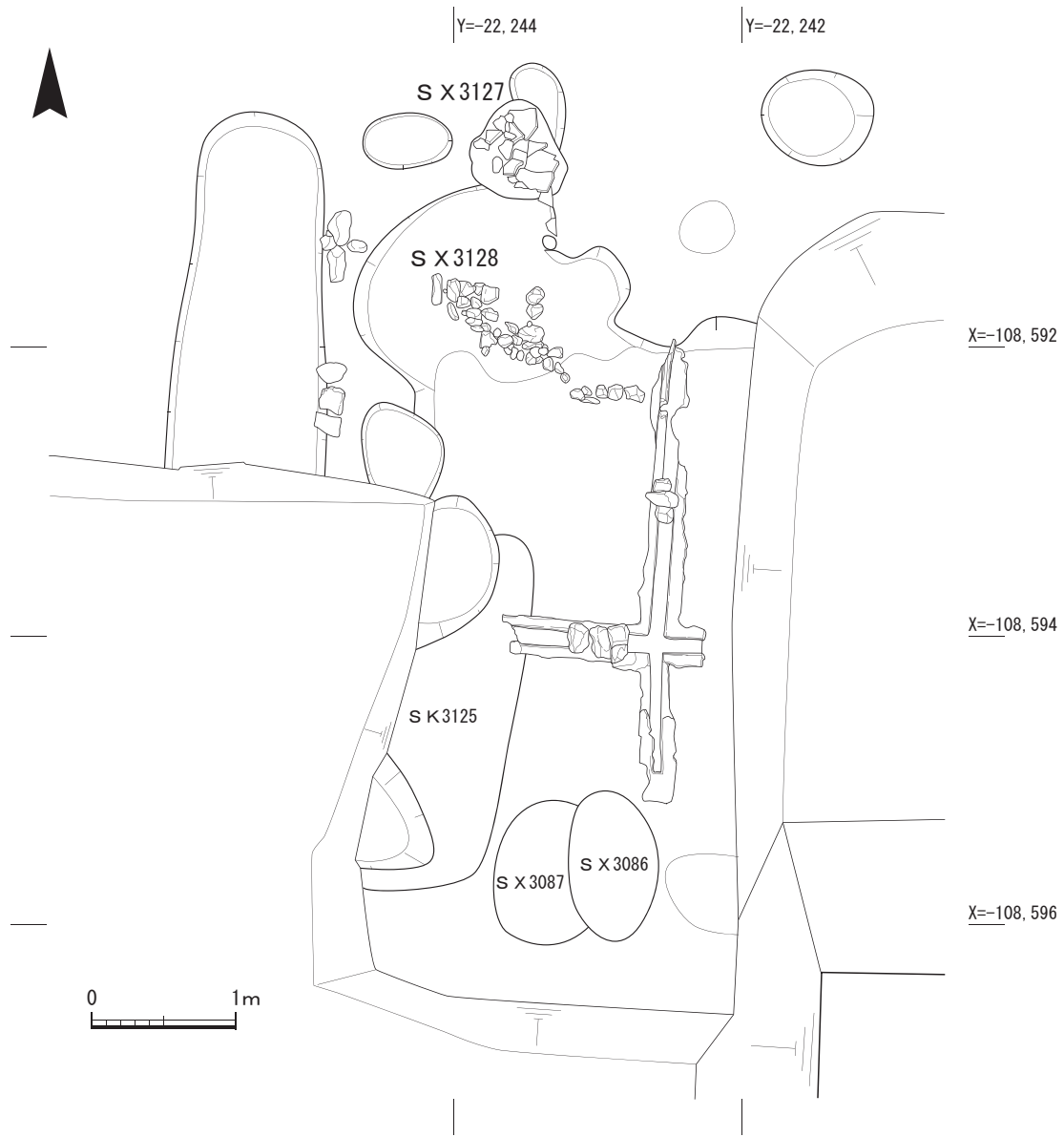
第69図 S K 3278・3385実測図

西1.67m、深さ1.0mを測る。S K 3282の西側は調査区外に広がる。埋土は暗オリーブ褐色細礫混じり極細粒砂で炭化物を含む。S K 3282の下層は同じ位置で掘削された別遺構である。土師器皿、肥前磁器、肥前陶器などが出土した。18世紀後半(第133図7～18)。

S K 3291 (第29図) 3区中央部(13-x)第2面で検出した楕円形の廃棄土坑である。南北1m、東西1.5m、深さ0.3mを測る。南側を別遺構に削平される。埋土は暗オリーブ褐色細礫混じり中粒砂～細粒砂である。肥前磁器、瀬戸陶器、花塩壺の蓋、銭が出土した。18世紀前半(第132図12～15、第169図73・74)。

S K 3325 (第29図) 3区西部(13・14-w)第2面で検出した方形の廃棄土坑である。南北2.9m、東西2m、深さ0.35mを測る。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、肥前磁器などが出土した。17世紀末～18世紀半ば(第131図5～15)。

S K 3360 (第29図) 3区北西部(14・15-t)第2面で検出した楕円形の土坑である。検出規模は



第70図 S X 3127・S X 3128実測図

南北3.8m、東西1m、深さ0.2mである。遺構は調査区外の西側に広がる。埋土は灰黄褐色細礫混じり細粒砂である。泥面子が出土した。19世紀(第144図11)。

S K 3385 (第69図下) 3区北西部(13-u)第2面で検出した楕円形の土坑である。検出規模は南北0.77m、東西1.21m、深さ0.15mを測る。埋土は黄灰色細礫混じり細粒砂である。土師器皿が出土した。17世紀末～18世紀初頭(第131図2・3)。

S K 3426 (第7図) 3区北西部(13-y)第3面で検出した円形の土坑である。検出規模が南北1.14m、東西0.8m、深さ0.2mを測る。南東部を別遺構により削平されている。土師器皿、京・信楽系、土鈴などが出土した。18世紀(第132図16～21)。

S K 3971 (第7図) 3区南部(11-y)第3面で検出した土坑である。検出規模は南北1.6m、東西0.9mである。京焼、人形などが出土した。19世紀(第139図14・15)。

⑦その他

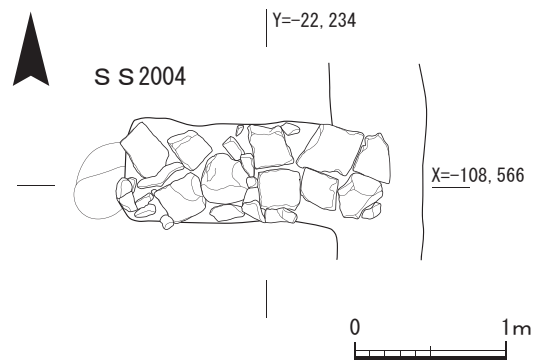
S X 3127・3128 (第70図) 3区南部(11・12-w・x)で検出した配石遺構と瓦集積遺構である。S X 3127は検出規模南北0.7m、東西0.7mを測る。S X 3128は南北1m、東西2.25mを測る。出土位置などから町家に伴う露地跡の遺構であると考えられ、瓦の集積部は蹲の一部か。

(5)近代

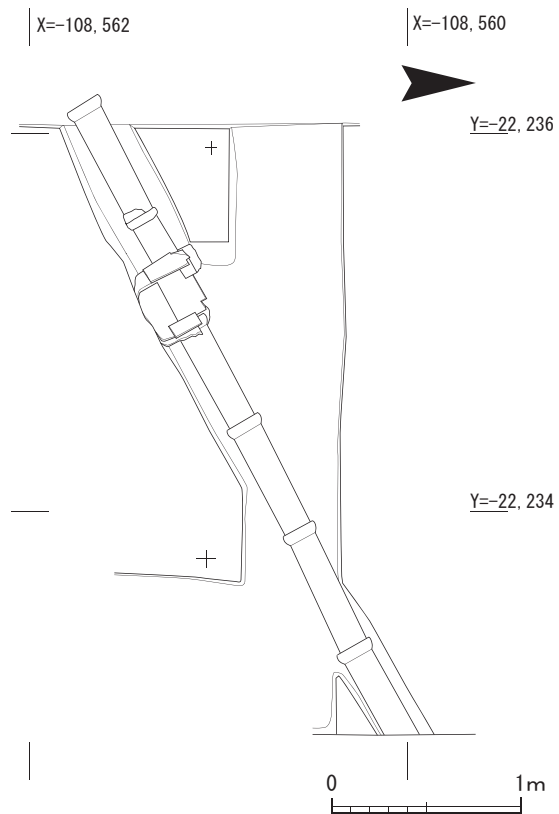
明治時代の京都府中学校から京都府庁(19世紀後半～20世紀前半)の遺構は第1面で検出した。中学校時代の建物基礎や溝、踏み石を検出したほか、京都府庁の建物基礎などを検出したが、中学校時代の遺構を中心に報告する。府庁時代の建物に関しては別の機会に報告を予定している。遺物は国産陶磁器・ガラス瓶などが出土した。

①中学校時代の遺構

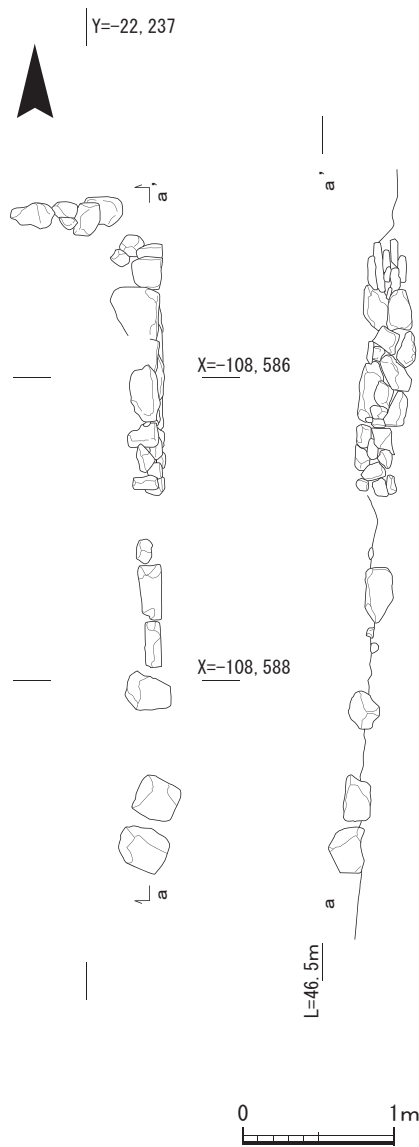
S S 2003・2004・2005 (第49・71図) 2区北東部(9-p・q)で検出した集石遺構である。検出長は南北6.45m、東西3.26mを測る。破碎した花崗岩を敷き詰めた集石遺構で、中学校



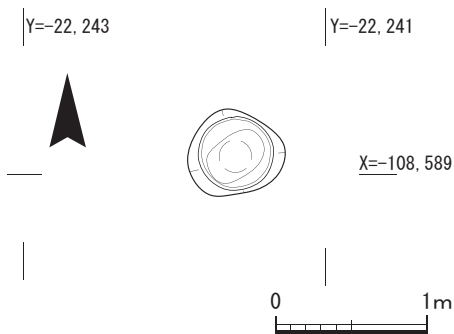
第71図 S S 2004実測図



第72図 S D 2014実測図



第73図 S S 3021実測図



第74図 S J 3028実測図

時代には英学生寄宿舎があったとされ、この建物の基礎部分であると考えられる。

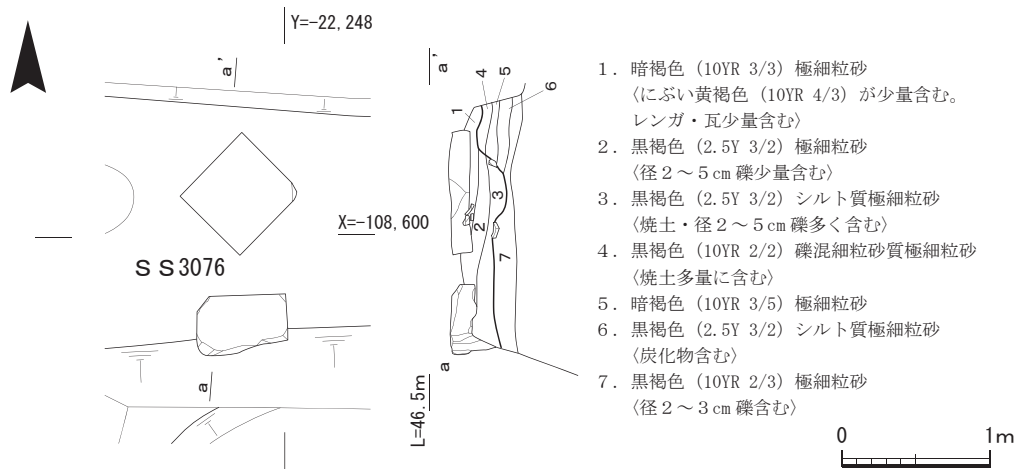
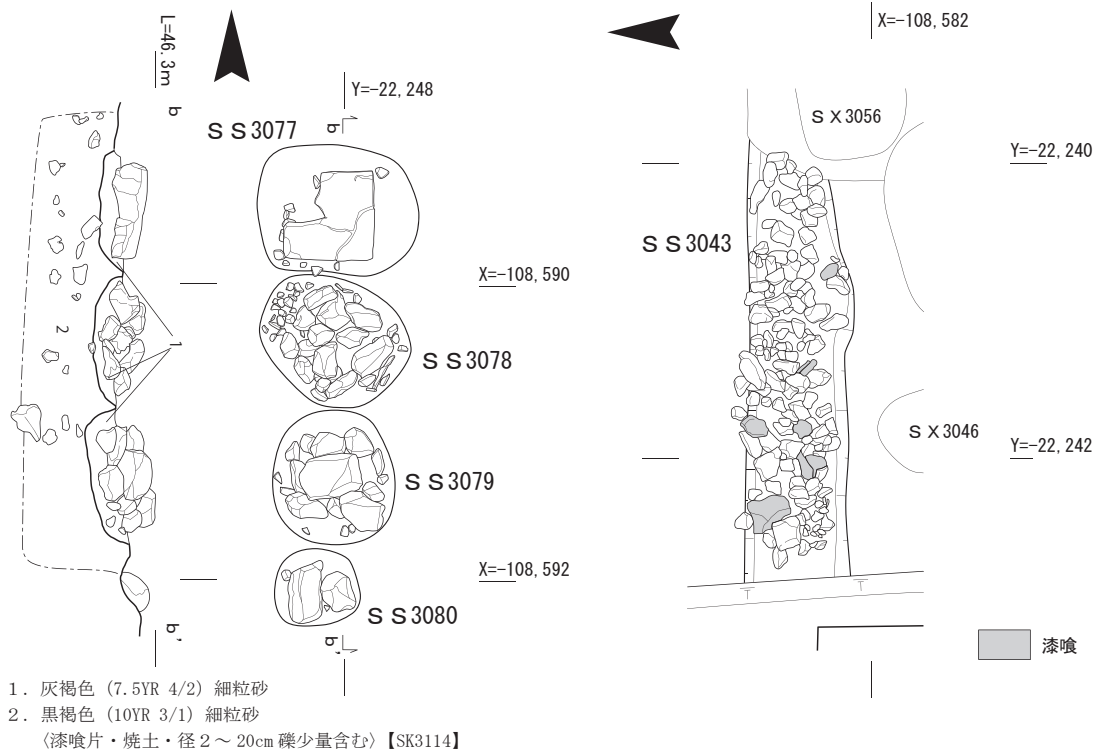
S D 2014 (第72図) 2区北東部(9・10-o・p)で検出した埋管遺構である。検出長は3.74mを測り、幅は0.41m、深さ0.16mを測る。遺構は土管を一部破壊して造り出した枡が存在する。枡は底に瓦を据え、四方を煉瓦で漆喰を塗りこめて固定している。中学時代の英学生寄宿舎から新町通りに流れる管であったと考えられる(第152図1～3)。

S K 2018 (第49図) 2区東部(9-r)で検出した不定形の廃棄土坑である。南北0.8m、東西1.04m、深さ0.2mを測る。「府」の染付磁器が出土した。19世紀後半(第153図13)。

S S 3021 (第73図) 3区東部(9・10-w)で検出した漆喰石組遺構である。南北3m、東西0.9m、残存高0.2mを測る。北面の東側一部と東面の北半分程度が残存している。石組の遺構であるが、前時代の漆喰を切り出して再利用している。検出位置と出土遺物、層位から中学校時代の学務小便詰所の建物基礎であると考えられる。肥前磁器、深草の火鉢などが出土した。19世紀後半(第151図5～8、第167図3)

S J 3028 (第74図) 3区中央部(11-w)で検出した甕埋設遺構である。南北0.55m、東西0.6m、深さ0.3mを測る。甕は内面に白色の結晶物が蓄積している。また掘形には甕を固定するために1個の煉瓦を据え付けていた。層位と位置関係からS S 3021と同じく中学校時代の学務小便詰所の便所跡と考えられる(第152図4)。

S S 3043 (第75図右上) 3区北東部(10・11-u)で検出した溝の基礎である。東西方向に延びる溝で検出規模は南北0.8m、東西3m、深さ0.1mを測る。埋土は黒色細粒砂である。調査区東側壁面にも確認できる。S S 3043は集石部のみの残存状況であるが、東側壁面を確認する限りその上部に3段の花崗岩が組まれていたと考えられる。検出位置から中学校時代の水路の跡であると判断した。肥前磁器、瀬戸磁器、京・信楽系陶器などが出土し



第75図 S S 3043・3076・3077~3080実測図

た(第151図9~13)。

S S 3076(第75図下) 3区南部(13-y・a)で検出した配石遺構である。南北軸に石を2つ配置し、検出規模は南北1.5m、東西0.75mを測る。後述するS S 3077・3078・3079・3080と一連の配石遺構である。南北に縦断する踏み石で、中学校時代に設置された。

S S 3077・3078・3079・3080(第75図左上) 3区南西部(12・13-w・x)で検出した配石遺構である。南北3.42m、東西幅0.9m、深さ0.2mを測る。S S 3076と一連の遺構で、中学校時代の踏み石遺構である。土師器、肥前磁器、京・信楽系陶器などがS S 3079から出土したが、いずれも下層から巻き上げた遺物である(第151図2~4)。

②府庁時代の遺構

S K 2001 (第49図) 2区北部(9-q・r)で検出した炭化物堆積遺構である。南北1m、東西6.4m、深さ0.9mを測る。埋土のほとんどが炭である。同遺構の南側には昭和後半まで使用されたボイラー室の燃焼部が位置していたことから、燃料が投棄されたと考えられる。京都府庁時代の遺構と考えられる。京・信楽系陶器、美濃磁器などが出土した(第153図1～12)。

S K 2002 (第49図) 2区東部(9・10・11-q・r)で検出した土坑である。南北1.3m、東西3.3m、深さ0.5mを測る。京都府庁のボイラー室焼成部の裏手にあたる。インク瓶や飲料水のガラス瓶が出土した(第154図1～7・第171図)。

S X 2006 (第49図) 2区北東部(9-p・q)で検出した遺構である。南北1.8m、東西1.8m、深さ0.5mを測る方形の土坑で、後述するS M 3968を削平して成形している。近代の遺構と考えられるが、詳しい年代は不明である。バイ貝を加工して作出した独楽が出土した(第170図7)。

S D 2009 (第49図) 2区南部で(10-s)で検出した石組溝である。南北軸に延びる溝で検出規模は2.4m、東西幅は1mを測り、石組内の幅は0.25mである。深さは0.26mを測る。埋土は黒色細粒砂である。溝内埋土と掘形から京・信楽系陶器と、瀬戸美濃磁器などが出土している。5銭貨幣が出土していることから、府庁時代の遺構と考えられる(第154図8～9、第169図76)。

S K 2019 (第49図) 2区南部(11-t)で検出したレンガ組遺構である。直径1.25m、深さ0.25mを測る。京都府庁時代の建物の一部であると考えられる。京・信楽系陶器、瀬戸美濃磁器などが出土した(第154図11～20、第167図2)。

S S 2031 (第49図) 2区南西部(11・12-s・t)で検出した集石遺構である。南北3.8m、東西1.05mを測る。破碎した花崗岩を詰め込んだ建物基礎と考えられる。京都守護職上屋敷と京都府中学校時代の図面では建物のない位置に構築されていることから京都府庁時代に建てられた建物の基礎であると考えられる。

S E 2270 (第7図) 2区北部(11-q)第3面で検出した漆喰の井戸である。直径1.2mを測る。攪乱により削平を受けており、G.L.から2mほど下で検出し、0.6mほど掘削した。層位から、京都府庁時代の遺構であると考えられる。瀬戸美濃磁器が出土した(第153図15・16)。

③その他の遺構

S K 3044 (第49図) 3区北東部(10・11-u)で検出した土坑である。直径1.55m、深さ1.5mを測る。アースを埋め込んだ土坑で、相馬焼が出土した(第153図14)。

S M 3968 (第49図) 2区(9-o・p)、3区(12・13-a)で検出した白色整地土である。白色の整地土は調査区において近代の造成土の下層で普遍的に確認される。この整地土下には造成土が盛られており、その下層に嘉永の大火に伴う焼土面が確認できている。層序から大火後の安定面として幕末の造成と想定したが、明治期の2銭貨幣が出土した(第169図77)ことから、明治段階の整地であると判断した。

2) 出土遺物

今回の調査で出土した遺物はコンテナ箱で566箱に上る。遺物の種類は土器、陶磁器、輸入陶磁器、金属製品、ガラス製品、銭貨、鑄造関連遺物、瓦など多岐にわたる。年代は平安時代～幕末、明治時代におよび、近世以降の遺物が出土量のほとんどを占める。

発掘調査では、禁裏御用品関連の肥前産磁器が少量ながら出土したこと、良好な近世後期の町家遺構が見つかったことから、これらに関連する近世の陶磁器、中世においては堀などの重要遺構から出土した遺物や輸入陶磁器を中心に報告した。遺物は極力多く報告することとしたが、本来提示すべき出土遺物の組成比率の提示がかなわず、精査・攪乱等の出土遺物についても巻末写真での報告にとどまってしまった。

本報告では非常に多量の遺構・遺物を報告する都合上、本項では平安時代・鎌倉時代の遺物以外に関して、一部のみ言及し、そのほかの大半の遺物については遺物観察表に法量、胎土、産地、特徴などを記載した。また、遺構の掲載序列は大分類に遺構種別、小分類に時期を採用している。

(1) 平安時代・鎌倉時代の遺物

S P 174(第76図1・2) 1は土師器皿である。2は中国産の白磁の椀である。

S P 128(第76図3～11) 3～11は土師器皿である。

S D 3881(第76図12～15) 12～15は土師器皿である。12の「て」の字状口縁の皿と13・14のコースター形の皿が出土している。

S D 2261(第76図16～21) 16は「て」の字状口縁の皿である。21は樟葉型の瓦器椀である。激しく摩耗しておりミガキは確認できない。

S D 78(第76図22～56) 22～39は土師器皿である。40～43は瓦器である。40・41は内外面にミガキを施しており、42・43は内面にのみミガキが施されている。44～47・51～54は中国産の白磁である。47は口縁を輪花状に作出している。48は土師質の甕、49は須恵器の壺である。底部に糸切り痕を有する。50は緑釉陶器の椀である。55は陶器の壺で東海系産と考えられる。56は土師質の羽釜である。

S K 2258(第77図1～39) 1～7は土師器皿、10・25は黒色土器B類の椀である。8・9・13・21～24・32は緑釉陶器の椀で、13は釉薬が残存せず素焼きの状態である。12・14・16～19・30・33は灰釉陶器、30・33は壺などの容器と考えられる。20・26・27は中国の越窯で焼成された遺物で、26は水注の頸部と考えられる。28は須恵器の壺である。31は土師質の壺、36～38は土師質の羽釜、39は土師質の甕である。

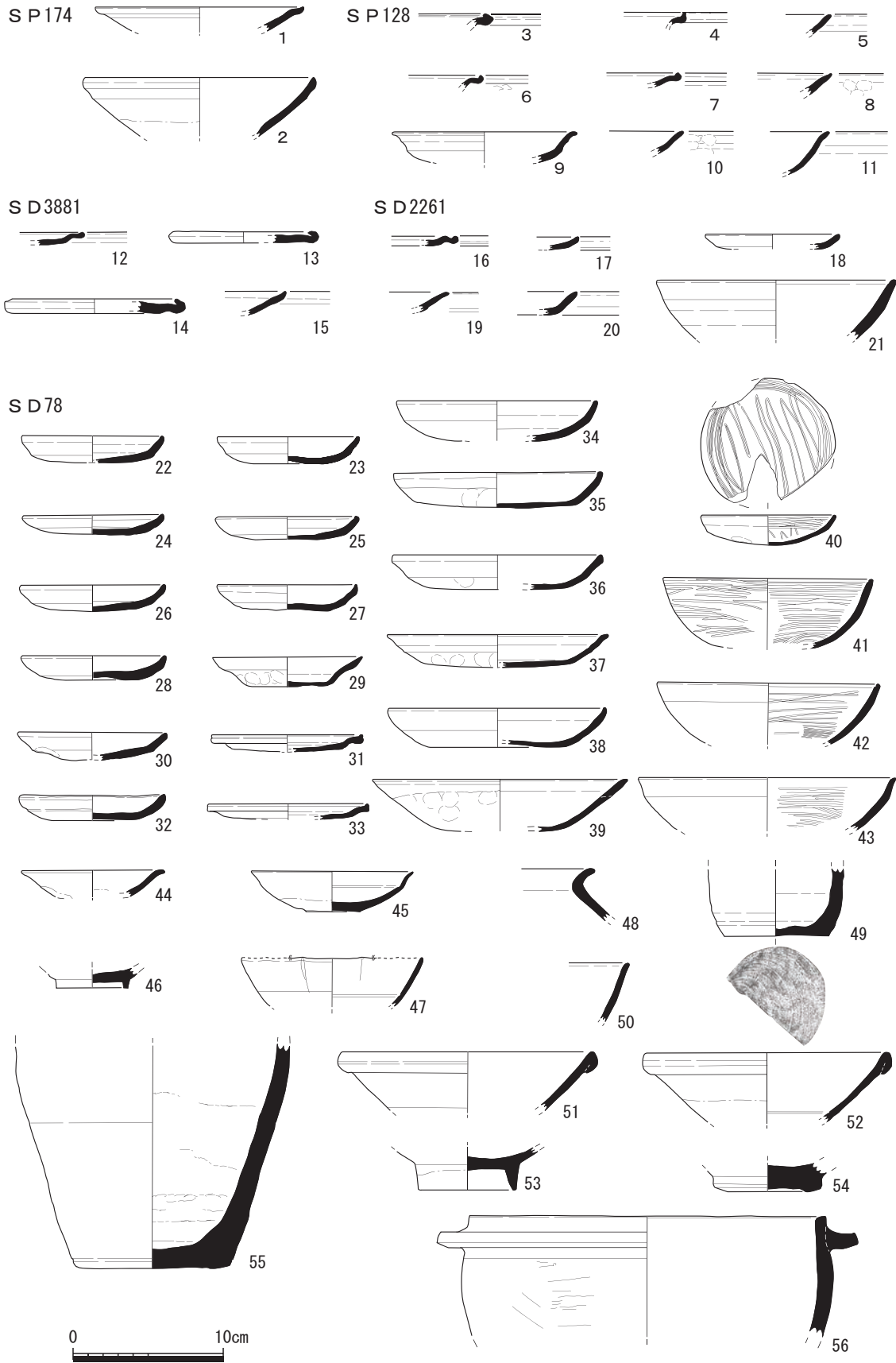
S K 234(第78図1～10) 1～8は土師器皿、9・10は黒色土器B類の椀である。

S K 3525(第78図11・12) 11・12はともに土師器皿である。11はコースター形の皿である。

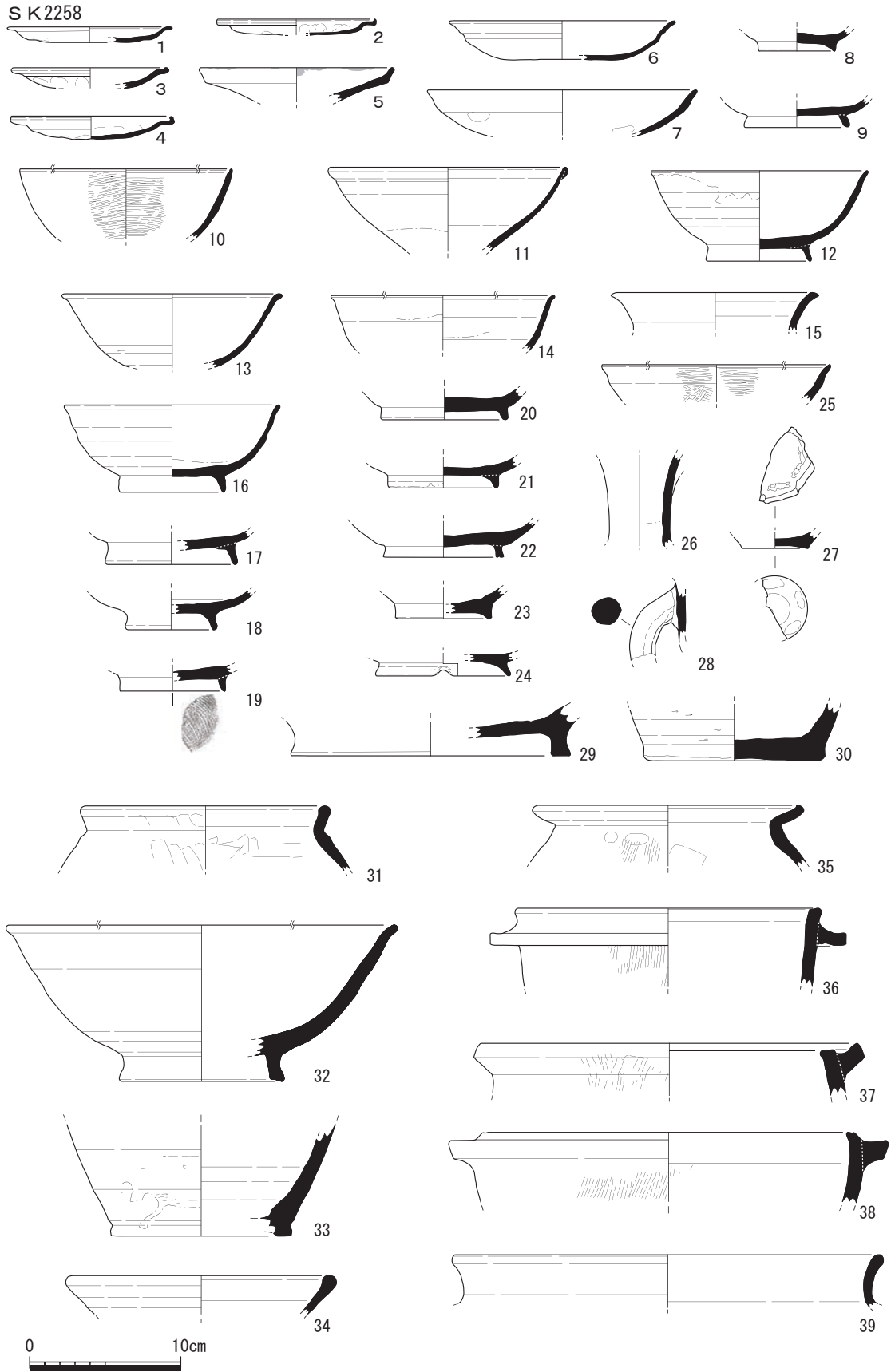
S K 3839(第78図13・14) 13・14ともに土師器皿である。

S K 238(第78図15～23) 15～17は土師器皿、18・21は緑釉陶器の椀、19は灰釉陶器の椀である。20は黒色土器B類の椀で、内外面にミガキを施している。

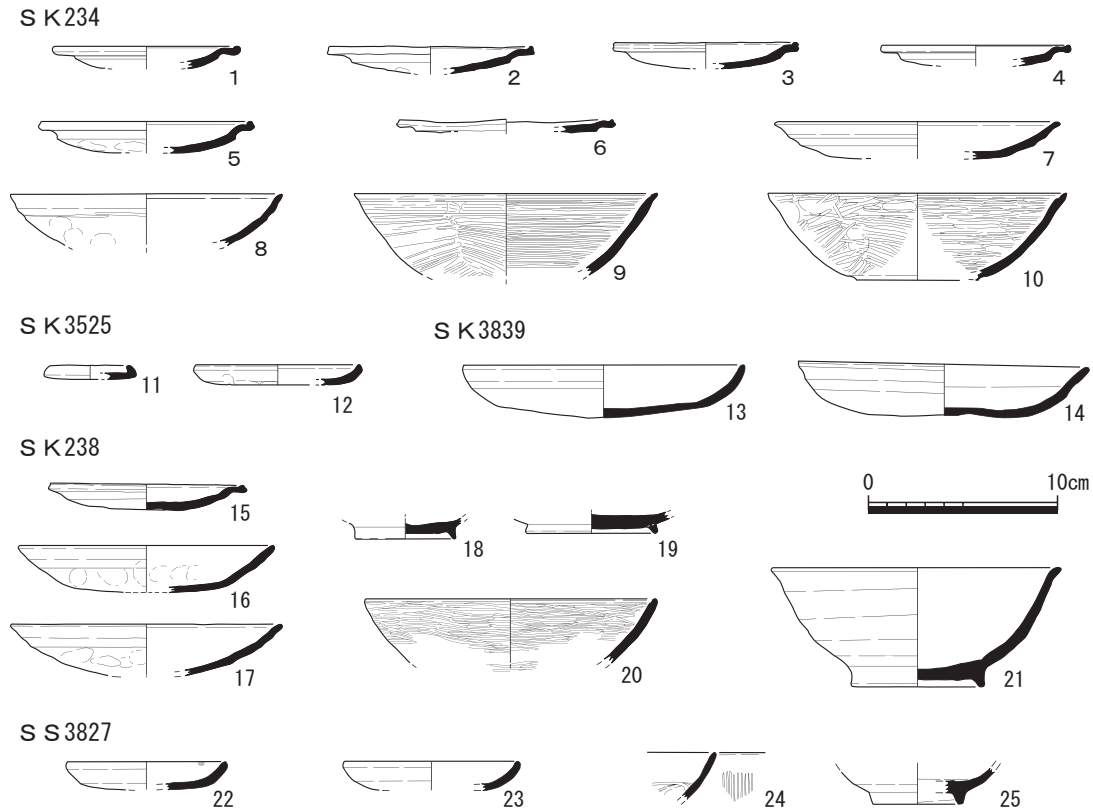
S S 3827(第78図22～25) 24・25は中国の同安窯系の青磁椀である。内面に片切彫、外面に



第76図 平安時代・鎌倉時代の出土遺物 1



第77図 平安時代・鎌倉時代の出土遺物2



第78図 平安時代・鎌倉時代の出土遺物3

も文様を彫刻している。同一個体の可能性があるが接点がない。

(2)室町時代・戦国時代の遺物

S A 3425 (第79図1~18) 1~16は土師器皿、17は瀬戸の鉢である。灰釉がかかる。18は常滑の甕の口縁部分である。

S A 182 (第79図37~40) 38は東播系須恵器の鉢、40は鉄釉のかかる瀬戸の小壺である。

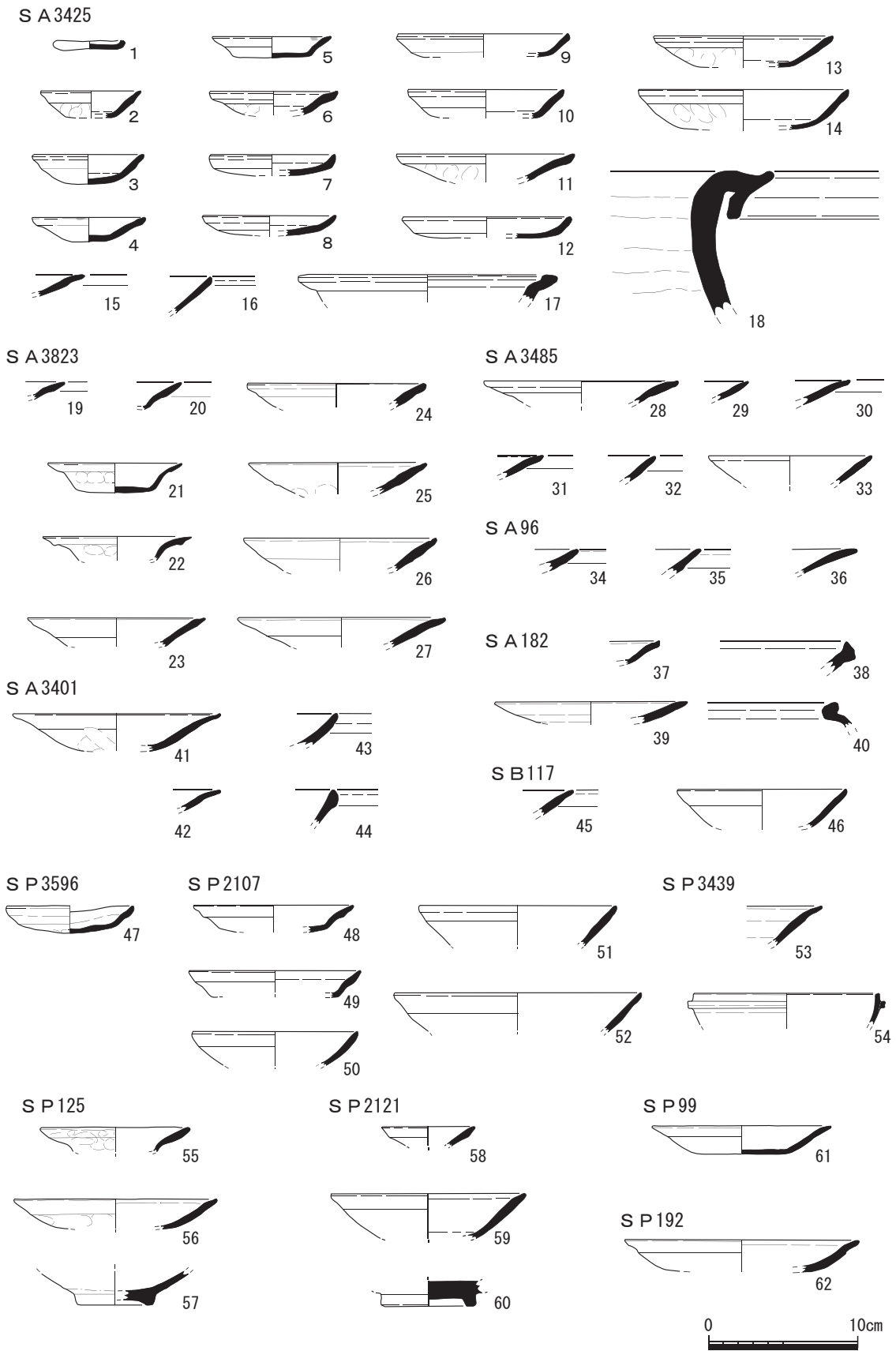
S A 3401 (第79図41~44) 41~43は土師器皿、44は中国産の白磁である。

S P 125 (第79図55~57) 57は中国産の白磁碗の底部である。

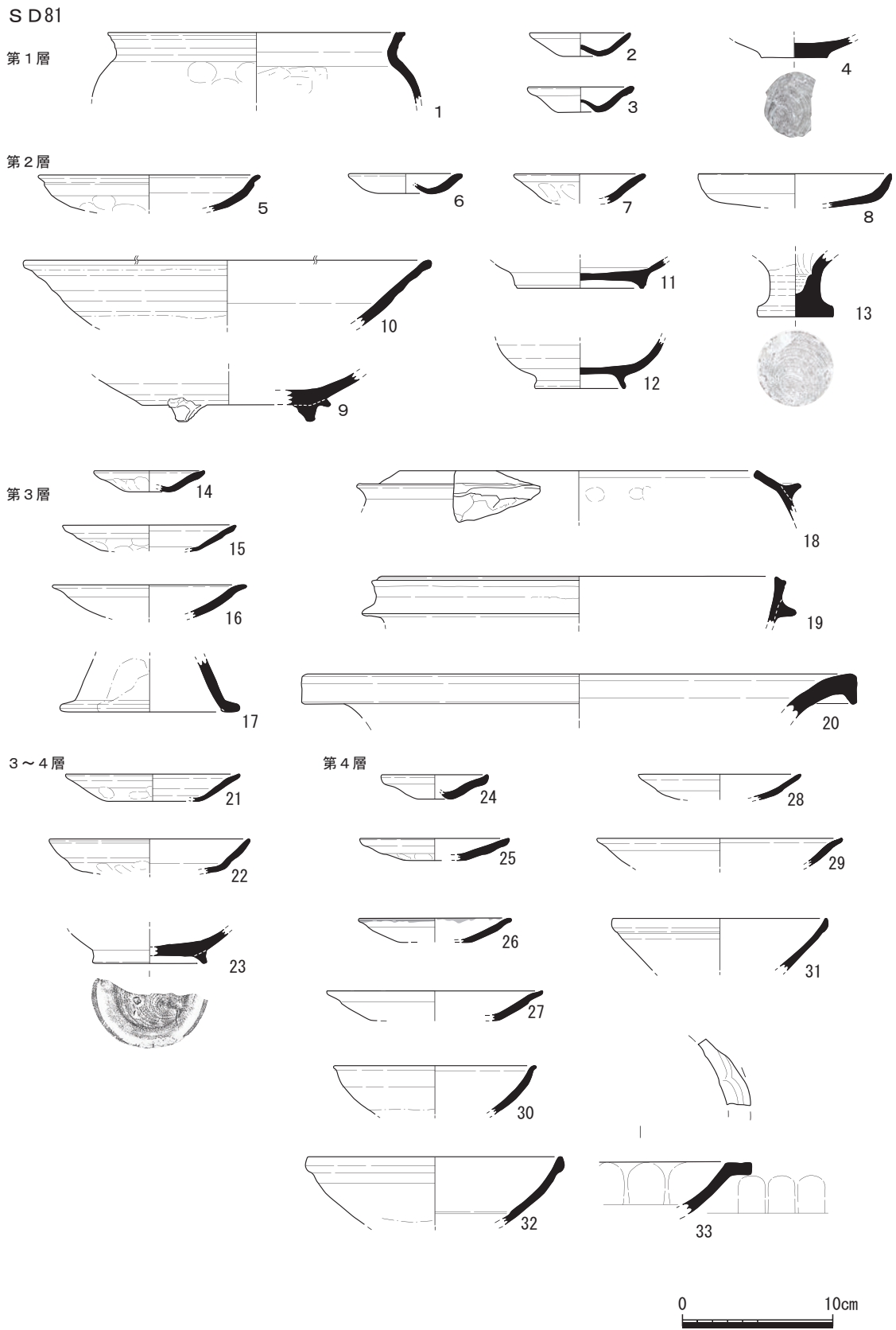
S P 2121 (第79図58~60) 60は中国産の龍泉窯系青磁の底部である。

S D 81 (第80・81図) 第80図1は土師質の壺、2・3はへそ皿である。4は柱状高台土器で、底部に糸切り痕が確認できる。9・10は瀬戸の脚付の鉢で同一個体の可能性があるが、接点を有しない。灰釉がかかる。11は中国産の白磁である。13は瀬戸の花瓶と考えられる脚部で底部に糸切り痕が確認できる。17は瀬戸の花瓶と考えられる。鉄釉をかける脚部のみが残存している。18は瓦質の三足であるが残存状況が悪い。23は灰釉陶器の碗の底部で、貼り付け高台の内部に糸切り痕が確認できる。31・32は中国産の白磁の碗で、33は中国龍泉窯系の青磁の鉢である。

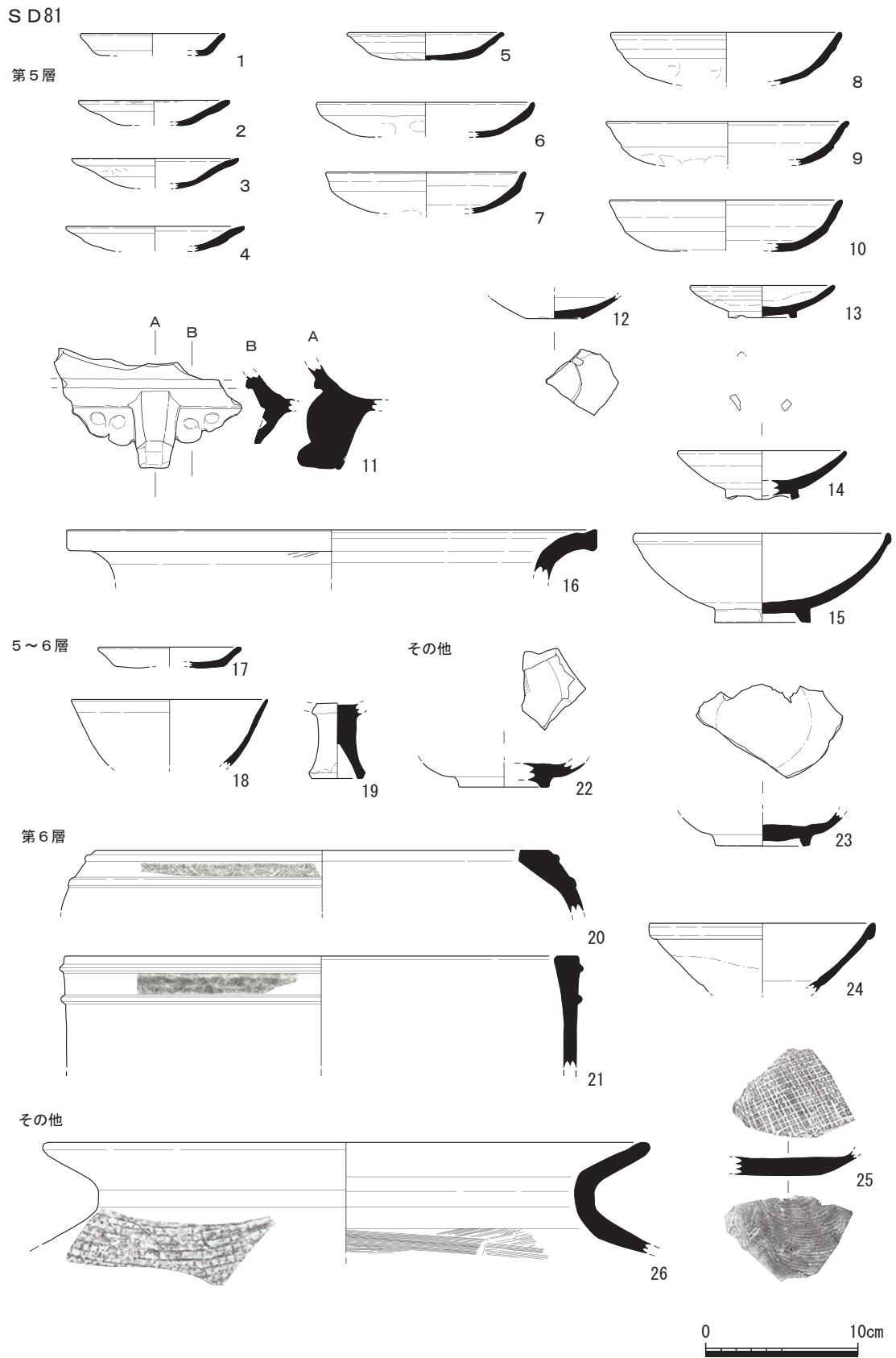
第81図11は瓦質の火鉢で大和産、12~15・18・24は中国産の白磁、14は見込みに重ね焼きの痕が残る。19・22・23は中国の龍泉窯系の青磁で、19は馬上杯の脚部、22と23は碗の底部である。22は見込みにスタンプを押している。20・21は大和の瓦質火鉢、25は瀬戸の卸目皿、26は中国四



第79図 室町時代・戦国時代の出土遺物 1

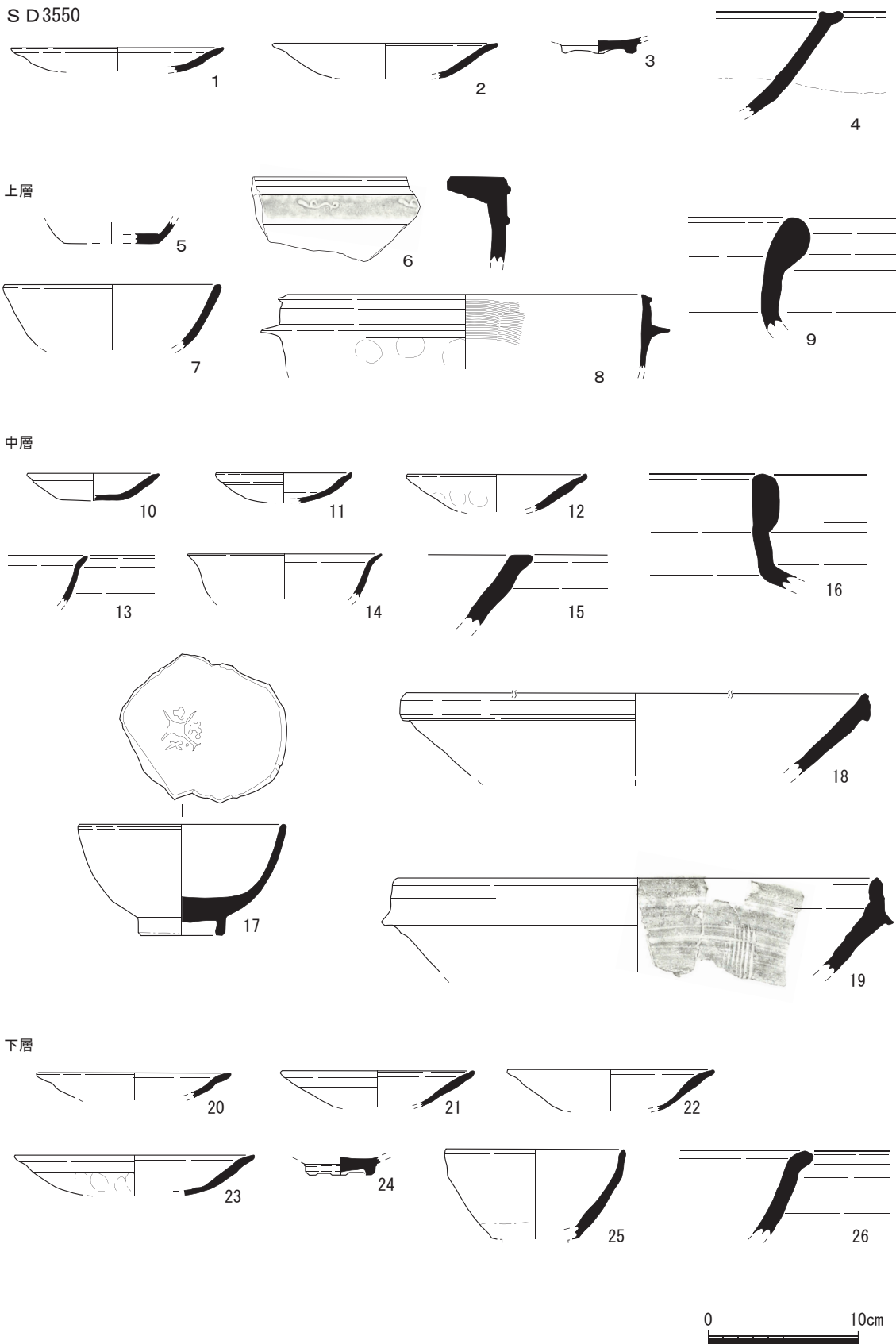


第80図 室町時代・戦国時代の出土遺物2



第81図 室町時代・戦国時代の出土遺物 3

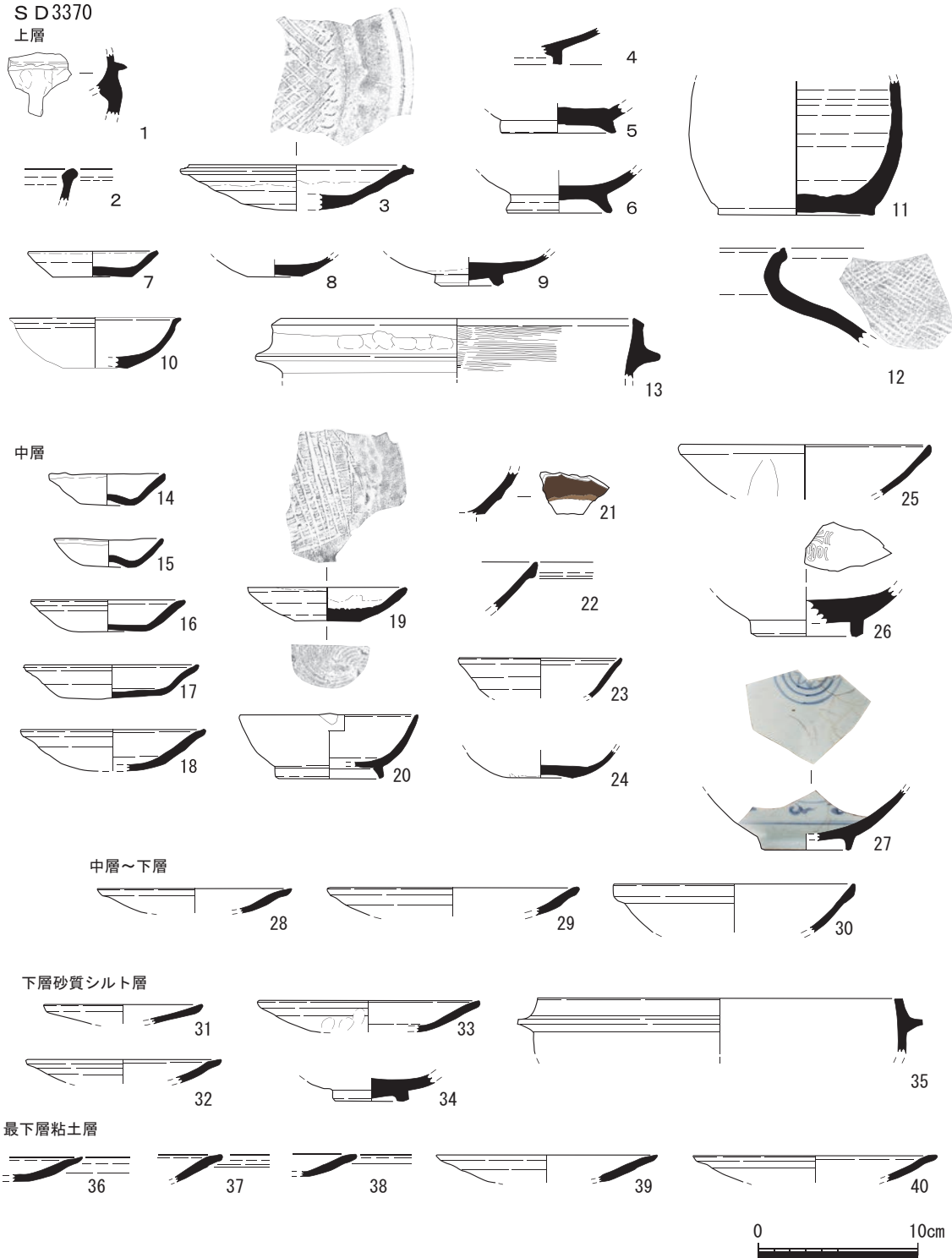
SD3550



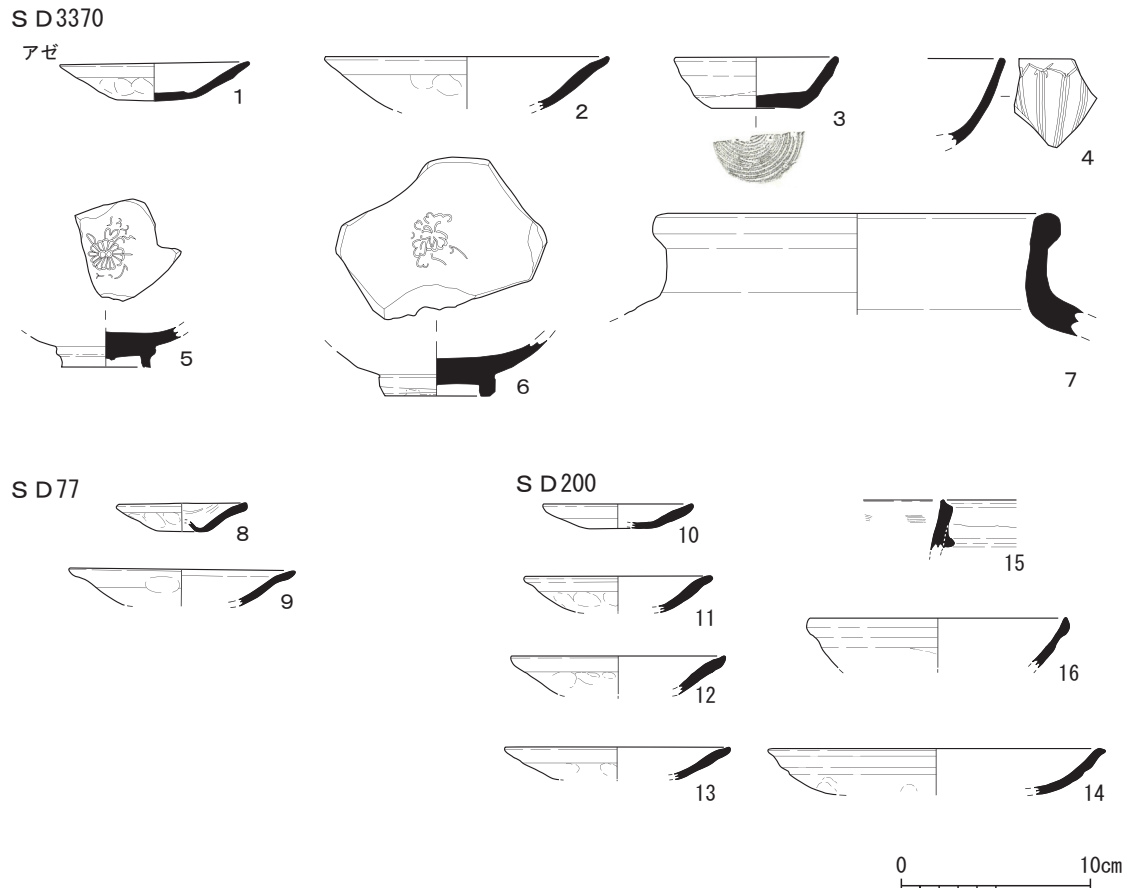
第82図 室町時代・戦国時代の出土遺物 4

国系の須恵器の甕である。

S D3550 (第82図) 3・5・24は中国産の白磁の皿の底部である。3は高台内に「井」字の墨書があり、24は高台内に「川」字の墨書が残存する。7・13・17は中国の龍泉窯系の青磁碗で17は見込みにスタンプで文様が施されている。4は瀬戸の鉢で体部まで灰釉がかかる。6は大和の瓦質火鉢、9・16は備前の甕である。14は青白磁の碗で中国産である。15は和泉河内系の播鉢、



第83図 室町時代・戦国時代の出土遺物 5



第84図 室町時代・戦国時代の出土遺物6

18は信楽の播鉢であるが、残存率が悪くまた、摩耗しており播り目を確認できない。19は備前の播鉢、25は中国産の鉄釉のかかる椀でいわゆる天目椀である。26は信楽の播鉢である。

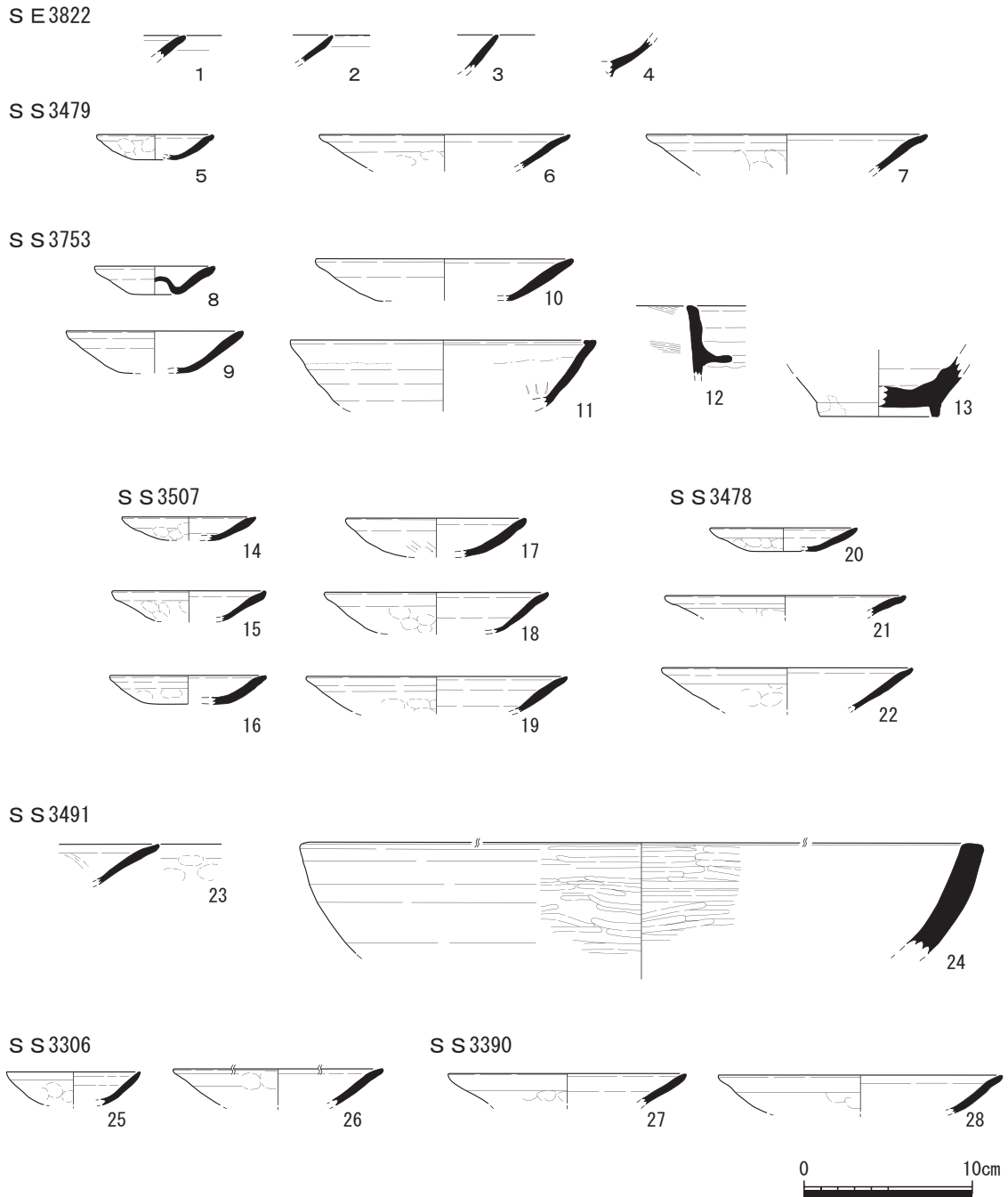
SD3370(第83図・第84図1～7) 第83図1は瓦質の三足鍋、2は中国産緑釉の陶器で古華南か。3は瀬戸の卸目皿、4・5は緑釉陶器の椀、6は灰釉陶器の椀、7～10は中国の白磁、11は緑釉陶器の水注と思われるがかなり摩耗している。12は東播系須恵器の壺で外面にタタキの痕跡が残る。13は瓦質の羽釜で内面にヘラによる調整の痕跡、外面に凸帯を貼り付ける際に指で押さえた痕が確認できる。21は瀬戸の鉄釉のかかる椀。22・23は中国産の白磁椀、24は中国産の白磁皿である。25は中国の龍泉窯系の青磁椀である。刻花が刻まれる。26は中国の龍泉窯系の青磁椀で見込みに「福」字の陰刻がスタンプで施される。27は中国の明代の染付である。30・34は中国の白磁椀である。35は瓦質の羽釜で凸帯を貼り付けている。

第84図3は瀬戸の灰釉陶器の皿で底部に糸切り痕が残る。4は中国の龍泉窯系の青磁椀で蓮弁が彫刻されている。5は中国の龍泉窯系の青磁椀で見込みにスタンプで文様を施している。6は中国の龍泉窯系の青磁椀で見込みにスタンプで文様を施している。7は備前産の壺である。

SD200(第84図10～16) 16は中国産の白磁である。

SE3822(第85図1～4) 4は中国産の白磁である。

SS3753(第85図8～13) 13は朝鮮の陶器である。



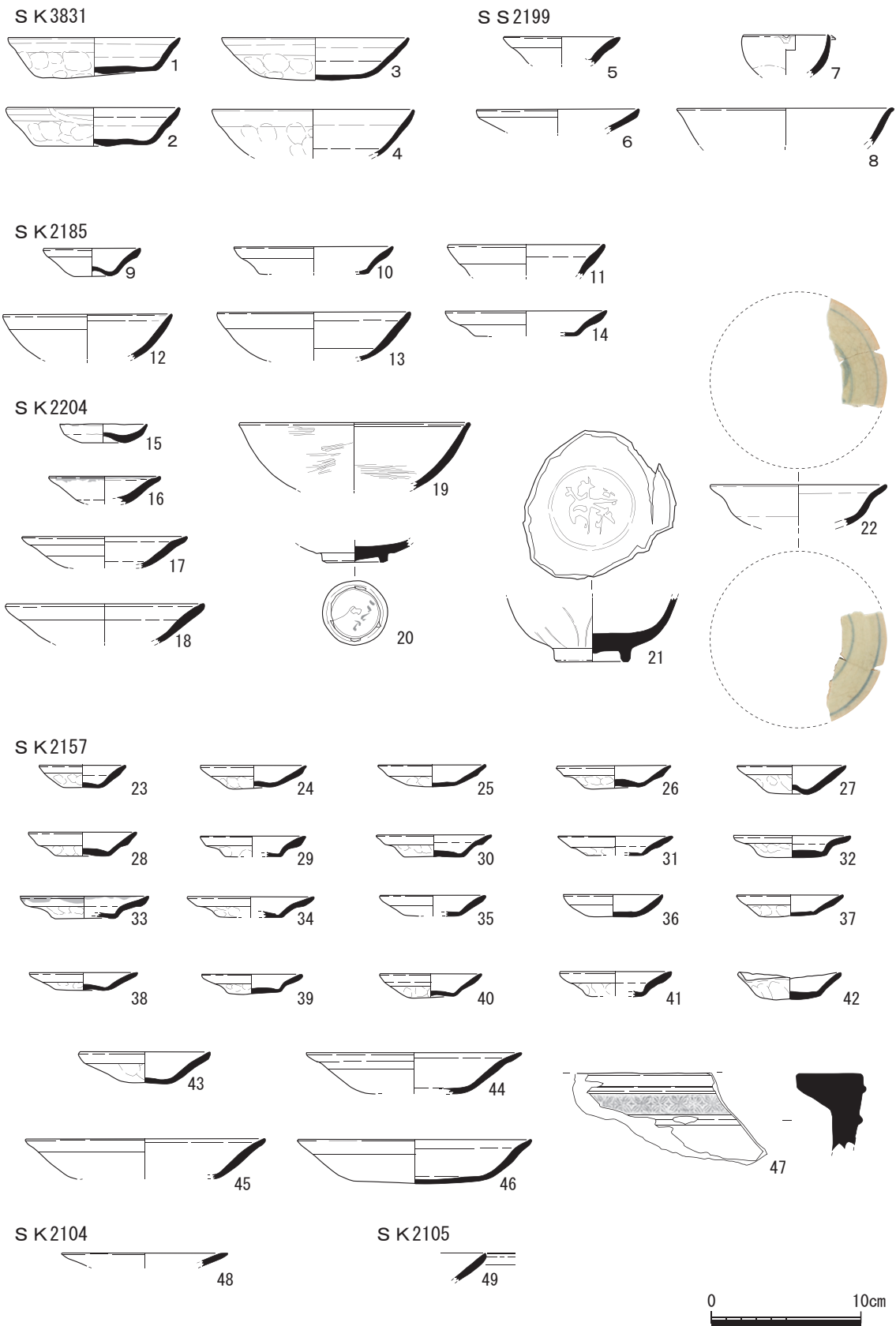
第85図 室町時代・戦国時代の出土遺物 7

S S 3491 (第85図23・24) 24は大和の瓦質火鉢である。内外面にミガキの痕跡が残存する。

S X 2199 (第86図5～8) 7は瀬戸の鉄釉の椀である。小形の椀で口縁の一部をつまみ出すようにして注ぎ口状の造り出しを作出する。8は緑釉陶器の椀である。

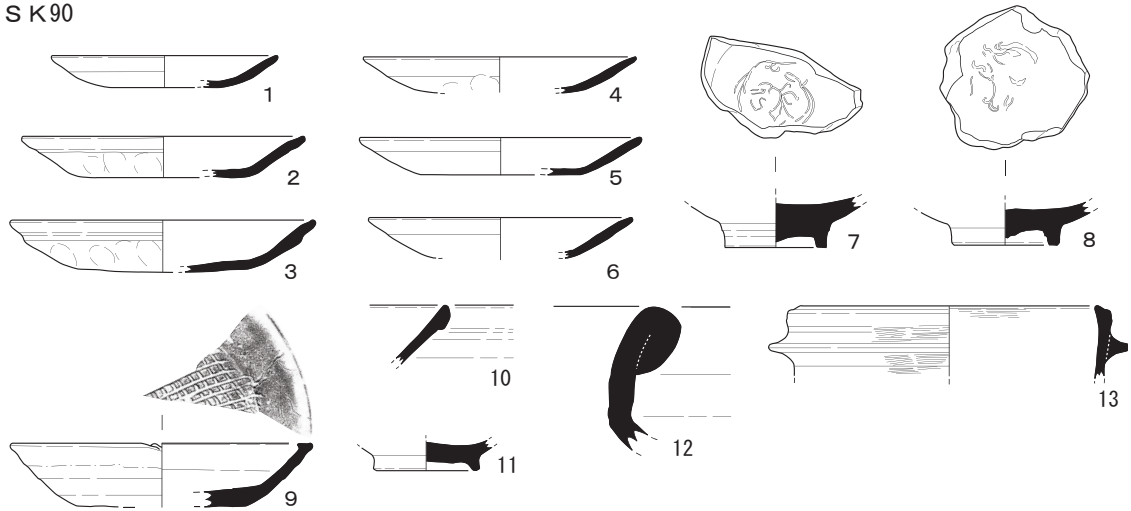
S K 2204 (第86図15～22) 19は樟葉型の瓦器椀で、摩耗が激しいが内外面にミガキの痕跡がうかがえる。20は中国の白磁椀の底部で、高台内に墨書が残る。21は中国の龍泉窯の青磁椀で見込みにスタンプで文様を施し、外面に蓮弁を表現している。22は中国産の染付である。見込みに絵が描かれているがほぼ残っていない。

S K 90 (第87図1～13) 7・8は中国の龍泉窯系の青磁椀で、見込みにスタンプで文様を施

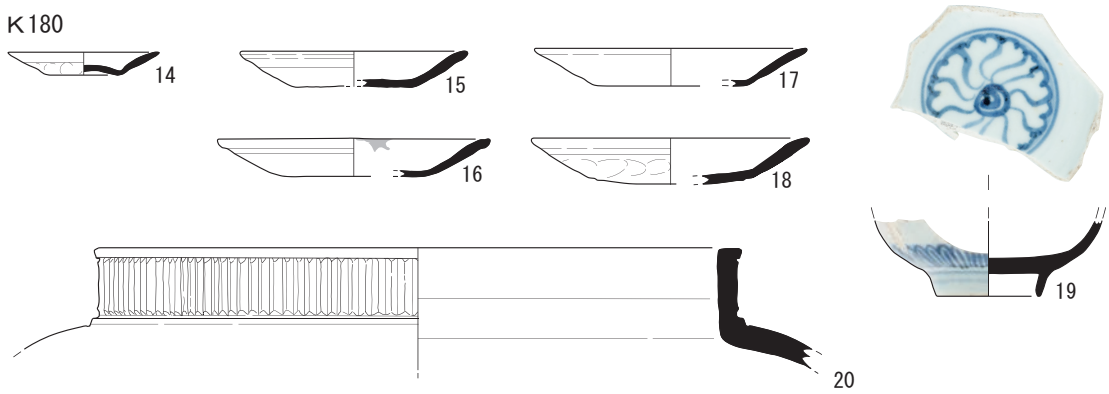


第86図 室町時代・戦国時代の出土遺物 8

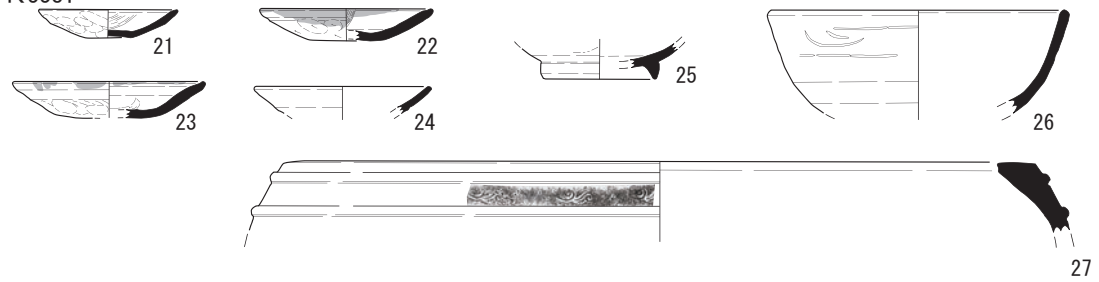
S K 90



S K 180



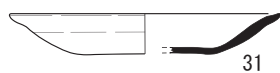
S K 3381



S K 2154



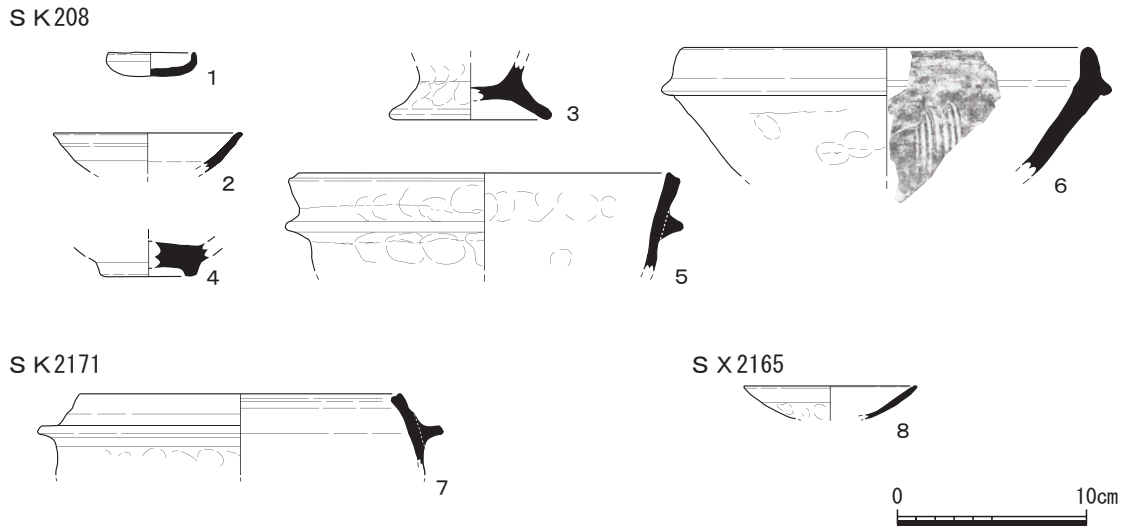
S K 3743



S K 3593



第87図 室町時代・戦国時代の出土遺物 9



第88図 室町時代・戦国時代の出土遺物10

している。9は瀬戸の卸目皿である。10は中国の白磁椀である。

S K 180(第87図14~20) 19は中国明代の染付である。20は大和の瓦質火鉢である。

S K 3381(第87図21~27) 26は中国の龍泉窯系の青磁椀である。外面に簡易な文様表現が付く。27は大和の瓦質火鉢である。

S K 208(第88図1~6) 3は柱状高台土器である。外面にユビオサエの痕跡が観察できる。

(3)安土桃山時代・江戸時代前期の遺物

S B 01(第89図1~18) 17と18は朝鮮陶器である。同一個体の可能性があるが、接点はない。18は見込みに円形の砂目痕を有する。

S X 2058(第89図19~40) 37は瀬戸美濃の香炉である。鉄釉が外面に掛かり、ロクロ成形で脚が三方向に付く。40は肥前陶器の鉄絵の鉢である。

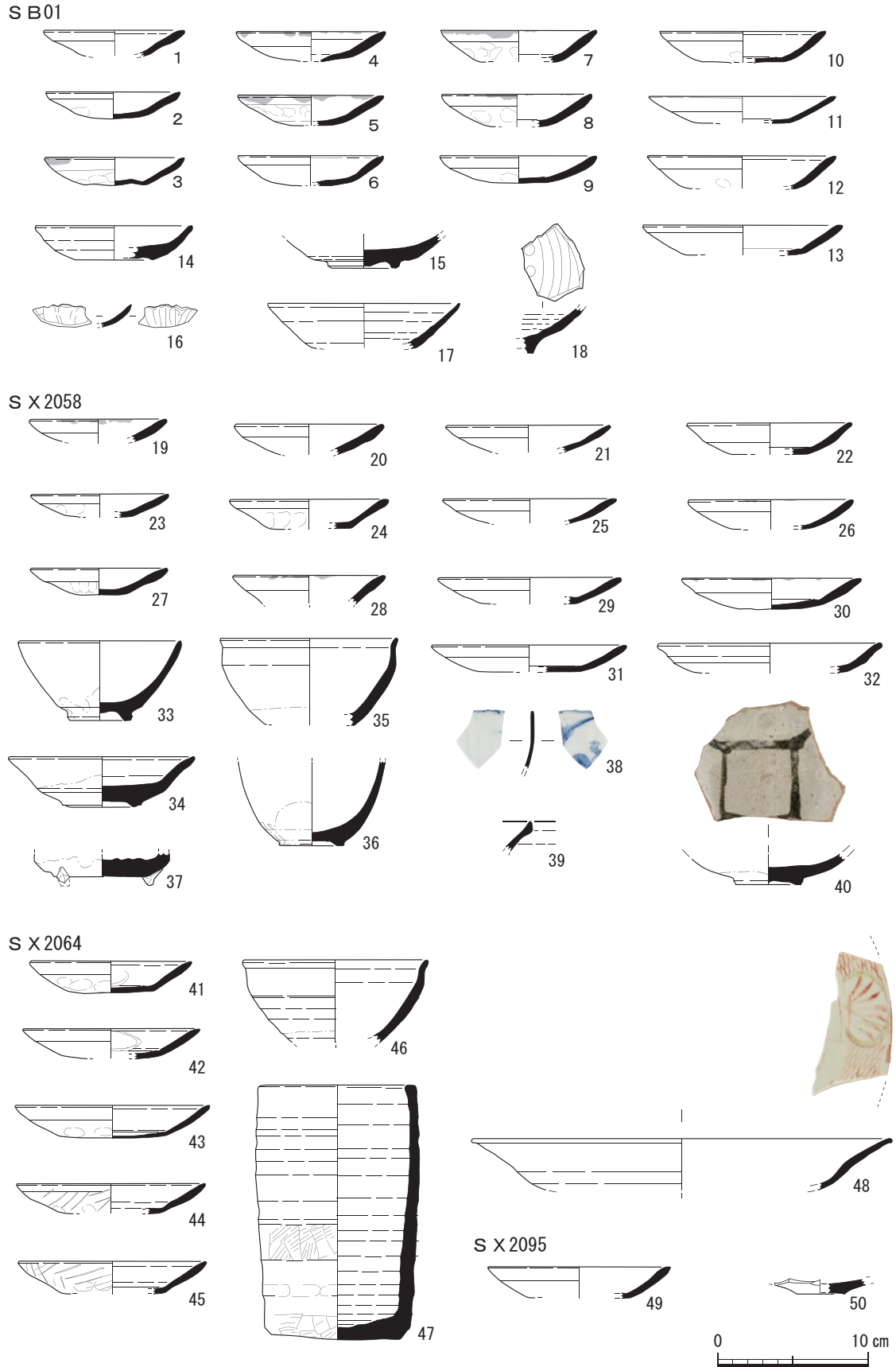
S X 2064(第89図41~48) 47は信楽の花入れである。篋などの工具で体部をナデて調整した痕跡が残る。48は中国の漳州窯系の赤絵の大皿である。

S E 133(第90図13~23) 22は瀬戸美濃の鉢で見込みに「福」字のスタンプ紋が入る。高台内に重ね焼きの痕跡が残存する。23は中国の龍泉窯系の青磁椀である。高台はケズリ出して成形している。

S E 2227(第90図24~35) 33は瀬戸美濃の鉢で鉄絵志野である。

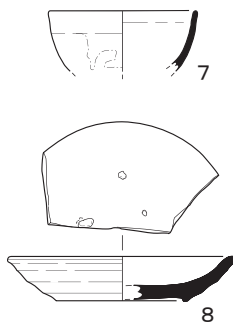
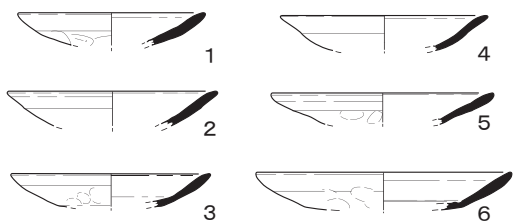
S E 2057(第91・92図) 第91図1は内面に漆が塗られた土師器皿である。21・22は軟質施釉陶器の椀である。22は見込みと外面に鉄絵で模様が描かれる。26は肥前の彫三鳥手の椀である。外面と内面の口縁にかけて削り込み文様を表現する。32は中国龍泉窯系の小壺である。体部を削り込み文様を表現する。35は中国の漳州窯系の赤絵の大皿である。37は瀬戸美濃の水滴である。猿形で体部はロクロ成形、手足と頭部を手びねりで成形する。38は肥前の大鉢である。口縁端部に輪花の細工を施している。

S E 136(第93・94図) 第93図24は肥前陶器の鉄絵の鉢である。見込みと口縁部にススキ文を

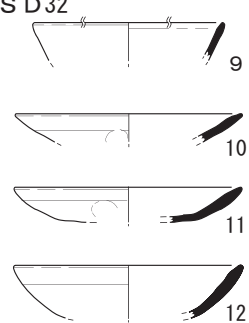


第89図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 1

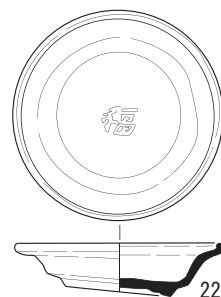
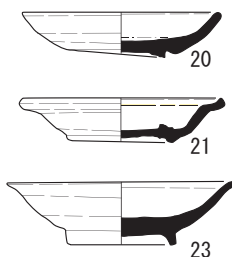
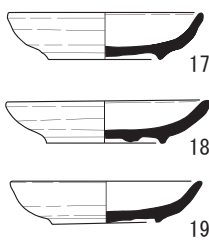
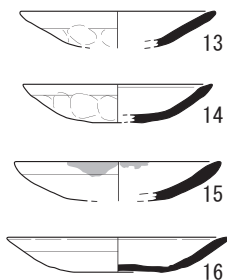
S D2075



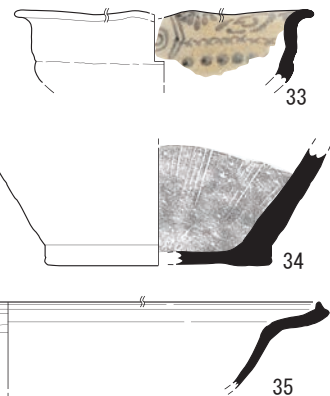
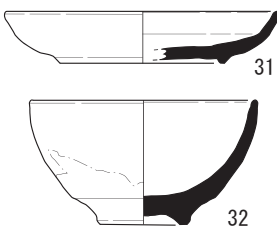
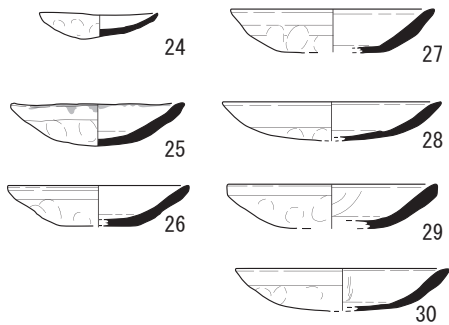
S D32



S E133



S E2227



第90図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物2

描く。口縁は四方を内側に曲げている。25は瀬戸美濃の鉄絵志野である。体部に竹垣、見込みに草紋を描く。体部に脚が付く。26～33は肥前陶器の鉄絵鉢である。見込みに「壺」を描く。第94図2は土師器皿を加工して作成された面打である。3は軟質施釉陶器の小壺である。ウリ科の植物を模したと思われ、葉にあたる部分に緑釉、実の部分に透明釉を掛ける。6は中国の景德鎮窯の青花の碗である。外面に草花を描く。7は景德鎮窯の白磁碗で内面に蓮を浮かし彫りしている。8は景德鎮窯の青花皿で見込みに猿を描く。

S S3135(第95図12～15) 15は呉須の市松紋を上絵付けた菊御紋付の碗である。高台内に朱書きが残存する。S S3135に伴うというよりも上層からの混入遺物である。

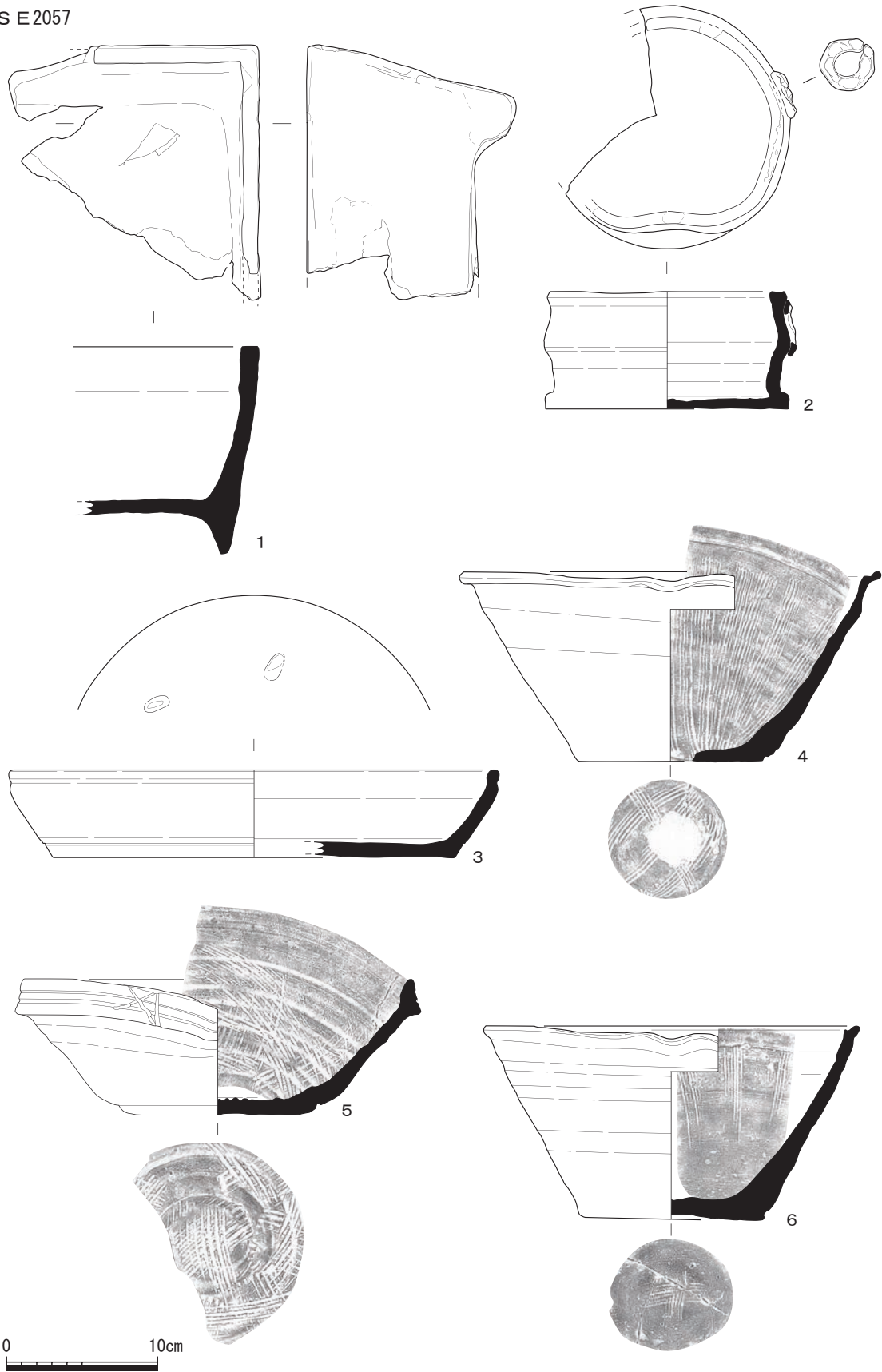
S S3216・3217(第96図13～16) 15は肥前の褐釉の壺である。16は肥前陶器の鉄絵皿である。見込みと口縁端部に圈線を描く。見込みに砂目痕が付く。

S E 2057



第91図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 3

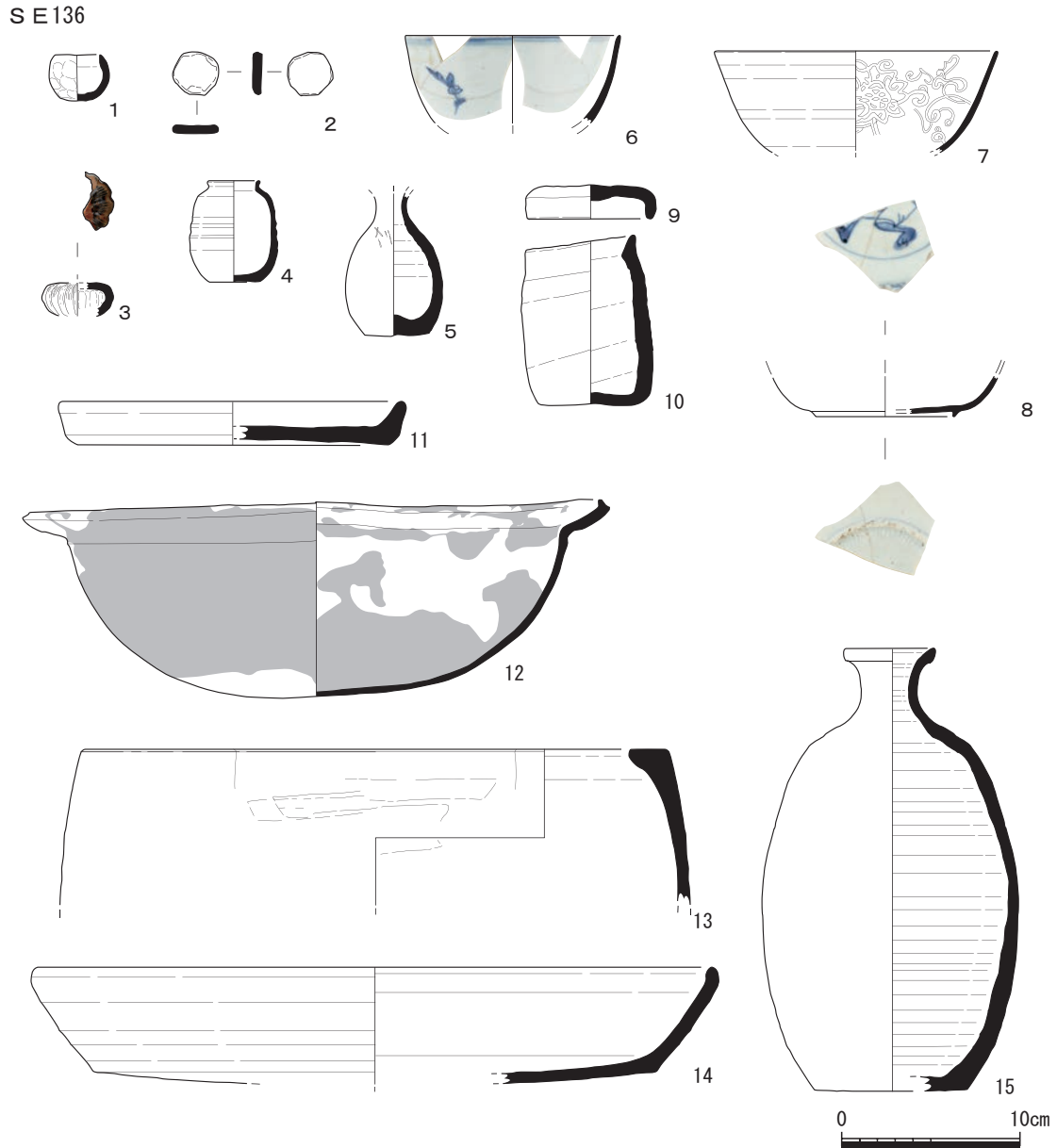
S E2057



第92図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 4



第93図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 5



第94図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物6

S S 3229(第96図17~25) 21は金箔の付された土師器皿である。

S S 3276(第96図26~29) 29は中国南方系の青花碗である。見込みに釉剥ぎの痕跡がある。内面に圏線、外面に簡略化した文様を描く。

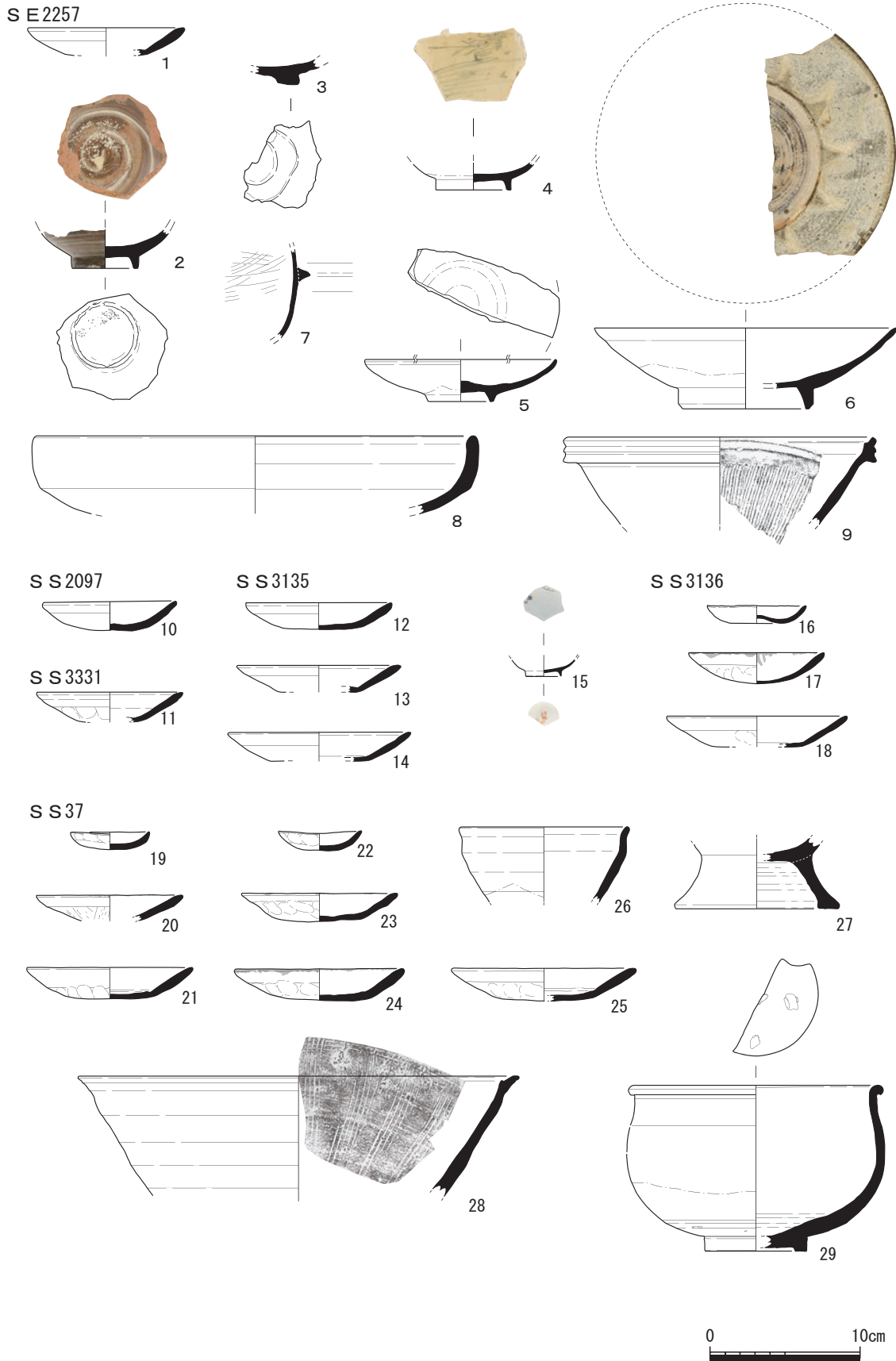
S S 3239(第97図) 11は中国景德鎮の碗である。見込みに「寿」紋を描き、畳付きに砂が付く、高台内にカンナの跳ねた痕跡が付く。12は中国景德鎮の皿である。見込みに猿紋を描く。高台内にカンナの跳ねた痕跡が付く。

S K 2044(第98図1~6) 6は中国南方系の青花の碗である。内外面に圏線が入る。

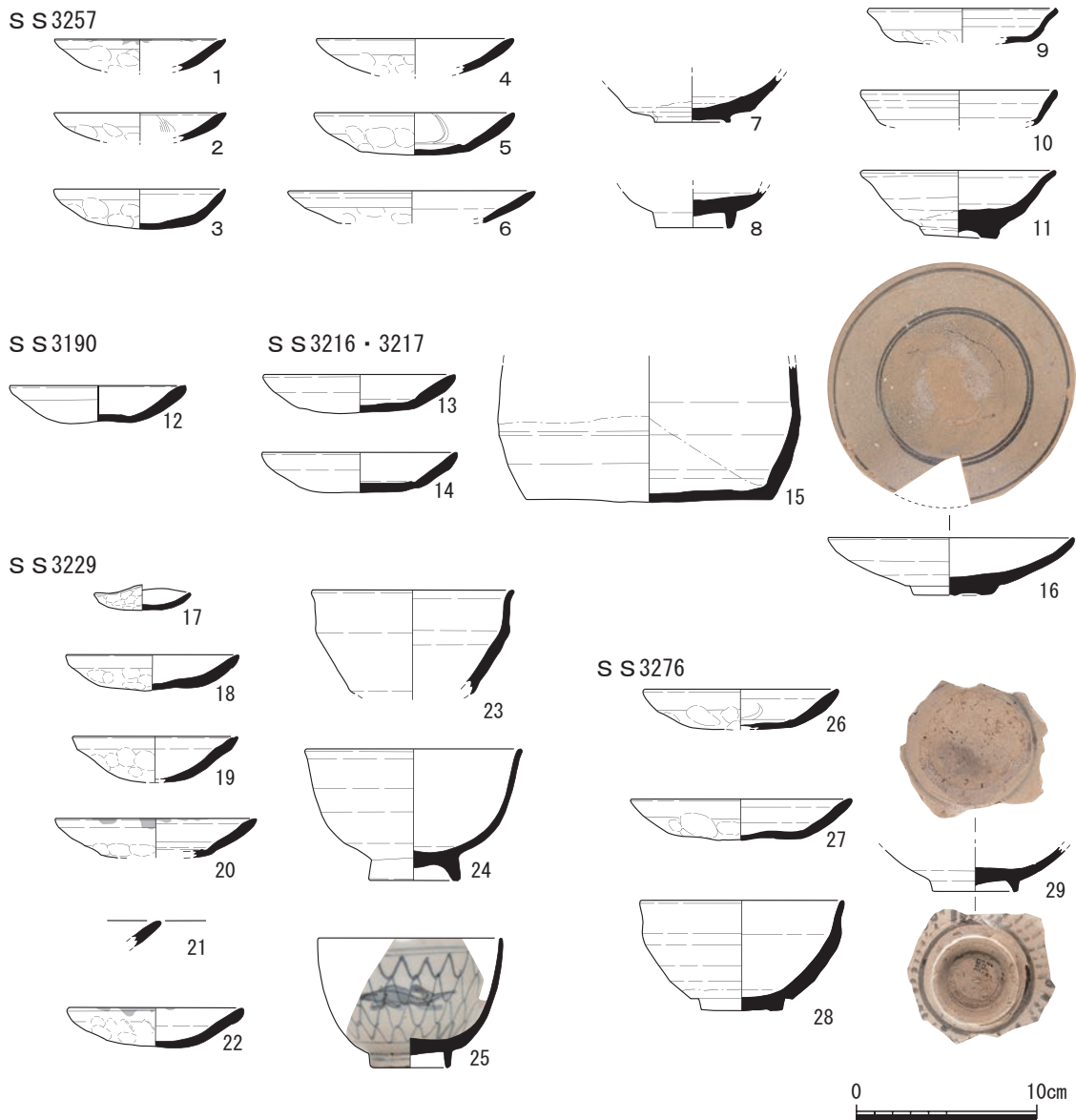
S K 30(第98図7~28) 26は中国漳州窯系の皿である。

S K 71(第98図29~36) 33は中国の瑠璃釉の磁器碗である。高台内と内面は透明釉を掛ける。

S K 69(第99図1~34) 26は肥前陶器の鉄絵鉢である。圏線と草文を描く。27は瀬戸美濃陶



第95図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 7



第96図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 8

器の鉄絵志野の鉢である。見込みに飛鷹文を描く。底部に脚が三方向に付く。口縁の残存状況が悪いが輪花状を呈する。33は手びねりの犬形土製品である。目を穴で表現し四肢と尾は粘土をつまみ出して表現する。

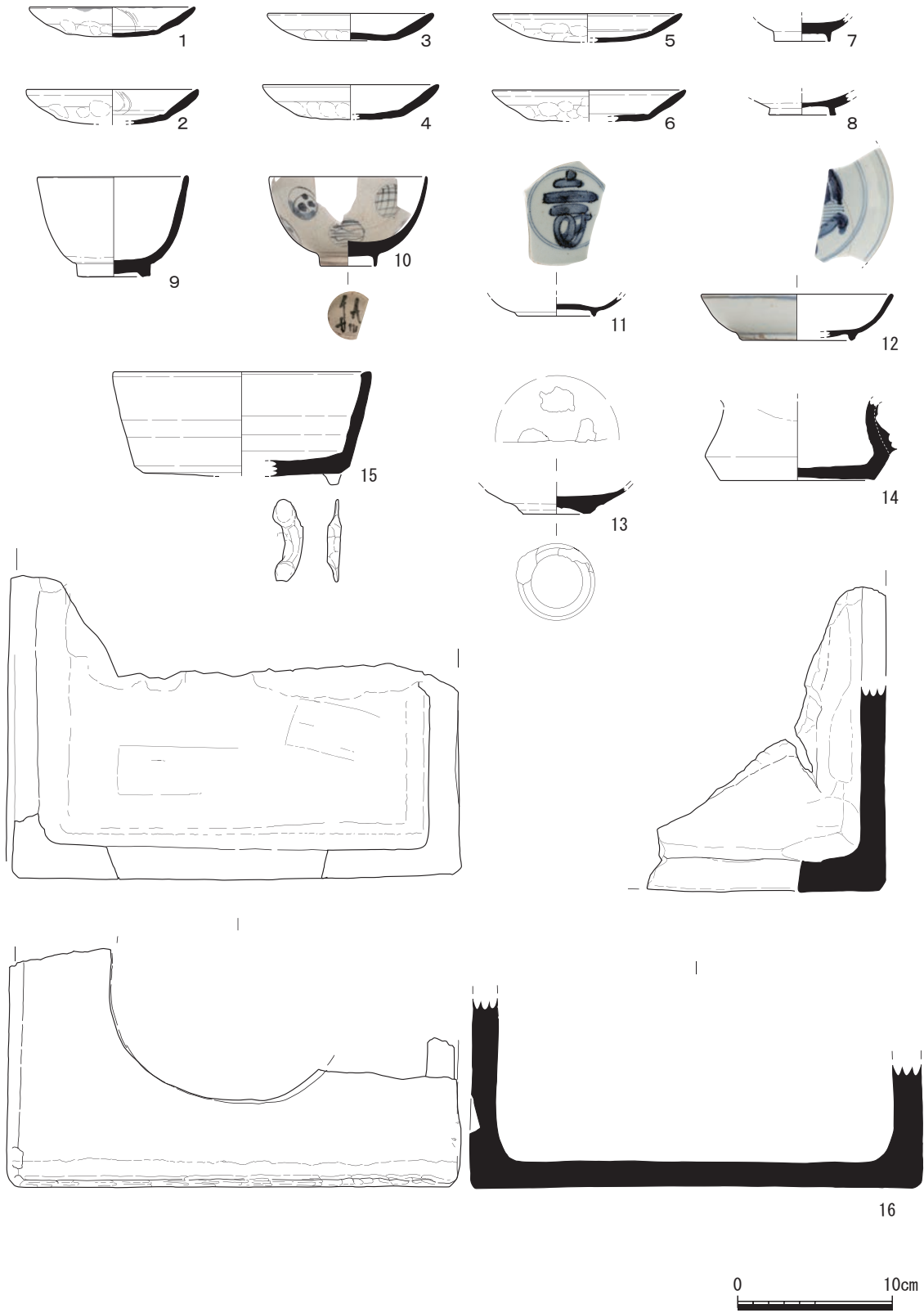
S K 29(第100図1～22) 21と22は中国の白磁皿である。見込みを蛇の目釉剥ぎしている。

S K 2086(第100図23～34) 33は土師器皿を加工して作成した面打である。

S K 14(第101～102図1) 第101図22は中国磁器の青花碗である。見込みに草花文を描く。饅頭心を呈する。23は中国磁器の青花皿である。見込みに「寿」紋を描く。24は中国景德鎮の輪花の白磁皿である。32～35は瓦灯である。同一製品の可能性があるが残存状況が悪く接点を有しない。

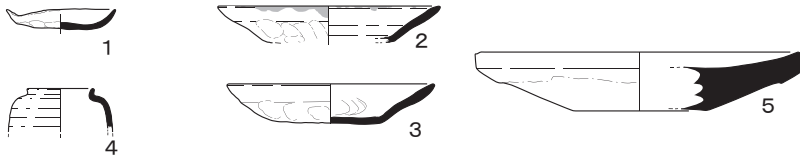
S K 21(第102図2～24) 2は肥前磁器の赤絵の蓋である。S K 21に混入した上層の遺物と考えられる。19はベトナム陶器の壺の一部である。肩部にあたると考えられ、外面に沈線を施す。

S S3239

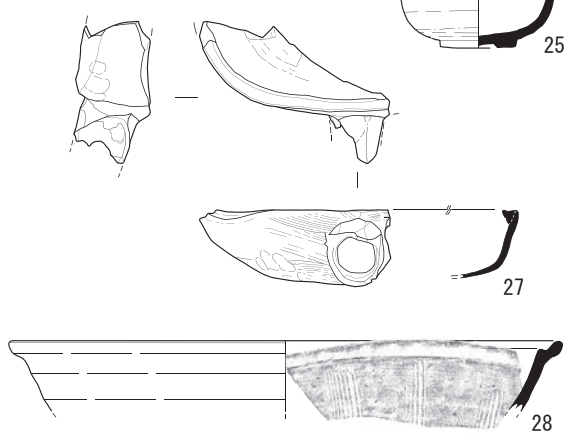
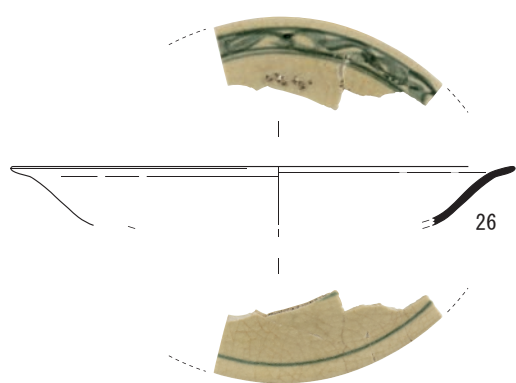
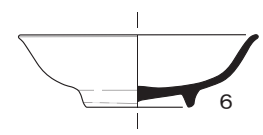
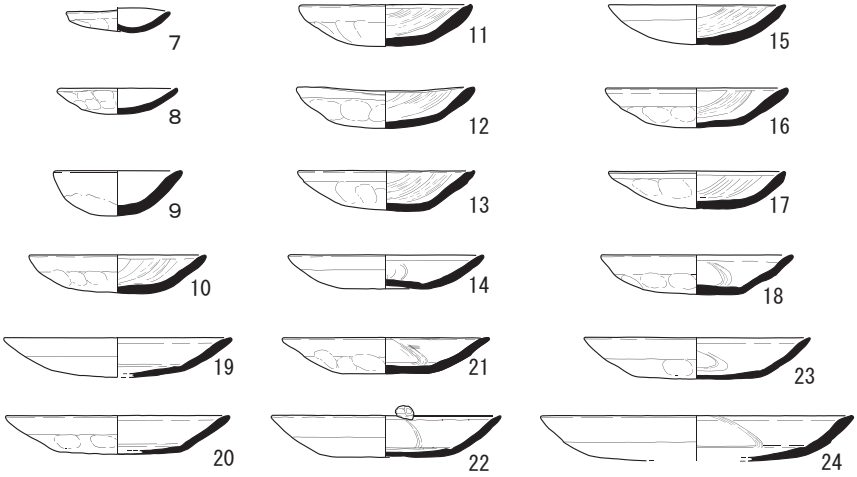


第97図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物 9

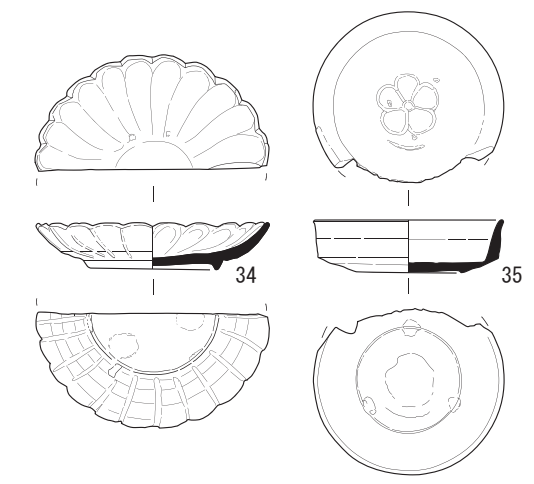
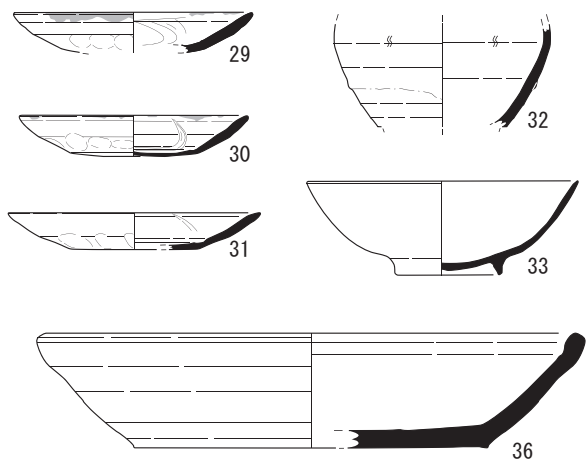
S K2044



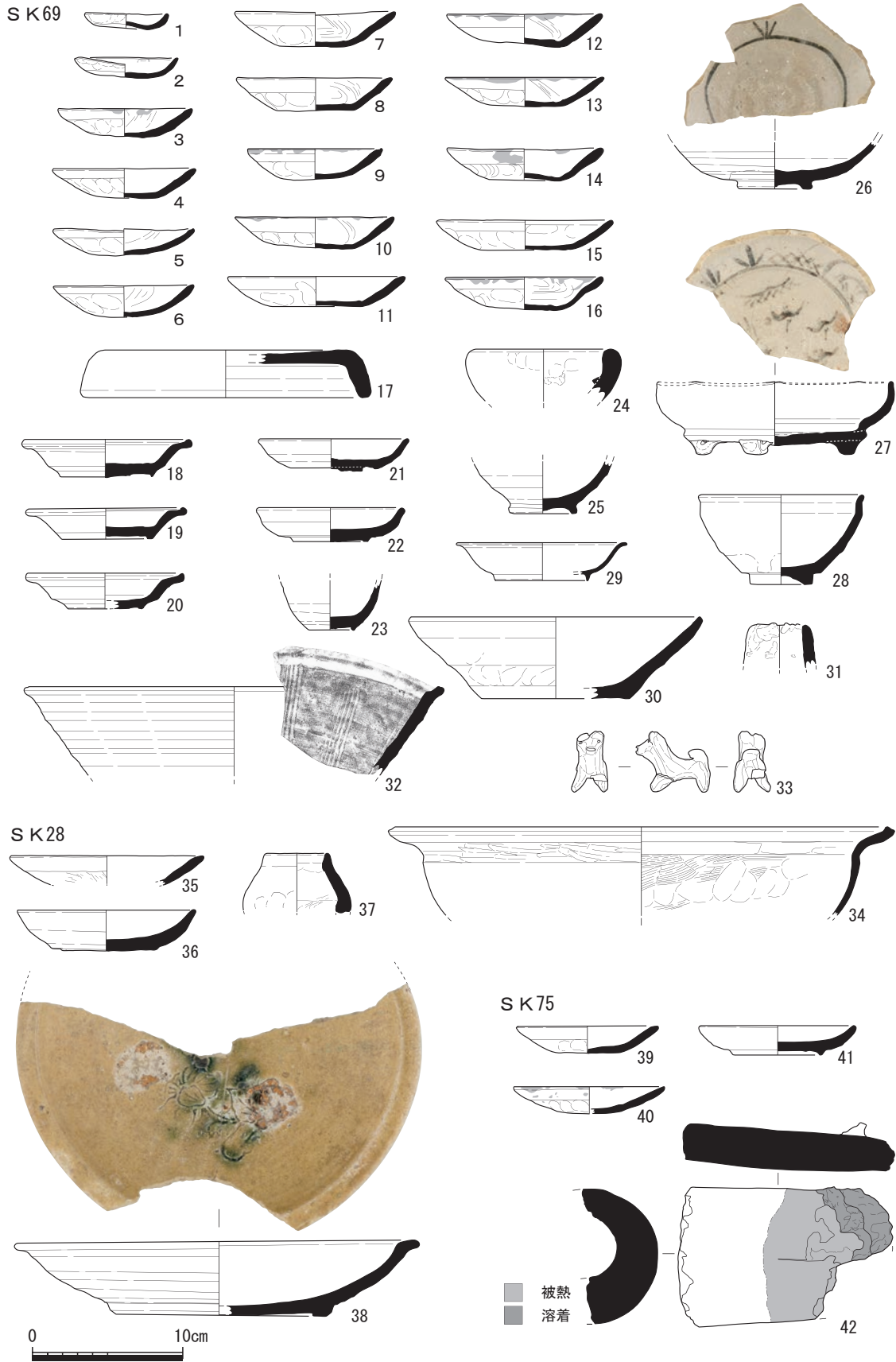
S K30



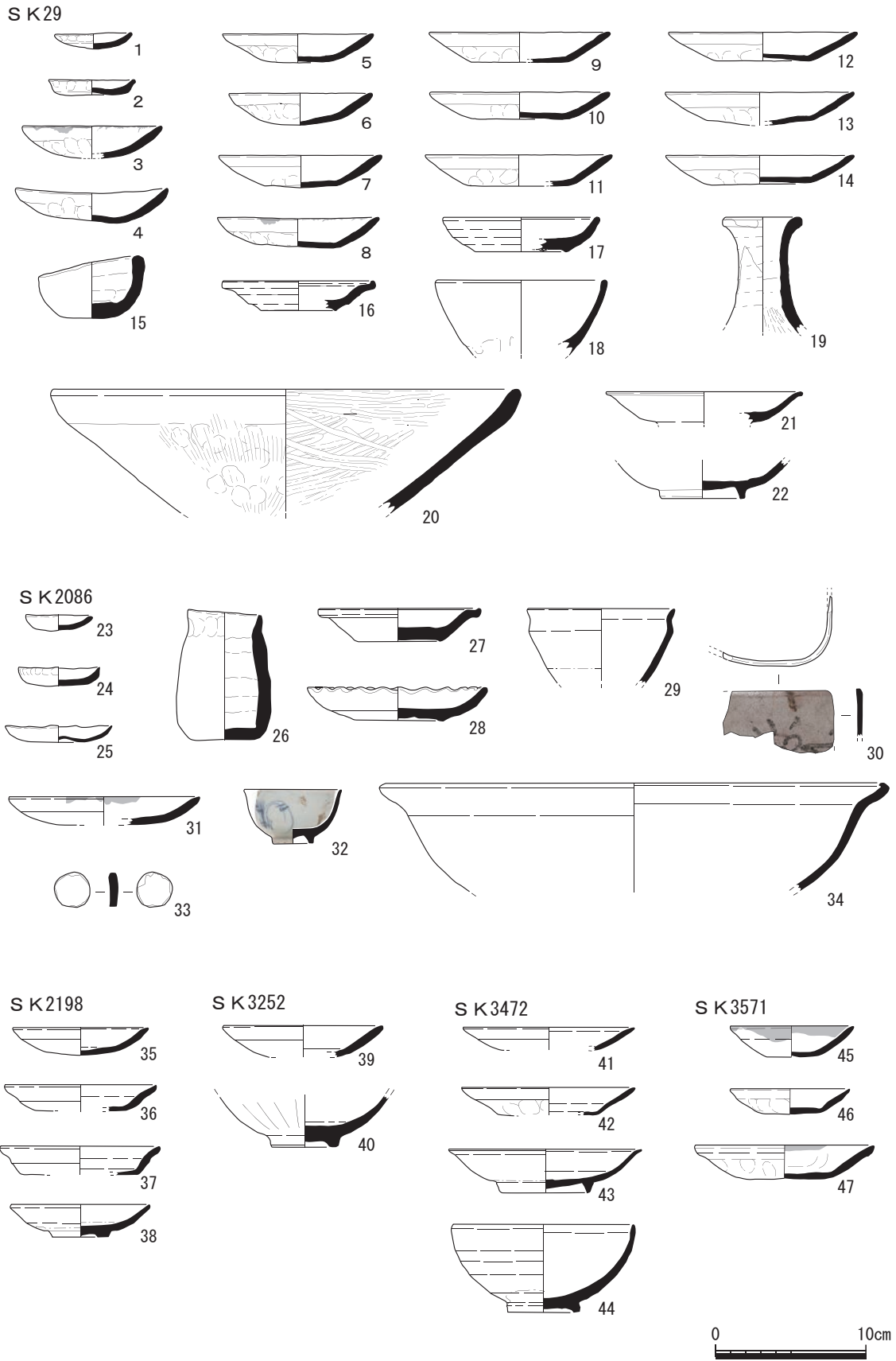
S K71



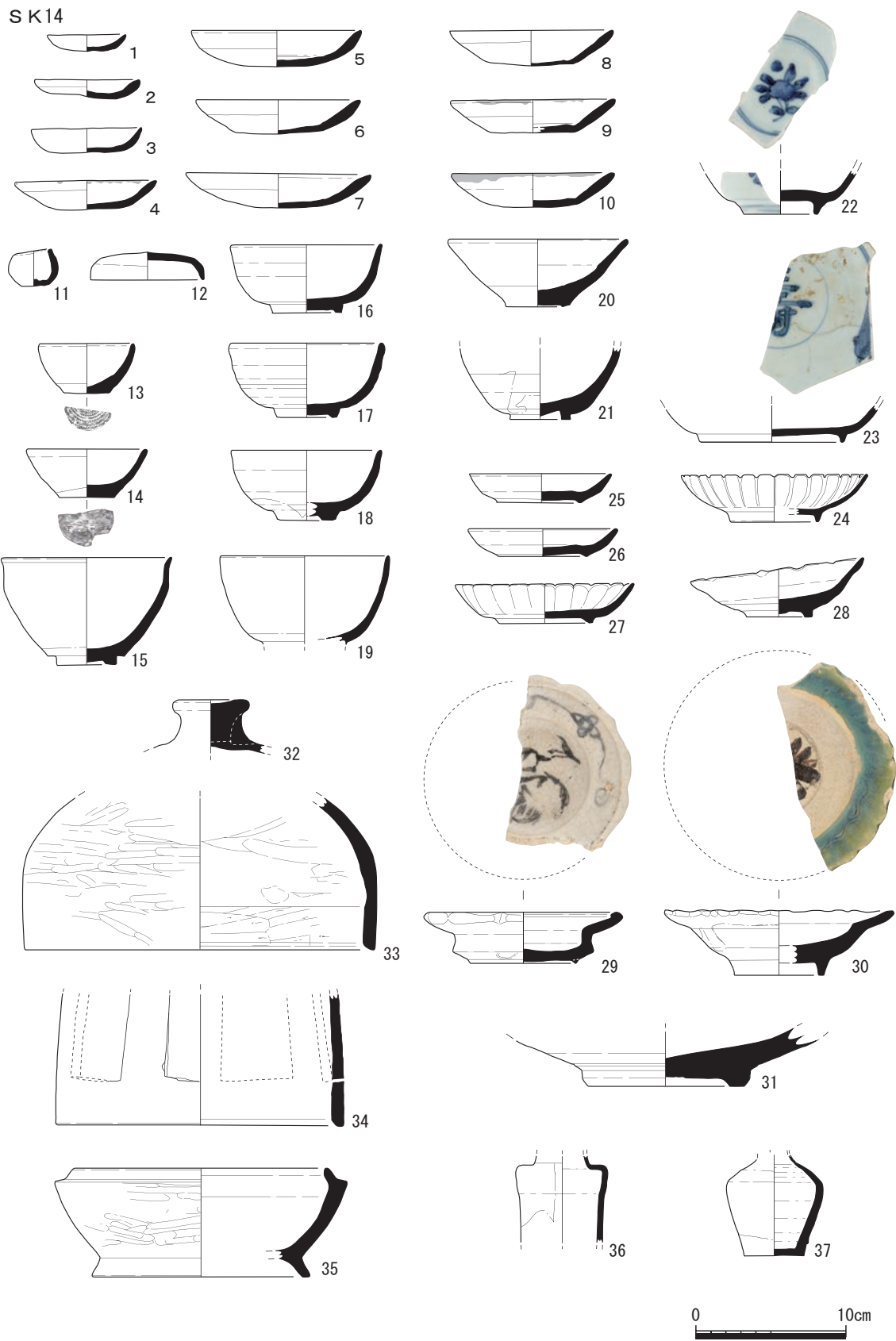
第98図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物10



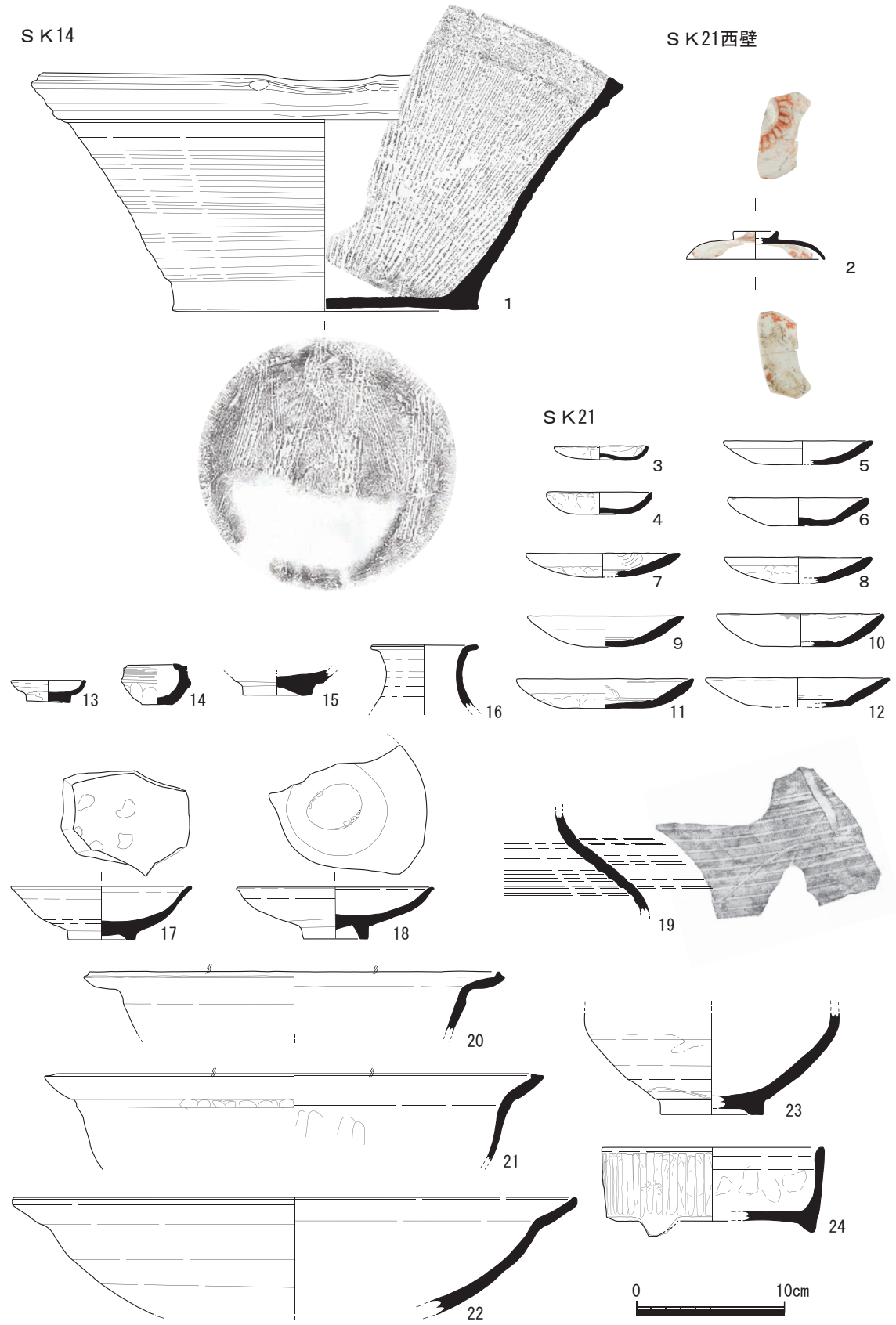
第99図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物11



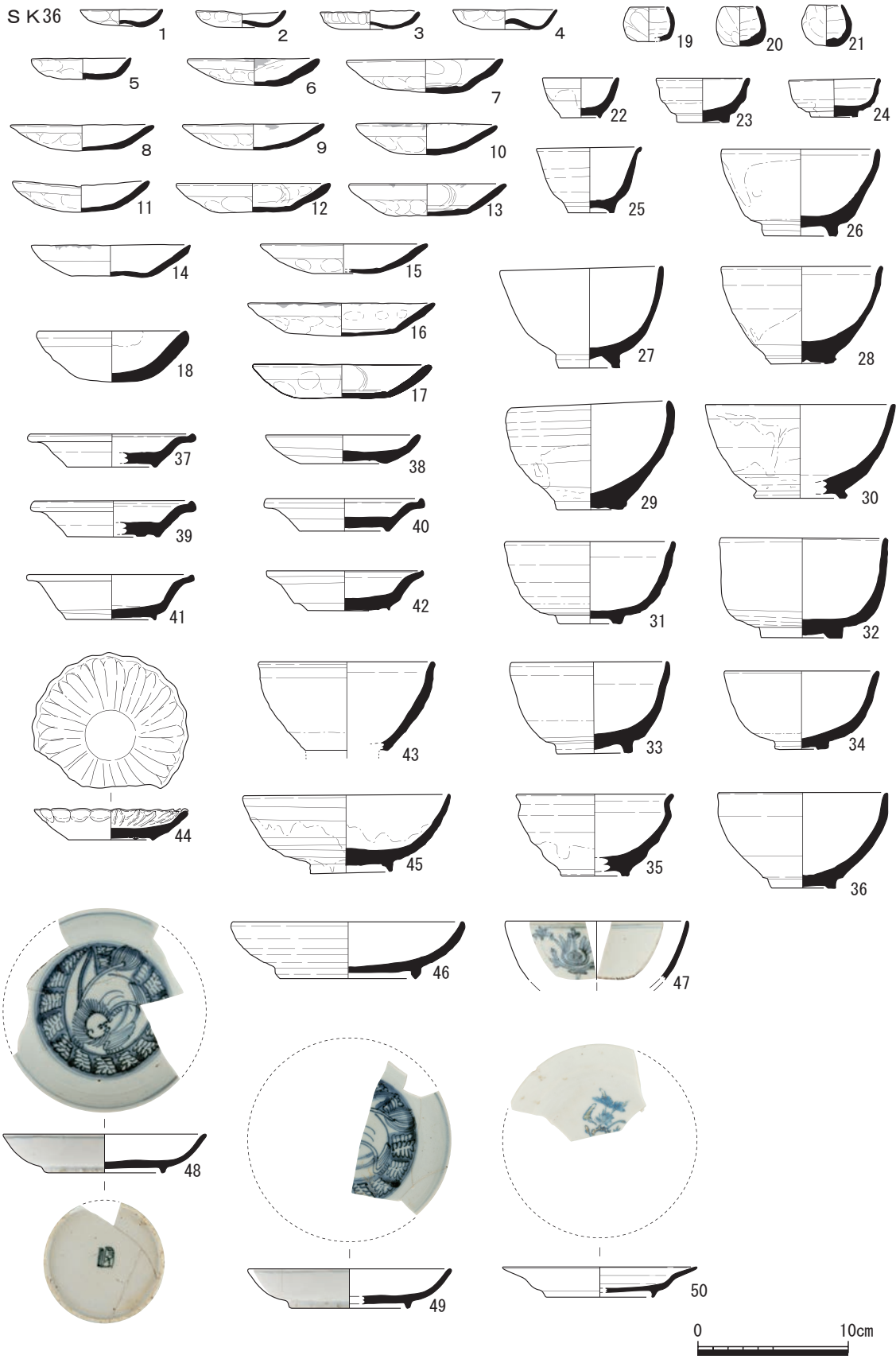
第100図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物12



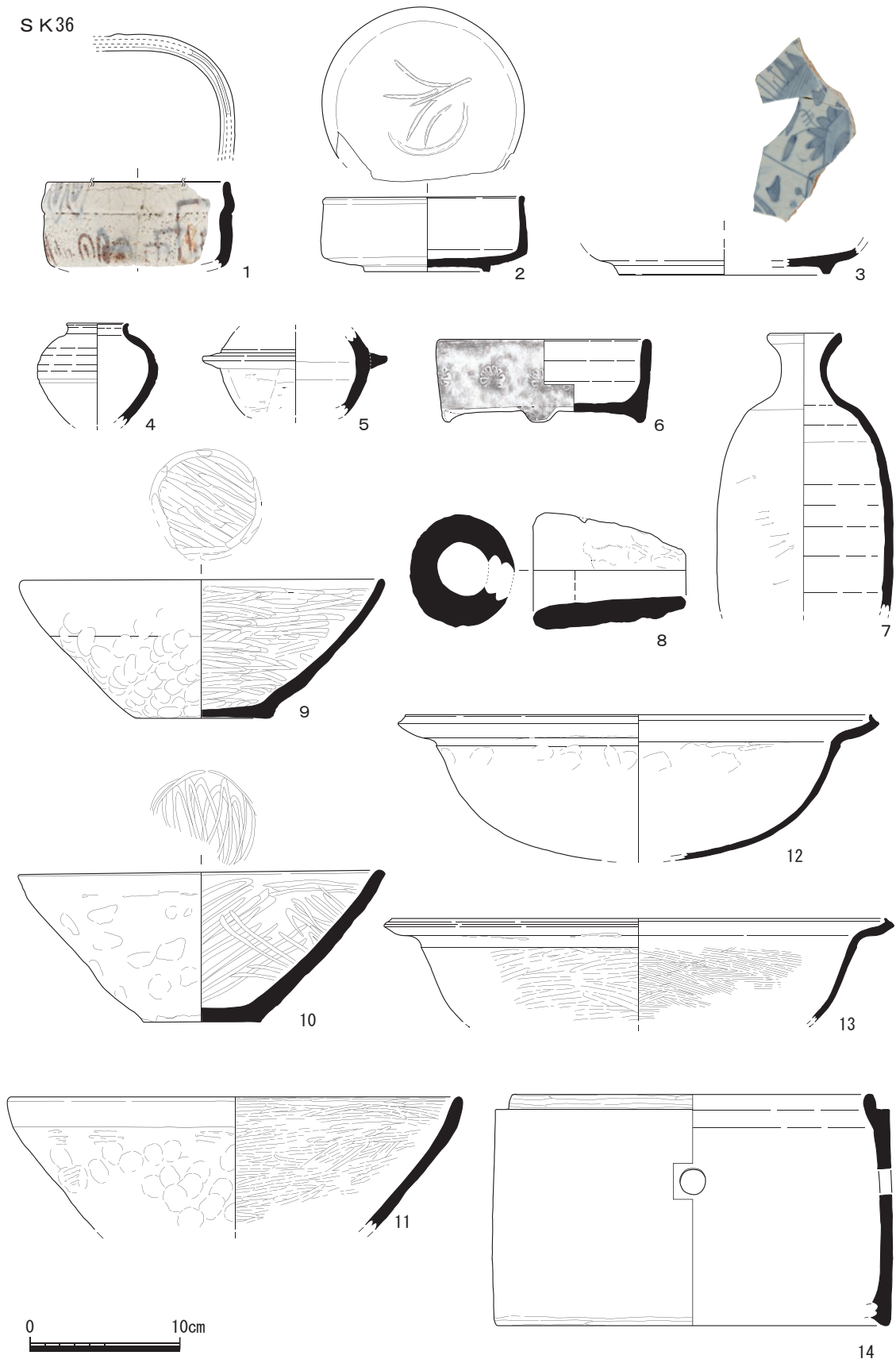
第101図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物13



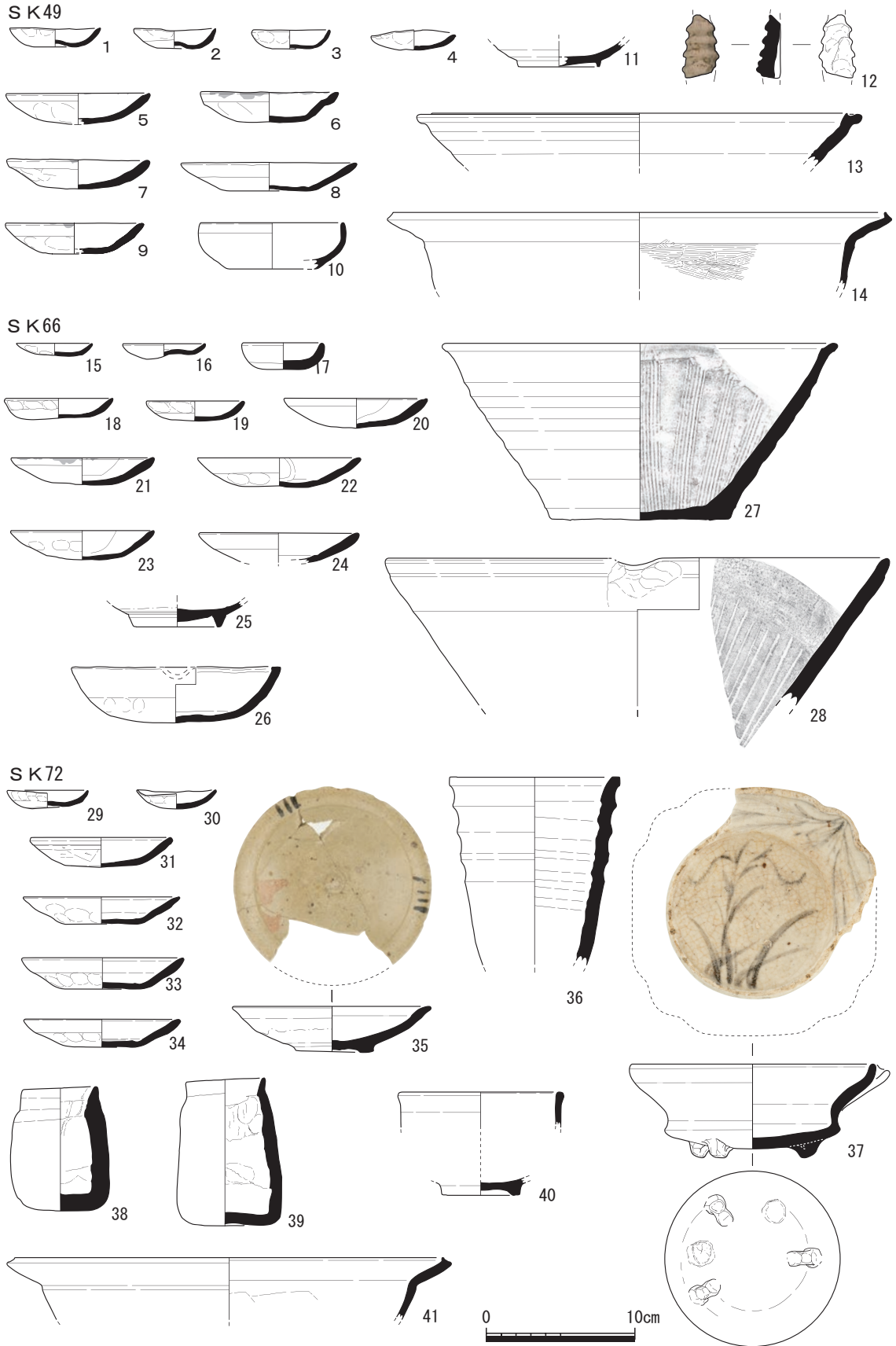
第102図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物14



第103図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物15



第104図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物16



第105図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物17

S K 36(第103・104図) 第103図50は中国磁器の上絵皿である。釉上に蓮を描く。

S K 49(第105図1～14) 10はロクロ成形の土師質の鉢である。12は土製品のミニチュアで「塔」を表現する。18世紀半ば以降の遺物であり、混入物である。

S K 72(第105図29～41) 37は瀬戸美濃陶器の鉄絵志野の鉢である。方形である四隅にへこみを加えて装飾性を持たせている。見込みと口縁部に草文を描く。底部に三点脚を付け、また重ね焼きの痕跡が確認できる。40は軟質施釉陶器の椀である。口縁部と底部が残存するが接点はない。

S K 79(第106図1～17) 12は中国磁器の青花皿である。見込みに「寿」字を描き、口縁部に四方襷紋を描く。14は中国漳州窯系の青花大皿である。口縁に波紋と窓に草花を描く。16は九州系の壺である。口縁に貝目跡が付く。

S K 3186(第106図18・19) 18・19は肥前系の陶器皿である。型成形で五弁の花を表現する。畳付きに貝目跡が付く。

S K 3241(第106図20・21) 20は肥前系の陶器皿である。型成形で五弁の花を表現する。畳付きに貝目跡が付く。21は備前の茶入れである。

S K 2078(第106図22・23) 23は中国の瑠璃釉の磁器椀である。高台内と内面は透明釉を掛ける。

S K 3440(第106図24) 24は軟質施釉陶器の椀である。見込みに鉄釉を掛け、外面に透明釉を掛ける。

S K 2047(第107図1～17) 13は朝鮮陶器の底部である。見込みに9点と畳付き8点の砂目痕が残存する。15は中国陶器で褐釉の壺の肩部である。外面に圈線が入る。

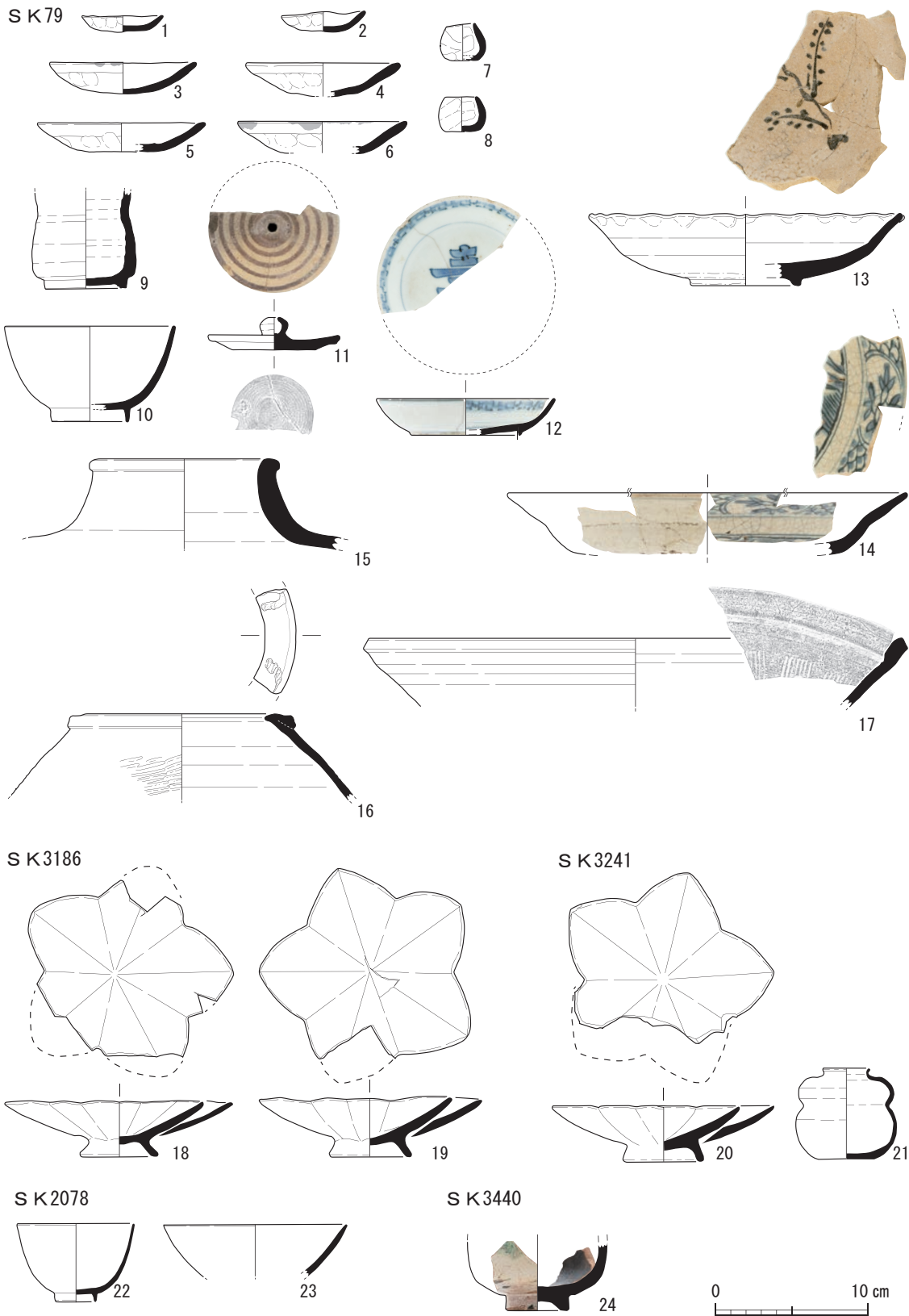
S K 3324(第107図18) 18は中国陶器華南三彩の鉢である。口縁端部に輪花の細工を施している。

S K 3427(第107図19・20) 19は肥前陶器の鉄絵鉢である。見込みに草花文を描き、口縁にも文様を施す。20は瀬戸美濃陶器の織部鉢である。型成形で体部に二点脚が残存するが、本来は三点あった。

S K 236(第108～109図1・2) 第108図30・31は中国白磁の皿である。30は口縁端部を輪花に加工し、31は菊花皿である。32は中国磁器の青花皿で見込みに鳥獣を描く。畳付きに砂が付着する。33は中国磁器の青花皿で見込みに「蛟」を描き口縁部に四方襷を入れる。34は中国磁器の青花椀で見込みに「蛟」を描く。35は中国のいわゆる龍泉窯系の青磁の皿で、後述する36とともに下層から巻き上げられた遺物である。36は緑釉陶器の椀で見込みに圈線が入る。

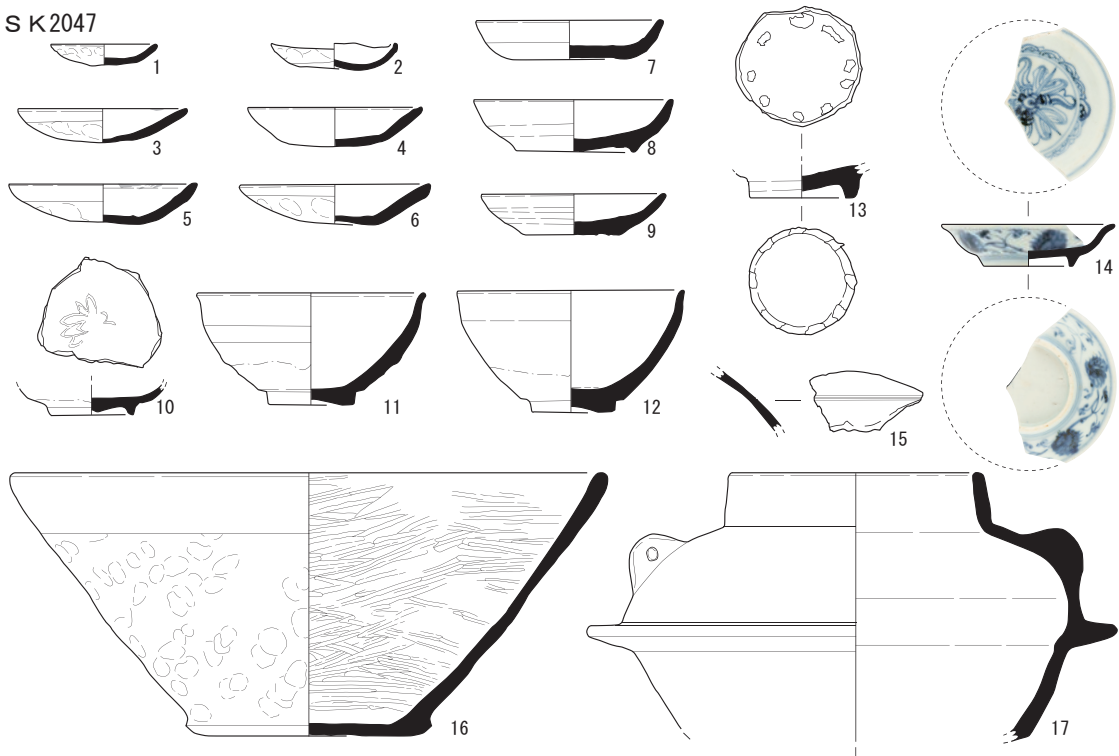
S K 3167(第109図3～15) 5は肥前磁器の上絵の椀で花文を描く。10は肥前磁器の皿でいわゆる初期伊万里である。12・13は灰釉陶器の椀、14は灰釉陶器の鉢でS K 3167が掘られる際に削平された遺構の遺物であると考えられる。

S K 3230(第110・111図) 第110図26は瀬戸美濃陶器の鉄絵志野の小壺である。ロクロ成形で底部に糸切り痕を有する。鉄釉で縦線を入れる。28は中国の白磁小杯である。口縁端部が端反り、白濁色の釉薬をかける。36は中国磁器の青花椀である。見込みに「寿」を、円弧を描くように配

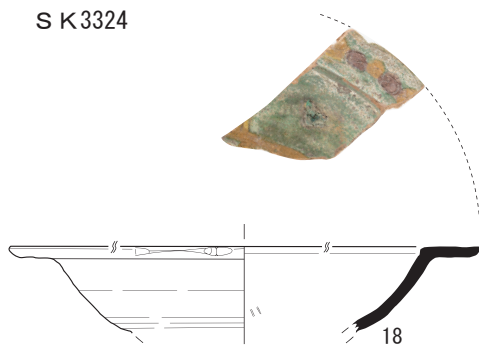


第106図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物18

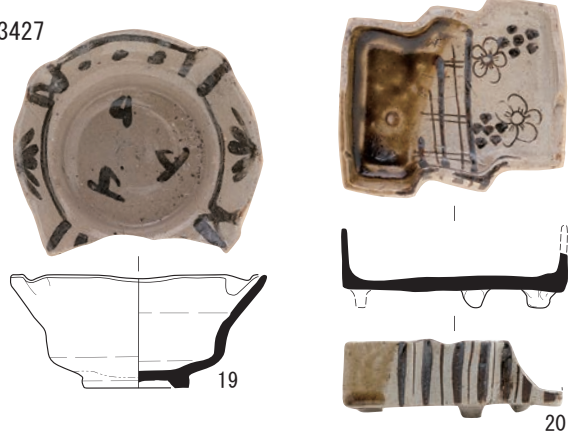
S K 2047



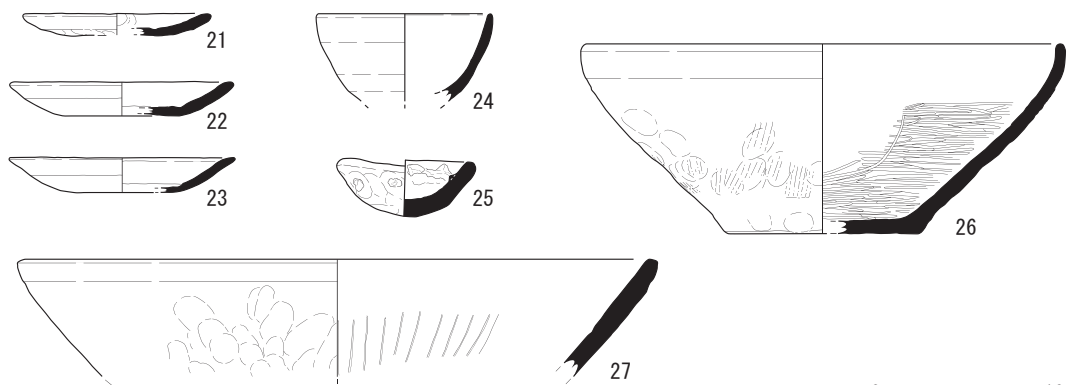
S K 3324



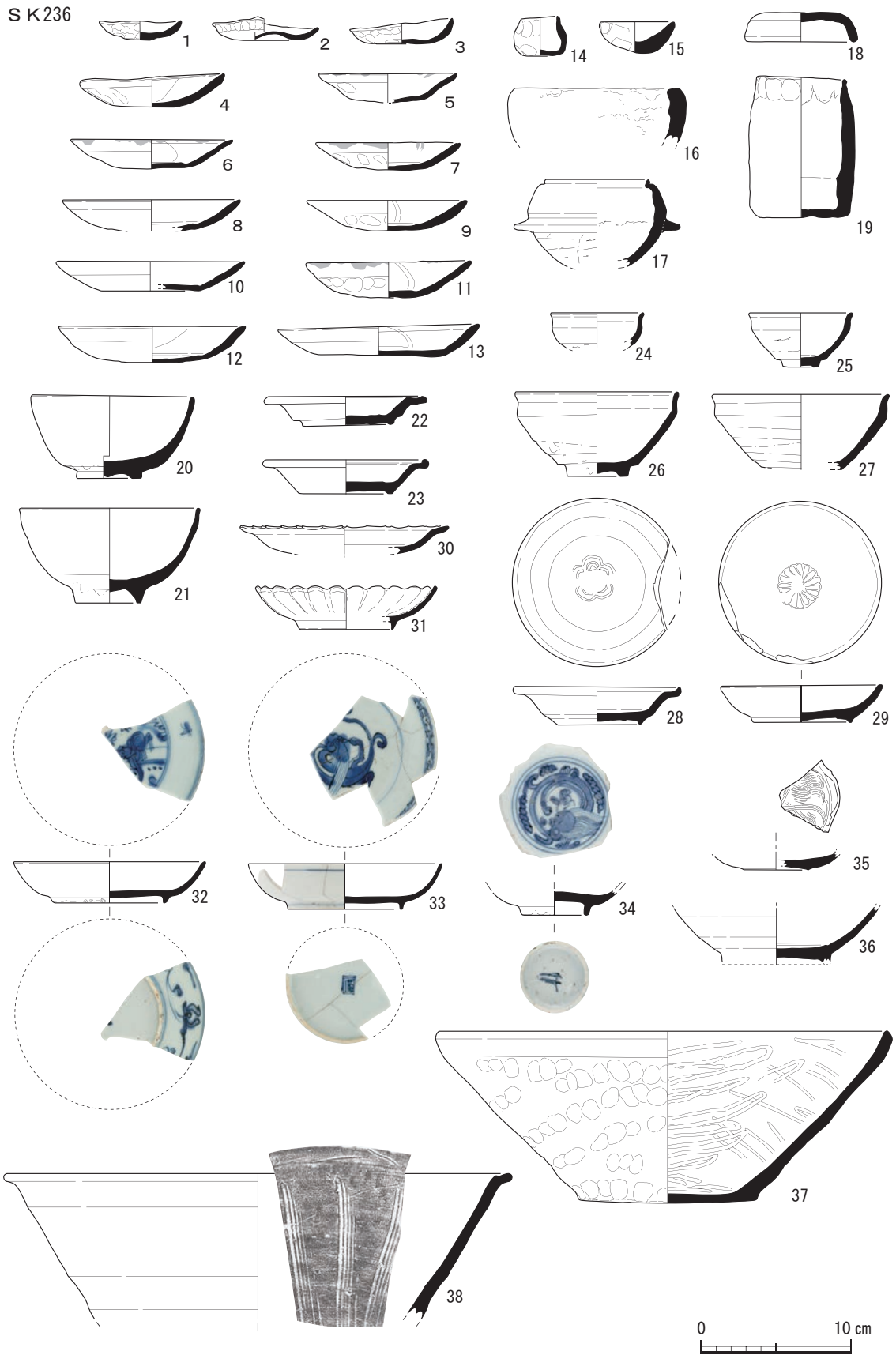
S K 3427



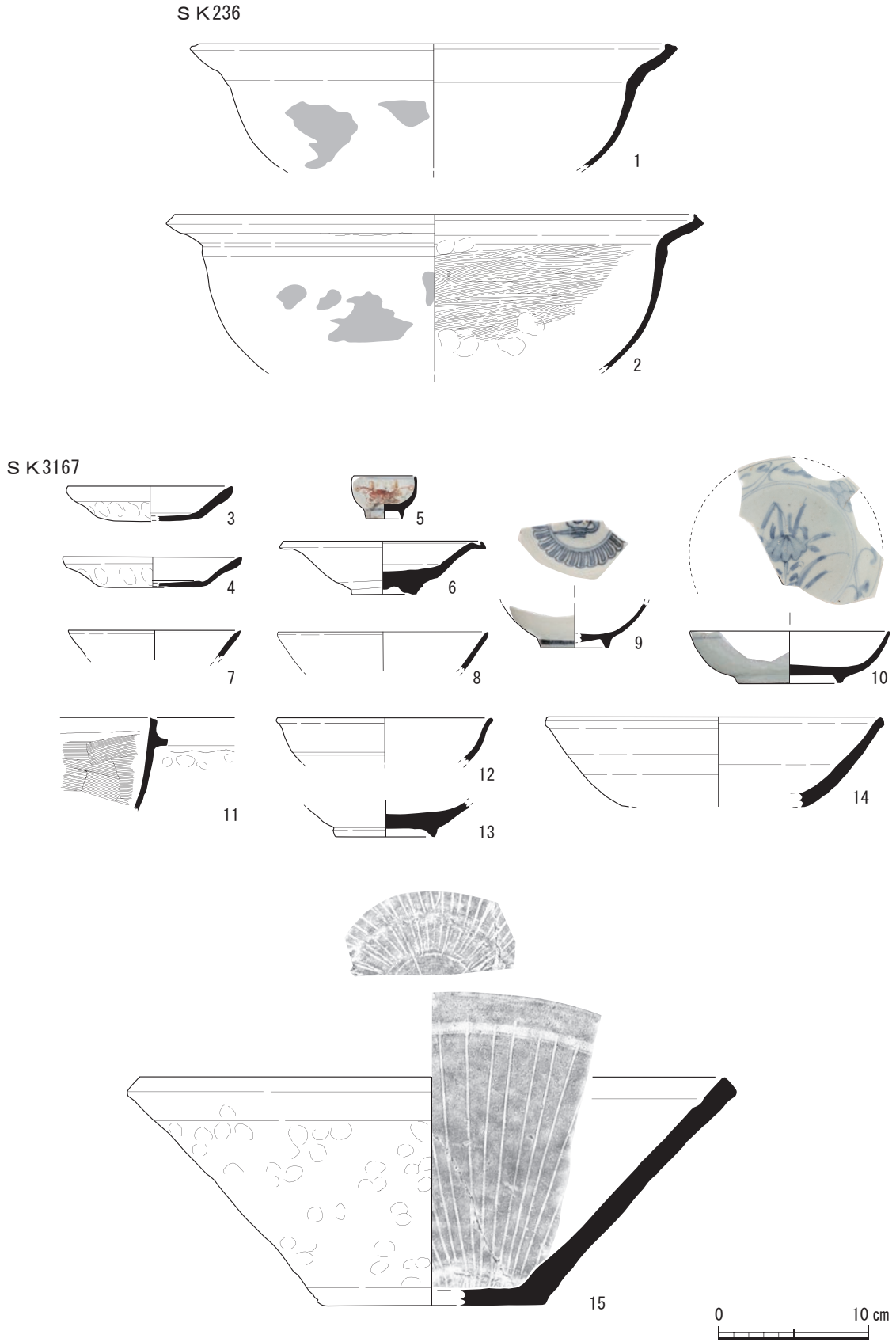
S K 65



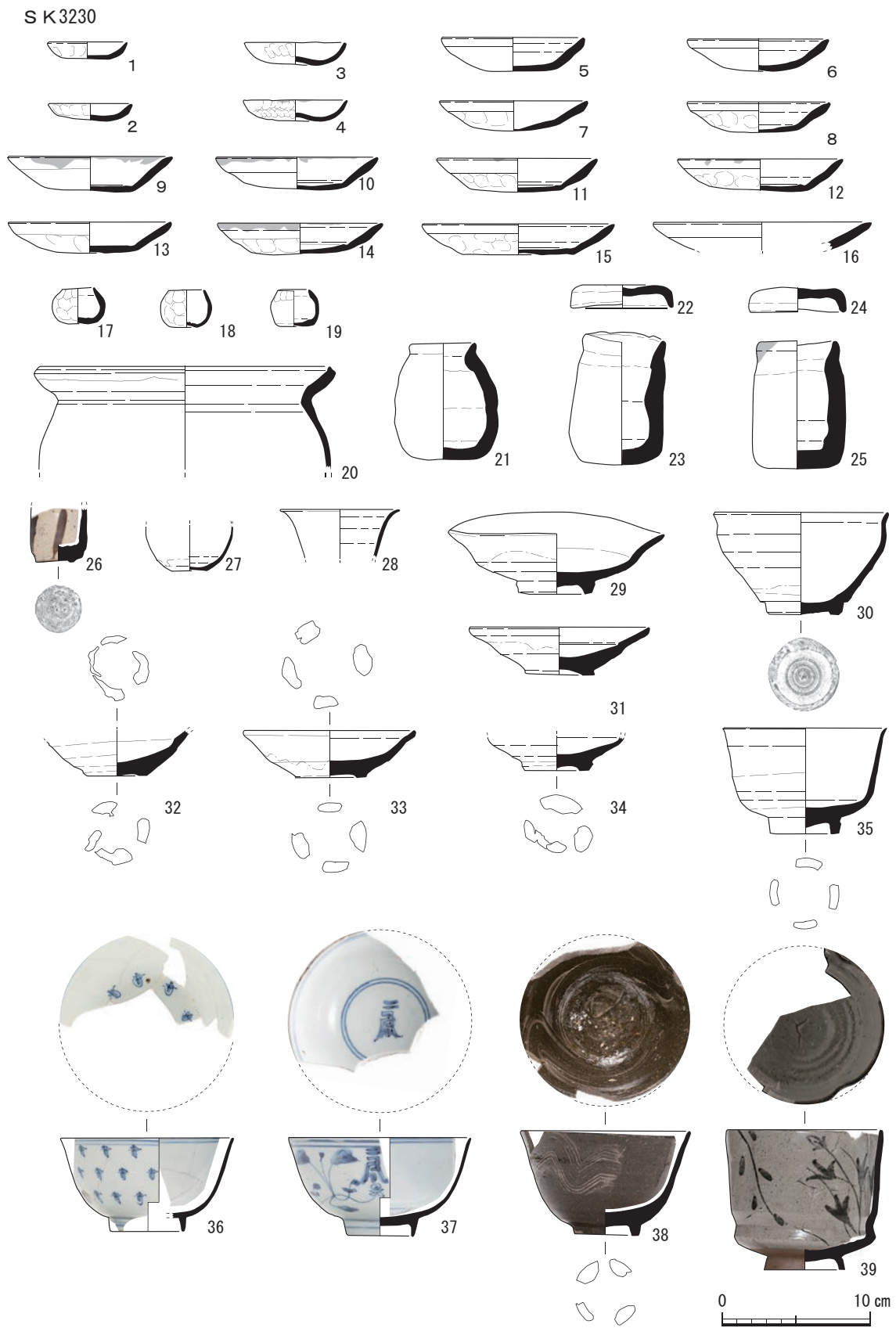
第107図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物19



第108図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物20



第109図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物21



第110図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物22

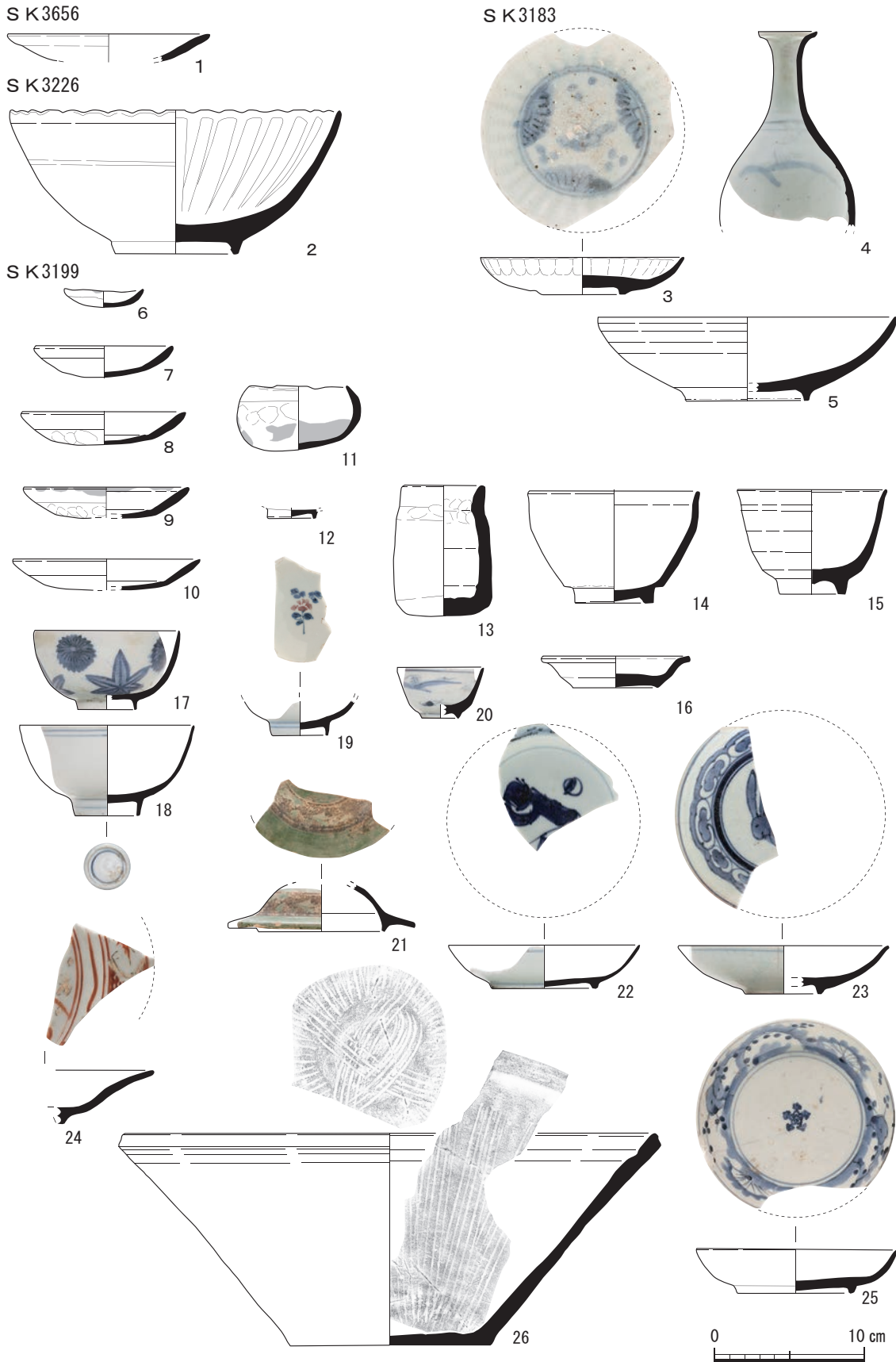
S K3230



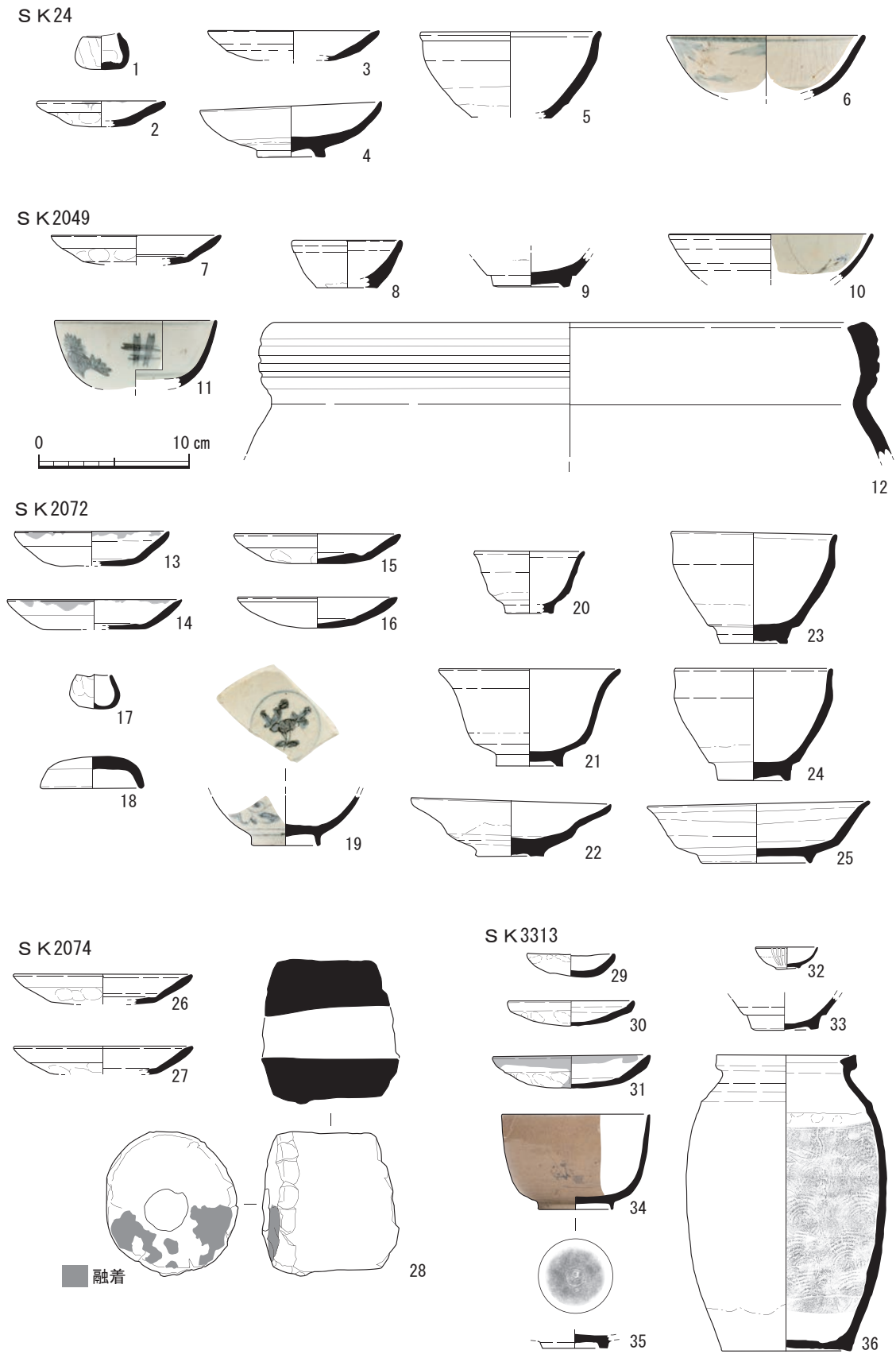
第111図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物23



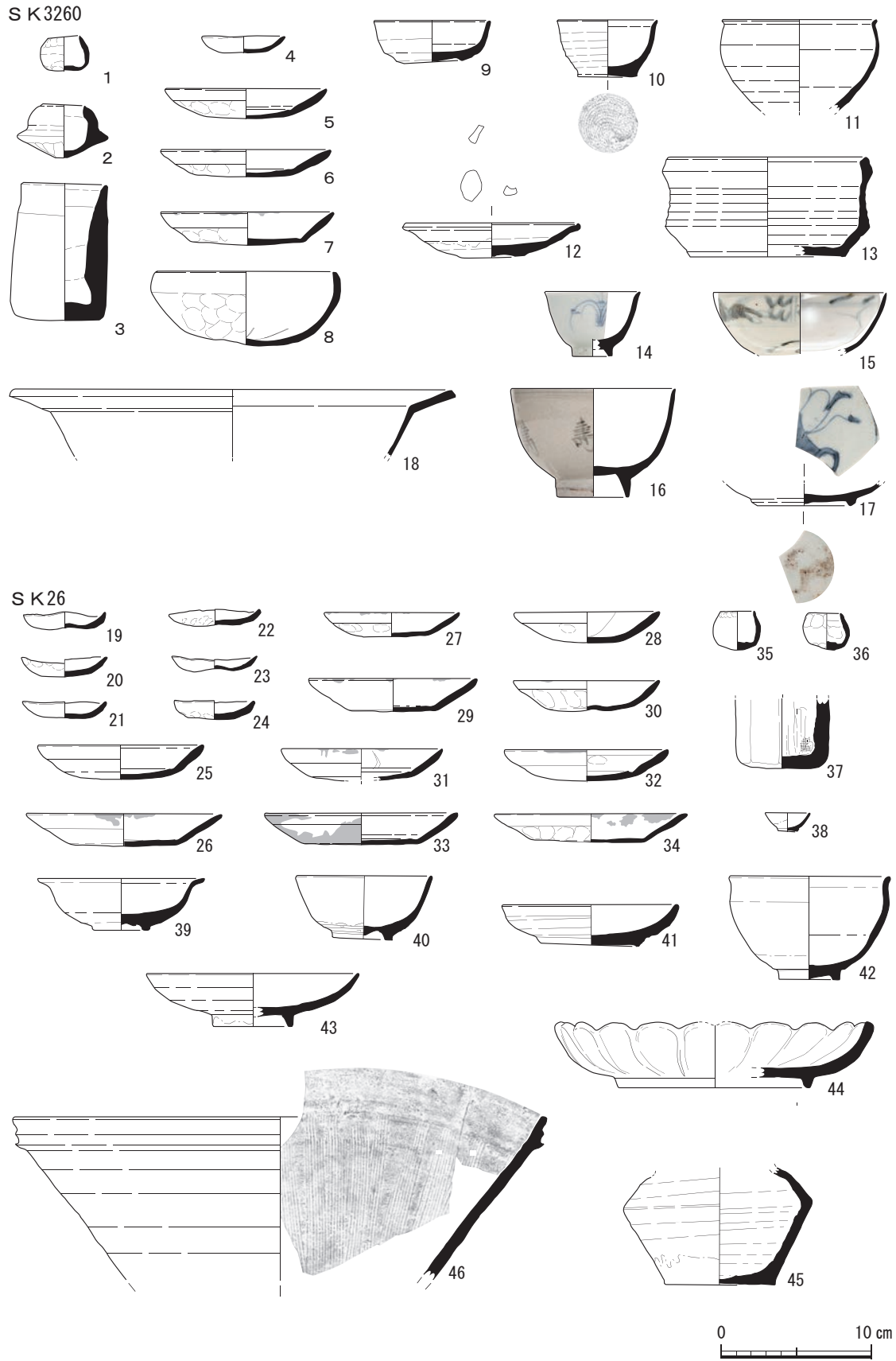
第112図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物24



第113図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物25



第114図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物26



第115図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物27

置し、外面に市松模様に「寿」を描く。37は中国磁器の青花椀である。見込みに簡略化された「寿」字を書き、外面に草柄と「寿」字を配置する。39は肥前陶器の鉄絵椀である。外面に蔓文と草花文を描く。第111図1は中国磁器の青花小瓶で体部に花文を描く。ロクロ成形である。4は中国磁器の青花鉢で口縁端部を輪花にしている。内外面に芙蓉手を描く。6は中国磁器の青花馬上杯である。体部に「大明成化年製」脚部に吉祥文、内面に縦笛を演奏する文人、外面に僧侶と須弥壇、蓮華を描く。9は中国磁器の青花皿で見込みになづな文を描く。高台内にカンナの跳ねた跡が残る。12は中国白磁の脚付合子である。脚部にスカシと切彫を施す。13は中国白磁の皿で、内外面に文様がうすく浮かび上がるようにロクロで成形した後に型を用いて文様を入れている。15は中国の漳州窯系の赤絵の大皿である。

S K 3329(第112図12～17) 14は中国の鉄釉椀である。いわゆる天目椀と称される椀で被熱しており、釉薬が一部破損している。

S K 3407(第112図23～29) 26は中国磁器の青花皿である。内面に水辺と水鳥、蓮を描く。畳付きに砂が付着する。27は中国磁器の青花皿である。内面に水辺と水鳥、蓮を描く。26とは別個体である。畳付きに砂が付着する。29は瀬戸美濃陶器の鉄絵志野の鉢である。竹垣に花を描く。底部に脚が付く。

S K 3226(第113図2) 2は波佐見磁器の鉢である。内面に花卉を表現するケズリ跡を有し、口縁端部をケズリ込むことで輪花を作出する。

S K 3183(第113図3～5) 3は肥前磁器の皿でいわゆる初期伊万里である。見込みに荒磯文を描き、体部に菊花文の彫刻を施す。畳付きに砂が付着する。

S K 3199(第113図6～26) 19は中国磁器の釉裏紅の椀である。見込みの草花文に花に紅を用い、草に呉須を挿している。22は中国磁器の青花皿である。猿紋を見込みに描き高台内にカンナの跳ねた跡が残る。25は肥前磁器の皿である。見込みに五弁花のこんやく印判が入る雪花文の皿で、上層からの混入と考えられる。

S K 3313(第114図29～36) 34は肥前京焼風陶器の椀である。高台内の「清」字の刻印を押し込んでいる。外面に山水文を描く。36は肥前陶器の壺で内面に工具によりタタキ目が残存する。

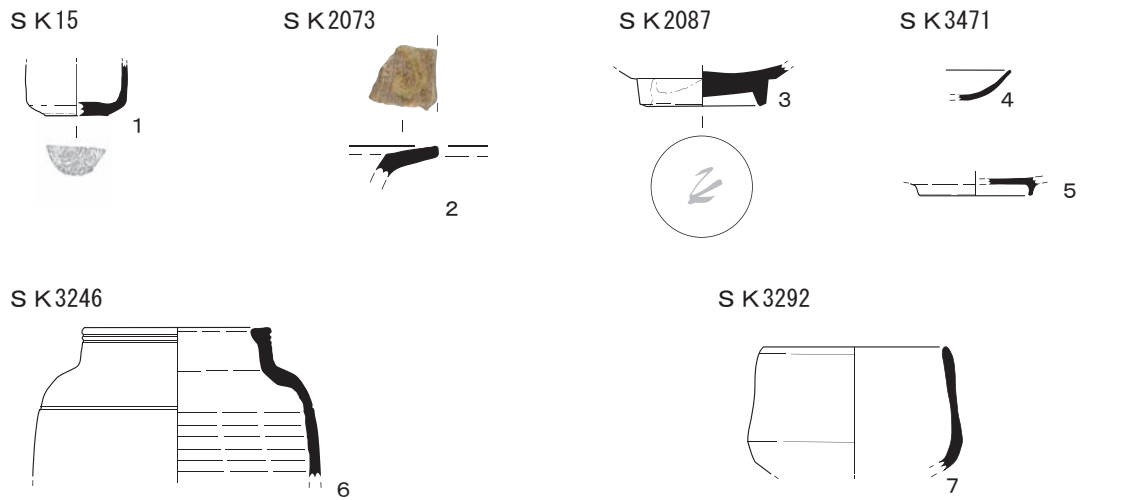
S K 3260(第115図1～17) 8は土師質の鉢である。見込みに一本線の摺り目が三条入る。手づくね成形で口縁端部をナデで整えている。15は中国磁器の青花椀である。外面の口縁部に波と馬を描く。

S K 2087(第116図3) 3は中国の白磁椀である。底部に墨書が残存する。

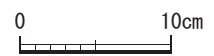
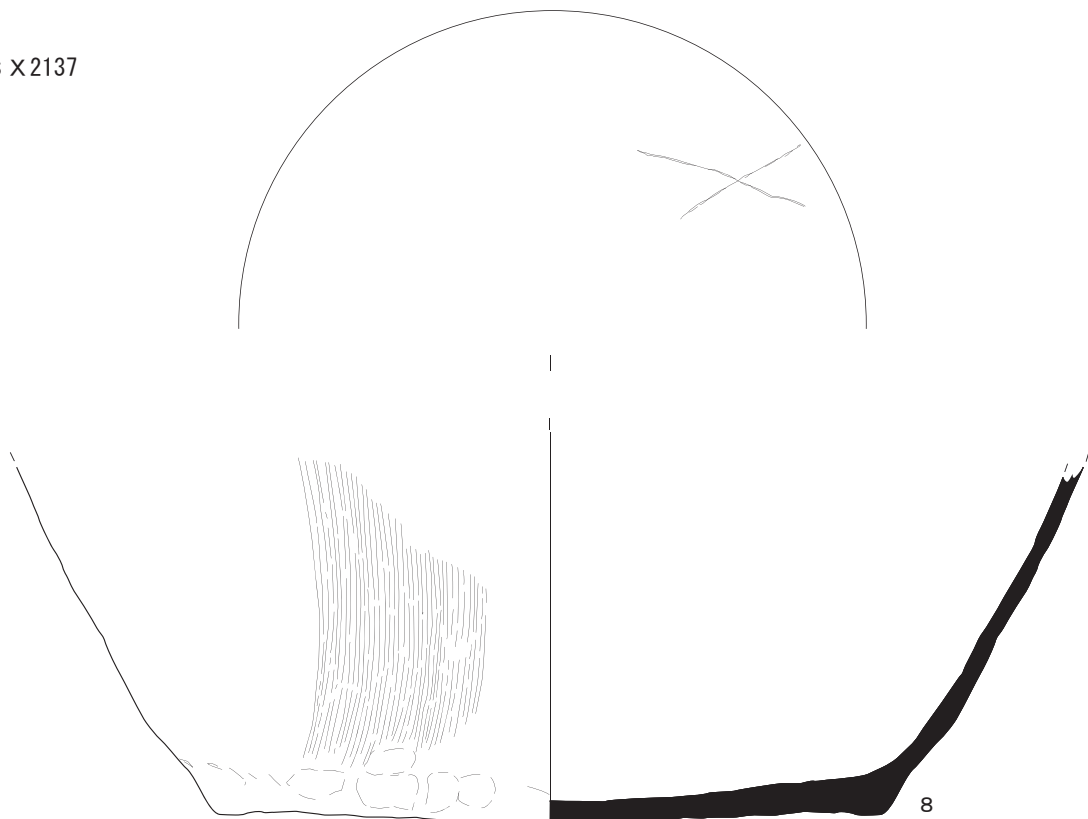
S K 3471(第116図4・5) 4・5はともに朝鮮陶器の椀で同一個体と考えられるが接点がない。貫入が多く入る。

S K 3246(第116図6) 6はベトナム陶器の壺である。

S K 3292(第116図7) 7は軟質施釉陶器の椀である。



S X 2137



第116図 安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物28

(4)江戸時代後期・幕末の遺物

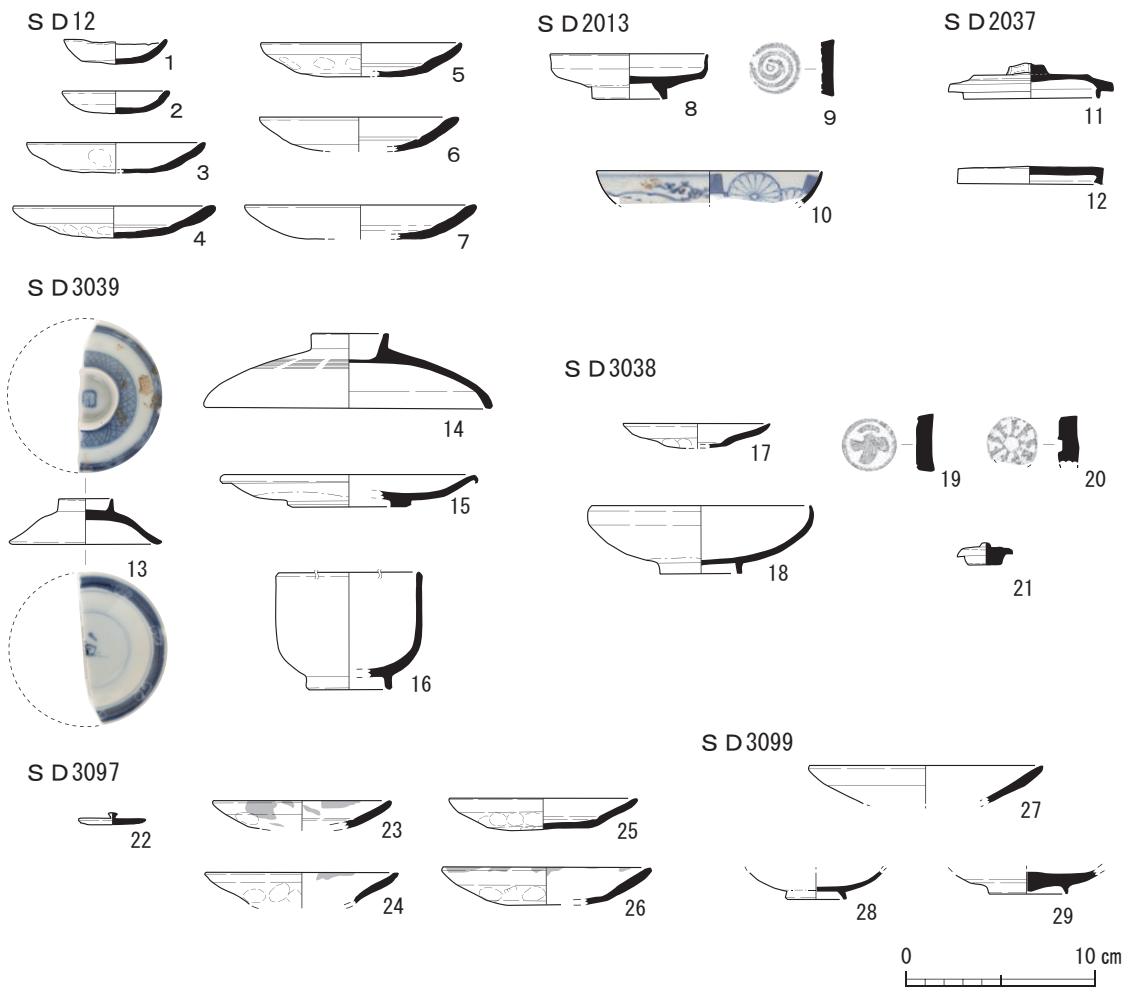
S D 2013(第117図8～10) 10は肥前磁器の皿である。菊御紋付の染付で、見込みに市松柄が入る。

S D 2020(第118図1～23) 20は京・信楽系の土瓶である。刷毛目を施し、その上から梅花を描く。

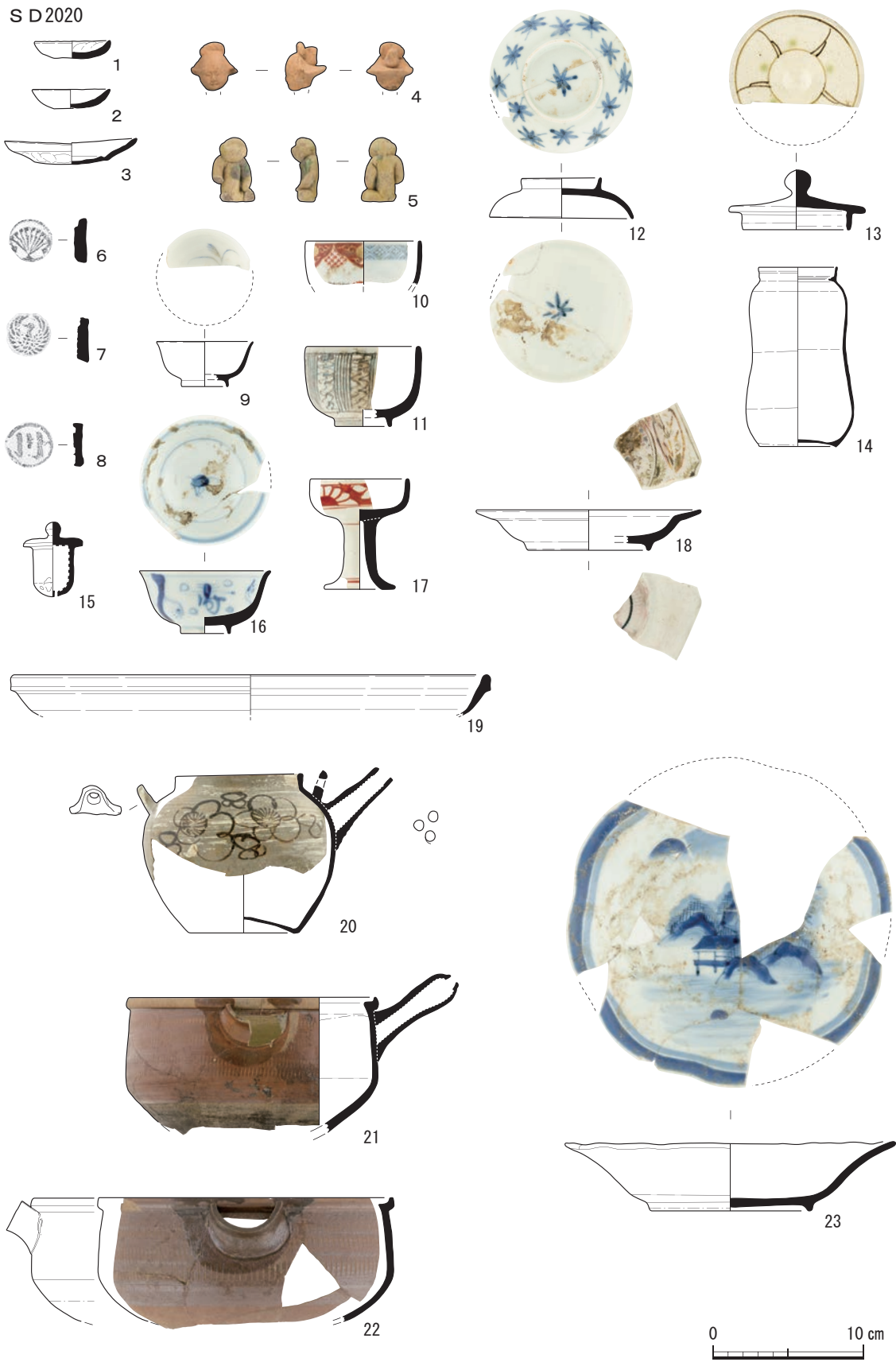
S E 2223(第119図1～4) 4は備前の花入れである。板作りである。表側に蟬の表現が型で表される。

S K 3247(第119図22～27) 28は土製品の仏像である。像は前後2枚の型からなる。台座は別付けである。全面に透明釉が施される。27は中国磁器の青花碗である。外面に唐子を描く。

S E 3132(第120図1～16) 6は京焼の碗である。野草を描き、花に呉須、葉茎に鉄を用いて描き分ける。7は京焼の碗である。上絵付でタコ唐草を描く。10は瀬戸美濃陶器の片口鉢である。12は京焼の水滴で茶引き童子の形をなしている。二枚型成形で沓や茶臼の把手に鉄釉をかけ、全体に透明釉を掛けている。14は京・信楽系陶器の土瓶で、ぶどう蔓を描く。体部に陶器焼成時に別個体と融着した痕跡が付く。



第117図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 1

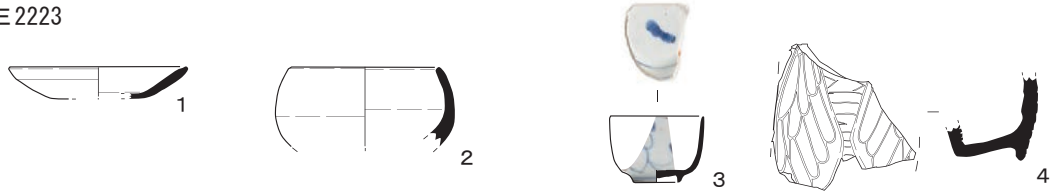


第118図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 2

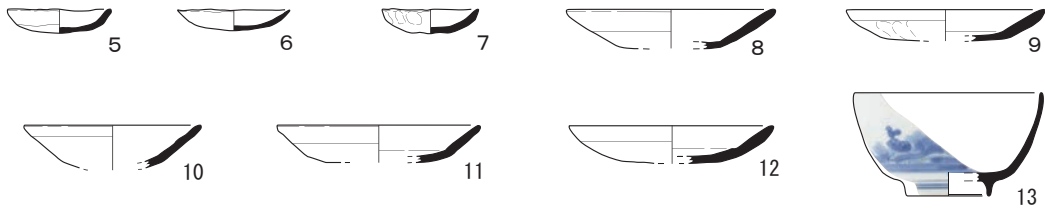
S E 3072(第121図9～15) 13は肥前磁器の金彩色絵皿である。見込みに松竹梅を描き、口縁部に唐草などの文様を描き、模様の外周を金泥で囲う。高台内に「乾」字が入る。14は肥前陶器の筒型容器で底部に墨書「しるし 川□□ 天保□年」とある。

S E 3154(第122図6～21) 10 は中国磁器の青花で見込みに「祿」と書く。11は肥前磁器の椀で外面に赤絵「小町紅」が入る。

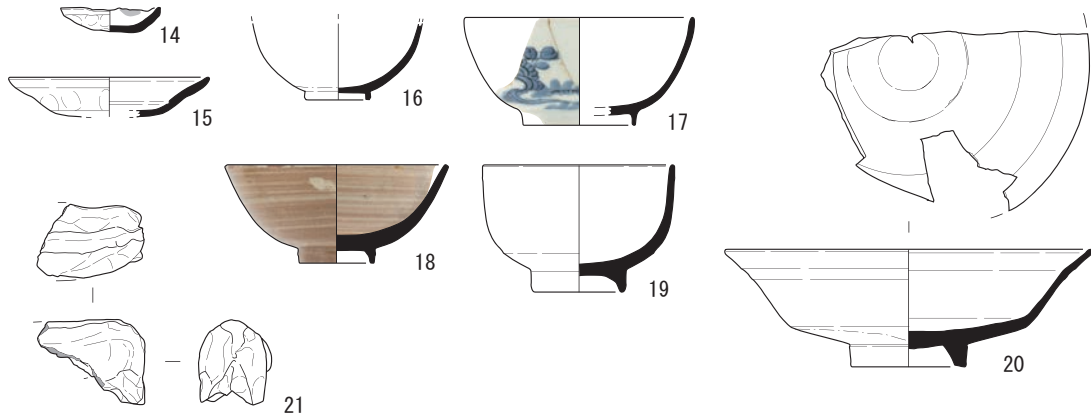
S E 2223



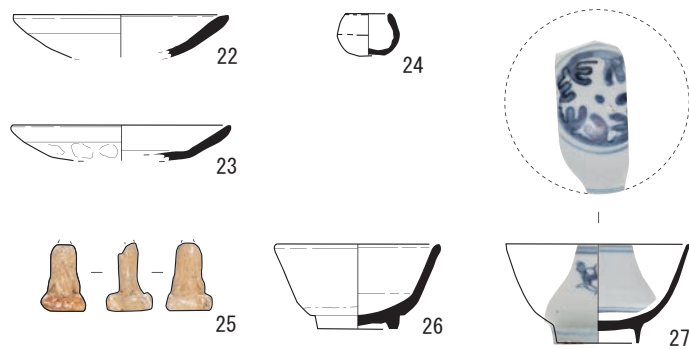
S E 2269



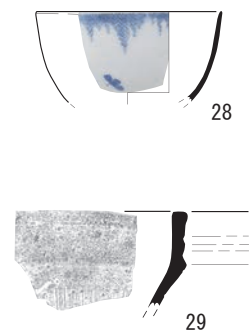
S E 2264



S E 3247

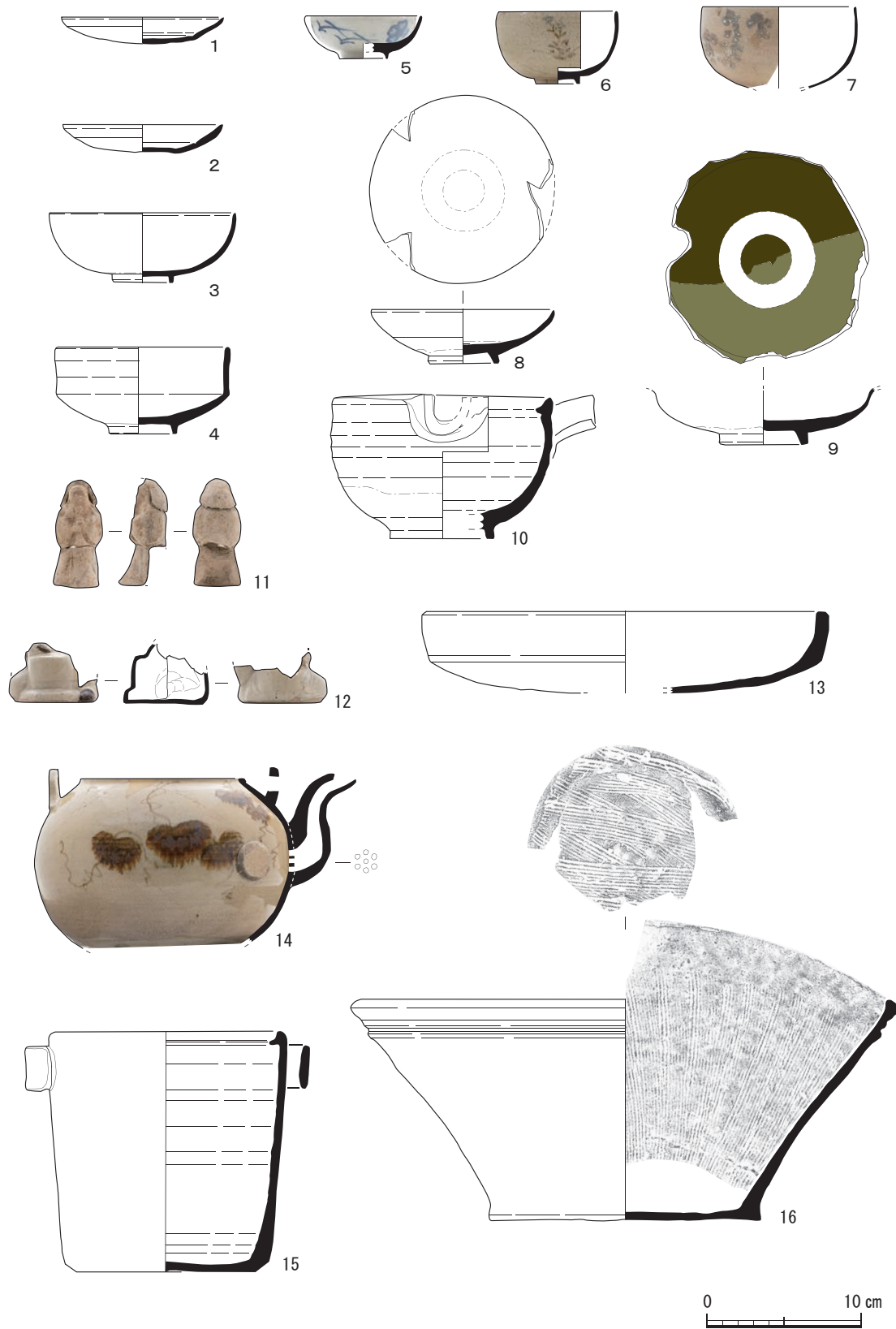


S E 3198

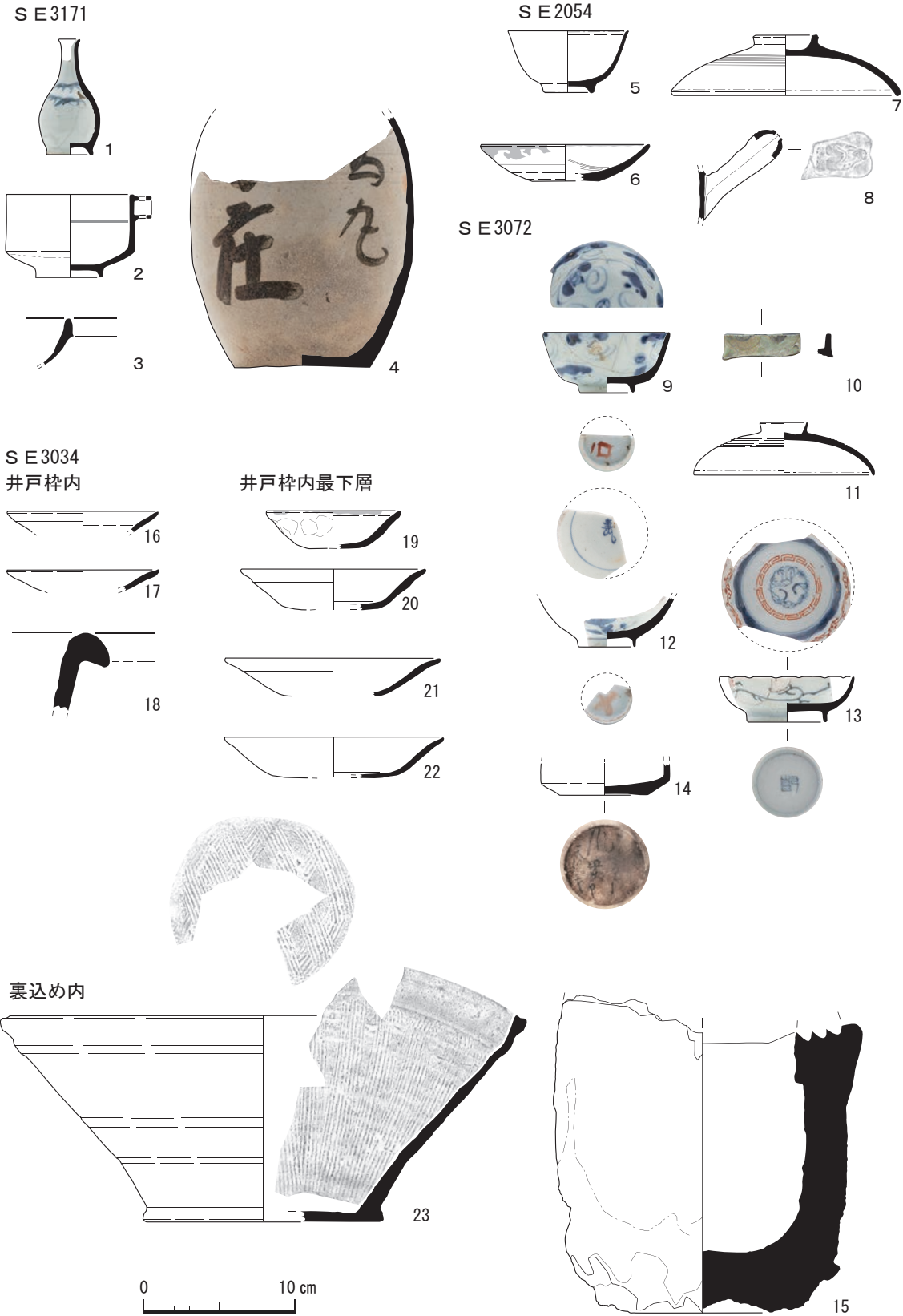


第119図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 3

SE3132



第120図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物4

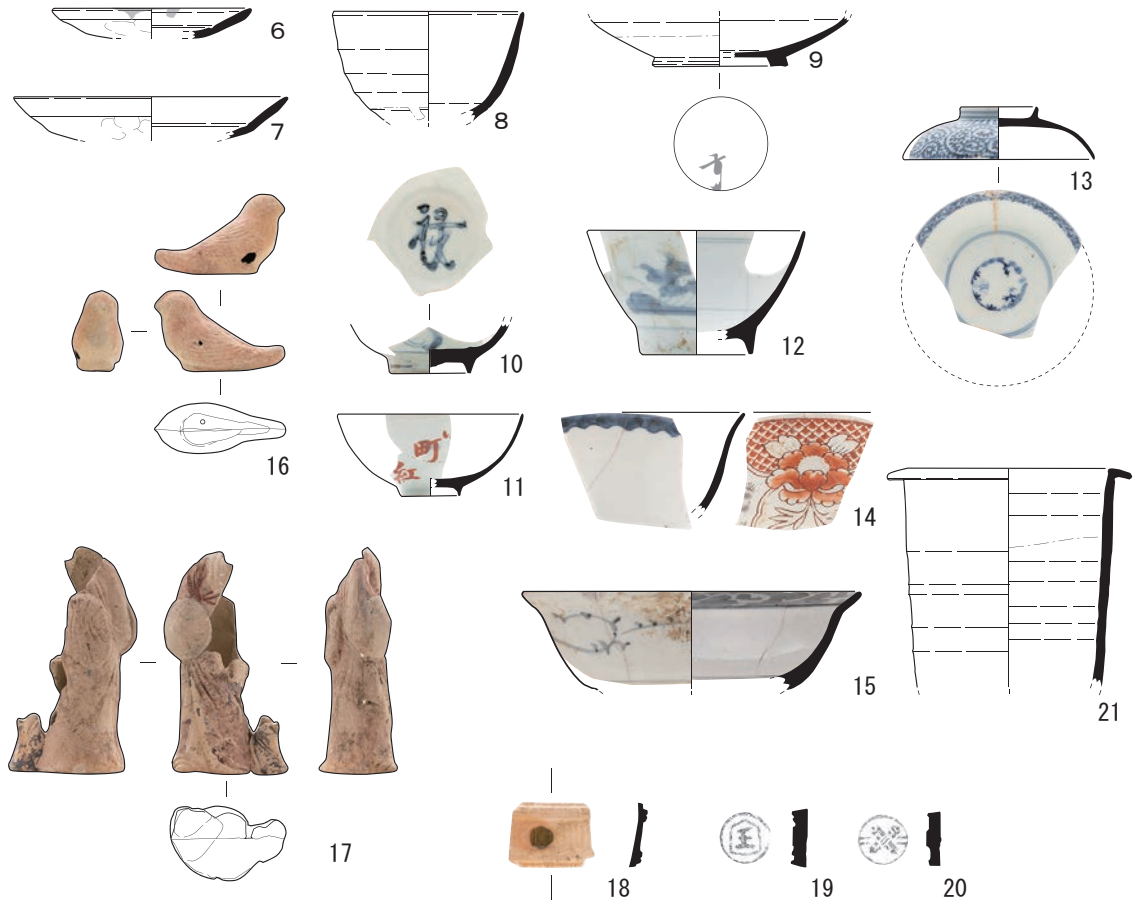


第121図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物5

S E3138

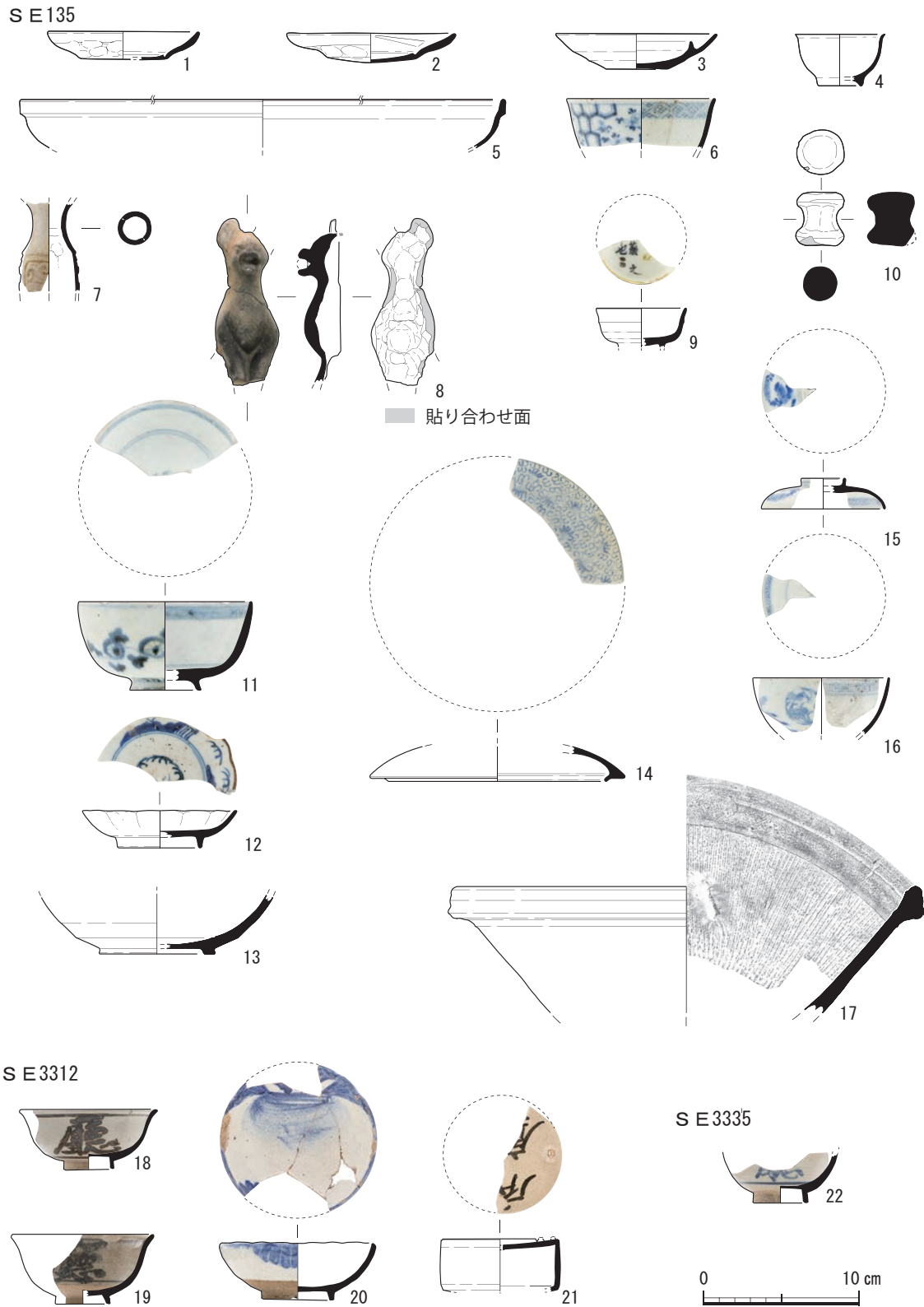


S E3154

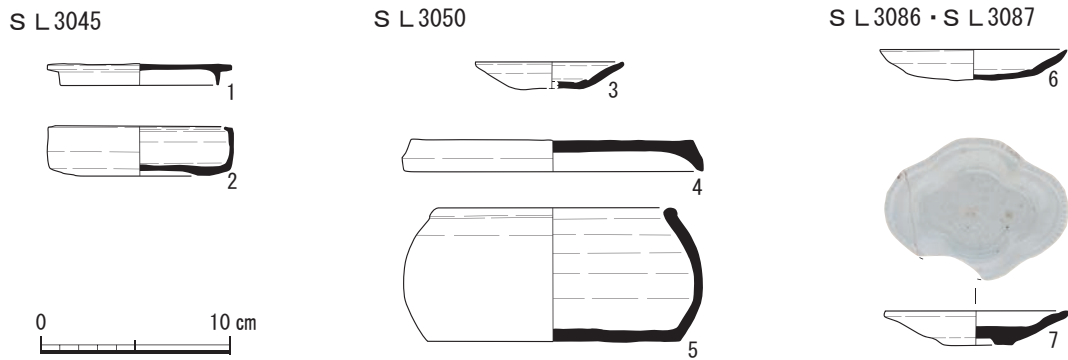


0 10 cm

第122図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物6



第123図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 7



第124図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物 8

S E 135(第123図1～17) 6は肥前磁器の椀で口縁部に四方襷、外面に花唐草、亀甲文を描く。7は磁器素地の型製品である。二枚型を合わせて成形している。9は瀬戸磁器の杯で見込みに上絵付けで「□菓之□也」と書く。15と16は肥前磁器染付の蓋と椀である。外面に丸紋で草花を描き、内面に雷文を巡らせる。被熱している。

S E 3312(第123図18～21) 18・19は京・信楽系陶器の椀で「廳」字を書く。21は京・信楽系陶器の水滴で「府廳」と書く。

S L 3050(第124図3～5) 4・5は土師質の壺である。いわゆる胞衣壺として埋められていることが多い土器であるが、カマドの燃焼部から出土していることから火消し壺として使用されている可能性がある。

S L 3086・S L 3087(第124図6・7) 7は肥前磁器の手塩皿である。ロクロ成形後に型で整形する。樹木文を表現する。

S S 07(第125図1～38) 15は肥前磁器の椀で雨降り文を描く。

S J 2040(第126図1・2) 1・2は胞衣壺の蓋と身である。蓋は型成形で離型材の雲母片が残存する。身はロクロ成形である。

S J 3052(第127図1) 1は信楽の甕である。便槽として利用され、底部に結晶物が付着する。

S K 23(第128図6～10) 10は土師質の面打である。土師皿を転用して作り出している。

S K 2055(第129図1～9) 7は肥前磁器の染付椀である。外面に楼閣山水を描く。9は中国の華南三彩の盤である。緑釉を基調に草花に黄釉を塗る。

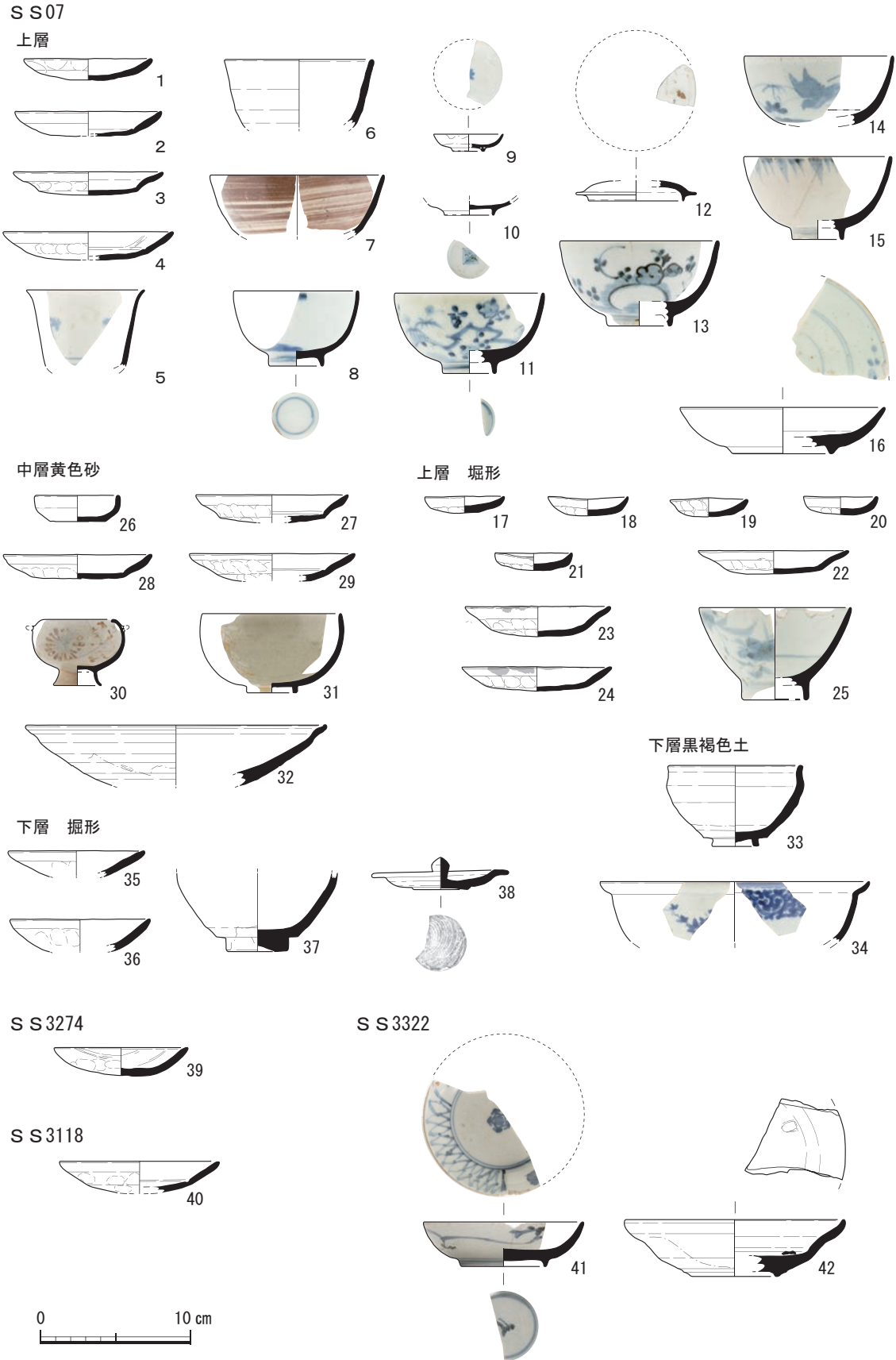
S K 2076(第129図17～21) 21は中国磁器の漳州窯系の赤絵の皿である。

S K 3172(第130図) 5は肥前磁器の染付椀でこんにゃく印判の菊文ともみじ文を付す。6は中国磁器の青花椀である。高台内に「大明成化年製」を書く。7・8は肥前磁器の皿である。見込みに蛇の目釉剥ぎを施す。9は中国磁器の小瓶である。外面に祥瑞文を描く。

S K 3325(第131図5～15) 11は板作りの施釉陶器で鬢水入れである。14は肥前系の赤絵鬢付油壺である。

S K 3264(第131図16～23) 19は肥前磁器の染付椀で松と雲を型紙刷りで表現する。

S K 3272(第132図1～10) 7は京焼の椀で任意で緑釉を掛けた後に余白に透明釉を掛ける。



第125図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物9

また見込みに白釉で梅花を描く。梅花と緑釉と透明釉の境に赤絵で縁取りする。10は中国磁器の鉢で高台内に草花文、外面に鹿毛と芦毛の馬を描く。見込みに楼閣山水文が入る。

S K 3253(第132図11) 11は肥前磁器の大皿で内面に梅、竹、松を描く。外面には唐草を配し、高台内に渦福、ハリ支えの跡が残る。

S K 3291(第132図12~15) 13は花塩壺の蓋である。「深草砂川権兵衛」銘入り。14は花塩壺の身である。

S K 3426(第132図16~21) 19は京焼の椀で柳と笹の葉を上絵で描く。20は京焼の椀で外面に笹の葉の上絵、内面に「卍」字の金泥が施されるがいずれも剥落が激しい。

S K 3025(第133図1~6) 4は「仁清」銘の入る陶器である。5は土師質の小鉢で内外面に墨書で蓮華のような模様が描かれる。

S K 3282(第133図7~18) 13は肥前磁器の椀で外面に野菜文を描く。いわゆる初期伊万里である。16は肥前の京焼風陶器で見込みに山水文、高台内に「柴」銘が入る。18は九州系の陶器鉢で緑釉を基調に鉄釉を付して刷毛目が入る。

S K 2041(第134図) 9は肥前磁器の椀で口縁を輪花、外面に花唐草を描く。

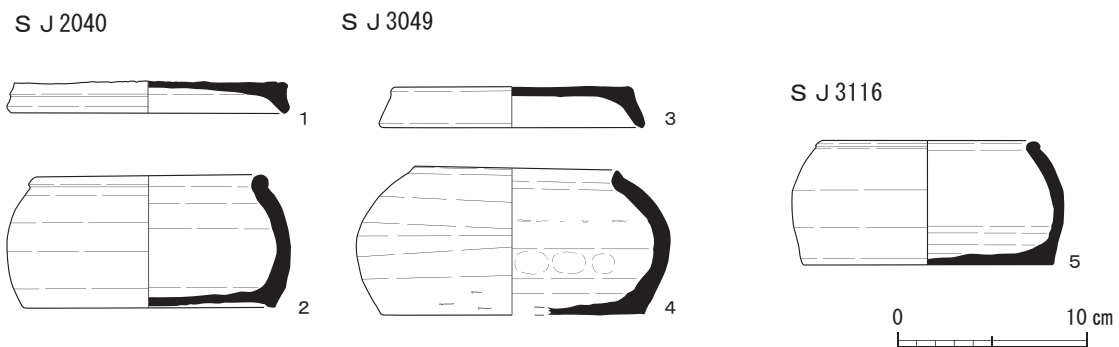
S K 2042(第135図) 5は肥前磁器の皿で菊御紋付である。市松を徒紋に菊御紋を重ね、散らす。8は肥前磁器の蓋で外面に雲を描く。9は肥前磁器の椀で8とセット関係である。10は肥前磁器の大皿で見込みに松竹梅、口縁部に花唐草、外面に唐草文を描く。

S K 2015(第136・137図) 第137図13は肥前磁器の蓋である。14は肥前磁器の椀である。13とセット関係にある。

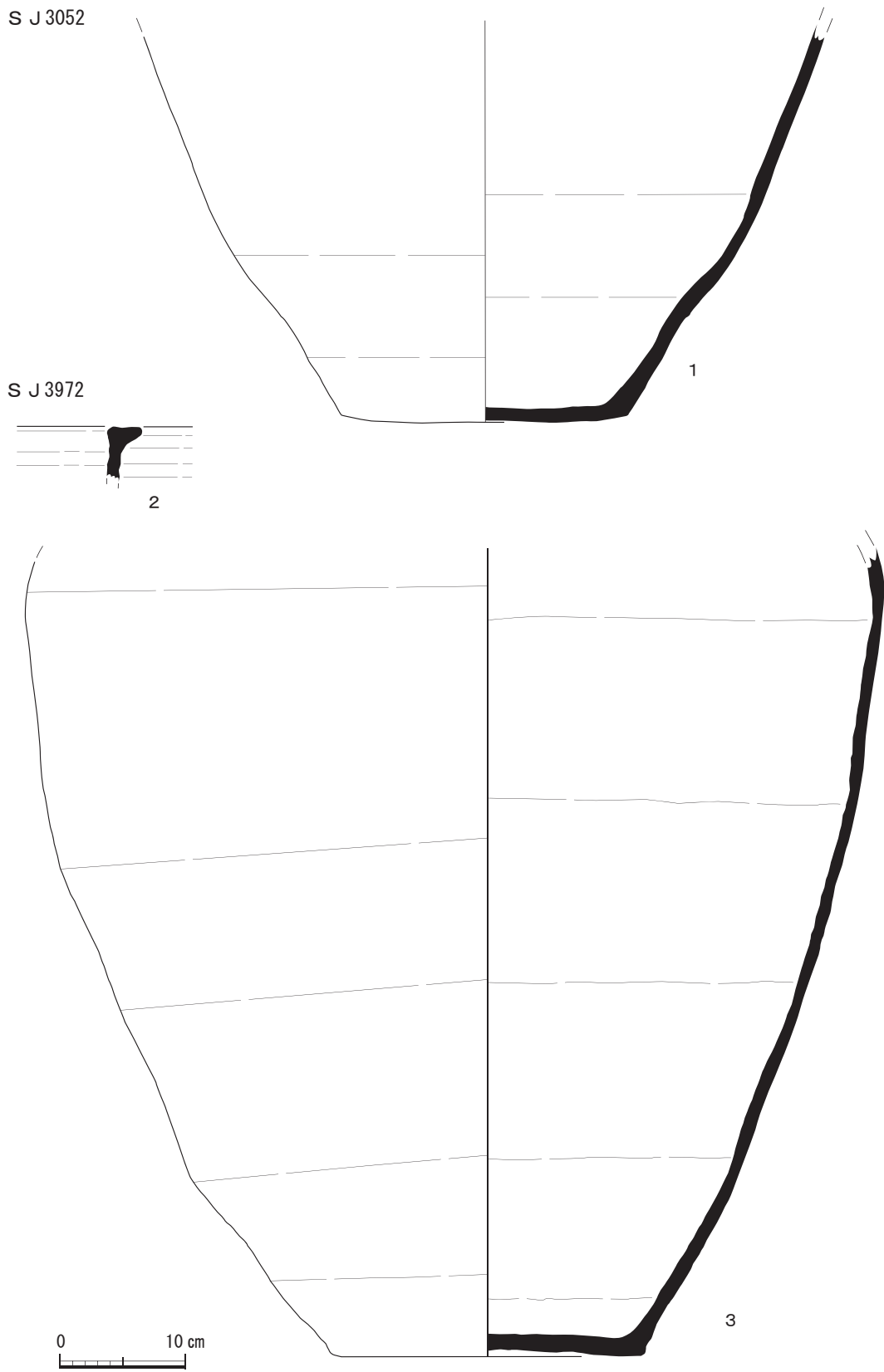
S K 2048(第138図1~19) 10は泥面子である。小判紋で裏面に墨書「や」が書かれる。18は肥前磁器の望料椀で外面に七宝、見込みに組香紋を描く。

S K 3109(第138図23~28) 25は「暁山」銘入りの京焼陶器である。褐釉を掛けている。「暁山」は青蓮院宮栗田口御所御用の職人に与えていた銘で19世紀前半から見られる。26は京都磁器の杯で見込みに金泥で木瓜紋、高台内に「周平之造」の朱が入る。周平は高橋道八の三男である江戸後期の陶工尾形周平のことと考えられる。

S K 3035(第139図1~9) 9は肥前磁器の灯芯押さえの人形である。底部と背面に穴が開

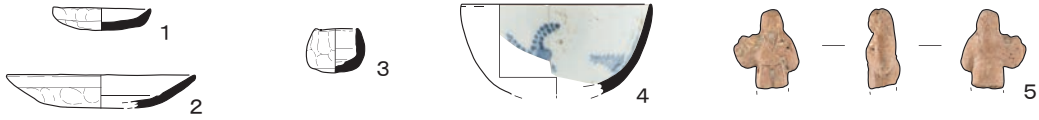


第126図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物10

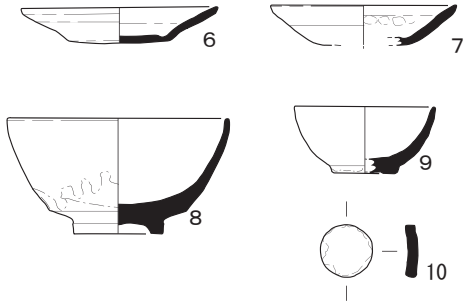


第127図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物11

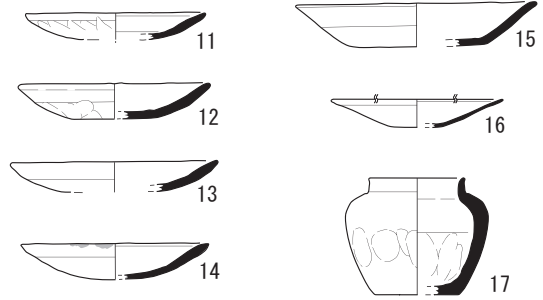
S K06



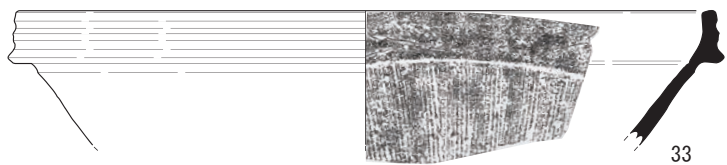
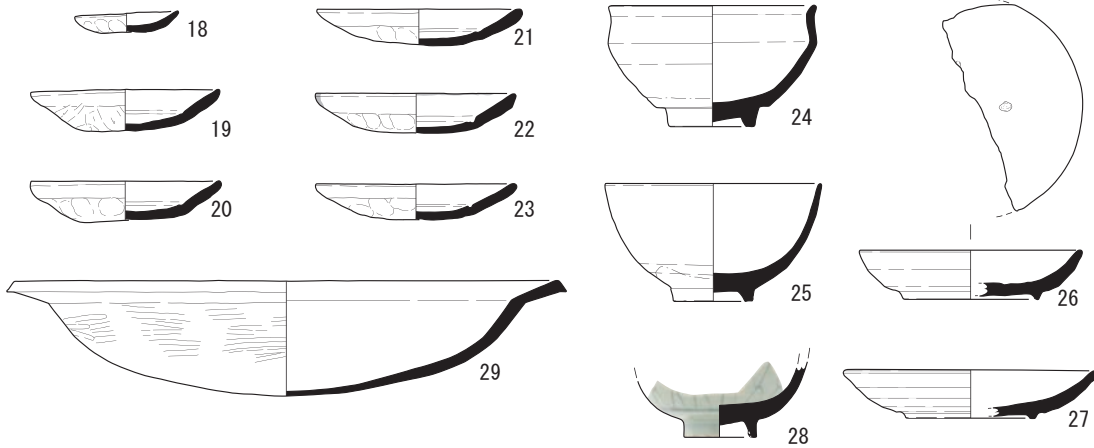
S K23



S K27

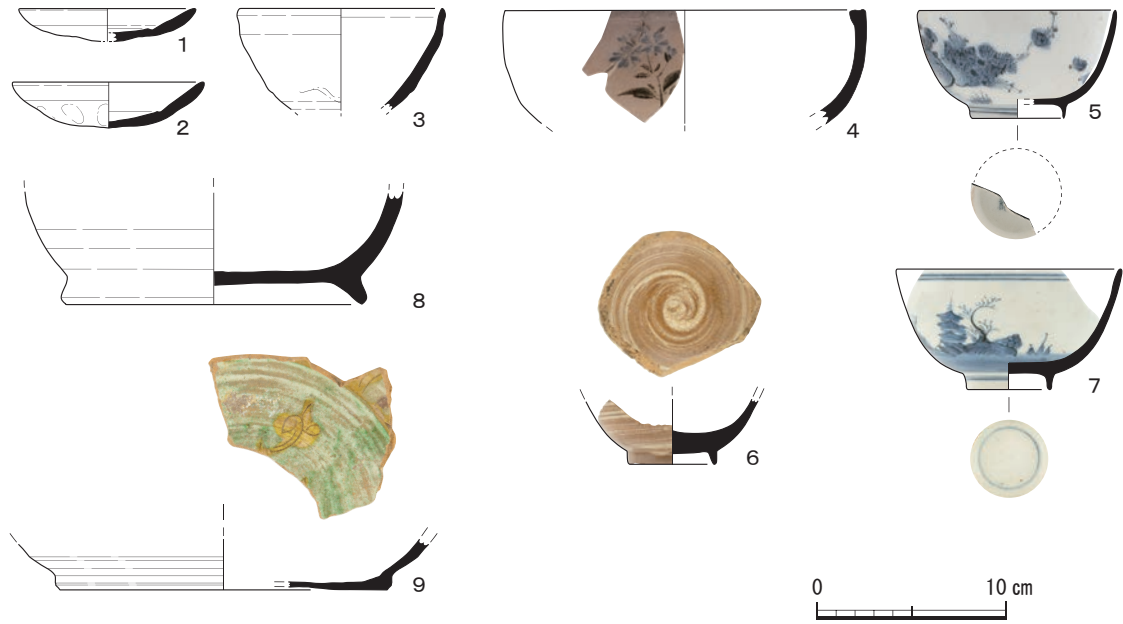


S K50

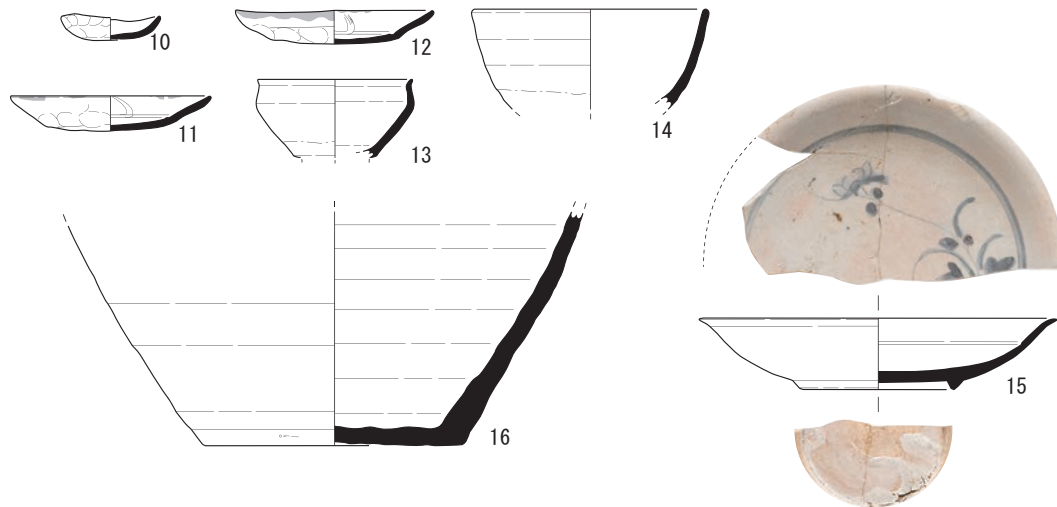


第128図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物12

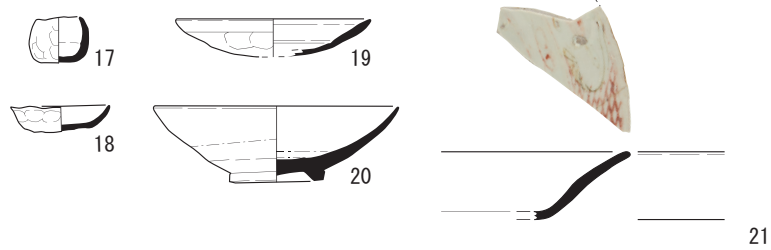
S K2055



S K2059

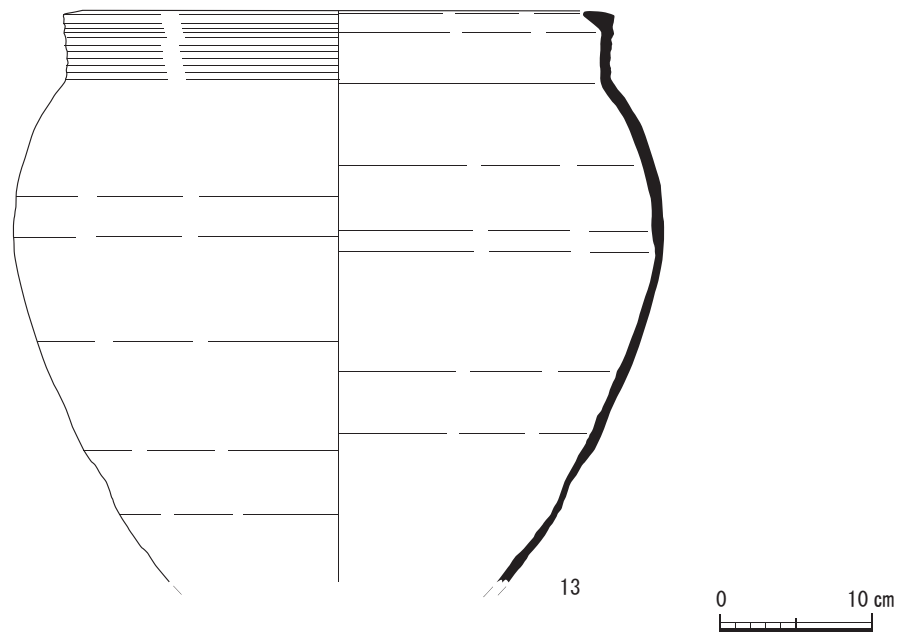
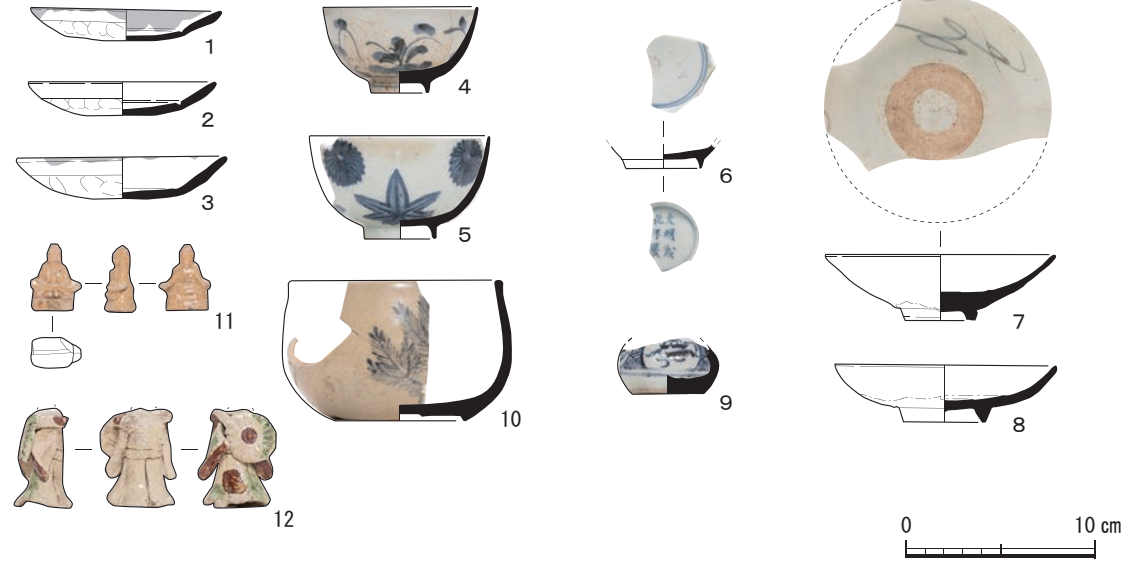


S K2076

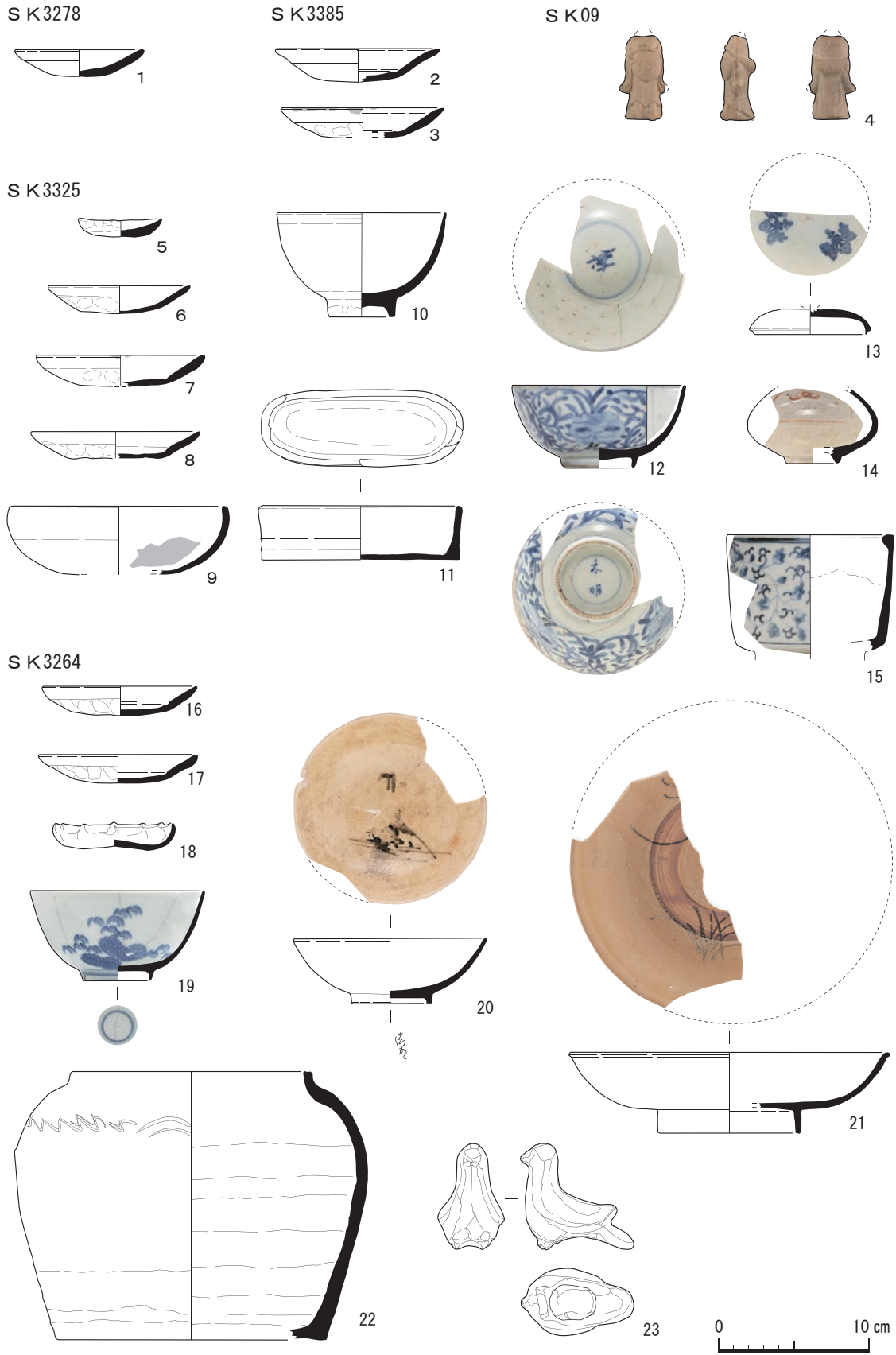


第129図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物13

S K3172

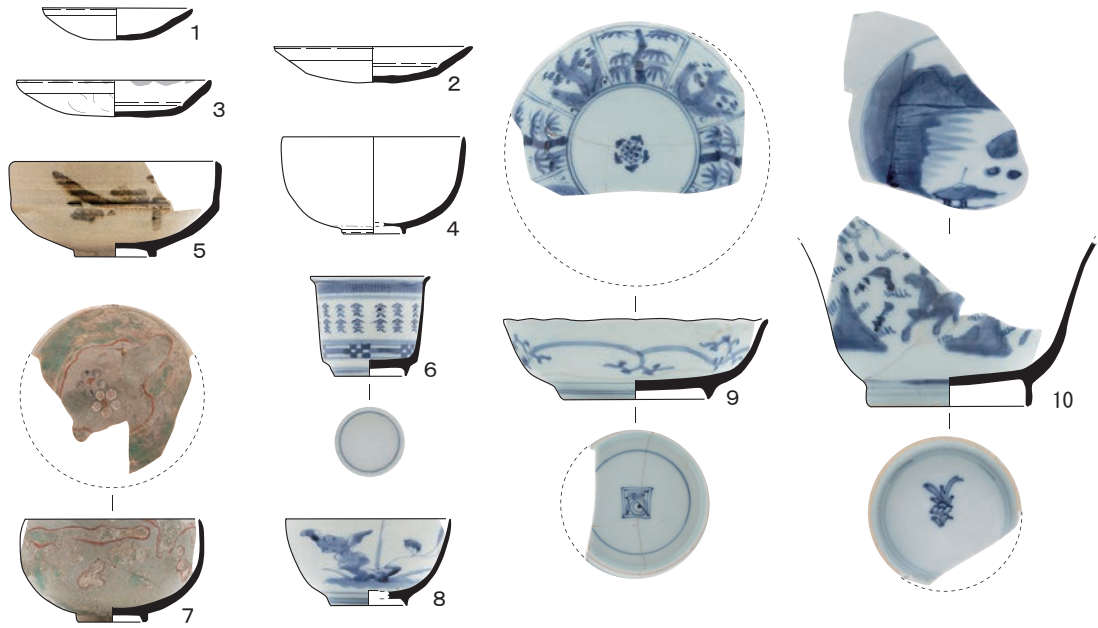


第130図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物14

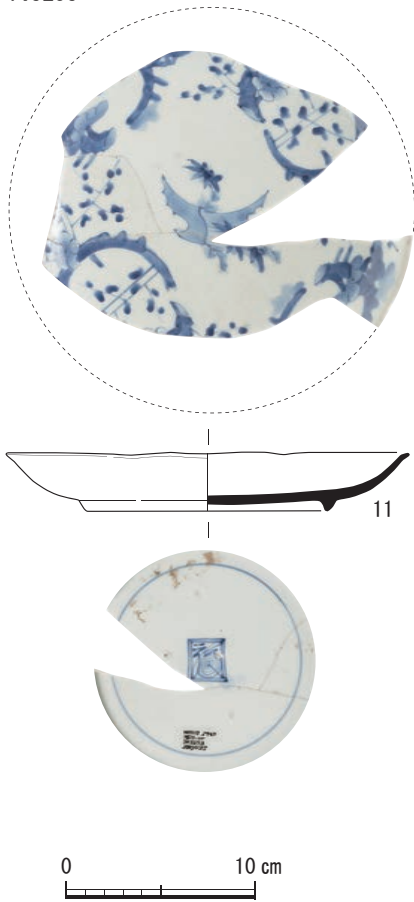


第131図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物15

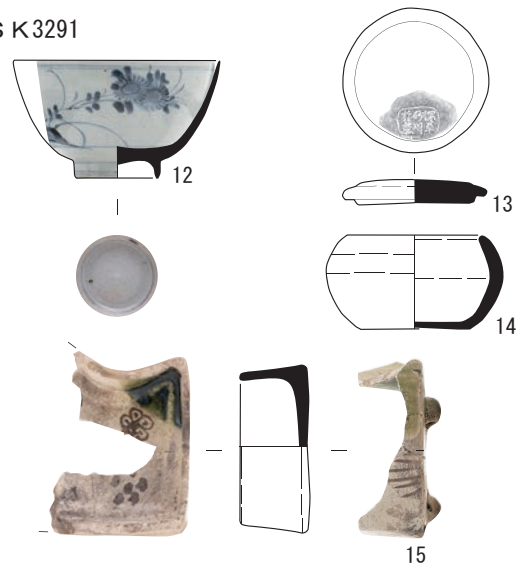
S K3272



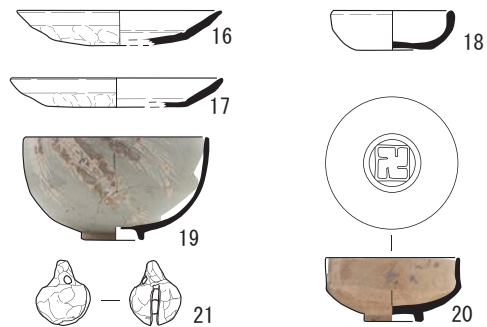
S K3253



S K3291

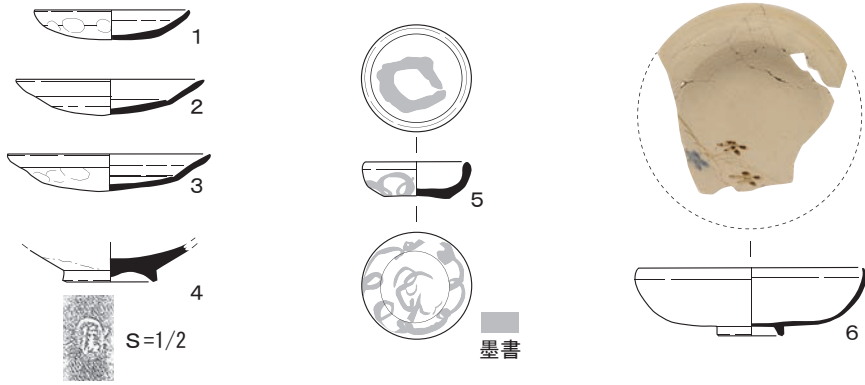


S K3426

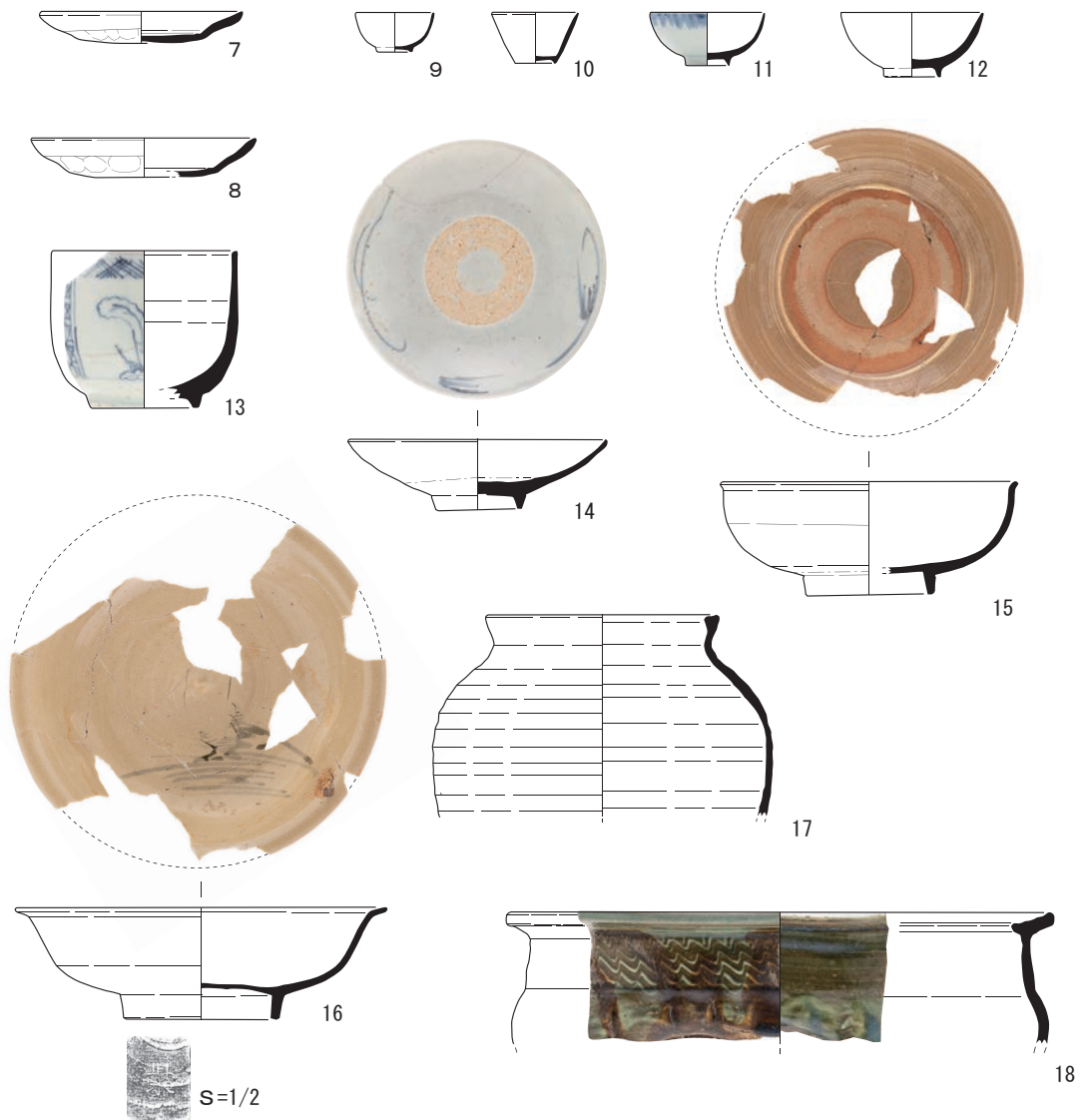


第132図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物16

S K3025



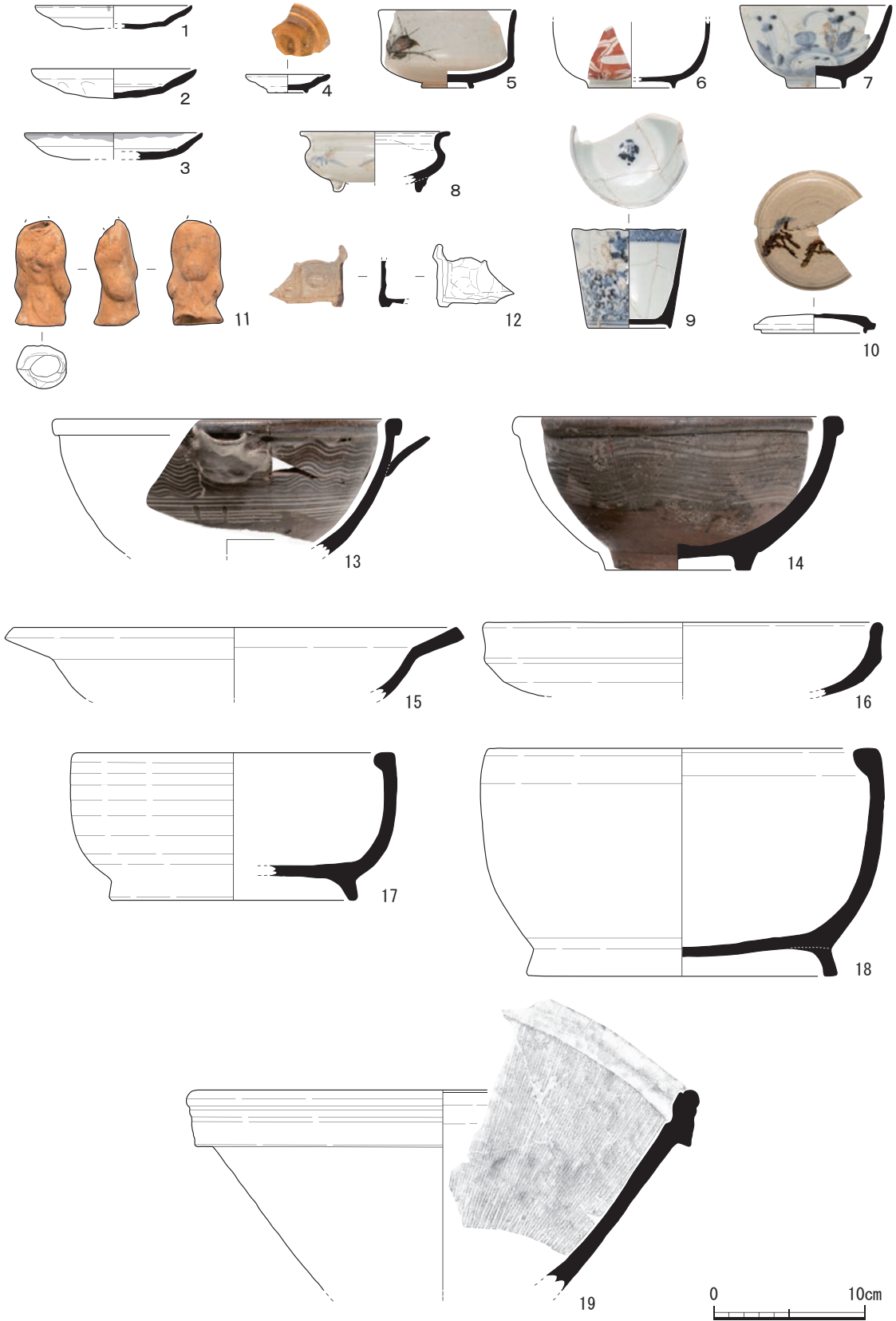
S K3282



0 10 cm

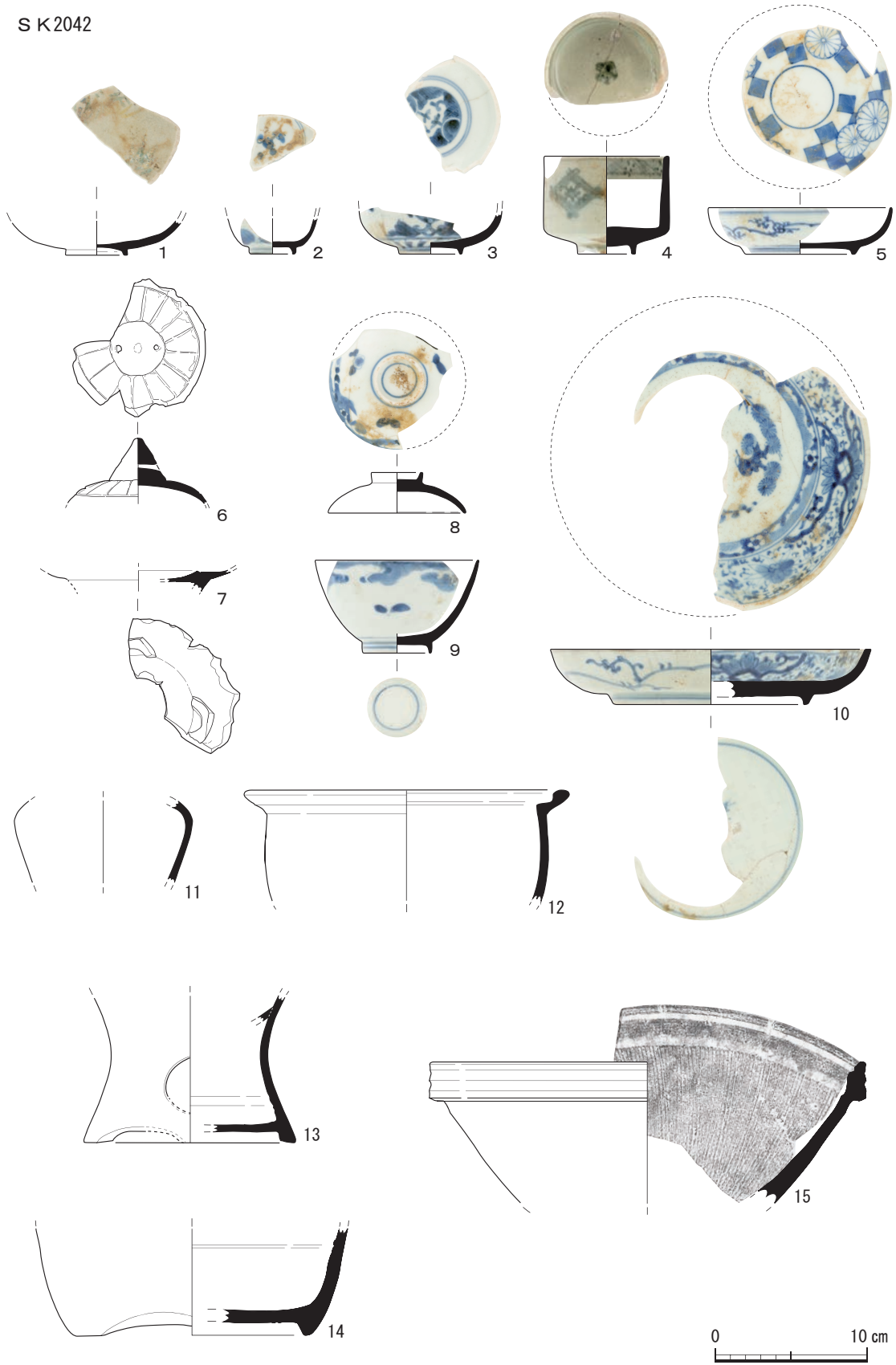
第133図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物17

S K2041



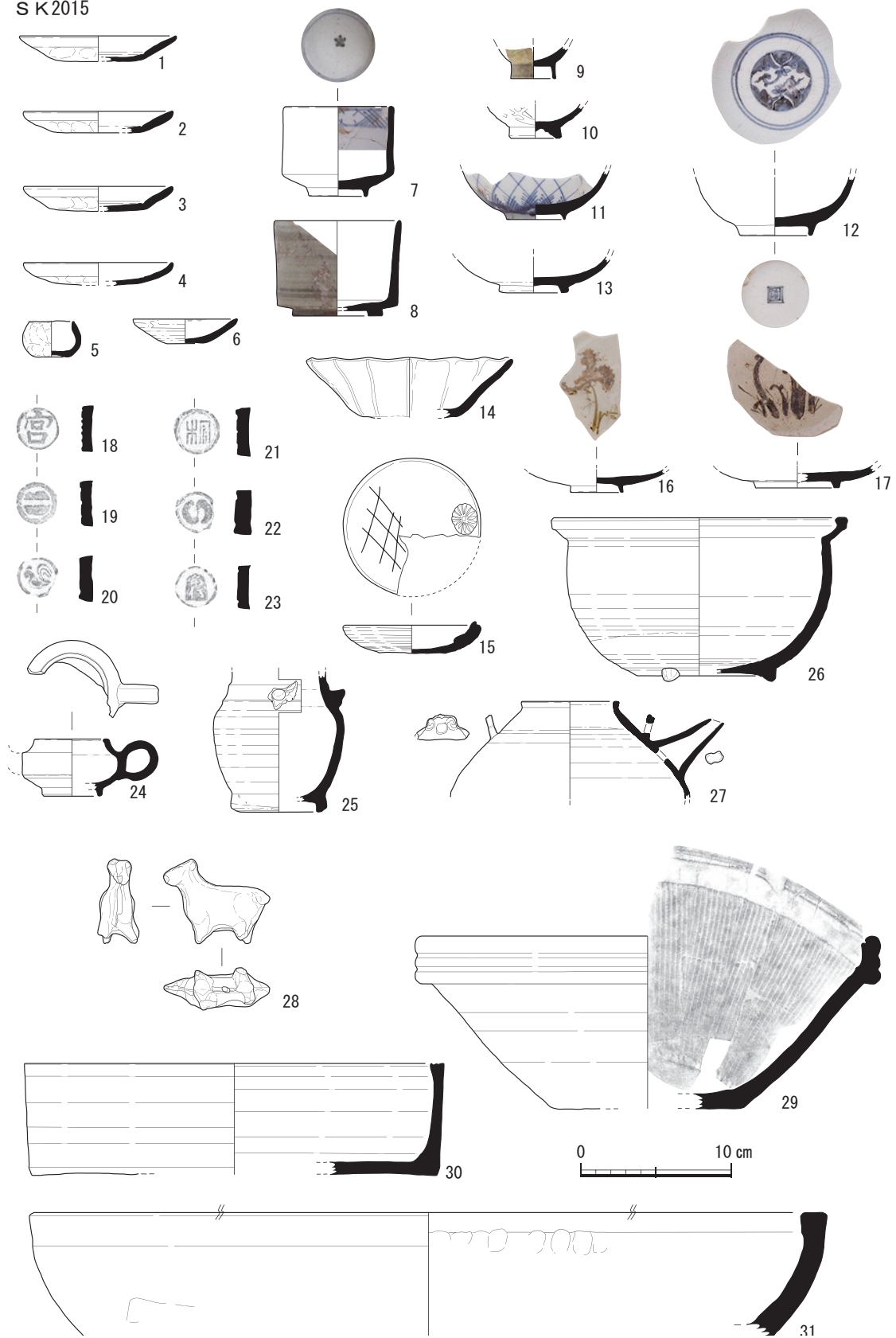
第134図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物18

S K2042



第135図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物19

S K 2015



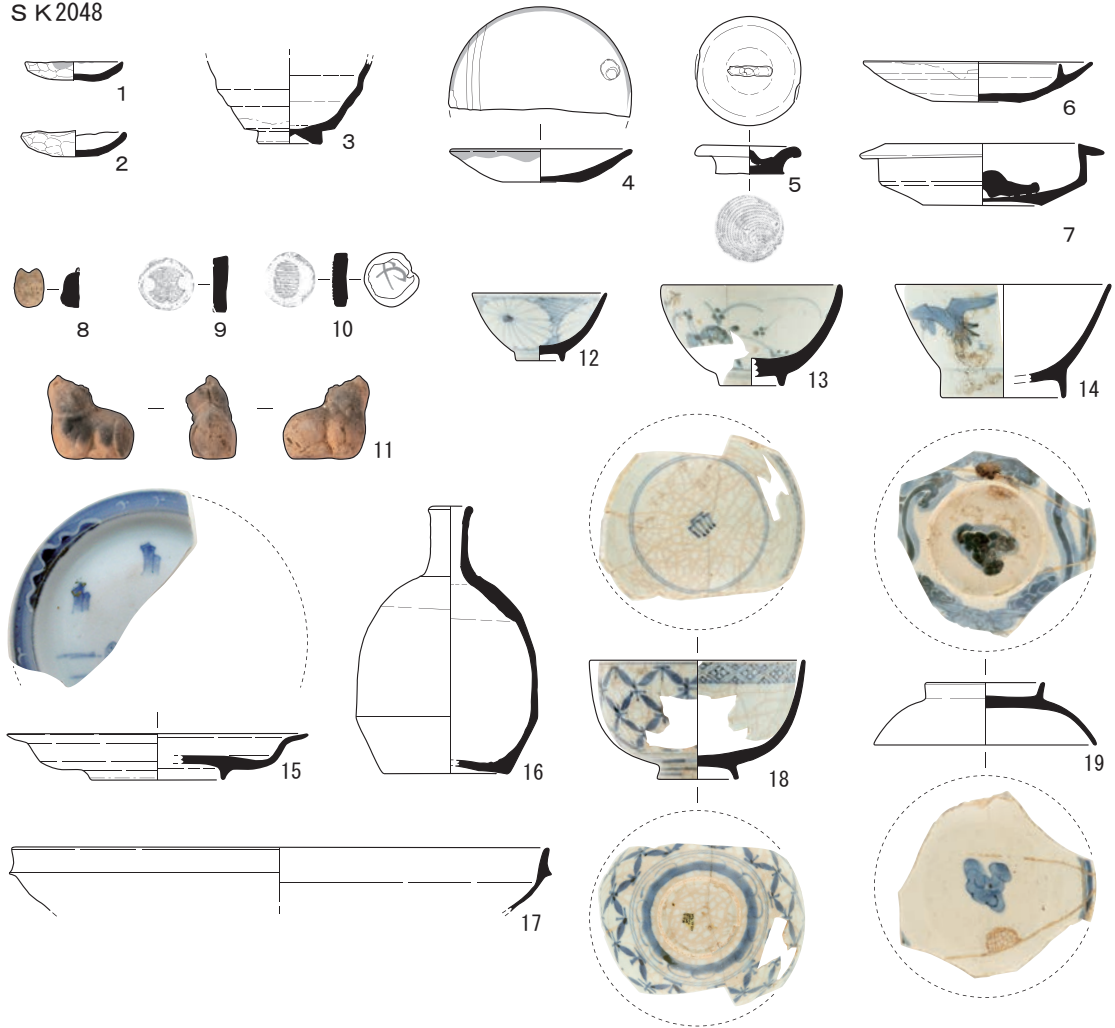
第136図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物20

S K2015



第137図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物21

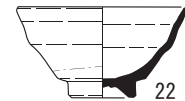
S K2048



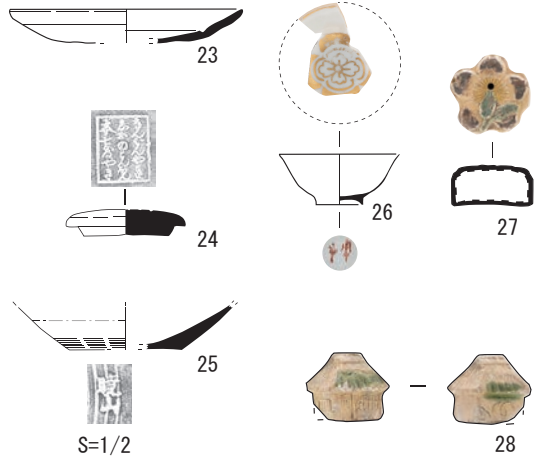
S K10



S K3100



S K3109



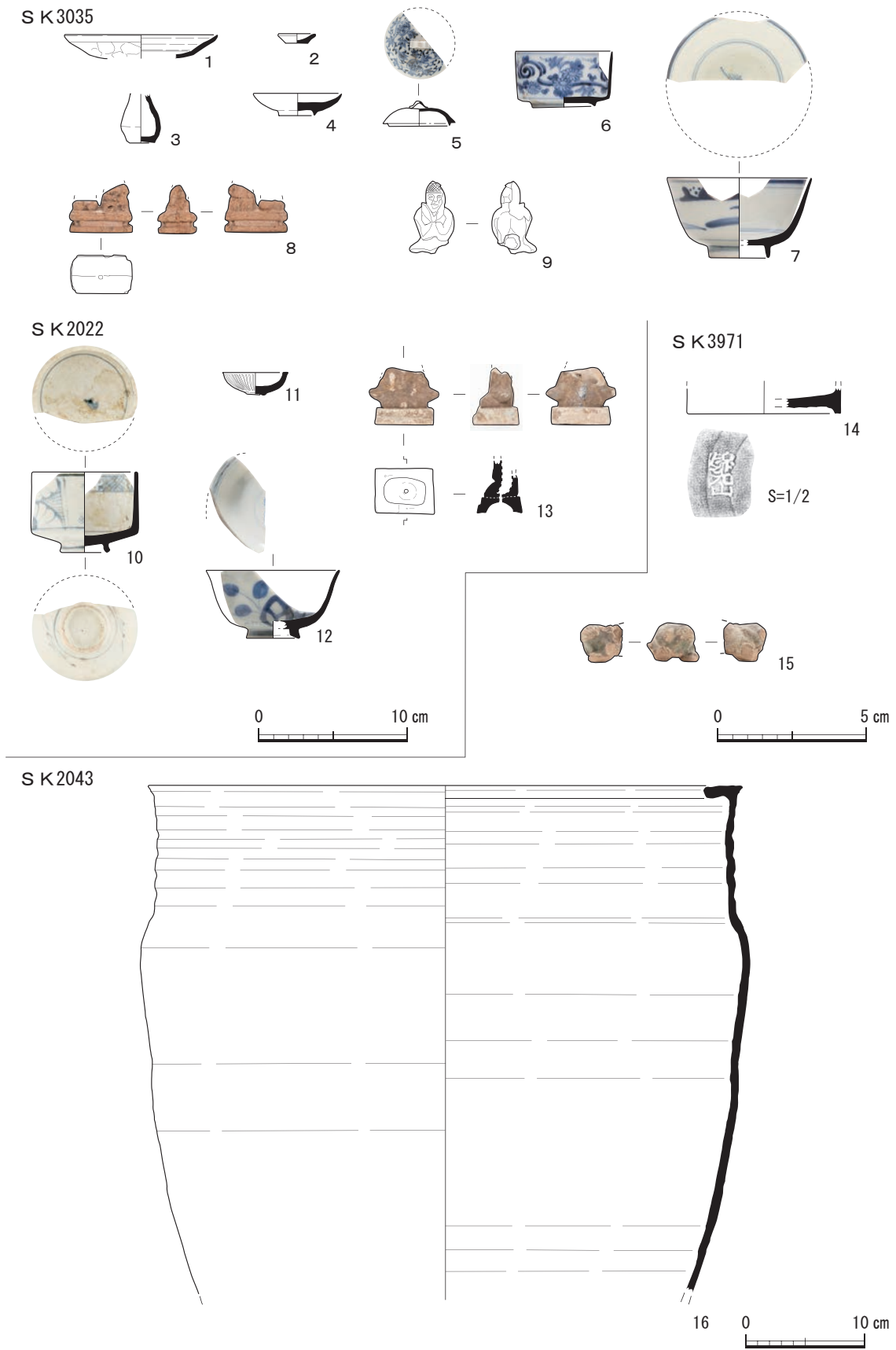
S K3003



S=1/2



第138図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物22



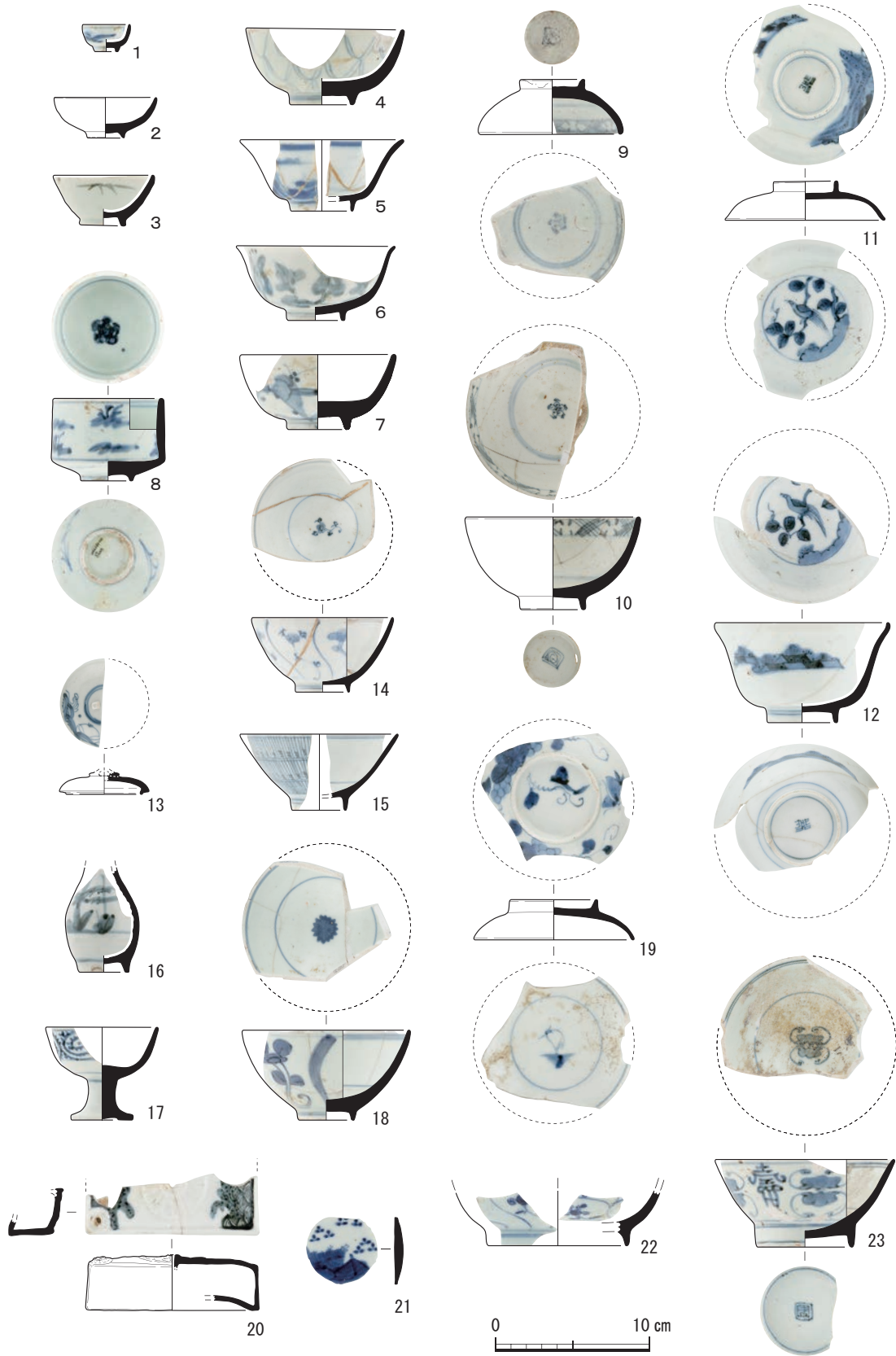
第139図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物23

S K05



第140図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物24

S K05

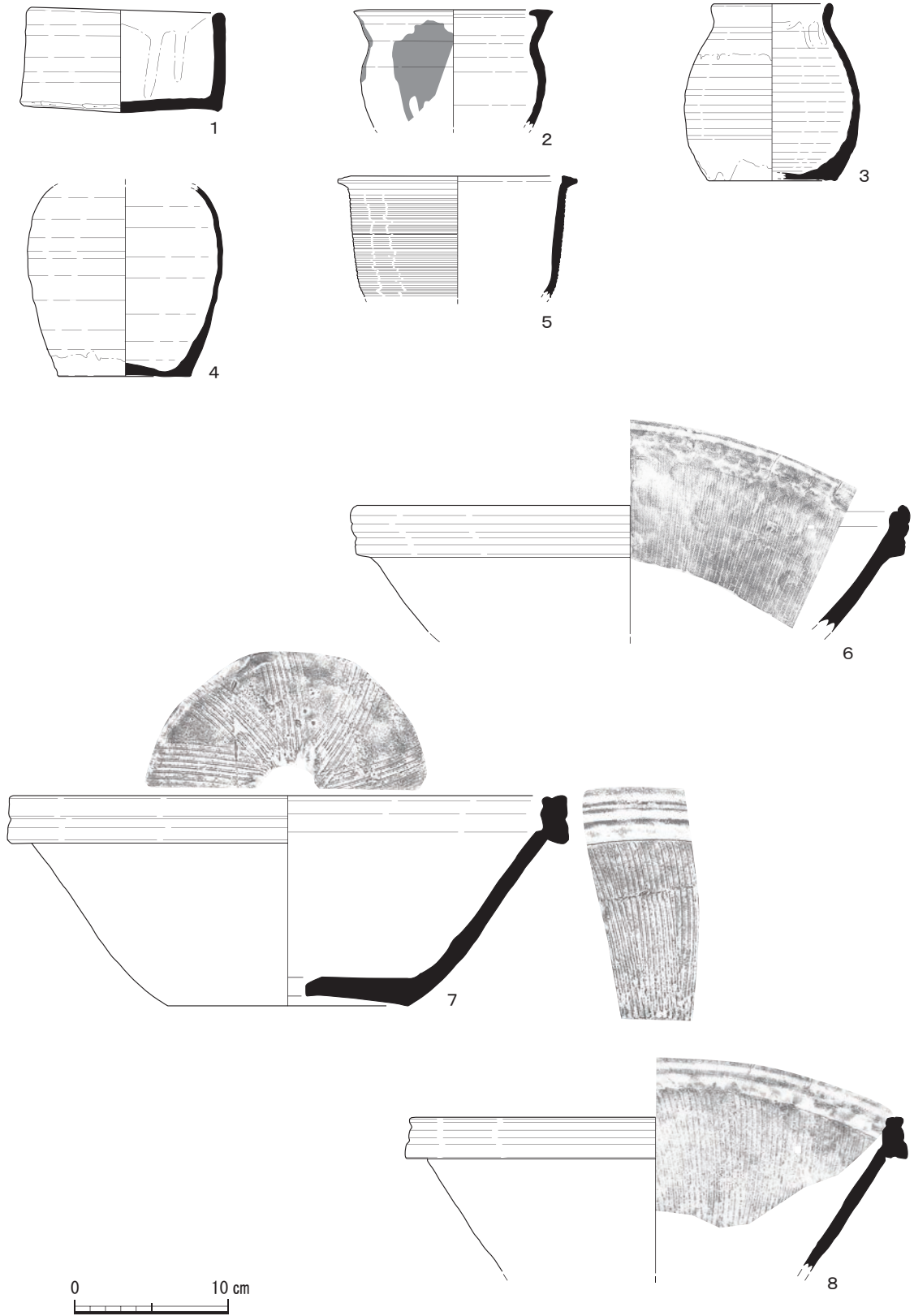


第141図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物25



第142図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物26

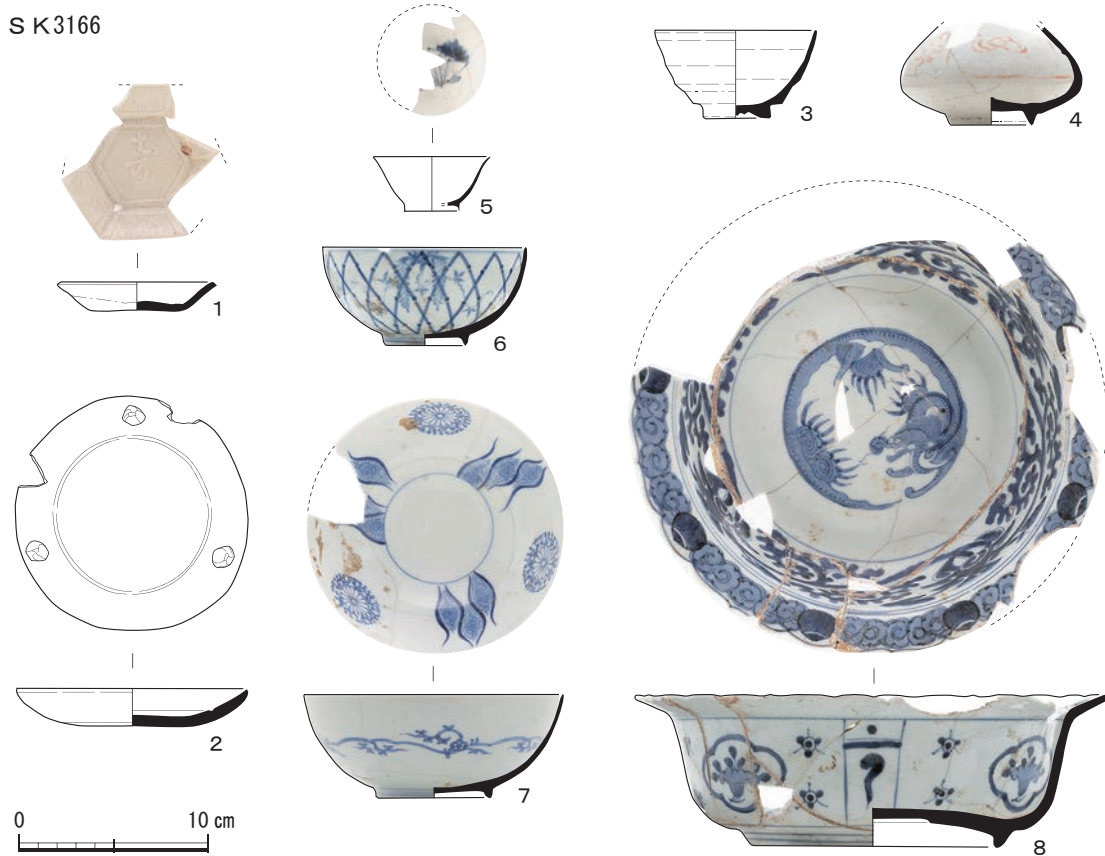
S K05



第143図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物27



第144図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物28



第145図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物29

く。頭部は無釉である。頭部のみ型抜きしており、体部は手びねり成形である。

S K 2022(第139図10～13) 13は土製品の人形である。天神を模しており、人形は二枚型成形、台は別付けで型成形である。

S K 3971(第139図14・15) 14は京焼の陶器である。筒型で白釉を外面に掛ける。底部に「錦光山」銘が入る。錦光山は宝暦5(1755)年以降幕府の御用茶碗や禁裏御用品を焼いた陶家である。15は土製品の人形で獅子を模している。二枚型で前脚などは別付けである。

S K 05(第140～143図) 第140図23は土製品の人形である。鳩を模しており、底部に亀甲で囲われた「亀」印が入る。亀在印は欽古堂亀祐関係の焼物と考えられる。第141図11・12は肥前磁器の蓋と碗である。組み物で見込みに野鳥を描く。14は肥前磁器の碗である。外面に靈芝文を描く。焼き継ぎされている。21は面打である。肥前磁器を打ち欠けて円形に加工している。22は中国磁器の鉢である。靈芝文を内外面に描く。第143図7は堺・明石系の播鉢である。底部に二次加工の穴が開けられており、植木鉢として転用されたと考えられる。

S K 3004(第144図1・2) 1は京焼の土瓶の注ぎ口である。陶胎染付で白化粧をして呉須で模様を描く。「道八」と書かれている。2は中国宜興窯の急須である。底部に「花間□□月下侶吟」と刻印が施される。いわゆるパンパン技法で作成されている。

S K 3022(第144図3・4) 3は菊御紋付の肥前磁器の碗の破片である。

S K 3103(第144図5～9) 5は肥前磁器の碗である。上絵にて朱朱書きで「りき本家」の文

S K3166

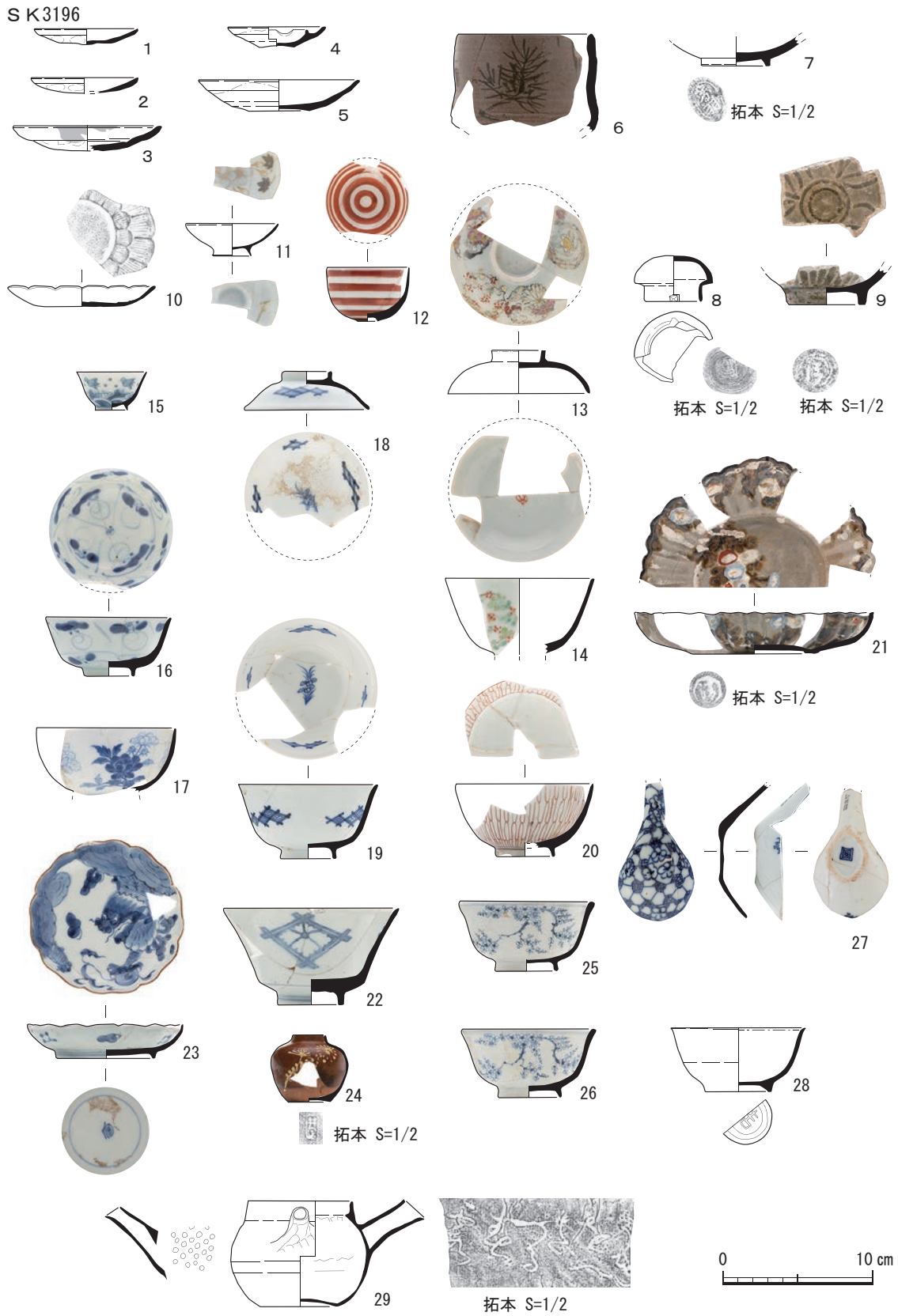


第146図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物30

字が見える。6は中国磁器である。型造りで口縁端部の釉薬を剥いでいる。釉上彩で青花を描く徳化窯の椀である。7は肥前磁器の椀である。竹垣に藤を描く。8は肥前磁器の皿である。六甲文に牡丹を三方に入れる。見込みに正円を描く。

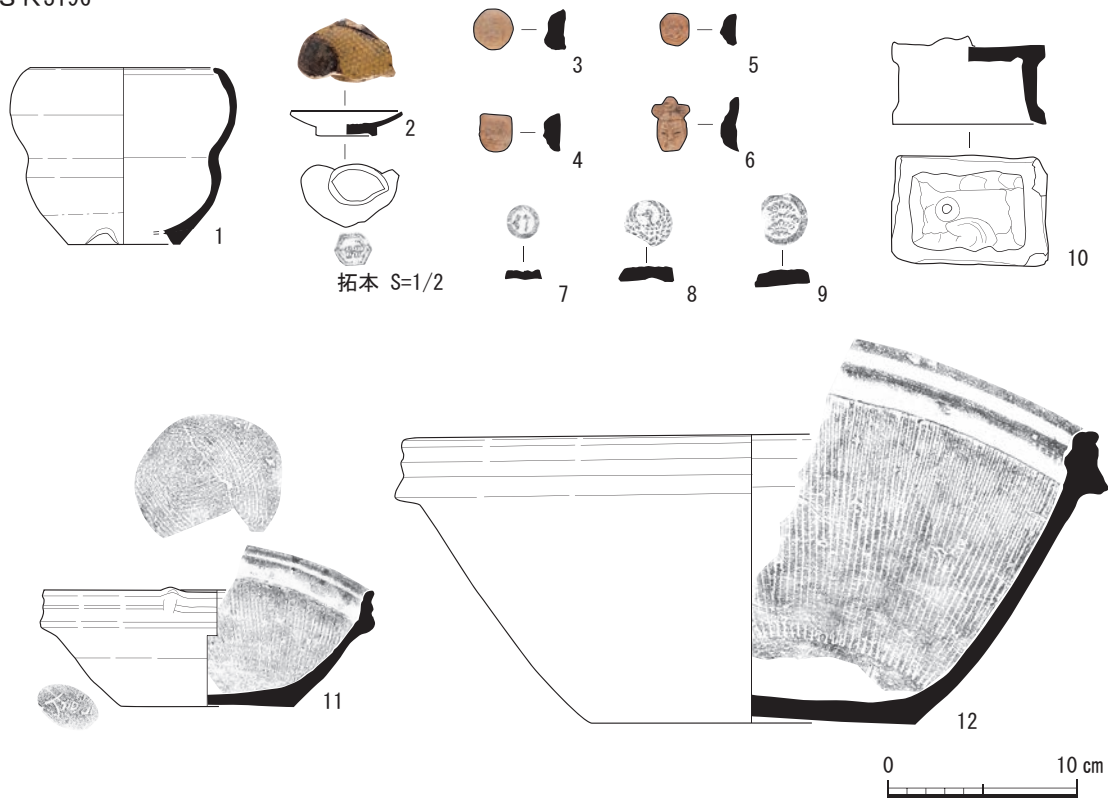
S K3108(第144図12~16) 15は瀬戸美濃陶器の椀である。いわゆる天保織部と称される焼物である。

S K3114(第144図17~28) 23は中国磁器の皿である。見込みに山水文を描き、外面に簡単な草花文を入れる。高台内に「道光年製」銘が入る。25は中国磁器の鉢である。内面の口縁部に唐草、外面に草花文を描く。26・27は京・信楽系陶器の土瓶である。26は蓋で穴が開いている。いずれも半練(はんねら)焼と称される。



第147図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物31

S K3196



第148図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物32

S K3166(第145・146図) 第145図7は肥前磁器の菊御紋付染付の椀である。見込みに光格菊紋と雲立湧が交互に三方に配される。8は肥前磁器の鉢である。見込みに龍紋を描き外周を唐草が囲う。口縁部は削り込まれ輪花状になる。第146図3は瀬戸美濃陶器の火鉢である。いわゆる「呂栄」釉を掛ける。体部を飾る唐草は型から抜き出したものを貼り付けている。火鉢の内部に墨書が残存する。

S K3196(第147・148図) 第147図7は京焼の底部である。高台内に「音羽」銘が刻印されている。京都清水で音羽屋を称する陶工が確認できることから関係があると思われる。8は京焼の蓋とみられる陶器で奥に「寶山」銘が入る。栗田焼の雲林院寶山の刻印と考えられる。9は京焼の椀である。線刻で文様を描き、底部に六甲で囲われた「清」字の刻印を持つ。21は京焼の菊花皿である。灰釉に鉄釉の塗り、白釉と赤、青の塗料で花を描く。底部に六甲に囲われた「清」字の刻印を持つ。13は肥前磁器の色絵の蓋である。丸紋で梅や菊などの文様を描く。14は肥前磁器の色絵の椀で13は14の蓋である。外面に丸紋で草花を描く。17は肥前磁器の菊御門付染付の椀である。外面に仙洞菊紋と牡丹を描いている。18は肥前磁器の染付の蓋である。四方襷を配する。19は肥前磁器の染付の椀で18は19の蓋である。内面に四方襷紋、外面に宝尽くしを描く。端反椀である。27は中国磁器の散蓮華である。型成形で内面に氷割れ梅花を描く。28は中国徳化窯の白磁椀である。口縁端部は釉剥ぎされ、高台内に文字が陽刻されている。29は連月焼の急須である。急須の上下と取っ手、注ぎ口がそれぞれ別付けで作出している。それぞれ型成形してからユビオ

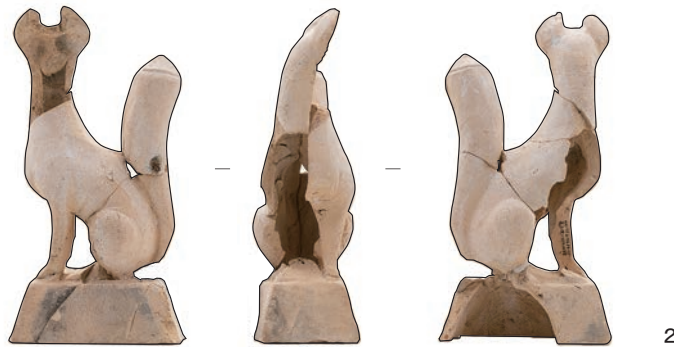
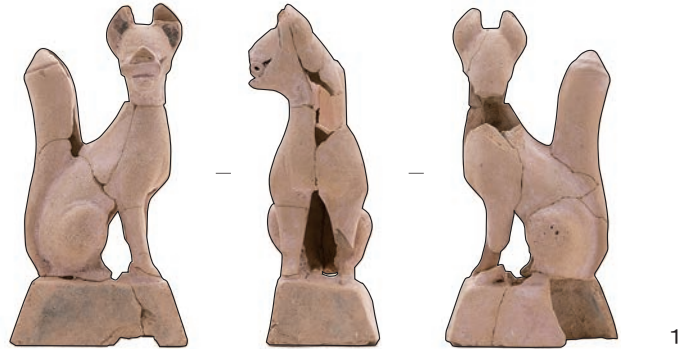
S K3053



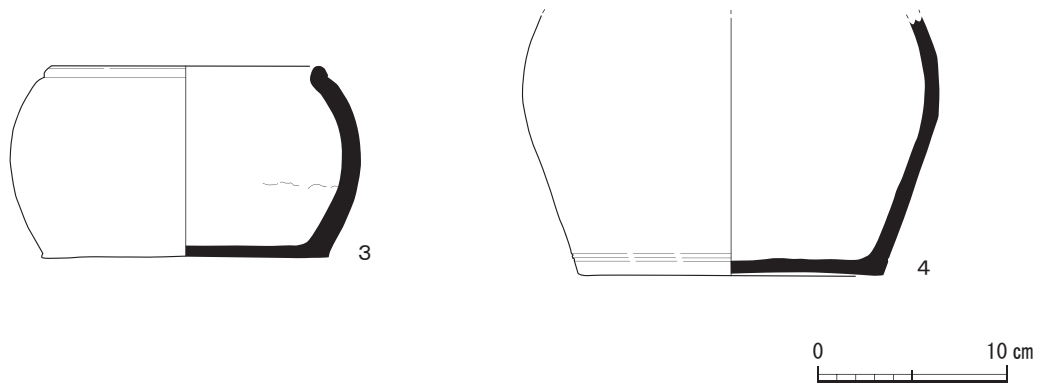
第149図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物33

サエで整形している。体部には釘書きで「うきをへたつる 春霞」と書かれている。「たつ日より 長閑になりて 世の中の 憂きをへだつる 春霞かな」の一部と思われる。第148図2は施釉陶器のミニチュアである。鯛皿を模している。鯛の顔と背びれは鉄釉、体部に黄釉を掛けている。台部と皿は別型で作らだしている。台には刻印で「亀」が刻まれ、欽古堂亀祐関係の焼物と考えられる。11は堺・明石系の挿鉢で外面の底部付近に「入喜」と刻印され「△□□□」と墨書が残存する。

嘉永の焼土



3区南東部壁面



第150図 江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物34

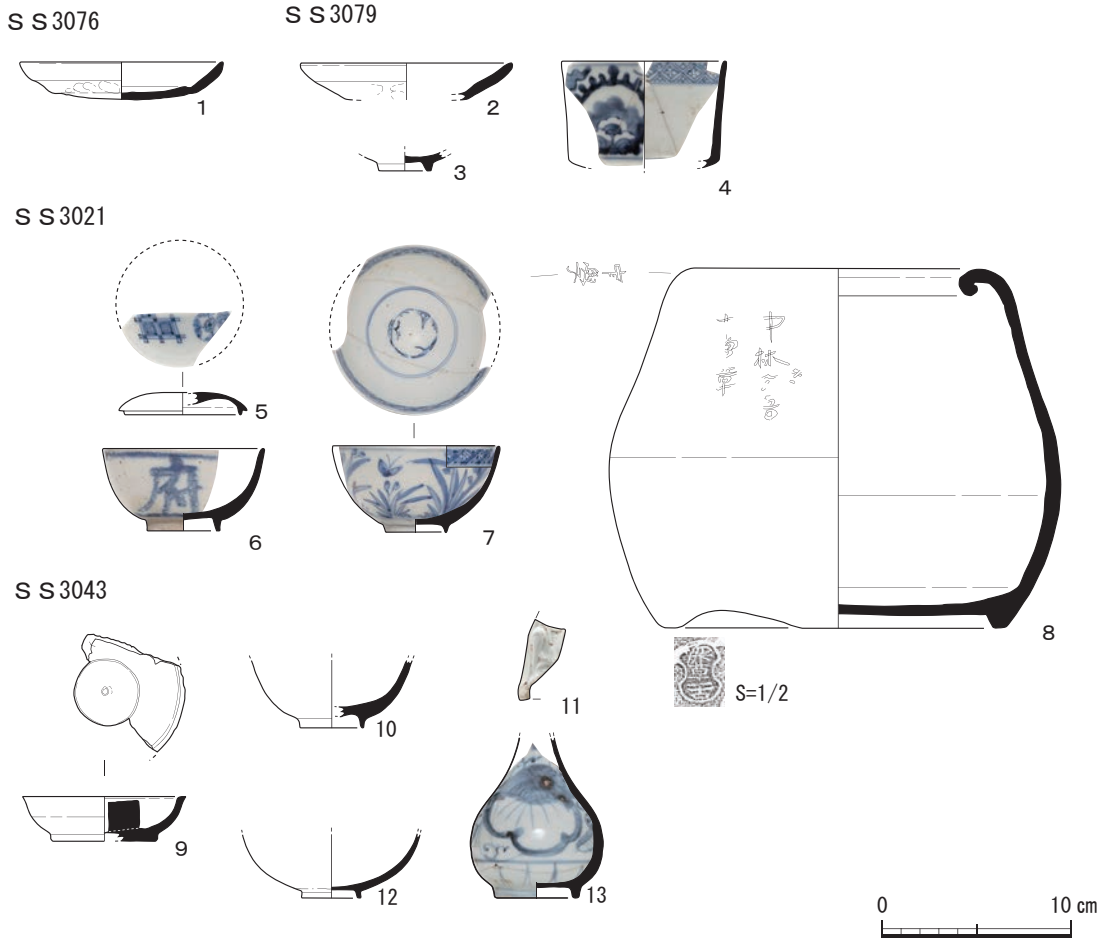
S K 3053(第149図) 13は京都磁器の蓋である。14の蓋と考えられる。14は京都磁器の急須である。ロクロ成形で外面に楼閣山水を描き底部付近に「※○」が連続する。15は肥前磁器の皿で三方に牡丹を描き余白に亀甲文が入る。16は肥前磁器の皿で三方に四方擲、余白に野菊などの野草を描く。18・19は中国磁器の散蓮華である。型成形で内面に氷割れ梅花を描く。

嘉永の焼土(第150図1・2) 1・2はともに土製品の人形で稲荷狐である。1は鍵をくわえている。いずれも二枚型成形である。腹部あたりの余剰粘土は切除し、開口する台の上部は別の粘土を充てて開口部を埋めている。1は胡粉に朱を混ぜた塗料で塗られ桃色を呈し、2は胡粉で塗られ白色を呈する。町家に祀られた稲荷社の眷属であると考えられる。

3区南東部壁面(第150図3・4) 3は土師質の壺である。3は4を切るようにして埋設されていた状況から胞衣壺と考えられる。4は土師質の壺である。3に切られる埋設された壺で胞衣壺の可能性はある。

(5)近代の遺物

S S 3021(第151図5～8) 8は深草の手あぶりである。外面に細かなミガキを施す。底部に瓢箪形の囲みに「深草吉」の刻印が入る外面には線刻で「中林□吾」「古宮章」、後円部に「中学」字が入る。



第151図 近代(中学校)の出土遺物 1

S S3043(第151図9~13) 9は土師質の燭台である。ロクロ成形の鉢内に円筒の中央部に穴が開く。11は肥前磁器の赤絵人形である。二枚型成形の一部が出土した。

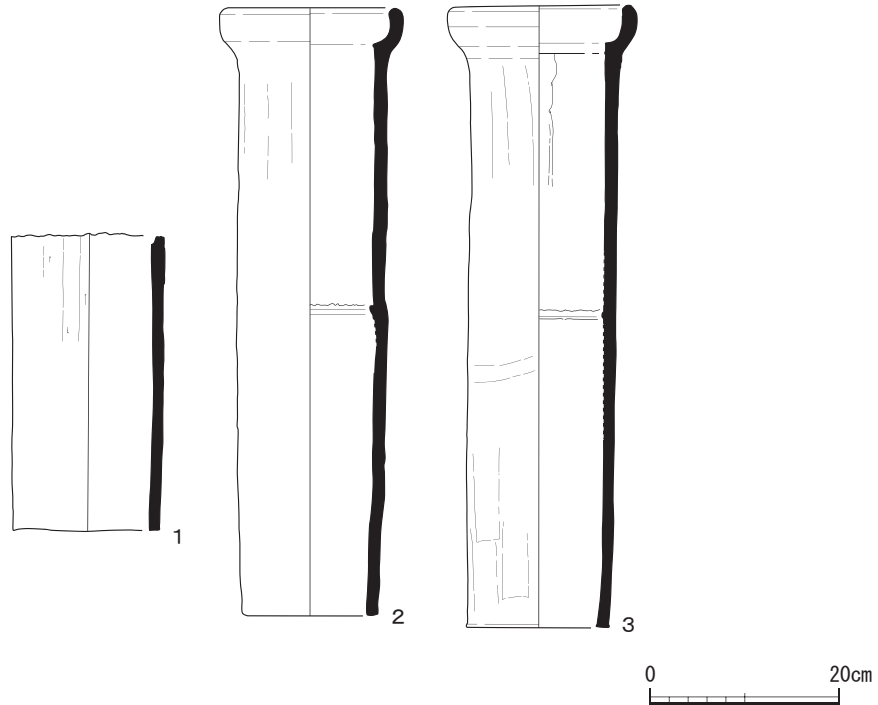
S D2014(第152図1~4) 16は素焼きの土管である。継ぎ手部分の形状から幕末ないし近代の遺物と判断できる。型成形で管の半ばに接合跡があり、かつ半円を接合した痕跡があることから4枚型と考えられる。

S K2001(第153図1~12) 6は京・信楽系陶器の蓋で裏面に「第壺課」の墨書がある。12は京・信楽系陶器の土瓶で底部に「第二課」の墨書がある。

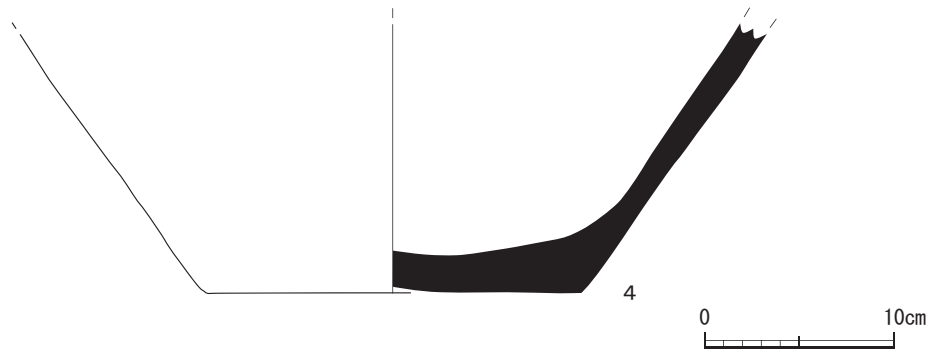
S K3044(第153図14) 14は相馬焼の椀である。内面は青磁、見込みに金彩の馬が描かれ、外面に波を表現し鉄釉を掛けている。高台内に「相馬」銘を入れる。

S K2002(第154図1~7) 6は常滑のインク瓶である。底部に円形の刻印があり中央に「M」外周に「MARUZENINK★TOKYO★」と入る。底部に「M」刻印が入る。7は陶器瓶である。ロクロ成形で外周に線刻して文様を表現し、肩部に渦文を描く。二耳であるが一つは欠

S D2014

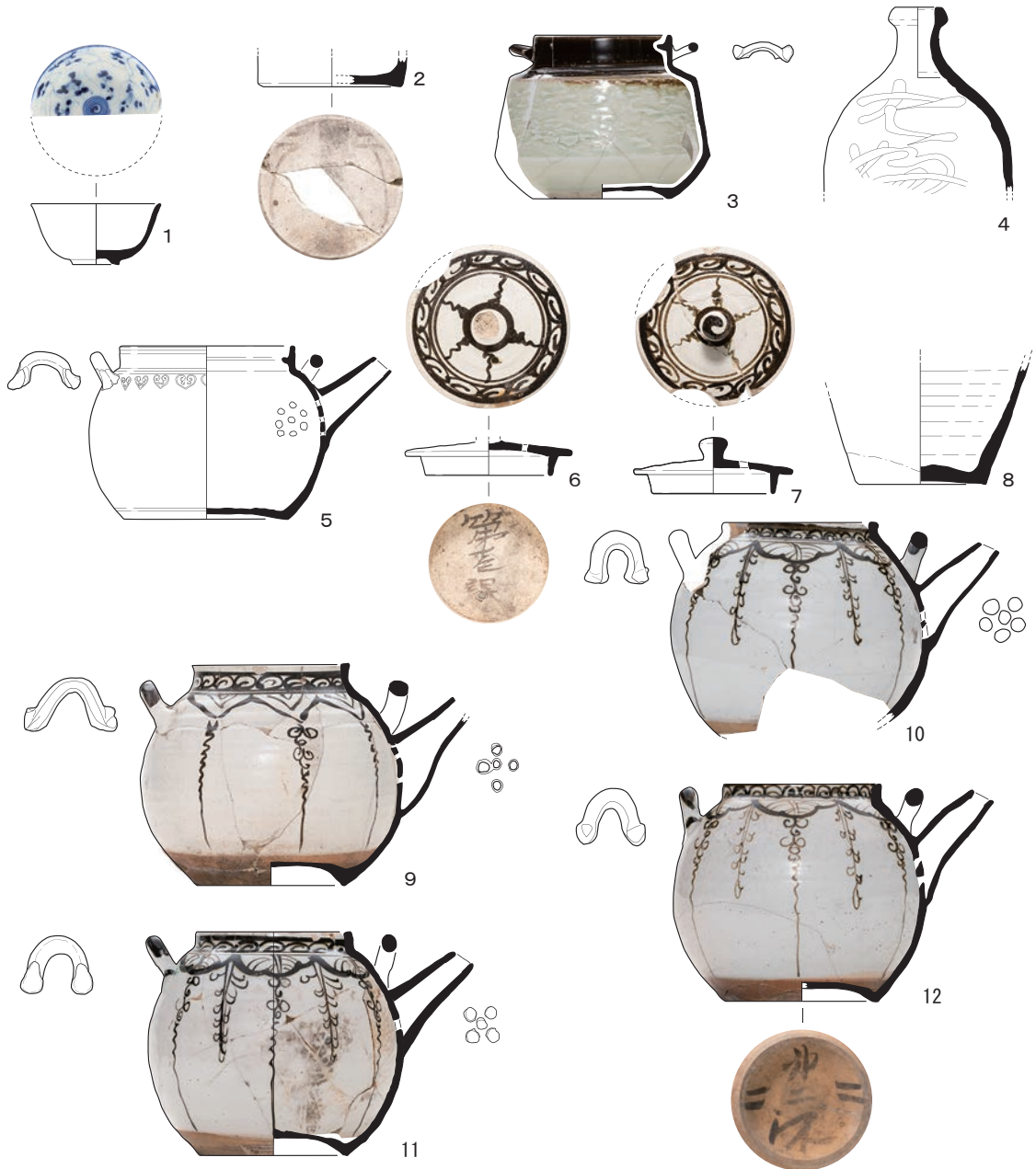


S J3028



第152図 近代(中学校)の出土遺物2

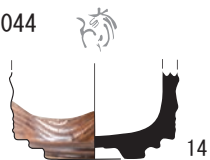
S K2001



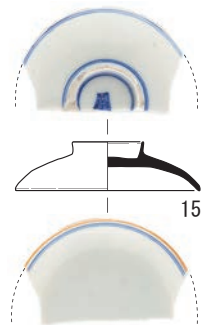
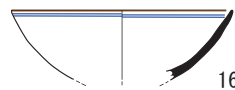
S K2018



S K3044



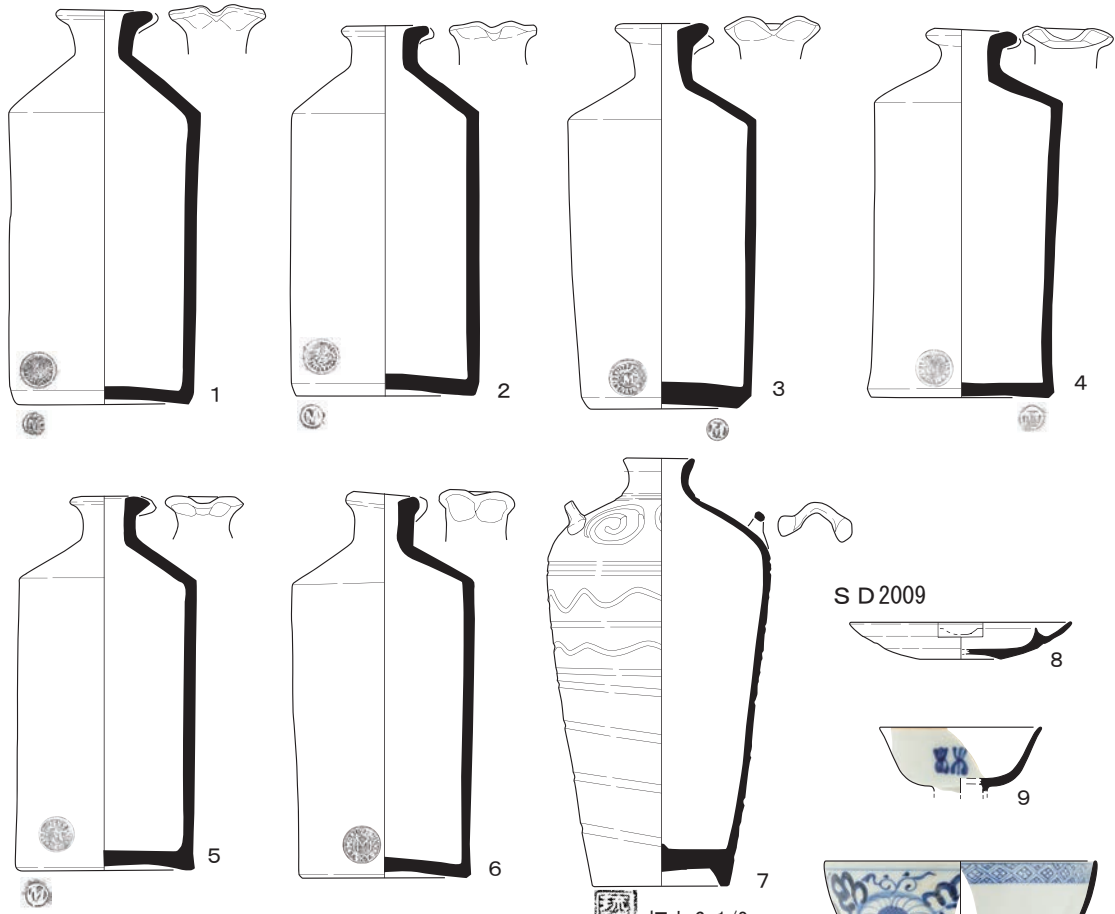
S E2270



拓本 S=1/2

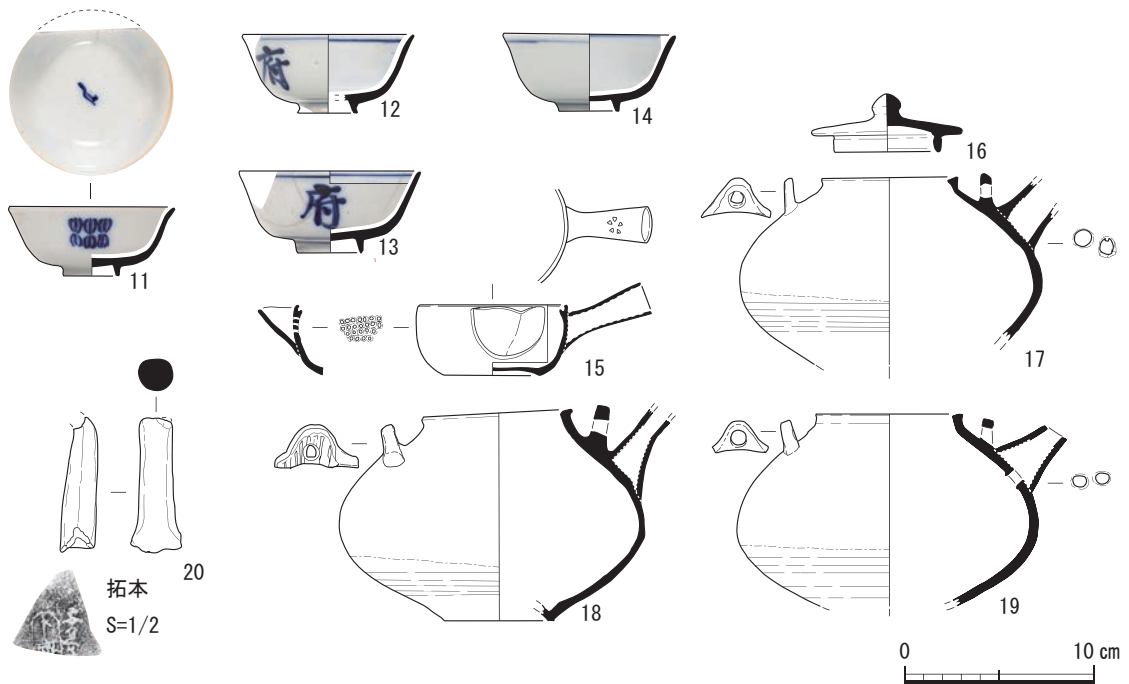
第153図 近代(京都府庁)の出土遺物 1

S K 2002



S D 2009

S K 2019



第154図 近代(京都府庁)の出土遺物2

落する。底部に「琉球」銘が入る。

SK2019(第154図8～17) 20は素焼きの五徳である。「ふかくさ」銘と丸に「下斎」銘が入る。

(6) その他の遺物

今回の調査で出土した陶磁器類以外の出土遺物には、瓦・鉄製品・銅製品・石製品・骨加工品・貝加工品・ガラス製品・木製品がある。

①瓦(第155～160図)

第155図1は複弁六葉蓮華文軒丸瓦である。中房の蓮子が残存するがはっきりとしない。凸面に粗い縄目跡、凹面に布目跡が残る。2は丸瓦の玉縁部である。凹面に布目の跡が残る。3は丸瓦部で、凸面に粗い縄目跡、凹面にコビキBの調整跡が残る。4は丸瓦部で凸面に縄目跡が残る。5は平瓦で凸面に縄目跡、凹面に布目の跡が残る。6は平瓦で凸面に縄目跡、凹面に布目跡が残る。7は重圏文軒丸瓦である。8は右巻きの巴文である。扁平な文様で巴の末尾が連なる。第156図1は唐草文の軒平瓦である。凸部に布目の跡が残る。外縁部の上下に面取りが施され外縁はケズリとられている。2は平瓦である。凸面に縄目の跡、凹面に布目跡が残る。3は平瓦である。凸面に縄目の跡、凹面に布目の跡が残る。また、凹面には「右坊」の刻印が施されている。4は唐草文の軒平瓦である。凹面に縄目の跡が残る。5は丸瓦である。凹面にコビキAの痕跡が残る。6は唐草文の軒平瓦である。凹面にナデ調整、凸面に布目跡が残る。7は剣頭文の軒平瓦である。凹面にナデ調整を施し、凸面に布目の圧痕を残す。第157図1～7は金箔瓦である。いずれもわずかに金が残存する程度で接着剤の漆も確認できない。1は巴文の軒丸瓦で尾は長く末尾が接続する。右巻きである。珠文は7個残存する。外区外縁に工具の痕跡が確認できる。5・6は葵文の軒丸瓦である。葵文に葉脈は確認できない。7は巴文の軒丸瓦である。巴は右巻きで尾は長く内区を一周する。珠文は13個で幅広く配置される。9・10はいずれも棧瓦である。SE3171の瓦組に用いられた瓦で打ち砕かれている。第158図1～5はSE135から出土した嘉永の大火に罹災して廃棄された瓦である。4は唐草文の軒平瓦で中心飾りに宝珠を用いている。第159図3～8はSK2042から出土した天明の大火で罹災して廃棄された瓦である。4・5は波濤文の軒平瓦である。第160図8～13はSE3312から出土した瓦である。SE3312は幕末の京都守護職上屋敷に伴う遺構と想定され、内部に投棄された瓦は上屋敷関連の建物に葺かれていたと考えられる。8は波濤文の軒平瓦である。11は唐草の軒平瓦で内面にカキヤブリの調整が施される。12は巴文の軒丸瓦である。巴は左巻き、珠文は11個付く。

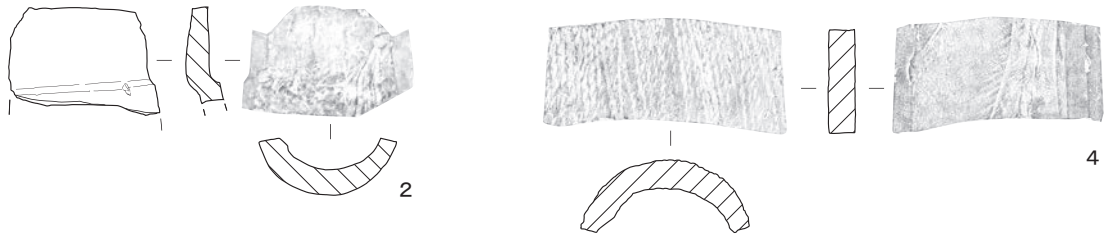
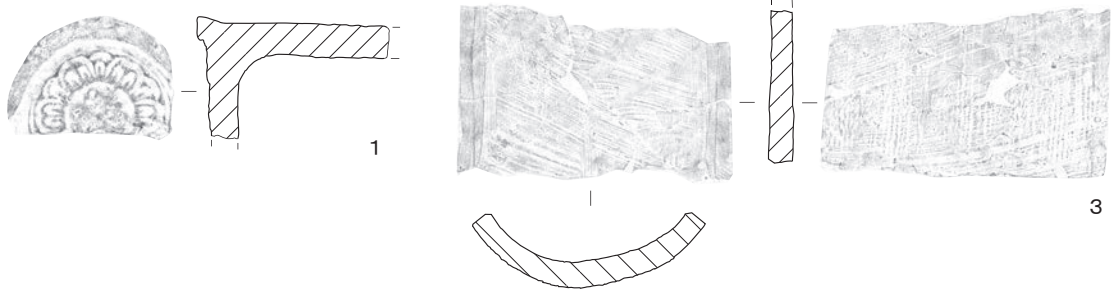
②鉄製品(第161図)

1は鉄刀である。刀身の一部しか残存しておらず刀身の全容は判然としない。2～6は包丁である。6は茎と柄を固定するための口金が残存する。12は鋏である。「U」字形の刃先で内側は風呂を差し込むように二股になり断面は凹形を呈する。

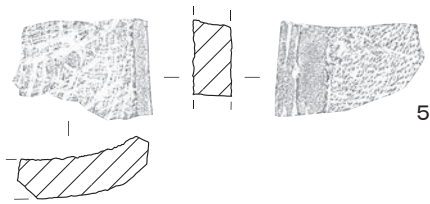
③銅製品(第162・163図)

第162図1・2は火熨斗である。1は火桶にあたり、2は火桶と柄をつなぐ留め具である。内部に灰が詰められていたことから火熨斗と考えられる。3は竿秤の秤皿である。薄く伸ばした銅

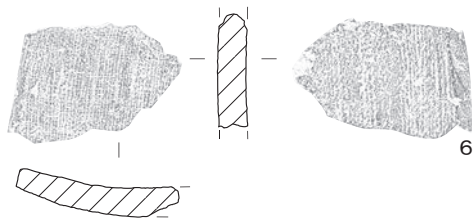
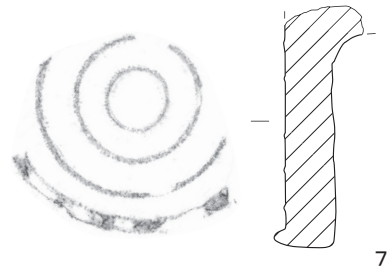
S D78



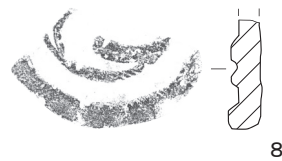
S K2258



S K3188

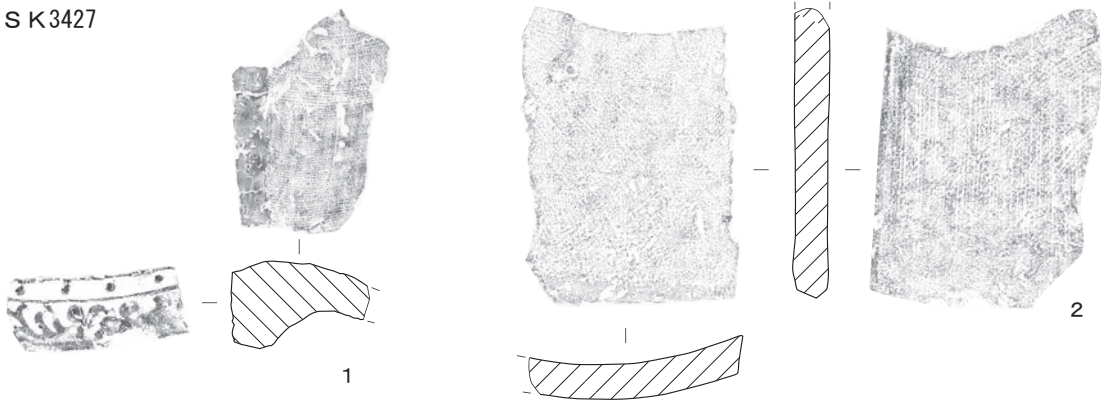


S K3204

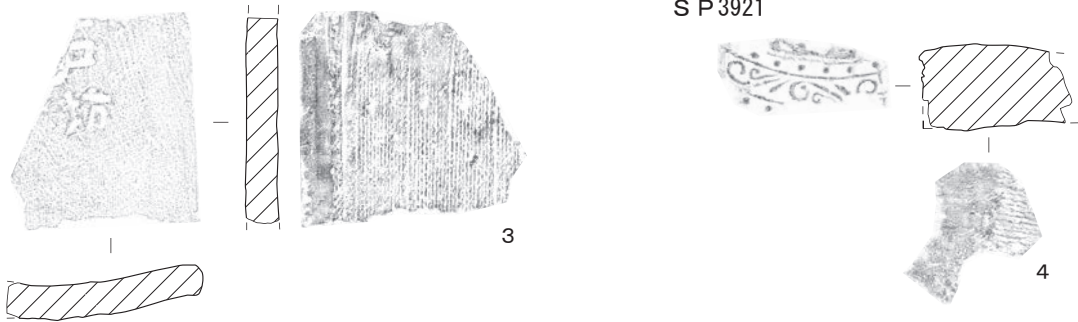


第155図 瓦実測図1

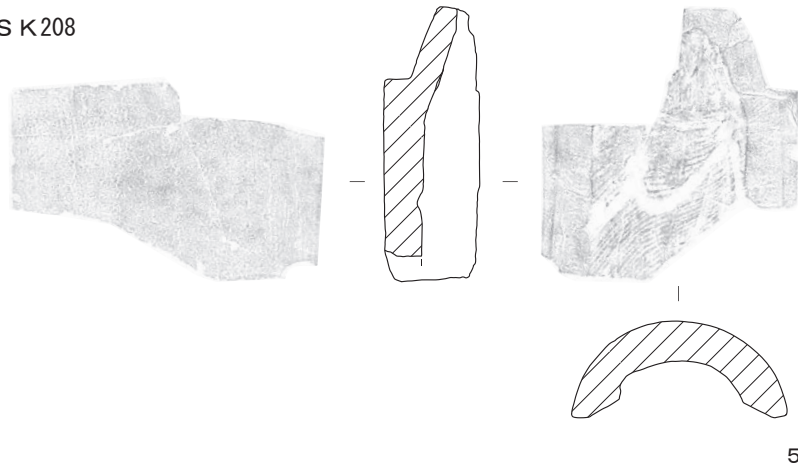
S K 3427



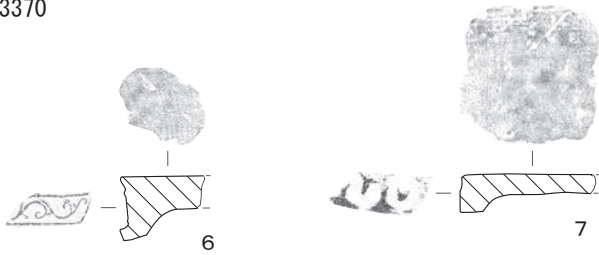
S P 3921



S K 208

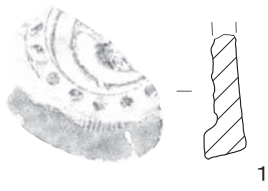


S D 3370

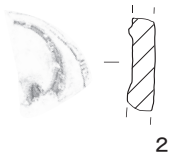


第156図 瓦実測図2

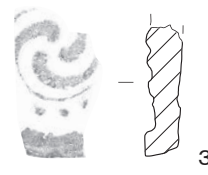
2面精査



S K 3283



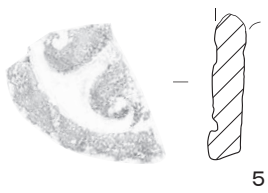
S K 3186



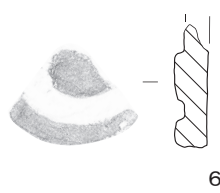
S K 3292



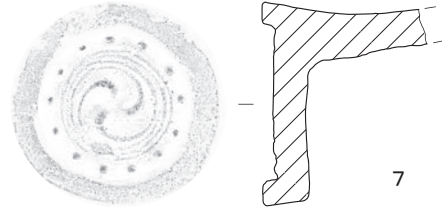
2面掘削



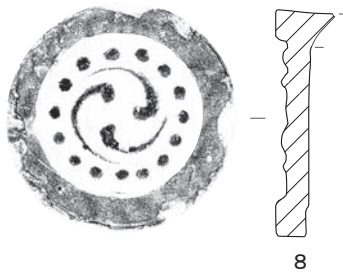
S K 3278



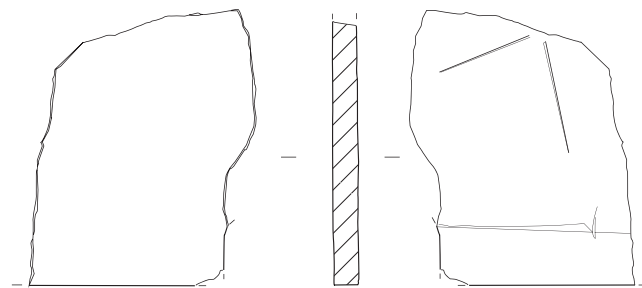
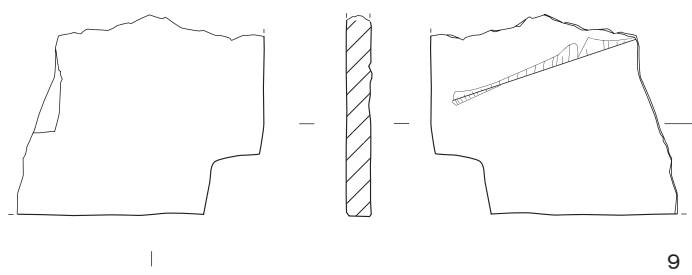
S K 3292



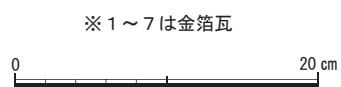
S K 3329



S E 3171

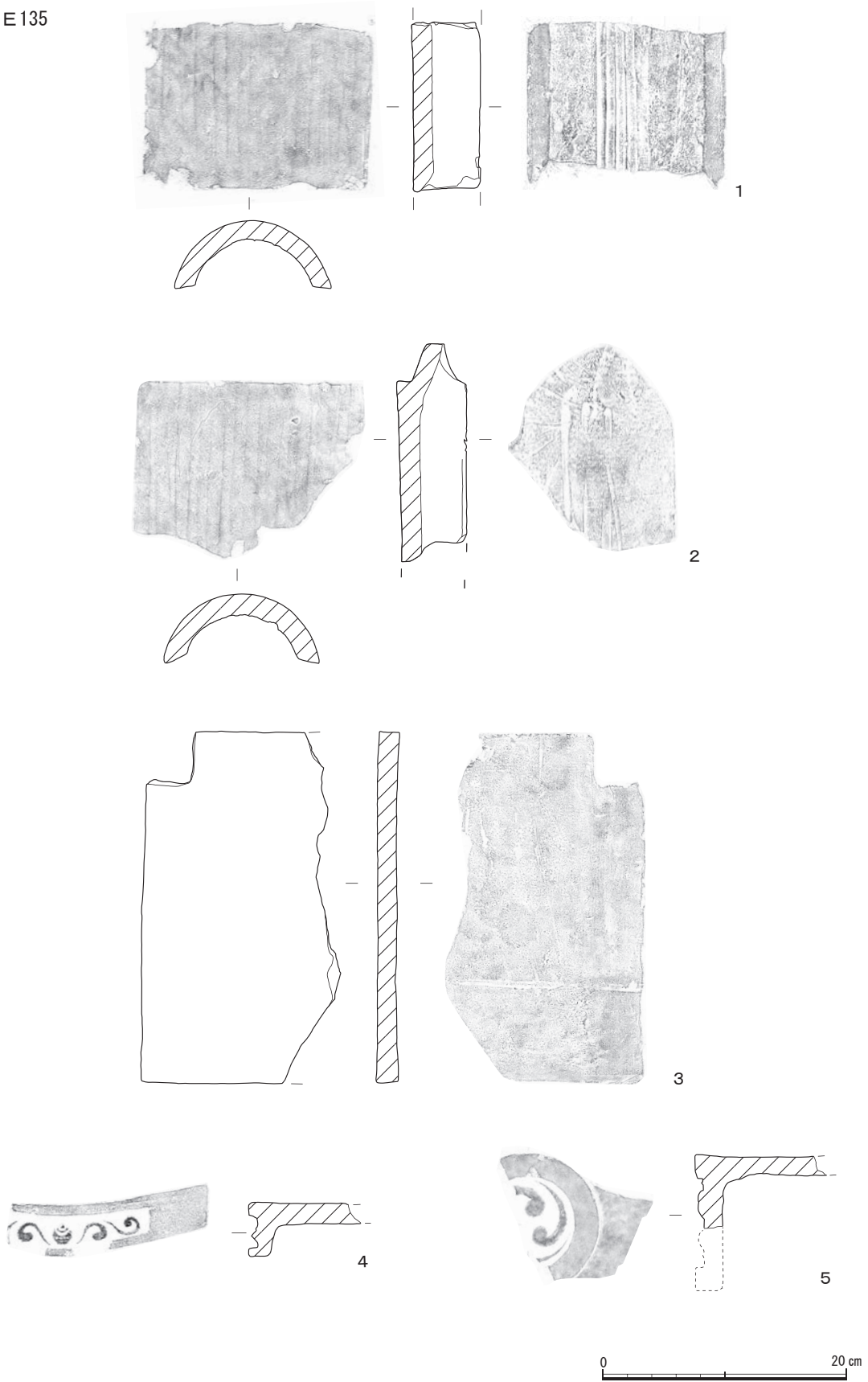


10



第157図 瓦実測図3

S E 135

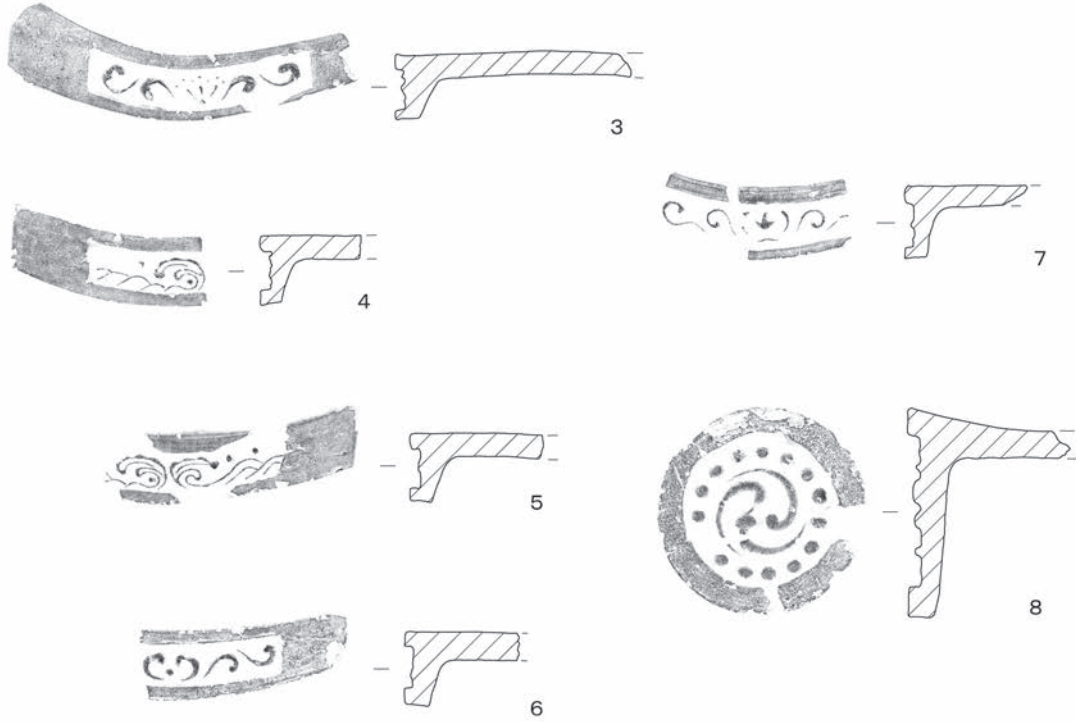


第158図 瓦実測図4

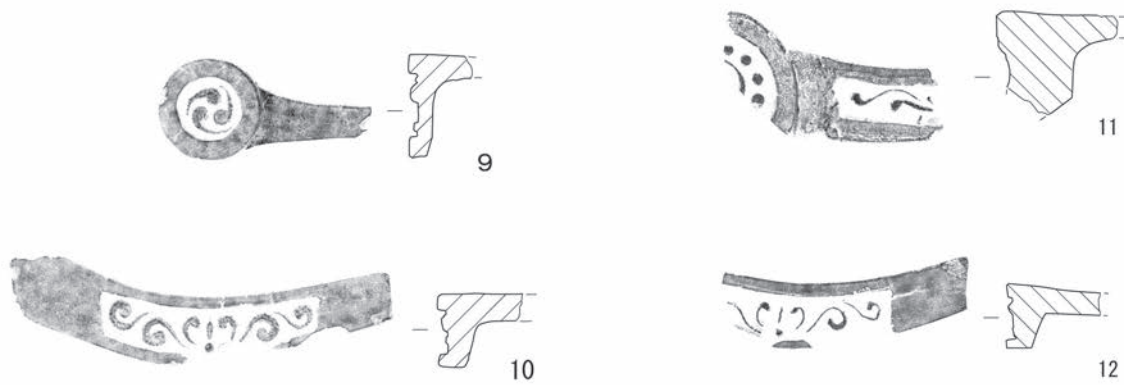
S K05



S K2042

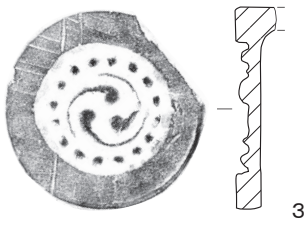
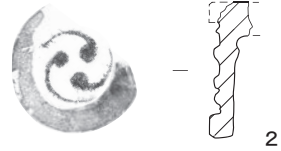
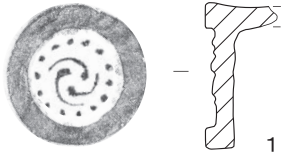


S E3198



第159図 瓦実測図5

S K3108



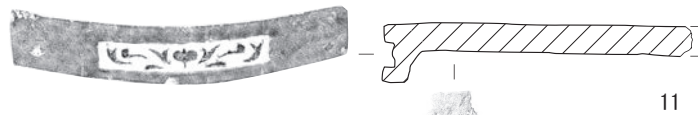
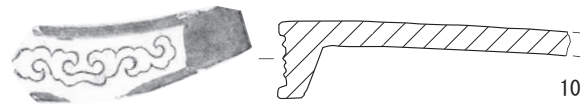
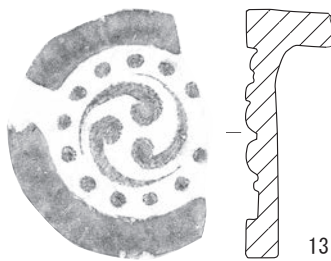
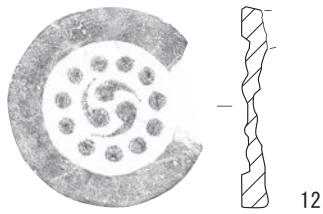
S E3335



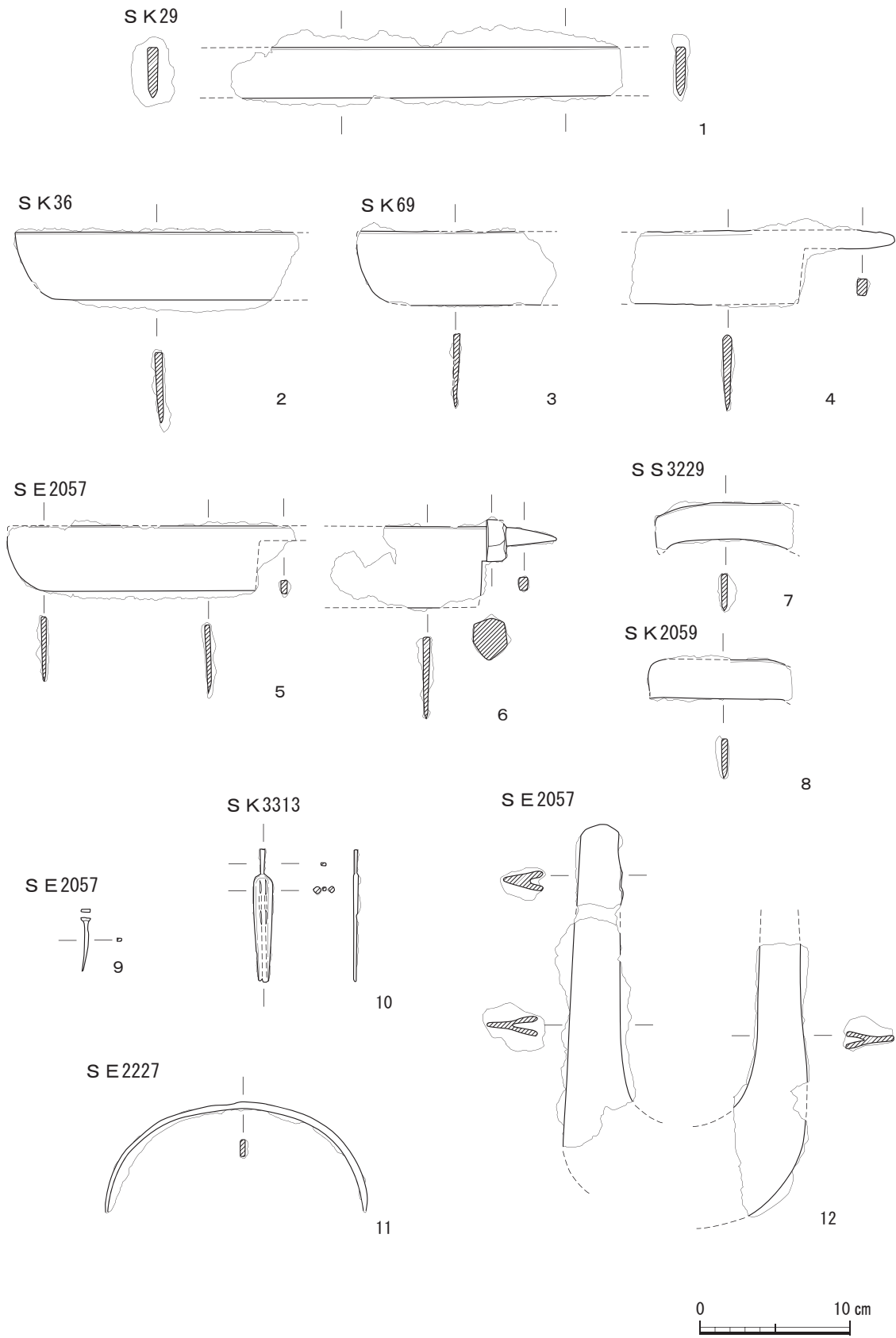
S K3254



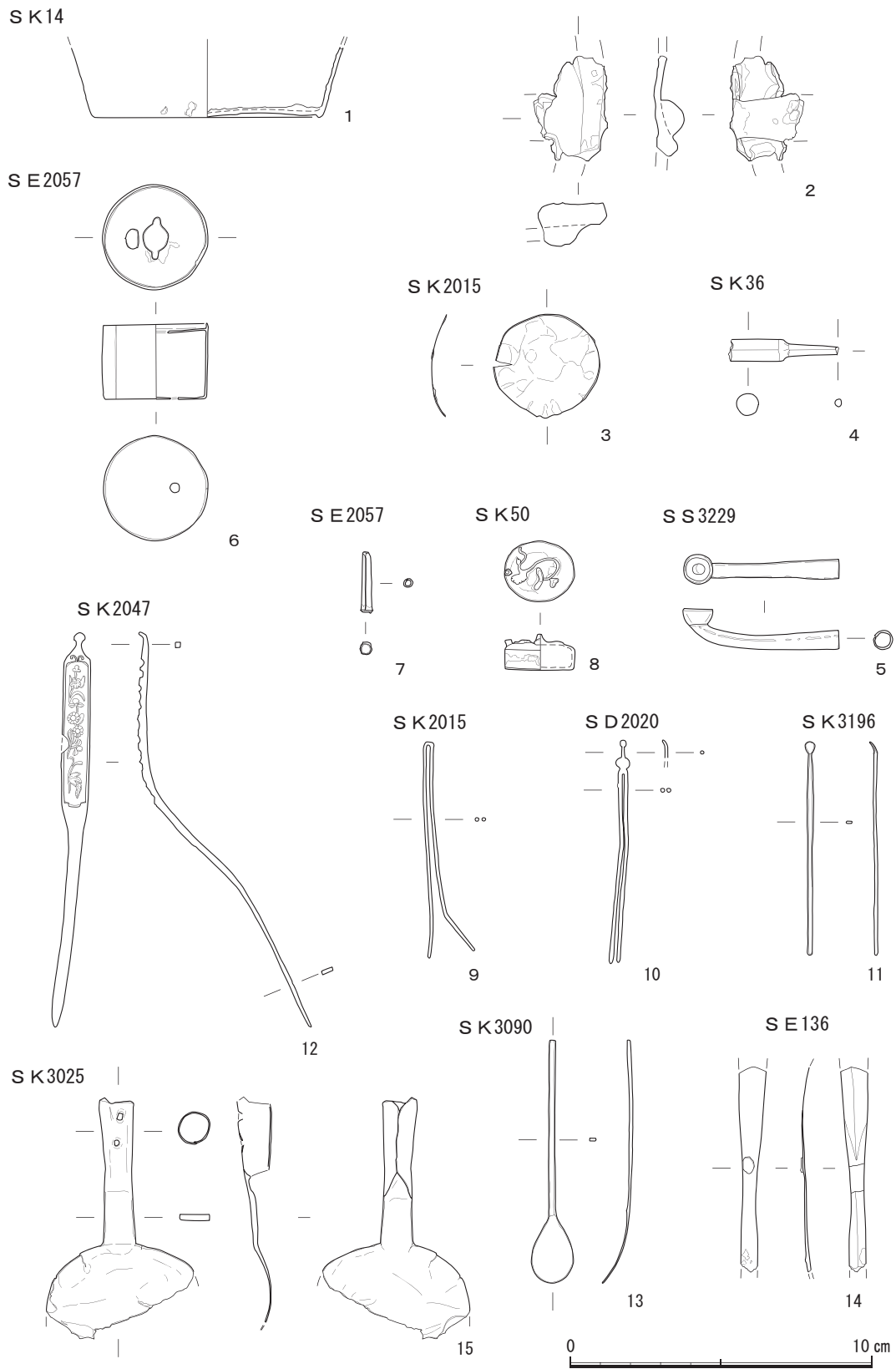
S E3312



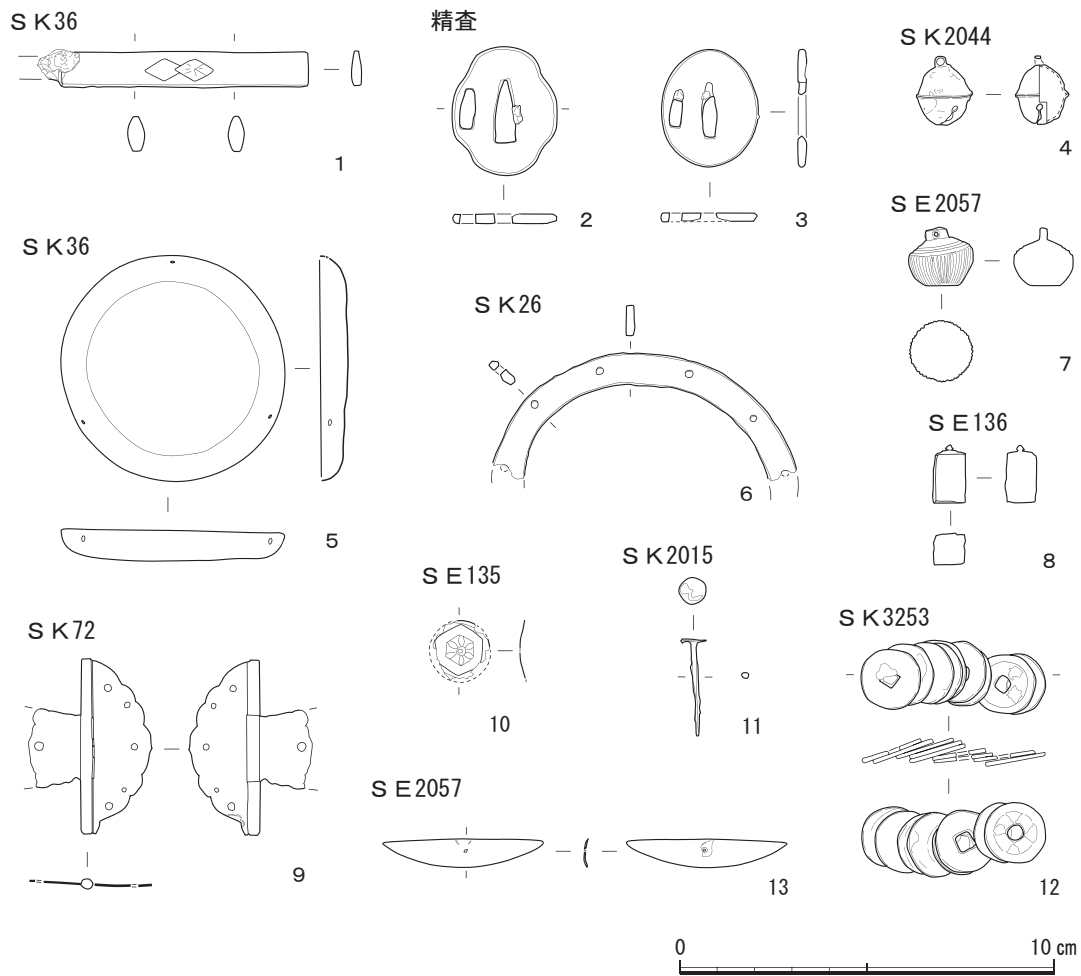
第160図 瓦実測図6



第161図 鉄製品実測図



第162図 銅製品実測図1

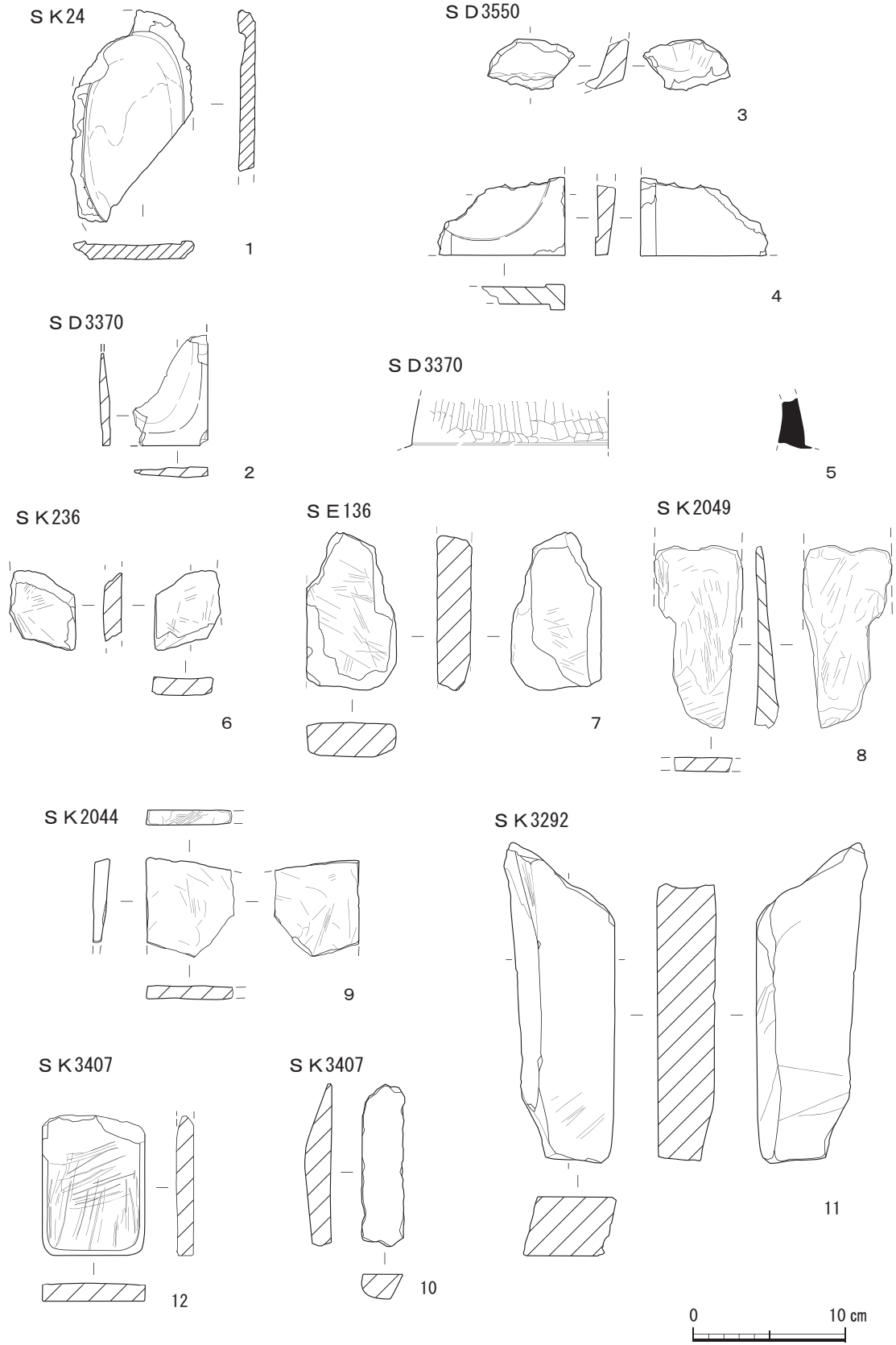


第163図 銅製品実測図2

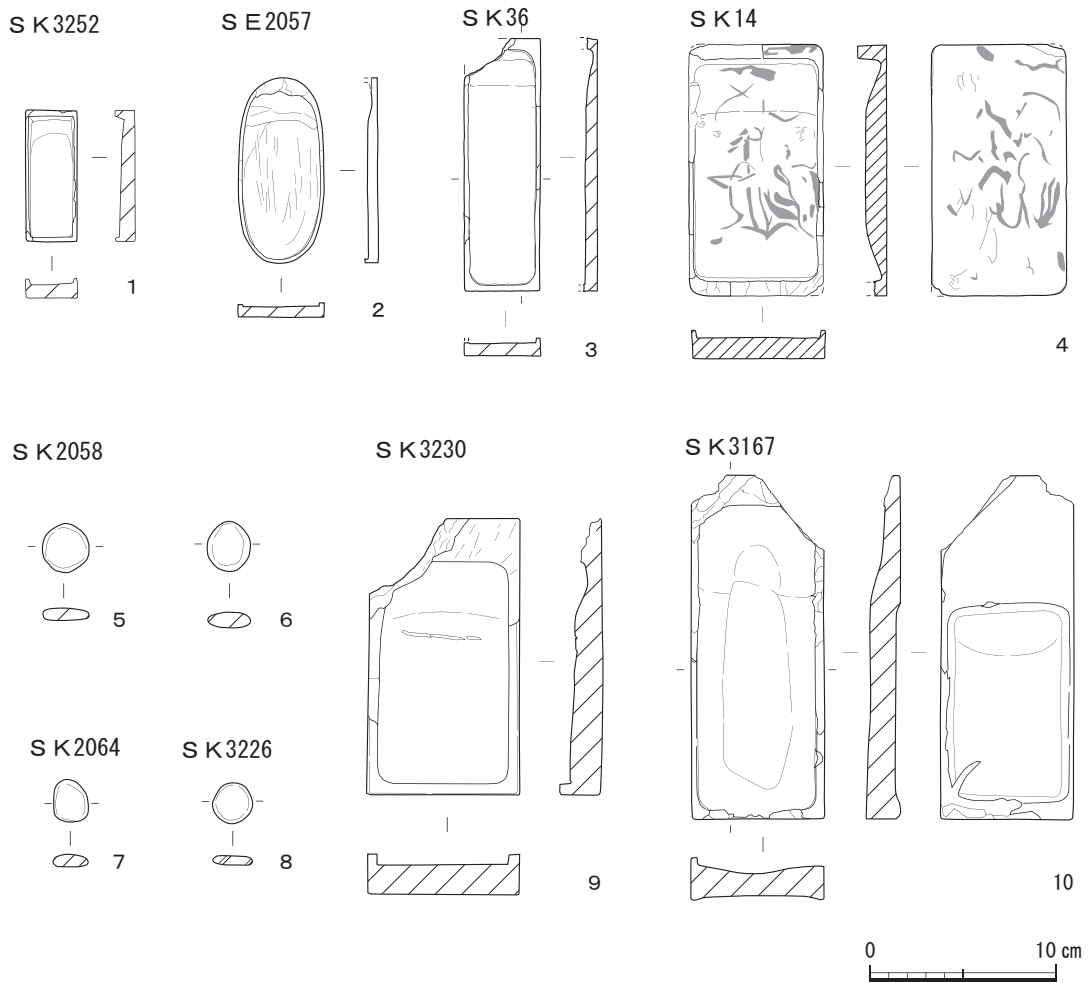
板に切れ目を入れ重ねるように曲げる。6は用途不明品である。上部と下部に穴が空く。7は6の内部に入っていた筒型の製品である。12は筭である。胴の地板には草花の文様を付している。15は杓子で把手の接続部には釘留めの穴が残る。第163図1は小柄である。小口に刀身が一部残存する。紋は菱形文を重ね、螺鈿で装飾する。4は鈴で表面は金が塗られている。5は竿秤の皿で三方に糸を通すための穴が空いている。13は塗金された金具である。中央部に穴が空いている。家具を装飾する金具か。

④石製品(第164～168図)

第164図3は石鍋の細片である。加工を加えていることから温石として使用したと考えられる。5は石鍋の胴部である。外面にケズリの痕跡が残存する。第165図4は粘板岩の硯である。内外に墨の跡が残る。第166図3は砥石である。表面には使用した跡が残るが、裏面には工具で突いたような剥離痕跡がみられる。4は火打石である。チャートで青みがかかる淡い翡翠色を呈する。長年使用されたようで剥離痕が多くついている。10は硯の未完成品である。外周に線刻が削り込まれており硯縁を切り出す途中の資料と考えられる。第167図3・4は石筆(ロー石)である。5は硯である。裏面の陸側に修理痕跡がある。また裏面には引立烏帽子をかぶり甲冑を装着し、左

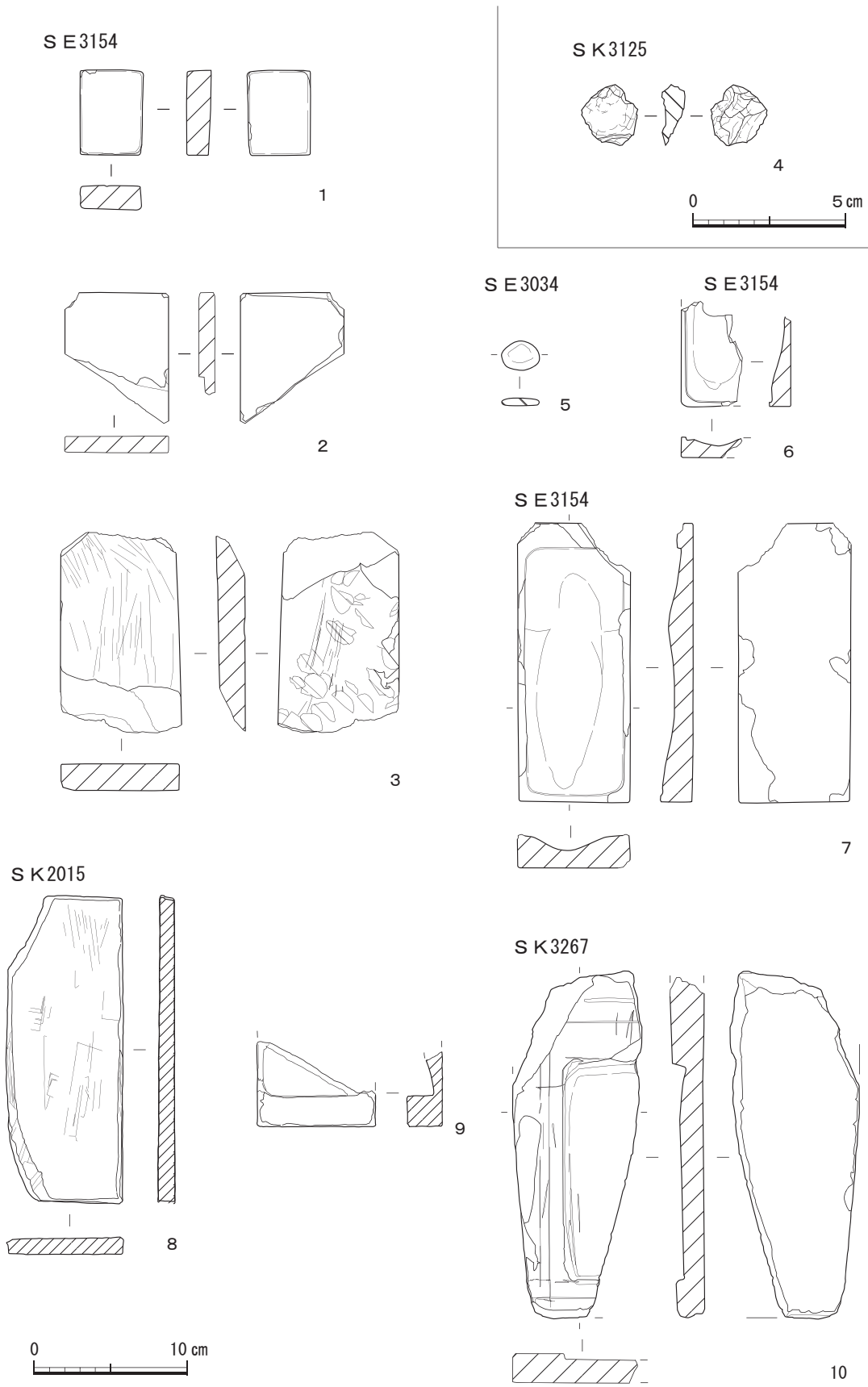


第164図 石製品実測図1

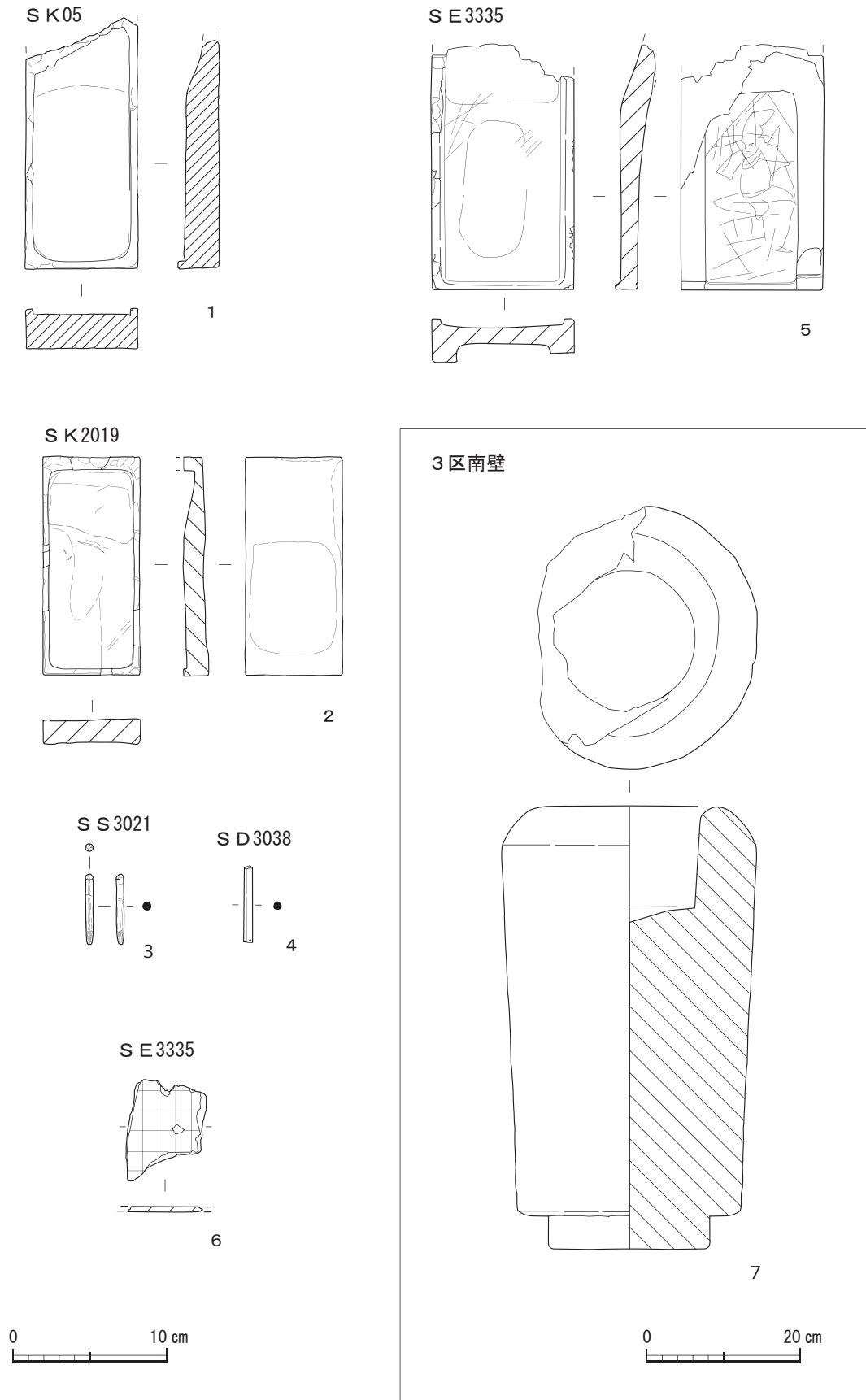


第165図 石製品実測図2

足を踏み下げ右足を左足の膝の上に組んで座る人物が線刻で描かれている。6は石盤である。方眼が線刻されている。石盤に石筆で文字を書いたと考えられる。7は手水鉢である。3区南壁から出土した。江戸後期とみられる。いわゆる棗形である。第168図1～4は礎石である。いずれも摺り穴を持つことから大きな門扉の回転軸を受ける軸摺り石であると想定される。1～3は花崗岩である。4は凝灰岩で軸受が擦り減って底部を貫通している。被熱していることから火災により廃棄されたと考えられる。3のように小さな規格の礎石や本来基壇の化粧に用いられる4のような凝灰岩が軸摺り石に使用されていることから別目的で使用されていた石を転用した資料と考えられる。

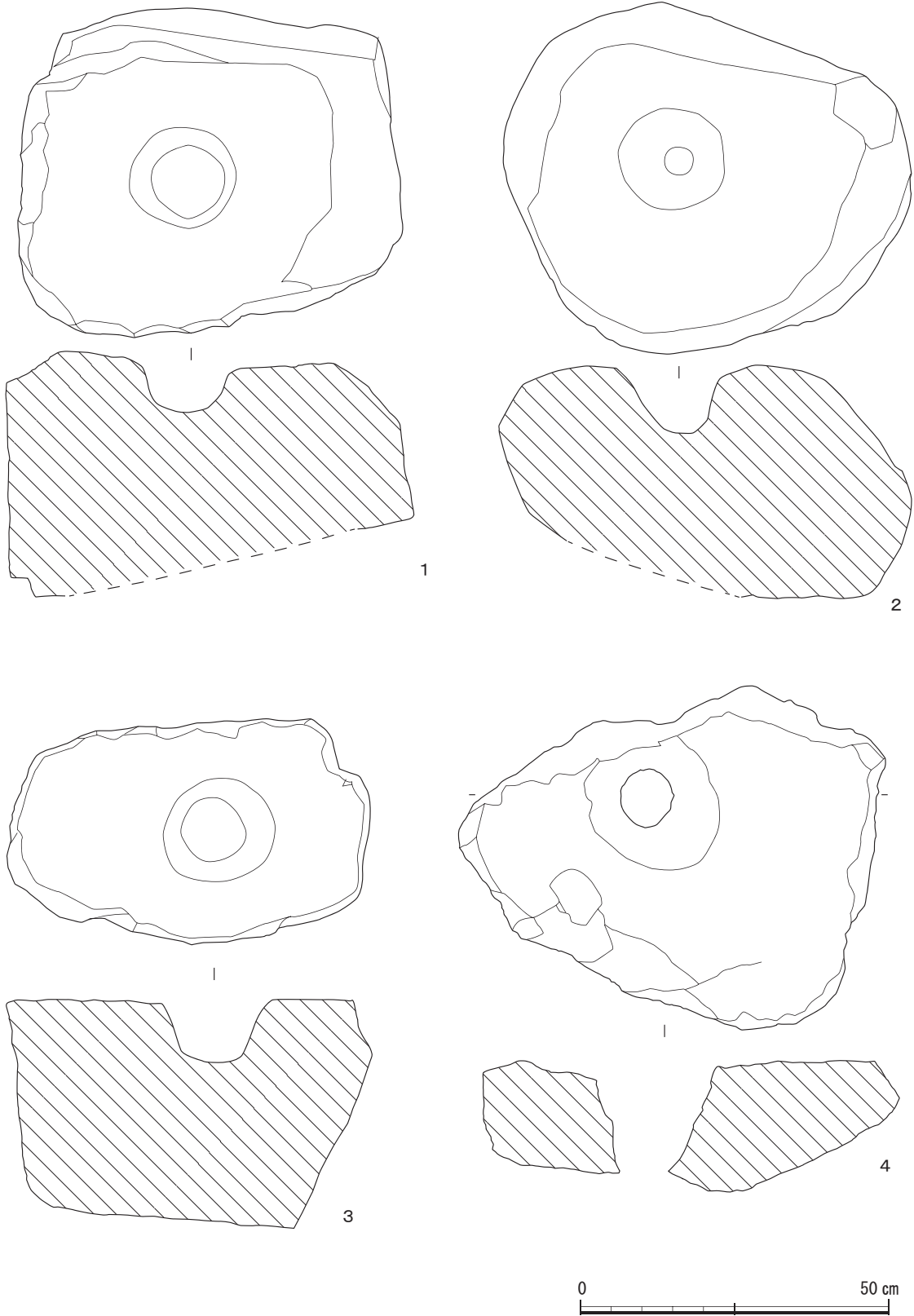


第166図 石製品実測図3

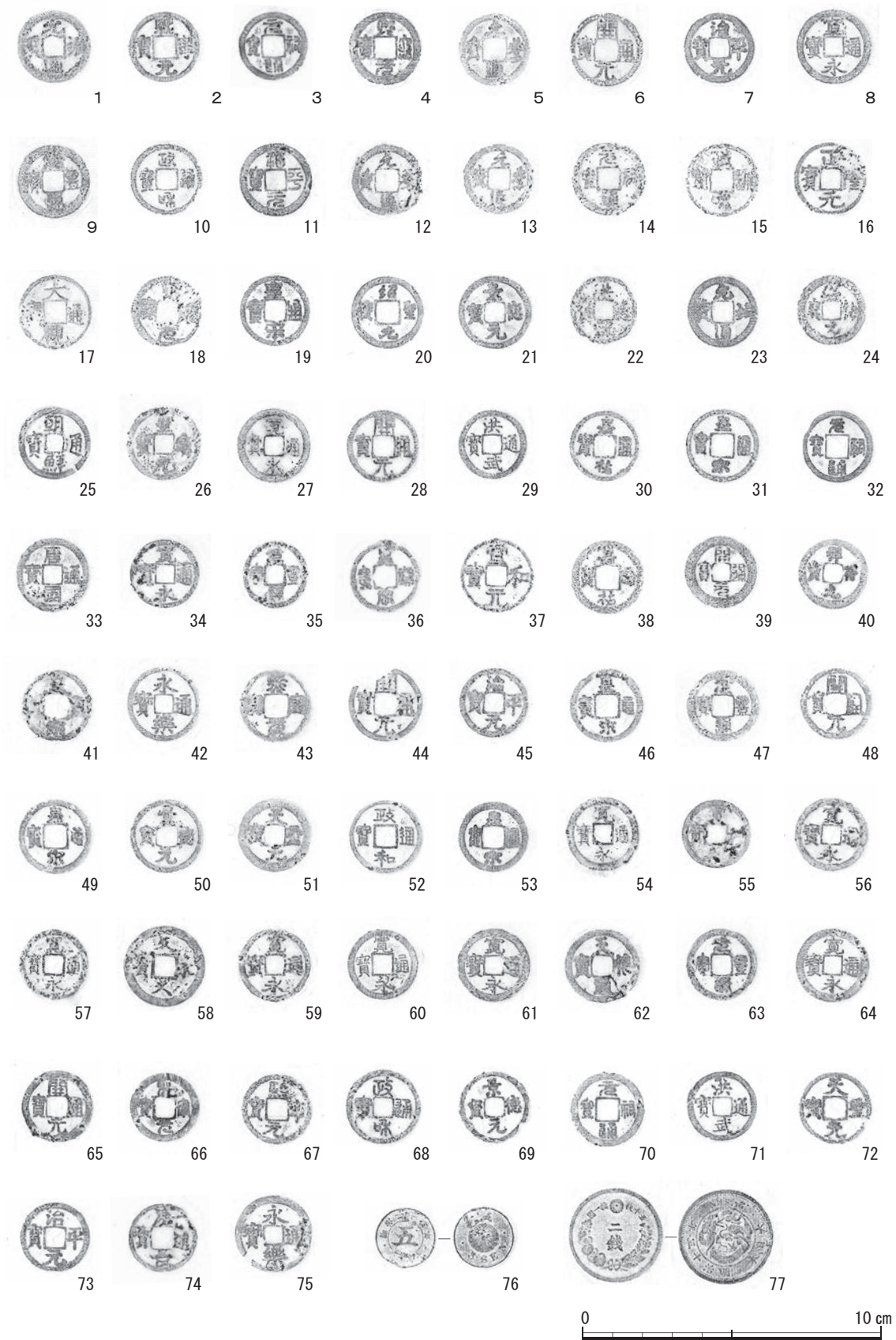


第167図 石製品実測図4

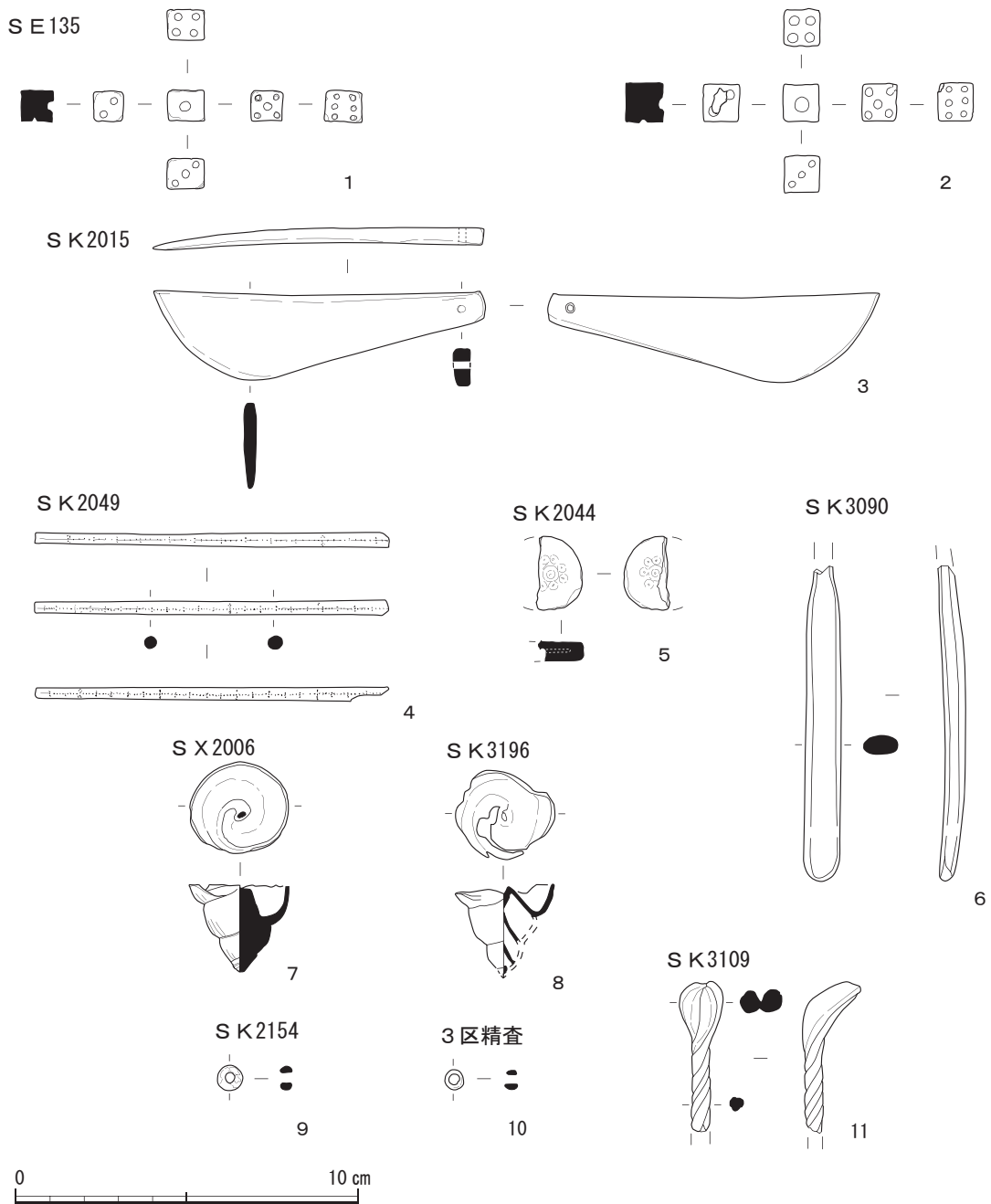
S K2258



第168図 石製品実測図5



第169図 錢貨実測図(出土地は付表6参照)



第170図 骨・貝加工品・ガラス製品実測図

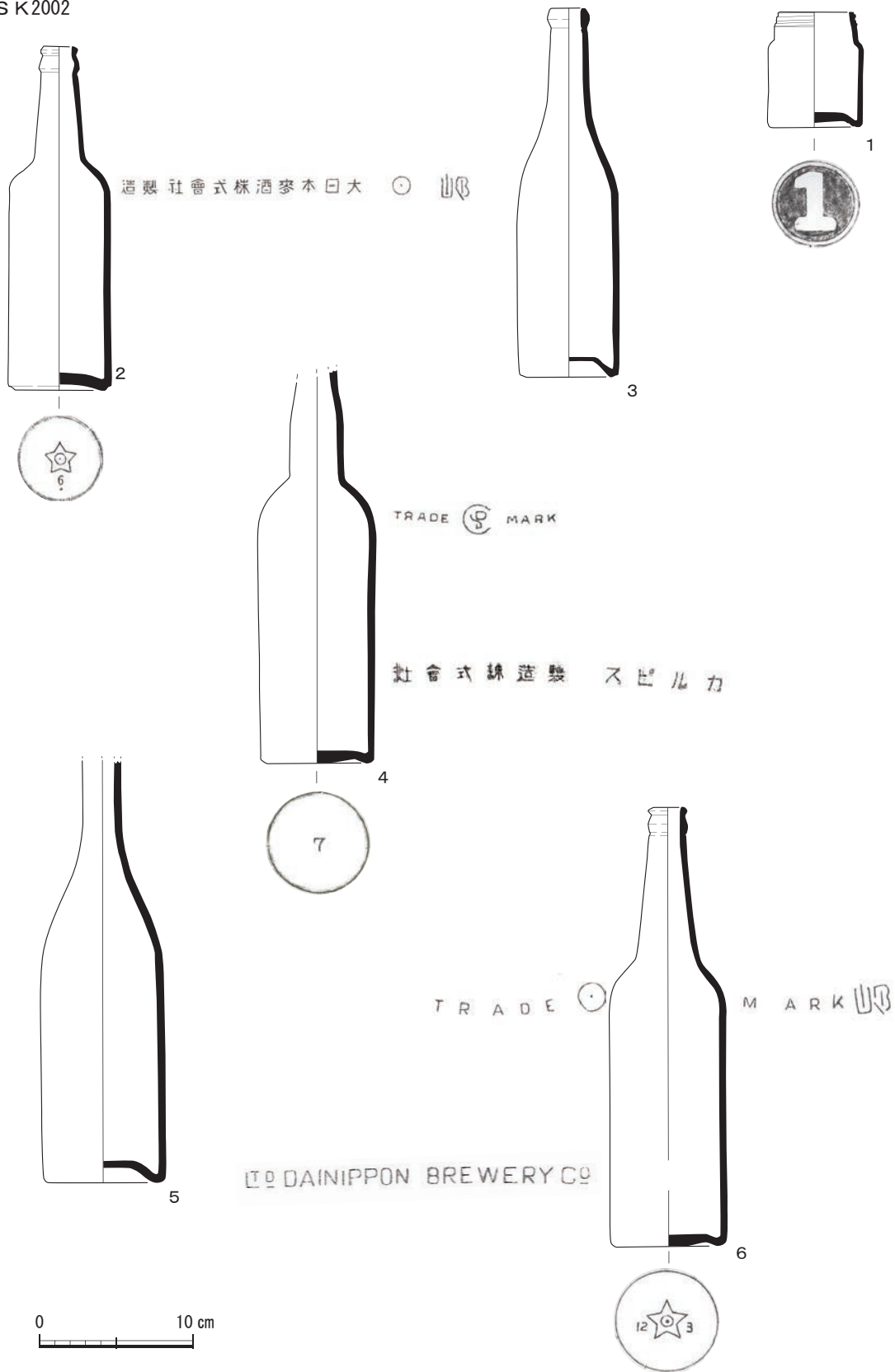
⑤ 銭貨 (第169図)

6は開元通寶である。初鑄は唐代の621年である。16は正隆元寶である。初鑄は金代の1158年である。25は朝鮮通寶である。初鑄は1423年である。33は唐國通寶である。初鑄は959年。37は宣和元寶である。初鑄は1119年である。真書。58は文久永寶である。初鑄は1863年。草文。74は慶長通寶である。初鑄は1606年である。77は二銭銅貨である。「明治十三年」鑄造である。

⑥ 骨・貝加工品 (第170図 1～8)

第170図 2は骨製のサイコロである。被熱しており、内部が焼け落ちている。3は骨製の着付け篋である。持ち手部分に穿孔が施してある。4は骨製の竿秤の竿である。竿には三方向に目盛

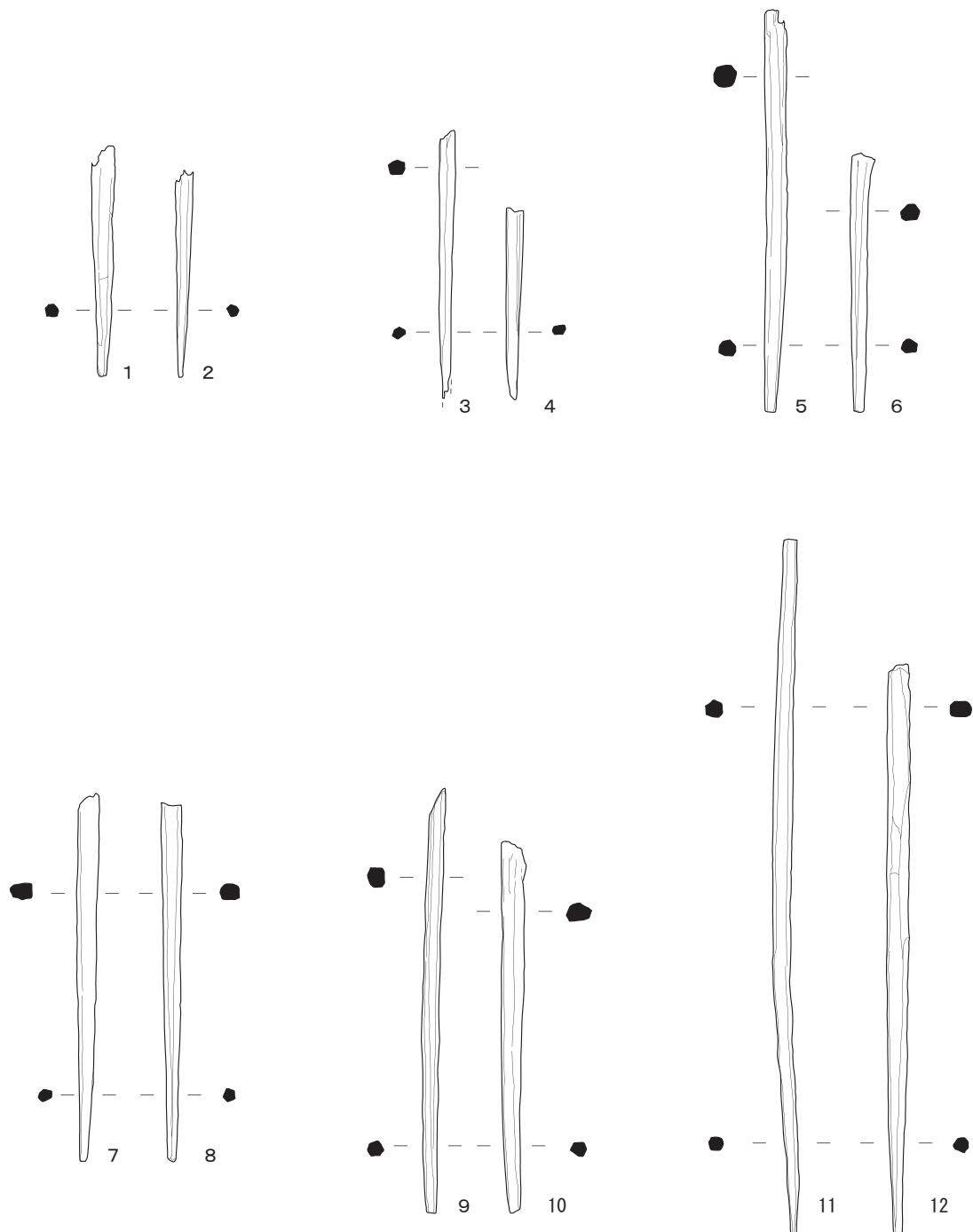
S K2002



第171図 ガラス製品実測図

りが打刻されている。5は骨製の双六の駒である。コンパスで内面に模様を描く。7・8は貝製の独楽である。バイ貝の殻口部を切除し内部に土や蠟を充填して独楽として用いる。

SE227



第172図 木製品実測図

⑦ガラス製品(第170図9～11・第171図)

第170図9・10は青緑色のやわらかいガラス玉である。11はガラス製の簪である。無色透明でねじりを加えている。第171図2はガラス瓶で「大日本麥酒株式會社製造」銘が入る。4はガラス瓶で「カルピス 製造株式會社」銘が入る。6はガラス瓶である。肩部に「TRADE MARK」底部付近に「Ltd DAINIPPON BREWERY co」銘が入る。

⑧木製品(第172図)

木製品はS E 2227から出土した箸がある。六膳出土し、いずれもケズリ成形で端部が細くなる。

7. まとめ

今回の調査で検出した遺構は総数1,485基を数える。まとめとして調査地の遺構の変遷について概観する。また、主要な遺構については別項にて記載を行う。

1)遺構の変遷について

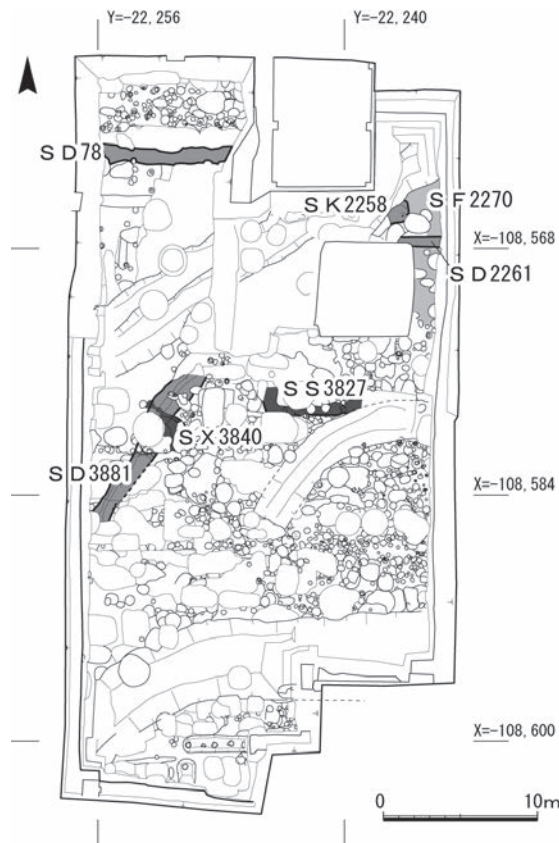
(1)平安～鎌倉時代(第173図)

平安時代から鎌倉時代の遺構は希薄で、平安中期の遺構はS K 2258をはじめ数基しかない。

S F 2270は粘土まざりの礫を多く内包する。SF2270は下層に黄色の硬質の礫層が確認され、この礫層に張り付くように検出されたことから、路面として造成されたと考えられる。SF2270はS K 2258に削平されていることから、この路面は10世紀には存在していた近衛大路の路面である

と判断した。S K 2258は、大型の土坑で一部に被熱痕が確認できる軸摺り石が出土している。同遺構は近衛大路にあたる路面を掘削していることから、恒常的に開口していた土坑というよりも、空閑地であった大路の路面に掘削せざるを得なかった土坑と考えられる。このことから災害後の整理に伴い掘削された土坑であったと思われる。

S D 2261は、S F 2270を掘削して造られた平安後期の溝と考えられる。大路の道幅は時代によって変化することが示唆されている(京都府埋文センター1988)ことから、S D 2261も時代により変化する道幅の状況を示す一例と考えられる。S D 78は、その北側で多数の遺構が検出されていることから近衛大路の北側側溝であると判断した。S D 78は、S D 2261よりもやや新相の土器を包含することから、大路に伴う溝は数十年単位で掘りなおされて



第173図 平安～鎌倉時代の遺構

いる可能性がある。

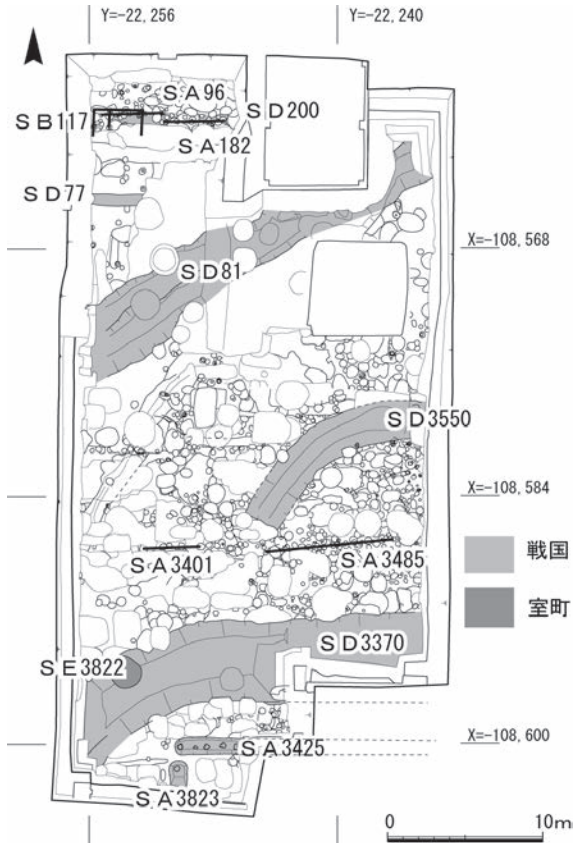
S S3827は同安窯系の青磁が出土していることから13世紀初頭築造の建物跡と考えられる。西側に出入り口のある蔵などの建物と想定できる。また、S S3827以外の13世紀から14世紀にかけての遺構はほとんど確認できなかった。当該期の遺物は後世の遺構から混入して出土する状況が確認できることから、本来は遺構が構築されていたが、後世の削平により消失したと考えられる。

(2)室町～戦国時代(第174図)

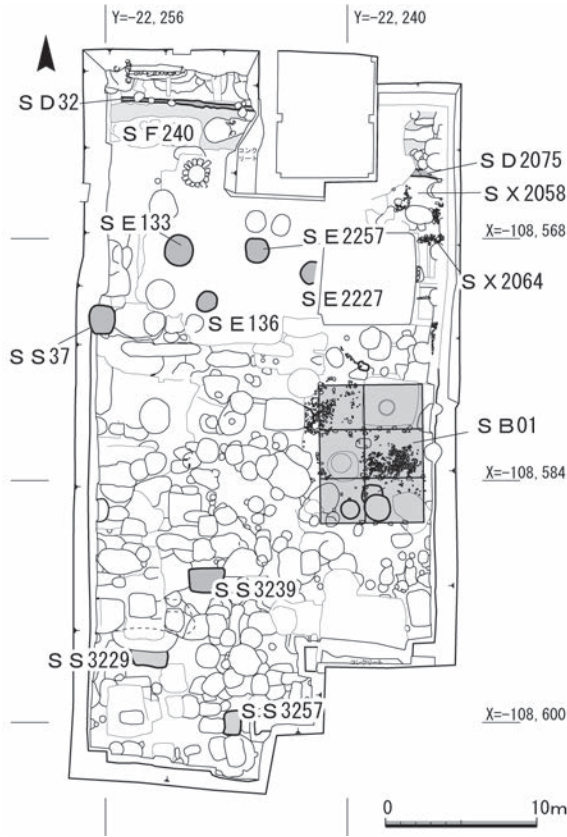
室町時代前期にあたる14世紀後半から15世紀後半にかけては、土師器皿をはじめとする遺物を包含する遺構がみつまっているが、顕著な遺構は少ない。そのなかでもS A3401、S A3485、S A182のような柵、S E3822の石組井戸は15世紀段階では当地が居住域であった状況を示唆する貴重な遺構である。

応仁の乱以降は道路側溝のS D77が埋没し、S D81、S D3370、S D3550といった巨大な堀が掘削される。15世紀末にS D81が掘削され、その後にS D3370とS D3550が掘削される。S D81は、S D77が示す近衛大路を突き抜けて構築されている。大路を切り裂く、京の条坊に沿わない堀が掘削されていることから、前例にそわない応仁の乱後の混乱した状況が垣間見える。S D81は攪乱による削平が激しく、関連する遺構が見つかっていない。S D81は南北壁面の傾斜が異なっており、さらに底部に段差があることから再掘削された堀であると認識している。この認識に立てば、堀は様々な状況変化に機敏に反応しなくてはならなかった人々の立場を反映しているとの認識を有することは簡易であろう。S D81は遺物の年代から16世紀までには埋没すると考えられ、その後、S D3370とS D3550が掘削される。S D81の埋没の上層に焼土が形成されており、炭化物が見つまっている。年代測定をした結果、「1451-1523 cal AD (60.7%)」との結果を得られており、遺物の状況と齟齬はない。

S D3370とS D3550の堀掘削時に合わせてS A3425とS A3823が構築されたと考えられる。しかし、遺構の性格上S A3425とS A3823は様々な年代の遺物の巻き込みがあり、年代を細かく決定できない。S D3370とS D3550は、出土遺物から時期差はほぼ見出せず、同時期に掘削されたと考えられる。また、S D3370南側に位置する布掘り柱列S A3425とS A3823は、左京一条三坊二町の調査で検出されたものよりもはるかに深く、1mを超える掘削深度を有している。掘形内からは柱跡が見つかっており、掘形内の置石上に柱を据えて土砂を詰めている工事の過程が確認



第174図 室町～戦国時代の遺構



第175図 安土桃山時代・江戸時代前期の遺構

できる。なお、当調査地南東部におけるその後の京都府教育委員会の調査成果から、S D 3425は東に延びることが確認されている。このことから、S D 3425は堀などの構築物の基礎と考えられ、S A 3425とS A 3823間が掘削されていないのは上部の構築物をより強固にするための工夫であろう。また、S D 3550が途切れているのは、S D 3370との間を外から内側に入るための通路としていたからであり、通路とその周囲を監視するためにS A 3425とS A 3823からなる構築物が建てられたと考えられる。調査地のこのような状況から、これらの遺構を施工した集団は南側に居住し、出入り口はS D 3550の南側をまわっていたのかもしれない。いずれもS D 81と同様に条坊に沿わない施設であるが、S D 81とは異なり、計画的に準備された施設と考えられる。京中の治安の悪化に伴い防御施設として堀が掘削

されたことは明らかであろう。堀は埋没状況から、S D 3550以外は南側に土を置いていたことがわかっており、南側に守る対象があったことを示している。

左京一条三坊二町の調査では堀Aが検出されており、この堀が北側を守る上京の構えの一部であると指摘されている。堀Aは機能時期が16世紀と推定されている。本調査で検出したS D 3370とS D 3550の堀が15世紀末から16世紀初頭と若干時期が重なるところから、対峙する状況が一時期あった可能性がある。当地は、後年の織田信長による旧二条城やその前段階の斯波氏の武衛陣が南東に位置する立地条件にあり、信長の二条城とは年代が合わないが、斯波氏の武衛陣との関連性は考えておく必要があるだろう。

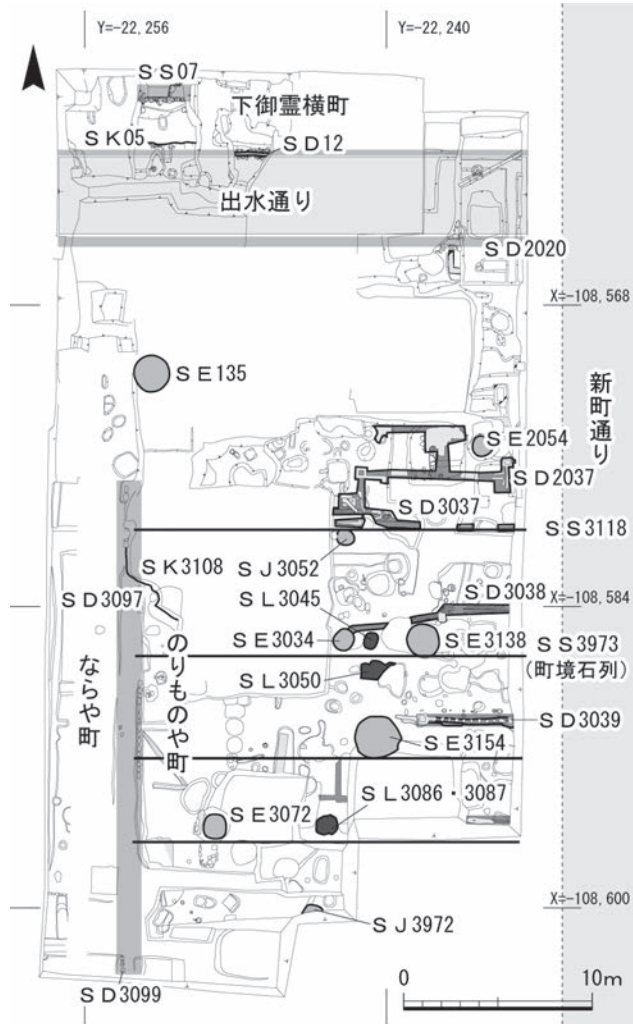
(3) 安土桃山時代・江戸時代前期(第175図)

第2面で検出した遺構の多くは、江戸時代前期の遺物を包含する。廃棄土坑は1区の南側から3区の西半に集中する。調査地北側に出水通(近衛大路)、東側に新町通が位置することから、両通りに面する家々の裏手に当たる範囲がゴミ捨て場として使用されていたものと考えられる。廃棄土坑は、江戸時代を通して幾度も埋没と掘削を繰り返したようで、江戸時代後期に至るまで多くの土坑が切り合い、多量の遺物と有機物の残滓が確認できる。

調査地の北側には、出水通(S F 240)とそれに伴う道路側溝(S D 32、S D 2075)が検出され、S D 2075の南側では、黄色の粘土を基盤に、築地跡と想定されるS X 2058と建物の基礎S X 2064を検出している。3区のS B 01と合わせて通りに面して建物が建てられていた状況が看取される。

建築物の一部であるこれらの遺構から出土した遺物には、15世紀末から16世紀初頭のいわゆる唐津などが混入しており、この時期頃に一帯が発展したことを示している。また、調査区内で出土した井戸（S E 136、S E 2227など）と石組遺構（S S 3229、S S 3239、S S 3257など）の多くは、17世紀半ばに埋没するようで、この段階で大きく町の環境が変化したようである。

これらの状況は、焼土こそ確認できないものの、多量の炭化物とともに出土した遺物から、火災を大きな転換点として町が変わってきたことを示していると考えられる。元和6（1620）年の元和の大火後にS B 01などが建てられ、寛文13（1673）年の寛文十三年の大火で焼亡し、その後復興するも宝永5（1708）年の宝永の大火で再び焼亡する。元和の大火と寛文十三年の大火では、廃棄土坑内で炭化物が確認できるが、後年の天明8（1788）



第176図 江戸時代後期の遺構

年の天明の大火のように焼土が確認できない。これは、瓦などの火災の熱を滞留させる要員が当時の町家に存在していなかったことを示していると考えられる。実際、瓦の出土は天明の大火に伴う火災後整理の土坑や嘉永の大火に伴う遺構からが大半であり、それ以前は金箔瓦のまばらな出土に限られることから、江戸時代前期では調査地一帯に瓦を葺く建物は存在していなかったものと考えられる。

また、安土桃山時代の遺構と遺物については、ある程度確認できるものの、大規模な建物などはなかった。先述したように、大名屋敷に葺かれていたと考えられる金箔瓦も金箔が激しく摩耗し、瓦自体もわずかに残存している状況であった。それゆえ、実際に葺かれていた場所から移動した、もしくはその後の開発で破壊され、関連遺構そのものが残存していないと考えられる。

(4)江戸時代後期(第176図)

第1面で検出した遺構のほとんどは、嘉永7（1854）年の嘉永の大火に焼亡した町家関連の遺構である。天明の大火に伴う遺構に関しては断面からも確認でき、一部残存した遺構を第2面以降で取り上げた。

江戸時代後期は町家として機能していたが、嘉永の大火後は復興が進まず、京都守護職が文久

2 (1862)年に当地に設置される。S D 12は18世紀の土師器皿片が出土した出水通りの北側道路側溝である。S D 2020は、溝内に19世紀の遺物を包含する出水通りの南側側溝である。路面は幾度も修築された跡が確認でき、互層状に重なり合っていることから通りは維持されており、出水通に面して町家が並んでいたと考えられる。

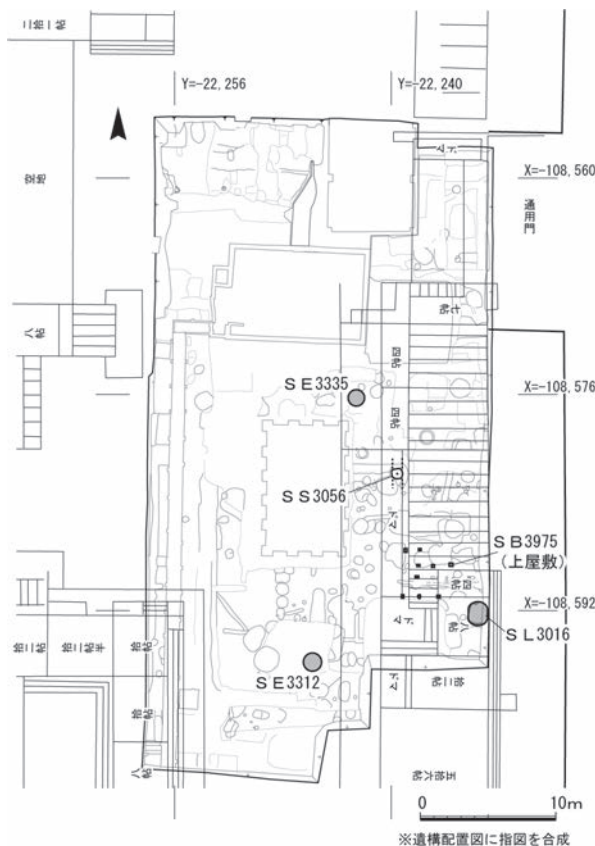
新町通りに面する町家は複数棟確認できるが、明確な家境と考えられる石列は、S S 3118及びS S 3973の2条にとどまる。調査地の町家は生活排水を外に排出するために漆喰の暗渠を用いていた。出水通の側溝であるS D 2020に接続する漆喰溝から類推するに、各々の漆喰暗渠は町家が面する通りに排水していたようである。S D 3039は瓦を転用した暗渠であるが、これを含めて6条の漆喰遺構を確認しており、ここから少なくとも6棟の町家が存在しており、うち1棟が出水通りに面し、残り5棟が新町通りに面していたことが分かる。ただし、S D 2037のように複雑な機構を持つ溝については、正確な復原には至っておらず、今後の課題である。

町家には暗渠の他にS L 3050などのかまどが3か所から見つかっており、これに隣接するようにS E 3154などの井戸が検出されている。S E 3034は漆喰の溝が接続する石組井戸で、他の井戸と比較しても浅いことから、貯水用の遺構であると考えられる。貯水用の遺構は天明の大火後にしばしば構築されていたようであり、S E 3034はその一例として評価できる。そのほか、S J 3052とS J 3972は甕を据え付けた便槽である。S E 3034に投棄されていた甕などを含めて4基見

つかっている。新町通りに面する町家の西端は、S D 3097とS D 3099により区画されている。絵図によれば、東側は「のりものや町」、西側は「ならや町」である。また、出水通りに面する町は「下御霊横町」である。S S 07はこの関連遺構である。町家の裏手は、江戸時代前半と変わらず不用品を廃棄する空間であったようで、S K 3108のような大型の廃棄土坑が見つかる。また、S K 05は出水通りの中央に開けられた大型の土坑で、互層状の堆積が確認でき、一定期間開口していたと考えられるが、路面に大穴を開けたまま放置していたとも考え難く、どのような土地利用がされていたのかは不明である。

(5) 幕末(第177図)

本調査地は、文久2 (1862)年から建設着手された京都守護職上屋敷の東端にあたる。慶応3 (1867)年に京都守護職が廃止されるまでの間、京都の治安維持を務めていた。京都守



第177図 幕末の遺構

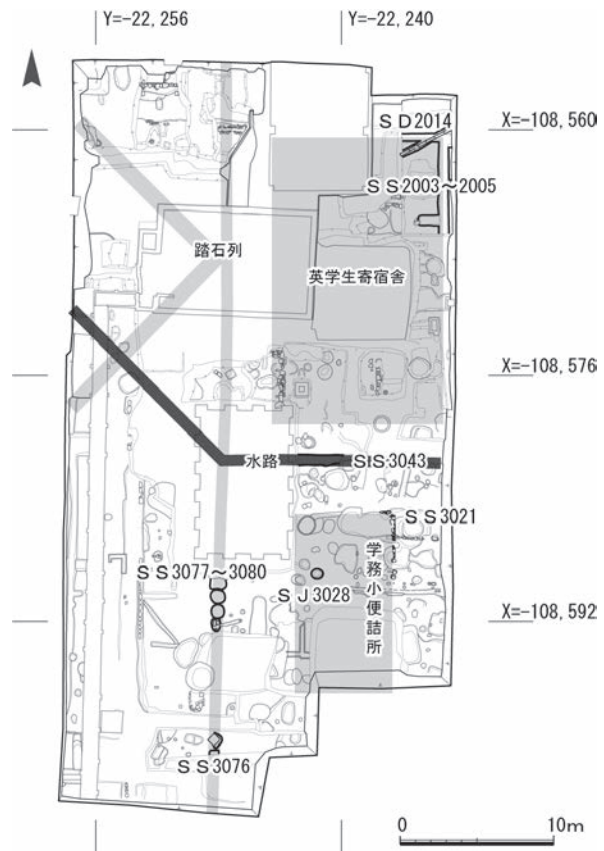
護職上屋敷に伴うとされる遺構を確認したのは、左京一条三坊二町の調査から引き続き二度目である。

町家は天明8(1788)年の天明の大火で焼亡し再び復興するが、嘉永7(1854)年の大火後は復興せず、京都守護職上屋敷が設置される。第1面で検出した遺構は、近代以降の開発により削平を受けており残存状況は悪い。守護職屋敷に関連する遺構は、上屋敷が5年間のみの機能という状況から、遺物による判別は困難であり、層位的判断と大工頭中井家の守護職指図(第2図)に残された位置情報から判断した。指図に記載されている上屋敷の敷地と現在の府庁域の形状は、ゆがみがあるもののおおよそ合致することから指図と現在の京都府庁を重ね、調査地に該当すると思われる建物に検討を加えた。

S B 3975(上屋敷)、及びS E 3335とS E 3312は指図から、S L 3016は層位から判断した。井戸から出土した遺物は近代の陶磁器が主体であり、中学校時代から京都府庁時代に役目を終えて埋没したと考えられる。S E 3312は井戸枠内から瓦が多量に出土し、瓦当が確認できたことから、可能な限り報告している。瓦に被熱痕はなく、本瓦が混じることから上屋敷築造に伴って葺かれ、上屋敷廃絶後から継続して転用された後、役目を終えて投棄されたと考えられる。S L 3016は嘉永の焼土を削平して設置されたかまどで、層位から守護職関係の施設と判断したが、指図では「ドマ」隣の「八帖」と書かれた空間に位置することから、指図と相違する。左京一条三坊二町の調査でも指摘されているが、上屋敷は建設段階で改変が行われていたともあり、今回のかまどもその可能性を示唆していると判断し、報告することとした。このほか、S S 3056は漆喰で造られた排水施設であり、指図上では「ドマ」に位置する。調理等で使用した水を捨てる施設であったのだろう。その南のS B 3975(上屋敷)は、指図上では板間と四帖が位置する。

(6) 中学校(第178図)

京都守護職の上屋敷が廃されたのちさまざま公の施設が当地に移転したが、京都府中学校は明治6年から17年にかけて存続していた。建物は新築されており、関連施設の基礎などが見つかっている。S S 3076、S S 3077からS S 3080は中央建物の周囲をかこむ踏み石である。また、S S 3043はぐり石が敷き詰められた遺構であるが、延長線上の東壁に石組があり、溝であると判断した。溝は踏み石を横切っている。東側は新町通りの側溝に接続し排水していたようである。S S 3021は「学

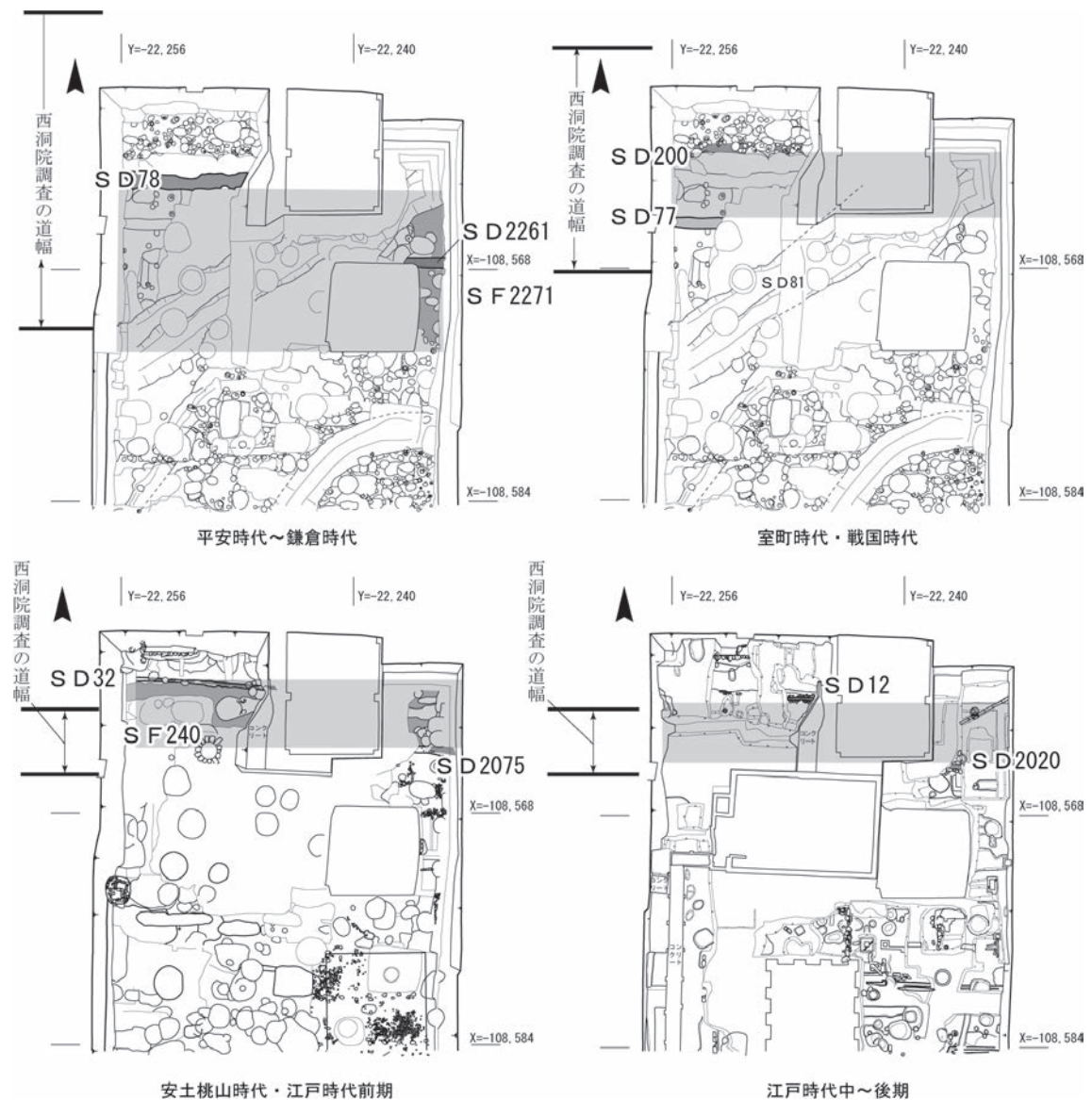


第178図 中学校の遺構

務小便詰所」の建物基礎である。S J 3028はその便所の底部に当たる。甕の壁面に尿素の結晶物が付着していることから、便所は溜め置きしておいて汲み取っていたようである。北側のS D 2014は土管の敷設された暗渠で、S S 2003～2005が基礎を担う「英学生寄宿舎」の排水管である。

(7)京都府庁

今回の調査でレンガ積の建物基礎などが見つかっているが、紙幅の都合上別稿にて紹介したい。今回報告したのは、鉄筋コンクリート製のボイラー室に付属する燃焼部の掘形であるS K 2001・S K 2002の遺物である。土瓶が集中して出土している。土瓶は、底部や蓋の裏に各々の所有課が記されているものがあつた。インク瓶やガラス瓶は、燃焼部周囲から出土している。炭化物を主体とする埋土中から出土しており、ゴミとして処分する際に焼け残りの煤などとともに廃棄されたと考えられる。ガラス瓶の「カルピス製造株式会社」は、「カルピス」の製造元が、大正12(1923)年に会社の商号を「カルピス製造株式会社」に変更した後、昭和23(1948)に「カルピス食品工業



第179図 近衛大路の変遷について

株式会社」に商号を変更するまでの間に生産されていた瓶であると考えられる。また、「DAINIPPON BREWERY」及び「大日本麦酒株式会社」は、明治39(1906)年に大阪麦酒と日本麦酒と札幌麦酒が合併して誕生する大日本麦酒株式会社のことと考えられる。同社はアサヒ・サッポロ・エビス・ユニオン・カブトなどビールを販売したが、昭和24(1949)年解散している。これらの遺物から、ボイラー室は20世紀の前半に稼働していたといえよう。

また、SM3968はその上面から明治13年に鑄造された二銭銅貨が出土しており、その頃に敷設された整地であると考えられる。

2) 近衛大路の変遷について

調査区北側は、過去の平安京(左京近衛・西洞院)(以下西洞院)の調査成果から、近衛大路が通っていたと推定される範囲であり、調査着手段階より平安京から江戸時代に至るまでの路面が検出される可能性が示唆されていた。第179図には、本調査で明らかとなった各時代の近衛大路の状況を示している。各時代の平面図の左側に示している線幅が、西洞院で検出された路面の位置である。SF2271は平安時代の路面であると想定され、図のトーンで示した範囲が平安京当初の近衛大路であると考えられる。また、SD78とSD2261はそれぞれ道路側溝であるが、南限はSF2271の確認できる範囲をもって南限とした。ともに平安京当初から存在する道路側溝ではなく、道幅が変更された鎌倉時代初頭頃の範囲を示す側溝であろう。SD78は北側側溝で、SD2261が南側側溝と考えられる。平安京建設当初の道幅は、西洞院と南限をほぼ同じくする。北端については、鎌倉時代初頭の段階しか判別できないが、この時期から道幅は縮小している。

室町・戦国時代では、SD77とSD200が道路側溝として確認できる。ただし、近衛大路を横断するSD81が機能していた段階でも道路側溝として機能していたかどうかは不明である。道幅SF2271と比較して半分程度にまで縮小しており、かつ西洞院の成果と比較しても半分以下である。北側はピットが集中していることから、宅地化していると考えられる。

近衛大路は江戸時代以降、出水通りと呼称されるようになることから、以下は近衛大路を出水通りと呼称する。江戸時代初頭ではSD2075が出水通りの南側側溝となり、SD32が北側側溝として機能しているならば、第179図左下のようなになる。室町・戦国時代から位置と道幅にあまり変化はない。西洞院辻の成果と比較しても路面幅に差はないが、当調査地の方が北に振れている。江戸時代中期にはSD12が北側側溝、江戸時代後期にはSD2020が南側側溝として機能している。道幅はやや狭くなり南に振れているが、西洞院で見つかっている路面の延長線上に調査地の路面が位置する。西洞院で指摘されていたように、路面は時期が経つにつれて道幅が縮小する傾向が見られたが、室町時代以降の道幅に大きな変化はなく、南に振れるなどの変化がみられるにとどまった。

(加藤雄太)

参考文献

平尾政幸2019「土師器再考」『洛史 研究紀要』第12号 京都市埋蔵文化財研究所

藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

藤澤良祐2005『瀬戸窯跡群』同成社

- 佐藤亜聖1996「大和における瓦質土器の展開と画期」『中近世土器の基礎研究Ⅺ』日本中世土器研究会
- 小田木富慈美2017「大阪市内出土の陶器・土器類～17世紀の甕・播鉢・壺を中心に～」『関西近世考古学研究会 17世紀における甕・播鉢の流通』関西近世考古学研究会
- 山本雅和2017「17世紀の京都のやきもの」『関西近世考古学研究会 17世紀における甕・播鉢の流通』関西近世考古学研究会
- 重根弘和2018「備前－分類と分布－」『第36回中世土器研究会 国産陶器の系譜と暦年代』日本中世土器研究会
- 新田和央2014「京都出土の東磐系須恵器鉢」『第33回中世土器研究会 交番系須恵器(2)－編年と分布から考える－』日本中世土器研究会
- 長谷川眞2007「近世丹波焼の生産と流通」『大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター 研究報告 近世丹波焼の研究』第3号 大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター
- 畑中英二2003『信楽焼の考古学的研究』サンライズ出版
- 畑中英二2007『続・信楽焼の考古学的研究』サンライズ出版
- 橋本久和2018『概論 瓦器碗研究と中世社会』真陽社
- 中世土器研究会編1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 大橋康二2004「將軍家献上以外の特別な意味をもつ肥前磁器二題－禁裏御用陶器と梅干用壺－」『佐賀県立九州陶磁文化館 研究紀要』第3号 佐賀県立九州陶磁文化館
- 九州近世陶磁学会編 2000『九州陶磁の編年－九州近世陶磁学会10周年記念－』九州近世陶磁学会
- 瀬戸哲也2010「沖縄における12～16世紀貿易陶磁－中国産陶磁を中心とした様相と組成－」『貿易陶磁研究』第30号 日本貿易陶磁研究会
- 新垣力・瀬戸哲也2005「沖縄における14世紀～16世紀の中国産白磁の再整理 付.14～16世紀の青磁の様相整理メモ」『紀要 沖縄埋文研究3』沖縄県立埋蔵文化財センター
- 瀬戸哲也・仁王浩司・玉城靖・宮城弘樹・安座間充・松原哲志2008「沖縄における貿易陶磁研究－14～16世紀を中心に－」『紀要 沖縄埋文研究5』沖縄県立埋蔵文化財センター
- 江戸遺跡研究会2018「遺物にみる幕末・明治 資料編」『江戸遺跡研究会第31回大会遺物にみる幕末・明治』江戸遺跡研究会
- 小栗康寛「近世・近代における土管の様相－常滑を中心に－」『江戸遺跡研究会第31回大会遺物にみる幕末・明治』江戸遺跡研究会
- 山崎信二2008『奈良文化財研究所学報 近世瓦の研究』第78冊 奈良文化財研究所
- 奥村寛純 編1976『伏見人形の原型』伏偶舎
- 扇浦正義、大橋康二2020「唐人屋敷跡出土の清朝陶磁中心の変遷」『第9回 近世陶磁研究会 江戸時代における年代の判る罹災資料－中国陶磁と肥前陶磁の共伴資料を中心に－』近世陶磁研究会
- 池 修2012『御所の器』光村推古書院
- 江戸遺跡研究会編2001『図説江戸考古学研究事典』柏書房
- 財団法人京都市埋蔵文化財研究所2004『平安京左京北辺四坊－第2分冊(公家町)－』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第22冊
- 古代学協会・古代学研究所1994『平安京提要』角川書店
- 京都府教育会1935『京都府教育史 上』
- 谷 直樹編2003『大工頭中井家建築指図集 中井家所蔵本』思文閣出版

付編 1. 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・辻 康男

1. はじめに

焼土面を形成した被熱時期の検討を目的に、焼土面直下の堆積層表層で採取された炭化材片について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。



写真1 測定試料

2. 試料と方法

焼土面を形成した被熱時期の検討を目的に、焼土面直下の堆積層表層で採取された炭化材片について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。

表1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-41261	遺構：S X 2165 調査区：2区 層位：焼土面直下	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、暦年較正結果を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代(yrBP)の算出には、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

表2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-41261	-26.59 \pm 0.23	368 \pm 20	370 \pm 20	1464-1514 cal AD (49.0%) 1599-1617 cal AD (19.2%)	1451-1523 cal AD (60.7%) 1572-1630 cal AD (34.7%)

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い(^{14}C の半減期 5730 ± 40 年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正にはOxCal4.3(較正曲線データ: IntCal13)を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

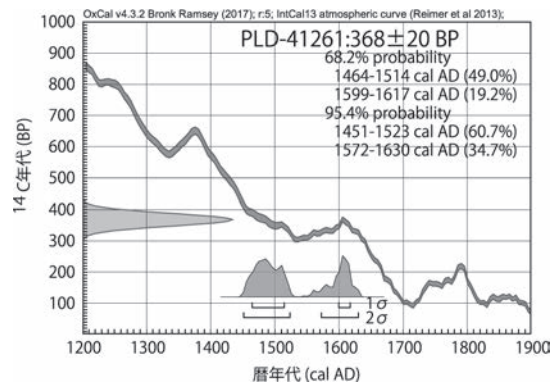


図1 暦年較正結果

4. 考察

測定結果(以下の暦年較正年代は 2σ の値)は、 ^{14}C 年代が 370 ± 20 BP、較正年代が1451-1523 cal AD (60.7%)および1572-1630 cal AD (34.7%)で、15世紀中頃～17世紀前半を示した。児玉編(2018)ふまえると、この較正年代は、室町時代前期～江戸時代前期に対比される。

今回の年代測定試料の採取層準の下位では、15世紀末～16世紀前半に埋没した堀が検出されている。また、年代試料の採取層準の上位には、江戸時代初頭(17世紀前半)の遺構が存在する。これらの層準に挟まれた焼土面直下の炭化材片の暦年代は、上記の層序関係と矛盾しないと判断されるが、詳細な時期の絞り込みには至っていない。

なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。今回試料とした炭化材は、最終形成年輪が確認できない部位不明の木片である。したがって、測定結果は古木効果の影響を受けている可能性があり、その場合、木が実際に枯死もしくは伐採されたのは測定結果よりもやや新しい年代と考えられる。

参考文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

児玉幸多編2018 標準日本史年表. 66p, 吉川弘文館.

中村俊夫2000 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. 2013 IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

付編 2. 花粉分析、プラント・オパール分析

森 将志(パレオ・ラボ)

1. はじめに

調査区付近の古環境を検討するために、堀(S D 3370)の底部の堆積物が採取された。以下では、試料について行った花粉分析とプラント・オパール分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。なお、同一試料を用いて珪藻分析も行われている(珪藻分析の項参照)。

2. 分析試料および方法

表1 分析試料一覧

試料 No.	調査区	遺構	層位	岩質
No. 5	3区	S D 3370	59層	腐植質粘土質シルト
No. 7			61層	砂混じりシルト

分析試料は、3区の堀(S D 3370)から採取された堆積物2点(No.5、No.7)である(表1)。S D 3370は、深さ約

2.0mを測る、戦国時代に構築された「構」に伴う堀である。時期は、堀底部の出土遺物から15世紀末と考えられている。今回の分析試料は、堀の底部から採取されており、堆積時期は15世紀末と判断される。

S D 3370では、底部から20cm前後の厚さで堀の機能時～放置期に堆積したとみられる泥質堆積物が存在しており、この部分が分析層準に相当する。機能時～放置期の泥質堆積物の上部には、堀を埋め立てた偽磔を多く含む客土が厚く累重する。図1と写真1に、分析層準の堆積状況と岩質および試料の位置を示した。No.5は土壌化した黒色腐植質粘土質シルトであり、No.7は青灰

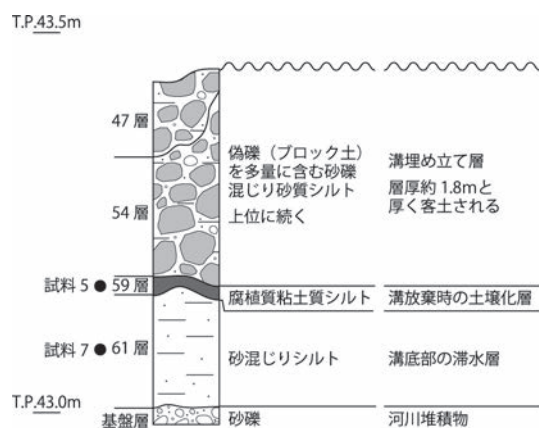


図1 堀(S D 3370)の分析層準の堆積状況

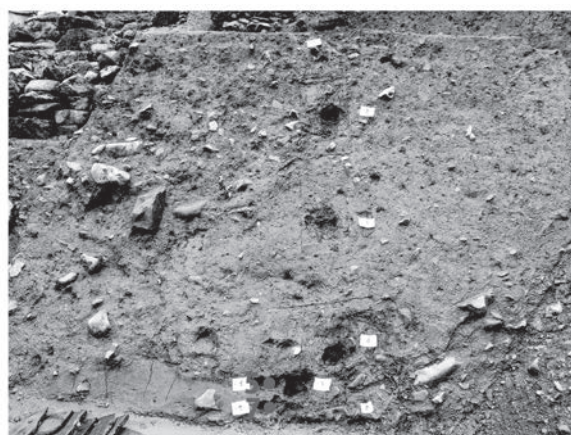


写真1 試料採取断面

色の砂混じりシルトである。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

2-1. 花粉分析

試料(湿重量約4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶

液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し、保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200に達するまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本(PLC.3064~3072)を作製し、写真を図版1に載せた。

2-2. プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、植物珪酸体の写真を撮り、図版2に載せた。

3. 結果

3-1. 花粉分析

2試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉20、草本花粉24、形態分類のシダ植物胞子1の、総計45である。これらの花粉・胞子の一覧表を表2に、分布図を図2に示した。分布図における樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分率で、草本花粉と胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。図表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。また、クワ科やユキノシタ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源の分類群があるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

両試料ともに、草本花粉の産出割合が高く、樹木花粉の産出割合は低い。草本花粉では、No.5でサナエタデ節-ウナギツカミ節やセリ科が、No.7でアカザ科-ヒユ科などの産出が目立つ。また、ソバ属やベニバナ属といった栽培植物が両試料から産出している。樹木花粉では、両

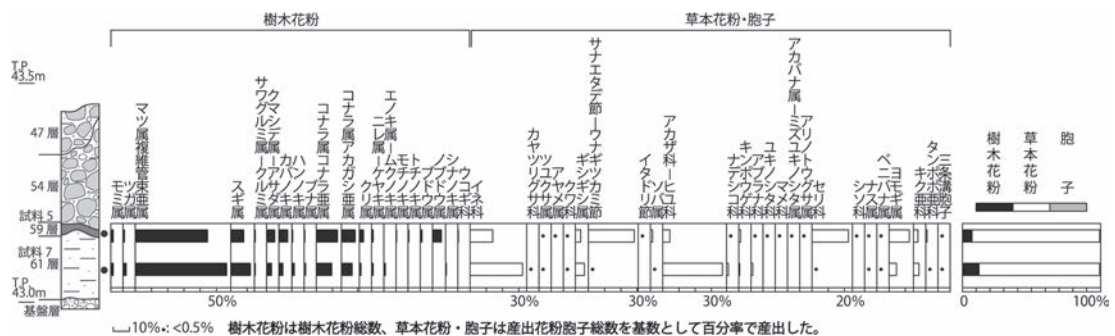


図2 花粉分布図

表2 産出花粉孢子一覧表

学名	和名	No. 5	No. 7
樹木			
<i>Abies</i>	モミ属	3	3
<i>Tsuga</i>	ツガ属	2	4
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	89	113
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	16	24
<i>Pterocarya - Juglans</i>	サワグルミ属-クルミ属	1	1
<i>Carpinus - Ostrya</i>	クマシデ属-アサダ属	10	6
<i>Betula</i>	カバノキ属	11	5
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1	3
<i>Fagus</i>	ブナ属	1	2
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	26	19
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	17	13
<i>Castanea</i>	クリ属	5	2
<i>Ulmus - Zelkova</i>	ニレ属-ケヤキ属	2	2
<i>Celtis - Aphananthe</i>	エノキ属-ムクノキ属	-	2
<i>Ilex</i>	モチノキ属	1	-
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	1	-
<i>Vitis</i>	ブドウ属	2	-
<i>Ampelopsis</i>	ノブドウ属	11	-
<i>Tilia</i>	シナノキ属	-	1
Araliaceae	ウコギ科	1	-
草本			
Gramineae	イネ科	397	533
Cyperaceae	カヤツリグサ科	0	1
<i>Commelina</i>	ツユクサ属	5	1
<i>Iris</i>	アヤメ属	7	-
Moraceae	クワ科	9	3
<i>Rumex</i>	ギシギシ属	88	90
<i>Polygonum sect. Persicaria - Echinocaulon</i>	サナエタデ節-ウナギツカミ節	797	6
<i>Polygonum sect. Reynoutria</i>	イタドリ節	3	-
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属	33	6
Chenopodiaceae - Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	124	605
Caryophyllaceae	ナデシコ科	3	19
Ranunculaceae	キンボウゲ科	35	9
Brassicaceae	アブラナ科	11	19
Saxifragaceae	ユキノシタ科	3	-
Leguminosae	マメ科	1	-
<i>Epilobium - Ludwigia</i>	アカバナ属-ミズユキノシタ属	2	-
<i>Haloragis</i>	アリノトウグサ属	1	-
Apiaceae	セリ科	634	5
Labiatae	シソ科	3	-
<i>Solanum</i>	ナス属	1	1
<i>Carthamus</i>	ベニバナ属	1	2
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	355	75
Tubuliflorae	キク亜科	78	55
Liguliflorae	タンポポ亜科	21	8
シダ植物			
trilete type spore	三条溝孢子	4	3
Arboreal pollen	樹木花粉	200	200
Nonarboreal pollen	草本花粉	2612	1438
Spores	シダ植物孢子	4	3
Total Pollen & Spores	花粉・孢子総数	2816	1641
unknown	不明	13	7

表3 試料1g当りのプラント・オパール個数

	イネ (個/g)	イネ類破片 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	ポイント型珪酸体 (個/g)	不明 (個/g)
No. 5	21,800	2,000	69,400	7,900	2,000	13,900	21,800	13,900	4,000
No. 7	18,800	5,400	55,200	1,300	0	14,800	14,800	0	10,800

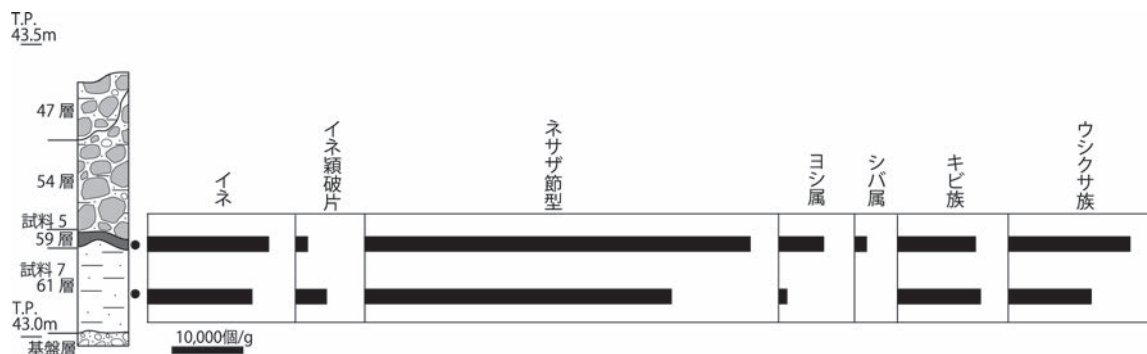


図3 植物珪酸体分布図

試料ともにマツ属複維管束亜属やコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属などの産出が目立つ。

3-2. プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め(表3)、分布図に示した(図3)。検鏡の結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の6種類の機動細胞珪酸体の産出が確認できた。

両試料ともにイネ機動細胞珪酸体やネザサ節型機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が目立つ。

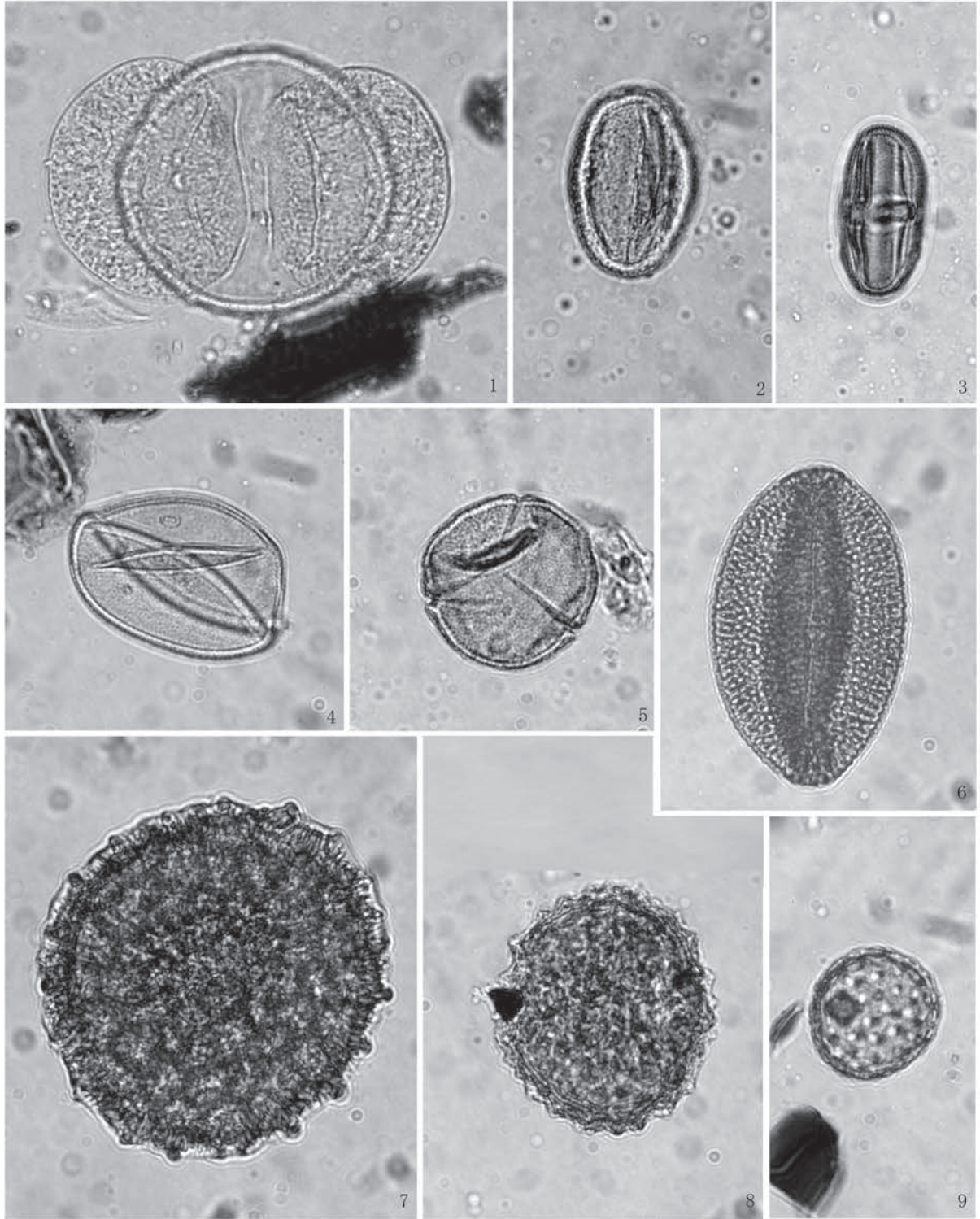
4. 考察

花粉分析では、両試料ともに草本花粉の産出割合が高く、樹木花粉の産出割合が低い結果となった。試料採取地点は、深さのある堀である。堀周辺は、樹木が鬱蒼と茂るような場所ではなく、草本類が生育する開けた環境であったと思われる。堀周辺に生育していた草本類としては、イネ科やギシギシ属、キンポウゲ科、ヨモギ属、キク亜科などが挙げられる。これらの分類群は両試料ともに同様な産出率を示すため、No.5とNo.7の堆積時に共通して生育していたと思われるが、No.5とNo.7で産出率が著しく異なる分類群もある。例えば、サナエタデ節-ウナギツカミ節とセリ科はNo.5で産出率が高く、アカザ科-ヒユ科はNo.7で産出率が高い。堀周辺の草本類の分布状況はNo.5の堆積時とNo.7の堆積時で異なっており、No.5の堆積時にはサナエタデ節-ウナギツカミ節とセリ科が、No.7の堆積時にはアカザ科-ヒユ科が堀周辺に分布を広げていた可能性がある。また、樹木花粉に含めているノブドウ属もNo.5とNo.7で産出率が異なり、No.7

では産出していないが、No.5において数%の産出率を示す。No.5の堆積時には、堀周辺につる性植物のノブドウ属も生育していたと考えられる。その他には、両試料ともに栽培植物のソバ属とベニバナ属が検出されているため、堀周辺においてソバ栽培やベニバナ栽培が行われていた可能性がある。

プラント・オパール分析の結果では、両試料ともにネザサ節型機動細胞珪酸体やキビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が目立つ。堀周辺にはネザサ節のササ類やキビ族、ウシクサ族といったイネ科植物が生育していたと考えられる。さらに、両試料からはイネの葉身で形成されるイネ機動細胞珪酸体や、籾殻に形成されるイネ穎破片が検出された。堀には、何らかの要因でイネの葉身や籾殻が堆積していた可能性がある。その他では、抽水植物のヨシ属の機動細胞珪酸体も両試料から検出された。ヨシ属機動細胞珪酸体はNo.5において産出量が増している。ただし、花粉分析の結果では湿地的環境の場所に生育するような分類群の顕著な産出がみられないため、ヨシ属機動細胞珪酸体のこの産出状況は、廃絶期の客土に被覆される放置期に相当するとみられる堀底の土壤化層準から採取されたNo.5での局地的な古植生を示していると考えられる。花粉分析の結果と合わせると、S D3370が埋め立てられる段階以前には、周囲につる性のノブドウ属やサナエタデ節-ウナギツカミ節、セリ科、荒地に生育するヨモギ属などの雑草が繁茂するとともに、堀底にヨシ属の分布が拡大する植生景観が形成されていたとみられ、堀が維持管理されなくなり、放置された期間が幾分存在していたと推定される。

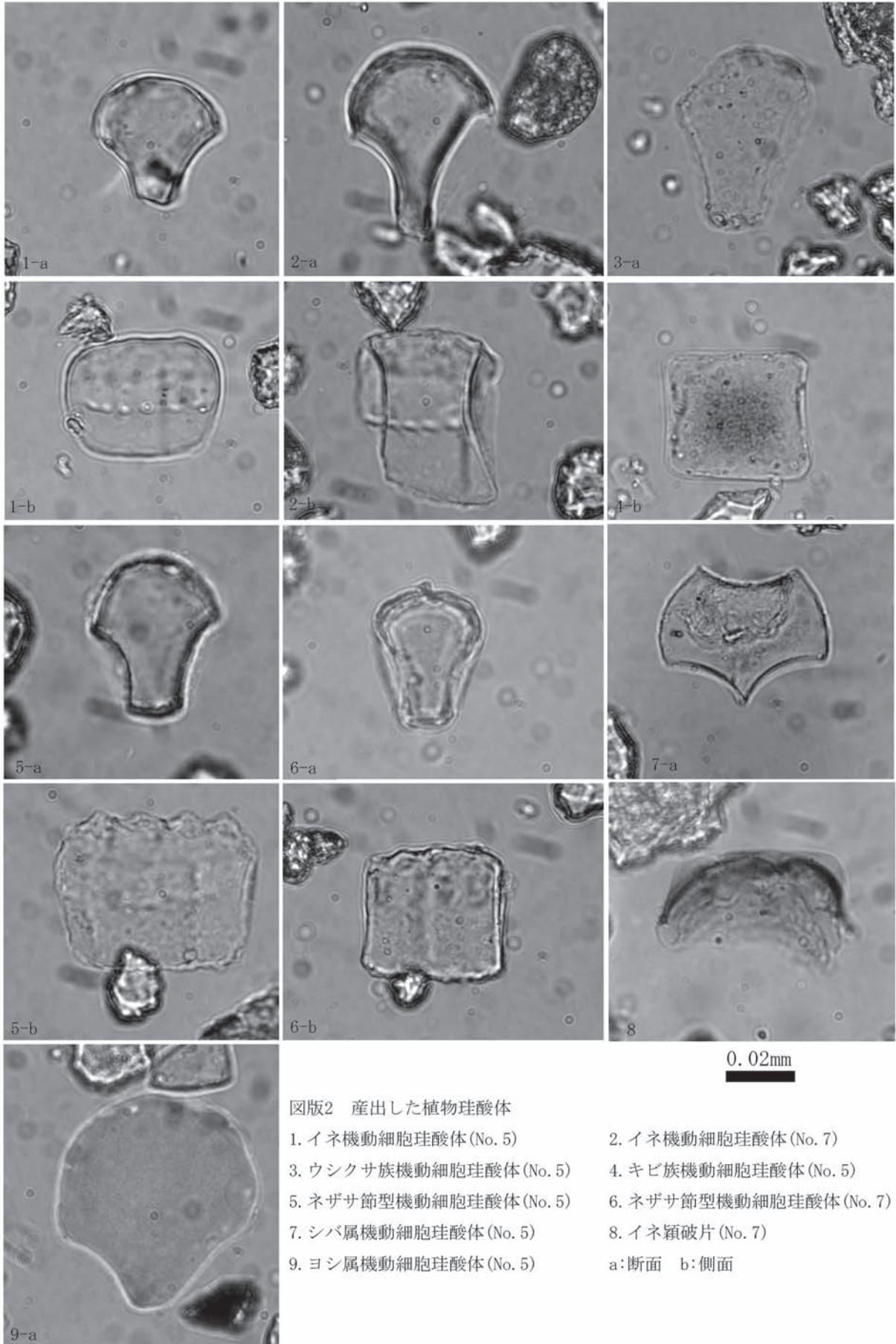
以上は堀周辺の古植生についてであったが、遺跡周辺のより広範囲の古植生に目を向けると、花粉分析の結果では、両試料ともにマツ属複維管束亜属やコナラ属コナラ亜属といった二次林要素の分類群の産出が目立つ。よって、遺跡周辺の京都盆地を取り巻く山地や丘陵および台地にはニヨウマツ類やコナラなどからなる二次林が広がっていたと思われる。さらに、両試料ともにコナラ属アカガシ亜属やスギ属の産出も見られ、カシ類の照葉樹林やスギ林も遺跡周辺に分布していたと考えられる。



0.02mm

図版1 産出した花粉化石

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| 1. マツ属複維管束亜属 (PLC. 3064 No. 5) | 2. ノブドウ属 (PLC. 3065 No. 5) |
| 3. セリ科 (PLC. 3066 No. 5) | 4. イネ科 (PLC. 3067 No. 7) |
| 5. ギシギシ属 (PLC. 3068 No. 7) | 6. ソバ属 (PLC. 3069 No. 5) |
| 7. サナエタデ節-ウナギツカミ節 (PLC. 3070 No. 5) | 8. ベニバナ属 (PLC. 3071 No. 7) |
| 9. アカザ科-ヒユ科 (PLC. 3072 No. 7) | |



0.02mm

図版2 産出した植物珪酸体

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. イネ機動細胞珪酸体 (No. 5) | 2. イネ機動細胞珪酸体 (No. 7) |
| 3. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (No. 5) | 4. キビ族機動細胞珪酸体 (No. 5) |
| 5. ネザサ節型機動細胞珪酸体 (No. 5) | 6. ネザサ節型機動細胞珪酸体 (No. 7) |
| 7. シバ属機動細胞珪酸体 (No. 5) | 8. イネ穎破片 (No. 7) |
| 9. ヨシ属機動細胞珪酸体 (No. 5) | a: 断面 b: 側面 |

付編 3. 珪藻化石分析

野口真利江・辻 康男(パレオ・ラボ)

1. はじめに

珪藻は、10~500 μm ほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形や刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている(小杉1988; 安藤1990)。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においても、わずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境(例えばコケの表面や湿った岩石の表面など)に生育する珪藻種が知られている。こうした珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

ここでは、堀(S D3370)の機能時~放置期に相当する底部で採取された試料の珪藻化石群集を調べ、当該層準の堆積環境および水文環境について検討した。

2. 試料と方法

試料は、S D3370底部のNo.5(59層)とNo.7(61層)であり、花粉分析とプラント・オパール分析と同一試料である。試料の採取位置や岩質記載は、花粉分析とプラント・オパール分析の項で示しているので参照願いたい。

各試料について以下の処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

(1) 湿潤重量約0.6gを取り出し、秤量した後ビーカーに移して30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。(3) 懸濁残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し、乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入し、プレパラートを作製した。

作製したプレパラートは顕微鏡下600~1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。珪藻殻は、完形と非完形(原則として半分程度残っている殻)に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。さらに、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から、堆積物1g当たりの殻数を計算した。また、保存状態の良好な珪藻化石を選び、写真を図版1に載せた。

3. 珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉(1988)および安藤(1990)が設定し、千葉・澤井(2014)により再検討された環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の淡水種は広布種(W)として、その他の種はまとめて不明種(?)として扱った。また、破片のため属レベルの同定にとどめ

た分類群は、その種群を不明(?)として扱った。以下に、安藤(1990)が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

[上流性河川指標種群(J)]：河川上流部の溪谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

[中～下流性河川指標種群(K)]：河川の中～下流部、すなわち河川沿いで河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種には、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

[最下流性河川指標種群(L)]：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになるためである。

[湖沼浮遊生指標種群(M)]：水深が約1.5m以上で、岸では水生植物が見られるが、水底には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。

[湖沼沼沢湿地指標種群(N)]：湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群である。

[沼沢湿地付着生指標種群(O)]：水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地において、付着の状態が優勢な出現が見られる種群である。

[高層湿原指標種群(P)]：尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

[陸域指標種群(Q)]：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である(陸生珪藻と呼ばれている)。

[陸生珪藻A群(Qa)]：耐乾性の強い特定のグループである。

[陸生珪藻B群(Qb)]：A群に随伴し、湿った環境や水中にも生育する種群である。

4. 結果

堆積物から検出された珪藻化石は、淡水種が22分類群16属13種2変種であった(表1)。これらの珪藻化石は、淡水域における4環境指標種群(K、L、O、Qa)に分類された(表1)。また、珪藻分布図を図1に示した。以下では、各試料における珪藻化石の特徴とその堆積環境について述べる。

・No.5(59層)

堆積物1g中の珪藻殻数は 4.8×10^7 個、完形殻の出現率は80.6%である。堆積物中の珪藻殻数は非常に多い。環境指標種群では、中～下流性河川指標種群(K)が多く、沼沢湿地付着生指標種群(O)をわずかに伴う。

・No.7(61層)

堆積物1g中の珪藻殻数は 6.2×10^7 個、完形殻の出現率は86.8%である。堆積物中の珪藻殻数は

表1 堆積物中の珪藻化石産出表(種群は、千葉・澤井(2014)による)

No.	分類群	種群	No. 5	No. 7	
1	<i>Achnanthes</i>	<i>hungarica</i>	K	9	
2	<i>A.</i>	spp.	?	25	11
3	<i>Cyclotella</i>	<i>meneghiniana</i>	L		14
4	<i>Diatoma</i>	<i>mesodon</i>	W	1	
5	<i>Eunotia</i>	<i>pectinalis</i> var. <i>minor</i>	O	6	2
6	<i>E.</i>	spp.	?	3	
7	<i>Fragilaria</i>	<i>vaucheriae</i>	K	1	
8	<i>Gomphonema</i>	<i>parvulum</i>	W	6	20
9	<i>G.</i>	spp.	?	1	
10	<i>Luticola</i>	<i>mutica</i>	Qa		1
11	<i>Melosira</i>	<i>varians</i>	K	35	23
12	<i>Meridion</i>	<i>circulae</i>	W	2	
13	<i>M.</i>	<i>circulae</i> var. <i>constricta</i>	K	8	3
14	<i>Navicula</i>	<i>elginensis</i>	O	2	
15	<i>N.</i>	spp.	?	7	3
16	<i>Nitzschia</i>	spp.	?	19	4
17	<i>Pinnularia</i>	<i>gibba</i>	O	3	3
18	<i>P.</i>	spp.	?	1	1
19	<i>Planothidium</i>	<i>lanceolatum</i>	K	69	98
20	<i>Sellaphora</i>	<i>pupula</i>	W	4	6
21	<i>Surirella</i>	spp.	?	1	22
22	<i>Synedra</i>	<i>ulna</i>	W	1	
23		Unknown	?	2	1
合計				206	212
中～下流性河川			K	122	124
最下流性河川			L		14
沼沢湿地付着生			O	11	5
陸生A群			Qa		1
広布種			W	14	26
淡水不定・不明種			?	57	41
その他不明種			?	2	1
淡水種				204	211
完形殻の出現率 (%)				80.6	86.8
堆積物 1g 中の殻数 (個)				4.8E+07	6.2E+07

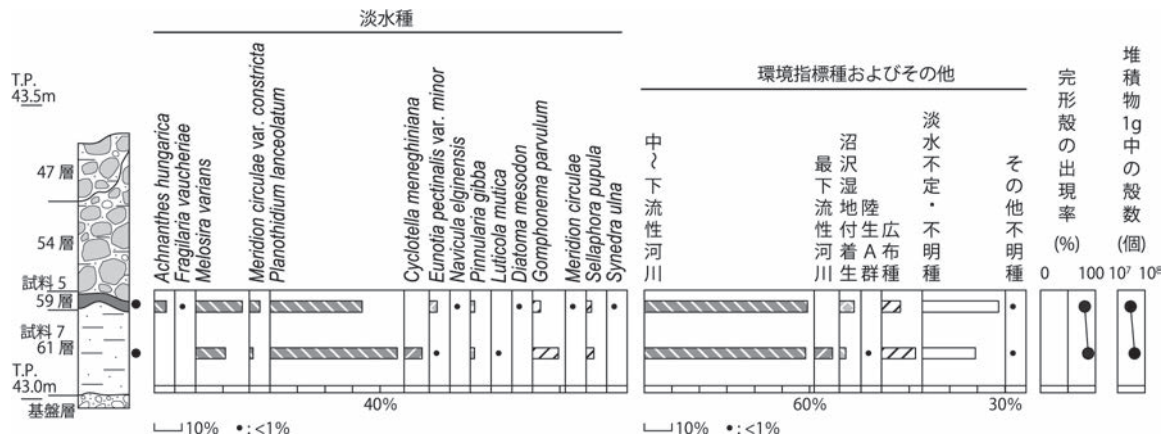


図1 堆積物中の珪藻化石分布図(主な分類群を表示)

非常に多い。環境指標種群では、中～下流性河川指標種群(K)が多く、最下流性河川指標種群(L)や沼沢湿地付着生指標種群(O)などをわずかに伴う。

5 . 考 察

No.5とNo.7では、いずれも流水環境下に生育する中～下流性河川指標種群が優占する。よって、S D3370の堀底は、水が澱み滞水するような閉鎖的な状況ではなく、一定の水の流れが生じるような状況であったと考えられる。分析層準は、堀の機能期～放置期に形成された底部の層厚20cm程度の泥質堆積物であり、この上部に層厚1.8m程度の厚い客土が載る。遺構の検出状況から、S D3370は深い堀であり、水を滞水させた場合に、十分な水深のある水域を形成できたと判断される。ただし、水深のある止水域に出現する珪藻群集を伴わない分析結果と堀埋土の層相から、機能期～放置期のS D3370は、水深のある水堀ではなく、底部に極浅く湛水が生じるのみであり、さらに底部でその水に流れが生じるような水文環境が形成されていたと推定される。断面写真の観察と試料の岩質から、S D3370の分析層準はいずれも泥質堆積物であり、明瞭な葉理や砂の薄層も挟在しないと認識できる。この特徴から、S D3370の水域で生じていた水の流れは、かなり弱かったと推測される。

なお、No.5とNo.7のいずれの試料でも、第一位優占種はPlanothidium lanceolatumで、第二位優占種はMelosira variansであった。優占種は、どちらも貧腐水性水域を好む種である（渡辺・浅井, 1992）。よって、S D3370の堀底では、周辺からの有機物の流入などの汚染のないきれいな水が流下していた可能性が高い。

また、第二位以下の優占種に着目すると、No.7ではGomphonema parvulumとCyclotella meneghinianaという、共に β 中腐水性水域を好む種が付随し（渡辺ほか, 2005）、No.5ではAchnanthes属が多く、なかでもAchnanthes hungaricaが特徴的であった。Achnanthes hungaricaは有機汚濁に関しては広適応性種であるものの、Achnanthes属が第一位優占種となる群集の多くは清浄水域で出現する（渡辺ほか, 2005）。

付随する種群の産出傾向から、No.5に比べるとNo.7の水域環境はやや汚れていた可能性があるが、第一位および第二位優占種から考えて、いずれの水域環境も基本的には清浄水域であったと推定される。

以上から、S D3370の堀底は、水の流れを伴うような極浅い水深があり、滞水はせずに、溝底での水の循環や排水が良好であったと考えられる。このような状況は、S D3370が閉じられた閉鎖的な堀ではなく、どこかに排水口を伴うような構造であった可能性を示唆している。この点については、当時の地下水位や周辺の発掘調査結果などふまえ、さらに検討を要する。また、堀は、機能期と放置期を通じて、周囲から有機物などの廃棄物が多く流入する状況ではなかったとみられる。

引用・参考文献

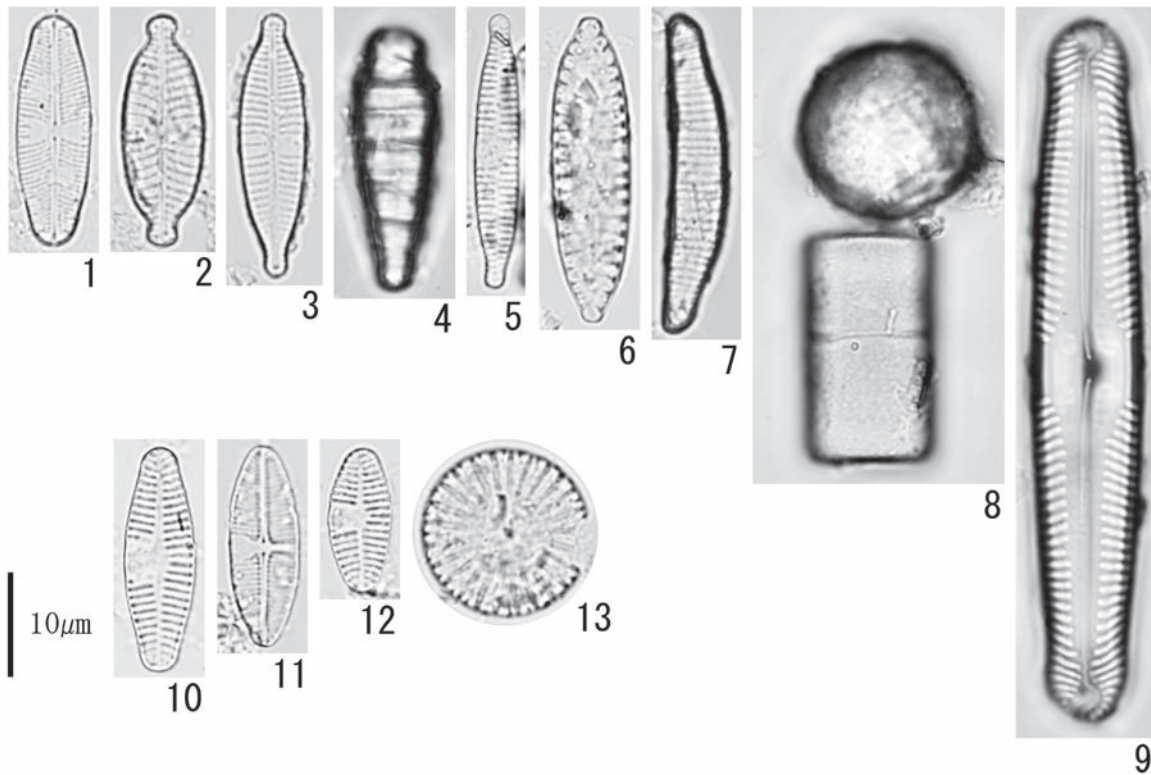
安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.

千葉 崇・澤井裕紀(2014)環境指標種群の再検討と更新. Diatom, 30, 7-30.

小杉正人(1988)珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.

渡辺仁治・浅井一視(1992)高優占度珪藻による有機汚濁度の判定(1). Achnanthes, Anomoeoneis, Aulacoseira, Melosiraを第1位種とする群集. Diatom, 7, 13-19.

渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻 彰洋・伯耆晶子(2005)淡水珪藻生態図鑑 群集解析に基づく汚濁指数DAI_{po}, pH耐性能. 784p, 内田老鶴圃.



図版1 堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真

1. *Sellaphora pupula* (No. 7) 2. *Navicula elginensis* (No. 5) 3. *Gomphonema parvulum* (No. 7)
 4. *Meridion circularae* var. *constricta* (No. 5) 5. *Fragilaria vaucheriae* (No. 5) 6. *Surirella* spp. (No. 2)
 7. *Eunotia pectinalis* var. *minor* (No. 5) 8. *Melosira varians* (No. 7) 9. *Pinnularia gibba* (No. 5)
 10. *Planothidium lanceolatum* (No. 7) 11. *Achnanthes hungarica* (No. 5)
 12. *Planothidium lanceolatum* (No. 5) 13. *Cyclotella meneghiniana* (No. 7)

付編 4. 出土甕付着物の成分分析

竹原弘展(パレオ・ラボ)

1. はじめに

出土した甕の付着物について成分分析を行い、甕が便槽である可能性を検討した。

2. 試料と方法

表1 分析対象

分析対象は、井戸 S E 3034より出土した甕の付着物(分析No.1)と、S J 3052に据えられた埋甕の底部付着物(分析No.2)の2点である(表1、図版1)。

分析No.	出土遺構	備考
1	S E 3034	井戸廃絶時に投棄された甕に、多量に付着する層状白色物
2	S J 3052	遺構に据えられた埋甕の底部に付着する塊状淡黄色物、鉄分の沈着有り

いずれの甕も、天明の大火(1788年)後に建てられた町家の便槽と推定されている。

分析は、白色物および淡黄色物を採取し、乳鉢でよく粉砕した後、蛍光X線分析とX線回折分析を実施した。

[蛍光X線分析]

蛍光X線分析は、マイラーフィルムを張った試料ホルダに粉末試料を入れて、測定した。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製エネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置は、X線管が最大50kV、1000 μ Aのロジウム(Rh)ターゲット、X線照射径が8mmまたは1mm、X線検出器はSDD検出器(VorteX)である。この装置は、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することでS/N比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム(Na)～ウラン(U)であるが、蛍光X線分析装置の性質上、軽元素の感度が若干低く、特に定量分析におけるナトリウムの精度は低い。

測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが15kV(一次フィルタ無し・Cl測定用)・50kV(一次フィルタPb測定用・Cd測定用)の4条件で、測定時間は各条件500～1000s、管電流自動設定、照射径8mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダードFP法による半定量分析を行った。

[X線回折分析]

X線回折分析は、粉末試料を試料板に充填し、不定方位試料として、測定した。

分析装置は、株式会社リガク製X線回折装置MiniFlex600を使用した。装置は、X線管が銅(Cu)ターゲット、検出器が一次元半導体検出器(D/teX Ultra)を使用している。測定条件は、40kV、15mA、走査速度2deg/min、ステップ幅0.02deg、走査範囲3～65deg、蛍光X線軽減モードに設定し、回転試料台で試料を回転させつつ測定した。

なお、X線回折分析では、アルカリ長石(正長石や微斜長石など)、斜長石(曹長石や灰長石など)

や粘土鉱物などのそれぞれの細分は容易ではなく、回折パターンの図中では一例として典型的な鉱物のピークを示すが、本文および表中ではアルカリ長石、斜長石、粘土鉱物(14Å 鉱物、10Å 鉱物、7Å 鉱物)といった名称を用いた。

3. 結果

[蛍光X線分析]

蛍光X線分析により得られた半定量分析結果を表2に示す。

分析No.1からは、カルシウム(CaO)が極めて多く検出された。ほかに、マグネシウム(MgO)、アルミニウム(Al₂O₃)、ケイ素(SiO₂)、リン(P₂O₅)、硫黄(SO₃)、カリウム(K₂O)、チタン(TiO₂)、マンガン(MnO)、鉄(Fe₂O₃)、銅(CuO)、亜鉛(ZnO)、ストロンチウム(SrO)、ジルコニウム(ZrO₂)、バリウム(BaO)が検出された。

分析No.2からは、鉄(Fe₂O₃)、リン(P₂O₅)、ケイ素(SiO₂)、カルシウム(CaO)が主に検出された。ほかに、マグネシウム(MgO)、アルミニウム(Al₂O₃)、硫黄(SO₃)、カリウム(K₂O)、チタン(TiO₂)、マンガン(MnO)、銅(CuO)、亜鉛(ZnO)、ヒ素(As₂O₃)、ルビジウム(Rb₂O)、ストロンチウム(SrO)、ジルコニウム(ZrO₂)、バリウム(BaO)、鉛(PbO)が検出された。

[X線回折分析]

X線回折分析により得られた回折パターンを図1に、検出された鉱物を表3に示す。

分析No.1からは、方解石(Calcite)、石英(Quartz)、斜長石(図では曹長石Albite)といった鉱物のピークが検出された。また、粘土鉱物に由来すると考えられる6.2°(14Å 鉱物：緑泥石、パーミキュライト、スメクタイト等)、8.8°(10Å 鉱物：雲母、ハロイサイト(10Å)等)、12.5°(7Å 鉱物：カオリン鉱物、蛇紋石類等)付近のピークも検出された。

分析No.2からは、石英(Quartz)、アルカリ長石(図では曹微斜長石Anorthoclase)、斜長石(図では曹長石Albite)といった鉱物のピークが検出された。また、粘土鉱物に由来すると考えられる8.8°(10Å 鉱物：雲母、ハロイサイト(10Å)等、図では白雲母Muscovite)付近のピークも検出された。

表2 蛍光X線半定量分析結果(mass%)

分析No.	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	CuO	ZnO	As ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	ZrO ₂	BaO	PbO
1	1.15	1.93	6.10	2.68	0.42	0.67	82.96	0.11	1.34	2.24	0.01	0.03	—	—	0.27	0.03	0.08	—
2	0.40	2.14	22.42	25.34	0.12	1.89	6.07	0.25	0.34	40.33	0.17	0.23	0.03	0.01	0.16	0.03	0.05	0.03

表3 X線回折分析による検出鉱物一覧

分析No.	方解石	石英	アルカリ長石	斜長石	14Å 鉱物	10Å 鉱物	7Å 鉱物
1	◎	◎		○	△	△	△
2		◎	○	○		△	

◎：よく一致するピークを検出 ○：ほぼ一致するピークを検出 △：微弱なピークを検出

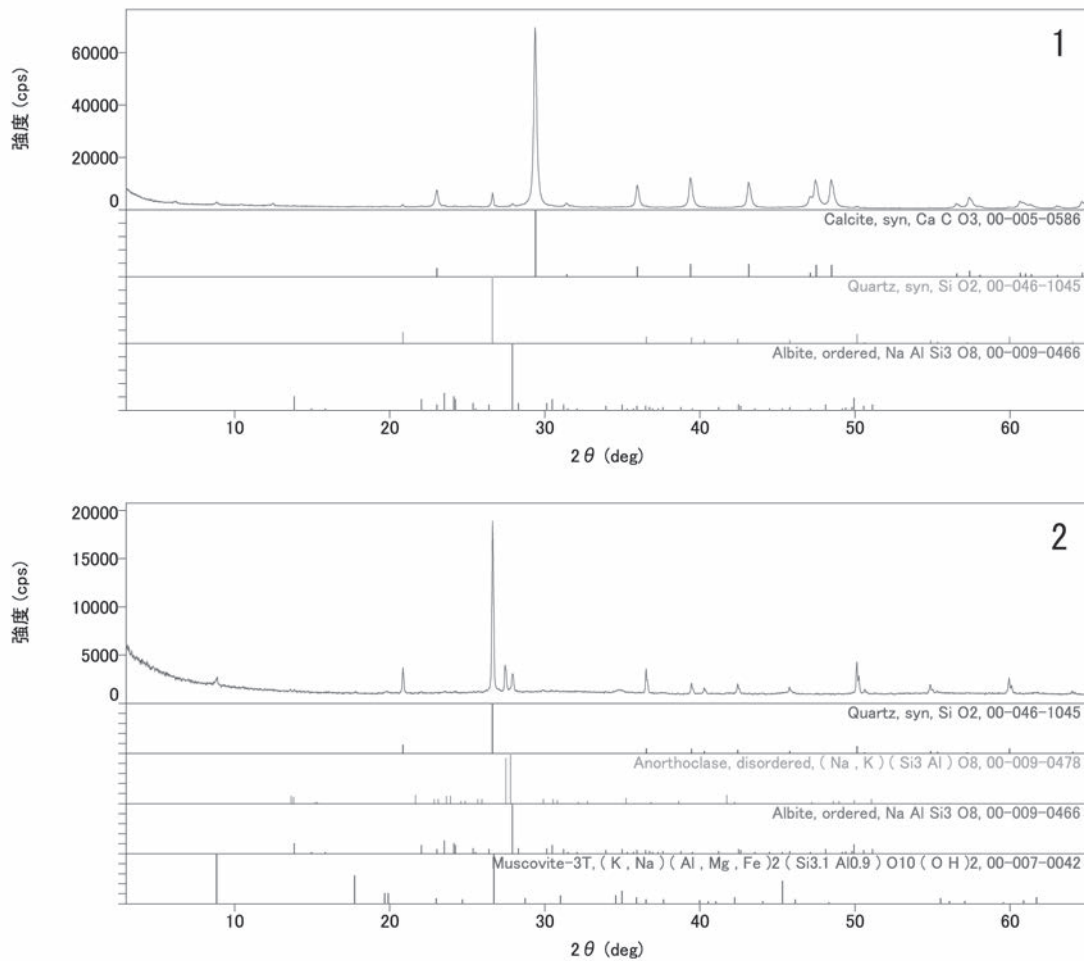


図1 X線回折パターン図 (1. 分析No.1 2. 分析No.2)

4. 考察

分析の結果、S E 3034出土甕の付着物(分析No.1)とS J 3052出土埋甕の付着物(分析No.2)とは、成分が大きく異なると判明した。

S E 3034出土甕の付着物(分析No.1)は、蛍光X線分析ではカルシウム(CaO)が大部分を占めており、X線回折分析の結果と併せると、白色物は炭酸カルシウム(CaCO₃)と考えられる。

一方、S J 3052出土埋甕の付着物(分析No.2)は、蛍光X線分析では鉄(Fe₂O₃)、リン(P₂O₅)、カルシウム(CaO)が多く検出されており、鉄またはカルシウムのリン酸塩の存在が予想されたが、X線回折分析では通常の土砂に含まれる成分しか検出されず、リン酸塩の明瞭なピークは確認されなかった。そのため、リン酸鉄やリン酸カルシウムの類は、X線回折分析では検出されない、非晶質の状態で存在していると推定される。

炭酸カルシウムやリン酸カルシウムは、トイレの使用に伴う析出物(尿石)であり得る物質であり、したがってS E 3034出土甕およびS J 3052出土埋甕が、ともに便槽であった可能性は十分に考えられる。一般的に、尿中の尿素は、分解されるとアンモニアとなり、pHが上がって槽内の水はアルカリ性となる。これにより、尿中の成分が、時には大気中の成分も取り込んで、難溶性の尿石となって析出し、固着する。今回分析した2試料の析出物の違いは、当時の使用環境や埋蔵環境の違いによると考えられる。ただし、S E 3034出土甕の付着物(分析No.1)はリンがそれ

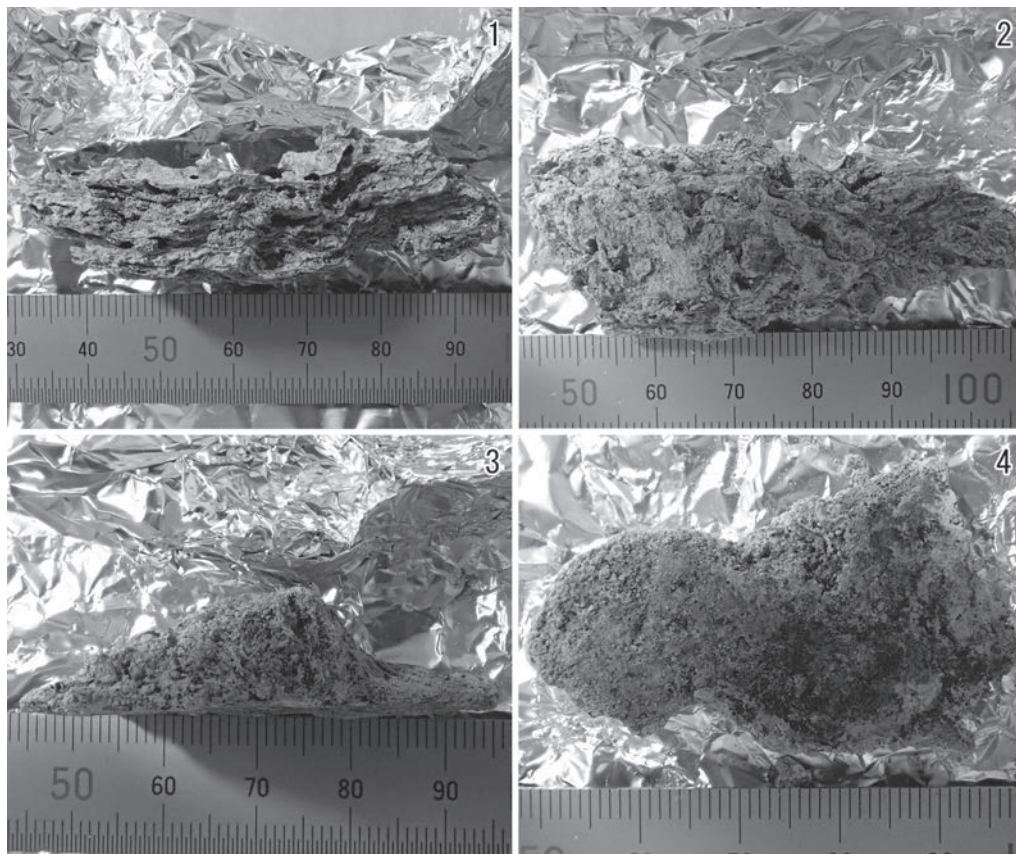
ほど多くないため、尿石ではなく別由来の物質である可能性も考慮する必要があるだろう。あるいは、S J 3052出土埋甕の付着物(分析No.2)が甕底部の塊状付着物であるのに対し、S E 3034出土甕付着物(分析No.1)は部位不明の甕の層状付着物であるため、成分の違いは尿石の析出位置の違いを示している可能性も考えられる。なお、S J 3052出土埋甕の付着物(分析No.2)からは鉄が多く検出されているが、これは埋蔵環境等により鉄分が多く供給され、カルシウムと置換したものと推定される。

5. おわりに

平安京跡の遺構より出土した、便槽と推定されている甕の付着物について検討した結果、S E 3034出土甕の付着物からは炭酸カルシウムが主に検出された。また、S J 3052出土埋甕の底部付着物からはリンが多く検出され、非晶質リン酸塩の存在を示唆した。両者とも、尿石たり得る物質であり、成分的にも甕が便槽である可能性を支持する結果といえる。

参考文献

- 原田仁平2015 材料分析における粉末X線回折法 MiniFlexの利用. 211p, リガク.
牧野和孝1998 鉱物資源百科辞典. 1390p, 日刊工業新聞社.
中井 泉編2005 蛍光X線分析の実際. 242p, 朝倉書店.
日本粘土学会編2009 粘土ハンドブック第三版. 990p, 技報堂出版.
リガク編2010 X線回折ハンドブック. 243p, リガク.



図版1 分析対象試料 (1・2. 分析No.1 3・4. 分析No.2)

付表2 出土土器・陶磁器観察表

〈凡例〉

・小数点第2位を四捨五入、第1位で表示

・-：該当なし

・（ ）：復元径・残存高

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
76	1	土師器	皿	S P 174	(13.8)	(1.6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	2	磁器	椀	S P 174	(15.2)	(4.0)	灰白 (N8/0)	白磁	中国
	3	土師器	皿	S P 128	-	(0.8)	灰白 (10YR8/2)	-	
	4	土師器	皿	S P 128	-	(1.8)	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	5	土師器	皿	S P 128	-	(1.3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	6	土師器	皿	S P 128	-	(0.8)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	7	土師器	皿	S P 128	-	(0.9)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	8	土師器	皿	S P 128	-	(1.4)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	9	土師器	皿	S K 128	(12.4)	(2.1)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	10	土師器	皿	S P 128	-	(1.5)	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	11	土師器	皿	S P 128	-	(2.9)	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	12	土師器	皿	S D 3881	-	0.9	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	13	土師器	皿	S D 3881	(10.0)	0.8	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	14	土師器	皿	S D 3881	-	0.7	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	15	土師器	皿	S D 3881	-	0.8	灰白 (10YR8/2)	-	
	16	土師器	皿	S D 2261	(8.8)	1.0	橙 (7.5YR6/6)	-	
	17	土師器	皿	S D 2261	(12.0)	0.9	にぶい橙 (10YR7/3)	-	
	18	土師器	皿	S D 2261	-	(1.6)	にぶい橙 (10YR7/3)	-	
	19	土師器	皿	S D 2261	-	(1.3)	灰白 (10YR8/2)	-	
	20	土師器	皿	S D 2261	-	1.6	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	21	瓦器	椀	S D 2261	(16.0)	(4.0)	灰白 (2.5Y8/1)	-	樟葉
	22	土師器	皿	S D 78	9.4	1.8	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	23	土師器	皿	S D 78	9.4	1.9	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	24	土師器	皿	S D 78	9.3	1.4	灰白 (10YR8/2)	-	
	25	土師器	皿	S D 78	9.2	1.6	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	26	土師器	皿	S D 78	9.6	1.8	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	27	土師器	皿	S D 78	9.2	1.8	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	28	土師器	皿	S D 78	9.5	1.6	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	29	土師器	皿	S D 78	10.0	2.0	橙 (5YR7/6)	-	
	30	土師器	皿	S D 78	9.8	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	31	土師器	皿	S D 78	10.0	1.2	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	32	土師器	皿	S D 78	9.6	1.7	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	33	土師器	皿	S D 78	(10.6)	1.1	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	34	土師器	皿	S D 78	(13.2)	(2.7)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	35	土師器	皿	S D 78	13.3	4.4	灰黄 (2.5Y7/2)	-	
	36	土師器	皿	S D 78	(13.8)	2.5	にぶい橙 (7.5YR7/2)	-	
	37	土師器	皿	S D 78	14.8	2.2	にぶい黄橙 (10YR7/2)	-	
	38	土師器	皿	S D 78	(14.4)	(2.7)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	39	土師器	皿	S D 78	(17.0)	3.5	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	40	瓦器	皿	S D 78	8.8	2.0	灰 (N4/0)	-	
	41	瓦器	椀	S D 78	(13.8)	(4.6)	灰 (N4/0)	-	樟葉
	42	瓦器	椀	S D 78	(14.8)	(4.1)	灰 (N4/0)	-	樟葉
	43	瓦器	椀	S D 78	(17.1)	(3.4)	暗灰 (N3/0)	-	樟葉
	44	磁器	皿	S D 78	(9.4)	(1.8)	灰白 (N8/0)	白磁	中国
	45	磁器	皿	S D 78	10.8	2.7	灰白 (5Y8/1)	白磁	中国

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
76	46	磁器	皿	S D 78	-	1.0	黄灰 (2.5Y6/1)	白磁	中国
	47	磁器	椀	S D 78	(12.0)	(3.3)	灰白 (N8/0)	白磁	中国
	48	土師質	甕	S D 78	-	(3.5)	にぶい橙 (5YR6/3)	-	
	49	須恵器	壺	S D 78	-	(4.5)	褐灰 (7.5YR4/1)	-	底部糸切り痕
	50	緑釉陶器	椀	S D 78	-	(3.9)	灰白 (2.5Y8/2)	緑	軟質
	51	磁器	椀	S D 78	(16.6)	(4.0)	灰白 (5Y8/1)	白磁	中国
	52	磁器	椀	S D 78	(16.0)	(4.6)	灰白 (2.5Y8/1)	白磁	中国
	53	磁器	椀	S D 78	(6.0)	(2.9)	浅黄橙 (10YR8/3)	白磁	中国
	54	磁器	椀	S D 78	-	(1.9)	灰白 (N8/0)	白磁	中国
	55	灰釉陶器	壺	S D 78	-	(14.8)	黄灰 (2.5Y6/1)	灰	東海系
56	土師質	羽釜	S D 78	(23.8)	(8.0)	明褐灰 (7.5YR7/2)	-		
77	1	土師器	皿	S K 2258	(10.8)	1.6	灰黄 (2.5Y7/2)	-	
	2	土師器	皿	S K 2258	(10.5)	1.1	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	3	土師器	皿	S K 2258	(10.5)	(1.4)	灰白 (10YR8/2)	-	
	4	土師器	皿	S K 2258	10.7	1.6	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	5	土師器	皿	S K 2258	(12.8)	(2.5)	浅黄橙 (10YR8/3)	-	煤付着
	6	土師器	皿	S K 2258	14.9	2.7	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
	7	土師器	皿	S K 2258	(17.8)	(3.1)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	8	緑釉陶器	椀	S K 2258	-	(1.5)	橙 (5YR7/6)	緑	軟質 三叉トチン 近江系
	9	緑釉陶器	椀	S K 2258	-	(1.7)	灰 (10YR6/1)	緑	硬質
	10	黒色土器	椀	S K 2258	(14.0)	(4.6)	黒 (N2/0)	-	B類
	11	磁器	椀	S K 2258	(15.6)	(5.6)	灰白 (2.5Y8/1)	白磁	中国
	12	灰釉陶器	椀	S K 2258	14.2	6.0	灰白 (10YR7/1)	灰	貼り付け高台
	13	土師質	椀	S K 2258	14.4	(4.9)	灰白 (2.5Y8/1)	-	緑釉椀の素地か
	14	灰釉陶器	椀	S K 2258	(14.5)	(3.6)	灰白 (5Y7/1)	灰	
	15	須恵器	壺	S K 2258	(11.6)	(2.6)	灰 (7.5Y6/1)	-	
	16	灰釉陶器	椀	S K 2258	14.1	5.9	灰白 (10YR7/1)	灰	貼り付け高台 重ね焼き痕
	17	灰釉陶器	椀	S K 2258	-	(2.3)	灰白 (2.5Y7/1)	灰	貼り付け高台 重ね焼き痕
	18	灰釉陶器	椀	S K 2258	-	(2.6)	灰白 (10YR8/1)	灰	貼り付け高台 重ね焼き痕
	19	灰釉陶器	椀	S K 2258	-	(1.8)	灰白 (10YR7/1)	灰	貼り付け高台 重ね焼き痕
	20	磁器	椀	S K 2258	-	(2.1)	灰黄 (2.5Y7/2)	青磁	越州窯系
	21	緑釉陶器	椀	S K 2258	-	(2.1)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	緑	軟質 見込み圏線 三叉トチン 近江系
	22	緑釉陶器	椀	S K 2258	-	(2.4)	灰褐 (7.5YR5/2)	緑	硬質 見込み圏線
	23	緑釉陶器	椀	S K 2258	-	(2.1)	橙 (7.5YR7/6)	緑	軟質 見込み圏線
	24	緑釉陶器	椀	S K 2258	-	(1.6)	灰白 (2.5Y8/1)	緑	軟質 貼り付け高台
	25	黒色土器	椀	S K 2258	(15.6)	(2.8)	黒 (N2/0)	-	B類
	26	陶器	水注	S K 2258	(4.0)	(6.1)	にぶい橙 (5YR6/3)	青磁	越州窯系か
	27	磁器	椀	S K 2258	-	(1.1)	灰白 (2.5Y7/1)	青磁	越州窯系
28	須恵器	壺	S K 2258	-	(5.2)	灰色 (N4/0)	-	壺の耳	
29	灰釉陶器	椀	S K 2258	-	(3.3)	灰白 (2.5Y7/1)	灰	貼り付け高台	
30	灰釉陶器	壺	S K 2258	-	(3.8)	灰白 (N7/0)	灰		
31	土師質	壺	S K 2258	(16.0)	(4.3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-		
32	緑釉陶器	鉢	S K 2258	(25.6)	10.4	浅黄橙 (10YR8/4)	緑	軟質	
33	灰釉陶器	壺	S K 2258	-	(7.5)	灰白 (10YR7/1)	灰		
34	須恵器	壺か	S K 2258	(17.0)	(2.7)	灰 (N5/0)	-		
35	土師質	甕	S K 2258	(17.2)	(4.1)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	羽釜か	
36	土師質	羽釜	S K 2258	(20.0)	(5.3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-		
37	土師質	羽釜	S K 2258	(25.0)	(3.3)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	-		

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
77	38	土師質	羽釜	S K 2258	(19.2)	(4.7)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	-	
	39	土師質	甕	S K 2258	(28.9)	(3.5)	灰白 (5Y8/1)	-	
78	1	土師器	皿	S K 234	(9.7)	(1.2)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	2	土師器	皿	S K 234	(10.6)	(1.5)	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	3	土師器	皿	S K 234	(9.6)	1.4	灰白 (10YR8/2)	-	
	4	土師器	皿	S K 234	(9.8)	(1.1)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	5	土師器	皿	S K 234	(11.1)	(1.7)	灰白 (10YR8/2)	-	
	6	土師器	皿	S K 234	(11.2)	(7.5)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	7	土師器	皿	S K 234	(15.0)	2.0	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	8	土師器	皿	S K 234	(14.3)	(2.8)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	9	黒色土器	椀	S K 234	15.9	(4.4)	黒 (N2/0)	-	B類
	10	黒色土器	椀	S K 234	(15.7)	(4.6)	黒褐 (2.5Y2/1)	-	B類
	11	土師器	皿	S S 3525	(4.1)	0.8	灰白 (5YR8/1)	-	
	12	土師器	皿	S S 3525	(8.6)	1.1	淡赤橙 (2.5YR7/4)	-	
	13	土師器	皿	S K 3839	15.0	2.8	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	14	土師器	皿	S K 3839	15.5	2.8	明褐灰 (7.5YR7/2)	-	
	15	土師器	皿	S K 238	10.2	1.5	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	16	土師器	皿	S K 238	(13.4)	2.5	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	17	土師器	皿	S K 238	(14.2)	(2.7)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	18	緑釉陶器	椀	S K 238	-	(1.1)	灰白 (5Y8/1)	緑	軟質 貼り付け高台
	19	灰釉陶器	椀	S K 238	-	(1.1)	灰白 (10YR7/1)	灰	貼り付け高台
	20	黒色土器	椀	S K 238	(15.4)	(3.4)	黒 (N1.5/0)	-	B類
	21	緑釉陶器	椀	S K 238	15.0	6.3	灰白 (2.5Y8/1)	緑	軟質 周防
	22	土師器	皿	S S 3827	(8.6)	(1.5)	灰白 (2.5Y8/2)	-	雲母片含む 煤付着
	23	土師器	皿	S S 3827	(9.4)	(1.6)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	雲母片含む
	24	磁器	椀	S S 3827	-	(2.5)	灰黄 (2.5Y7/2)	青磁	同安窯系 25 と同一個体か
25	磁器	椀	S S 3827	-	(1.9)	灰白 (2.5Y7/1)	青磁	同安窯系 24 と同一個体か	
79	1	土師器	皿	S A 3425	4.9	0.7	灰白 (2.5Y8/2)	-	
	2	土師器	皿	S A 3425	(6.8)	1.8	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	3	土師器	皿	S A 3425	7.5	2.0	灰白 (10YR8/1)	-	
	4	土師器	皿	S A 3425	(7.5)	1.6	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	5	土師器	皿	S A 3425	(8.0)	1.4	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	煤付着
	6	土師器	皿	S A 3425	(8.6)	(1.6)	灰白 (10YR8/2)	-	
	7	土師器	皿	S A 3425	(8.4)	1.4	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	8	土師器	皿	S A 3425	(8.9)	1.4	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	9	土師器	皿	S A 3425	(11.4)	1.6	灰白 (10YR8/2)	-	
	10	土師器	皿	S A 3425	(10.4)	(1.9)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	11	土師器	皿	S A 3425	(12.0)	(1.8)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	12	土師器	皿	S A 3425	(11.2)	(1.4)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	13	土師器	皿	S A 3425	(12.0)	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	14	土師器	皿	S A 3425	(14.0)	3.7	灰白 (10YR8/2)	-	
	15	土師器	皿	S A 3425	-	(1.4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	16	土師器	皿	S A 3425	-	(1.7)	灰白 (10YR8/2)	-	煤付着
	17	灰釉陶器	鉢	S A 3425	(17.4)	(1.7)	灰白 (5Y7/2)	灰	瀬戸
	18	陶器	甕	S A 3425	-	(9.6)	褐灰 (7.5YR5/1)	-	常滑
	19	土師器	皿	S A 3823	-	(1.2)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・ 幅	器高・ 長さ	色調	釉薬	
79	20	土師器	皿	S A 3823	-	(1.8)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	21	土師器	皿	S A 3823	9.0	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	22	土師器	皿	S A 3823	(10.0)	(1.6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	23	土師器	皿	S A 3823	(11.8)	(1.9)	にぶい橙 (7/4)	-	
	24	土師器	皿	S A 3823	(11.8)	(1.6)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	25	土師器	皿	S A 3823	(12.0)	(2.1)	灰白 (10YR8/2)	-	
	26	土師器	皿	S A 3823	(13.0)	(2.2)	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	27	土師器	皿	S A 3823	(13.8)	(2.0)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	28	土師器	皿	S A 3485 (S P 3740)	(13.0)	(1.5)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	29	土師器	皿	S A 3485 (S P 3689)	-	(1.3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	30	土師器	皿	S A 3485 (S P 3689)	-	(1.7)	灰白 (10YR8/2)	-	
	31	土師器	皿	S A 3485 (S P 3485)	-	(1.5)	灰白 (10YR8/2)	-	
	32	土師器	皿	S A 3485 (S P 3485)	-	(1.7)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	33	土師器	皿	S A 3485 (S P 3485)	(11.0)	(1.9)	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	34	土師器	皿	S A 96 (S P 100)	-	(1.4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	35	土師器	皿	S A 96 (S P 100)	-	(1.6)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	36	土師器	皿	S A 96 (S P 100)	-	(1.6)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	37	土師器	皿	S A 182 (S P 196)	-	(1.5)	灰白 (2.5Y8/2)	-	
	38	須恵器	鉢	S A 182 (S P 182)	(28.8)	(2.0)	黄灰 (2.5Y6/1)	-	東播系
	39	土師器	皿	S A 182 (S P 182)	(12.8)	(1.5)	淡橙 (5YR8/4)	-	
	40	陶器	壺	S A 182 (S P 182)	(21.4)	(1.7)	暗赤褐 (5YR3/4)	鉄	瀬戸か
	41	土師器	皿	S A 3401 (S P 3401)	(14.0)	(2.5)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	42	土師器	皿	S A 3401 (S P 3401)	-	(1.4)	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	43	土師器	皿	S A 3401 (S P 3409)	-	(2.1)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	44	磁器	椀	S A 3401 (S P 3409)	-	(2.3)	灰白 (5Y7/2)	白磁	中国
	45	土師器	皿	S B 117 (S P 198)	-	(1.7)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	46	土師器	皿	S B 117 (S P 176)	(11.4)	(2.5)	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	47	土師器	皿	S P 3596	8.4	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	48	土師器	皿	S P 2107	(10.8)	(1.8)	橙 (7.5YR6/6)	-	煤付着
	49	土師器	皿	S P 2107	(11.5)	1.8	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	50	土師器	皿	S P 2107	(11.2)	(2.3)	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
	51	土師器	皿	S P 2107	(13.3)	(2.7)	灰白 (10YR8/2)	-	
	52	土師器	皿	S P 2107	(16.6)	(2.6)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	53	土師器	皿	S P 3439	-	(2.6)	淡橙 (5YR8/4)	-	
	54	土師質	羽釜	S P 3439	(12.4)	(2.1)	灰白 (7.5YR8/2)	-	
55	土師器	皿	S P 125	(9.8)	(1.6)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-		

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
79	56	土師器	皿	S P 125	(13.4)	(2.1)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	57	磁器	椀	S P 125	-	(2.3)	灰白 (N8/0)	白磁	中国
	58	土師器	皿	S P 2121	(6.2)	(1.3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	
	59	土師器	皿	S P 2121	(13.0)	(3.0)	灰白 (10YR8/2)		
	60	磁器	椀	S P 2121	(6.0)	(1.7)	灰 (5Y6/1)	青磁	龍泉窯系
	61	土師器	皿	S P 99	(12.0)	1.9	橙 (7.5YR7/6)	-	
80	62	土師器	皿	S P 192	(15.6)	2.2	橙 (7.5YR7/6)	-	
	1	土師質	壺	S D 81	(19.6)	(4.7)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	-	
	2	土師器	皿	S D 81	(6.8)	1.6	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	3	土師器	皿	S D 81	(7.2)	1.7	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	4	土師器	柱状高台 土器	S D 81	-	(1.4)	灰白 (2.5YR8/2)	-	底部糸切り痕
	5	土師器	皿	S D 81	(14.5)	(2.4)	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	6	土師器	皿	S D 81	(7.6)	1.3	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	7	土師器	皿	S D 81	(8.8)	(2.0)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	8	土師器	皿	S D 81	(12.9)	2.3	橙 (5YR7/6)	-	
	9	陶器	鉢	S D 81	-	(2.7)	灰黄 (2.5YR7/2)	灰	瀬戸 10 と同一個体 脚別付
	10	陶器	鉢	S D 81	(26.7)	(4.4)	浅黄橙 (10YR8/3)	灰	瀬戸 9 と同一個体
	11	磁器	皿	S D 81	-	(1.9)	灰白 (N8/0)	白磁	景德鎮
	12	灰釉陶器	椀	S D 81	-	(3.1)	灰白 (5Y8/1)	灰	貼り付け高台 重ね焼き痕
	13	陶器	花瓶	S D 81	-	(3.8)	灰白 (10YR8/2)	灰	瀬戸 底部糸切り痕
	14	土師器	皿	S D 81	(7.2)	(1.5)	浅橙 (5YR8/3)	-	
	15	土師器	皿	S D 81	(11.4)	(1.8)	灰白 (7.5YR8/2)	-	煤付着
	16	土師器	皿	S D 81	(12.8)	(2.2)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	17	陶器	花瓶	S D 81	(12.0)	(3.6)	浅黄橙 (10YR8/3)	鉄	瀬戸
	18	瓦質	三足	S D 81	(27.0)	(3.4)	灰 (N4/0)	-	脚別付
	19	瓦質	羽釜	S D 81	(26.3)	(3.1)	灰白 (N8/0)	-	
	20	須恵器	甕	S D 81	(37.0)	(3.0)	灰 (N5/0)	-	
	21	土師器	皿	S D 81	(11.4)	(2.0)	灰白 (10YR8/2)	-	
	22	土師器	皿	S D 81	(13.2)	(2.3)	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	23	灰釉陶器	椀	S D 81	-	(2.3)	灰白 (N7/0)	灰	貼り付け高台 底部糸切り痕
	24	土師器	皿	S D 81	(7.2)	1.7	浅黄橙 (7.5YR8/6)	-	
	25	土師器	皿	S D 81	(10.0)	1.5	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	26	土師器	皿	S D 81	(10.2)	1.6	淡橙 (5YR8/4)	-	煤付着
	27	土師器	皿	S D 81	(14.4)	(2.0)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	28	土師器	皿	S D 81	(10.7)	(1.7)	灰白 (7.5YR8/1)	-	
	29	土師器	皿	S D 81	(16.2)	(1.9)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	30	陶器	椀	S D 81	(13.6)	(3.3)	灰白 (2.5Y7/1)	灰	瀬戸
	31	磁器	椀	S D 81	(14.2)	(3.5)	白 (N9/0)	白磁	中国
	32	磁器	椀	S D 81	(16.8)	(4.5)	灰白 (5Y8/1)	白磁	中国
33	磁器	鉢	S D 81	-	(3.4)	灰白 (N8/0)	青磁	龍泉窯系	
81	1	土師器	皿	S D 81	(9.5)	1.5	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	2	土師器	皿	S D 81	(10.0)	1.7	にぶい橙 (5YR7/4)	-	煤付着
	3	土師器	皿	S D 81	(10.8)	2.0	淡橙 (5YR8/4)	-	
	4	土師器	皿	S D 81	(11.6)	(1.7)	淡橙 (5YR8/4)	-	煤付着
	5	土師器	皿	S D 81	(10.0)	1.8	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	6	土師器	皿	S D 81	(14.2)	2.3	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	7	土師器	皿	S D 81	(13.0)	2.8	灰白 (7.5YR8/1)	-	
	8	土師器	皿	S D 81	(15.0)	(3.4)	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	9	土師器	皿	S D 81	(15.8)	(2.9)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
81	10	土師器	皿	S D 81	(15.2)	3.5	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	11	瓦質	火鉢	S D 81	-	(7.9)	灰 (N4/0)	-	大和
	12	磁器	皿	S D 81	-	(1.6)	白 (N8/0)	白磁	中国
	13	磁器	皿	S D 81	9.6	2.2	灰白 (10Y8/1)	白磁	中国
	14	磁器	皿	S D 81	11.2	3.2	灰白 (2.5Y8/2)	白磁	中国 重ね焼き痕
	15	磁器	椀	S D 81	(17.0)	5.9	灰白 (2.5Y8/2)	白磁	中国
	16	須恵器	甕	S D 81	(34.7)	(3.3)	灰 (N5/0)	-	
	17	土師器	皿	S D 81	(9.5)	1.4	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	18	磁器	椀	S D 81	(13.0)	4.4	灰白 (5Y8/1)	白磁	中国
	19	磁器	馬上杯	S D 81	(3.8)	(5.0)	灰白 (10YR8/1)	青磁	龍泉窯系
	20	瓦質	火鉢	S D 81	(29.6)	(4.0)	オリーブ黒 (5Y3/1)	-	大和
	21	瓦質	火鉢	S D 81	(34.0)	(7.3)	褐灰 (10YR5/1)	-	大和
	22	磁器	椀	S D 81	-	(1.7)	オリーブ灰 (2.5GY5/1)	青磁	龍泉窯系 見込み印判
	82	1	土師器	皿	S D 3550	(14.2)	(1.6)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-
2		土師器	皿	S D 3550	(15.0)	(2.3)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
3		磁器	皿	S D 3550	-	(1.1)	灰白 (2.5Y8/2)	白磁	中国 墨書「井」
4		陶器	鉢	S D 3550	-	(6.9)	褐灰 (10YR6/1)	灰	瀬戸
5		磁器	皿	S D 3550	-	(1.4)	白 (N9/0)	白磁	中国
6		瓦質	火鉢	S D 3550	-	(5.7)	褐灰 (10YR4/1)	-	大和
7		磁器	椀	S D 3550	(14.2)	(4.2)	灰白 (7.5YR8/1)	青磁	龍泉窯系
8		土師質	羽釜	S D 3550	23.6	(4.9)	灰白 (2.5Y8/2)	-	
9		陶器	甕	S D 3550	-	(7.5)	灰赤 (2.5YR4/2)	-	備前
10		土師器	皿	S D 3550	8.8	1.8	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
11		土師器	皿	S D 3550	(9.0)	2.0	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
12		土師器	皿	S D 3550	(12.0)	(2.4)	灰白 (10YR8/2)	-	
13		磁器	椀	S D 3550	-	(3.2)	灰白 (2.5Y7/1)	青磁	龍泉窯系
14		磁器	椀	S D 3550	(13.0)	(2.8)	灰白 (N8/0)	青白磁	中国 被熱痕あり
15	瓦質	搦鉢	S D 3550	(30.6)	(5.4)	灰 (N4/0)	-	和泉河内系	
16	陶器	甕	S D 3550	-	(7.6)	にぶい赤褐 (2.5YR4/3)	-	備前	
17	磁器	椀	S D 3550	(13.8)	(7.4)	灰白 (N8/0)	青磁	龍泉窯系 見込み印判	
18	陶器	搦鉢	S D 3550	(30.4)	(4.6)	灰白 (10YR8/1)	-	信楽	
19	陶器	搦鉢	S D 3550	(32.0)	(6.3)	灰褐 (5YR5/2)	-	備前	
20	土師器	皿	S D 3550	(13.0)	(1.6)	淡橙 (5YR8/4)	-		
21	土師器	皿	S D 3550	(12.8)	(2.4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
22	土師器	皿	S D 3550	(13.8)	(2.7)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
23	土師器	皿	S D 3550	(16.0)	(2.6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	-		
24	磁器	皿	S D 3550	-	(1.2)	灰白 (N8/0)	白磁	中国 墨書「川」	
25	陶器	椀	S D 3550	(11.8)	(6.0)	灰白 (2.5Y8/1)	鉄	中国	
26	陶器	搦鉢	S D 3550	-	(5.5)	浅黄橙 (10YR8/3)	-	信楽	
83	1	瓦質	三足鍋	S D 3370	(3.8)	(3.8)	灰白 (5YR8/1)	-	
	2	陶器	鉢	S D 3370	-	(2.0)	淡黄 (2.5YR8/3)	緑	中国南部
	3	陶器	卸目皿	S D 3370	(13.4)	2.8	灰白 (2.5Y7/1)	灰	瀬戸
	4	緑釉陶器	椀	S D 3370	-	(2.3)	灰白 (7.5Y7/1)	緑	硬質
	5	緑釉陶器	椀	S D 3370	-	(1.8)	橙 (5YR7/6)	緑	軟質 貼り付け高台 見込み圏線 三又トチン
	6	灰釉陶器	椀	S D 3370	-	(2.7)	灰白 (7.5Y7/2)	灰	貼付高台 重ね焼き痕

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考	
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬		
83	7	磁器	皿	S D 3370	8.0	1.6	灰白 (N7/0)	白磁	中国	
	8	磁器	皿	S D 3370	-	(1.2)	灰白 (2.5YR8/2)	白磁	中国	
	9	磁器	皿	S D 3370	-	(1.7)	灰白 (2.5Y8/2)	白磁	中国	
	10	磁器	椀	S D 3370	(10.6)	3.2	灰白 (2.5Y8/2)	白磁	中国	
	11	緑釉陶器	水注か	S D 3370	-	(8.4)	灰白 (2.5Y8/2)	緑	軟質	
	12	須恵器	壺	S D 3370	-	(5.9)	灰白 (N4/0)	-	東播系	
	13	瓦質	羽釜	S D 3370	(22.0)	(3.7)	灰 (7.5Y5/1)	-	内面ヘラミガキ	
	14	土師器	皿	S D 3370	(7.2)	2.0	灰白 (10YR8/2)	-		
	15	土師器	皿	S D 3370	(6.7)	1.8	灰白 (10YR8/2)	-		
	16	土師器	皿	S D 3370	(9.6)	2.0	浅黄橙 (5YR8/4)	-		
	17	土師器	皿	S D 3370	(10.8)	2.1	浅黄橙 (10YR8/3)	-		
	18	土師器	皿	S D 3370	(11.4)	2.6	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-		
	19	陶器	卸目皿	S D 3370	(10.0)	2.1	灰白 (7.5YR8/2)		瀬戸	
	20	灰釉陶器	椀	S D 3370	(11.2)	4.0	灰白 (5Y8/1)	灰	貼り付け高台 重ね焼き痕	
	21	陶器	椀	S D 3370	(4.0)	(3.5)	灰白 (5Y7/1)	鉄	瀬戸	
	22	磁器	椀	S D 3370	-	(3.0)	灰白 (2.5Y8/2)	白磁	中国	
	23	磁器	椀	S D 3370	(10.2)	(2.5)	灰白 (5Y8/1)	白磁	中国	
	24	磁器	皿	S D 3370	-	(1.7)	灰白 (2.5Y8/1)	白磁	中国	
	25	磁器	椀	S D 3370	(15.6)	(3.2)	灰白 (N8/0)	青磁	龍泉窯系	
	26	磁器	椀	S D 3370	-	(3.1)	灰白 (10YR7/1)	青磁	龍泉窯系 見込み印判	
	27	磁器	椀	S D 3370	-	(3.7)	灰白 (5Y8/1)	染付	中国	
	28	土師器	皿	S D 3370	(12.1)	(1.6)	灰白 (10YR8/2)	-		
	29	土師器	皿	S D 3370	(15.8)	(1.8)	橙 (5YR7/6)	-		
	30	磁器	椀	S D 3370	(15.0)	(3.0)	灰白 (5Y8/1)	白磁	中国	
	31	土師器	皿	S D 3370	(10.0)	(1.2)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-		
	32	土師器	皿	S D 3370	(12.2)	(1.5)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
	33	土師器	皿	S D 3370	(13.8)	(1.9)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
	34	磁器	椀	S D 3370	-	(1.7)	灰白 (10YR8/2)	白磁	中国	
	35	瓦質	羽釜	S D 3370	(22.8)	(3.5)	灰 (N4/0)	-		
	36	土師器	皿	S D 3370	-	(1.5)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
	37	土師器	皿	S D 3370	-	(1.7)	にぶい橙 (5YR7/4)	-		
	38	土師器	皿	S D 3370	-	(1.4)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-		
	39	土師器	皿	S D 3370	(13.8)	(1.7)	灰白 (10YR8/2)	-		
	40	土師器	皿	S D 3370	(15.2)	(1.6)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-		
	84	1	土師器	皿	S D 3370	10.0	2.1	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
		2	土師器	皿	S D 3370	(14.9)	(2.8)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
		3	陶器	皿	S D 3370	8.6	2.7	灰黄 (2.5Y7/2)	灰	瀬戸美濃 底部糸切り痕
		4	磁器	椀	S D 3370	-	(4.6)	灰オリーブ (7.5Y5/2)	青磁	龍泉窯系 蓮弁文
		5	磁器	椀	S D 3370	-	(2.1)	灰 (N6/0)	青磁	龍泉窯系 見込み印判
		6	磁器	椀	S D 3370	-	(3.0)	灰白 (N7/0)	青磁	龍泉窯系 見込み印判
7		陶器	壺	S D 3370	(20.0)	(6.5)	黒褐 (7.5YR2/2)	-	備前	
8		土師器	皿	S D 77	(6.8)	(1.6)	灰白 (10YR8/2)	-		
9		土師器	皿	S D 77	(11.8)	(1.9)	にぶい橙 (5YR7/4)	-		
10		土師器	皿	S D 200	(7.9)	1.3	浅黄橙 (10YR8/3)	-		
11		土師器	皿	S D 200	(10.0)	1.9	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
12		土師器	皿	S D 200	(11.3)	(2.1)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-		
13		土師器	皿	S D 200	(11.9)	(1.7)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	-		
14		土師器	皿	S D 200	(17.3)	(2.5)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
15		瓦質	羽釜	S D 200	28.0	(2.6)	褐灰 (10YR4/1)	-		
16		磁器	椀	S D 200	(13.6)	(2.7)	灰白 (5Y8/1)	白磁	中国	
85	1	土師器	皿	S E 3822	-	(1.3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
	2	土師器	皿	S E 3822	-	(1.6)	浅黄橙 (10YR8/3)	-		

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考	
					口径・ 幅	器高・ 長さ	色調	釉薬		
85	3	土師器	皿	S E 3822	-	(2.0)	浅黄橙 (10YR8/3)	-		
	4	磁器	椀	S E 3822	-	(2.2)	灰白 (5Y7/1)	白磁	中国	
	5	土師器	皿	S S 3479	(6.8)	1.5	淡橙 (5YR8/3)	-		
	6	土師器	皿	S S 3479	(14.8)	(2.0)	灰白 (7.5YR8/1)	-		
	7	土師器	皿	S S 3479	(18.6)	(2.2)	灰白 (10YR8/2)	-		
	8	土師器	皿	S S 3753	(7.2)	1.7	灰白 (10YR8/2)	-		
	9	土師器	皿	S S 3753	(10.6)	2.5	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-		
	10	土師器	皿	S S 3753	(15.4)	2.5	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
	11	陶器	鉢	S S 3753	(18.2)	(3.9)	灰黄 (5Y7/1)		瀬戸	
	12	瓦質	羽釜	S S 3753	-	(4.0)	灰 (5Y4/1)	-	内面ヘラミガキ	
	13	陶器	椀	S S 3753	-	(3.6)	褐灰 (7.5YR6/1)	灰	朝鮮か	
	14	土師器	皿	S S 3507	(7.9)	1.4	橙 (2.5YR6/6)	-		
	15	土師器	皿	S S 3507	(9.0)	(1.8)	淡橙 (5YR8/4)	-		
	16	土師器	皿	S S 3507	(9.2)	1.7	橙 (5YR7/6)	-		
	17	土師器	皿	S S 3507	(10.6)	2.3	淡橙 (5YR8/4)	-		
	18	土師器	皿	S S 3507	(13.2)	(2.4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
	19	土師器	皿	S S 3507	(15.5)	(2.1)	にぶい橙 (5YR7/4)	-		
	20	土師器	皿	S S 3478	(8.6)	1.4	灰白 (7.5YR8/2)	-		
	21	土師器	皿	S S 3478	(14.2)	(1.2)	灰白 (7.5YR8/2)	-		
	22	土師器	皿	S S 3478	(14.8)	(2.5)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-		
	23	土師器	皿	S S 3491	-	(2.4)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-		
	24	瓦質	火鉢	S S 3491	(39.0)	(6.6)	灰 (N4/0)	-	大和か 内外面ミガキ	
	25	土師器	皿	S S 3306	(7.9)	(2.0)	橙 (5YR6/6)	-		
	26	土師器	皿	S S 3306	(12.4)	(2.2)	淡橙 (5YR8/4)	-		
	27	土師器	皿	S S 3390	(14.0)	(1.8)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
	28	土師器	皿	S S 3390	(16.8)	(2.3)	淡橙 (5YR8/4)	-		
	86	1	土師器	皿	S K 3831	11.4	2.8	淡橙 (5YR8/4)	-	
		2	土師器	皿	S K 3831	11.5	2.6	淡橙 (5YR8/4)	-	
3		土師器	皿	S K 3831	12.4	2.9	灰白 (7.5YR8/1)	-		
4		土師器	皿	S K 3831	(13.5)	3.1	灰白 (7.5YR8/2)	-		
5		土師器	皿	S X 2199	(7.9)	(1.8)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-		
6		土師器	皿	S X 2199	(10.5)	(1.5)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-		
7		陶器	椀	S X 2199	(6.0)	(2.7)	灰黄褐 (10YR5/2)	鉄	瀬戸	
8		緑釉陶器	椀	S X 2199	(14.6)	(2.5)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	緑		
9		土師器	皿	S K 2185	6.5	1.9	灰白 (2.5Y8/2)	-		
10		土師器	皿	S K 2185	(10.6)	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
11		土師器	皿	S K 2185	(10.5)	(2.1)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
12		土師器	皿	S K 2185	(11.3)	(3.0)	灰白 (10YR8/2)	-		
13		土師器	皿	S K 2185	(12.9)	(3.3)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-		
14		土師器	皿	S K 2185	(10.8)	(1.7)	にぶい橙 (5YR7/4)	-		
15		土師器	皿	S K 2204	5.8	1.3	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-		
16		土師器	皿	S K 2204	(7.4)	(1.8)	灰白 (10YR8/2)	-	煤付着	
17		土師器	皿	S K 2204	(11.0)	(2.1)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
18		土師器	皿	S K 2204	(13.2)	(2.6)	橙 (5YR7/6)	-		
19		瓦器	椀	S K 2204	(15.4)	(4.5)	灰 (N4/0)	-	樟葉	
20		磁器	椀	S K 2204	-	(1.5)	淡黄 (2.5Y8/4)	白磁	中国 高台内墨書	
21		磁器	椀	S K 2204	-	(4.3)	灰白 (N7/0)	青磁	龍泉窯系 見込み印判 連弁文	
22		磁器	皿	S K 2204	(11.8)	(2.7)	染付	-		
23		土師器	皿	S K 2157	(5.8)	(1.5)	橙 (7.5YR6/6)	-		

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
86	24	土師器	皿	S K 2157	(7.0)	1.6	橙 (7.5YR6/6)	-	
	25	土師器	皿	S K 2157	7.2	1.5	橙 (5YR7/6)	-	
	26	土師器	皿	S K 2157	7.7	1.6	灰白 (2.5YR8/2)	-	
	27	土師器	皿	S K 2157	7.2	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	28	土師器	皿	S K 2157	(7.2)	(1.7)	淡黄 (2.5Y8/3)	-	
	29	土師器	皿	S K 2157	7.0	1.4	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	30	土師器	皿	S K 2157	(7.6)	(1.5)	灰白 (2.5Y8/2)	-	
	31	土師器	皿	S K 2157	(7.6)	1.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	32	土師器	皿	S K 2157	(7.8)	(1.5)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	33	土師器	皿	S K 2157	8.6	1.5	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	煤付着
	34	土師器	皿	S K 2157	(8.4)	(1.4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	-	
	35	土師器	皿	S K 2157	(7.0)	(1.4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	
	36	土師器	皿	S K 2157	(6.6)	(1.5)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	
	37	土師器	皿	S K 2157	7.1	1.5	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	
	38	土師器	皿	S K 2157	(7.2)	(1.2)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	39	土師器	皿	S K 2157	6.7	1.4	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	40	土師器	皿	S K 2157	6.8	1.7	橙 (7.5YR6/6)	-	
	41	土師器	皿	S K 2157	(7.4)	(1.7)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	42	土師器	皿	S K 2157	6.8	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	43	土師器	皿	S K 2157	8.7	2.2	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	44	土師器	皿	S K 2157	(14.4)	2.8	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
	45	土師器	皿	S K 2157	(16.0)	(2.7)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	46	土師器	皿	S K 2157	15.6	3.0	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	47	瓦質	火鉢	S K 2157	(4.7)	(6.1)	灰 (N4/0)	-	大和
48	土師器	皿	S K 2104	(11.2)	(0.9)	浅黄橙 (10YR8/3)	-		
49	土師器	皿	S K 2105	-	(1.8)	浅黄橙 (10YR8/2)	-		
87	1	土師器	皿	S K 90	12.0	1.7	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	2	土師器	皿	S K 90	(14.8)	2.2	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	3	土師器	皿	S K 90	(16.0)	2.8	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	4	土師器	皿	S K 90	(14.3)	1.9	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	5	土師器	皿	S K 90	(14.8)	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/6)	-	
	6	土師器	皿	S K 90	(13.9)	(2.2)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	7	磁器	椀	S K 90	-	(2.3)	灰白 (5Y7/1)	青磁	龍泉窯系 見込み印判
	8	磁器	椀	S K 90	-	(2.7)	灰 (N6/0)	青磁	龍泉窯系 見込み印判
	9	陶器	卸目皿	S K 90	(15.8)	(3.4)	浅黄橙 (10YR8/3)	灰	瀬戸
	10	磁器	椀	S K 90	-	(3.4)	灰白 (5Y8/1)	白磁	中国
	11	灰釉陶器	椀	S K 90	-	(1.6)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	灰	貼り付け高台
	12	陶器	甕	S K 90	-	(7.6)	にぶい赤褐 (5YR4/3)	-	備前
	13	瓦質	羽釜	S K 90	(15.5)	(3.9)	灰 (N4/0)	-	
	14	土師器	皿	S K 180	(7.9)	2.2	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	
	15	土師器	皿	S K 180	(12.0)	1.9	灰白 (7.5YR8/1)	-	煤付着
	16	土師器	皿	S K 180	(14.4)	2.0	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	17	土師器	皿	S K 180	(14.4)	2.0	灰白 (10YR8/2)	-	
	18	土師器	皿	S K 180	14.6	2.5	淡橙 (5YR8/4)	-	煤付着
	19	磁器	椀	S K 180	-	(4.0)	白 (N9/0)	染付	中国
	20	瓦質	火鉢	S K 180	(34.0)	(5.4)	灰 (N6/0)	-	大和
	21	土師器	皿	S K 3381	(7.3)	1.5	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
87	22	土師器	皿	S K 3381	(9.0)	1.7	淡橙 (5YR8/3)	-	煤付着
	23	土師器	皿	S K 3381	10.0	2.0	橙 (5YR7/6)	-	煤付着
	24	磁器	皿	S K 3381	(9.1)	(1.5)	灰白 (10YR8/2)	白磁	中国
	25	灰釉陶器	椀	S K 3381	-	(1.6)	褐灰 (10YR6/1)	灰	
	26	磁器	椀	S K 3381	(15.6)	(5.5)	灰白 (N8/0)	青磁	龍泉窯系
	27	瓦質	火鉢	S K 3381	(39.8)	(3.7)	灰褐色 (7.5YR6/2)	-	大和
	28	土師器	皿	S K 2154	(6.8)	(1.9)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	29	土師器	皿	S K 2154	(9.2)	(1.7)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	30	土師器	皿	S K 2154	(11.2)	(2.2)	灰白 (2.5Y8/2)	-	
	31	土師器	皿	S K 3743	14.4	2.2	浅黄橙 (7.5YR8/6)	-	
	32	土師器	皿	S K 3593	(10.4)	(2.2)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
	33	土師器	皿	S K 3593	(14.8)	(1.9)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
88	1	土師器	皿	S K 208	4.5	1.3	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	2	磁器	皿	S K 208	(9.6)	(2.1)	灰白 (7.5Y8/1)	白磁	中国
	3	土師器	柱状高台土器	S K 208	-	(3.1)	橙 (5YR6/6)	-	
	4	磁器	皿	S K 208	-	(1.8)	灰白 (N8/0)	青磁	龍泉窯系
	5	瓦質	羽釜	S K 208	(19.5)	(5.2)	灰白 (2.5Y7/1)	-	
	6	陶器	播鉢	S K 208	(21.4)	(6.8)	明赤褐 (2.5YR5/6)	-	備前
	7	瓦質	羽釜	S K 2171	(17.0)	(4.3)	暗灰 (N3/0)	-	
	8	土師器	皿	S X 2165	(9.2)	(1.8)	褐灰 (10YR4/1)	-	
89	1	土師器	皿	S B 01	(9.3)	(1.7)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	2	土師器	皿	S B 01	(8.8)	(1.8)	灰白 (10YR8/2)	-	煤付着
	3	土師器	皿	S B 01	9.2	1.9	浅黄橙 (10YR8/3)	-	煤付着
	4	土師器	皿	S B 01	9.8	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
	5	土師器	皿	S B 01	(9.6)	(2.0)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	6	土師器	皿	S B 01	9.6	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	7	土師器	皿	S B 01	(10.4)	(2.1)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	8	土師器	皿	S B 01	10.0	2.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	9	土師器	皿	S B 01	10.4	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	10	土師器	皿	S B 01	(11.0)	(2.1)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	11	土師器	皿	S B 01	(12.4)	(1.8)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	12	土師器	皿	S B 01	(12.5)	(2.2)	灰黄褐 (10YR6/2)	-	
	13	土師器	皿	S B 01	(13.2)	(2.0)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	14	陶器	皿	S B 01	(10.4)	(2.3)	灰白 (2.5Y8/1)	灰	瀬戸美濃 見込み釉剥ぎ
	15	陶器	皿	S B 01	-	(2.3)	にぶい赤褐 (5YR5/3)	灰	肥前 砂目
	16	磁器	皿	S B 01	-	(1.5)	灰白 (2.5GY8/1)	青磁	肥前
	17	陶器	椀	S B 01	(12.8)	(3.0)	暗オリーブ灰 (2.5GY3/1)	灰	朝鮮 砂目 18と同一個体
	18	陶器	椀	S B 01	-	3.0	暗オリーブ灰 (2.5GY3/1)	灰	朝鮮 砂目 17と同一個体
	19	土師器	皿	S X 2058	(9.2)	1.5	にぶい橙 (5YR6/4)	-	煤付着 両面漆塗
	20	土師器	皿	S X 2058	(10.0)	2.0	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
21	土師器	皿	S X 2058	(11.0)	(1.8)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-		
22	土師器	皿	S X 2058	(11.0)	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/6)	-	煤付着	
23	土師器	皿	S X 2058	(9.2)	(1.6)	にぶい橙 (5YR7/3)	-		
24	土師器	皿	S X 2058	(10.6)	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
25	土師器	皿	S X 2058	(11.6)	(1.6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
26	土師器	皿	S X 2058	(11.0)	2.0	橙 (7.5YR7/6)	-	煤付着	
27	土師器	皿	S X 2058	(9.2)	1.8	褐灰 (10YR4/1)	-		
28	土師器	皿	S X 2058	(10.2)	(1.4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
89	29	土師器	皿	S X 2058	(12.2)	1.8	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	煤付着
	30	土師器	皿	S X 2058	12.0	2.1	橙 (7.5YR7/6)	-	
	31	土師器	皿	S X 2058	(13.0)	1.8	黒褐 (2.5Y3/1)	-	
	32	土師器	皿	S X 2058	(15.0)	(2.0)	にぶい橙 (5YR7/3)	-	
	33	陶器	椀	S X 2058	10.8	5.3	灰褐 (5YR4/2)	灰	肥前
	34	陶器	皿	S X 2058	12.4	3.3	にぶい橙 (7.5YR7/3)	灰	肥前
	35	陶器	椀	S X 2058	11.8	5.8	淡黄 (2.5Y8/3)	鉄	瀬戸美濃
	36	陶器	椀	S X 2058	9.8	5.7	にぶい褐 (7.5YR5/4)	灰	肥前
	37	陶器	香炉	S X 2058	9.0	1.9	淡黄 (2.5Y8/4)	鉄	瀬戸美濃
	38	磁器	鉢	S X 2058	-	(3.6)	灰白 (N8/0)	染付	景德鎮
	39	磁器	椀	S X 2058	-	(2.5)	灰白 (N8/0)	白磁	中国
	40	陶器	鉢	S X 2058	(10.4)	(2.5)	浅黄 (2.5Y7/3)	鉄絵	肥前
	41	土師器	皿	S X 2064	10.6	2.2	橙 (5YR7/6)	-	
	42	土師器	皿	S X 2064	(11.6)	2.0	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	43	土師器	皿	S X 2064	(12.8)	2.2	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	
	44	土師器	皿	S X 2064	(12.5)	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	線刻あり
	45	土師器	皿	S X 2064	(12.4)	2.2	淡橙 (5YR8/4)	-	線刻あり
	46	陶器	椀	S X 2064	(12.2)	(5.5)	灰白 (7.5YR8/2)	鉄	瀬戸美濃
	47	陶器	花入れ	S X 2064	(10.6)	17.0	浅黄橙 (10YR8/3)	泥漿	信楽
	48	磁器	皿	S X 2064	(28.0)	(3.4)	灰白 (N7/2)	赤絵	漳州窯系
49	土師器	皿	S X 2095	(12.2)	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
50	磁器	皿	S X 2095	-	(0.9)	灰白 (7.5Y7/1)	白磁	中国	
90	1	土師器	皿	S D 2075	(9.8)	(1.7)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	2	土師器	皿	S D 2075	(11.0)	(1.9)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	3	土師器	皿	S D 2075	(10.4)	(1.9)	淡橙 (5YR8/3)	-	煤付着
	4	土師器	皿	S D 2075	(10.8)	(1.9)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
	5	土師器	皿	S D 2075	(11.6)	(1.7)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	6	土師器	皿	S D 2075	(13.4)	(2.0)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	7	陶器	椀	S D 2075	(3.8)	(3.3)	灰白 (10YR8/2)	灰	瀬戸美濃
	8	陶器	皿	S D 2075	(12.2)	2.4	浅黄橙 (7.5YR8/3)	志野	瀬戸美濃
	9	磁器	皿	S D 32	(10.2)	(2.1)	灰白 (2.5Y8/1)	白磁	中国
	10	土師器	皿	S D 32	(12.0)	(1.5)	橙 (7.5YR7/6)	-	
	11	土師器	皿	S D 32	(12.0)	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	12	土師器	皿	S D 32	(12.0)	(2.8)	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	13	土師器	皿	S E 133	10.3	(1.9)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	14	土師器	皿	S E 133	(10.0)	(2.1)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	15	土師器	皿	S E 133	10.8	(2.1)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	煤付着
	16	土師器	皿	S E 133	(11.8)	1.9	灰白 (10YR8/2)	-	
	17	陶器	皿	S E 133	10.2	2.5	浅黄 (2.5Y7/3)	灰	瀬戸美濃
	18	陶器	皿	S E 133	10.7	2.3	浅黄 (2.5Y7/4)	灰	瀬戸美濃
	19	陶器	皿	S E 133	10.0	2.3	浅黄 (2.5Y7/4)	灰	瀬戸美濃
	20	陶器	皿	S E 133	10.3	2.4	灰白 (2.5YR8/2)	灰	瀬戸美濃 見込み釉剥ぎ
	21	陶器	皿	S E 133	10.5	2.4	灰黄 (2.5YR7/2)	灰	瀬戸美濃 見込み釉剥ぎ
	22	陶器	皿	S E 133	10.6	2.8	灰白 (7.5Y8/1)	灰	瀬戸美濃
	23	磁器	皿	S E 133	12.0	3.4	浅黄 (2.5Y7/3)	青磁	龍泉窯系
	24	土師器	皿	S E 2227	6.3	1.5	灰黄 (2.5Y7/2)	-	
	25	土師器	皿	S E 2227	(9.2)	2.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	26	土師器	皿	S E 2227	(9.6)	2.2	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	27	土師器	皿	S E 2227	(10.8)	2.3	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	煤付着
	28	土師器	皿	S E 2227	(11.6)	2.0	橙 (7.5YR7/6)	-	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
90	29	土師器	皿	S E 2227	(11.2)	2.3	褐灰 (10YR5/1)	-	煤付着
	30	土師器	皿	S E 2227	(11.4)	2.2	橙 (7.5YR7/6)	-	
	31	陶器	皿	S E 2227	(14.6)	2.8	浅黄橙 (10YR8/3)	灰	肥前
	32	陶器	椀	S E 2227	(12.0)	6.6	にぶい橙 (5YR6/4)	灰	肥前
	33	陶器	鉢	S E 2227	(13.8)	(3.8)	灰白 (2.5Y8/2)	鉄絵志野	瀬戸美濃
	34	陶器	播鉢	S E 2227	-	(5.9)	橙 (2.5YR6/6)	-	信楽
	35	土師質	炮烙	S E 2227	(33.0)	(4.6)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	大和か
91	1	土師器	皿	S E 2057	(9.1)	(1.7)	橙 (7.5YR7/6)	-	漆塗 煤付着
	2	土師器	皿	S E 2057	10.4	2.4	灰黄褐 (10YR5/2)	-	煤付着
	3	土師器	皿	S E 2057	10.4	2.2	橙 (7.5YR7/6)	-	
	4	土師器	皿	S E 2057	10.0	1.9	褐灰 (10YR5/1)	-	
	5	土師器	皿	S E 2057	10.6	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	6	土師器	皿	S E 2057	11.0	2.1	橙 (7.5YR7/6)	-	煤付着
	7	土師質	焼塩壺	S E 2057	5.2	8.6	橙 (5YR7/6)	-	
	8	土師質	焼塩壺	S E 2057	5.4	9.3	橙 (5YR6/6)	-	
	9	土師質	焼塩壺	S E 2057	4.7	9.2	橙 (5YR7/6)	-	
	10	土師質	焼塩壺	S E 2057	5.6	9.6	橙 (5YR7/6)	-	
	11	土師質	焼塩壺	S E 2057	5.4	10.1	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	12	土師質	焼塩壺蓋	S E 2057	6.5	2.2	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	13	土師質	焼塩壺	S E 2057	5.2	8.5	橙 (7.5YR7/6)	-	
	14	土師質	焼塩壺蓋	S E 2057	6.9	2.3	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	15	土師質	焼塩壺	S E 2057	4.8	9.4	黄橙 (7.5YR7/8)	-	
	16	陶器	椀	S E 2057	(8.2)	3.7	灰白 (10YR8/2)	志野	瀬戸美濃
	17	陶器	椀	S E 2057	9.4	4.9	灰白 (10YR8/2)	志野	瀬戸美濃
	18	陶器	椀	S E 2057	(11.2)	(4.5)	黒 (7.5YR1.7/1)	鉄	瀬戸美濃
	19	陶器	椀	S E 2057	11.5	7.3	浅黄橙 (10YR8/3)	緑	瀬戸美濃
	20	陶器	椀	S E 2057	(10.3)	(4.7)	にぶい赤褐 (5YR5/3)	灰	肥前
	21	軟質施釉陶器	椀	S E 2057	-	1.3	橙 (2.5YR6/6)	灰	京都
	22	軟質施釉陶器	椀	S E 2057	10.7	7.0	橙 (2.5YR6/6)	鉄絵	京都
	23	陶器	杯	SE2057	6.8	5.7	にぶい黄橙 (10YR7/2)	灰	肥前
	24	陶器	椀	S E 2057	8.4	4.3	淡黄 (2.5YR8/3)	灰	肥前
	25	陶器	椀	S E 2057	10.8	6.5	灰黄 (2.5YR7/2)	灰	肥前
	26	陶器	椀	S E 2057	13.6	7.7	灰白 (10YR8/1)	灰	肥前
	27	陶器	皿	S E 2057	10.8	3.3	灰白 (10YR8/2)	灰	肥前 胎土目
	28	陶器	皿	S E 2057	12.2	2.5	灰白 (10YR8/2)	灰	瀬戸美濃 見込みトチン痕
	29	陶器	皿	S E 2057	(12.2)	2.3	灰白 (10YR8/1)	灰	瀬戸美濃
	30	陶器	皿	S E 2057	(12.6)	3.5	鉄絵?	鉄絵	肥前
	31	陶器	片口鉢	S E 2057	(19.2)	11.1	灰白 (10YR8/2)	灰	肥前
	32	磁器	小壺	S E 2057	(7.6)	(4.1)	灰白 (N8/0)	青磁	龍泉窯系
	33	瓦質	瓦灯	S E 2057	5.6	5.2	黒褐 (10YR3/1)	-	
	34	瓦質	小型羽釜	S E 2057	6.1	6.0	褐灰 (10YR5/1)	-	
	35	磁器	皿	S E 2057	-	(1.6)	灰白 (N7/0)	赤絵	漳州窯
	36	陶器	皿	S E 2057	(12.4)	2.9	灰白 (2.5Y8/2)	鉄絵志野	瀬戸美濃
	37	陶器	水滴	S E 2057	4.2	5.5	灰白 (2.5Y7/1)	志野	瀬戸美濃 猿形 ロクロ+手びねりに穿孔痕 左腕上、後頭部に穿孔痕
	38	陶器	鉢	S E 2057	31.0	9.0	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰	肥前
92	1	瓦質	火鉢	S E 2057	-	13.8	灰 (5Y4/1)	-	大和か

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
92	2	陶器	鉢	S E 2057	15.4	7.3	暗赤褐 (2.5YR3/3)	-	丹波
	3	陶器	盤	S E 2057	(31.8)	5.8	暗赤褐 (2.5YR3/3)	-	備前
	4	陶器	播鉢	S E 2057	27.4	12.6	明赤褐 (2.5YR5/8)	-	信楽 植木鉢に転用
	5	陶器	播鉢	S E 2057	25.8	9.0	赤褐 (10R4/4)	-	備前
	6	陶器	播鉢	S E 2057	24.6	12.9	橙 (5YR6/8)	-	信楽
93	1	土師器	皿	S E 136	5.3	9.5	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	2	土師器	皿	S E 136	5.4	8.5	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	3	土師器	皿	S E 136	5.9	1.2	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	4	土師器	皿	S E 136	9.9	2.2	橙 (5YR6/6)	-	煤付着
	5	土師器	皿	S E 136	9.9	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	6	土師器	皿	S E 136	10.1	2.1	橙 (7.5YR7/6)	-	
	7	土師器	皿	S E 136	10.8	2.2	にぶい黄橙 (10YR6/3)	-	
	8	土師器	皿	S E 136	10.7	2.1	黒褐 (2.5Y3/1)	-	
	9	土師器	皿	S E 136	10.8	2.4	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	10	土師器	皿	S E 136	10.1	2.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	11	土師器	皿	S E 136	12.2	2.4	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	12	土師器	皿	S E 136	12.2	2.2	橙 (7.5YR7/6)	-	
	13	土師器	皿	S E 136	12.8	2.3	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	14	陶器	小椀	S E 136	(5.9)	2.3	灰白 (10YR8/2)	灰	瀬戸美濃
	15	陶器	小椀	S E 136	7.2	3.4	橙 (7.5YR6/6)	灰	肥前
	16	陶器	椀	S E 136	6.5	5.4	にぶい黄橙 (10YR6/4)	灰	肥前
	17	陶器	筒形椀	S E 136	6.0	6.1	淡黄 (2.5Y8/3)	灰	瀬戸美濃
	18	陶器	皿	S E 136	12.7	2.8	灰白 (5Y8/1)	志野	瀬戸美濃 菊花皿
	19	陶器	皿	S E 136	13.7	3.1	灰白 (2.5Y8/2)	志野	瀬戸美濃
	20	陶器	皿	S E 136	11.6	3.9	明赤褐 (5RY5/6)	灰	肥前
	21	陶器	皿	S E 136	11.5	3.6	橙 (7.5YR6/6)	灰	肥前
	22	陶器	皿	S E 136	12.3	4.3	にぶい褐 (7.5YR5/4)	灰	肥前
	23	陶器	皿	S E 136	14.9	3.7	浅黄 (2.5Y7/4)	鉄絵	肥前
	24	陶器	鉢	S E 136	18.4	5.1	灰 (7.5Y6/1)	鉄絵	肥前
	25	陶器	鉢	S E 136	14.0	4.5	淡黄 (2.5Y8/4)	鉄絵志野	瀬戸美濃
	26	陶器	鉢	S E 136	11.3	5.0	にぶい赤褐 (5YR5/4)	鉄絵	肥前 見込み「壹」
	27	陶器	鉢	S E 136	11.7	5.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	鉄絵	肥前 見込み「壹」
	28	陶器	鉢	S E 136	11.6	4.6	灰褐色 (7.5YR5/2)	鉄絵	肥前 見込み「壹」
	29	陶器	鉢	S E 136	11.0	(4.4)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	鉄絵	肥前 見込み「壹」
	30	陶器	鉢	S E 136	10.7	4.4	黄灰 (2.5Y6/1)	鉄絵	肥前 見込み「壹」
	31	陶器	鉢	S E 136	11.1	4.9	灰黄褐 (10YR6/2)	鉄絵	肥前 見込み「壹」
	32	陶器	鉢	S E 136	(10.7)	5.1	にぶい赤褐 (5YR5/4)	鉄絵	肥前 見込み「壹」
	33	陶器	鉢	S E 136	-	(2.4)	黄灰 (2.5Y6/1)	鉄絵	肥前 見込み「壹」
94	1	土師質	小壺	S E 136	2.5	2.6	灰白 (2.5Y8/1)	-	
	2	土師質	面打	S E 136	2.6	-	にぶい橙	-	土師器皿転用
	3	軟質施釉陶器	小壺	S E 136	(4.0)	(2.2)	明赤褐 (5YR5/6)	透明+緑	
	4	陶器	小壺	S E 136	3.3	5.8	淡黄 (2.5Y8/3)	鉄	瀬戸美濃
	5	陶器	小瓶	S E 136	-	(8.1)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	-	備前 火襷
	6	磁器	椀	S E 136	(12.0)	(4.9)	白 (N9/0)	染付	景德鎮
	7	磁器	椀	S E 136	(15.8)	(5.8)	白 (N9/0)	白磁	景德鎮 浮かし彫り
	8	磁器	皿	S E 136	(32.6)	(8.8)	白 (N9/0)	染付	景德鎮
	9	土師質	焼塩壺蓋	S E 136	(37.8)	(6.6)	灰白 (10YR8/2)	-	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
94	10	土師質	焼塩壺	S E 136	5.0	25.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	11	瓦質	盤	S E 136	(10.6)	1.8	灰 (N4/0)	-	大和か
	12	土師質	炮烙	S E 136	-	(2.8)	灰褐 (7.5YR5/2)	-	大和型
	13	瓦質	風炉	S E 136	-	(1.2)	黒褐 (2.5Y3/1)	-	大和か
	14	陶器	盤	S E 136	-	(1.7)	極暗赤褐 (2.5YR2/3)	-	丹波
	15	陶器	徳利	S E 136	(13.2)	(2.8)	黄灰 (2.5Y6/1)	-	備前
95	1	土師器	皿	S E 2257	(18.6)	5.3	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	2	陶器	椀	S E 2257	-	(5.9)	にぶい赤橙 (10R6/4)	刷毛目	肥前 砂付着
	3	陶器	椀	S E 2257	(29.2)	(5.2)	淡黄 (2.5YR8/2)	黒	瀬戸黒
	4	陶器	皿	S E 2257	(20.7)	(5.8)	灰白 (2.5YR8/1)	鉄絵	肥前 京焼風 在印
	5	磁器	皿	S E 2257	9.0	2.0	灰白 (5Y8/1)	白磁	肥前 見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	6	陶器	皿	S E 2257	(9.6)	(2.0)	褐灰 (10YR6/1)	灰	肥前 見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	7	土師質	羽釜	S E 2257	9.8	1.8	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
	8	土師質	炮烙	S E 2257	(11.0)	1.8	褐 (7.5YR4/3)	-	深草か
	9	陶器	播鉢	S E 2257	12.2	1.9	浅黄橙 (10YR8/3)	-	信楽
	10	土師器	皿	S S 2097	-	(1.2)	浅黄橙 (10YR8/4)	-	煤付着
	11	土師器	皿	S S 3331	(6.6)	1.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	12	土師器	皿	S S 3135	9.0	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	13	土師器	皿	S S 3135	(12.0)	(2.1)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	14	土師器	皿	S S 3135	5.2	1.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	15	磁器	椀	S S 3135	(9.8)	1.7	白 (N9/0)	釉上彩	菊御紋付 高台内朱書き
	16	土師器	皿	S S 3136	(11.0)	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	17	土師器	皿	S S 3136	5.5	1.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	18	土師器	皿	S S 3136	10.4	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	19	土師器	皿	S S 37	11.2	2.1	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	20	土師器	皿	S S 37	12.0	2.2	橙 (7.5YR7/6)	-	煤付着
	21	土師器	皿	S S 37	11.0	(5.0)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	22	土師器	皿	S S 37	-	(4.7)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	煤付着
	23	土師器	皿	S S 37	(29.2)	(8.0)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	24	土師器	皿	S S 37	(16.4)	11.1	橙 (7.5YR7/6)	-	煤付着
	25	土師器	皿	S S 37	(9.4)	(1.8)	橙 (7.5YR7/6)	-	
	26	陶器	椀	S S 37	(9.5)	(1.6)	灰白 (10YR8/2)	鉄	瀬戸美濃
	27	陶器	花瓶	S S 37	9.4	2.3	灰白 (2.5Y8/2)	灰	瀬戸 脚部別付け
	28	陶器	播鉢	S S 37	(10.8)	(2.0)	橙 (7.5YR7/6)	-	信楽
	29	陶器	鉢	S S 37	11.0	2.4	明褐灰 (7.5YR7/2)	灰	肥前 胎土目
96	1	土師器	皿	S S 3257	(13.6)	(1.8)	灰白 (7.5YR8/2)	-	煤付着
	2	土師器	皿	S S 3257	-	(2.6)	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	3	土師器	皿	S S 3257	-	(2.3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	4	土師器	皿	S S 3257	(10.3)	2.0	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	5	土師器	皿	S S 3257	5.7	(2.0)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	6	土師器	皿	S S 3257	(10.6)	3.8	淡橙 (5YR8/3)	-	
	7	陶器	皿	S S 3257	9.7	2.1	にぶい黄橙 (10YR7/4)	灰	肥前
	8	磁器	椀	S S 3257	10.7	2.2	灰白 (N8/0)	白磁	肥前
	9	土師器	皿	S S 3257	11.0	2.0	灰白 (7.5YR8/2)	-	煤付着
	10	土師器	皿	S S 3257	5.7	2.0	明褐灰 (7.5YR7/2)	-	
	11	陶器	皿	S S 3257	10.6	3.8	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰	肥前 砂目
	12	土師器	皿	S S 3190	9.7	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
96	13	土師器	皿	S S 3216・ S S 3217	10.7	2.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	14	土師器	皿	S S 3216・ S S 3217	11.0	2.0	橙 (7.5YR7/6)	-	
	15	陶器	壺	S S 3216・ S S 3217	(16.9)	(7.5)	灰褐 (5YR4/2)	褐釉	肥前か
	16	陶器	皿	S S 3216・ S S 3217	13.7	3.2	にぶい橙 (7.5YR6/4)	鉄絵	肥前 砂目
	17	土師器	皿	S S 3229	5.2	1.4	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	煤付着
	18	土師器	皿	S S 3229	(9.5)	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	19	土師器	皿	S S 3229	(9.1)	2.6	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	20	土師器	皿	S S 3229	(11.1)	(2.2)	橙 (5YR7/6)	-	煤付着
	21	土師器	皿	S S 3229	-	(1.4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	内面金箔残存
	22	土師器	皿	S S 3229	9.6	2.3	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
	23	陶器	椀	S S 3229	(11.1)	(5.8)	灰白 (10YR8/1)	鉄	瀬戸
	24	陶器	椀	S S 3229	(11.9)	7.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	灰	肥前
	25	磁器	椀	S S 3229	(10.1)	7.2	白 (N9/0)	染付	肥前
	26	土師器	皿	S S 3276	(10.6)	2.3	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
27	土師器	皿	S S 3276	(12.1)	2.3	にぶい橙 (5YR7/4)	-		
28	陶器	椀	S S 3276	(11.2)	6.2	灰 (N4/0)	鉄	瀬戸美濃	
29	磁器	椀	S S 3276	-	(2.5)	灰白 (10YR8/2)	染付	中国南方 見込み釉剥ぎ	
97	1	土師器	皿	S S 3239	(10.6)	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
	2	土師器	皿	S S 3239	(11.0)	2.3	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	3	土師器	皿	S S 3239	(10.7)	1.8	黒褐 (10YR3/1)	-	煤付着
	4	土師器	皿	S S 3239	(11.4)	2.3	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	5	土師器	皿	S S 3239	(12.1)	1.9	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	6	土師器	皿	S S 3239	(12.4)	2.1	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	7	磁器	椀	S S 3239	-	(1.6)	白 (N9/0)	白磁	肥前
	8	陶器	椀	S S 3239	-	(1.5)	浅黄橙 (10YR8/3)	透明	京・信楽系
	9	陶器	椀	S S 3239	9.7	6.6	浅黄橙 (10YR8/4)	鉄	瀬戸美濃
	10	磁器	椀	S S 3239	(10.1)	5.9	白 (N9/0)	染付	肥前 高台内「大明年製」
	11	磁器	皿	S S 3239	-	(1.3)	灰白 (7.5Y8/1)	染付	景德鎮
	12	磁器	皿	S S 3239	(12.4)	3.1	白 (N9/0)	染付	景德鎮
	13	陶器	皿	S S 3239	-	(1.8)	浅黄橙 (10YR8/4)	灰	肥前 砂目
	14	陶器	水指	S S 3239	-	(5.2)	褐 (7.5YR4/6)	灰	信楽
	15	陶器	鉢	S S 3239	(16.5)	8.4	灰白 (10YR8/1)	鉄釉	信楽
	16	瓦質	火鉢	S S 3239	(29.5)	(15.5)	灰 (N4/0)	-	
98	1	土師器	皿	S K 2044	5.7	1.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	2	土師器	皿	S K 2044	(11.7)	(1.9)	淡橙 (5YR8/4)	-	煤付着
	3	土師器	皿	S K 2044	10.8	2.2	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	4	陶器	茶入	S K 2044	(3.4)	(2.3)	灰白 (7.5YR8/1)	鉄	瀬戸美濃
	5	磁器	盤	S K 2044	(17.5)	3.1	白 (N8/0)	青磁	龍泉窯系
	6	磁器	皿	S K 2044	(12.4)	3.8	灰白 (10YR8/2)	染付	中国南方
	7	土師器	皿	S K 30	5.9	1.3	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	8	土師器	皿	S K 30	6.1	1.4	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	9	土師器	椀	S K 30	6.6	2.4	明褐灰 (7.5YR7/2)	-	
	10	土師器	皿	S K 30	9.2	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	11	土師器	皿	S K 30	9.0	2.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	12	土師器	皿	S K 30	9.3	2.2	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	煤付着
	13	土師器	皿	S K 30	9.2	2.2	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考	
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬		
98	14	土師器	皿	S K 30	(10.2)	1.8	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-		
	15	土師器	皿	S K 30	9.2	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
	16	土師器	皿	S K 30	9.5	2.1	にぶい橙 (5YR7/4)	-		
	17	土師器	皿	S K 30	9.4	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-		
	18	土師器	皿	S K 30	10.1	2.1	灰白 (2.5Y8/2)	-		
	19	土師器	皿	S K 30	(12.0)	2.1	にぶい橙 (5YR7/4)	-		
	20	土師器	皿	S K 30	9.7	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着	
	21	土師器	皿	S K 30	10.8	1.9	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着	
	22	土師器	皿	S K 30	12.0	2.2	橙 (5YR7/6)	-	金属付着	
	23	土師器	皿	S K 30	(11.9)	2.2	浅黄橙 (7.5YR8/6)	-		
	24	土師器	皿	S K 30	16.4	2.4	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
	25	陶器	椀	S K 30	(8.6)	4.6	灰白 (10YR8/2)	志野	瀬戸美濃	
	26	磁器	皿	S K 30	(24.8)	(3.1)	白 (N9/0)	染付	漳州窯 砂付着	
	27	土師質	炮烙	S K 30	(17.2)	4.1	にぶい橙 (5YR7/4)	-		
	28	陶器	播鉢	S K 30	(29.0)	(3.7)	橙 (5YR7/6)	-	信楽	
	29	土師器	皿	S K 71	(10.8)	(1.9)	にぶい橙 (5YR7/4)	-	煤付着	
	30	土師器	皿	S K 71	(12.0)	2.2	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着	
	31	土師器	皿	S K 71	(13.2)	2.0	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-		
	32	陶器	椀	S K 71	(11.5)	(5.5)	黄灰 (2.5Y6/1)	鉄	瀬戸美濃	
	33	磁器	椀	S K 71	(14.3)	5.0	乳白色	瑠璃 + 透明	中国 外面瑠璃釉	
	34	陶器	皿	S K 71	12.1	2.5	灰白 (10YR8/2)	灰	瀬戸美濃 高台内重ね焼き痕 菊花皿	
	35	陶器	皿	S K 71	9.9	2.8	浅黄 (2.5Y7/3)	灰	瀬戸美濃 重ね焼き痕 見込み印判	
	36	陶器	鉢	S K 71	28.0	6.1	にぶい赤褐 (5YR4/3)	-	備前	
	99	1	土師器	皿	S K 69	5.8	1.1	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	煤付着
		2	土師器	皿	S K 69	6.8	1.4	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	煤付着
		3	土師器	皿	S K 69	8.8	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
		4	土師器	皿	S K 69	9.4	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
		5	土師器	皿	S K 69	9.4	1.9	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
		6	土師器	皿	S K 69	9.2	2.2	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
		7	土師器	皿	S K 69	10.9	2.4	橙 (7.5YR7/6)	-	煤付着
		8	土師器	皿	S K 69	10.6	2.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
		9	土師器	皿	S K 69	9.8	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
		10	土師器	皿	S K 69	10.5	2.2	浅黄橙 (10YR8/3)	-	煤付着
		11	土師器	皿	S K 69	11.5	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
		12	土師器	皿	S K 69	10.4	2.3	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
		13	土師器	皿	S K 69	10.5	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
14		土師器	皿	S K 69	10.6	2.2	浅黄橙 (10YR8/4)	-	煤付着	
15		土師器	皿	S K 69	11.5	2.0	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-		
16		土師器	皿	S K 69	10.4	2.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着	
17		土師質	蓋	S K 69	(20.1)	3.2	褐灰 (10YR6/1)	-		
18		陶器	皿	S K 69	11.0	2.6	灰白 (10YR8/1)	灰	瀬戸美濃 見込み釉剥ぎ	
19		陶器	皿	S K 69	10.3	2.1	灰白 (10YR8/1)	灰	瀬戸美濃 見込み釉剥ぎ	
20		陶器	皿	S K 69	(10.3)	2.4	灰白 (2.5Y8/2)	鉄	瀬戸美濃	
21		陶器	皿	S K 69	9.9	2.2	灰白 (10YR7/1)	灰	瀬戸美濃 見込み釉剥ぎ	
22		陶器	皿	S K 69	9.5	2.3	灰白 (5Y8/1)	灰	瀬戸美濃	
23		陶器	小椀	S K 69	-	(3.4)	灰白 (7.5YR8/2)	灰	瀬戸美濃	
24		铸造製品	取鍋	S K 69	(8.8)	(3.5)	灰白 (10YR7/1)	-		
25		陶器	椀	S K 69	-	(3.5)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	灰	肥前	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
99	26	陶器	鉢	S K 69	-	(3.1)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	鉄絵	肥前
	27	陶器	鉢	S K 69	(15.4)	4.9	浅黄橙 (10YR8/3)	鉄絵志野	瀬戸美濃
	28	陶器	椀	S K 69	10.8	6.0	橙 (7.5YR6/6)	鉄	瀬戸美濃
	29	磁器	皿	S K 69	(11.5)	2.6	灰白 (N8/0)	白磁	景德鎮
	30	陶器	鉢	S K 69	(19.3)	5.5	褐 (7.5YR4/6)	-	丹波
	31	土製品	羽口	S K 69	(3.4)	(2.9)	にぶい橙 (5YR6/4)	-	
	32	陶器	播鉢	S K 69	(27.2)	6.0	にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	-	信楽
	33	土製品	人形	S K 69	2.5	5.0	浅黄橙 (10YR8/3)	-	犬形土製品 手びねり
	34	土師質	炮烙	S K 69	(32.8)	(5.9)	にぶい黄褐 (10YR7/3)	-	深草か
	35	土師器	皿	S K 28	(12.8)	(2.0)	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	36	陶器	皿	S K 28	11.8	2.7	浅黄橙 (7.5YR8/3)	灰	瀬戸美濃
	37	土師質	焼塩壺	S K 28	(4.0)	(4.0)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	-	
	38	陶器	大皿	S K 28	27.00	5.00	灰白 (10YR8/2)	黄瀬戸	瀬戸美濃 重ね焼き痕 見込み印判
	100	1	土師器	皿	S K 29	5.1	1.1	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-
2		土師器	皿	S K 29	5.7	1.1	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	煤付着
3		土師器	皿	S K 29	9.3	2.2	浅黄橙 (10YR8/4)	-	煤付着
4		土師器	皿	S K 29	10.1	2.3	にぶい黄橙 (10YR7/2)	-	
5		土師器	皿	S K 29	10.0	1.9	橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
6		土師器	皿	S K 29	9.5	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
7		土師器	皿	S K 29	(10.8)	(2.2)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	煤付着
8		土師器	皿	S K 29	10.7	2.1	浅黄橙 (10YR8/3)	-	煤付着
9		土師器	皿	S K 29	11.9	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
10		土師器	皿	S K 29	12.0	1.8	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	
11	土師器	皿	S K 29	(12.4)	2.1	橙 (5YR6/6)	-		
12	陶器	徳利	S K 29	4.9	7.7	灰赤 (2.5YR4/2)	灰	備前	
13	土師器	皿	S K 29	(12.6)	2.2	にぶい橙 (5YR7/4)	-	煤付着	
14	土師器	皿	S K 29	12.5	2.0	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	煤付着	
15	土師質	小鉢	S K 29	6.6	4.2	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
16	陶器	皿	S K 29	(10.0)	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/3)	鉄	瀬戸美濃	
17	陶器	皿	S K 29	(10.4)	2.3	灰白 (10YR7/1)	灰	瀬戸美濃	
18	陶器	椀	S K 29	(11.2)	(5.0)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	灰	肥前	
19	土師器	皿	S K 29	(12.5)	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
20	瓦質	鉢	S K 29	(31.0)	(8.2)	褐灰 (10YR5/1)	-	大和 内面ミガキ	
21	磁器	皿	S K 29	(13.1)	(2.2)	灰白 (10YR7/1)	白磁	中国 蛇ノ目釉剥ぎ	
22	磁器	皿	S K 29	-	(2.6)	灰白 (10YR7/1)	白磁	中国 蛇ノ目釉剥ぎ	
23	土師器	皿	S K 2086	(4.5)	1.1	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-		
24	土師器	皿	S K 2086	(5.5)	1.3	褐灰 (7.5YR4/1)	-		
25	土師器	皿	S K 2086	(7.1)	1.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
26	土師質	焼塩壺	S K 2086	5.0	8.7	橙 (5YR7/6)	-		

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
100	27	陶器	皿	S K 2086	10.9	2.2	にぶい橙 (5YR6/4)	灰	瀬戸美濃 重ね焼き痕
	28	陶器	皿	S K 2086	12.0	2.3	灰白 (10YR8/2)	鉄	瀬戸美濃
	29	陶器	椀	S K 2086	(9.8)	(4.8)	明褐灰 (7.5YR7/2)	鉄	瀬戸美濃
	30	陶器	鉢	S K 2086	-	(4.1)	灰白 (10YR8/2)	鉄絵志野	瀬戸美濃
	31	土師器	皿	S K 2086	12.7	1.9	赤褐 (2.5YR4/8)	-	内面漆塗り 煤付着
	32	磁器	小杯	S K 2086	6.6	3.6	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	33	土師質	面打	S K 2086	2.4	0.6	浅黄橙 (7.5YR8/6)	-	土師器皿転用
	34	土師質	炮烙	S K 2086	(34.0)	(7.3)	浅黄橙 (10YR8/4)	-	大和か
	35	土師器	皿	S K 2198	9.0	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	36	土師器	皿	S K 2198	(10.0)	1.8	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	
	37	土師器	皿	S K 2198	(10.6)	(1.9)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	38	磁器	皿	S K 2198	(9.2)	2.3	淡黄 (2.5Y8/3)	白磁	中国 見込み釉剥ぎ 高台内朱書
	39	土師器	皿	S K 3252	(10.6)	(2.1)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	40	磁器	椀	S K 3252	-	(3.5)	灰白 (N7/0)	青磁	龍泉窯系 連弁文
	41	土師器	皿	S K 3472	(11.3)	(1.6)	灰白 (10YR8/2)	-	
	42	土師器	皿	S K 3472	(11.5)	1.9	灰白 (10YR8/2)	-	
	43	磁器	皿	S K 3472	(12.8)	3.0	灰白 (N8/0)	白磁	中国 見込み蛇ノ目釉剥ぎ
44	陶器	椀	S K 3472	(12.0)	5.9	灰白 (10YR8/1)	灰	肥前	
45	土師器	皿	S K 3571	8.4	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着	
46	土師器	皿	S K 3571	8.0	1.7	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-		
47	土師器	皿	S K 3571	12.0	2.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着	
101	1	土師器	皿	S K 14	5.2	1.1	にぶい黄橙 (7/4)	-	
	2	土師器	皿	S K 14	6.9	1.5	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	3	土師器	皿	S K 14	7.3	1.7	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	4	土師器	皿	S K 14	9.4	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	5	土師器	皿	S K 14	(11.4)	2.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	6	土師器	皿	S K 14	10.8	2.3	橙 (7.5YR7/6)	-	
	7	土師器	皿	S K 14	12.3	2.3	橙 (7.5YR7/6)	-	煤付着
	8	土師器	皿	S K 14	10.8	2.4	橙 (7.5YR7/6)	-	
	9	土師器	皿	S K 14	(10.8)	2.2	にぶい橙 (5YR7/4)	-	煤付着
	10	土師器	皿	S K 14	11.7	2.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	11	土師質	小壺	S K 14	2.5	2.5	灰白 (2.5Y8/2)	-	
	12	土師質	焼塩壺蓋	S K 14	7.5	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	13	陶器	小杯	S K 14	(6.2)	3.3	橙 (5YR6/6)	灰	肥前 底部糸切り痕
	14	陶器	小杯	S K 14	(7.8)	3.3	にぶい橙 (5YR6/4)	灰	肥前 底部糸切り痕
	15	陶器	椀	S K 14	(11.2)	7.2	灰白 (2.5Y8/2)	鉄	瀬戸美濃
	16	陶器	椀	S K 14	(10.0)	4.6	灰白 (10YR8/2)	灰	瀬戸美濃
	17	陶器	椀	S K 14	(10.0)	5.0	灰白 (2.5Y8/2)	灰	瀬戸美濃
18	陶器	椀	S K 14	(9.8)	4.7	灰白 (10YR8/2)	灰	瀬戸美濃	
19	陶器	椀	S K 14	11.2	(6.0)	灰白 (5Y8/1)	鉄	瀬戸美濃	
20	陶器	皿	S K 14	(11.8)	4.6	にぶい橙 (5YR6/4)	灰	肥前 砂目	
21	磁器	椀	S K 14	-	(4.8)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	灰	肥前	
22	磁器	椀	S K 14	-	(2.7)	白 (N9/0)	染付	景德鎮	
23	磁器	皿	S K 14	-	(2.4)	白 (N9/0)	染付	景德鎮	
24	磁器	皿	S K 14	(12.3)	3.2	灰白 (N8/1)	白磁	景德鎮	
25	陶器	皿	S K 14	9.4	2.0	明褐灰 (7.5YR7/2)	灰	瀬戸美濃 見込み釉剥ぎ	
26	陶器	皿	S K 14	9.7	1.9	灰白 (2.5Y8/2)	灰	瀬戸美濃 見込み釉剥ぎ	
27	陶器	皿	S K 14	(11.8)	3.2	灰白 (10YR8/2)	灰	瀬戸美濃 菊花皿	
28	陶器	皿	S K 14	11.6	4.0	灰黄 (2.5Y6/2)	灰	肥前 砂目	
29	陶器	皿	S K 14	(12.4)	3.4	灰白 (2.5Y8/2)	鉄絵志野	瀬戸美濃	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
101	30	陶器	皿	S K 14	(15.2)	4.8	灰白 (2.5Y8/2)	織部	瀬戸美濃
	31	陶器	鉢	S K 14	-	(3.8)	橙 (2.5YR6/6)	灰	肥前
	32	瓦質	瓦灯	S K 14	-	(3.7)	暗灰黄 (2.5Y5/2)	-	大和か
	33	瓦質	瓦灯	S K 14	(23.2)	(10.2)	オリーブ黒 (5Y3/1)	-	大和か
	34	瓦質	瓦灯	S K 14	(19.0)	(8.8)	灰白 (10YR7/1)	-	大和か
	35	瓦質	瓦灯	S K 14	(16.7)	7.3	暗灰 (N3/0)	-	大和か
	36	陶器	茶入	S K 14	-	(6.4)	灰白 (2.5Y7/1)	鉄	瀬戸美濃
37	陶器	小壺	S K 14	-	(6.8)	褐灰 (7.5YR6/1)	灰	肥前	
102	1	陶器	播鉢	S K 14	40.1	26.3	橙 (5 YR7/6)	-	信楽
	2	磁器	蓋	S K 21	9.4	1.9	白 (N9/0)	赤絵	肥前
	3	土師器	皿	S K 21	(6.2)	1.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	4	土師器	皿	S K 21	7.0	1.5	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	5	土師器	皿	S K 21	(10.1)	1.6	にぶい橙 (5YR6/4)	-	煤付着
	6	土師器	皿	S K 21	(9.4)	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	7	土師器	皿	S K 21	(10.4)	1.6	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	8	土師器	皿	S K 21	9.8	1.8	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	煤付着
	9	土師器	皿	S K 21	(10.4)	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	10	土師器	皿	S K 21	(11.2)	2.2	橙 (5YR7/6)	-	煤付着
	11	土師器	皿	S K 21	(12.0)	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	12	土師器	皿	S K 21	(12.4)	1.7	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	13	磁器	小皿	S K 21	4.8	1.5	灰白 (N8/0)	白磁	肥前
	14	瓦質	ミニチュア	S K 21	2.5	2.7	黄灰 (2.5Y4/1)	-	釜
	15	陶器	椀	S K 21	-	(1.7)	浅黄橙 (10YR8/4)	鉄	瀬戸美濃
	16	陶器	壺	S K 21	(7.0)	(4.2)	にぶい赤褐 (7.5R4/3)	鉄	信楽
	17	陶器	皿	S K 21	(11.8)	3.6	褐灰 (7.5YR6/1)	灰	肥前 砂目
	18	磁器	皿	S K 21	(13.6)	3.5	灰白 (N8/0)	白磁	肥前 蛇ノ目釉剥ぎ
	19	陶器	壺	S K 21	-	(6.6)	にぶい赤褐 (2.5YR4/3)	-	ベトナム
	20	土師質	炮烙	S K 21	(27.6)	(4.2)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	大和か
	21	土師器	炮烙	S K 21	(32.4)	(5.9)	明黄褐 (10YR7/6)	-	大和か
	22	磁器	鉢	S K 21	(38.0)	(7.9)	灰 (5Y5/1)	刷毛	肥前
23	陶器	鉢	S K 21	-	(6.9)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	灰	肥前	
24	瓦質	火鉢	S K 21	(12.4)	5.7	褐灰 (10YR5/1)	-	大和 花形印判残存	
103	1	土師器	皿	S K 36	5.4	1.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	2	土師器	皿	S K 36	5.9	1.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	3	土師器	皿	S K 36	6.9	1.4	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	4	土師器	皿	S K 36	6.9	1.4	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	5	土師器	皿	S K 36	6.6	1.4	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	6	土師器	皿	S K 36	8.7	2.0	橙 (7.5YR7/6)	-	煤付着
	7	土師器	皿	S K 36	10.7	2.4	橙 (7.5YR7/6)	-	煤付着
	8	土師器	皿	S K 36	9.5	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	9	土師器	皿	S K 36	9.3	1.8	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
	10	土師器	皿	S K 36	9.2	2.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	11	土師器	皿	S K 36	9.4	2.1	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
	12	土師器	皿	S K 36	10.5	2.1	橙 (7.5YR7/6)	-	
	13	土師器	皿	S K 36	10.3	2.2	橙 (7.5YR7/6)	-	煤付着
	14	土師器	皿	S K 36	10.5	2.1	橙 (7.5YR7/6)	-	煤付着
	15	土師器	皿	S K 36	(11.0)	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	16	土師器	皿	S K 36	12.2	2.4	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
103	17	土師器	皿	S K 36	11.8	2.3	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
	18	鑄造製品	埴塼	S K 36	9.8	3.4	黄灰 (2.5YR6/1)	-	
	19	土師質	小壺	S K 36	2.4	2.3	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	20	土師質	小壺	S K 36	(2.3)	2.7	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	21	土師質	小壺	S K 36	(2.2)	2.8	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	22	陶器	小杯	S K 36	(5.0)	2.7	灰白 (5Y7/1)	灰	肥前
	23	陶器	小椀	S K 36	(6.0)	3.0	灰白 (10YR8/2)	鉄	瀬戸美濃
	24	陶器	小椀	S K 36	6.0	2.6	にぶい橙 (7.5YR7/4)	鉄	瀬戸美濃
	25	陶器	椀	S K 36	6.9	4.4	浅黄橙 (7.5YR8/3)	灰	肥前
	26	陶器	椀	S K 36	9.4	5.8	浅黄 (2.5Y7/3)	鉄	肥前
	27	陶器	椀	S K 36	10.9	6.7	にぶい赤褐 (5YR5/3)	灰	肥前
	28	陶器	椀	S K 36	(10.6)	6.5	にぶい赤褐 (5YR5/4)	鉄	肥前
	29	陶器	椀	S K 36	10.6	7.3	にぶい橙 (5YR7/4)	灰	肥前
	30	陶器	椀	S K 36	(12.6)	6.3	にぶい黄 (2.5Y6/3)	灰	肥前
	31	陶器	椀	S K 36	(11.0)	5.5	灰白 (2.5Y8/2)	志野	瀬戸美濃
	32	陶器	椀	S K 36	11.0	6.7	にぶい橙 (7.5YR7/3)	灰	瀬戸美濃
	33	陶器	椀	S K 36	(10.4)	6.0	にぶい黄橙 (10YR6/3)	鉄	肥前
	34	陶器	椀	S K 36	10.2	5.3	灰白 (2.5Y8/2)	志野	瀬戸美濃
	35	陶器	椀	S K 36	(10.3)	5.5	にぶい黄橙 (10YR6/3)	鉄	肥前
	36	陶器	椀	S K 36	(11.2)	6.4	淡黄 (2.5Y8/3)	鉄	瀬戸美濃
	37	陶器	皿	S K 36	(10.7)	2.3	オリーブ黄 (5Y6/4)	灰	瀬戸美濃
	38	陶器	皿	S K 36	10.2	2.0	灰白 (7.5YR8/1)	灰	瀬戸美濃
	39	陶器	皿	S K 36	(10.4)	2.4	オリーブ黄 (5Y6/4)	灰	瀬戸美濃
	40	陶器	皿	S K 36	(10.3)	2.2	オリーブ黄 (5Y6/4)	灰	瀬戸美濃
	41	陶器	皿	S K 36	11.0	3.0	灰白 (5Y8/1)	灰	瀬戸美濃
	42	陶器	皿	S K 36	10.3	2.3	灰白 (5Y8/2)	灰	瀬戸美濃
	43	陶器	椀	S K 36	(11.5)	6.0	にぶい黄橙 (10YR7/2)	鉄	瀬戸美濃
	44	陶器	皿	S K 36	10.3	2.1	灰白 (10YR8/2)	灰	瀬戸美濃 菊花皿 重ね焼き痕
	45	陶器	椀	S K 36	13.7	5.4	浅黄橙 (10YR8/3)	灰	肥前
	46	陶器	皿	S K 36	(15.2)	3.8	淡黄 (2.5Y8/3)	鉄	瀬戸美濃
	47	磁器	椀	S K 36	(12.0)	(3.9)	灰白 (7.5Y8/1)	染付	漳州窯
	48	磁器	皿	S K 36	13.5	2.6	灰白 (N8/1)	染付	景德鎮
49	磁器	皿	S K 36	(13.5)	2.6	灰白 (N8/1)	染付	景德鎮	
50	磁器	皿	S K 36	(12.8)	2.0	灰白 (N8/0)	上絵	景德鎮	
104	1	磁器	鉢	S K 36	(12.0)	(5.7)	灰白 (5Y8/1)	鉄絵志野	瀬戸美濃
	2	陶器	鉢	S K 36	13.2	5.1	灰白 (10YR8/2)	灰	瀬戸美濃 重ね焼き痕 線刻文
	3	磁器	皿	S K 36	-	(1.8)	灰白 (5Y7/1)	染付	漳州窯
	4	陶器	小壺	S K 36	(4.0)	(6.8)	灰赤 (2.5YR4/2)	-	備前
	5	瓦質	ミニチュア	S K 36	(12.4)	(5.7)	オリーブ黒 (5Y3/1)	-	羽釜
	6	瓦質	火鉢	S K 36	(13.9)	5.6	黄灰 (2.5Y4/1)	-	大和
	7	陶器	徳利	S K 36	(4.6)	(18.6)	暗赤褐 (2.5YR3/3)	-	丹波
	8	鑄造製品	羽口	S K 36	3.8	10.2	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	9	瓦質	鉢	S K 36	24.0	9.3	橙 (7.5YR6/6)	-	大和 内面ミガキ
	10	瓦質	鉢	S K 36	24.6	10.0	褐灰 (10YR5/1)	-	大和 内面ミガキ
	11	瓦質	鉢	S K 36	(30.0)	(9.2)	黄灰 (2.5Y6/1)	-	大和 内面ミガキ
	12	土師質	炮烙	S K 36	(31.0)	(9.8)	黄橙 (10YR8/6)	-	大和型
	13	土師質	炮烙	S K 36	(32.8)	(7.0)	灰黄褐 (10YR4/2)	-	大和型

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
104	14	瓦質	火入	S K 36	(23.6)	15.5	黒 (7.5Y2/1)	-	大和
	1	土師器	皿	S K 49	6.0	1.3	灰白 (10YR8/2)	-	掃り目入る
	2	土師器	皿	S K 49	5.5	1.4	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	3	土師器	皿	S K 49	5.2	1.3	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	4	土師器	皿	S K 49	5.8	1.4	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	5	土師器	皿	S K 49	(9.6)	2.2	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
	6	土師器	皿	S K 49	(9.1)	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	7	土師器	皿	S K 49	(9.3)	2.1	にぶい橙 (7/4)	-	煤付着
	8	土師器	皿	S K 49	11.7	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	9	土師器	皿	S K 49	9.2	2.1	浅黄橙 (10YR8/3)	-	煤付着
	10	土師質	鉢	S K 49	(9.6)	(3.1)	灰黄 (2.5Y7/2)	-	
	11	陶器	皿	S K 49	-	(1.8)	浅黄橙 (10YR8/3)	灰	瀬戸美濃
	12	土製品	ミニチュア	S K 49	2.4	(4.3)	灰白 (10YR8/2)	-	塔 型合わせ
	13	陶器	播鉢	S K 49	(27.9)	(3.6)	橙 (2.5YR6/6)	-	信楽
	14	土師質	炮烙	S K 49	(33.1)	(5.2)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	大和か
	15	土師器	皿	S K 66	5.1	0.9	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	16	土師器	皿	S K 66	5.5	1.1	浅黄 (10YR8/3)	-	
	17	土師器	皿	S K 66	5.3	1.8	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	18	土師器	皿	S K 66	7.1	1.5	にぶい黄橙 (10YR7/2)	-	
	19	土師器	皿	S K 66	6.4	1.4	灰白 (10YR8/2)	-	煤付着
	20	土師器	皿	S K 66	9.5	2.0	灰黄 (2.5Y7/2)	-	
	21	土師器	皿	S K 66	9.5	1.9	浅黄橙 (10YR8/3)	-	煤付着
	22	土師器	皿	S K 66	10.9	2.0	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	23	土師器	皿	S K 66	9.5	2.0	淡黄 (2.5Y8/3)	-	
	24	土師器	皿	S K 66	10.6	(2.0)	灰白 (2.5Y8/2)	-	
	25	磁器	椀	S K 66	-	(1.5)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	染付	漳州窯
	26	瓦質	片口鍋	S K 66	(13.5)	3.7	灰白 (2.5Y8/2)	-	
	27	陶器	播鉢	S K 66	(26.1)	12.0	赤 (10R5/6)	-	信楽
	28	陶器	播鉢	S K 66	(33.6)	(10.0)	橙 (2.5YR6/6)	-	丹波
	29	土師器	皿	S K 72	5.4	1.3	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	30	土師器	皿	S K 72	5.2	1.3	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	31	土師器	皿	S K 72	(9.4)	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	32	土師器	皿	S K 72	(10.4)	1.9	にぶい橙 (5YR6/4)	-	
	33	土師器	皿	S K 72	(10.8)	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/6)	-	
	34	土師器	皿	S K 72	(10.3)	1.9	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	35	陶器	皿	S K 72	13.2	3.1	灰黄 (2.5Y7/2)	鉄絵	肥前
	36	陶器	花入	S K 72	(11.4)	(12.7)	浅黄橙 (10YR8/4)	泥漿	信楽
	37	陶器	鉢	S K 72	(16.3)	6.3	灰白 (2.5Y8/2)	鉄絵志野	瀬戸美濃 重ね焼き痕
	38	土師質	焼塩壺	S K 72	4.8	8.4	橙 (7.5YR7/6)	-	
	39	土師質	焼塩壺	S K 72	5.2	10.0	淡橙 (5YR8/3)	-	
	40	軟質施釉陶器	椀	S K 72	(10.6)	(2.4)	赤褐 (10R6/6)	透明 + 鉄	見込み鉄釉 京都 口縁と高台のみ
41	土師質	炮烙	S K 72	(28.8)	(4.2)	浅黄橙 (10YR8/4)	-	深草か	
106	1	土師器	皿	S K 79	5.3	1.1	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	煤付着

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
106	2	土師器	皿	S K 79	5.4	1.4	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	3	土師器	皿	S K 79	9.5	2.1	浅黄橙 (10YR8/3)	-	煤付着
	4	土師器	皿	S K 79	(10.0)	2.2	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	5	土師器	皿	S K 79	(11.0)	1.9	灰 (5Y4/1)	-	
	6	土師器	皿	S K 79	(11.0)	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
	7	土師器	小壺	S K 79	1.9	2.4	灰黄 (2.5Y7/2)	-	
	8	土師器	小壺	S K 79	2.1	2.3	灰白 (2.5Y8/2)	-	
	9	陶器	椀	S K 79	-	(6.5)	灰白 (10YR8/2)	灰	瀬戸美濃
	10	磁器	椀	S K 79	(11.1)	6.3	灰白 (N8/0)	白磁	肥前
	11	陶器	蓋	S K 79	8.6	2.1	灰 (5Y6/1)	鉄絵	瀬戸美濃 底部糸切り痕
	12	磁器	皿	S K 79	(11.7)	2.4	灰白 (N8/0)	染付	景德鎮
	13	陶器	皿	S K 79	(20.1)	4.7	にぶい黄橙 (10YR7/4)	鉄絵	肥前
	14	陶器	皿	S K 79	(26.0)	(4.1)	灰白 (5Y7/1)	染付	漳州窯系
	15	陶器	壺	S K 79	(11.0)	(6.0)	黒褐 (2.5Y3/2)	-	被熱
	16	陶器	壺	S K 79	(14.8)	(5.6)	灰黄 (2.5Y7/2)	鉄	九州 貝目
	17	陶器	播鉢	S K 79	(35.0)	(4.5)	にぶい赤褐 (5YR4/4)	-	丹波
	18	陶器	皿	S K 3186	15.0	3.7	灰 (N5/0)	灰	肥前系 型成形 貝目
	19	陶器	皿	S K 3186	14.7	4.0	灰 (N5/0)	灰	肥前系 型成形 貝目
	20	陶器	皿	S K 3241	12.3	3.7	黒褐 (5YR2/1)	灰	肥前系 型成形 貝目
	21	陶器	茶入	S K 3241	(3.1)	6.0	暗赤褐 (5YR3/2)	鉄	備前
	22	磁器	椀	S K 2078	(7.6)	5.2	灰白 (N8/0)	白磁	中国
	23	磁器	椀	S K 2078	(12.0)	(3.4)	灰白 (N8/0)	瑠璃 + 透明	中国 外面瑠璃釉
	24	軟質施釉陶器	椀	S K 3440	-	(4.5)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	鉄絵 + 透明	京都
	107	1	土師器	皿	S K 2047	5.6	1.2	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-
2		土師器	皿	S K 2047	6.6	1.5	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
3		土師器	皿	S K 2047	8.9	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
4		土師器	皿	S K 2047	9.2	2.1	黒 (7.5Y2/1)	-	煤付着
5		土師器	皿	S K 2047	9.8	2.2	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	煤付着
6		土師器	皿	S K 2047	10.0	2.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
7		陶器	皿	S K 2047	9.8	2.1	灰白 (2.5Y8/2)	灰	瀬戸美濃
8		陶器	皿	S K 2047	10.4	2.8	灰白 (2.5Y7/1)	灰	瀬戸美濃
9		陶器	皿	S K 2047	9.7	2.3	灰白 (5Y7/1)	灰	瀬戸美濃 見込み釉剥ぎ
10		磁器	皿	S K 2047	-	(1.7)	灰白 (N8/0)	青磁	中国 見込み印判
11		陶器	椀	S K 2047	12.0	6.0	灰白 (10YR8/2)	鉄	瀬戸美濃
12		陶器	椀	S K 2047	(11.9)	6.5	灰白 (5YR8/2)	鉄	瀬戸美濃
13		陶器	椀	S K 2047	-	1.8	灰白 (N7/0)	灰	朝鮮 砂目
14		磁器	皿	S K 2047	(9.0)	(2.2)	白 (N9/0)	染付	中国
15		陶器	壺	S K 2047	-	(3.2)	灰黄褐 (10YR6/2)	褐釉	中国
16		瓦質	鉢	S K 2047	(31.4)	(14.0)	オリーブ黒 (10YR3/1)	-	大和か
17		瓦質	釜	S K 2047	13.0	13.6	灰 (5Y4/1)	-	大和か
18		陶器	鉢	S K 3324	(24.8)	(4.7)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	緑 + 黄	中国
19		陶器	鉢	S K 3427	13.6	6.0	にぶい黄橙 (10YR7/2)	鉄絵	肥前
20		陶器	鉢	S K 3427	12.0	4.2	灰白 (2.5Y8/1)	織部	瀬戸美濃
21		土師器	皿	S K 65	(9.6)	(1.2)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
22		土師器	皿	S K 65	(11.5)	1.8	にぶい黄橙 (10YR7/2)	-	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
107	23	土師器	皿	S K 65	(11.8)	1.9	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	24	陶器	椀	S K 65	9.1	(4.6)	灰 (5Y6/1)	灰	肥前
	25	铸造製品	取鍋	S K 65	6.6	3.0	灰白 (25Y7/1)	-	
	26	瓦質	鉢	S K 65	25.1	10.1	暗灰 (N3/0)	-	大和型
	27	陶器	播鉢	S K 65	(33.1)	(6.2)	橙 (5YR6/6)		丹波
108	1	土師器	皿	S K 236	5.4	1.3	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	煤付着
	2	土師器	皿	S K 236	6.9	1.6	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
	3	土師器	皿	S K 236	6.9	1.7	浅黄 (25Y7/4)	-	
	4	土師器	皿	S K 236	9.6	2.3	浅黄 (25Y7/3)	-	
	5	土師器	皿	S K 236	9.2	2.0	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	煤付着
	6	土師器	皿	S K 236	10.8	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
	7	土師器	皿	S K 236	9.6	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	8	土師器	皿	S K 236	(11.8)	(2.1)	灰 (N5/0)	-	
	9	土師器	皿	S K 236	10.7	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	10	土師器	皿	S K 236	(12.5)	2.0	黄灰 (25Y5/1)	-	
	11	土師器	皿	S K 236	11.0	2.5	橙 (7.5YR7/6)	-	煤付着
	12	土師器	皿	S K 236	(12.4)	2.5	橙 (7.5YR7/6)	-	
	13	土師器	皿	S K 236	13.4	2.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	14	土師質	小壺	S K 236	2.5	2.7	灰白 (25Y8/2)	-	
	15	铸造製品	取鍋	S K 236	4.9	2.2	オリーブ (25GY5/1)	-	
	16	铸造製品	取鍋	S K 236	(11.0)	(3.7)	灰白 (25Y8/1)	-	
	17	瓦質	ミニチュア	S K 236	(6.8)	5.7	黒褐 (10YR3/1)	-	羽釜
	18	土師質	焼塩壺蓋	S K 236	7.1	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	19	土師質	焼塩壺	S K 236	5.8	9.5	淡赤橙 (25YR7/4)	-	
	20	陶器	椀	S K 236	(10.8)	5.6	灰黄 (25Y7/2)	灰	肥前
	21	陶器	椀	S K 236	(11.9)	6.4	褐色 (7.5YR4/4)	鉄	肥前
	22	陶器	皿	S K 236	10.3	2.5	灰白 (N7/0)	灰	瀬戸美濃
	23	陶器	皿	S K 236	10.7	2.3	灰白 (5Y7/1)	灰	瀬戸美濃
	24	陶器	椀	S K 236	(6.1)	(2.4)	灰白 (N8/0)	鉄	瀬戸美濃 取鍋に転用
	25	陶器	小椀	S K 236	8.9	3.7	灰白 (25Y8/2)	鉄	瀬戸美濃
	26	陶器	椀	S K 236	10.8	5.7	灰白 (10YR8/1)	鉄	瀬戸美濃
	27	陶器	椀	S K 236	11.6	(5.1)	灰白 (25Y8/2)	鉄	瀬戸美濃
	28	陶器	皿	S K 236	11.0	2.6	灰白 (25Y7/1)	灰	瀬戸美濃 見込み印判
	29	陶器	皿	S K 236	10.6	2.6	灰白 (5Y8/1)	灰	瀬戸美濃 見込み印判
	30	磁器	皿	S K 236	(13.9)	(1.9)	白 (N9/0)	白磁	景德鎮 輪花皿
	31	磁器	皿	S K 236	(11.8)	3.0	白 (N9/0)	白磁	景德鎮 菊花皿
	32	磁器	皿	S K 236	(12.8)	2.8	明青灰 (5B7/1)	染付	景德鎮
	33	磁器	皿	S K 236	(12.8)	3.1	灰白 (N8/0)	染付	景德鎮
	34	磁器	椀	S K 236	4.4	(1.6)	明青灰 (5B7/1)	染付	景德鎮
	35	磁器	皿	S K 236	-	(1.8)	灰白 (5Y7/1)	青磁	龍泉窯系
	36	緑釉陶器	椀	S K 236	-	(3.8)	灰白 (10YR8/2)	緑	軟質 見込み圏線
	37	瓦質	鉢	S K 236	30.0	11.6	灰 (N5/0)	-	大和
	38	陶器	播鉢	S K 236	(33.7)	(9.8)	橙 (5YR6/8)		信楽
109	1	土師質	炮烙	S K 236	(31.3)	8.3	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	大和型 煤付着
	2	土師質	炮烙	S K 236	(34.7)	10.5	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	大和型 煤付着
	3	土師器	皿	S K 3167	(11.0)	2.4	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	4	土師器	皿	S K 3167	(12.0)	2.0	橙 (7.5YR7/6)	-	
	5	磁器	ミニチュア	S K 3167	(4.2)	2.9	白 (N9/0)	上絵 + 染付	肥前
	6	陶器	皿	S K 3167	(13.2)	3.6	灰白 (N8/0)	灰	肥前 砂目

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
109	7	磁器	椀	S K 3167	(11.5)	(2.0)	灰白 (10Y8/1)	白磁	中国
	8	磁器	椀	S K 3167	(14.0)	(2.6)	灰白 (10Y8/1)	白磁	中国
	9	磁器	椀	S K 3167	-	(2.9)	灰白 (N8/0)	染付	中国
	10	磁器	皿	S K 3167	(13.4)	3.5	白 (N9/0)	染付	肥前
	11	瓦質	羽釜	S K 3167	-	(6.3)	灰 (N4/0)	-	
	12	灰釉陶器	椀	S K 3167	(14.4)	(3.0)	灰白 (7.5YR7/1)	灰	
	13	灰釉陶器	椀	S K 3167	-	(2.4)	灰白 (5Y7/1)	灰	
	14	灰釉陶器	鉢	S K 3167	(22.8)	(6.0)	灰白 (N7/0)	灰	貼り付け高台 重ね焼き痕
	15	陶器	播鉢	S K 3167	(40.2)	15.3	にぶい赤褐 (2.5YR4/3)	-	丹波
110	1	土師器	皿	S K 3230	5.3	1.2	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	2	土師器	皿	S K 3230	5.5	1.3	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	3	土師器	皿	S K 3230	6.7	1.6	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
	4	土師器	皿	S K 3230	7.0	1.5	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
	5	土師器	皿	S K 3230	9.5	2.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	6	土師器	皿	S K 3230	9.4	2.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	7	土師器	皿	S K 3230	9.9	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	8	土師器	皿	S K 3230	9.5	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	9	土師器	皿	S K 3230	11.0	2.5	にぶい橙 (5YR7/4)	-	煤付着
	10	土師器	皿	S K 3230	10.8	2.3	淡橙 (5YR8/3)	-	煤付着
	11	土師器	皿	S K 3230	10.7	2.3	にぶい橙 (5YR7/4)	-	煤付着
	12	土師器	皿	S K 3230	11.1	2.3	にぶい橙 (5YR7/4)	-	煤付着
	13	土師器	皿	S K 3230	10.9	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	14	土師器	皿	S K 3230	11.0	2.2	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
	15	土師器	皿	S K 3230	(12.9)	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	16	土師器	皿	S K 3230	(14.8)	(1.9)	灰褐 (7.5YR6/2)	-	内外面に金付着
	17	土師質	小壺	S K 3230	2.2	2.5	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	18	土師質	小壺	S K 3230	2.4	2.6	灰白 (10YR8/2)	-	
	19	土師質	小壺	S K 3230	2.0	2.5	灰白 (10YR8/2)	-	
	20	土師質	羽釜	S K 3230	(19.6)	(7.0)	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
	21	土師質	焼塩壺	S K 3230	4.2	8.0	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	22	土師質	焼塩壺蓋	S K 3230	6.7	1.6	橙 (2.5YR7/6)	-	
	23	土師質	焼塩壺	S K 3230	5.2	9.0	橙 (2.5YR7/6)	-	
	24	土師質	焼塩壺蓋	S K 3230	6.6	1.7	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	25	土師質	焼塩壺	S K 3230	5.0	8.7	にぶい橙 (5YR6/4)	-	煤付着
	26	陶器	小壺	S K 3230	-	(3.7)	灰白 (10YR8/1)	鉄絵志野	瀬戸美濃
	27	陶器	小壺	S K 3230	-	(3.1)	灰白 (2.5Y8/1)	鉄	肥前
	28	磁器	杯	S K 3230	(8.0)	(3.3)	白 (N9/0)	白磁	中国か
	29	陶器	皿	S K 3230	14.4	5.6	にぶい橙 (7.5YR7/4)	灰	肥前 砂目
	30	陶器	椀	S K 3230	(11.7)	7.0	浅黄橙 (10YR8/3)	鉄	瀬戸美濃 底部糸切り痕
	31	陶器	皿	S K 3230	12.1	3.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	灰	肥前 砂目
	32	陶器	皿	S K 3230	-	(3.1)	赤褐 (2.5YR4/6)	灰	肥前 砂目
	33	陶器	皿	S K 3230	11.5	3.2	赤褐 (2.5YR4/6)	灰	肥前 砂目
	34	陶器	皿	S K 3230	-	(2.4)	灰白 (10YR7/1)	灰	肥前 砂目
	35	陶器	椀	S K 3230	10.9	7.7	灰白 (N8/0)	灰	肥前 砂目
	36	磁器	椀	S K 3230	(11.6)	6.4	白 (N9/0)	染付	景德鎮
	37	磁器	椀	S K 3230	(12.2)	6.7	白 (N9/0)	染付	景德鎮
	38	陶器	椀	S K 3230	11.4	8.1	暗赤灰 (7.5R3/1)	刷毛目	肥前 胎土目
	39	陶器	椀	S K 3230	(10.4)	9.5	灰白 (10YR7/1)	鉄絵	肥前
111	1	磁器	小瓶	S K 3230	1.2	3.2	白 (N9/0)	染付	景德鎮
	2	磁器	小椀	S K 3230	-	(1.9)	白 (N9/0)	染付	景德鎮

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考	
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬		
111	3	磁器	小杯	S K 3230	(5.5)	3.6	白 (N9/0)	染付	景德鎮	
	4	磁器	鉢	S K 3230	(12.4)	(3.3)	白 (N9/0)	染付	景德鎮	
	5	磁器	椀	S K 3230	(12.3)	(5.1)	白 (N9/0)	染付	景德鎮	
	6	磁器	馬上杯	S K 3230	(7.6)	(7.5)	白 (N9/0)	染付	景德鎮	
	7	磁器	椀	S K 3230	-	(1.7)	白 (N9/0)	染付	中国	
	8	磁器	椀	S K 3230	-	2.2	白 (N9/0)	染付	中国	
	9	磁器	皿	S K 3230	(12.0)	3.2	白 (N9/0)	染付	景德鎮	
	10	磁器	椀	S K 3230	(13.0)	5.2	灰白 (N8/0)	染付	中国南方	
	11	磁器	蓋	S K 3230	(8.8)	2.9	灰白 (N8/0)	染付	景德鎮	
	12	磁器	脚付合子	S K 3230	(10.7)	4.6	灰白 (2.5Y8/1)	白磁	中国	
	13	磁器	皿	S K 3230	(13.9)	2.8	白 (N9/0)	白磁	景德鎮	
	14	磁器	皿	S K 3230	(12.0)	2.2	白 (N9/0)	染付	景德鎮	
	15	磁器	皿	S K 3230	(17.8)	(2.6)	灰白 (2.5Y8/1)	赤絵	漳州窯系	
	16	陶器	播鉢	S K 3230	(33.8)	12.7	にぶい赤褐 (2.5YR4/3)	-	丹波	
	17	陶器	播鉢	S K 3230	(36.0)	16.5	にぶい赤褐 (5YR6/4)	-	丹波	
	112	1	土師質	小壺	S K 3249	2.3	2.6	灰白 (2.5YR8/2)	-	
		2	土師器	皿	S K 3249	11.4	2.2	にぶい橙	-	煤付着
3		陶器	皿	S K 3249	10.2	3.7	にぶい橙 (7.5YR7/4)	灰	肥前	
4		陶器	椀	S K 3249	11.0	6.9	灰白 (10YR8/2)	鉄	瀬戸美濃	
5		磁器	椀	S K 3249	(12.1)	5.0	白 (N9/0)	染付	景德鎮	
6		土師器	皿	S K 3282 下層	10.9	2.6	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着	
7		陶器	椀	S K 3282 下層	4.8	2.4	灰白 (10YR8/1)	灰	瀬戸美濃	
8		陶器	椀	S K 3282 下層	(5.8)	4.7	灰白 (10YR8/1)	灰	肥前	
9		土師質	焼塩壺	S K 3282 下層	5.0	8.6	淡赤橙 (2.5YR7/6)	-		
10		陶器	鉢	S K 3282 下層	22.1	13.8	にぶい橙 (7.5YR7/3)	鉄絵	肥前	
11		土師器	皿	S K 3363	(14.6)	2.5	灰白 (10YR8/2)	-	内面金付着	
12		土師器	皿	S K 3329	10.0	2.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
13		土師器	皿	S K 3329	12.2	2.2	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
14		陶器	椀	S K 3329	(10.8)	7.1	灰白 (2.5Y7/1)	鉄	中国 被熱	
15		陶器	椀	S K 3329	(11.2)	7.9	にぶい橙 (7.5YR5/3)	鉄	瀬戸美濃	
16		磁器	椀	S K 3329	-	(4.1)	白 (N9/0)	染付	中国	
17		磁器	皿	S K 3329	-	(2.0)	灰白 (7.5Y7/1)	赤絵	漳州窯	
18		土師器	皿	S K 3364	11.1	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着	
19		土師器	皿	S K 3364	11.0	2.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着	
20		陶器	皿	S K 3364	11.6	3.1	灰 (7.5Y6/1)	灰	肥前 砂目	
21		陶器	椀	S K 3364	10.5	6.8	灰白 (5Y7/1)	灰	肥前	
22		陶器	播鉢	S K 3364	(32.6)	15.6	赤褐 (5YR4/6)	-	丹波	
23		土師器	皿	S K 3407	(10.4)	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
24		土師器	皿	S K 3407	(11.2)	2.3	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
25		陶器	椀	S K 3407	(10.6)	6.6	褐灰 (7.5YR6/1)	鉄	肥前	
26		磁器	皿	S K 3407	(13.8)	3.8	白 (N9/0)	染付	景德鎮	
27		磁器	皿	S K 3407	-	(1.4)	白 (N9/0)	染付	景德鎮	
28		陶器	皿	S K 3407	11.8	2.6	灰白 (2.5Y8/2)	鉄絵志野	瀬戸美濃	
29		陶器	鉢	S K 3407	-	7.1	灰白 (2.5Y8/2)	鉄絵志野	瀬戸美濃	
113	1	土師器	皿	S K 3656	(13.6)	(1.9)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
	2	磁器	鉢	S K 3226	21.9	9.6	白 (N9/0)	青白磁	波佐見	
	3	磁器	皿	S K 3183	13.6	2.5	灰白 (N8/0)	染付	肥前	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考	
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬		
113	4	磁器	瓶	S K 3183	(9.1)	(13.0)	灰白 (N8/0)	染付	肥前	
	5	磁器	皿	S K 3183	(20.0)	5.6	灰白 (5Y7/1)	青磁	肥前	
	6	土師器	皿	S K 3199	5.2	1.3	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着	
	7	土師器	皿	S K 3199	9.1	2.1	浅黄橙 (10YR8/4)	-		
	8	土師器	皿	S K 3199	10.9	2.7	浅黄橙 (7.5YR8/6)	-		
	9	土師器	皿	S K 3199	(11.0)	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着	
	10	土師器	皿	S K 3199	(12.5)	(2.1)	にぶい橙 (5YR7/4)	-		
	11	土師質	鉢	S K 3199	6.5	4.4	灰白 (2.5Y8/2)	-	煤付着 内曇り	
	12	陶器	皿	S K 3199	-	(0.7)	淡黄 (2.5Y8/3)	緑		
	13	土師質	焼塩壺	S K 3199	5.2	8.7	橙 (5YR6/6)	-		
	14	陶器	椀	S K 3199	(11.3)	7.5	灰白 (2.5YR8/1)	鉄	瀬戸美濃	
	15	陶器	椀	S K 3199	(9.9)	7.0	灰白 (2.5YR7/1)	灰	肥前	
	16	陶器	皿	S K 3199	(9.7)	2.2	灰白 (5Y8/2)	灰	瀬戸美濃 見込み釉剥ぎ	
	17	磁器	椀	S K 3199	(9.6)	(5.3)	灰白 (N8/0)	染付	こんにやく印判	
	18	磁器	椀	S K 3199	(11.7)	6.1	白 (N9/0)	染付	中国	
	19	磁器	椀	S K 3199	-	(2.5)	白 (N9/0)	紅 + 染付	景德鎮	
	20	磁器	椀	S K 3199	(5.7)	(3.4)	灰白 (N8/0)	染付	肥前	
	21	陶器	蓋	S K 3199	(8.5)	(3.2)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	黄 + 緑	中国	
	22	磁器	皿	S K 3199	(12.8)	3.0	灰白 (N8/0)	染付	景德鎮	
	23	磁器	皿	S K 3199	(14.0)	3.3	灰白 (N8/0)	染付	肥前	
	24	磁器	皿	S K 3199	-	(3.6)	灰白 (N8/0)	赤絵	漳州窯系	
	25	磁器	皿	S K 3199	13.5	3.0	灰白 (N8/0)	染付	肥前 こんにやく印判 五弁花	
	26	陶器	播鉢	S K 3199	(35.5)	14.2	褐 (7.5YR4/3)	-	丹波	
	114	1	土師質	小壺	S K 24	2.5	2.5	灰黄 (2.5Y7/2)	-	
		2	土師器	皿	S K 24	(8.5)	1.8	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
		3	土師器	皿	S K 24	(11.4)	(2.0)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
4		陶器	皿	S K 24	12.2	(3.7)	灰白 (7.5Y7/1)	灰	肥前 砂目	
5		陶器	椀	S K 24	12.0	(5.8)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	鉄	瀬戸美濃	
6		磁器	椀	S K 24	(13.0)	4.1	浅黄橙 (10YR8/3)	染付	福建広東系	
7		土師器	皿	S K 2049	(11.2)	(2.0)	明赤褐 (2.5YR5/6)	-	煤付着	
8		陶器	椀	S K 2049	(7.1)	3.2	灰白 (2.5Y8/1)	灰	肥前	
9		陶器	碗	S K 2049	-	(2.3)	灰白 (10YR8/2)	鉄	瀬戸美濃	
10		陶器	椀	S K 2049	(13.4)	(3.0)	灰白 (7.5YR8/1)	鉄絵	京都	
11		磁器	椀	S K 2049	(10.7)	(4.5)	白 (N9/0)	染付	肥前 こんにやく印判	
12		陶器	甕	S K 2049	(39.4)	(9.1)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	泥漿	信楽	
13		土師器	皿	S K 2072	(10.2)	(2.3)	灰白 (2.5Y8/2)	-	煤付着	
14		土師器	皿	S K 2072	(11.6)	(2.0)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着	
15		土師器	皿	S K 2072	(11.0)	(2.0)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
16		土師器	皿	S K 2072	(10.6)	(2.1)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
17		土師質	小壺	S K 2072	2.3	2.4	浅黄橙 (10YR8/3)	-		
18		土師質	焼塩壺蓋	S K 2072	6.6	2.2	橙 (2.5YR6/8)	-		
19		磁器	椀	S K 2072	-	(3.3)	白 (N9/0)	染付	中国	
20		陶器	椀	S K 2072	(7.2)	(4.2)	浅黄 (2.5Y7/4)	緑	瀬戸美濃	
21		陶器	椀	S K 2072	(12.0)	(6.5)	暗灰黄 (2.5Y4/2)	灰	京都	
22		陶器	皿	S K 2072	(13.3)	(3.9)	灰白 (7.5YR7/1)	灰	肥前	
23		陶器	椀	S K 2072	10.9	7.5	淡黄 (2.5YR8/3)	鉄	瀬戸美濃	
24		陶器	椀	S K 2072	(10.5)	(7.5)	浅黄橙 (10YR8/3)	鉄	瀬戸美濃	
25		陶器	皿	S K 2072	14.7	4.2	灰白 (10YR8/2)	灰	瀬戸美濃	
26		土師器	皿	S K 2074	(11.8)	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
27		土師器	皿	S K 2074	(11.7)	(1.9)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
28		鑄造製品	羽口	S K 2074	9.6	(9.1)	にぶい橙 (5YR7/3)	-		

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
114	29	土師器	皿	S K 3313	5.7	1.6	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	30	土師器	皿	S K 3313	8.4	1.7	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	31	土師器	皿	S K 3313	10.4	2.3	浅黄橙 (10YR8/3)	-	煤付着
	32	磁器	紅皿	S K 3313	4.1	1.5	灰白 (N8/0)	白磁	肥前 型成形
	33	陶器	椀	S K 3313	-	(2.1)	灰白 (2.5Y8/2)	灰	肥前系か
	34	陶器	椀	S K 3313	(9.8)	6.4	灰白 (2.5Y8/2)	鉄絵	肥前 高台内「清」在印
	35	陶器	椀	S K 3313	-	(1.0)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	灰	肥前
36	陶器	壺	S K 3313	(9.4)	19.7	暗赤褐 (2.5YR3/4)	褐	肥前	
115	1	土師質	小壺	S K 3260	2.1	2.4	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	2	土師質	ミニチュア	S K 3260	2.8	3.6	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	羽釜 ロクロ成形
	3	土師質	焼塩壺	S K 3260	5.5	9.2	赤橙 (10R6/8)	-	
	4	土師質	小皿	S K 3260	5.4	1.2	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	5	土師器	皿	S K 3260	(10.6)	2.5	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	6	土師器	皿	S K 3260	11.2	1.9	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
	7	土師器	皿	S K 3260	(11.4)	2.3	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
	8	土師質	鉢	S K 3260	(11.9)	5.0	灰白 (10YR8/2)	-	深草 播り目入る
	9	陶器	椀	S K 3260	7.6	2.9	灰白 (N8/0)	灰	瀬戸美濃
	10	陶器	椀	S K 3260	6.5	3.9	褐灰 (10YR6/1)	鉄	肥前 底部糸切り痕
	11	陶器	椀	S K 3260	(10.2)	(6.1)	白 (N9/0)	灰	肥前
	12	陶器	皿	S K 3260	11.5	2.4	褐灰白 (10YR6/1)	灰	肥前
	13	陶器	鉢	S K 3260	(13.0)	6.7	褐灰 (10YR4/1)	-	信楽
	14	磁器	椀	S K 3260	(6.2)	4.3	白 (N9/0)	染付	肥前
	15	磁器	椀	S K 3260	(11.5)	(4.1)	白 (N9/0)	染付	漳州窯
	16	陶器	椀	S K 3260	(10.8)	7.3	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	17	磁器	皿	S K 3260	-	(1.5)	灰白 (N9/0)	染付	景德鎮
	18	土師質	炮烙	S K 3260	(29.0)	(4.5)	灰褐 (7.5YR5/2)	-	
	19	土師器	皿	S K 26	5.4	1.3	橙 (7.5YR7/6)	-	
	20	土師器	皿	S K 26	5.6	1.4	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	21	土師器	皿	S K 26	5.5	1.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	22	土師器	皿	S K 26	6.0	1.2	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	23	土師器	皿	S K 26	5.7	1.1	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	24	土師器	皿	S K 26	5.2	1.3	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	25	土師器	皿	S K 26	(11.0)	2.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	26	土師器	皿	S K 26	(13.0)	2.2	灰白 (10YR8/2)	-	煤付着
	27	土師器	皿	S K 26	8.9	1.7	橙 (7.5YR7/6)	-	
	28	土師器	皿	S K 26	9.6	2.1	橙 (5YR7/6)	-	
	29	土師器	皿	S K 26	(11.2)	2.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	30	土師器	皿	S K 26	9.7	2.1	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	31	土師器	皿	S K 26	(10.7)	(2.1)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	32	土師器	皿	S K 26	(10.8)	2.2	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	煤付着
	33	土師器	皿	S K 26	(12.8)	2.2	にぶい橙 (5YR6/4)	-	煤付着
	34	土師器	皿	S K 26	12.7	2.1	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	煤付着
	35	土師質	小壺	S K 26	2.2	2.6	淡黄 (2.5Y8/3)	-	
	36	土師質	小壺	S K 26	2.1	2.5	浅黄 (2.5Y7/3)	-	
	37	土師質	焼塩壺	S K 26	-	(4.7)	明褐 (7.5YR5/6)	-	
	38	磁器	ミニチュア	S K 26	3.0	-	灰白 (2.5Y8/1)	白磁	肥前 椀 型成形

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
115	39	陶器	皿	S K 26	(11.0)	3.5	にぶい黄褐 (10YR5/4)	灰	肥前 胎土目
	40	陶器	椀	S K 26	8.9	4.3	にぶい赤褐 (5YR4/4)	灰	肥前
	41	陶器	皿	S K 26	11.6	2.8	灰白 (10YR8/2)	志野	瀬戸美濃
	42	陶器	椀	S K 26	(10.6)	7.0	灰白 (2.5Y8/2)	鉄	瀬戸美濃
	43	磁器	皿	S K 26	(14.1)	3.6	灰白 (N8/0)	白磁	肥前 蛇ノ目釉剥ぎ
	44	陶器	皿	S K 26	(20.4)	4.5	灰白 (10YR8/1)	灰	瀬戸美濃 菊花皿
	45	陶器	小壺	S K 26	-	(7.9)	にぶい赤褐 (5YR5/3)	鉄	
	46	陶器	播鉢	S K 26	(35.2)	(10.9)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	-	信楽
116	1	陶器	茶入	S K 15	-	(2.8)	灰白 (2.5GY8/1)	鉄	中国か
	2	陶器	鉢	S K 2073	-	(1.6)	黄 (5Y7/6)	緑+黄	中国南方
	3	磁器	椀	S K 2087	-	(2.2)	灰白 (7.5YR8/2)	白磁	中国 高台内墨書
	4	陶器	皿	S K 3471	-	(1.6)	褐灰 (10YR6/1)	灰	朝鮮か
	5	陶器	皿	S K 3471	-	(1.0)	褐灰 (10YR6/1)	灰	朝鮮か
	6	陶器	壺	S K 3246	(9.8)	(7.7)	黒褐 (10YR3/2)	灰	ベトナム
	7	軟質施釉陶器	椀	S K 3292	(9.6)	(6.6)	黒褐 (2.5YR3/1)	鉄	京都
	8	陶器	甕	S X 2137	-	(25.5)	にぶい赤褐 (5YR4/3)	-	備前
117	1	土師器	皿	S D 12	3.4	1.3	橙 (7.5YR7/6)	-	
	2	土師器	皿	S D 12	(5.6)	1.2	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	3	土師器	皿	S D 12	(9.4)	(1.6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	4	土師器	皿	S D 12	(10.6)	1.7	黒褐 (10YR3/1)	-	煤付着
	5	土師器	皿	S D 12	(10.6)	(1.8)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	6	土師器	皿	S D 12	(10.5)	(1.8)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
	7	土師器	皿	S D 12	(12.2)	(1.8)	橙 (5YR7/6)	-	
	8	陶器	皿	S D 2013	(8.3)	2.4	浅黄橙 (7.5YR8/3)	灰	京・信楽系
	9	土製品	泥面子	S D 2013	3.1	-	にぶい橙 (5YR7/4)	-	「渦叶」型押し
	10	磁器	皿	S D 2013	(11.9)	(1.8)	白 (N9/0)	染付	肥前 菊御紋付
	11	陶器	蓋	S D 2037	7.6	1.0	灰白 (2.5Y8/1)	鉄絵	京・信楽系
	12	陶器	蓋	S D 2037	7.1	1.9	灰白 (5Y8/1)	透明	京・信楽系
	13	磁器	蓋	S D 3039	(8.0)	2.4	白 (N9/0)	染付	瀬戸 端反椀
	14	陶器	蓋	S D 3039	15.1	4.1	オリーブ黄 (7.5Y6/3)	灰	京・信楽系
	15	陶器	皿	S D 3039	(13.6)	(1.7)	灰白 (7.5YR7/1)	鉄絵	肥前
	16	磁器	椀	S D 3039	(7.4)	(6.2)	白 (N9/0)	染付	肥前
	17	土師器	皿	S D 3038	(7.7)	1.3	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	18	陶器	椀	S D 3038	(11.6)	3.6	灰白 (5Y8/1)	灰	京・信楽系
	19	土製品	泥面子	S D 3038	2.9	-	にぶい橙 (5YR7/4)	-	型押し
	20	土製品	泥面子	S D 3038	3.0	-	橙 (5YR6/6)	-	型押し
	21	土師質	ミニチュア	S D 3038	-	3.0	にぶい橙 (7.5YR7/3)	緑	蓋 型押し
	22	陶器	蓋	S D 3097	3.6	0.7	暗赤褐 (2.5YR3/3)	鉄	
	23	土師器	皿	S D 3097	(9.4)	(1.5)	にぶい橙 (5YR7/4)	-	煤付着
	24	土師器	皿	S D 3097	(10.2)	(1.7)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	煤付着
	25	土師器	皿	S D 3097	9.9	1.7	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	26	土師器	皿	S D 3097	(11.0)	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
	27	土師器	皿	S D 3099	(12.4)	(2.0)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
	28	陶器	椀	S D 3099	-	(1.4)	灰白 (2.5Y8/1)	透明	京・信楽系
	29	陶器	椀	S D 3099	-	(1.2)	にぶい橙 (5YR6/4)	灰	肥前
118	1	土師器	皿	S S 2020	5.0	1.2	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
118	2	土師器	皿	S S 2020	5.1	1.3	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	3	土師器	皿	S S 2020	9.1	1.8	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	4	土製品	人形	S S 2020	(3.2)	(3.2)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	深草 頭部のみ 型合わせ 鬚別付
	5	土製品	人形	S S 2020	2.9	4.3	灰白 (10YR8/1)	緑+透明	深草 猿 顔型押し 手び ねり
	6	土製品	泥面子	S S 2020	2.9	0.8	橙 (5YR6/6)	-	扇 型押し
	7	土製品	泥面子	S S 2020	3.0	0.8	にぶい橙 (7.5YR)	-	鶴 型押し
	8	土製品	泥面子	S S 2020	3.3	0.8	橙 (5YR7/6)	-	「川」 型押し
	9	磁器	椀	S S 2020	(6.4)	3.0	灰白 (10YR8/1)	上絵	肥前
	10	磁器	椀	S S 2020	(7.6)	(2.9)	灰白 (N8/0)	金彩赤絵	肥前
	11	磁器	椀	S S 2020	(7.3)	5.3	灰白 (7.5YR8/1)	染付	肥前
	12	磁器	蓋	S S 2020	9.5	2.7	白 (N9/0)	染付	肥前
	13	磁器	蓋	S S 2020	7.1	4.0	灰黄 (2.5Y7/2)	鉄絵	京・信楽系
	14	陶器	小壺	S S 2020	5.2	12.0	褐灰 (5YR5/1)	-	備前
	15	陶器	蓋	S S 2020	4.0	5.0	灰黄 (2.5YR6/2)	灰	京・信楽系
	16	磁器	小椀	S S 2020	8.6	4.2	白 (N9/0)	染付	瀬戸
	17	磁器	仏飯器	S S 2020	(6.4)	7.4	灰白 (2.5YR8/2)	赤絵	肥前系
	18	磁器	皿	S S 2020	(15.0)	(2.7)	灰白 (2.5Y8/1)	色絵	肥前系
	19	土師質	焙烙	S S 2020	(31.6)	(2.7)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	-	津田
	20	陶器	土瓶	S S 2020	(8.3)	11.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	鉄絵	京・信楽系
	21	陶器	行平鍋	S S 2020	16.4	9.0	灰白 (2.5Y8/1)	鉄	京・信楽系
	22	陶器	行平鍋	S S 2020	(19.2)	(8.2)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	鉄	京・信楽系
	23	磁器	皿	S S 2020	(22.0)	(4.6)	白 (N9/0)	染付	肥前
	119	1	土師器	皿	S E 2223	(9.4)	1.7	橙 (7.5YR7/6)	-
2		軟質施釉 陶器	椀	S E 2223	(7.8)	(4.2)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	透明	京都
3		磁器	小椀	S E 2223	(4.9)	3.6	白 (N9/0)	染付	景德鎮
4		陶器	花入	S E 2223	(7.6)	6.7	極暗赤褐 (5YR2/3)	鉄	備前 セミ形 型成形
5		土師器	皿	S E 2269	(5.6)	1.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
6		土師器	皿	S E 2269	(6.0)	1.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
7		土師器	皿	S E 2269	(5.2)	1.3	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
8		土師器	皿	S E 2269	(11.1)	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
9		土師器	皿	S E 2269	(10.6)	1.7	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
10		土師器	皿	S E 2269	(9.4)	2.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
11		土師器	皿	S E 2269	(10.8)	2.0	黒褐 (10YR3/1)	-	
12		土師器	皿	S E 2269	(10.9)	2.0	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	
13		磁器	椀	S E 2269	(10.0)	5.5	白 (N9/0)	染付	肥前
14		土師器	皿	S E 2264	5.1	1.4	にぶい橙 (5YR6/4)	-	煤付着
15		土師器	皿	S E 2264	(10.6)	2.1	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
16		陶器	椀	S E 2264	-	4.0	灰白 (2.5Y8/2)	灰	京都
17		磁器	椀	S E 2264	(12.0)	(5.8)	灰白 (5Y8/1)	染付	肥前
18		陶器	椀	S E 2264	(11.0)	5.2	浅黄橙 (10YR8/3)	刷毛目	肥前
19		陶器	椀	S E 2264	(10.0)	6.8	灰白 (10YR8/1)	透明	肥前
20		陶器	皿	S E 2264	(19.4)	6.3	灰白 (2.5Y8/2)	緑	肥前 見込み蛇ノ目釉剥ぎ
21		土製品	人形	S E 2264	3.9	5.6	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	牛 型合わせ
22		土師器	皿	S E 3247	(11.4)	(2.3)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
23		土師器	皿	S E 3247	(11.5)	2.0	黒褐 (2.5Y3/1)	-	煤付着
24		土師質	小壺	S E 3247	2.3	2.3	灰白 (2.5Y8/1)	-	
25		土製品	人形	S E 3247	2.5	3.6	灰白 (2.5YR8/2)	透明	仏像 型合わせ 台座別付 き

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
119	26	陶器	椀	S E 3247	(8.5)	4.5	浅黄橙 (10YR8/4)	鉄	瀬戸美濃
	27	磁器	椀	S E 3247	(9.7)	5.3	白 (N9/0)	染付	景德鎮
	28	磁器	椀	S E 3198	(9.8)	(4.8)	白 (N9/0)	染付	肥前 型紙刷り
	29	陶器	擂鉢	S E 3198	-	(5.1)	にぶい赤褐 (5YR4/4)	-	信楽
120	1	土師器	皿	S E 3132	10.6	1.8	灰白 (10YR8/2)	-	
	2	土師器	皿	S E 3132	10.5	1.9	灰白 (10YR8/2)	-	
	3	陶器	椀	S E 3132	12.2	4.6	浅黄橙 (10YR8/3)	透明	京・信楽系
	4	陶器	椀	S E 3132	12.0	5.7	にぶい黄橙 (10YR7/3)	透明	京・信楽系
	5	磁器	椀	S E 3132	8.70	2.80	灰白 (5Y8/1)	染付	肥前
	6	陶器	椀	S E 3132	7.8	4.8	灰白 (2.5Y8/2)	色絵	京・信楽系
	7	陶器	椀	S E 3132	(10.0)	5.3	浅黄橙 (10YR8/3)	上絵	京・信楽系
	8	陶器	椀	S E 3132	12.0	3.6	灰白 (10YR8/2)	緑	肥前 蛇ノ目釉剥ぎ
	9	陶器	鉢	S E 3132	(14.5)	(3.8)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	緑	肥前 蛇ノ目釉剥ぎ 釉掛け分け
	10	陶器	片口鉢	S E 3132	(17.4)	9.2	淡黄 (5Y8/3)	灰	瀬戸美濃
	11	土製品	人形	S E 3132	3.3	7.0	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	虚無僧 型合わせ 笠別付
	12	陶器	水滴	S E 3132	(6.1)	(3.8)	浅黄橙 (10YR8/3)	鉄絵 + 透明	京都 茶坊主 型合わせ
	13	土師質	炮烙	S E 3132	(26.6)	(5.4)	灰黄褐 (10YR4/2)	-	深草か
	14	陶器	土瓶	S E 3132	21.2	11.8	浅黄 (2.5Y8/3)	鉄絵	京・信楽系
	15	陶器	建水	S E 3132	14.7	15.7	灰白 (2.5Y7/1)	灰	京・信楽系
	16	陶器	擂鉢	S E 3132	(35.8)	14.4	浅黄橙 (10YR8/3)	泥漿	信楽
121	1	磁器	御神酒德利	S E 3171	4.0	7.6	白 (N9/0)	染付	肥前
	2	陶器	柄杓	S E 3171	7.4	5.5	灰白 (10YR8/1)	鉄絵	京・信楽系
	3	土師質	炮烙	S E 3171	-	(3.1)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	津田
	4	陶器	德利	S E 3171	(14.8)	(16.6)	灰白 (2.5Y)	鉄絵 + 白化粧	京・信楽系
	5	磁器	椀	S E 2054	8.0	4.1	白 (N9/0)	白磁	徳化窯 口縁釉剥ぎ 型成形
	6	陶器	灯明皿	S E 2054	(11.1)	2.4	灰白 (10YR8/1)	透明	京・信楽系 煤付着
	7	陶器	蓋	S E 2054	(14.8)	4.0	灰白 (10YR8/2)	灰	京・信楽系
	8	陶器	行平把手	S E 2054	(3.1)	(7.4)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	鉄	京・信楽系 型成形
	9	磁器	椀	S E 3072	8.4	4.0	白 (N9/0)	染付	瀬戸 高台内朱書
	10	陶器	容器	S E 3072	(5.8)	(2.2)	灰黄褐 (10YR6/2)	上絵 + 白化粧	京都
	11	陶器	蓋	S E 3072	12.0	3.5	褐灰 (10YR6/1)	灰	京・信楽系
	12	磁器	椀	S E 3072	(9.0)	(3.2)	白 (N9/0)	染付	肥前 底部着色
	13	磁器	皿	S E 3072	9.0	3.0	白 (N9/0)	金彩 + 赤絵 + 染付	肥前 高台内「乾」
	14	陶器	筒形容器	S E 3072	(8.6)	(2.1)	灰白 (10YR8/2)	透明	肥前 墨書「しるし 川□ □ 天保□年」
	15	鑄造製品	埴塼	S E 3072	(19.4)	(20.4)	緑黒 (10GY2/1)	-	
	16	土師器	皿	S E 3034	(10.0)	(1.4)	灰白 (10YR8/2)	-	
	17	土師器	皿	S E 3034	(10.2)	(1.4)	橙 (5Y7/6)	-	
	18	陶器	甕	S E 3034	(12.6)	(5.2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	泥漿	信楽
	19	土師器	皿	S E 3034	(8.8)	(2.5)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
	20	土師器	皿	S E 3034	(12.2)	2.6	灰黄 (2.5Y7/2)	-	
	21	土師器	皿	S E 3034	(14.2)	(2.5)	灰白 (10YR8/1)	-	
	22	土師器	皿	S E 3034	(14.4)	(2.7)	灰白 (10YR8/2)	-	内曇り
	23	陶器	擂鉢	S E 3034	(33.5)	13.5	灰白 (2.5Y8/2)	-	信楽
122	1	土師器	皿	S E 3138	(10.9)	1.9	橙 (7.5YR6/6)	-	
	2	陶器	油受皿	S E 3138	7.6	1.5	浅黄橙 (10YR8/3)	灰	京・信楽系 煤付着

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考	
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬		
122	3	陶器	風炉	S E 3138	-	(13.1)	明赤褐色 (2.5YR5/6)	-	深草 外面ミガキ	
	4	磁器	皿	S E 3138	12.6	3.8	白 (N9/0)	染付	肥前	
	5	磁器	蓋	S E 3138	(9.2)	2.8	白 (N9/0)	染付	肥前 端反椀	
	6	土師器	皿	S E 3154	(10.4)	(1.6)	黒褐 (5YR3/1)	-	煤付着	
	7	土師器	皿	S E 3154	(14.4)	(2.3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-		
	8	陶器	椀	S E 3154	(10.0)	(5.8)	灰白 (10YR8/2)	鉄	瀬戸	
	9	陶器	平椀	S E 3154	-	(2.7)	灰白 (10YR8/2)	透明	京・信楽系 墨書「す」	
	10	磁器	椀	S E 3154	-	(2.6)	白 (N9/0)	染付	中国	
	11	磁器	椀	S E 3154	(9.8)	4.4	白 (N9/0)	染付 + 赤絵	肥前 小町紅	
	12	磁器	椀	S E 3154	(11.4)	6.6	白 (N9/0)	染付	肥前 広東椀	
	13	磁器	蓋	S E 3154	(10.1)	2.8	白 (N9/0)	染付	肥前	
	14	磁器	鉢	S E 3154	(12.9)	(5.3)	白 (N9/0)	染付 + 赤絵	肥前	
	15	磁器	鉢	S E 3154	(17.7)	(5.2)	白 (N9/0)	染付	肥前	
	16	土製品	土人形	S E 3154	2.7	4.4	浅黄橙 (10YR8/3)	-	鳩 朱・墨塗 型合わせ	
	17	土製品	土人形	S E 3154	6.2	12.1	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	子連れ女性 彩色あり 型合わせ	
	18	土製品	ミニチュア	S E 3154	13.4	3.4	浅黄橙 (7.5YR8/3)	緑	橋	
	19	土製品	泥面子	S E 3154	3.1	-	にぶい橙 (5YR7/4)	-	「王」型押し	
	20	土製品	泥面子	S E 3154	2.9	-	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	「祇園守」型押し	
	21	陶器	鉢	S E 3154	(13.0)	(11.6)	褐灰 (10YR6/1)	鉄釉	京・信楽系	
	123	1	土師器	皿	S E 135	(9.6)	1.8	灰白 (7.5YR8/2)	-	煤付着
		2	土師器	皿	S E 135	10.7	1.9	褐灰 (10YR6/1)	-	煤付着
3		陶器	油受皿	S E 135	(10.2)	2.3	橙 (7.5YR7/6)	透明	京・信楽系	
4		磁器	椀	S E 135	(5.8)	3.4	白 (N9/0)	白磁	徳化窯 口縁釉剥ぎ 型成形	
5		土師質	炮烙	S E 135	(31.0)	(3.2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	津田	
6		磁器	椀	S E 135	(9.5)	(3.2)	白 (N9/0)	染付	肥前	
7		磁器	小瓶か	S E 135	(3.8)	(5.6)	灰白 (N8/0)	-	型合わせ	
8		土製品	土人形	S E 135	(4.0)	(10.7)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	狐 型合わせ	
9		磁器	小杯	S E 135	(5.7)	(2.5)	白 (N9/0)	鉄 + 黒	瀬戸 見込み「(百)薬之(長)也」	
10		土製品	紡錘車	S E 135	3.1	3.5	橙 (2.5YR6/6)	-	手びねり	
11		磁器	椀	S E 135	(11.0)	(5.7)	白 (N9/0)	染付	肥前	
12		磁器	皿	S E 135	(9.8)	2.4	白 (N9/0)	染付	肥前 口縁に鉄釉	
13		陶器	播鉢	S E 135	-	(3.8)	黄灰 (2.5Y5/1)	灰	京・信楽系	
14		磁器	蓋	S E 135	(16.4)	(2.2)	白 (N9/0)	染付	肥前 ミジン唐草	
15		磁器	蓋	S E 135	(7.9)	2.0	白 (N9/0)	染付	肥前 被熱	
16		磁器	椀	S E 135	(8.7)	(3.6)	白 (N9/0)	染付	肥前 被熱	
17		陶器	播鉢	S E 135	(29.4)	(8.2)	暗褐 (7.5YR3/4)	-	堺・明石系	
18		陶器	椀	S E 3312	(8.7)	3.9	灰白 (10YR8/1)	鉄絵	京・信楽系 墨書「入江」	
19		陶器	椀	S E 3312	(9.0)	4.5	にぶい黄橙 (10YR7/2)	鉄絵	京・信楽系	
20		陶器	皿	S E 3312	9.7	3.7	浅黄橙 (10YR8/3)	陶胎染付	京・信楽系	
21		陶器	水滴	S E 3312	(7.8)	(3.4)	灰白 (10YR8/2)	鉄絵	京・信楽系	
22	陶器	椀	S E 3335	-	(3.3)	灰白 (10YR8/2)	染付	京・信楽系 墨書「工」		
124	1	磁器	蓋	S L 3045	9.8	1.2	白 (N9/0)	透明	京・信楽系	
	2	磁器	蓋物身	S L 3045	9.8	2.5	白 (N8/0)	透明	京・信楽系	
	3	土師器	皿	S L 3050	(6.6)	1.4	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
	4	土師質	蓋	S L 3050	16.0	1.7	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	火消し壺として使用か 型成形	
	5	土師質	壺	S L 3050	12.8	7.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	火消し壺として使用か	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
124	6	土師器	皿	S L 3086 ・ S L 3087	(10.0)	1.7	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	7	磁器	皿	S L 3086 ・ S L 3087	9.8	1.8	白 (N9/0)	透明	肥前 型押し
125	1	土師器	皿	S S 07	(8.4)	1.5	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	2	土師器	皿	S S 07	(9.7)	1.7	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	
	3	土師器	皿	S S 07	(9.9)	1.7	黒褐 (10YR3/1)	-	
	4	土師器	皿	S S 07	(11.2)	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	5	磁器	椀	S S 07	(7.8)	(5.1)	灰白 (7.5Y8/1)	染付	肥前
	6	軟質施釉 陶器	椀	S S 07	(9.7)	(4.6)	灰黄褐 (10YR6/2)	灰+黒	京都 内面黒釉
	7	陶器	椀	S S 07	(11.5)	(4.0)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	刷毛目	肥前
	8	磁器	椀	S S 07	(8.2)	5.0	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	9	磁器	小皿	S S 07	(4.6)	1.2	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	10	磁器	丸椀	S S 07	-	(0.9)	灰白 (7.5Y8/1)	染付	肥前 高台内渦福
	11	磁器	椀	S S 07	(9.8)	5.4	灰白 (N8/0)	染付	波佐見
	12	磁器	蓋	S S 07	(6.2)	(1.4)	灰白 (N8/1)	色絵	肥前
	13	磁器	椀	S S 07	(10.4)	5.7	灰白 (7.5Y8/1)	染付	波佐見
	14	磁器	椀	S S 07	(9.8)	4.6	灰白 (7.5Y8/1)	染付	肥前 こんにやく印判
	15	磁器	椀	S S 07	(9.7)	5.5	灰白 (10YR8/2)	染付	肥前
	16	磁器	皿	S S 07	(13.6)	3.1	灰白 (5Y8/1)	染付	波佐見
	17	土師器	皿	S S 07	5.3	1.2	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
	18	土師器	皿	S S 07	5.3	1.3	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	煤付着
	19	土師器	皿	S S 07	5.2	1.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	20	土師器	皿	S S 07	4.9	1.2	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
	21	土師器	皿	S S 07	5.1	1.2	浅黄橙 (10YR8/4)	-	煤付着
	22	土師器	皿	S S 07	10.1	1.6	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	23	土師器	皿	S S 07	9.7	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	24	土師器	皿	S S 07	(10.0)	1.6	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	25	磁器	椀	S S 07	(10.0)	6.2	灰白 (N8/0)	染付	肥前 広東椀
	26	土師器	鉢	S S 07	5.5	2.3	浅黄橙 (10YR8/4)	-	ロクロ成形
	27	土師器	皿	S S 07	(10.1)	(1.9)	黒褐 (2.5Y3/1)	-	
	28	土師器	皿	S S 07	(9.8)	1.6	橙 (5YR7/6)	-	
	29	土師器	皿	S S 07	(11.0)	(1.9)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	-	
	30	陶器	杯	S S 07	4.8	4.4	灰白 (2.5Y7/2)	上絵	京都
31	陶器	椀	S S 07	9.2	5.3	灰白 (2.5Y8/1)	灰	京・信楽系	
32	陶器	鉢	S S 07	(20.0)	(4.0)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	灰	肥前	
33	陶器	椀	S S 07	(8.7)	5.4	灰白 (10YR8/2)	鉄	瀬戸美濃	
34	磁器	鉢	S S 07	(17.9)	(4.0)	灰白 (5Y8/1)	染付	肥前	
35	土師器	皿	S S 07	(9.0)	(1.7)	橙 (7.5YR7/6)	-		
36	土師器	皿	S S 07	(9.2)	(2.2)	にぶい橙 (5YR7/4)	-		
37	陶器	椀	S S 07	-	(5.3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	鉄	瀬戸美濃	
38	陶器	蓋	S S 07	9.2	2.2	黄灰 (2.5Y4/1)	-	京・信楽系 底部糸切り痕	
39	土師器	皿	S S 3274	8.8	2.0	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着	
40	土師器	皿	S S 3118	(10.6)	(2.1)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	-		
41	磁器	皿	S S 3322	(10.6)	3.0	灰白 (N8/0)	染付	波佐見 見込み五弁花印判	
42	陶器	皿	S S 3322	(14.6)	(3.9)	にぶい橙 (5YR6/4)	灰	肥前 胎土目	
126	1	土師質	蓋	S J 2040	14.4	1.8	橙 (5YR7/6)	-	型成形
	2	土師質	壺	S J 2040	11.8	7.1	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	胞衣壺
	3	土師質	蓋	S J 3049	13.7	2.2	にぶい橙 (5YR7/4)	-	型成形

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
126	4	土師質	壺	S J 3049	10.7	7.9	にぶい橙 (5YR7/4)	-	胞衣壺
	5	土師質	壺	S J 3116	12.0	6.6	橙 (5YR7/6)	-	胞衣壺
127	1	陶器	甕	S J 3052	-	31.8	灰白 (2.5Y8/2)	-	信楽
	2	陶器	甕	S J 3972	不明	(4.4)	にぶい赤褐 (2.5YR4/3)	-	信楽
	3	陶器	甕	S J 3972	-	(63.6)	灰白 (10YR8/2)	-	信楽
128	1	土師器	皿	S K 06	5.2	1.3	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	2	土師器	皿	S K 06	(10.0)	(1.8)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	3	土師質	小壺	S K 06	2.2	2.4	浅黄橙 (10YR8/2)	-	
	4	磁器	椀	S K 06	(10.0)	(4.8)	白 (N9/0)	染付	肥前
	5	土製品	土人形	S K 06	(3.3)	4.2	にぶい橙 (5YR7/4)	-	狸々 型合わせ
	6	土師器	皿	S K 23	(10.4)	(1.9)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	7	土師器	皿	S K 23	(9.8)	(2.2)	橙 (7.5YR7/6)	-	
	8	陶器	椀	S K 23	(11.8)	6.2	にぶい橙 (7.5YR6/4)	灰	肥前
	9	陶器	小椀	S K 23	(7.4)	3.6	灰白 (10YR8/2)	志野	瀬戸美濃
	10	土師質	面打	S K 23	2.8	2.8	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	土師器皿転用
	11	土師器	皿	S K 27	(9.5)	(1.4)	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
	12	土師器	皿	S K 27	(10.0)	1.9	灰白 (10YR8/2)	-	
	13	土師器	皿	S K 27	(10.8)	(1.5)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	14	土師器	皿	S K 27	(9.8)	1.9	にぶい橙 (5YR7/4)	-	煤付着
	15	土師器	皿	S K 27	(12.8)	2.3	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
	16	磁器	皿	S K 27	(9.0)	1.7	灰白 (N8/0)	白磁	中国 口縁釉剥ぎ
	17	瓦質	小壺	S K 27	(5.0)	6.2	灰 (5Y4/1)	-	
	18	土師器	皿	S K 50	5.4	1.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	19	土師器	皿	S K 50	10.0	2.2	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	20	土師器	皿	S K 50	10.0	2.2	灰黄褐 (10YR6/2)	-	
	21	土師器	皿	S K 50	(10.8)	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	22	土師器	皿	S K 50	10.5	2.2	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	23	土師器	皿	S K 50	10.5	1.9	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	24	陶器	椀	S K 50	(10.7)	6.4	灰白 (2.5Y8/1)	鉄	瀬戸美濃
	25	陶器	椀	S K 50	(11.4)	6.2	灰白 (2.5Y7/1)	緑	肥前
	26	陶器	皿	S K 50	(10.8)	2.6	灰白 (2.5Y8/1)	志野	瀬戸美濃
	27	陶器	皿	S K 50	(13.0)	2.6	灰白 (10YR7/1)	灰	瀬戸美濃 見込み釉剥ぎ
	28	磁器	椀	S K 50	-	(4.0)	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	29	土師質	炮烙	S K 50	(28.9)	6.3	灰黄褐 (10YR4/2)	-	深草か 型成形
	30	土製品	土人形	S K 50	3.3	5.6	灰白 (2.5Y8/2)	緑+透明	大黒 型合わせ
	31	土製品	土人形	S K 50	(4.4)	4.8	灰白 (2.5Y8/2)	-	堂内大黒 型合わせ
	32	陶器	播鉢	S K 50	(26.0)	(7.8)	橙 (5YR6/6)	-	信楽
	33	陶器	播鉢	S K 50	(36.8)	(7.1)	赤褐 (2.5YR4/6)	-	信楽
129	1	土師器	皿	S K 2055	(9.4)	1.8	橙 (7.5YR7/6)	-	
	2	土師器	皿	S K 2055	(10.2)	2.0	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	
	3	陶器	椀	S K 2055	(10.8)	(5.4)	灰白 (5Y8/1)	鉄	中国
	4	陶器	鉢	S K 2055	(19.1)	(6.0)	黄灰 (2.5Y4/1)	鉄絵	京都
	5	磁器	椀	S K 2055	(10.6)	5.7	白 (N9/0)	染付	肥前
	6	陶器	椀	S K 2055	-	(3.5)	灰白 (2.5Y7/1)	刷毛目	肥前
	7	磁器	椀	S K 2055	(11.0)	6.4	白 (N9/0)	染付	肥前
	8	土師質	壺	S K 2055	-	(5.9)	橙 (7.5YR7/6)	-	深草
	9	陶器	盤	S K 2055	-	(2.2)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	緑+黄	中国
	10	土師器	皿	S K 2059	5.2	1.5	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
129	11	土師器	皿	S K 2059	10.5	1.9	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
	12	土師器	皿	S K 2059	10.4	1.9	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
	13	陶器	椀	S K 2059	(8.1)	(4.2)	灰白 (N8/0)	鉄	瀬戸美濃
	14	陶器	椀	S K 2059	(12.2)	(5.4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	灰	肥前
	15	磁器	皿	S K 2059	(19.0)	3.8	灰白 (2.5Y8/1)	染付	肥前
	16	陶器	壺	S K 2059	-	(12.4)	灰白 (2.5Y8/1)	-	信楽
	17	土師質	小壺	S K 2076	2.2	2.5	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	18	土師器	皿	S K 2076	5.7	1.4	橙 (5YR7/6)	-	
	19	土師器	皿	S K 2076	(10.2)	(2.0)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	20	陶器	皿	S K 2076	12.9	4.1	灰白 (7.5YR8/1)	緑	肥前 見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	21	磁器	皿	S K 2076	(26.0)	(3.5)	灰白 (N8/0)	赤絵	漳州窯
130	1	土師器	皿	S K 3172	10.1	1.8	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	煤付着
	2	土師器	皿	S K 3172	9.9	1.8	にぶい黄橙 (10YR6/3)	-	
	3	土師器	皿	S K 3172	11.1	2.3	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	煤付着
	4	磁器	椀	S K 3172	8.2	4.6	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	5	磁器	椀	S K 3172	(9.5)	5.5	白 (N9/0)	染付	肥前 こんにやく印判
	6	磁器	椀	S K 3172	-	(1.3)	白 (N9/0)	染付	中国 高台内「大明成化年製」
	7	磁器	皿	S K 3172	(12.2)	3.5	白 (N9/0)	染付	肥前 見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	8	磁器	皿	S K 3172	11.7	3.1	にぶい黄橙 (10YR7/2)	青磁	肥前 見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	9	磁器	小瓶	S K 3172	-	(2.7)	灰白 (2.5Y8/1)	染付	中国
	10	陶器	鉢	S K 3172	(11.0)	7.4	浅黄橙 (10YR8/3)	鉄絵染付	京・信楽系
	11	土師質	人形	S K 3172	2.8	3.6	黄橙 (10YR8/6)	透明+緑	天神 型合わせ
	12	土師質	人形	S K 3172	4.3	5.2	灰白 (7.5Y8/2)	透明+鉄+緑	西行 手びねり
	13	陶器	甕	S K 3172	33.0	(37.9)	暗赤褐 (5YR3/4)		信楽
131	1	土師器	皿	S K 3278	(8.6)	(1.8)	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	2	土師器	皿	S K 3385	11.8	2.3	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	
	3	土師器	皿	S K 3385	(10.7)	2.0	淡橙 (5YR8/4)	-	煤付着
	4	土製品	土人形	S K 09	3.1	5.6	にぶい黄橙 (10YR6/3)	-	西行 型合わせ
	5	土師器	皿	S K 3325	5.5	1.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	6	土師器	皿	S K 3325	9.4	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	7	土師器	皿	S K 3325	(11.2)	2.1	にぶい橙 (7.5YR7/3)	-	煤付着
	8	土師器	皿	S K 3325	(11.2)	1.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	9	土師質	鉢	S K 3325	(14.0)	(4.6)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	-	内曇り
	10	陶器	椀	S K 3325	(11.2)	7.0	灰白 (5Y8/2)	緑+透明	肥前
	11	陶器	鬘水入れ	S K 3325	13.0	3.6	浅黄橙 (7.5YR8/3)	透明	京・信楽系
	12	磁器	椀	S K 3325	(11.5)	5.5	灰白 (N8/0)	染付	肥前 高台内「大明」
	13	磁器	蓋	S K 3325	(7.4)	1.7	白 (N9/0)	染付	肥前 こんにやく印判
	14	磁器	鬘付油壺	S K 3325	-	(5.0)	灰白 (N8/0)	赤絵	肥前
	15	磁器	鉢	S K 3325	(11.0)	(7.8)	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	16	土師器	皿	S K 3264	10.2	2.0	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	17	土師器	皿	S K 3264	10.4	2.0	にぶい橙 (5YR6/4)	-	煤付着
	18	土師質	花塩壺	S K 3264	7.8	1.9	灰白 (10YR8/2)	-	
	19	磁器	椀	S K 3264	11.5	6.0	白 (N9/0)	染付	肥前 型紙刷り
	20	陶器	椀	S K 3266	12.8	4.9	灰白 (2.5Y8/2)	鉄絵	肥前 高台「清水」銘
	21	陶器	皿	S K 3264	(21.2)	6.4	浅黄橙 (2.5YR7/3)	鉄絵	肥前 見込み蛇ノ目釉剥ぎ

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
131	22	土師質	壺	S K 3264	15.9	18.0	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	火消し壺
	23	土製品	人形	S K 3264	4.5	7.6	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	鳩 型合わせ
132	1	土師器	皿	S K 3272	10.0	1.7	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	2	土師器	皿	S K 3272	10.6	2.0	褐灰 (10YR4/1)	-	煤付着
	3	土師器	皿	S K 3272	10.3	2.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	煤付着
	4	陶器	椀	S K 3272	(9.8)	5.2	灰黄 (2.5YR7/2)	灰	京・信楽系
	5	陶器	椀	S K 3272	11.4	5.1	淡黄 (2.5Y8/3)	鉄絵	京・信楽系 三点ハリ支え
	6	磁器	椀	S K 3272	6.4	5.3	白 (N9/0)	染付	肥前
	7	陶器	椀	S K 3272	9.2	5.5	灰白 (10YR8/2)	緑+灰+上絵	京・信楽系
	8	磁器	椀	S K 3272	8.8	4.6	白 (N9/0)	染付	肥前
	9	磁器	皿	S K 3272	14.0	4.3	白 (N9/0)	染付	肥前
	10	磁器	鉢	S K 3272	(15.8)	(8.8)	白 (N8/0)	染付	中国
	11	磁器	皿	S K 3253	(21.1)	3.1	白 (N9/0)	染付	肥前 高台内渦福
	12	磁器	椀	S K 3291	(11.0)	6.3	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	13	土師質	花塩壺蓋	S K 3291	7.6	1.3	灰白 (2.5YR8/2)	-	「深草砂川権兵衛」銘 型押し
	14	土師質	花塩壺	S K 3291	7.2	5.0	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	15	陶器	鉢	S K 3291	(10.1)	4.4	灰白 (2.5Y8/2)	織部	瀬戸美濃
	16	土師器	皿	S K 3426	(10.8)	(1.9)	灰黄 (2.5YR7/2)	-	
	17	土師器	皿	S K 3426	(11.2)	1.6	灰黄 (2.5YR7/2)	-	
	18	土師器	鉢	S K 3426	(6.2)	2.1	灰白 (10YR8/2)	-	
	19	陶器	椀	S K 3426	9.6	5.5	灰白 (10Y7/1)	上絵	京都
	20	陶器	椀	S K 3426	7.0	3.4	淡黄 (2.5YR8/3)	上絵	京都
	21	土製品	土鈴	S K 3426	2.9	3.5	にぶい橙 (10YR7/2)	-	手びねり
133	1	土師器	皿	S K 3025	8.1	1.6	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	2	土師器	皿	S K 3025	9.9	1.9	橙 (5YR6/6)	-	
	3	土師器	皿	S K 3025	(10.7)	2.0	淡橙 (5YR8/4)	-	
	4	陶器	皿	S K 3025	-	(2.1)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	灰	京都 高台内「仁清」銘
	5	土師質	小鉢	S K 3025	5.4	2.0	浅黄橙 (10YR8/3)	-	墨書
	6	陶器	椀	S K 3025	(11.9)	3.6	灰白 (2.5YR8/1)	鉄絵	京・信楽系
	7	土師器	皿	S K 3282	10.6	1.7	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	8	土師器	皿	S K 3282	(11.8)	2.1	にぶい橙 (5YR7/4)	-	
	9	磁器	ミニチュア	S K 3282	4.1	2.1	白 (N9/0)	白磁	肥前 椀
	10	磁器	ミニチュア	S K 3282	4.5	2.7	白 (N9/0)	白磁	肥前 椀
	11	磁器	椀	S K 3282	6.0	2.9	白 (N9/0)	染付	肥前
	12	磁器	椀	S K 3282	(7.5)	3.5	白 (N9/0)	白磁	肥前
	13	磁器	椀	S K 3282	(9.7)	8.4	白 (N9/0)	染付	肥前
	14	磁器	椀	S K 3282	13.6	3.8	白 (N9/0)	染付	肥前 見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	15	陶器	鉢	S K 3282	15.5	6.1	にぶい黄橙 (10YR7/3)	刷毛目	肥前 見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	16	陶器	鉢	S K 3282	19.5	6.0	灰白 (2.5YR8/1)	鉄絵	肥前 高台内「柴」在印
	17	陶器	壺	S K 3282	(12.1)	(10.7)	灰白 (2.5Y8/1)	鉄釉	信楽
	18	陶器	鉢	S K 3282	(28.6)	(7.0)	灰褐 (7.5YR5/2)	緑+刷毛目	九州系
134	1	土師器	皿	S K 2041	(10.4)	1.6	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	煤付着
	2	土師器	皿	S K 2041	11.0	2.0	明褐灰 (7.5YR7/2)	-	
	3	土師器	皿	S K 2041	11.8	1.8	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	煤付着
	4	軟質施釉陶器	ミニチュア	S K 2041	(5.6)	1.2	浅黄橙 (10YR8/3)	緑+透明	皿
	5	陶器	椀	S K 2041	(9.2)	5.2	浅黄橙 (10YR8/3)	鉄絵	京・信楽系
	6	磁器	椀	S K 2041	-	(4.4)	白	赤絵	肥前
	7	磁器	椀	S K 2041	(10.1)	5.5	白	染付	波佐見

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考	
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬		
134	8	陶器	香炉	S K 2041	(10.0)	4.0	白	染付	肥前 脚別付け	
	9	磁器	椀	S K 2041	7.6	6.6	白	染付	肥前 見込み五弁花	
	10	陶器	蓋	S K 2041	(8.0)	1.3	浅黄橙 (10YR8/3)	鉄絵	京・信楽系	
	11	土製品	人形	S K 2041	3.7	7.0	橙 (5YR6/6)	-	まつたけ持ち 型合わせ	
	12	陶器	ミニチュア	S K 2041	(5.1)	(4.2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	鉄+透明	京・信楽系 家 型押し	
	13	陶器	片口鉢	S K 2041	(23.7)	(9.0)	にぶい赤褐 (5Y4/3)	刷毛目	肥前	
	14	陶器	鉢	S K 2041	(20.0)	10.2	赤褐 (10R5/3)	刷毛目	肥前	
	15	土師質	焙烙	S K 2041	(30.4)	(4.7)	灰黄褐 (10YR4/2)	-	大和か	
	16	土師質	焙烙	S K 2041	(26.2)	(4.9)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	深草	
	17	土師質	火鉢	S K 2041	(21.4)	9.8	橙 (5YR6/6)	-	深草	
	18	土師質	火鉢	S K 2041	(24.6)	15.1	橙 (7.5YR7/6)	-	深草	
	19	陶器	播鉢	S K 2041	(34.0)	(13.3)	赤 (10R5/6)	-	堺・明石系	
	135	1	陶器	平皿	S K 2042	-	(2.1)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	上絵	京都 被熱
		2	磁器	椀	S K 2042	-	(2.3)	白 (N9/0)	染付	景德鎮
		3	磁器	椀	S K 2042	-	(2.8)	白 (N9/0)	染付	肥前 望料椀
		4	磁器	椀	S K 2042	(3.9)	6.4	にぶい黄橙 (10YR7/1)	染付	肥前 こんにやく印判 五弁花
		5	磁器	皿	S K 2042	(12.0)	3.1	白 (N9/0)	染付	菊御紋付
		6	瓦質	瓦灯か	S K 2042	(9.0)	(4.3)	赤褐色 (10R5/4)	-	
		7	陶器	不明	S K 2042	-	(1.2)	灰褐 (5YR6/2)	-	
8		磁器	蓋	S K 2042	(9.1)	2.7	白 (N9/0)	染付	肥前	
9		磁器	椀	S K 2042	(10.7)	6.1	白 (N9/0)	染付	肥前	
10		磁器	皿	S K 2042	(20.6)	3.6	白 (N9/0)	染付	肥前 被熱	
11		陶器	壺	S K 2042	(11.6)	-	灰白 (N7/0)	褐	肥前 被熱	
12		陶器	鍋	S K 2042	(21.6)	(7.3)	褐灰 (5YR6/1)	鉄	京・信楽系	
13		土師質	風炉	S K 2042	-	(9.6)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	深草か	
14		土師質	風炉	S K 2042	-	(7.0)	明赤褐 (5YR5/8)	-	深草 マーブル状胎土	
15		陶器	播鉢	S K 2042	(28.4)	(9.3)	にぶい赤褐 (5YR4/3)	-	堺・明石系 被熱	
136	1	土師器	皿	S K 2015	(10.4)	1.7	橙 (7.5YR7/6)	-		
	2	土師器	皿	S K 2015	(9.8)	1.5	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-		
	3	土師器	皿	S K 2015	(9.8)	1.7	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-		
	4	土師器	皿	S K 2015	(9.8)	1.5	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-		
	5	土師質	小壺	S K 2015	(2.9)	2.4	浅黄橙 (10YR8/3)	-		
	6	陶器	灯明皿	S K 2015	(7.0)	1.6	灰白 (2.5Y8/2)	透明	京・信楽系 煤付着	
	7	磁器	椀	S K 2015	7.0	(6.0)	灰白 (N8/0)	青磁+染付	肥前 見込み五弁花 外面青磁	
	8	磁器	椀	S K 2015	(8.2)	(6.4)	灰 (5Y6/1)	刷毛目	京・信楽系	
	9	陶器	小杯	S K 2015	-	(2.0)	灰白 (5Y8/1)	色絵	京・信楽系	
	10	陶器	椀	S K 2015	-	(2.3)	黄灰 (2.5Y6/1)	白	萩系 ピラ掛け	
	11	磁器	椀	S K 2015	-	(3.3)	白 (N9/0)	染付	肥前	
	12	磁器	椀	S K 2015	-	(3.9)	白 (N9/0)	染付	肥前 外面青磁	
	13	陶器	椀	S K 2015	-	(2.4)	灰白 (5Y8/1)	灰	京・信楽系	
	14	陶器	椀	S K 2015	(13.6)	(4.1)	黄灰 (2.5YR6/1)	白	高取	
	15	磁器	皿	S K 2015	8.8	(2.1)	灰黄 (2.5YR7/2)	灰	京・信楽系	
	16	磁器	皿	S K 2015	-	(1.6)	灰白 (N8/0)	鉄絵	京・信楽系	
	17	磁器	皿	S K 2015	-	(1.5)	灰黄 (2.5Y7/2)	鉄絵	京・信楽系	
	18	土製品	泥面子	S K 2015	3.1	0.8	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	「宮」の字	
	19	土製品	泥面子	S K 2015	3.1	0.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	「二」の字	
	20	土製品	泥面子	S K 2015	3.1	0.9	橙 (5YR6/6)	-	「鶏」紋	
	21	土製品	泥面子	S K 2015	3.3	0.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	「桐」紋	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
136	22	土製品	泥面子	S K 2015	3.0	1.2	にぶい橙 (5YR7/4)	-	「い」の字
	23	土製品	泥面子	S K 2015	3.0	0.9	にぶい橙 (5YR7/4)	-	「角行」紋
	24	陶器	灯火具	S K 2015	(4.8)	3.8	灰白 (5Y8/2)	透明	京・信楽系
	25	磁器	瓶	S K 2015	-	(9.3)	灰白 (N8/1)	青磁	肥前
	26	陶器	鍋	S K 2015	(19.3)	10.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	鉄	京・信楽系
	27	陶器	急須	S K 2015	(6.4)	(6.5)	黄灰 (2.5Y6/1)	鉄	京・信楽系
	28	土製品	人形	S K 2015	2.8	5.6	にぶい赤褐 (5YR5/4)	-	馬 土玉入り
	29	陶器	播鉢	S K 2015	(31.0)	10.5	橙 (2.5YR6/6)	-	堺・明石系
	30	陶器	鉢	S K 2015	(28.0)	7.5	褐 (7.5YR4/3)	-	丹波
137	31	陶器	鉢	S K 2015	(51.4)	(8.3)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	緑+透明	
	1	磁器	皿	S K 2015	(5.2)	2.4	白 (N9/0)	染付	肥前 朱書き「京都 紅」
	2	磁器	椀	S K 2015	(5.7)	3.2	白 (N9/0)	染付	肥前
	3	磁器	小杯	S K 2015	(7.0)	3.1	白 (N9/0)	染付	肥前
	4	磁器	椀	S K 2015	(7.4)	3.8	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	5	磁器	皿	S K 2015	(10.7)	3.3	白 (N9/0)	染付	肥前 口縁鉄釉
	6	土製品	水滴	S K 2015	(4.4)	(3.0)	灰白 (2.5Y8/2)	赤絵	肥前
	7	磁器	蓋	S K 2015	(8.9)	1.6	灰白 (5Y8/2)	鉄絵	京・信楽系
	8	磁器	椀	S K 2015	(7.8)	5.2	灰白 (N8/0)	鉄絵	京・信楽系
	9	磁器	蓋	S K 2015	(9.0)	3.5	褐灰 (10YR4/1)	刷毛目	肥前
	10	磁器	御神酒徳利	S K 2015	4.8	(8.5)	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	11	磁器	椀	S K 2015	(8.9)	5.5	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	12	磁器	椀	S K 2015	(10.1)	5.5	白 (N9/0)	色絵	肥前系 端反椀
	13	磁器	蓋	S K 2015	(9.8)	2.5	白 (N9/0)	染付	肥前 端反椀蓋
	14	磁器	椀	S K 2015	11.0	(4.9)	白 (N9/0)	染付	肥前 端反椀
	15	磁器	皿	S K 2015	10.2	2.4	灰白 (N8/0)	染付	波佐美
	16	磁器	椀	S K 2015	11.0	6.2	灰白 (7.5Y8/1)	染付	肥前 端反椀
	17	磁器	椀	S K 2015	(11.5)	6.4	白 (N9/0)	染付	肥前
	18	土製品	人形	S K 2015	3.3	(3.1)	灰白 (10YR8/2)	緑+透明	釣人 型合わせ
	19	土製品	人形	S K 2015	4.2	(6.5)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	緑+鉄+透明	猿まわし 手びねり
20	土製品	人形	S K 2015	5.5	(7.3)	にぶい赤褐 (5YR4/3)	-	女性 型合わせ	
138	21	磁器	皿	S K 2015	-	2.1	白 (N9/0)	染付	肥前 蛇ノ目高台
	22	磁器	鉢	S K 2015	(21.0)	7.1	白 (N9/0)	染付	肥前
	1	土師器	皿	S K 2048	5.1	1.1	淡橙 (5YR8/4)	-	煤付着
	2	土師器	皿	S K 2048	5.3	1.4	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	
	3	陶器	椀	S K 2048	-	(4.5)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	灰	高取
	4	陶器	灯明受皿	S K 2048	9.4	1.8	灰白 (10YR8/2)	透明	京・信楽系 煤付着
	5	土師質	蓋	S K 2048	5.8	1.5	浅黄橙 (10YR8/3)	-	底部糸切り痕
	6	陶器	灯明受皿	S K 2048	12.0	2.2	灰白 (2.5Y8/1)	透明	京・信楽系
	7	陶器	蓋	S K 2048	10.2	3.3	明褐灰 (7.5YR7/1)	灰	京・信楽系
	8	土製品	芥子面子	S K 2048	1.3	2.1	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	狐 型押し
	9	土製品	泥面子	S K 2048	3.0	0.8	にぶい橙 (5YR7/4)	-	組紐 型押し
	10	土製品	泥面子	S K 2048	2.9	0.8	橙 (5YR7/6)	-	小判 型押し 墨書「や」
	11	土製品	人形	S K 2048	4.5	4.5	橙 (5YR7/6)	-	猫 型合わせ
	12	磁器	椀	S K 2048	(7.0)	3.6	白 (N9/0)	染付	肥前系
	13	磁器	椀	S K 2048	9.3	5.4	白 (N9/0)	染付	波佐見
	14	磁器	椀	S K 2048	(11.3)	6.0	白 (N9/0)	染付	肥前 広東椀
	15	磁器	皿	S K 2048	(7.8)	2.5	白 (N9/0)	染付	肥前
16	陶器	徳利	S K 2048	2.0	14.2	褐灰 (7.5YR5/1)	白	丹波	
17	土師質	炮烙	S K 2048	(28.4)	(3.4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	津田	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
138	18	磁器	椀	S K 2048	(11.2)	6.3	白 (N9/0)	染付	肥前 望料椀
	19	磁器	蓋	S K 2048	(11.7)	3.3	灰白 (7.5YR8/2)	染付	肥前 広東椀蓋
	20	土製品	ミニチュア	S K 10	(3.6)	2.3	橙 (5YR7/6)	透明	椀
	21	土製品	泥面子	S K 10	3.0	3.0	橙 (7.5YR6/6)	-	「松」紋
	22	陶器	椀	S K 3100	8.9	4.8	灰オリーブ (5Y6/2)	灰	高取
	23	土師器	皿	S K 3109	(12.4)	(1.8)	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
	24	土師質	花塩壺蓋	S K 3109	6.4	1.4	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	深草 刻印「なんばんやき しおのこんほん 本七度 やき」
	25	陶器	鉢	S K 3109	(11.4)	(2.4)	褐灰 (10YR6/1)	褐	京都「暁山」銘
	26	磁器	杯	S K 3109	(6.4)	2.7	白 (N9/0)	金彩	京都「周平之造」朱書
	27	陶器	水滴	S K 3109	4.5	2.1	浅黄橙 (10YR8/3)	透明+緑+黄	京・信楽系
28	土師質	ミニチュア	S K 3109	4.5	3.7	浅黄橙 (8/3)	-	家 型合わせ成形	
29	磁器	皿	S K 3003	14.9	3.2	灰白 (10YR8/3)	染付	肥前 見込み蛇ノ目釉剥ぎ	
139	1	土師器	皿	S K 3035	(10.3)	(1.6)	灰白 (7.5YR8/2)	-	
	2	陶器	ミニチュア	S K 3035	2.4	0.7	黄橙 (7.5YR8/6)	緑釉	皿
	3	陶器	ミニチュア	S K 3035	-	3.4	灰白 (10YR8/2)	緑+透明	壺
	4	磁器	小皿	S K 3035	5.9	1.5	白 (N9/0)	白磁	肥前
	5	磁器	蓋	S K 3035	4.1	1.7	白 (N9/0)	染付	肥前
	6	磁器	蓋物	S K 3035	(6.5)	3.8	白 (N9/0)	染付	肥前
	7	磁器	椀	S K 3035	(9.7)	5.4	白 (N9/0)	染付	肥前系
	8	土製品	人形	S K 3035	4.2	3.3	橙 (5YR7/6)	-	恵比寿と大黒 型合わせ
	9	磁器	灯芯押さえ	S K 3035	2.7	4.8	白 (N9/0)	白磁	肥前 頭部型押し 手びねり成形
	10	磁器	椀	S K 2022	(6.9)	5.4	白 (N9/0)	染付	肥前
	11	磁器	紅皿	S K 2022	4.4	1.5	白 (N9/0)	白磁	肥前 型押し
	12	磁器	椀	S K 2022	(8.9)	4.6	白 (N9/0)	染付	瀬戸 端反椀
	13	土製品	人形	S K 2022	4.6	3.8	灰白 (7.5YR8/1)	緑+黄	天神 型合わせ 台別付け
	14	陶器	筒形容器	S K 3971	(10.4)	1.7	にぶい黄橙 (10YR7/2)	白	京都「錦光山」銘
	15	土製品	人形	S K 3971	(2.0)	(2.6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	緑+透明	獅子 型合わせ 前脚別付
	16	陶器	甕	S K 2043	(60.0)	51.4	浅黄橙 (10YR8/4)	泥漿	信楽
140	1	土師器	皿	S K 05	4.9	1.3	にぶい橙 (5YR6/4)	-	煤付着
	2	土師器	皿	S K 05	4.9	1.3	浅黄橙 (10YR8/4)	-	
	3	土師器	皿	S K 05	5.2	1.2	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	4	土師器	皿	S K 05	5.9	0.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	5	土師器	皿	S K 05	5.4	1.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	6	土師器	皿	S K 05	(7.4)	1.2	にぶい橙 (5YR6/4)	-	煤付着
	7	土師器	皿	S K 05	7.4	1.4	橙 (5YR6/6)	-	煤付着
	8	土師器	皿	S K 05	9.4	1.7	橙 (7.5YR7/6)	-	煤付着
	9	土師器	皿	S K 05	9.6	1.7	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	
	10	土師器	皿	S K 05	10.0	1.2	橙 (5YR7/6)	-	
	11	陶器	椀	S K 05	(8.3)	(3.6)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	上絵	京・信楽系
	12	陶器	椀	S K 05	(9.1)	4.4	浅黄橙 (10YR8/3)	灰	京・信楽系
	13	陶器	椀	S K 05	(8.4)	5.2	灰白 (10Y7/1)	鉄絵	京・信楽系
	14	陶器	蓋	S K 05	(10.6)	1.1	灰白 (7.5Y7/1)	透明	京・信楽系
	15	陶器	蓋	S K 05	(10.3)	1.1	灰白 (2.5Y8/2)	透明	京・信楽系
	16	陶器	蓋	S K 05	9.5	1.3	灰白 (10Y8/1)	透明	京・信楽系
	17	陶器	油受皿	S K 05	(8.7)	1.7	灰白 (5Y8/1)	透明	京・信楽系 煤付着
	18	陶器	油受皿	S K 05	(10.1)	2.8	灰白 (2.5Y8/2)	透明	京・信楽系

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
140	19	土製品	小壺	S K 05	(3.8)	2.7	にぶい赤褐 (2.5YR4/4)	泥漿	
	20	陶器	蓋	S K 05	6.8	1.7	灰 (7.5Y7/1)	灰	京・信楽系
	21	陶器	鬢水入れ	S K 05	不明	(3.7)	灰白 (7.5Y8/1)	上絵	京・信楽系
	22	土製品	泥面子	S K 05	3.1	3.1	橙 (7.5YR7/6)	-	笠 型押し
	23	土製品	人形	S K 05	(3.9)	(2.0)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	鳩「亀」在印 型合わせ
	24	土製品	猫	S K 05	(5.4)	(8.6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	型合わせ
	25	陶器	椀	S K 05	(9.0)	5.8	灰白 (2.5Y8/2)	透明	京・信楽系
	26	陶器	椀	S K 05	(9.6)	5.2	灰白 (2.5Y8/2)	灰	京・信楽系
	27	陶器	椀	S K 05	(11.1)	6.4	灰白 (5Y7/1)	灰	京・信楽系
	28	陶器	椀	S K 05	(7.4)	(5.0)	灰白 (2.5Y8/1)	鉄絵	京・信楽系
	29	磁器	椀	S K 05	(9.5)	(4.5)	灰白 (7.5Y8/1)	鉄絵	肥前系
	30	陶器	椀	S K 05	(12.0)	5.0	灰白 (5Y7/1)	鉄絵	京・信楽系
	31	陶胎染付	急須の口	S K 05	(4.0)	6.0	にぶい黄橙 (10YR7/3)	陶胎染付	京・信楽系
	32	土師質	焼塩壺蓋	S K 05	7.4	(1.6)	橙 (5YR6/6)	-	
	33	土師質	焼塩壺	S K 05	5.2	7.3	橙 (5YR6/6)	-	
	34	土師質	花塩壺	S K 05	4.7	4.4	灰白 (10YR8/2)	-	深草 底部糸切り痕
	35	土師質	花塩壺	S K 05	(6.6)	3.1	灰白 (10YR8/2)	-	深草
	36	陶器	片口	S K 05	(7.7)	10.1	灰白 (2.5Y7/1)	鉄絵	京・信楽系
	37	土師質	炮烙	S K 05	-	(5.1)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	津田
	38	陶器	蓋	S K 05	6.6	3.8	灰白 (5Y8/2)	鉄絵	京・信楽系
	39	陶器	蓋	S K 05	14.4	3.5	浅黄 (2.5Y7/3)	鉄絵	京・信楽系
	40	陶器	蓋	S K 05	12.2	2.4	褐灰 (7.5YR6/1)	鉄	京・信楽系
	41	陶器	行平鍋	S K 05	16.2	9.0	灰 (7.5Y6/1)	灰	京・信楽系
	42	土師質	涼炉	S K 05	-	(12.7)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	-	京・信楽系
141	1	磁器	ミニチュア	S K 05	(3.0)	1.8	灰白 (5Y8/1)	染付	肥前 椀
	2	磁器	椀	S K 05	6.6	2.7	明緑灰 (7.5GY8/1)	白磁	肥前
	3	磁器	椀	S K 05	6.4	3.3	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	4	磁器	椀	S K 05	(10.2)	5.0	灰白 (N8/0)	染付	波佐見
	5	磁器	椀	S K 05	(10.6)	4.7	白 (N9/0)	染付	瀬戸 端反椀 焼き継ぎ痕
	6	磁器	椀	S K 05	(10.2)	4.9	灰白 (N8/0)	染付	瀬戸 端反椀
	7	磁器	椀	S K 05	9.9	4.9	灰白 (10Y8/1)	染付	波佐見
	8	磁器	椀	S K 05	7.0	5.4	白 (N9/0)	染付	肥前 見込み五弁花
	9	磁器	蓋	S K 05	(9.1)	3.6	灰白 (N8/0)	青磁+染付	肥前 見込み五弁花 高台内「渦福」
	10	磁器	椀	S K 05	(11.2)	6.0	灰白 (N8/0)	青磁+染付	肥前 見込み五弁花 高台内「渦福」
	11	磁器	蓋	S K 05	(10.3)	2.6	白 (N9/0)	染付	肥前
	12	磁器	椀	S K 05	(11.1)	6.5	白 (N9/0)	染付	肥前
	13	磁器	蓋	S K 05	4.8	1.5	灰白 (5Y8/1)	染付	肥前
	14	磁器	椀	S K 05	(9.1)	4.9	灰白 (7.5Y8/1)	染付	肥前 焼き継ぎ痕
	15	磁器	椀	S K 05	(10.2)	5.0	白 (N9/0)	染付	肥前
	16	磁器	御神酒德利	S K 05	-	6.8	灰白 (5Y8/1)	染付	肥前
	17	磁器	仏飯具	S K 05	7.2	6.1	灰白 (N8/0)	染付	肥前
	18	磁器	椀	S K 05	(10.8)	5.9	白 (N9/0)	染付	肥前
	19	磁器	蓋	S K 05	(10.3)	2.6	白 (N9/0)	染付	肥前 広東椀蓋
	20	磁器	水滴	S K 05	1.1	3.6	灰白 (5Y8/1)	染付	瀬戸
	21	磁器	面打	S K 05	4.6	4.3	白 (N9/0)	染付	肥前磁器転用
	22	磁器	鉢	S K 05	-	3.5	白 (V9/0)	染付	中国
	23	磁器	椀	S K 05	(11.6)	5.7	白 (N9/0)	染付	肥前 広東椀

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
142	1	磁器	皿	S K 05	13.3	3.0	灰白 (7.5Y8/1)	染付	波佐見 見込み蛇ノ目釉剥ぎ 五弁花
	2	磁器	皿	S K 05	14.0	3.9	灰白 (N8/0)	染付	波佐見 見込み蛇ノ目釉剥ぎ 高台内「渦福」
	3	磁器	鉢	S K 05	(18.1)	11.6	灰白 (N8/0)	染付	肥前 焼き継ぎ痕
	4	磁器	皿	S K 05	-	1.7	灰白 (5Y8/1)	染付	肥前系 焼き継ぎ痕
	5	磁器	皿	S K 05	-	1.8	白 (N9/0)	染付	肥前 「大明成化年製」
	6	土製品	人形	S K 05	7.2	18.9	にぶい黄橙 (10YR7/3)	-	西行 型合わせ
143	1	陶器	鉢	S K 05	(12.3)	6.9	にぶい赤褐 (5YR5/3)	灰	備前
	2	陶器	甕	S K 05	(13.0)	7.8	にぶい黄橙 (10YR7/2)	鉄 + 黒	京・信楽系 黒釉かけ流し
	3	陶器	壺	S K 05	(7.5)	11.6	灰白 (10YR7/1)	灰	信楽
	4	陶器	壺	S K 05	-	(12.5)	浅黄橙 (10YR8/3)	鉄	京・信楽系
	5	陶器	鉢	S K 05	(15.6)	8.0	にぶい褐 (7.5YR5/3)	-	京・信楽系
	6	陶器	播鉢	S K 05	(35.6)	8.1	にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	-	堺・明石系
	7	陶器	播鉢	S K 05	(35.6)	13.6	灰褐 (7.5Y4/2)	-	堺・明石系 植木鉢に転用
	8	陶器	播鉢	S K 05	(32.0)	10.0	にぶい赤褐 (2.5YR5/3)	-	堺・明石系
144	1	陶器	土瓶	S K 3004	(4.1)	(4.9)	にぶい橙 (7.5Y6/4)	陶胎染付	京都 「道八」銘
	2	陶器	急須	S K 3004	7.6	7.3	灰褐 (5YR4/2)	紫泥	宜興窯 「花間□□月下侶吟」銘
	3	磁器	椀	S K 3022	-	(3.7)	白 (N9/0)	染付	肥前 菊御紋付
	4	陶器	椀	S K 3022	-	(5.8)	灰白 (10YR8/2)	透明	肥前 高台内墨書
	5	磁器	椀	S K 3103	(7.4)	3.6	白 (N9/0)	染付 + 赤絵	肥前 朱書き「りき本家」
	6	磁器	椀	S K 3103	(8.6)	4.5	白 (N9/0)	釉上彩	徳化窯 口縁釉剥ぎ 型成形
	7	磁器	椀	S K 3103	(10.2)	5.4	白 (N9/0)	染付	肥前
	8	磁器	皿	S K 3103	8.4	1.9	白 (N9/0)	染付	肥前
	9	土製品	土人形	S K 3103	3.8	3.1	橙 (2.5YR6/6)	-	猿 手びねり + 頭部型押し
	10	陶器	椀	S K 2025	12.3	8.2	灰白 (N8/2)	志野	瀬戸美濃
	11	土製品	泥面子	S K 3360	3.1	3.5	橙 (7.5YR6/6)	-	「兵」型押し
	12	土師器	皿	S K 3108	7.9	1.6	淡黄 (2.5Y8/3)	-	
	13	土師器	皿	S K 3108	(9.7)	1.5	にぶい黄 (2.5Y6/3)	-	
	14	磁器	椀	S K 3108	-	(4.3)	白 (N9/0)	染付	肥前
	15	陶器	椀	S K 3108	6.3	5.8	淡黄 (2.5Y8/3)	織部	瀬戸美濃 天保織部
	16	土製品	鳩笛	S K 3108	4.6	2.5	にぶい黄橙 (10YR7/4)	透明 + 緑	手びねり
	17	土師器	皿	S K 3114	8.7	1.5	浅黄橙 (10YR8/3)	-	
	18	磁器	杯	S K 3114	(6.0)	3.5	褐灰 (10YR4/2)	刷毛目	京・信楽系 型押し
	19	磁器	皿	S K 3114	2.6	1.7	白 (N9/0)	釉上彩	京都
	20	磁器	椀	S K 3114	(7.8)	(4.1)	白 (N9/0)	染付	瀬戸
	21	磁器	椀	S K 3114	8.2	4.5	白 (N9/0)	染付	京都か
	22	磁器	椀	S K 3114	(9.8)	5.0	白 (N9/0)	釉上彩	京都
	23	磁器	皿	S K 3114	(7.8)	2.7	白 (N9/0)	染付	中国 高台内「道光年製」
	24	磁器	椀	S K 3114	8.2	4.6	白 (N9/0)	染付	瀬戸
	25	磁器	鉢	S K 3114	(13.8)	(4.5)	白 (N9/0)	染付	中国
	26	陶器	蓋	S K 3114	9.8	3.6	灰褐 (7.5YR5/2)	-	京・信楽系 半練
	27	陶器	土瓶	S K 3114	(10.8)	13.1	灰褐 (7.5YR5/2)	-	京・信楽系 半練
	28	磁器	壺	S K 3114	(13.2)	(12.0)	白 (N9/0)	染付	肥前
145	1	陶器	皿	S K 3166	(10.0)	1.5	灰白 (5Y8/1)	透明	京・信楽系 型成形
	2	軟質施釉陶器	油受皿	S K 3166	12.4	2.0	にぶい橙 (5YR7/4)	透明	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
145	3	陶器	椀	S K 3166	8.6	4.7	灰黄 (2.5Y7/2)	灰釉	高取
	4	磁器	髪付油壺	S K 3166	(9.7)	(5.3)	白 (N9/0)	染付	肥前系
	5	磁器	杯	S K 3166	6.2	2.9	灰白 (N8/0)	赤絵	肥前
	6	磁器	椀	S K 3166	10.8	5.2	白 (N9/0)	染付	肥前
	7	磁器	椀	S K 3166	13.8	6.5	白 (N9/0)	染付	肥前 光格菊御紋付
146	8	磁器	鉢	S K 3166	25.0	8.1	白 (N9/0)	染付	肥前 蛇ノ目高台
	1	磁器	鉢	S K 3166	19.5	9.3	白 (N9/0)	染付	肥前 蛇ノ目高台
	2	磁器	皿	S K 3166	(33.1)	4.4	白 (N9/0)	染付	肥前
147	3	陶器	火鉢	S K 3166	-	(13.6)	灰白 (2.5YR8/2)	緑	瀬戸美濃 墨書「□等セリエウ」
	1	土師器	皿	S K 3196	(6.9)	1.1	灰白 (10YR8/2)	-	
	2	土師器	皿	S K 3196	(7.1)	1.1	灰白 (10YR8/2)	-	
	3	土師器	皿	S K 3196	(9.8)	1.7	橙 (5YR7/6)	-	煤付着
	4	陶器	油受皿	S K 3196	6.5	1.4	灰白 (10YR7/1)	透明	京・信楽系
	5	陶器	灯明皿	S K 3196	(10.8)	2.1	灰白 (2.5YR8/2)	透明	京・信楽系 煤付着
	6	陶器	椀	S K 3196	(9.0)	(6.6)	にぶい赤褐 (5YR4/3)	鉄絵	京・信楽系
	7	陶器	皿	S K 3196	-	(2.0)	灰白 (2.5YR8/2)	透明	京都「音羽」銘
	8	陶器	蓋	S K 3196	(3.6)	3.1	灰白 (2.5YR8/2)	透明	京都「寶山」銘
	9	陶器	椀	S K 3196	-	(2.5)	灰白 (2.5YR8/1)	緑	京都「清」銘
	10	陶器	皿	S K 3196	(10.0)	1.4	明赤褐 (2.5YR5/6)	-	型成形
	11	磁器	蓋	S K 3196	(6.2)	2.2	白 (N9/0)	上絵	京都
	12	磁器	椀	S K 3196	5.6	3.6	白 (N9/0)	赤絵	京都か
	13	磁器	蓋	S K 3196	9.4	2.9	白 (N9/0)	釉上彩	肥前系
	14	磁器	椀	S K 3196	(9.9)	(5.1)	白 (N9/0)	釉上彩	肥前系
	15	磁器	杯	S K 3196	4.6	2.6	白 (N9/0)	染付	京都
	16	磁器	椀	S K 3196	8.3	4.0	白 (N9/0)	染付	瀬戸
	17	磁器	椀	S K 3196	(9.3)	(4.4)	白 (N9/0)	染付	肥前 仙洞菊御紋付
	18	磁器	蓋	S K 3196	8.3	2.6	白 (N9/0)	染付	肥前
	19	磁器	椀	S K 3196	9.3	5.0	白 (N9/0)	染付	肥前
	20	磁器	椀	S K 3196	(9.2)	4.9	白 (N9/0)	赤絵	京都か
	21	陶器	皿	S K 3196	(15.8)	2.8	にぶい褐 (7.5YR5/3)	鉄絵 + 上絵	京都「清」銘 型成形
	22	磁器	椀	S K 3196	11.7	6.5	白 (N9/0)	染付	肥前
	23	磁器	皿	S K 3196	10.3	2.3	白 (N9/0)	染付	肥前
	24	陶器	ミニチュア	S K 3196	2.2	4.5	橙 (5YR7/6)	透明 + 白	壺「井定」銘
	25	磁器	椀	S K 3196	8.8	4.7	白 (N9/0)	染付	
	26	磁器	椀	S K 3196	8.8	4.6	白 (N9/0)	染付	
	27	磁器	散蓮華	S K 3196	5.1	3.7	白 (N9/0)	染付	中国
	28	磁器	椀	S K 3196	(9.0)	4.3	白 (N9/0)	白磁	徳化窯 口縁釉剥ぎ 型成形
29	陶器	急須	S K 3196	7.0	7.1	黒褐 (5YR3/1)	-	蓮月焼 型成形 「うきをへたつる春霞」	
148	1	陶器	鉢	S K 3196	(9.8)	9.4	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰	京・信楽系
	2	陶器	ミニチュア	S K 3196	3.3	1.3	橙 (7.5YR7/6)	鉄 + 黄	深草「亀」銘 型押し 台別付け
	3	土製品	芥子面子	S K 3196	2.2	-	浅黄橙 (10YR8/4)	-	「猿」型押し
	4	土製品	芥子面子	S K 3196	1.8	2.1	橙 (7.5YR6/8)	-	「鬼」型押し
	5	土製品	芥子面子	S K 3196	1.6	1.7	橙 (5YR7/6)	-	「天狗」型押し
	6	土製品	芥子面子	S K 3196	2.0	2.9	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	型押し
	7	土製品	泥面子	S K 3196	2.0	-	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	「汁」字 型押し
	8	土製品	泥面子	S K 3196	3.0	-	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	「鶴」紋 型押し
	9	土製品	泥面子	S K 3196	3.0	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	-	「松」紋 型押し

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
148	10	土製品	人形	S K 3196	(8.2)	(4.7)	浅黄橙 (10YR8/4)	-	稻荷狐台 胡粉付着 型合わせ
	11	陶器	播鉢	S K 3196	(17.4)	6.2	明赤褐 (2.5YR5/8)	-	堺・明石系 墨書「入喜」在印
	12	陶器	播鉢	S K 3196	35.2	15.3	にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	-	堺・明石系
149	1	土師器	皿	S K 3053	8.0	1.5	黒褐 (2.5Y3/1)	-	
	2	土師器	皿	S K 3053	10.2	2.0	黒褐 (2.5Y3/1)	-	煤付着
	3	陶器	椀	S K 3053	7.8	5.9	浅黄 (2.5Y8/3)	鉄絵	京・信楽系
	4	磁器	椀	S K 3053	9.2	4.3	白 (N9/0)	染付	肥前
	5	陶器	椀	S K 3053	(9.8)	6.5	灰白 (2.5YR8/2)	透明	京・信楽系
	6	磁器	杯	S K 3053	6.0	2.9	白 (N9/0)	染付	肥前
	7	磁器	椀	S K 3053	8.2	4.3	白 (N9/0)	染付	瀬戸
	8	磁器	椀	S K 3053	10.2	4.4	白 (N9/0)	白磁	徳化窯 口縁釉剥ぎ 型成形
	9	磁器	椀	S K 3053	9.6	5.0	白 (N9/0)	染付	肥前
	10	磁器	椀	S K 3053	7.6	5.4	白 (N9/0)	染付	肥前
	11	磁器	蓋	S K 3053	5.4	1.9	白 (N9/0)	染付	肥前
	12	磁器	蓋	S K 3053	8.9	2.7	白 (N9/0)	染付	肥前
	13	磁器	蓋	S K 3053	4.0	1.3	白 (N9/0)	染付	京都か
	14	磁器	急須	S K 3053	11.0	(5.6)	白 (N9/0)	染付	京都か
	15	磁器	皿	S K 3053	9.2	1.8	白 (N9/0)	染付	肥前
	16	磁器	皿	S K 3053	11.2	2.2	白 (N9/0)	染付	肥前
	17	磁器	鉢	S K 3053	16.8	8.1	白 (N9/0)	染付	肥前
	18	磁器	散蓮華	S K 3053	5.6	5.5	白 (N9/0)	染付	中国
	19	磁器	散蓮華	S K 3053	3.6	3.7	白 (N9/0)	染付	中国
	20	陶器	土瓶	S K 3053	(16.9)	10.1	にぶい赤褐 (5YR4/3)	銅 + 鉄 + 白	京・信楽系
	21	陶器	徳利	S K 3053	(14.3)	(21.9)	灰褐 (5YR4/2)	鉄釉	丹波 線刻
150	1	土製品	人形	嘉永焼土	9.6	18.5	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	稻荷狐 型合わせ 胡粉残留
	2	土製品	人形	嘉永焼土	9.4	17.8	浅黄橙 (10YR8/4)	-	稻荷狐 型合わせ 胡粉残留
	3	土師質	壺	3区南東部東壁	14.2	10.1	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	胞衣壺
	4	土師質	壺	3区南東部東壁	-	(13.7)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	胞衣壺か
151	1	土師器	皿	S S 3076	10.7	2.0	灰白 (2.5Y8/2)	-	煤付着
	2	土師器	皿	S S 3079	(11.2)	(2.0)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	
	3	磁器	椀	S S 3079	-	1.0	灰白 (7.5Y8/2)	灰	京・信楽系
	4	陶器	椀	S S 3079	(8.7)	(5.7)	灰白 (5YR8/1)	染付	肥前
	5	磁器	蓋	S S 3021	(6.1)	1.2	白 (N9/0)	染付	京都
	6	陶器	椀	S S 3021	(8.4)	4.4	灰白 (N8/0)	鉄絵	京・信楽系
	7	磁器	椀	S S 3021	4.8	4.6	白 (N9/0)	染付	肥前
	8	土師質	風炉	S S 3021	15.0	19.1	明赤褐 (2.5YR5/6)	-	深草 落書きあり「深草吉」在印
	9	土師質	燭台	S S 3043	(8.6)	0.4	浅黄橙 (7.5YR8/4)	-	深草
	10	磁器	椀	S S 3043	-	3.6	灰白 (10Y8/1)	白磁	瀬戸
	11	磁器	人形	S S 3043	2.9	4.6	白 (N9/0)	赤絵	肥前
	12	陶器	椀	S S 3043	-	3.4	灰白 (5Y7/1)	透明	京・信楽系
	13	磁器	徳利	S S 3043	-	8.5	灰白 (7.5Y8/1)	染付	肥前
152	1	土師質	土管	S D 2014	-	31.7	明赤褐 (2.5YR5/8)	-	信楽
	2	土師質	土管	S D 2014	17.8	66.6	赤 (10K5/6)	-	信楽
	3	土師質	土管	S D 2014	18.8	66.2	橙 (2.5YR6/6)	-	信楽

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
152	4	陶器	甕	S J 3028	(56.8)	17.8	赤 (10R5/6)	泥漿	信楽
	1	磁器	小椀	S K 2001	7.4	3.5	白 (N9/0)	染付	瀬戸
	2	陶器	容器	S K 2001	-	1.7	灰白 (5YR8/1)	灰	
	3	磁器	壺	S K 2001	7.8	9.4	白 (N9/0)	鉄 + 緑	
	4	陶器	德利	S K 2001	3.0	10.7	黒 (10YR2/1)	鉄	丹波
	5	陶器	土瓶	S K 2001	9.8	10.0	明赤褐 (2.5YR5/8)	-	常滑か
	6	陶器	蓋	S K 2001	6.9	3.3	浅黄 (2.5YR7/4)	白 + 鉄絵	京・信楽系
	7	陶器	蓋	S K 2001	7.2	2.0	浅黄 (2.5YR7/4)	白 + 鉄絵	京・信楽系 墨書「第壹課」
	8	陶器	德利	S K 2001	-	(7.0)	にぶい赤褐 (5YR4/3)	鉄	丹波
	9	陶器	土瓶	S K 2001	9.0	12.8	浅黄 (2.5YR7/4)	白 + 鉄絵	京・信楽系
	10	陶器	土瓶	S K 2001	9.0	11.5	灰白 (N8/0)	白 + 鉄絵	京・信楽系
	11	陶器	土瓶	S K 2001	8.9	12.9	鉄絵	白 + 鉄絵	京・信楽系
	12	陶器	土瓶	S K 2001	9.0	12.5	にぶい黄 (2.5YR6/3)	白 + 鉄絵	京・信楽系 墨書「第二課」
	13	磁器	椀	S K 2018	9.3	4.0	白 (N9/0)	染付	
	14	陶器	椀	S K 3044	9.0	4.7	灰白 (2.5Y8/2)	鉄 + 青磁	相馬焼 見込み金彩馬絵「相馬」在印
	15	磁器	蓋	S E 2270	(9.8)	2.6	白 (N9/0)	染付	瀬戸美濃
16	磁器	椀	S E 2270	(11.8)	3.7	白 (N9/0)	染付	瀬戸美濃	
154	1	陶器	インク瓶	S K 2002	4.8	21.2	暗赤褐 (5YR3/4)	鉄	常滑「M」「MARUZENINK★TOKYO★」
	2	陶器	インク瓶	S K 2002	4.7	9.8	暗赤褐 (5YR3/4)	鉄	常滑「M」「MARUZENINK★TOKYO★」
	3	陶器	インク瓶	S K 2002	4.0	20.4	にぶい赤褐 (2.5YR4/4)	鉄	常滑「M」「MARUZENINK★TOKYO★」
	4	陶器	インク瓶	S K 2002	3.8	19.6	暗赤 (10R3/4)	鉄	常滑「M」「MARUZENINK★TOKYO★」
	5	陶器	インク瓶	S K 2002	3.0	19.8	暗赤褐 (7.5R3/3)	鉄	常滑「M」「MARUZENINK★TOKYO★」
	6	陶器	インク瓶	S K 2002	3.0	20.5	褐 (7.5YR4/4)	鉄	常滑「M」「MARUZENINK★TOKYO★」
	7	陶器	瓶	S K 2002	3.5	22.7	暗赤褐 (5YR3/2)	-	「琉球」在印
	8	陶器	灯明受皿	S D 2009	(11.7)	2.0	灰白 (N8/0)	灰	京・信楽系
	9	磁器	椀	S D 2009	(8.5)	3.4	白 (N9/0)	染付	瀬戸
	10	磁器	椀	S D 2009	(14.2)	6.6	白 (N9/0)	染付	肥前系
	11	磁器	椀	S K 2019	8.7	3.7	白 (N9/0)	染付	瀬戸
	12	磁器	椀	S K 2019	(9.0)	4.2	白 (N9/0)	染付	
	13	磁器	椀	S K 2019	(9.5)	4.4	白 (N9/0)	染付	
	14	磁器	椀	S K 2019	(9.1)	4.1	白 (N9/0)	染付	
	15	陶器	急須	S K 2019	7.7	3.8	赤褐 (2.5YR4/6)	-	常滑
	16	陶器	土瓶蓋	S K 2019	5.4	3.1	淡黄 (5Y8/3)	緑	京・信楽系
	17	陶器	土瓶	S K 2019	7.2	10.0	灰白 (10YR8/2)	緑	京・信楽系
	18	陶器	土瓶	S K 2019	7.8	11.4	灰白 (2.5Y8/2)	緑	京・信楽系
	19	陶器	土瓶	S K 2019	7.7	10.3	明緑灰 (10GY6/1)	緑	京・信楽系
	20	土師質	五徳	S K 2019	(2.7)	(7.2)	灰白 (2.5Y8/2)	-	深草「ふかくさ 下齋」在印

写真 図版		器種	器形	出土地点 遺構名	法量 (cm)		色調		備考
図版	報告 番号				口径・ 幅	器高・ 長さ	色調	釉薬	
図版 90	1	陶器	椀	14-u 2面直上掘削	(12.4)	7.6	灰白 (10YR8/1)	黒	瀬戸黒
図版 92	1	土師質	壺	13-o	14.4	6.6	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	-	深草 ロクロ成形 雲母残存
	2	土師質	壺	13-o	14.7	7.5	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	-	深草 ロクロ成形 雲母残存
	3	土師質	壺	14-o 嘉永大火前後	14.7	6.5	橙 (7.5YR7/6)	-	深草 ロクロ成形 雲母残存
図版 93	1	磁器	椀	10-p 路面掘削 (2-3面)	(8.0)	(1.3)	灰黄 (2.5Y7/2)	青磁	越州窯
図版 103	1	磁器	人形	9-r 2面	(1.9)	(3.1)	灰白 (2.5Y8/2)	白磁	中国 手びねり
図版 106	1	磁器	椀	14-a	(11.5)	(5.0)	灰白 (N8/)	青磁	龍泉窯系
図版 110	1	陶器	皿	12-x 精査	(6.8)	(1.6)	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	緑+黄	中国
図版 113	1	磁器	皿	14-a 精査	(3.6)	(3.8)	灰黄褐 (10YR6/2)	色絵	漳州窯
図版 114	1	磁器	皿	15-t 2面掘削	16.9	3.1	灰白 (2.5Y8/1)	染付	漳州窯
図版 118	1	陶器	椀	14-w・x 2面精査	(2.6)	(3.1)	黄灰 (2.5Y4/1)	象嵌	朝鮮
	2	陶器	壺	12-t 3面	(11.2)	(5.0)	灰褐 (5 YR5/2)	褐	ベトナムか
図版 119	1	磁器	皿	9・10-t ~ v 攪乱	(4.2)	(1.8)	白 (N9/0)	染付	肥前
	2	磁器	椀	10・11-t・u 1面精査	(4.8)	(2.3)	白 (N9/0)	染付	肥前 菊御紋付
	3	磁器	蓋	13・14-w 焼土直上層	(4.1)	(0.4)	白 (N9/0)	染付	肥前 菊御紋付 被熱
図版 120	1	磁器	皿	S K 2042	(5.3)	(1.6)	白 (N9/0)	染付	肥前 菊御紋付
	2	磁器	皿	S K 2042	(7.7)	(1.6)	白 (N9/0)	染付	肥前 菊御紋付
	3	磁器	皿	S K 2042	(8.5)	(2.6)	白 (N9/0)	染付	肥前 菊御紋付
図版 121	1	磁器	皿	S K 3114	2.7	1.4	白 (N9/0)	染付	肥前 菊御紋付
	2	磁器	皿	S K 3114	1.2	0.9	白 (N9/0)	染付	肥前 菊御紋付
	3	磁器	皿	S K 3108	1.6	1.1	白 (N9/0)	染付	肥前 菊御紋付
図版 122	1	磁器	椀	10 - v 精査	4.7	3.1	白 (N9/0)	赤絵	京都 高台内「道八」朱書
	2	陶器	椀	13・14-w ~ y 精査	(3.4)	(1.1)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	黒	高台内「楽」銘 十代目吉左衛門
	3	土製品	ミニチュア	14-r	3.4	3.1	淡黄 (2.5Y8/3)	緑+透明	深草 燈籠 手びねり+型押
図版 123	1	陶器	椀	9・10-t ~ v 攪乱	(7.2)	(5.5)	灰白 (2.5Y8/2)	透明	京都 高台内「栗田」銘
	2	陶器	椀	2面	(7.4)	(1.6)	浅黄橙 (10YR8/3)	錆絵+白	高台内「仁清」銘
	3	陶器	椀	12-x・y	(8.7)	(2.2)	灰白 (2.5Y8/2)	透明	京・信楽系 高台内墨書「□令」
図版 124	1	陶器	椀	13・14-w 焼土直上層	(4.7)	4.5	灰白 (2.5Y8/1)	灰	関西系 墨書「五」「六」「平」
	1	土製品	人形	11-t 精査	4.9	3.7	淡黄 (2.5Y8/3)	-	犬形土製品 手びねり
	3	土製品	人形	13・14-w・y 精査	2.6	3.7	灰白 (2.5Y8/2)	-	深草 天神 型合わせ
	4	土製品	人形	12・13-p・q 天明大火	5.1	(9.1)	浅黄橙 (10YR8/4)	-	深草 獅子舞 手びねり
図版 125	5	土製品	人形	12-w 1面精査	3.6	(7.1)	浅黄橙 (10YR8/3)	-	深草 不動明王 型合わせ
	6	土製品	人形	3区 廃土	10.3	9.1	浅黄橙 (10YR8/3)	-	深草 司馬温公甕割 型合わせ
	1	土製品	人形	15-t 2面	(10.3)	14.5	灰黄 (2.5Y6/2)	-	深草 富士見西行 型合わせ
	5	焼土塊	-	12-y	20.0	13.5	-	-	土壁や金属、陶磁器の混合物
	6	焼土塊	-	12-y	26.0	25.0	-	-	土壁や金属、陶磁器の混合物

付表3 出土瓦観察表

図面	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量 (cm)				色調	備考
				幅	長さ	高さ	厚さ		
155	1	軒丸瓦	S D 78	19.5	(13.7)	(8.4)	2.5	灰 (N5/0)	複弁六葉蓮華文 凸面縄目 凹面布目
	2	丸瓦	S D 78	(9.6)	(6.7)	(2.5)	1.6	灰 (N5/0)	凹面布目
	3	丸瓦	S D 78	(15.6)	(11.3)	(4.8)	1.8	灰 (N6/0)	凸面縄目 凹面コビキB
	4	丸瓦	S D 78	11.2	(7.0)	4.8	2.0	灰白 (N4/0)	凸面縄目
	5	平瓦	S K 2258	(8.7)	(6.5)	(4.2)	(2.4)	黄灰 (2.5Y5/1)	凸面縄目 凹面布目
	6	平瓦	S K 2258	(11.1)	(7.8)	(3.2)	(2.1)	灰白 (2.5Y7/1)	凸面縄目 凹面布目
	7	軒平瓦	S K 3188	(16.9)	(5.5)	(16.4)	-	灰 (N4/0)	重圈文
	8	軒平瓦	S K 3204	(12.6)	(2.1)	(7.5)	(2.1)	灰 (N4/0)	右巻巴文
156	1	軒平瓦	S K 3427	(16.0)	(10.5)	5.7	2.7	灰 (N6/0)	唐草文 凸面布目
	2	平瓦	S K 3427	(14.0)	(19.3)	(4.3)	2.8	灰 (N6/0)	凸面縄目 凹面布目
	3	平瓦	S K 3427	(12.8)	(14.2)	(3.7)	2.3	灰 (N5/0)	凸面縄目 凹面布目 「右坊」印
	4	軒平瓦	S P 3921	(11.6)	(8.3)	5.5	10.7	灰 (N4/0)	唐草文 凹面縄目
	5	丸瓦	S K 208	14.4	(18.3)	6.4	2.7	灰 (N4/0)	凹面コビキA
	6	軒平瓦	S D 3370	(7.8)	(5.6)	4.1	2.2	灰白 (N7/0)	唐草文 凹面ナデ 凸面布目
	7	軒平瓦	S D 3370	(9.0)	(9.6)	2.5	1.2	灰 (N5/0)	剣頭文 凸面布目 凹面ナデ
157	1	軒丸瓦	2面精査	(12.0)	(2.8)	(8.3)	2.8	灰黄 (2.5Y7/2)	金箔瓦 右巻き巴文
	2	軒丸瓦	S K 3283	(5.1)	(1.8)	(6.2)	1.9	オリーブ黒 (5Y3/1)	金箔瓦 右巻き巴文
	3	軒丸瓦	S K 3186	(6.3)	(2.5)	(8.8)	2.5	黒 (N2/0)	金箔瓦 右巻き巴文
	4	軒平瓦	S K 3292	(7.5)	(3.5)	(3.7)	2.9	暗灰 (N3/0)	金箔瓦 唐草文
	5	軒丸瓦	2・3面掘削	(10.7)	(2.6)	(9.7)	2.2	黒 (10YR2/1)	金箔瓦 葵文
	6	軒丸瓦	S K 3278	(9.1)	-	(8.2)	2.3	黒 (N2/0)	金箔瓦 葵文
	7	軒丸瓦	S K 3292	13.4	(11.0)	13.5	3.0	黒 (N2/0)	金箔瓦 右巻き巴文 珠文 13個
	8	軒丸瓦	S K 3329	15.0	(3.9)	15.4	2.0	灰 (N5/0)	右巻き巴文 珠文 15個
	9	棧瓦	S E 3171	(16.4)	(13.2)	3.5	1.7	灰 (N4/0)	
	10	棧瓦	S E 3171	(14.9)	(18.2)	4.0	1.8	灰 (N4/0)	
158	1	丸瓦	S E 135	13.0	(14.0)	5.6	1.7	にぶい黄橙 (10YR6/4)	
	2	丸瓦	S E 135	13.9	(18.1)	5.8	2.3	暗灰 (N3/0)	
	3	棧瓦	S E 135	(16.5)	29.1	1.9	1.9	にぶい黄橙 (10YR6/4)	
	4	軒平瓦	S E 135	(16.0)	(9.1)	6.3	1.7	灰 (N5/0)	唐草文 宝珠文
	5	軒棧瓦	S E 135	(16.0)	(12.8)	11.4	1.9	灰 (N5/0)	右巻き巴文
159	1	軒平瓦	S K 05	(10.6)	(4.2)	4.5	3.8	灰 (N6/0)	唐草文
	2	軒棧瓦	S K 05	(20.8)	(4.5)	12.4	1.6	灰 (10Y5/1)	右巻き巴文
	3	軒平瓦	S K 2042	(26.2)	(15.6)	4.4	1.6	暗灰 (N3/0)	唐草文
	4	軒平瓦	S K 2042	(13.2)	(6.7)	4.7	1.7	にぶい黄橙 (10YR7/4)	波濤文
	5	軒平瓦	S K 2042	(18.2)	(8.7)	4.6	1.6	黒 (N2/0)	波濤文
	6	軒平瓦	S K 2042	(16.6)	(7.5)	5.0	1.9	浅黄橙 (10YR8/3)	唐草文
	7	軒平瓦	S K 2042	(15.0)	(8.1)	4.8	1.9	にぶい黄橙 (10YR7/4)	唐草文
	8	軒丸瓦	S K 2042	18.9	(10.8)	18.9	1.9	にぶい黄橙 (10YR7/3)	右巻き巴文 珠文 15個
	9	軒棧瓦	S E 3198	(15.0)	(2.8)	-	6.2	黒 (N4/0)	右巻き巴文
	10	軒平瓦	S E 3198	25.4	(7.2)	-	(7.8)	黒 (N2/0)	唐草文
	11	軒棧瓦	S E 3198	(15.1)	(8.1)	6.6	8.1	灰 (N4/0)	右巻き巴文 唐草文
	12	軒平瓦	S E 3198	(16.8)	(6.7)	4.2	1.7	灰 (N4/0)	唐草文
160	1	軒棧瓦	S K 3108	9.4	(4.8)	9.7	2.0	浅黄 (2.5Y7/3)	右巻き巴文 珠文 14個

図面	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量 (cm)				色調	備考
				幅	長さ	高さ	厚さ		
160	2	軒棧瓦	S K 3108	(9.7)	(9.0)	2.2	3.4	灰白 (2.5Y8/1)	右巻き巴文
	3	軒丸瓦	S K 3108	13.4	(2.7)	13.4	1.6	灰 (5Y4/1)	右巻き巴文 珠文 16 個
	4	軒棧瓦	S K 3108	(15.4)	(5.1)	3.8	1.6	灰 (N5/0)	唐草文
	5	軒平瓦	S K 3108	(18.2)	(6.8)	4.5	1.9		扇文
	6	軒平瓦	S E 3335	(20.4)	(10.9)	4.8	1.5	暗灰 (N3/0)	唐草文
	7	軒平瓦	S K 3254	(8.2)	(2.4)	4.1	1.9	にぶい黄橙 (10YR7/3)	桐文 唐草文
	8	軒平瓦	S E 3312	27.8	(10.7)	5.7	2.0	黒 (N2/0)	波濤文
	9	軒棧瓦	S E 3312	(25.2)	(17.4)	3.7	1.8	黒 (N2/0)	唐草文
	10	軒棧瓦	S E 3312	(16.3)	(19.4)	5.0	3.5	黒 (N2/0)	雲文
	11	軒平瓦	S E 3312	22.4	(20.3)	4.0	2.0	黒 (N2/0)	唐草文 凹面カキヤブリ
	12	軒丸瓦	S E 3312	13.5	13.4	13.4	1.7	黒 (N2/0)	左巻き巴文 珠文 11 個
	13	軒丸瓦	S E 3312	14.9	(16.5)	5.6	2.2	黒 (N2/0)	右巻き巴文 珠文 13 個
	図版 125	2	軒平	13・14-p 攪乱	(8.9)	(7.5)	5.6	2.6	灰白 (10YR8/2)
4		軒平	13-o 3面精査	(13.4)	(12.6)	6.4	3.8	褐灰 (10YR6/1)	唐草文 凹面：布目
3		軒平	10-q 精査	(10.6)	(7.6)	7.2	5.2	灰 (N6/0)	唐草文
図版 133	4	瓦	S L 3050	26.5	(21.8)	-	2.0	黒 (N2/0)	かまどの焚口に据える

付表4 出土金属製品観察表

図面	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量 (cm)			重量 (g)	材質	備考
				長さ	幅	厚さ			
161	1	鉄刀	S K 29	(26.2)	5.5	3.0	436.0	鉄	鍛造
	2	包丁	S K 36	(19.0)	5.6	0.9	134.0	鉄	鍛造
	3	包丁	S K 69	(13.4)	5.7	0.8	59.0	鉄	鍛造
	4	包丁	S K 69	(17.7)	5.9	0.9	113.0	鉄	鍛造
	5	包丁	S E 2057	(19.3)	5.4	1.0	112.0	鉄	鍛造
	6	包丁	S E 2057	(15.1)	6.4	2.6	73.0	鉄	鍛造
	7	鎌	S S 3229	(9.2)	3.2	1.3	43.0	鉄	鍛造
	8	鎌	S K 2059	(9.7)	3.1	0.9	53.0	鉄	鍛造
	9	釘	S E 2057	3.6	0.7	2.5	1.1	鉄	
	10	簪	S K 3313	8.9	1.4	0.5	10.3	鉄	
	11	把手	S E 2227	(17.5)	1.2	0.9	70.0	鉄	
	12	鍬	S E 2057	(21.5)	5.3	3.3	604.0	鉄	
162	1	火熨斗	S K 14	(3.5)	11.0	0.2	69.0	銅	2 と同一個体
	2	火熨斗 留め具	S K 14	(3.7)	(3.3)	1.4	3.7	銅	1 と同一個体
	3	秤皿	S K 2015	0.8	5.2	0.1	8.1	銅	
	4	煙管 吸口	S K 36	(5.5)	1.1	0.2	3.7	銅	
	5	煙管 雁首	S S 3229	7.8	1.5	-	12.5	銅	
	6	不明品	S E 2057	3.8	5.2	0.1	71.0	銅	7 と同一個体
	7	筒形製品	S E 2057	3.1	0.6	1.0	2.4	銅	6 と同一個体
	8	水滴	S K 50	3.0	3.5	1.8	25.0	銅	
	9	簪	S K 2015	10.8	0.6	0.2	3.7	銅	
	10	簪	S D 2020	11.7	0.7	0.2	4.7	銅	
	11	耳かき	S K 3196	10.7	0.5	0.2	3.3	銅	
	12	筭	S K 2047	19.7	1.4	0.5	34.0	銅	
	13	匙	S K 3090	12.2	2.1	0.2	5.3	銅	
	14	筭	S E 136	(10.2)	1.3	1.8	7.6	銅	
	15	杓子	S K 3025	12.1	7.4	0.3	38.0	銅	

図面	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量 (cm)			重量 (g)	材質	備考
				長さ	幅	厚さ			
163	1	小柄	S K 36	(10.9)	1.4	0.6	33.0	銅	刀身一部残存 螺鈿装飾あり
	2	鏝	精査	5.2	4.2	4.0	43.0	銅	
	3	鏝	精査	4.8	4.0	3.5	30.0	銅	
	4	鈴	S K 2044	2.8	2.3	-	4.7	銅	表面鍍金
	5	秤皿	S K 36	9.0	1.2	0.1	36.0	銅	三方に穿孔跡あり
	6	金具	S K 26	12.1	1.2	0.3	31.0	銅	
	7	錘	S E 2057	2.4	2.6	-	61.0	銅	
	8	錘	S E 136	2.3	1.3	-	21.0	銅	
	9	蝶番	S K 72	7.1	5.0	0.1	15.2	銅	
	10	飾り金具	S E 135	2.5	-	0.1	0.7	銅	
	11	釘	S K 2015	3.9	1.1	0.3	1.6	銅	
	12	銭貨	S K 3253	3.0	7.4	1.0	31.0	銅	9枚融着
	13	装飾金具か	S E 2057	1.2	6.5	0.1	2.7	銅	表面鍍金

付表5 出土石製品観察表

図面	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量 (cm)			色調	材質	備考
				幅	長さ	厚さ			
164	1	硯	S K 24	8.0	(14.0)	1.2	暗灰 (N3/0)	ホルンフェルス	
	2	硯	S D 3370	(4.9)	(5.3)	0.5	灰 (N5/0)	粘板岩	
	3	温石	S D 3550	(5.7)	(3.3)	1.6	褐灰 (5YR6/1)	滑石	石鍋転用
	4	硯	S D 3550	8.4	5.2	1.7	暗灰 (N3/0)	粘板岩	
	5	石鍋	S D 3370	(26.0)	(3.2)	1.6	にぶい褐 (7.5YR6/3)	滑石	
	6	砥石	S K 236	(4.4)	(5.3)	1.1	灰白 (2.5Y8/1)	凝灰岩	
	7	砥石	S E 136	(5.9)	(10.4)	2.3	にぶい橙 (5YR7/3)	凝灰岩	
	8	砥石	S K 2049	(5.8)	(12.0)	1.5	暗灰黄 (2.5Y5/2)	粘板岩	
	9	砥石	S K 2044	(5.8)	(6.2)	1.0	灰 (7.5Y5/1)	粘板岩	
	10	砥石	S K 3407	(10.7)	(2.8)	1.7	灰 (10Y5/1)	泥岩	
	11	砥石	S K 3292	(7.3)	(21.1)	3.9	淡黄 (2.5Y8/4)	頁岩	
	12	硯	S K 3407	6.8	(9.3)	1.2	暗灰 (N3/0)	粘板岩	
165	1	硯	S K 3252	2.8	7.1	1.1	灰 (10Y5/1)	粘板岩	
	2	硯	S E 2057	4.6	10.0	0.8	灰 (N4/0)	頁岩	
	3	硯	S K 36	4.1	13.7	0.7	灰 (10YR6/1)	粘板岩	
	4	硯	S K 14	7.3	13.6	1.6	灰 (10Y4/1)	粘板岩	
	5	碁石	S X 2058	2.5	2.7	0.6	灰褐 (10YR4/1)	頁岩	
	6	碁石	S X 2058	2.3	2.7	0.8	暗灰 (N3/0)	頁岩	
	7	碁石	S X 2064	1.4	2.3	0.7	暗灰 (N3/0)	頁岩	
	8	碁石	S K 3226	2.2	2.2	0.5	黒褐 (2.5Y3/1)	頁岩	
	9	硯	S K 3230	8.3	14.9	2.3	黄灰 (2.5Y6/1)	粘板岩	
	10	硯	S K 3167	7.2	18.6	2.4	浅黄 (5Y7/3)	粘板岩	
166	1	砥石	S E 3154	4.2	5.6	1.8	浅黄橙 (10YR8/3)	凝灰岩	
	2	砥石	S E 3154	6.9	(8.6)	1.1	灰白 (7.5Y7/1)	粘板岩	
	3	砥石	S E 3154	7.9	(13.6)	1.8	にぶい黄 (2.5YR6/3)	頁岩	
	4	火打石	S K 3125	1.8	2.0	0.8	青灰 (5BG6/1)	チャート	
	5	碁石	S E 3034	2.5	2.0	0.5	黒 (N2/0)	頁岩	
	6	硯	S E 3154	(4.0)	(6.9)	1.4	灰褐 (7.5YR5/2)	粘板岩	
	7	硯	S E 3154	7.4	18.3	2.2	灰オリーブ (5Y6/2)	粘板岩	
	8	砥石	S K 2015	7.7	20.2	1.2	明褐灰 (7.5YR7/1)	頁岩	
	9	硯	S K 2015	7.8	(5.6)	2.4	褐灰 (10YR6/1)	粘板岩	
	10	硯	S K 3267	(8.5)	22.8	2.3	灰 (N4/0)	粘板岩	未製品

図面	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量 (cm)			色調	材質	備考
				幅	長さ	厚さ			
167	1	硯	S K 05	7.4	(16.3)	2.6	浅黄橙 (10YR8/3)	凝灰岩	
	2	硯	S K 2019	6.4	(14.2)	1.6	暗灰黄 (2.5Y4/2)	粘板岩	
	3	石筆 (ロー石)	S S 3021	-	(4.6)	0.5	灰白 (7.5YR8/1)	蠟石	
	4	石筆 (ロー石)	S D 3038	-	(5.1)	0.5	浅黄 (2.5Y8/3)	蠟石	
	5	硯	S E 3335	9.8	(16.0)	2.9	灰 (7.5Y5/)	粘板岩	裏面落書きあり 石灰で修理痕あり
	6	石盤	S E 3335	(4.9)	(9.6)	0.4	灰 (N5/0)	粘板岩	
	7	手水鉢	3区南壁	(33.5)	57.6	-	-	花崗岩	
168	1	礎石	S K 2258	62.0	40.0	-	-	花崗岩	
	2	礎石	S K 2258	57.0	37.5	-	-	花崗岩	
	3	礎石	S K 2258	60.0	35.2	-	-	斑れい岩	
	4	礎石	S K 2258	70.0	20.1	-	浅黄橙 (10YR8/4)	凝灰岩	被熱
図版 131	1	硯	3区 15-t 2面 掘削	5.0	11.0	0.7	青黒 (10BG1.7/1)	粘板岩	「天下一中村石見 守印」
	2	火打石	2区 10-p・q 攪 乱	2.9	1.6	-	青灰 (5BG5/1)	チャート	
	3	薬研	2区 10-o・p 遺 物包含層	2.6	(11.6)	-	黄灰 (2.5Y5/1)	凝灰岩	外面摩耗
図版 132	1	茶臼	1区 1面 北西角 天明大火下層	(23.8)	6.4	-	にぶい黄褐 (10YR7/2)	黒雲母花崗 岩	上面被熱 花崗岩
図版 133	1	かまど石	S L 3086・ 3087	12.5	26.5	5.5	暗灰黄 (2.5Y5/2)	砂岩	外面に工具による 加工痕 被熱
	2	かまど石	S L 3086・ 3087	12.5	21.0	6.8	暗灰黄 (2.5Y5/2)	砂岩	外面に工具による 加工痕 被熱
	3	かまど石	S L 3050	14.0	27.0	6.3	暗灰黄 (2.5Y5/2)	礫岩	外面に工具による 加工痕 被熱

付表6 出土銭貨観察表

図面	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量 (cm)		重量 (g)	初鑄年	備考
				外形	穿孔径			
169	1	元祐通寶	S K 21	2.5	7.0	3.3	1086年	北宋
	2	熙寧元寶	S K 21	2.4	7.5	3.9	1068年	北宋
	3	元祐通寶	S K 21	2.4	7.5	3.0	1086年	北宋
	4	熙寧元寶	S K 21	2.4	7.5	2.6	1068年	北宋
	5	元豊通寶	S K 21	2.4	7.5	1.8	1078年	北宋
	6	開元通寶	S K 14	2.4	8.0	2.2	621年	唐
	7	治平元寶	S K 27	2.4	7.0	2.7	1064年	北宋
	8	寛永通寶	S K 14	2.5	7.0	3.4	1636年	日本
	9	元豊通寶	S K 29	2.4	7.0	3.8	1078年	北宋
	10	政和通寶	S K 14	2.4	7.5	2.2	1111年	北宋
	11	治平元寶	S K 36	2.4	7.0	4.1	1064年	北宋
	12	元豊通寶	S K 36	2.4	8.0	3.4	1078年	北宋
	13	元豊通寶	S K 36	2.4	7.5	2.3	1078年	北宋
	14	元祐通寶	S K 36	2.5	7.5	2.9	1086年	北宋
	15	政和通寶	S K 36	2.4	7.5	2.7	1111年	北宋
	16	正隆元寶	S K 36	2.4	7.0	2.4	1157年	金
	17	大観通寶	S K 36	2.5	7.5	2.7	1107年	北宋
	18	□□元寶	S K 36	2.3	7.0	3.6	-	-
	19	皇宋通寶	S K 36	2.3	7.0	2.8	1038年	北宋
	20	紹聖元寶	S K 36	2.3	7.5	2.4	1094年	北宋
	21	景德元寶	S K 36	2.4	7.0	2.9	1004年	北宋

図面	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量 (cm)		重量 (g)	初鑄年	備考
				外形	穿孔径			
169	22	洪武通寶	S K 71	2.3	6.0	2.9	1368年	明
	23	元祐通寶	S K 79	2.3	7.0	2.4	1086年	北宋
	24	淳化元寶	S K 14	2.3	6.0	3.4	990年	北宋
	25	朝鮮通寶	S P 82	2.4	6.0	2.6	1423年	朝鮮
	26	聖宋元寶	壁面精査	2.5	6.5	3.3	1101年	北宋
	27	寛永通寶	S K 2015	2.5	6.5	3.2	1668年	江戸
	28	開元通寶	S K 2044	2.4	7.0	3.6	621年	唐
	29	洪武通寶	S K 2044	2.3	6.5	3.1	1368年	明
	30	嘉祐通寶	S K 2044	2.3	7.5	2.7	1056年	北宋
	31	皇宋通寶	S K 2044	2.4	7.5	3.1	1038年	北宋
	32	元祐通寶	S K 2044	2.4	7.5	3.6	1086年	北宋
	33	唐國通寶	S K 2044	2.5	6.5	2.8	959年	南唐
	34	寛永通寶	S K 2055	2.3	6.0	2.8	1636年	江戸
	35	元豊通寶	S K 2044	2.2	6.5	2.3	1078年	北宋
	36	皇宋通寶	S K 2044	2.5	7.5	3.9	1038年	北宋
	37	宣和元寶	S K 2059	2.5	7.0	2.2	1119年	北宋
	38	嘉祐通寶	S E 2057	2.4	7.5	2.5	1056年	北宋
	39	開元通寶	S E 2057	2.5	6.5	2.8	621年	唐
	40	祥符元寶	S X 2058	2.3	6.5	1.9	1009年	北宋
	41	皇宋通寶	S X 2058	2.4	8.5	3.8	1038年	北宋
	42	永樂通寶	精査	2.5	6.5	3.0	1408年	明
	43	熙寧元寶	S X 2058	2.5	7.5	2.8	1068年	北宋
	44	開元通寶	S X 2095	2.5	7.5	2.3	621年	唐
	45	治平元寶	2 - 3面 掘削	2.3	6.5	3.8	1064年	北宋
	46	皇宋通寶	S K 2047	2.5	7.5	3.3	1038年	北宋
	47	元豊通寶	S E 2057	2.5	7.0	2.8	1078年	北宋
	48	開元通寶	3面	2.3	8.0	2.7	621年	唐
	49	皇宋通寶	3面	2.5	7.5	2.7	1038年	北宋
	50	景德元寶	S K 2258	2.5	6.5	2.6	1004年	北宋
	51	天聖元寶	S E 2227	2.5	7.0	2.0	1023年	北宋
	52	政和通寶	S K 2047	2.5	7.0	3.3	1111年	北宋
	53	皇宋通寶	S K 2047	2.3	7.0	2.2	1038年	北宋
	54	寛永通寶	S K 3003	2.5	6.5	2.4	1636年	江戸
	55	寛永通寶	S K 3003	2.5	6.5	3.4	1668年	江戸
	56	寛永通寶	S K 3003	2.3	6.0	2.5	1668年	江戸
	57	寛永通寶	S K 3003	2.3	6.5	2.6	1636年	江戸
	58	文久永寶	S K 3068	2.7	7.5	3.4	1863年	江戸
	59	寛永通寶	S D 3097	2.4	6.0	3.5	1636年	江戸
	60	寛永通寶	S K 3103	2.3	6.5	2.8	1668年	江戸
	61	寛永通寶	S K 3035	2.4	6.0	3.9	1636年	江戸
	62	天禧通寶	S B 01	2.5	7.0	2.8	1017年	北宋
	63	元豊通寶	S S 3229	2.4	7.0	2.9	1078年	北宋
	64	寛永通寶	S K 3230	2.5	6.0	3.4	1636年	江戸
	65	開元通寶	S K 3230	2.4	2.5	2.5	960年	南宋
66	熙寧元寶	S K 3230	2.3	7.0	2.8	1064年	北宋	
67	熙寧元寶	S K 3230	2.3	7.0	2.2	1064年	北宋	
68	政和通寶	S K 3167	2.5	6.5	3.9	1111年	北宋	
69	景德元寶	S D 3370	2.4	6.5	2.4	1004年	北宋	
70	元祐通寶	S K 3230	2.5	7.0	3.0	1086年	北宋	
71	洪武通寶	S K 3192	2.3	6.5	3.0	1368年	明	
72	天聖元寶	S K 3364	2.4	7.0	2.2	1023年	北宋	
73	治平元寶	S K 3291	2.3	6.5	2.7	1064年	北宋	
74	慶長通寶	S K 3291	2.4	7.0	1.7	1606年	江戸	

図面	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量 (cm)		重量 (g)	初鑄年	備考
				外形	穿孔径			
169	75	永楽通寶	S E 3312	2.5	6.0	2.3	1408年	明
	76	五銭	S D 2009	2.0	-	4.4	-	明治23年
	77	二銭	S M 3968	3.2	-	14.0	-	明治13年

付表7 出土骨・貝・ガラス製品観察表

挿図	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量 (cm)		材質	備考
				口径・幅	器高・長さ		
170	1	サイコロ	S E 135	1.1	0.9	骨	白 (N9/0) 被熱
	2	サイコロ	S E 135	1.1	1.1	骨	白 (N9/0) 被熱
	3	着付け籠	S K 2015	2.6	9.7	骨	浅黄橙 (10YR8/3) 穿孔
	4	竿秤	S K 2049	0.4	(10.4)	骨	浅黄 (2.5Y8/3)
	5	双六の駒	S K 2044	2.1	-	骨	灰白 (10YR8/1)
	6	櫛払	S K 3090	1.1	(9.4)	骨	灰白 (7.5Y8/2)
	7	独楽	S X 2006	2.9	2.6	バイ貝	灰白 (10YR8/2)
	8	独楽	S K 3196	2.9	2.6	バイ貝	灰白 (5Y8/1)
	9	ガラス玉	S K 2154	0.8	0.9	ガラス	青緑色 完形
	10	ガラス玉	3区 (9-u) 精査	0.6	0.6	ガラス	青緑色 ほぼ完形
	11	簪	S K 3109	1.3	4.4	ガラス	無色透明 1/4 残存
171	1	瓶	S K 2002	4.7	7.5	ガラス	緑灰 (10G6/1)・底部に「1」
	2	瓶	S K 2002	2.4	22.5	ガラス	オリーブ灰 (10Y5/2)・「大日本麥酒株式会社製造」
	3	瓶	S K 2002	2.2	24.1	ガラス	透明グリーン
	4	瓶	S K 2002	2.7	(25.8)	ガラス	極暗褐 (7.5YR2/3)・「TRADE MARK」 「カルピス製造株式会社」
	5	瓶	S K 2002	2.6	(27.7)	ガラス	透明な暗オリーブ (7.5Y4/3)
	6	瓶	S K 2002	2.5	28.8	ガラス	極暗褐 (7.5YR2/3)・「TRADE MARK」 「DAINIPPON BREWERY Co」
図版 130	1	駒	3区 15-t 掘削	0.4	2.2	骨	にぶい黄橙 (10YR7/4)
	2	櫛払	3区 9・10-t ~v 攪乱	1.0	(9.9)	骨	淡黄 (2.5Y8/3)
	3	独楽	2区 9-o 精査	2.9	3.0	貝	殻口を切除して成形する

付表8 出土木製品観察表

挿図	報告番号	種類	遺構名	法量 (cm)			材質	備考
				幅	長さ	厚み		
172	1	箸	S E 2227	0.7	(6.9)	-	木	
	2	箸	S E 2227	0.6	(6.2)	-	木	
	3	箸	S E 2227	0.5	(8.0)	-	木	
	4	箸	S E 2227	0.6	(5.7)	-	木	
	5	箸	S E 2227	0.7	(12.0)	-	木	
	6	箸	S E 2227	0.7	(7.7)	-	木	
	7	箸	S E 2227	6.5	(11.0)	-	木	
	8	箸	S E 2227	6.5	(10.7)	-	木	
	9	箸	S E 2227	0.6	(12.7)	-	木	
	10	箸	S E 2227	0.7	(11.1)	-	木	
	11	箸	S E 2227	0.6	20.7	-	木	
	12	箸	S E 2227	0.7	(17.0)	-	木	

圖 版

図版第 1 平安京跡（左京一条三坊三町）



(1) 第 1 面 1 区全景(南東から)



(2) 第 1 面 1 区全景(東から)

図版第2 平安京跡（左京一条三坊三町）



(1) 第2面1区全景(西から)



(2) 第2面1区俯瞰(南から)

図版第3 平安京跡（左京一条三坊三町）



(1) 第2面2区全景(西から)



(2) 第2面3区全景(西から)

図版第4 平安京跡（左京一条三坊三町）



(1) 第3面1区全景(南東から)



(2) 第3面1区全景(東から)

図版第5 平安京跡（左京一条三坊三町）



(1) 第3面2区全景(西から)



(2) 第3面2区全景(西から)



(1) 第3面3区全景(西から)



(2) 第3面3区全景(北西から)

図版第7 平安京跡（左京一条三坊三町）



(1) 第1面1区近衛大路断面(南西から)



(2) 第1面1区S S07(北西から)



(1) 第 1 面 1 区 S D 12 断面 (西から)



(2) 第 1 面 1 区北側全景 (北東から)



(1) 第1面2区S S 2003(北から)



(2) 第1面2区S S 2003(東から)



(1) 第 1 面 2 区 S S 2004 (東から)



(2) 第 1 面 2 区 S M 3968 断面 (西から)



(1) 第 1 面 2 区 S D 2014 (北東から)



(2) 第 1 面 2 区 S S 2003・S S 2005 (北から)



(1) 第 1 面 2 区 S D 2009 (南西から)



(2) 第 1 面 2 区 S X 2023 (北東から)



(1) 第 1 面 2 区 S S 2031 (西から)



(2) 第 1 面 2 区全景 (南西から)



(1) 第 1 面 2 区全景 (南から)



(2) 第 1 面 2 区全景 (南東から)



(1) 第 1 面 2 区 S D 2020 (東から)



(2) 第 1 面 2 区 S D 2020 (北東から)



(1) 第 1 面 2 区 S D 2020 (北から)



(2) 第 1 面 2 区 S D 2037 (南から)



(1) 第 1 面 2 区 S D 2037 (北西から)



(2) 第 1 面 2 区 S D 2037 (北東から)



(1) 第 1 面 2 区 S D 2037 (東から)



(2) 第 1 面 2 区 S D 2037 (東から)



(1) 第 1 面 2 区 S D 2037 枿 (北から)



(2) 第 1 面 2 区 S D 2037 枿 (南から)



(1) 第 1 面 2 区 S J 2040 (南から)



(2) 第 1 面 2 区 S K 2019 (南から)



(1) 第 1 面 3 区 S S 3021 (東から)



(2) 第 1 面 3 区 S S 3021 (北東から)



(1) 第 1 面 3 区 S S 3043(西から)



(2) 第 1 面 3 区 S D 3039(東から)



(1) 第 1 面 3 区 S D 3037・SD3038(西から)



(2) 第 1 面 3 区 S L 3045・S E 3034(西から)



(1) 第 1 面 3 区 S L 3045 (北から)



(2) 第 1 面 3 区 S L 3045 (北から)



(1) 第 1 面 3 区 S J 3028(東から)



(2) 第 1 面 3 区 S J 3052(東から)



(1) 第 1 面 3 区 S S 3076 (東から)



(2) 第 1 面 3 区 S S 3077 ~ S S 3080 (東から)



(1) 第 1 面 3 区 S S 3056 (北から)



(2) 第 1 面 3 区 S S 3056 断面 (東から)



(1) 第 1 面 3 区 S E 3072 (東から)



(2) 第 1 面 3 区 S L 3050 (北から)



(1) 第 1 面 3 区 S L 3050 (南西から)



(2) 第 1 面 3 区 S L 3050 (南から)



(1) 第 1 面 3 区 S L 3086・S L 3087(南から)



(2) 第 1 面 3 区 S D 3097(北から)



(1) 第 1 面 3 区 S S 3115 (南から)



(2) 第 1 面 3 区 S L 3016 (西から)



(1) 第 1 面 3 区 S L 3016 (南から)



(2) 第 1 面 3 区 S S 3118 (南から)



(1) 第 1 面 3 区 S X3128(東から)



(2) 第 1 面 3 区 S X3127・S X3128(東から)



(1) 第 1 面 3 区南東隅漆喰溝(北西から)



(2) 第 1 面 3 区 S J 3972(北から)



(1) 第 1 面 3 区全景(南から)



(2) 第 2 面 1 区 S K66 断面(西から)



(1) 第 2 面 1 区 S K 28 遺物出土状況(南から)



(2) 第 2 面 1 区 S S 37 (西から)



(1) 第 2 面 S F 240(西から)



(2) 第 2 面 1 区全景(北東から)



(1) 第 2 面 2 区 S X 2058 (南西から)



(2) 第 2 面 2 区 S X 2058 アゼ断面 (南東から)



(1) 第 2 面 2 区 S X 2058 東側南北アゼ断面(西から)



(2) 第 2 面 2 区 S S 2097(西から)



(1) 第 2 面 2 区 S D 2075 (東から)



(2) 第 2 面 2 区 S K 2105 (北から)



(1) 第 2 面 2 区 S K2105(北から)



(2) 第 2 面 2 区 S E2227断面(西から)



(1) 第 2 面 2 区全景 (北東から)



(2) 第 2 面 2 区全景 (南から)



(1) 第 2 面 3 区 S E 3138 (北から)



(2) 第 2 面 3 区 S E 3154 (南から)



(1) 第 2 面 3 区 S E 3198 (東から)



(2) 第 2 面 3 区 S K 3167 (北から)



(1) 第 2 面 3 区 S E 3132 (北東から)



(2) 第 2 面 3 区 S S 3147 (西から)



(1) 第 2 面 3 区 S S 3190(北から)



(2) 第 2 面 3 区 S B 01(東から)



(1) 第 2 面 3 区 S B01 (北から)



(2) 第 2 面 3 区 S E3171 (東から)



(1) 第 2 面 3 区 S S 3239 断面 (北から)



(2) 第 2 面 3 区 S S 3239 (北から)



(1) 第 2 面 3 区 S K 3278 (北から)



(2) 第 2 面 3 区 S S 3284 (南西から)



(1) 第 2 面 3 区 S S 3229・S K 3230(東から)



(2) 第 2 面 3 区 S S 3229(北から)



(1) 第 2 面 3 区 S S 3276(西から)



(2) 第 2 面 3 区 S S 3274(南から)



(1) 第 2 面 3 区 S S 3322 断面 (南から)



(2) 第 2 面 3 区 S S 3322 (南から)



(1) 第 2 面 3 区 S S 3331 上層 (西から)



(2) 第 2 面 3 区 S S 3331 下層 (北から)



(1) 第 2 面 3 区 S S 3257 (西から)



(2) 第 2 面 3 区 S E 3247 (東から)



(1) 第 2 面 3 区 S E 3312(東から)



(2) 第 2 面 3 区 S E 3132(北から)



(1) 第 2 面 3 区 S K 3385 断面 (東から)



(2) 第 2 面 3 区 S K 3472 断面 (北から)



(1) 第 2 面 3 区 S S 3491 (東から)



(2) 第 2 面 3 区全景 (北西から)



(1) 第 2 面 3 区全景 (南西から)



(2) 第 3 面 1 区 S E 135 (北東から)



(1) 第 3 面 1 区 S P 96 (S A 96) 断面 (西から)



(2) 第 3 面 1 区 S P 100 (S A 96) 断面 (東から)



(1) 第 3 面 1 区 S P 117 (S B 117) 断面 (西から)



(2) 第 3 面 1 区 S P 117 (S B 117) (北から)



(1) 第 3 面 1 区 S P 207 (S B 117) 断面 (南から)



(2) 第 3 面 1 区 S P 207 (S B 117) (南から)



(1) 第 3 面 1 区 S D 77 断面 (東から)



(2) 第 3 面 1 区西壁 (北東から)



(1) 第 3 面 1 区 S D81 断面（北東から）



(2) 第 3 面 1 区 S D81 断面（北東から）



(1) 第 3 面 1 区 S D81 (北東から)



(2) 第 3 面 1 区 S D81 (北東から)



(1) 第 3 面 1 区北壁断面(南東から)



(2) 第 3 面 1 区 S D 78 断面(東から)



(1) 第 3 面 1 区北半全景(西から)



(2) 第 3 面 1 区全景(北東から)



(1) 第 3 面 2 区 S S2111 (東から)



(2) 第 3 面 2 区 S S2111 (南西から)



(1) 第 3 面 2 区焼土 S X 2165(東から)



(2) 第 3 面 2 区 S X 2137(西から)



(1) 第 3 面 2 区 S K 2157 土器検出状況(北から)



(2) 第 3 面 2 区 S S 2199(北東から)



(1) 第 3 面 2 区 S D81 断面(北から)



(2) 第 3 面 2 区 S D81 断面(北西から)



(1) 第 3 面 2 区 S K 2258 礎石出土状況(北西から)



(2) 第 3 面 3 区 S S 3507(北から)



(1) 第 3 面 3 区 S K 3571 遺物出土状況(西から)



(2) 第 3 面 3 区 S S 3288 断面(東から)



(1) 第 3 面 3 区 S S 3305・S S 3306(北から)



(2) 第 3 面 3 区 S K 3593 遺物出土状況(北から)



(1) 第 3 面 3 区 S K3743 断面 遺物出土状況(東から)



(2) 第 3 面 3 区 S K3831 (西から)



(1) 第 3 面 3 区 S S 3306 断面 (北から)



(2) 第 3 面 3 区 S S 3305 断面 (北から)



(1) 第 3 面 3 区 S S 3827(北から)



(2) 第 3 面 3 区 S S 3827断面(東から)



(1) 第 3 面 3 区 S D 3550 断面 (南西から)



(2) 第 3 面 3 区 S D 3550 (南西から)



(1) 第 3 面 3 区 S A3425(東から)



(2) 第 3 面 3 区 S A3425(西から)



(1) 第 3 面 3 区 S A 3823 断面 (北から)



(2) 第 3 面 3 区 S A 3823 断面 (北から)



(1) 第 3 面 3 区 S D3370 集石出土状況(西から)



(2) 第 3 面 3 区 S A3425・S D3370(南東から)



(1) 第 3 面 3 区 S D 3370 東側断面（西から）



(2) 第 3 面 3 区 S D 3370 (東から)



(1) 第 3 面 3 区 S D 3370 西側断面(北東から)



(2) 第 3 面 3 区 S D 3370 ・ S A 3425(西から)



(1) 第 3 面 3 区 S D 3370 ・ S D 3550 (西から)



(2) 第 3 面 3 区 S D 3370 ・ S A 3425 (東から)



(1) 第 3 面 3 区 S D3370・S A3425(東から)



(2) 第 3 面 3 区 S X3840(西から)



(1) 第 3 面 3 区 S X3840 断割断面 (南西から)



(2) 第 3 面 3 区 S D3881 断面 (南西から)



(1) 第 3 面 3 区 S D 3881 (南西から)



(2) 第 3 面 3 区 S E 3822 (南東から)



(1) 第 3 面 3 区 S P 3921 瓦出土状況(北西から)



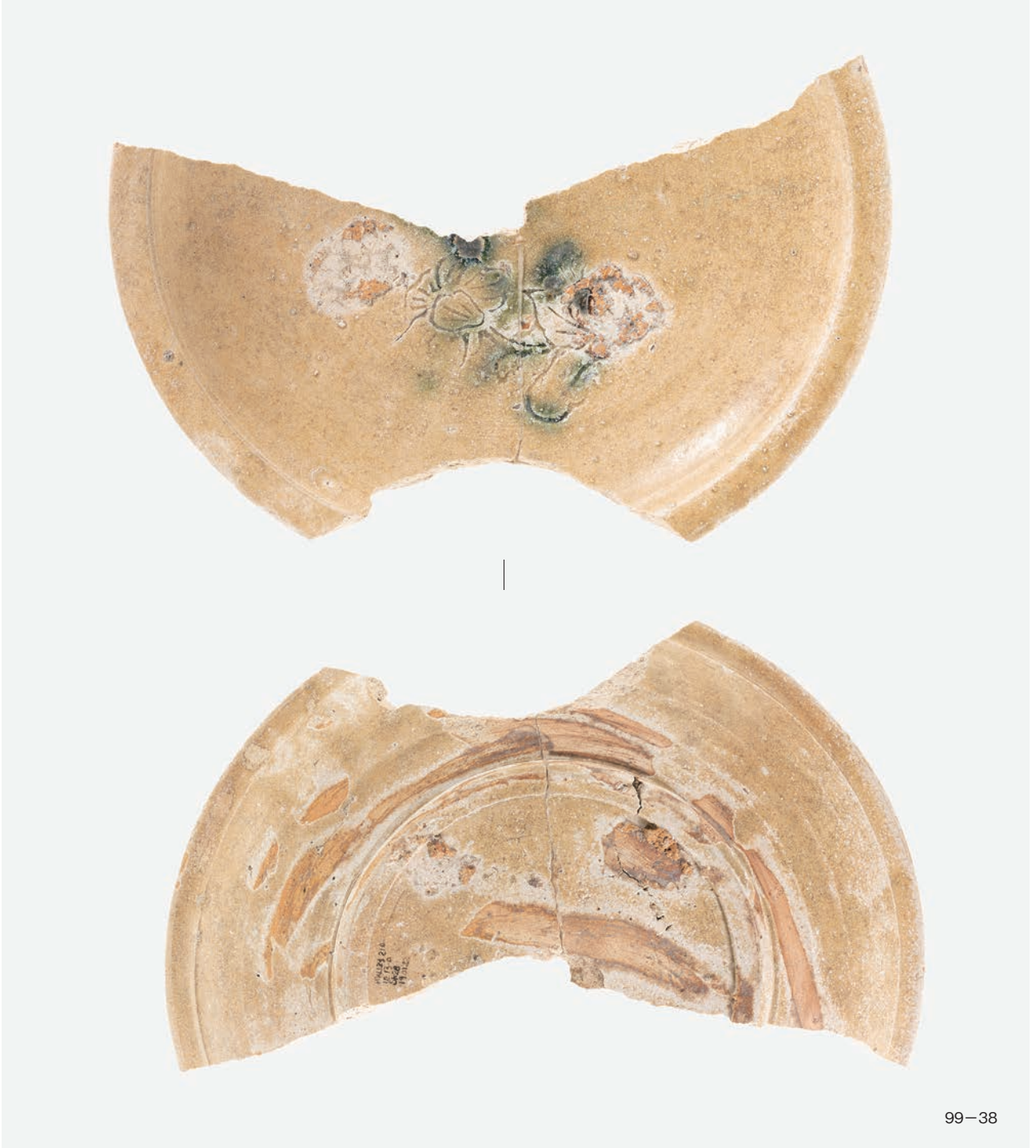
(2) 第 3 面 3 区全景(南から)



(1) 第 3 面 3 区全景 (南東から)



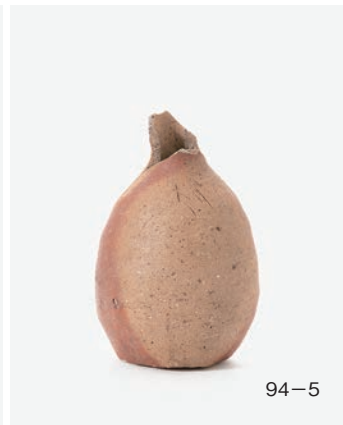
(2) 第 3 面 3 区全景 (北から)



99-38



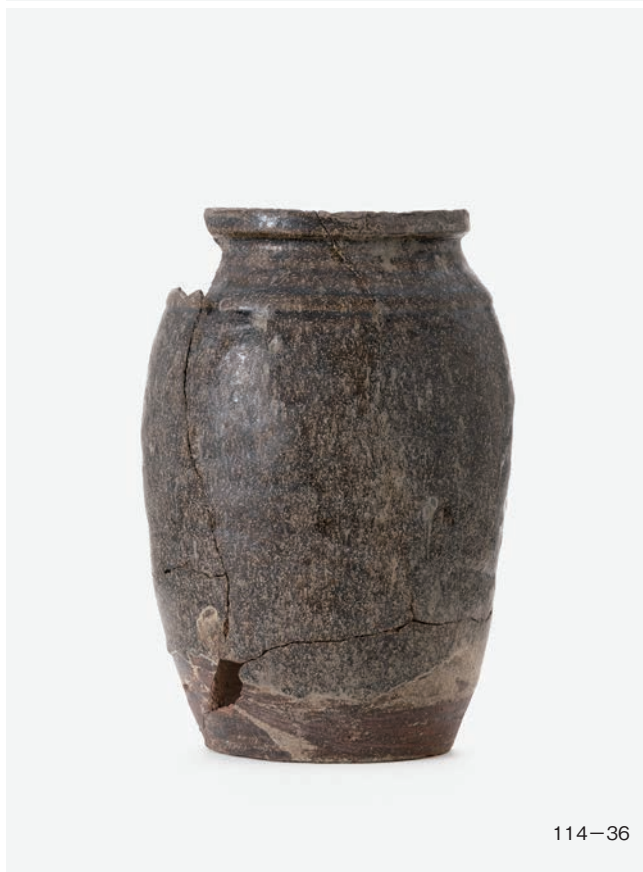
94-4

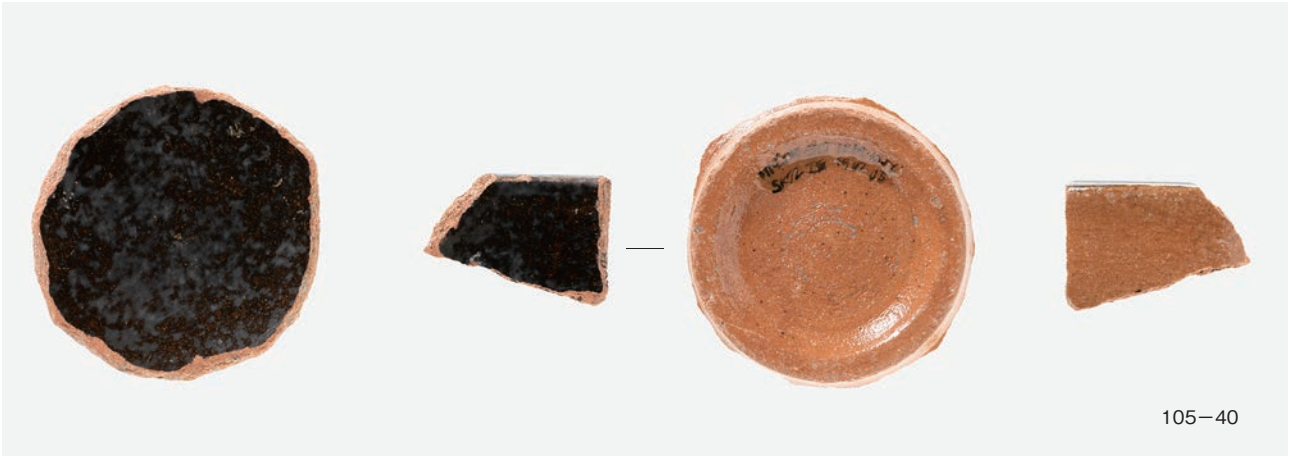


94-5



78-21





105-40



107-19



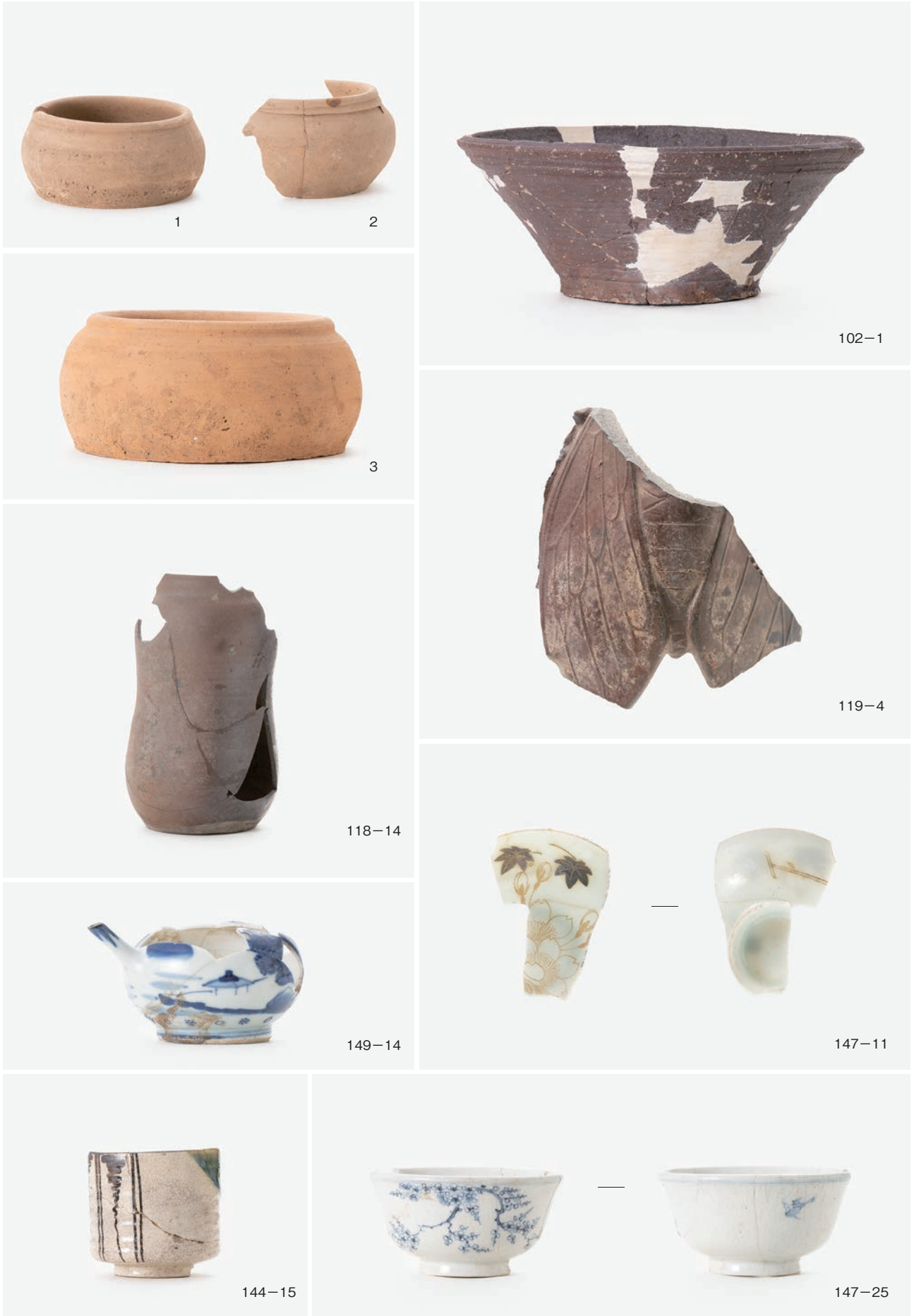
107-20



107-17



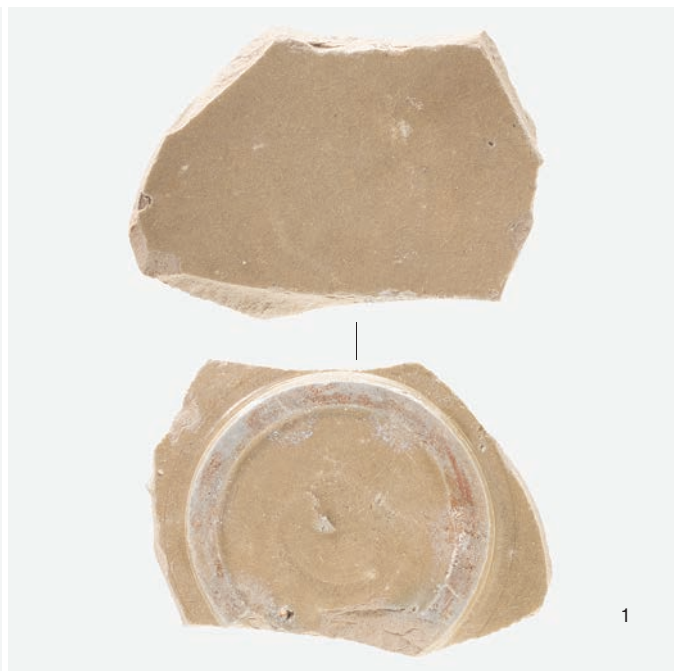
107-16



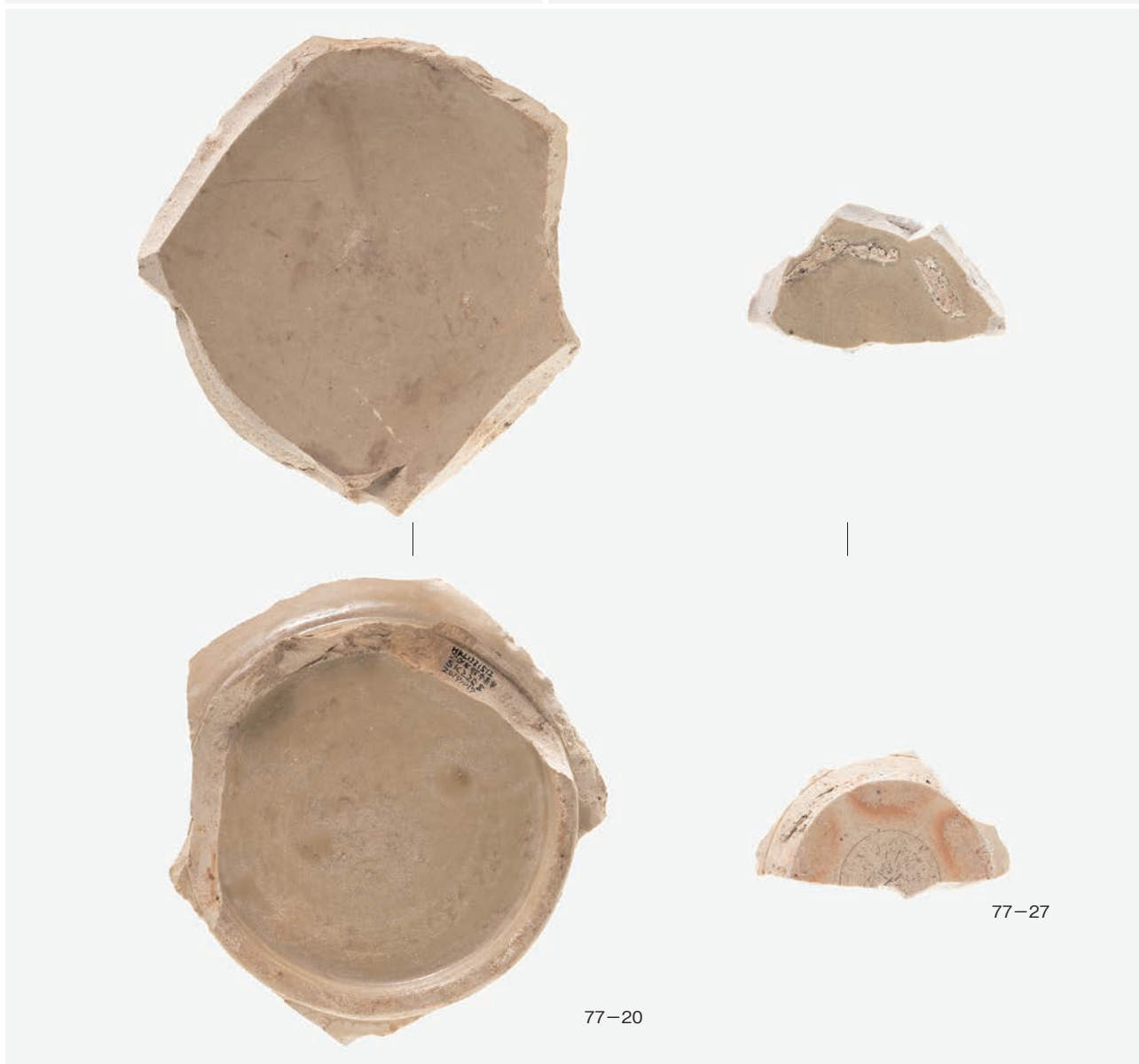
出土遺物 4



77-26

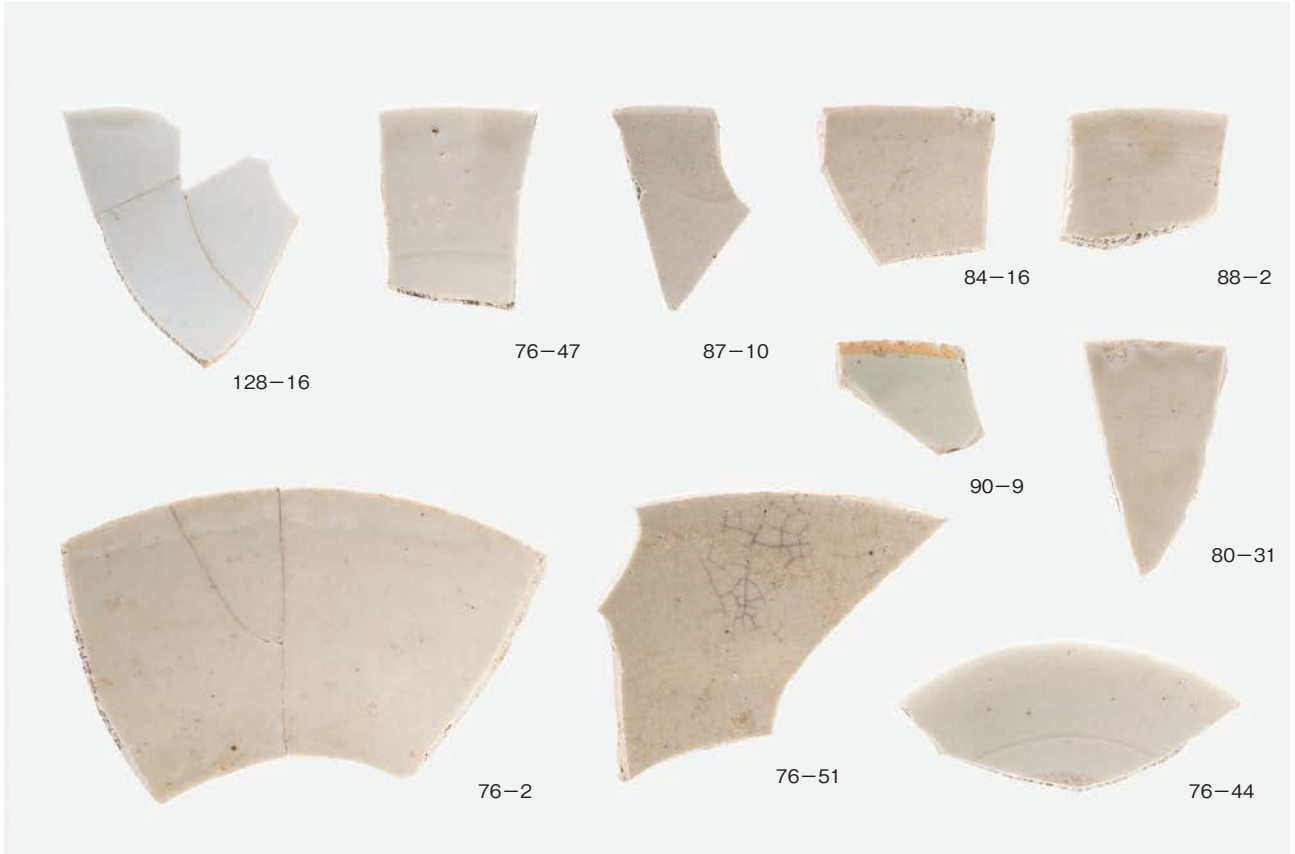


1

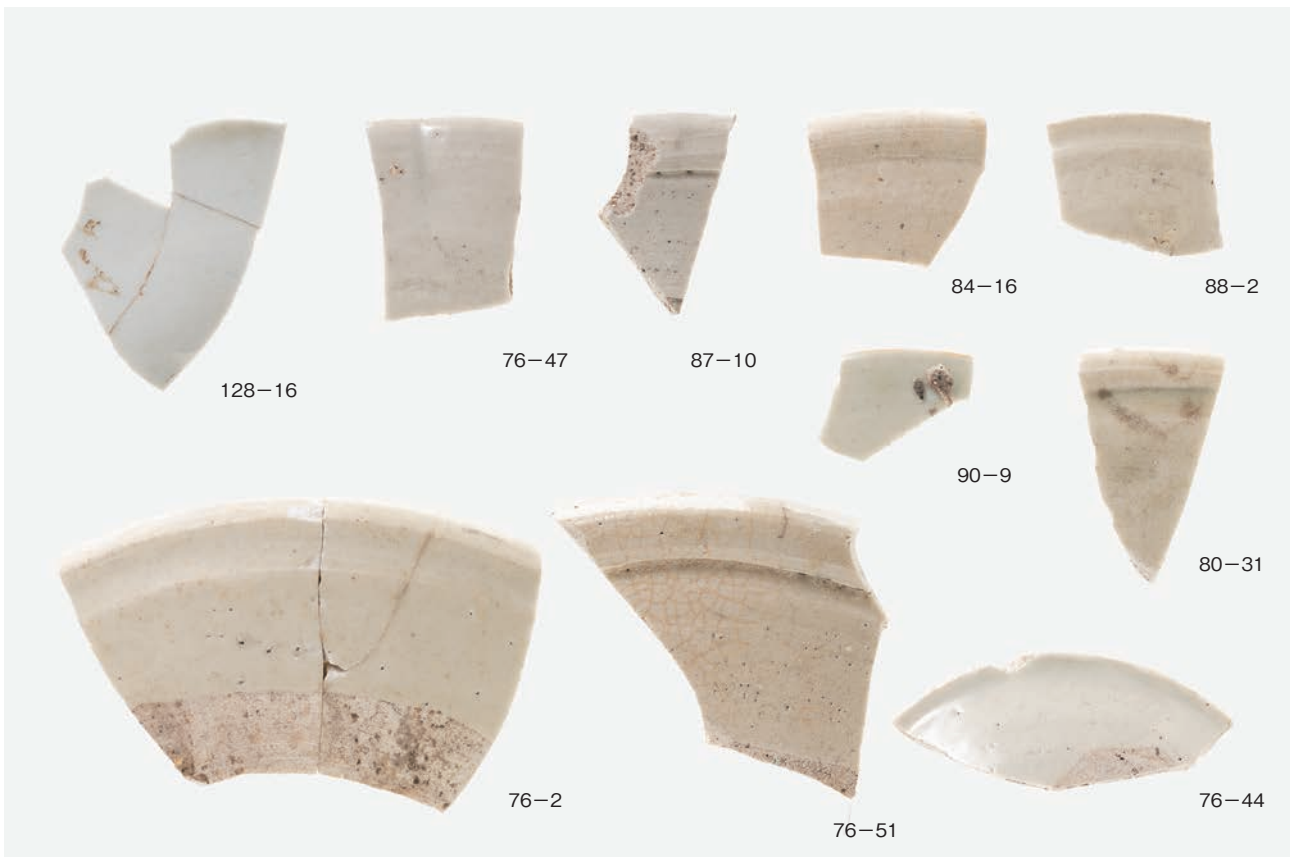


77-27

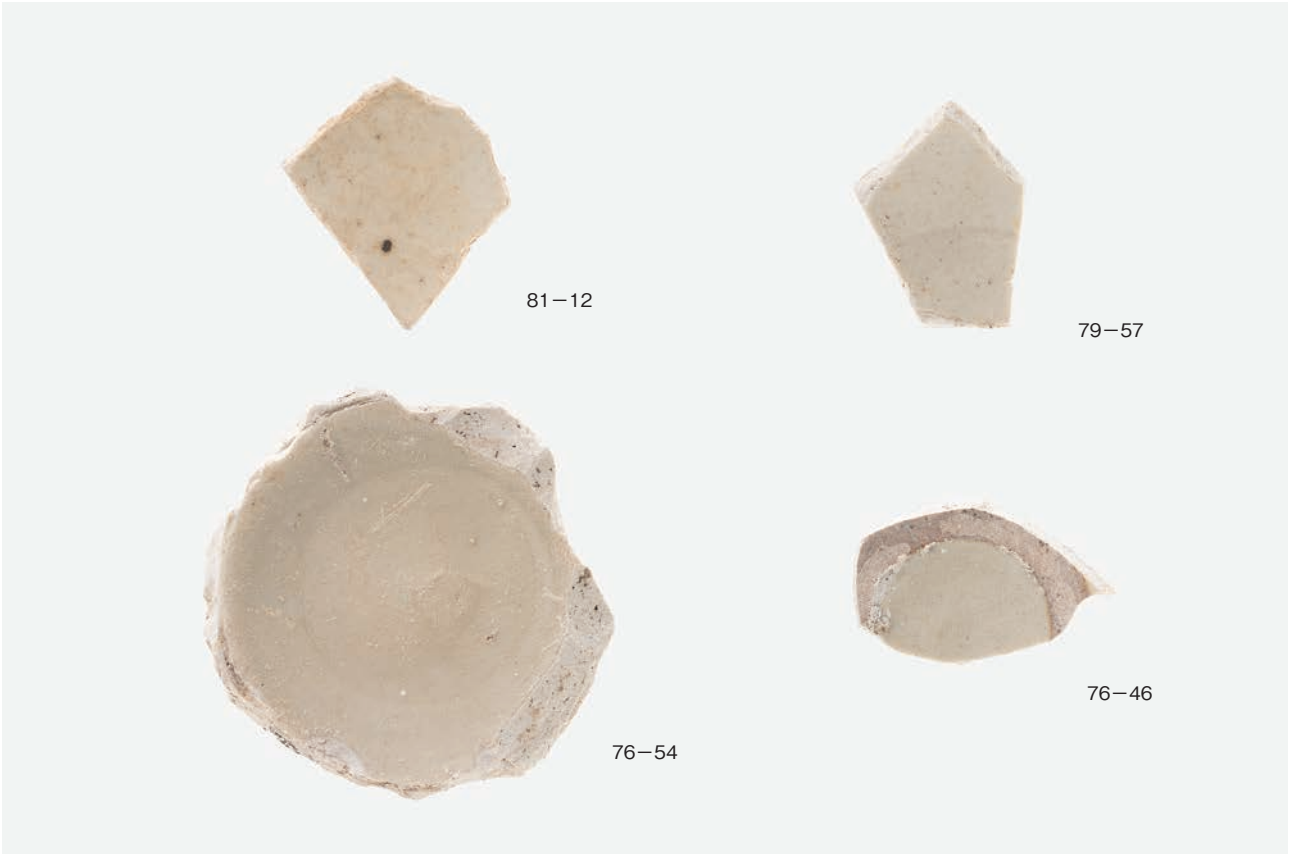
77-20



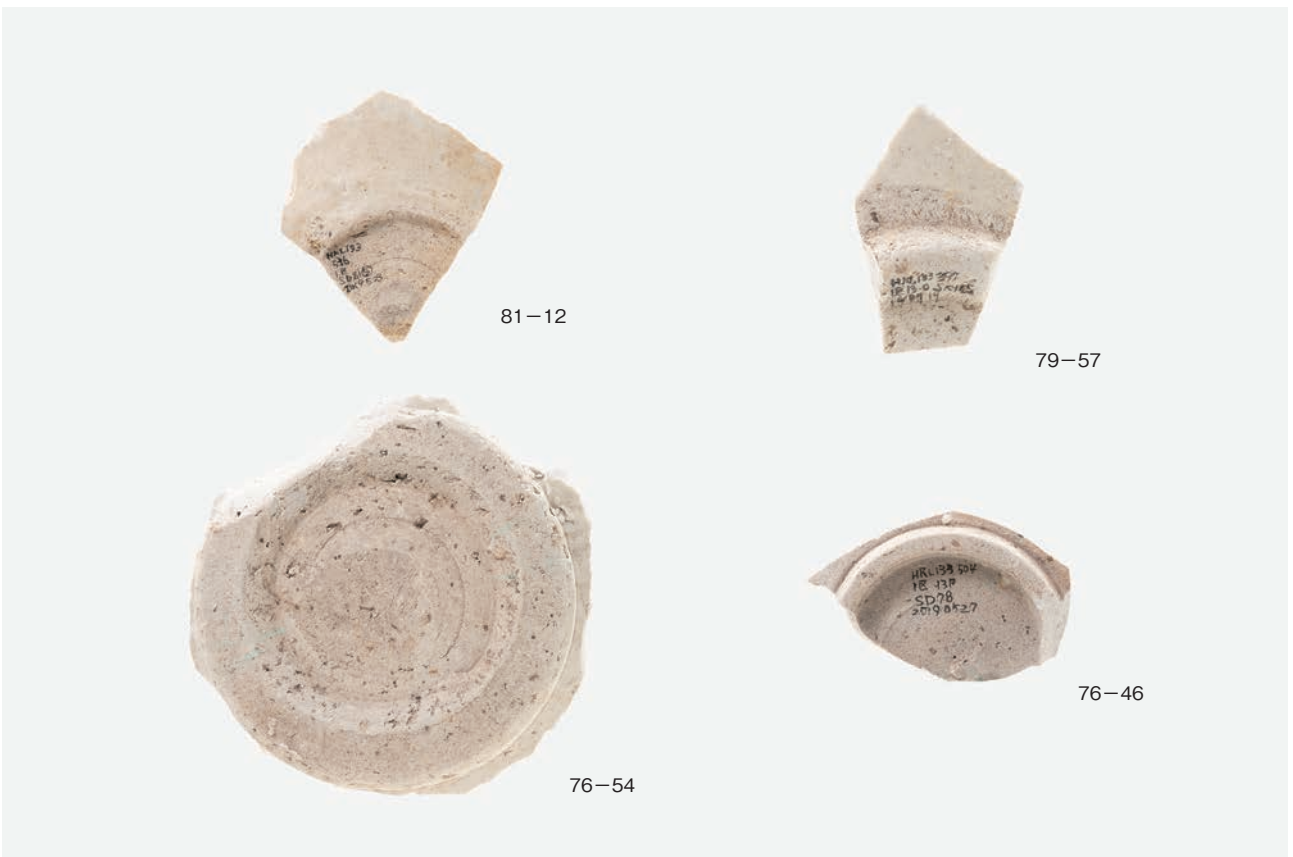
出土遺物 6



出土遺物 7



出土遺物 8



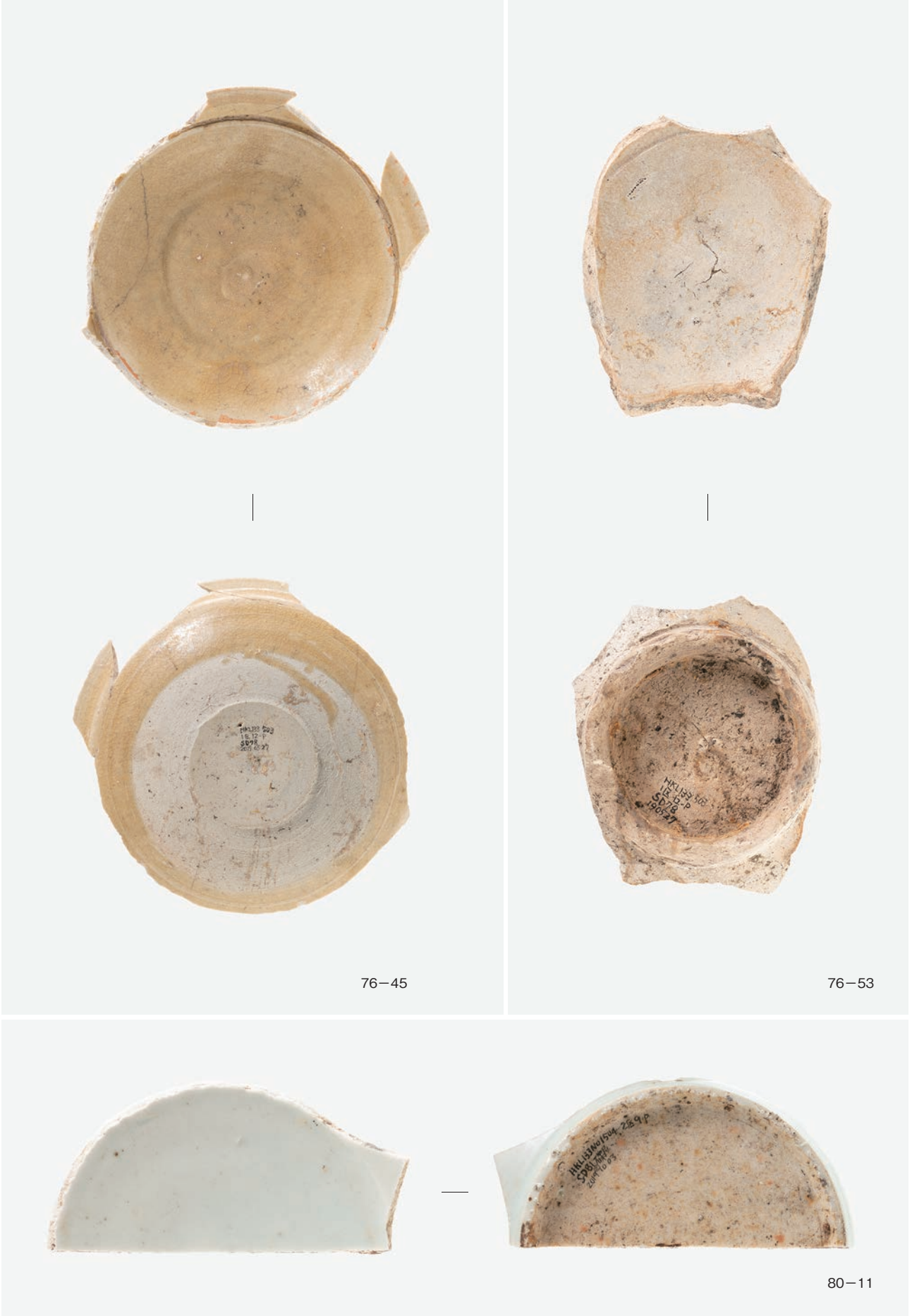
出土遺物 9



出土遺物10



出土遺物11





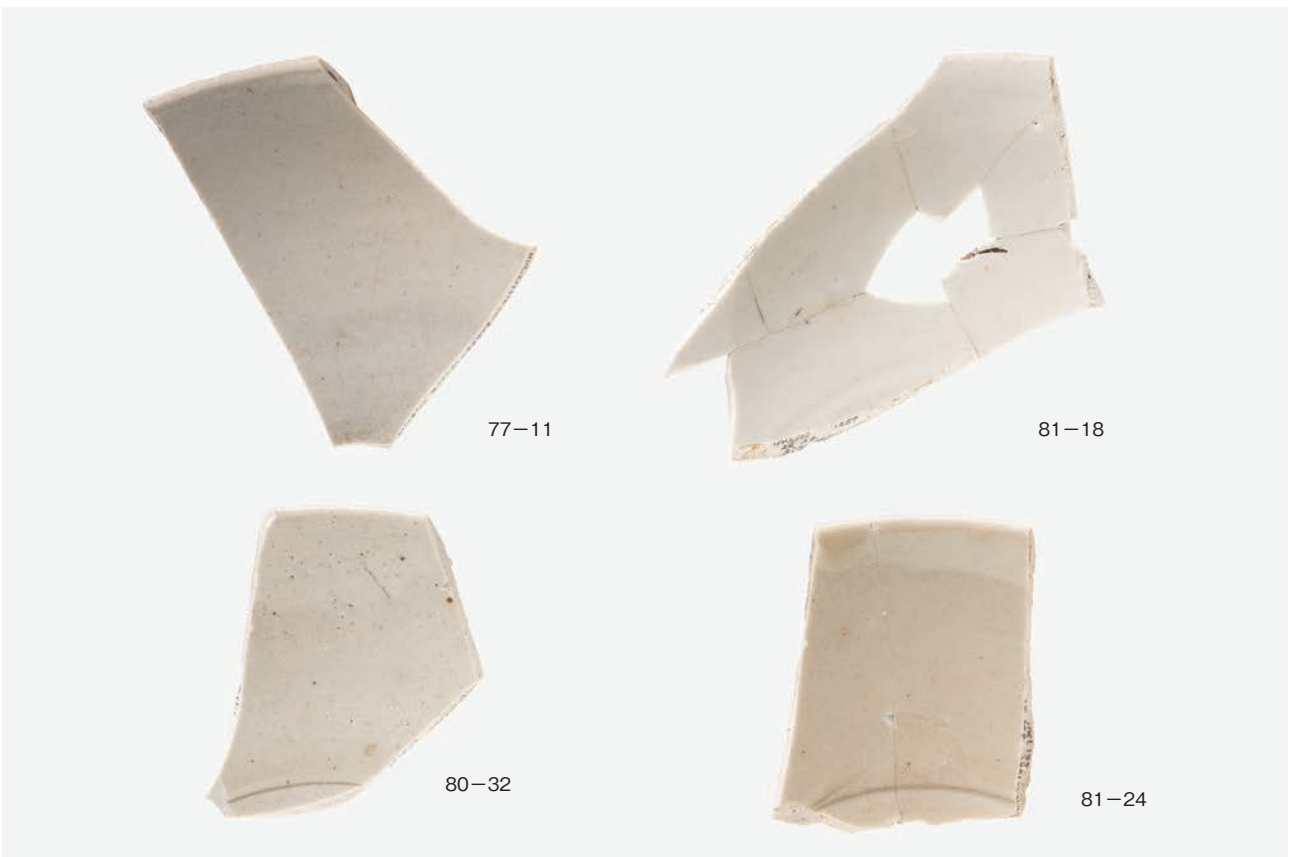
出土遺物13



出土遺物14

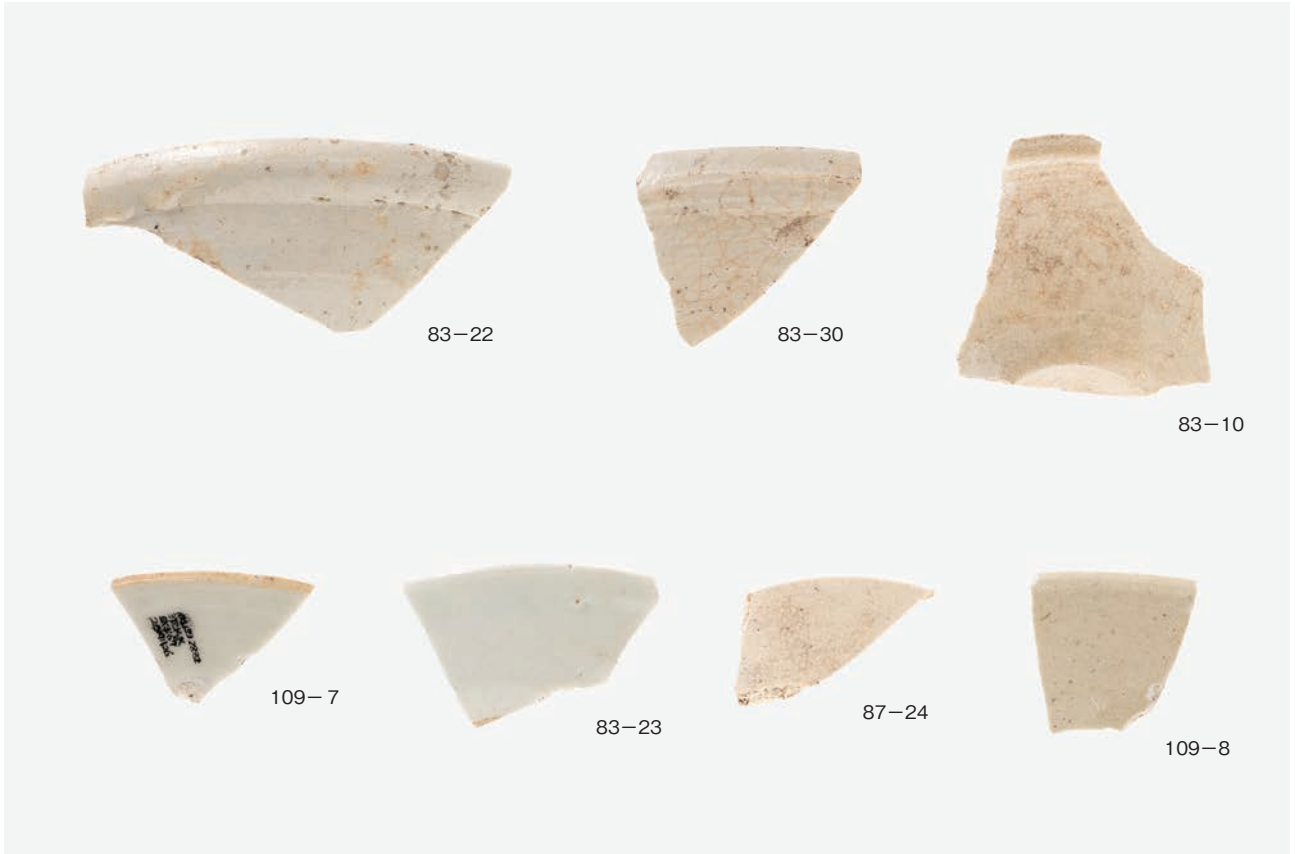


出土遺物15

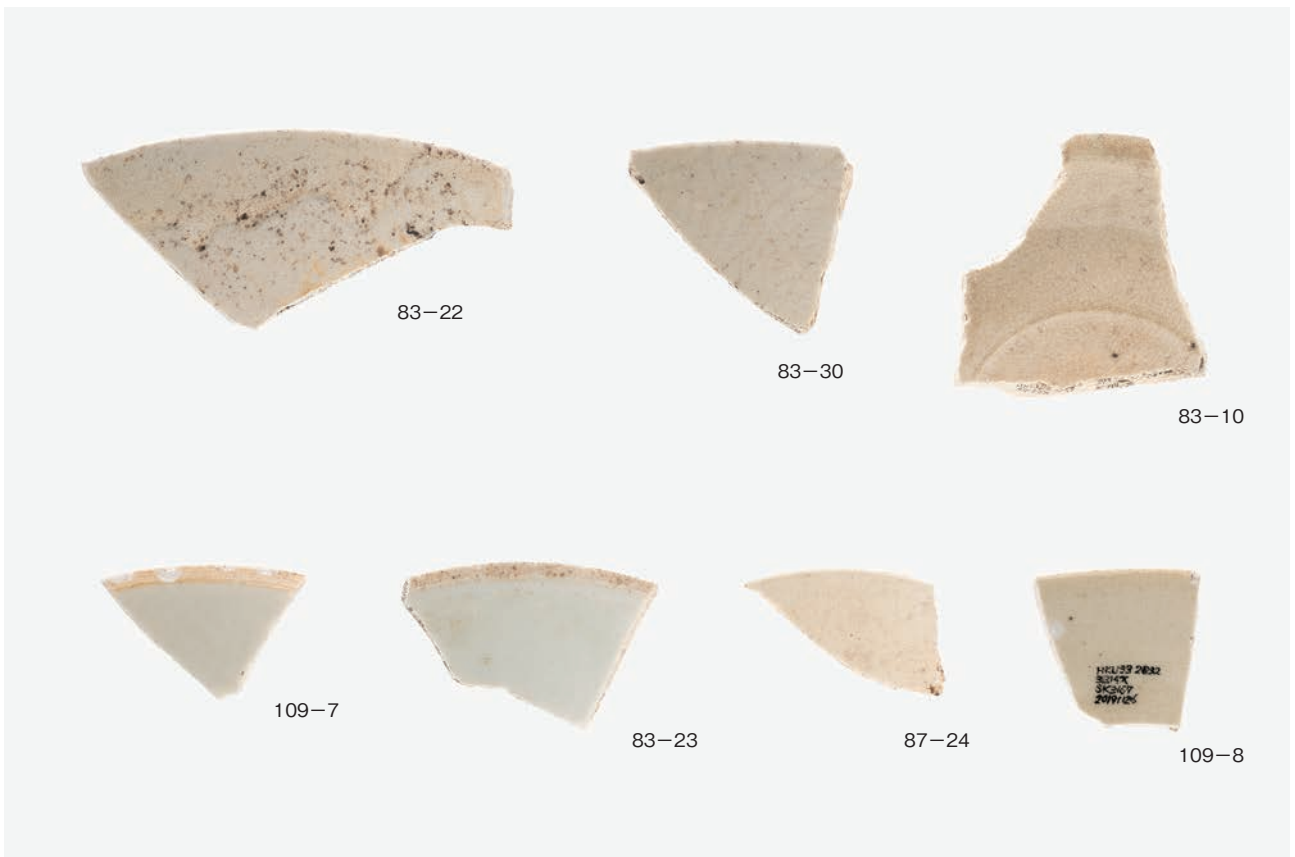


出土遺物16

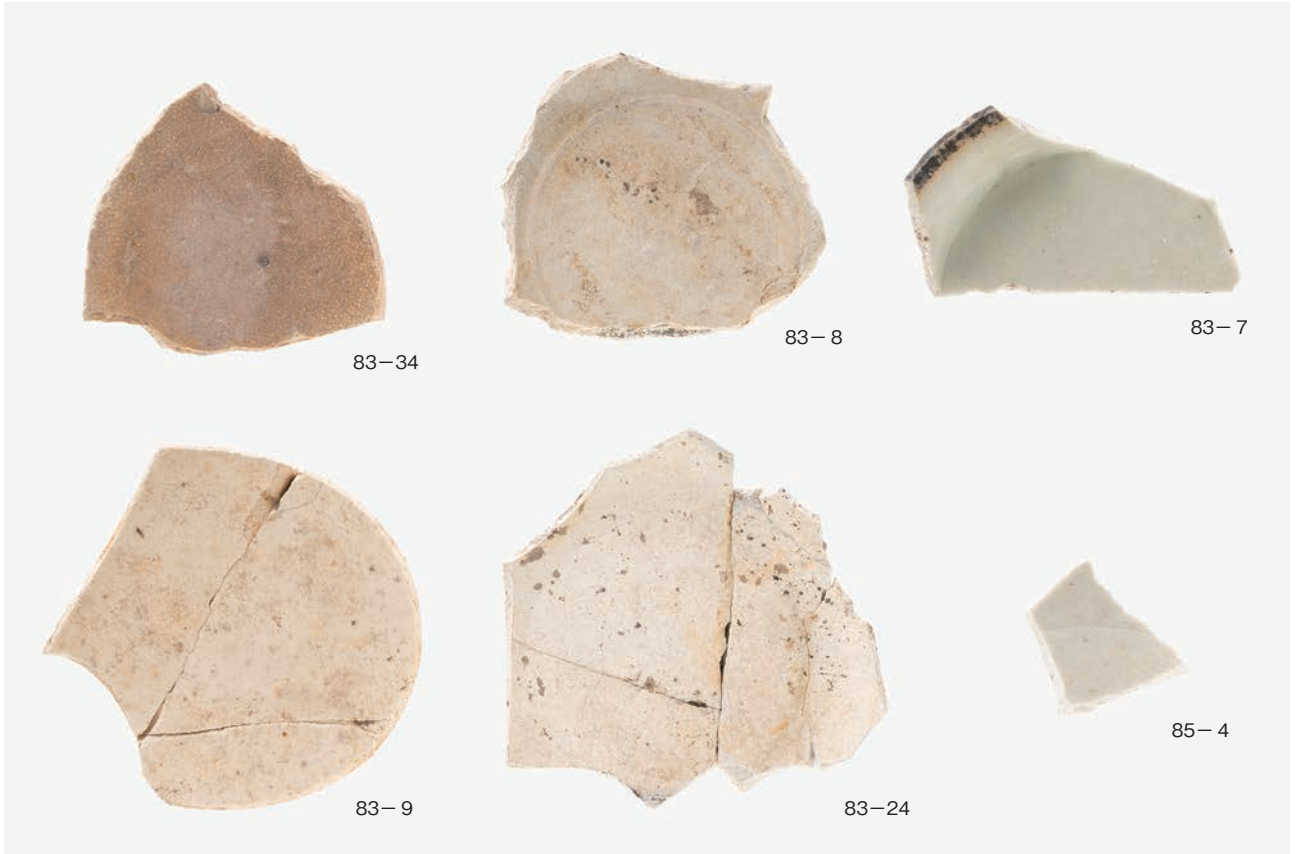




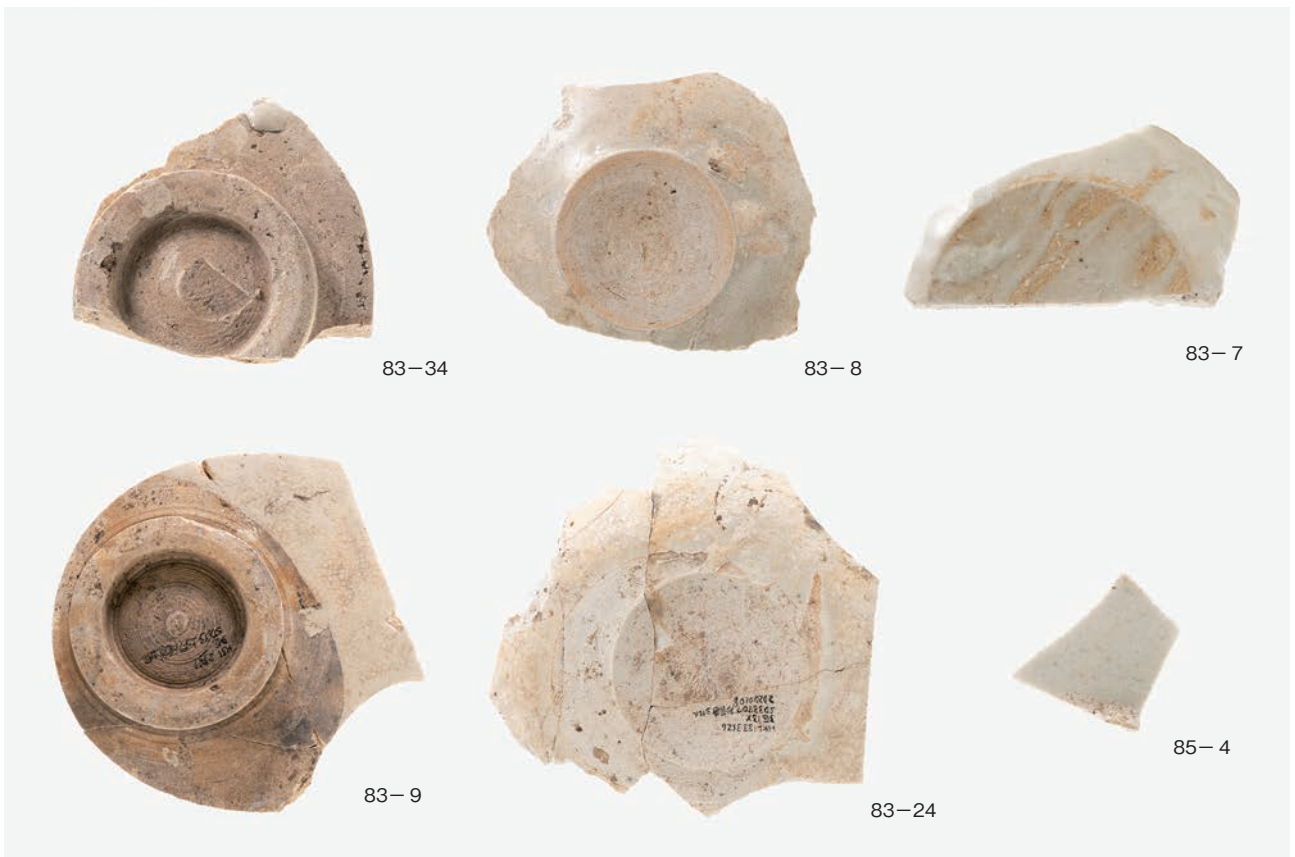
出土遺物18



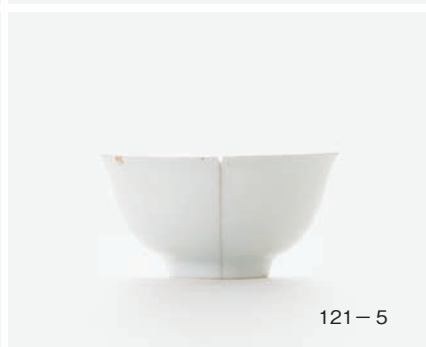
出土遺物19

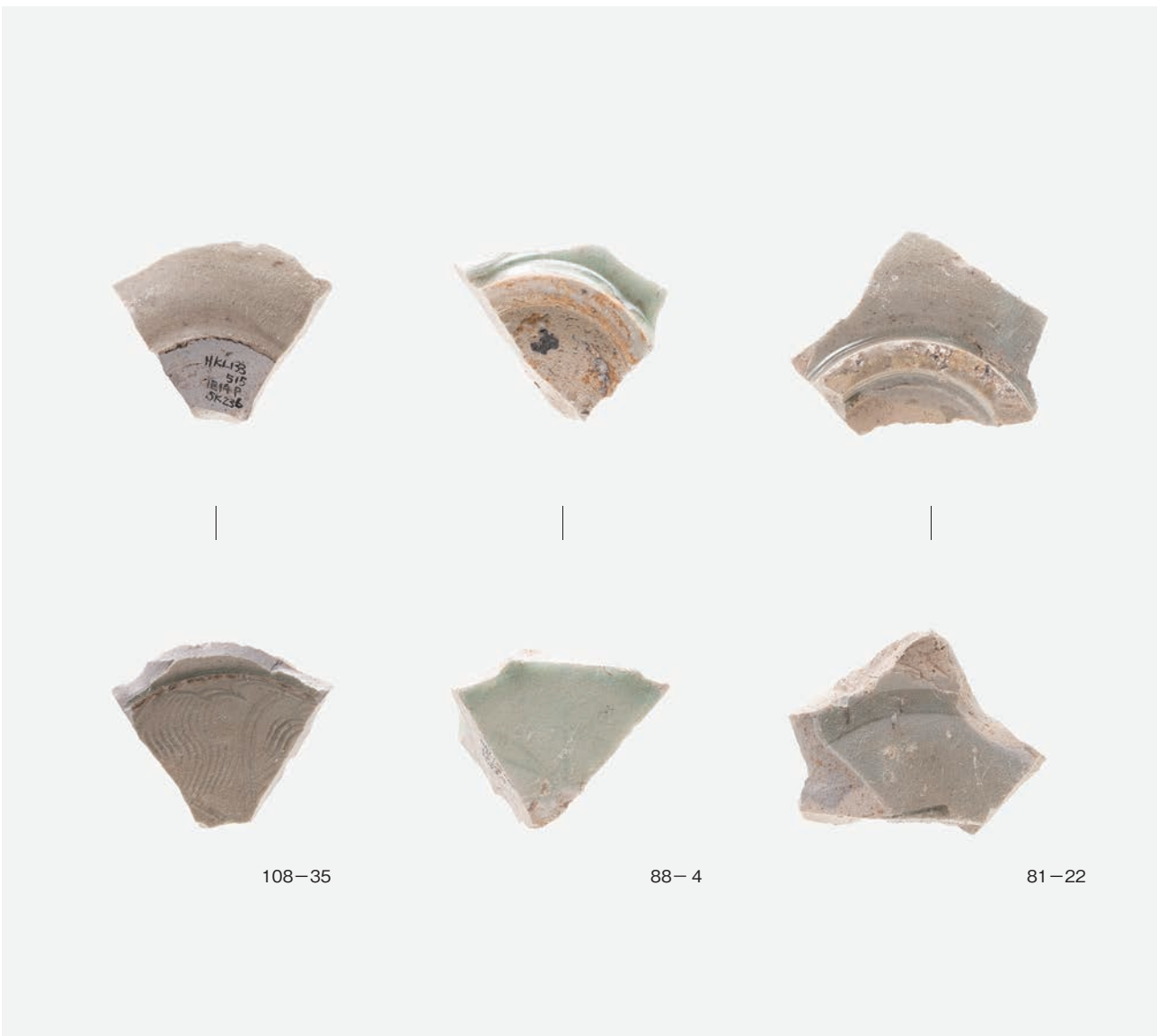


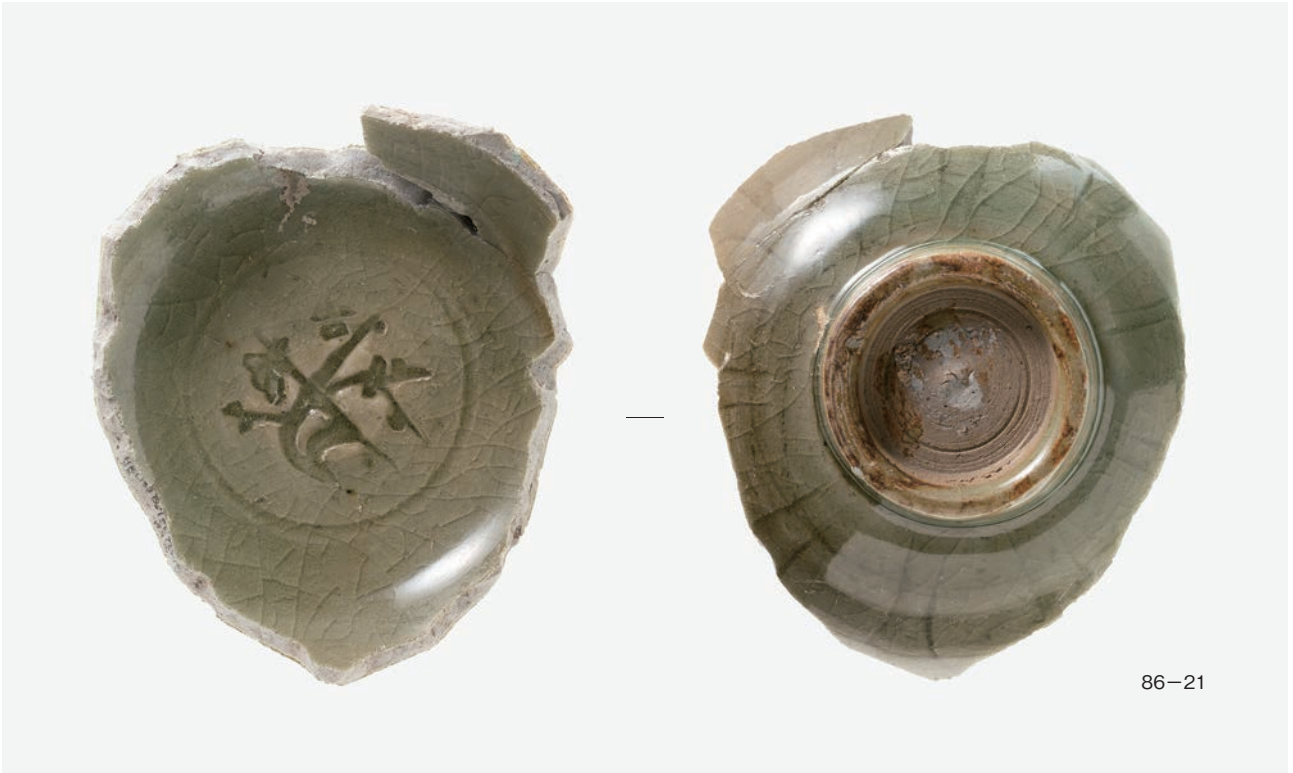
出土遺物20



出土遺物21

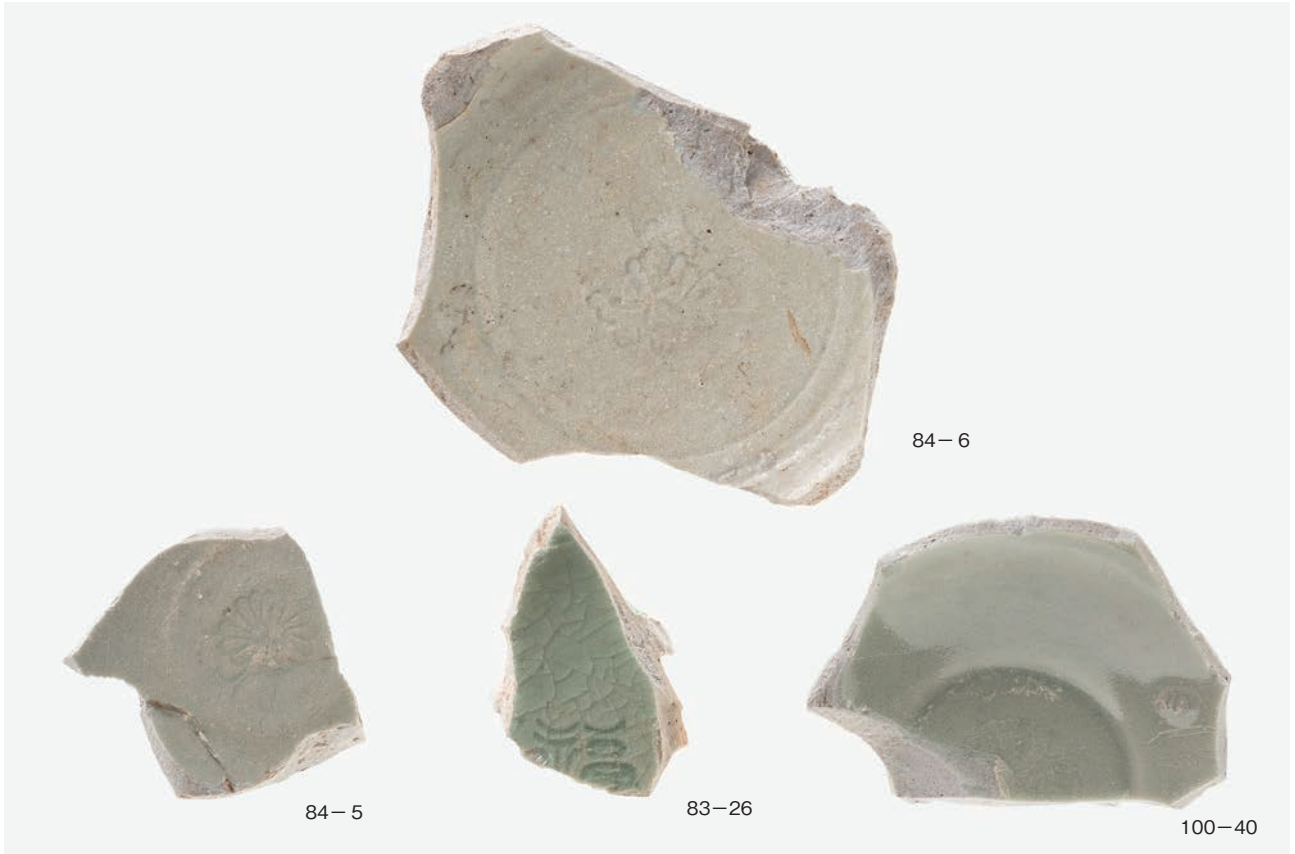








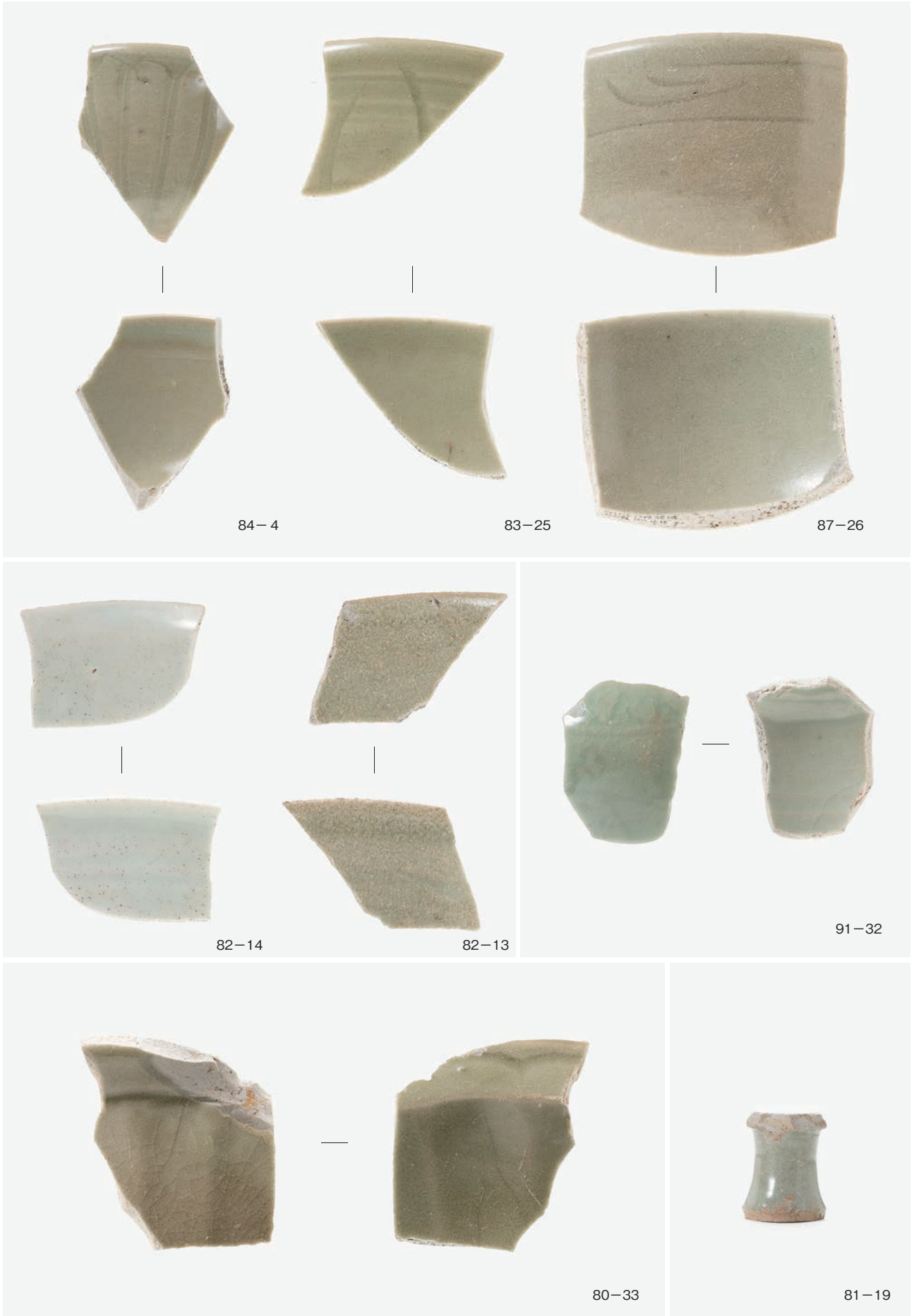
出土遺物25

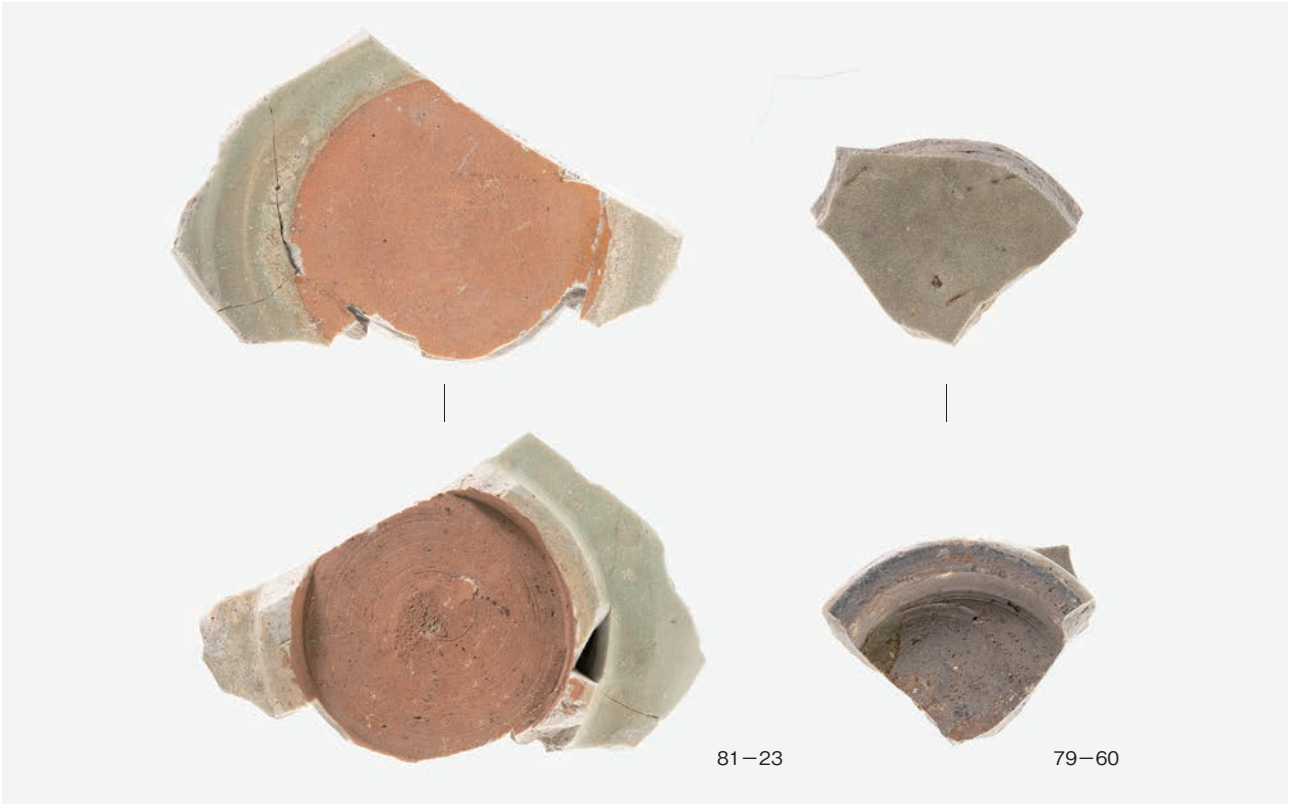


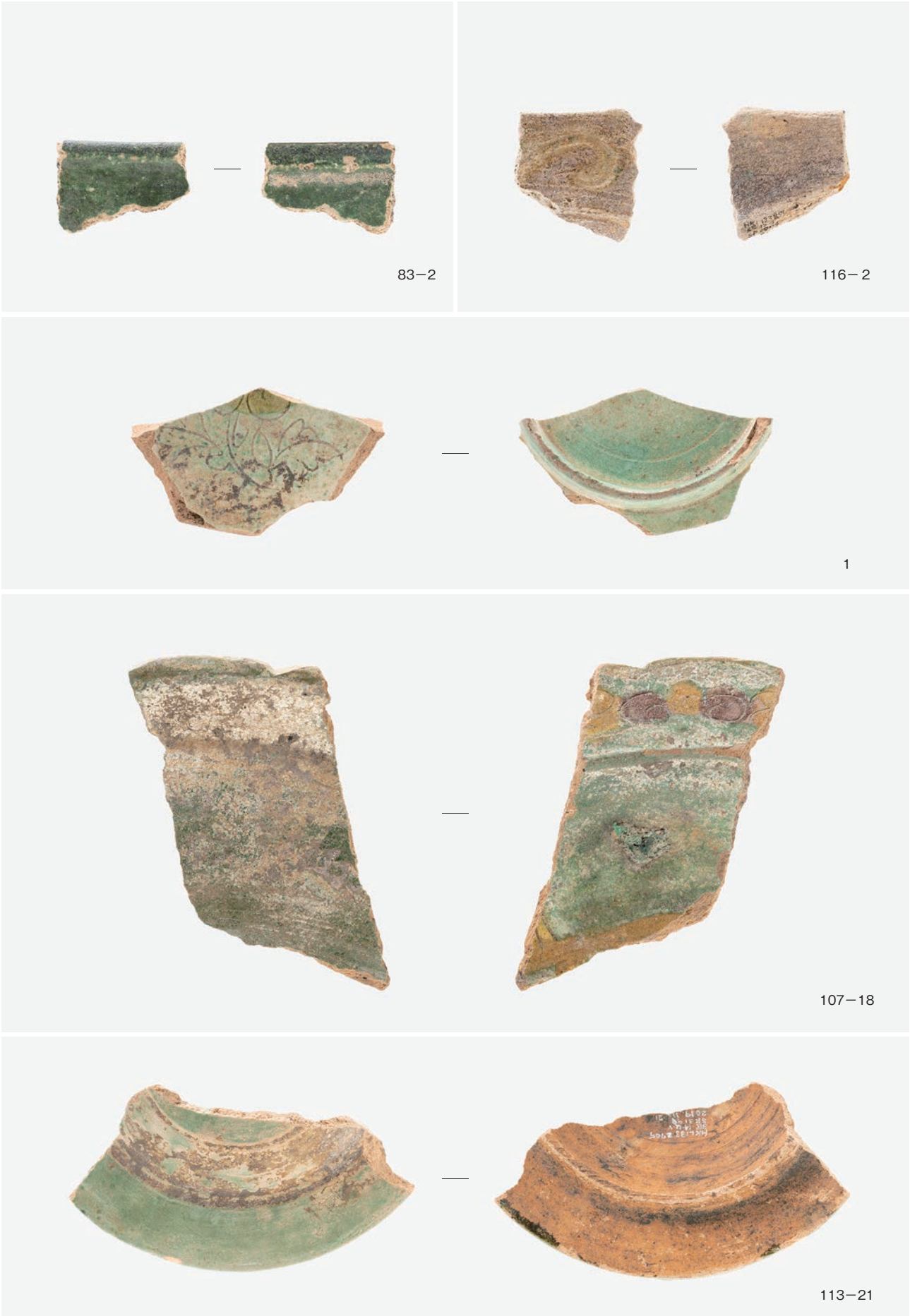
出土遺物26

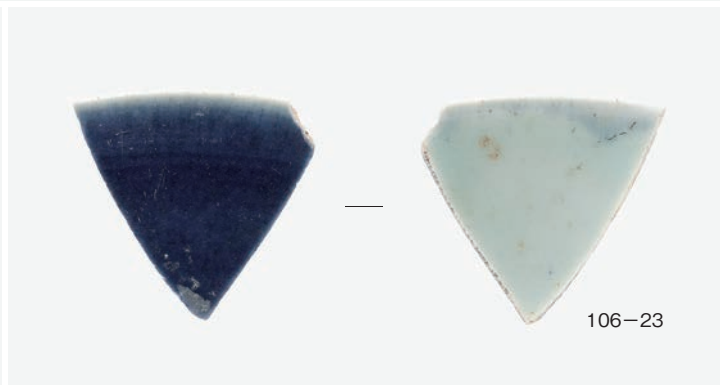
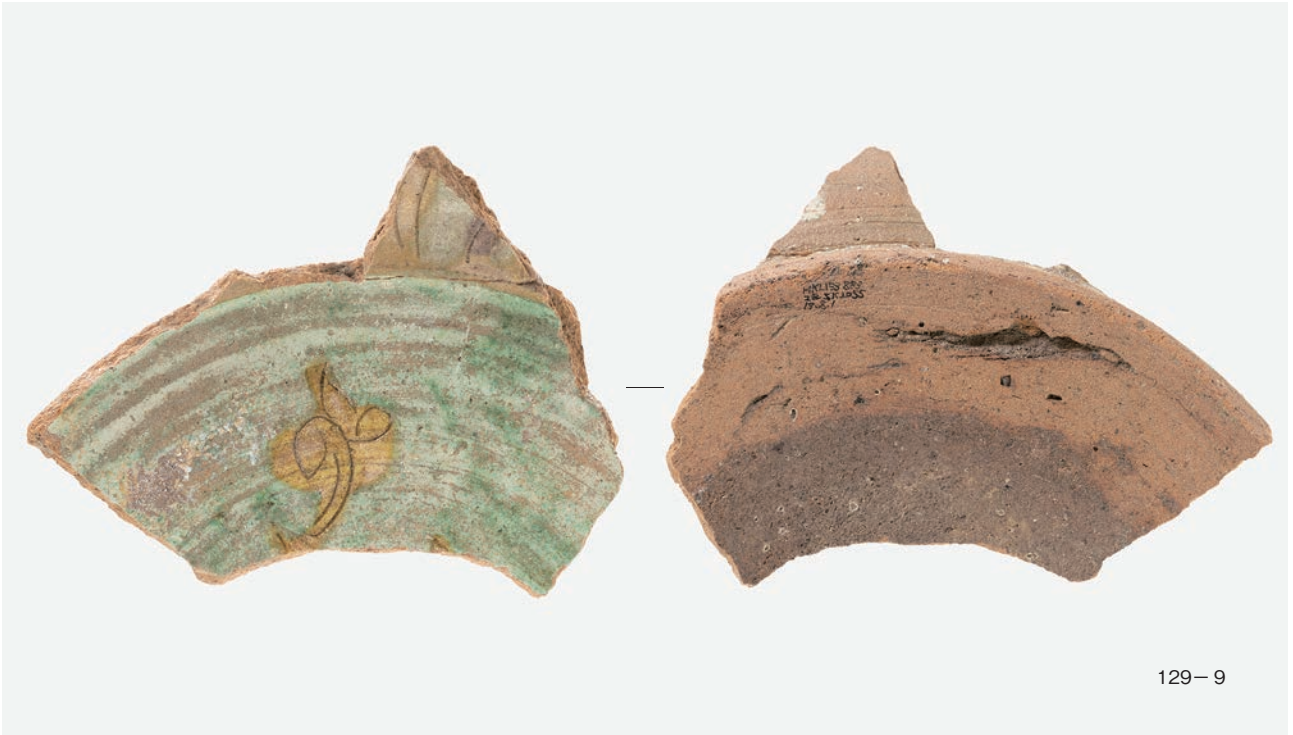


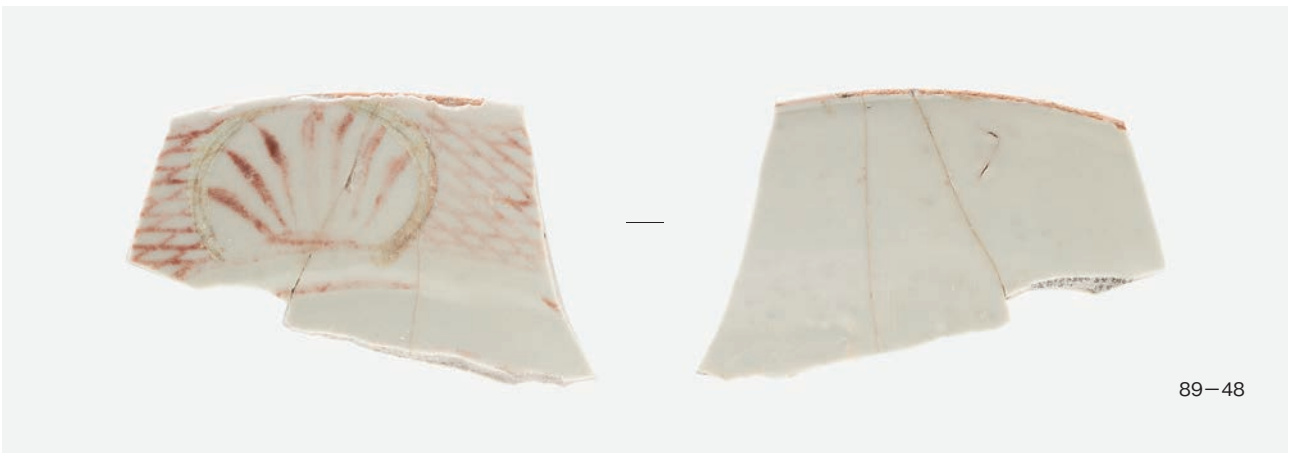
出土遺物27

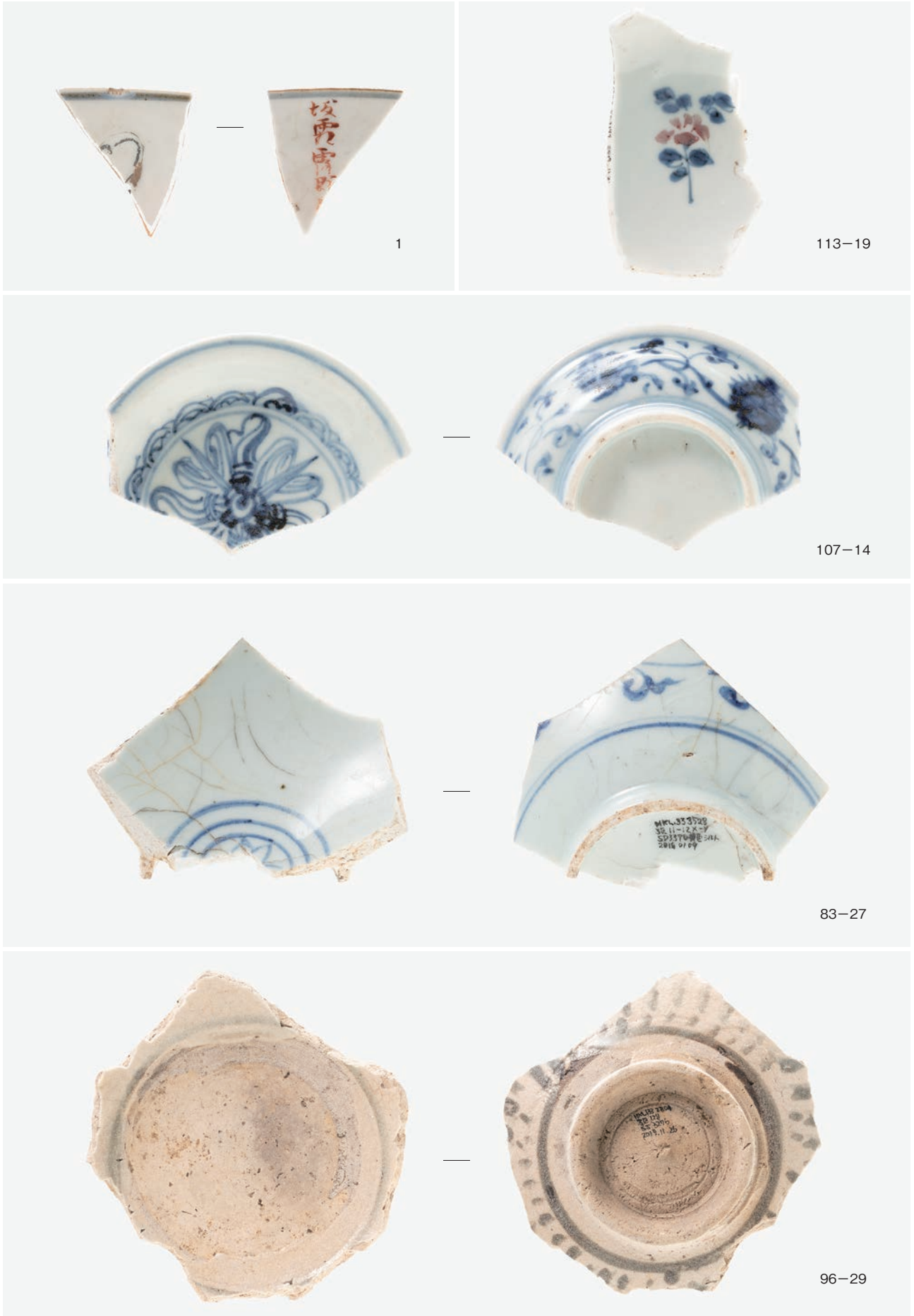


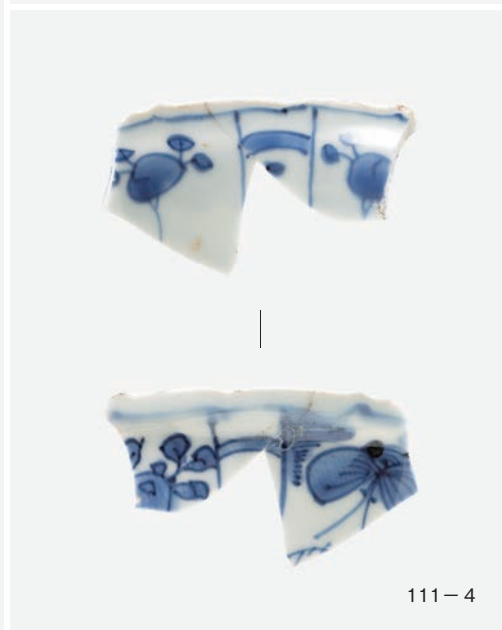
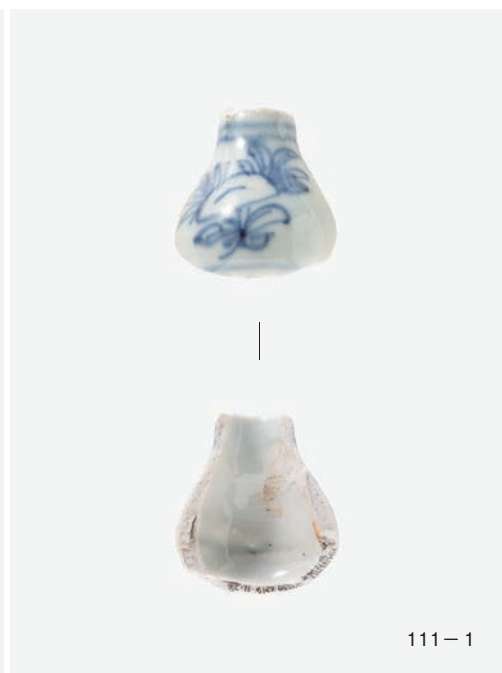






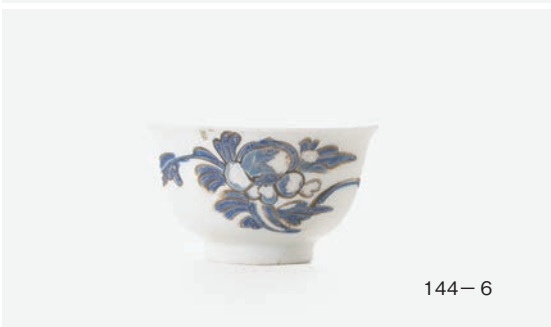


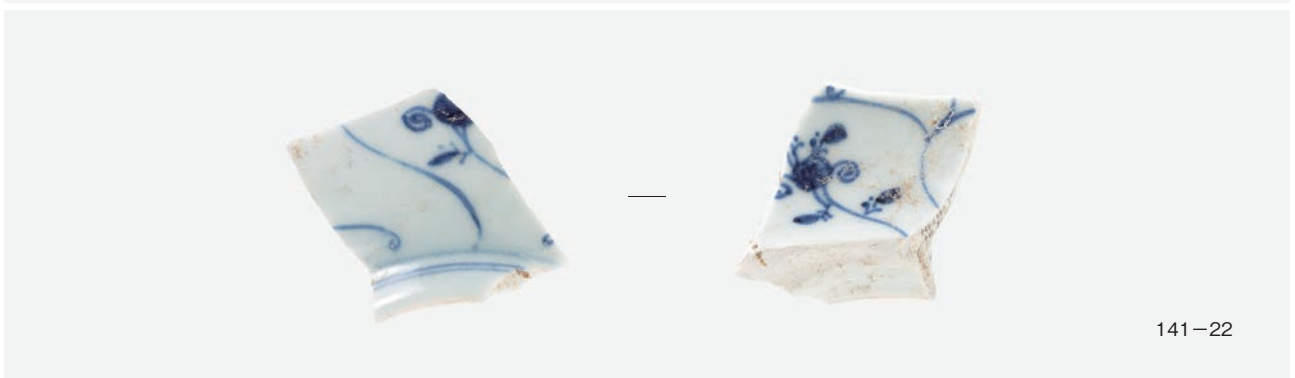




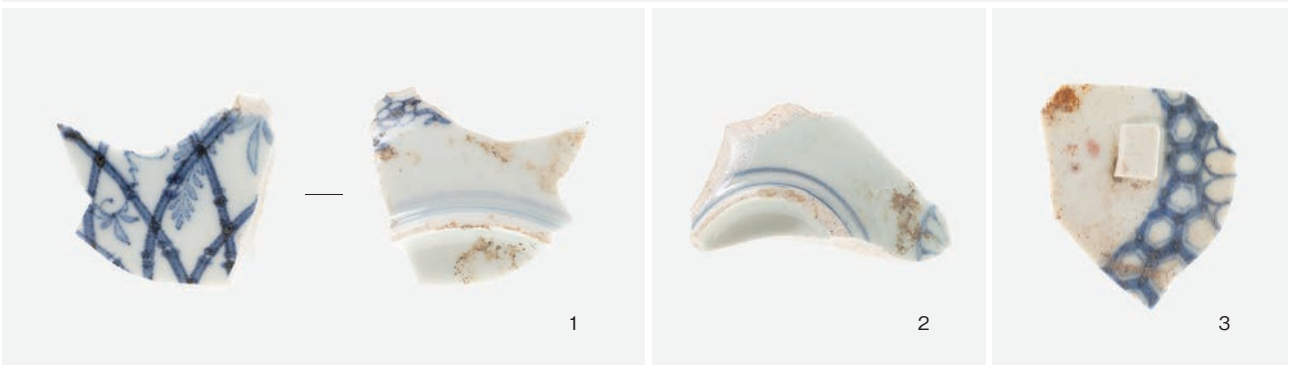
出土遺物34

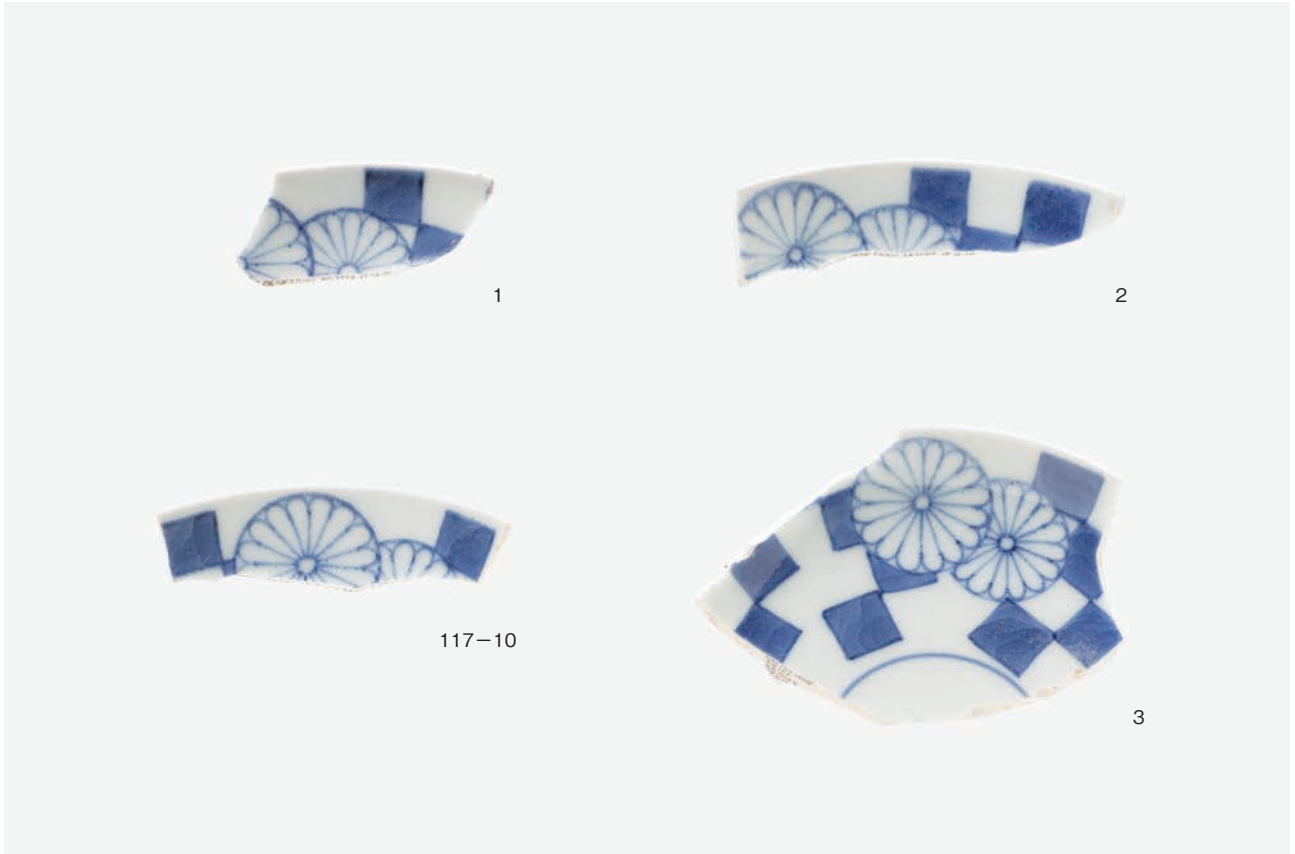




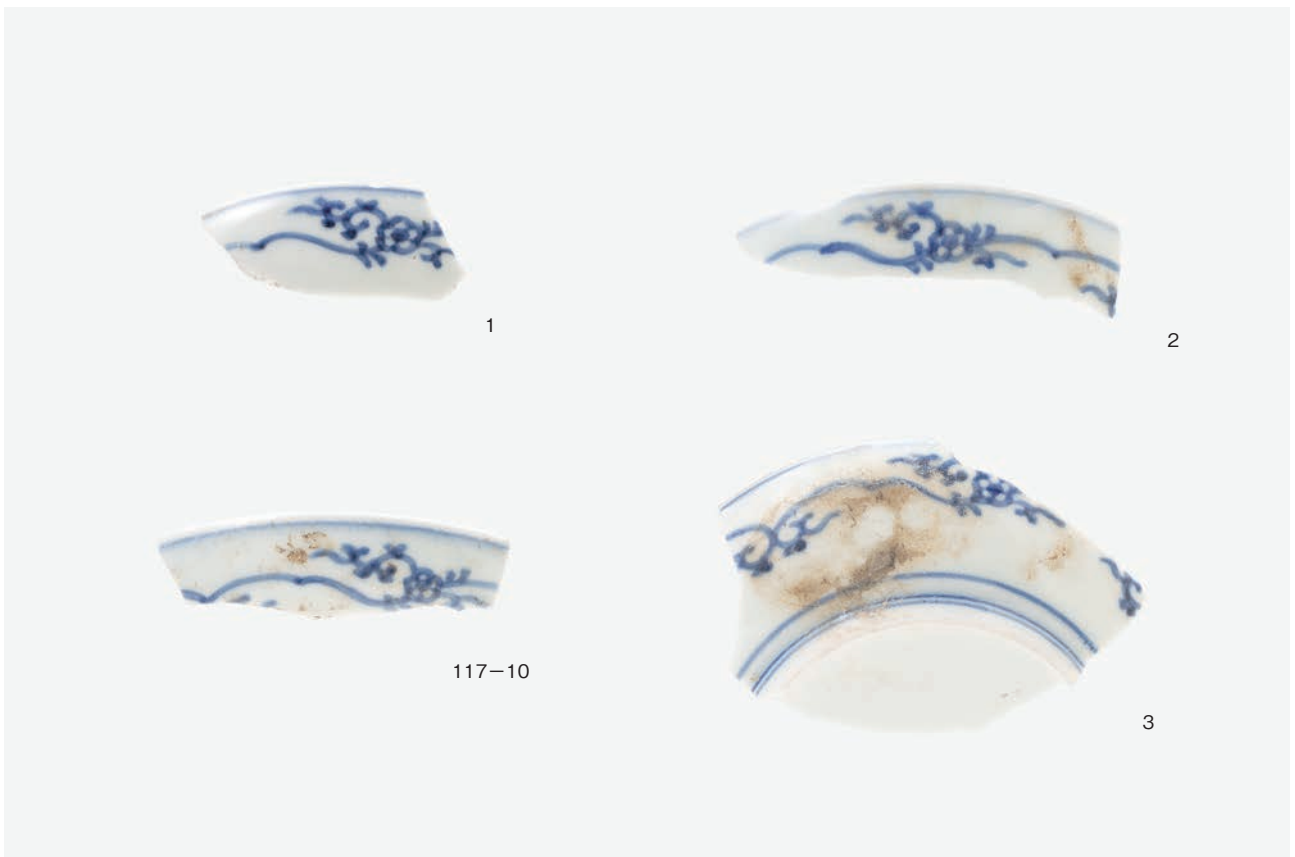




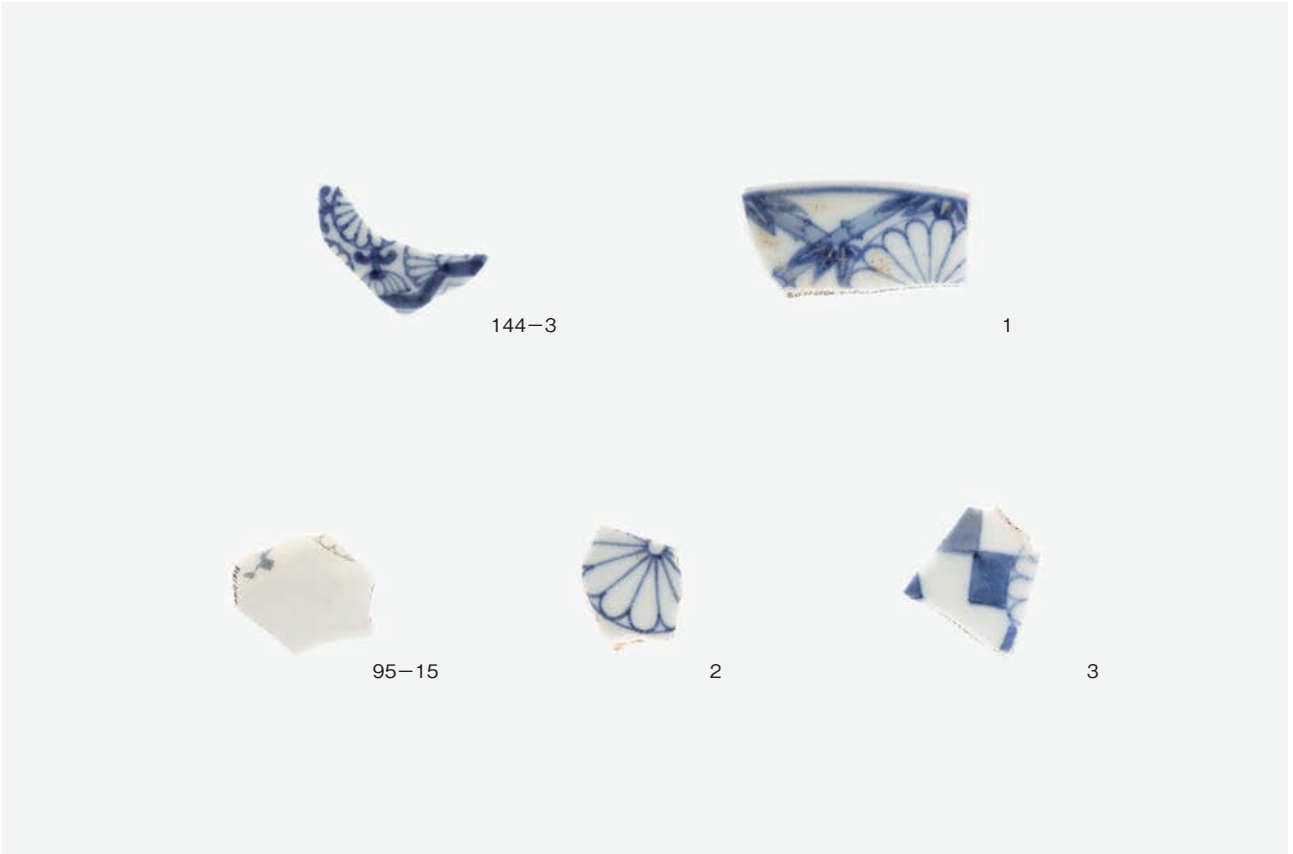




出土遺物40



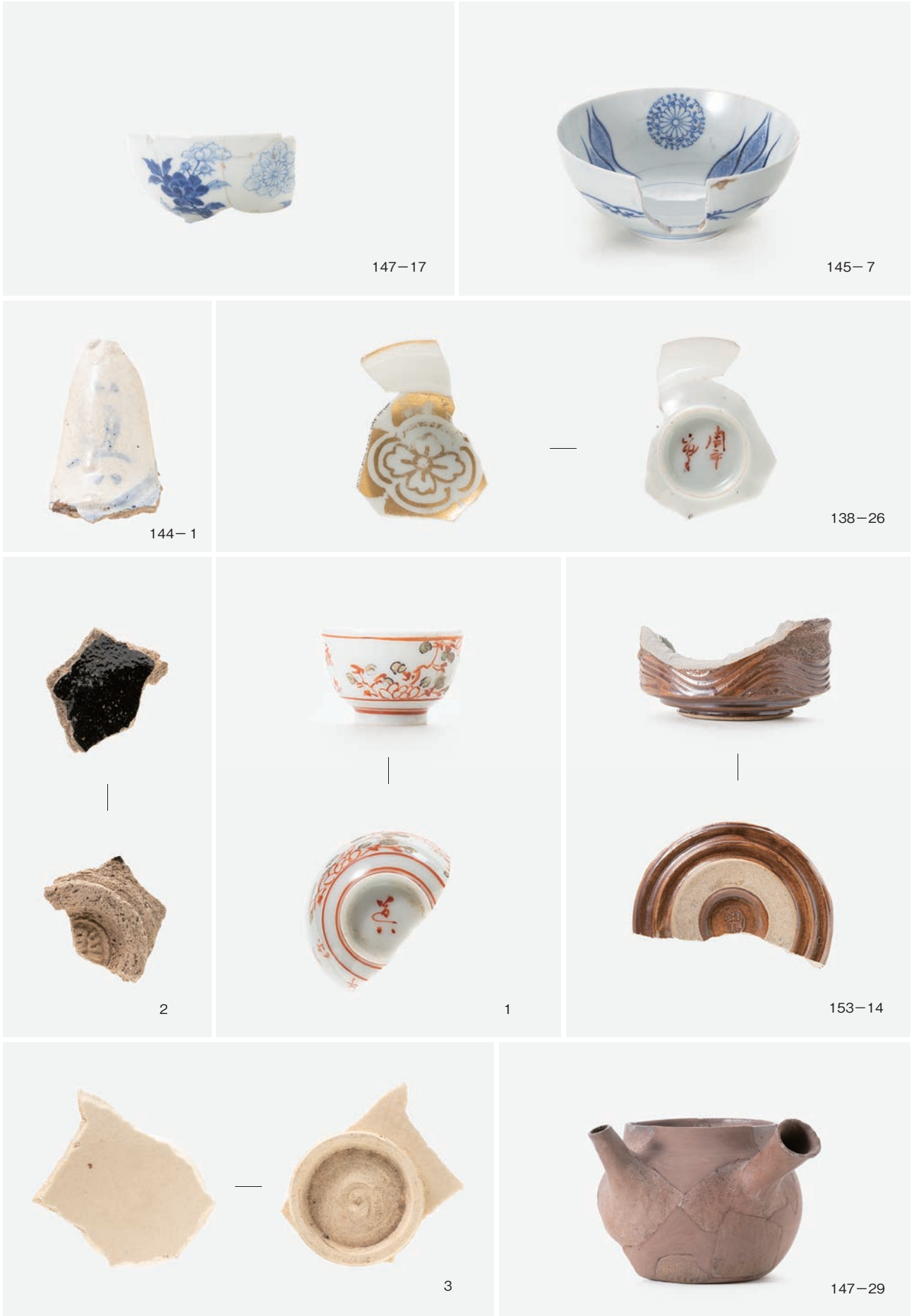
出土遺物41

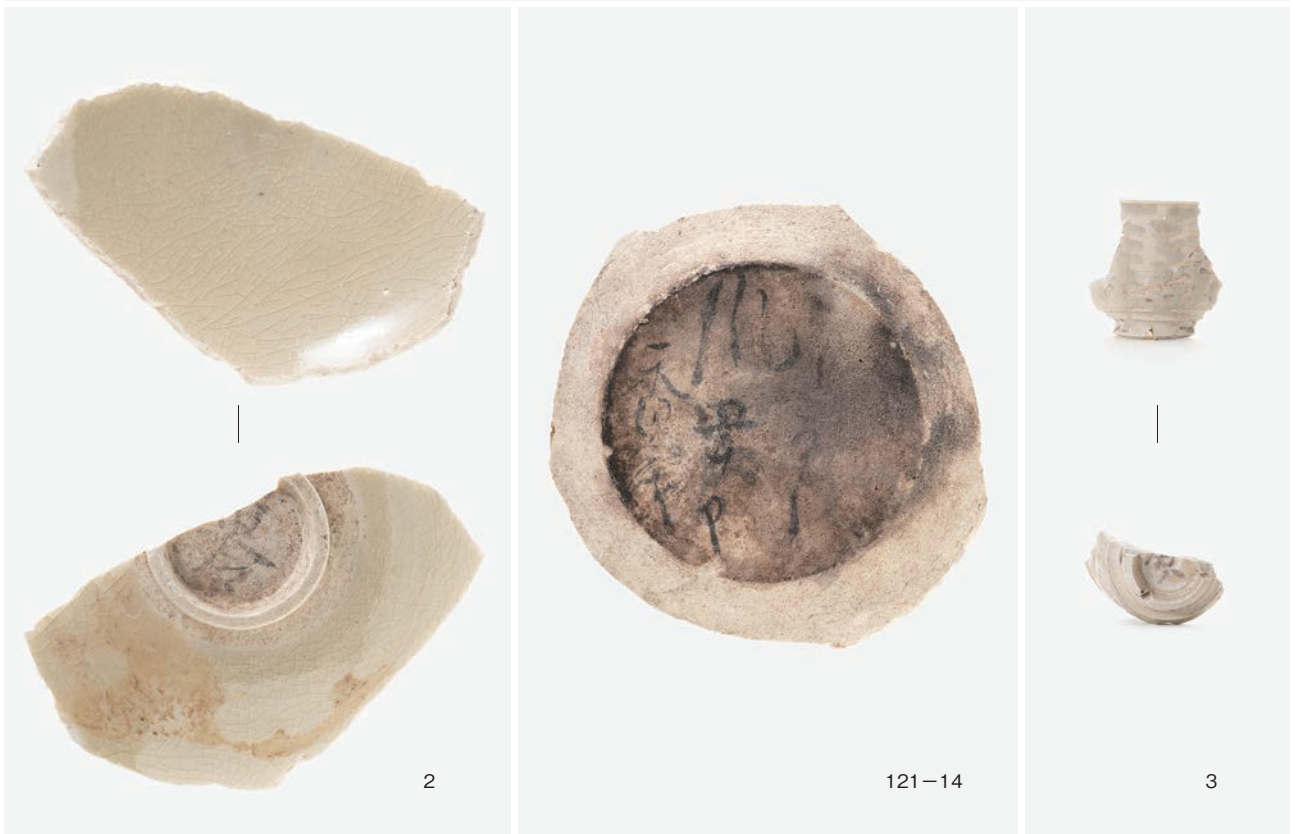


出土遺物42



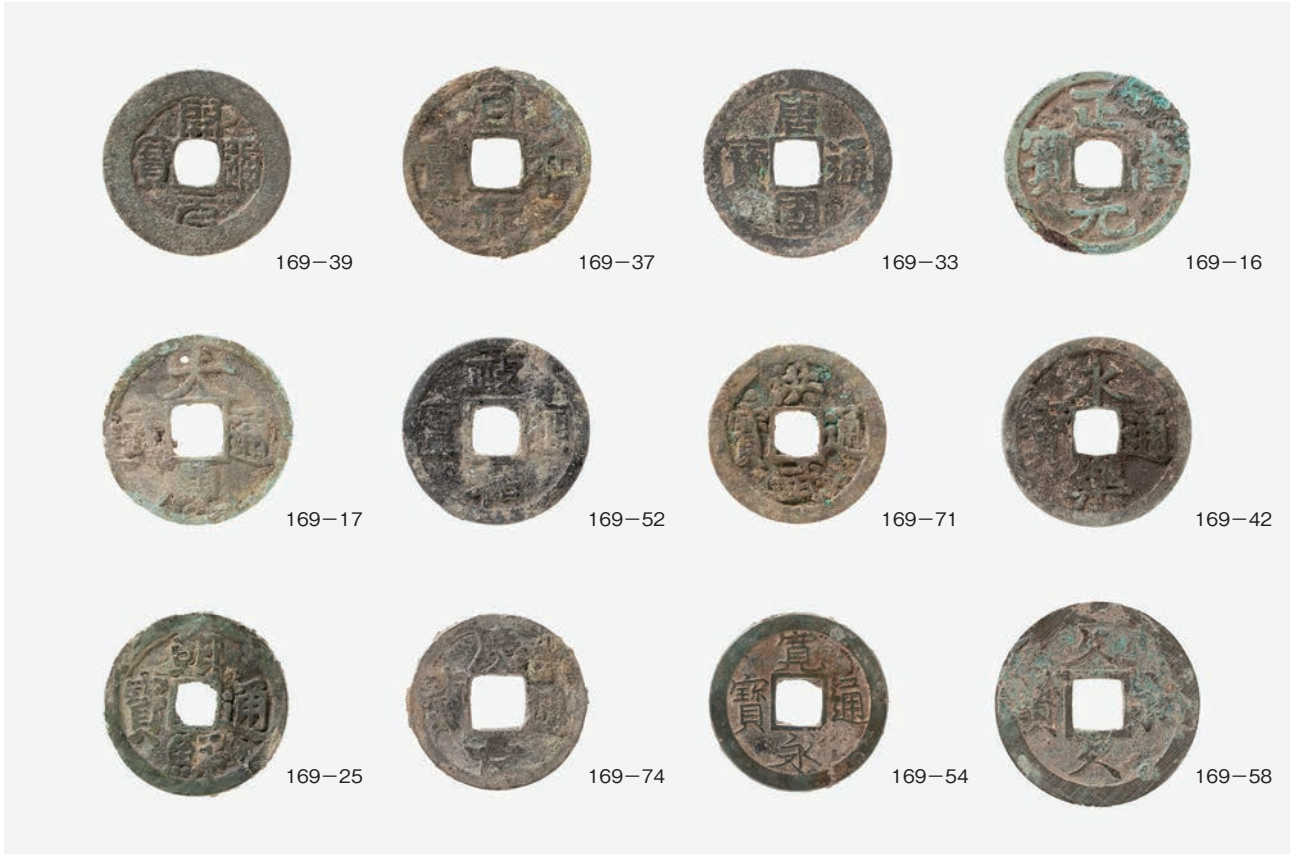
出土遺物43











出土遺物48



出土遺物49







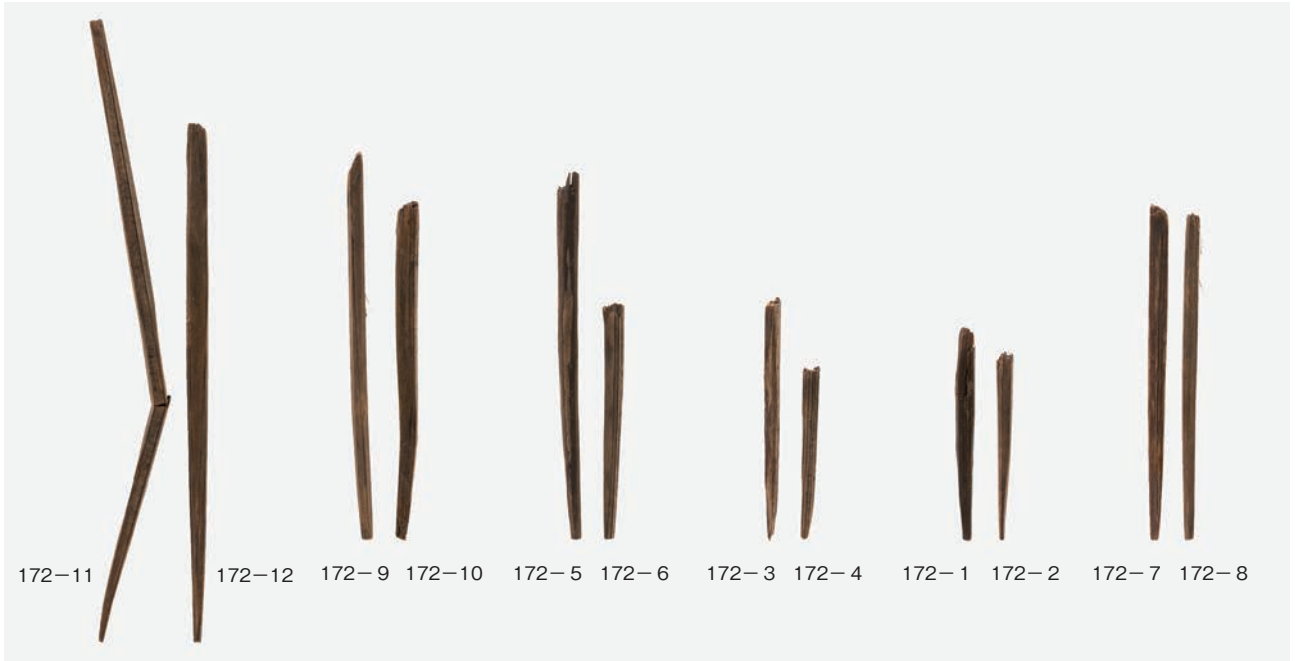
出土遺物52



出土遺物53



出土遺物54









108-16



108-24



99-24



99-31



103-18



107-25



114-28



99-42



104-8

報告書抄録

ふりがな	
書名	
副書名	
巻次	
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第182冊
編著者名	加藤雄太・岡崎研一
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番03 Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2021年8月20日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
へいあんきょうあと (さきょういちじょうさん ほうさんちょう) 平安京跡 (左京一条三坊三町)	きょうとしかみぎよ うくしもだちうりど おりしんまちにし いるやぶのうちちょう 京都市上京区下 立売通新町西入 藪ノ内町	26100	1	35° 01' 15"	135° 45' 22"	20181107～ 20190227 20190416～ 20200309	1,550	建物建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡 (左京一条三坊三町)	都城	平安	道路・溝・土坑	土師器・須恵器・瓦質土器・瓦	
		鎌倉	溝・土坑	土師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器・瓦	
		室町	堀・柵列・建物・土坑	土師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器・銭貨・金属器・石製品	
		江戸	道路・礎石建物跡・溝・石組遺構・火災痕跡	土師器・陶磁器・瓦(金箔瓦含む)・銭貨・金属器・石製品・木製品・骨製品・貝製品	

所収遺跡名	要約
平安京跡 (左京一条三坊三町)	<p>調査地は平安京の左京一条三坊三町にあたり、北側に近衛大路が敷設されていた地点である。調査では、近衛大路の路面を検出した。このほか、平安時代の遺構としては11世紀後半頃の土坑などを検出した。中世の遺構では、戦国時代の構の一部である堀と布掘りの柱列を検出した。南側に土塁などがあったと考えられ、調査地の北側は構の外側であったとみられる。近世初頭には、聚楽第に伴う大名屋敷敷地に関連する金箔瓦が出土している。江戸時代初期には、町衆の宅地となり、建物や廃棄土坑を検出している。江戸時代後期には、町家の地下構造を構成する漆喰溝などを検出した。江戸時代末期には、京都守護職上屋敷関連遺構を検出した。以上のように、平安時代から近世の土地利用状況がわかる調査事例である。</p>

京都府遺跡調査報告集 第182冊

令和3年8月20日

発行 公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社
〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel (075)256-0961(代) Fax (075)231-7141